

∴ 令和4年度地域観光資源の中国語解説整備支援事業 実施地域一覧

地域 番号	カテゴリ	都道府県	地域協議会名	英語解説文 作成年度	英語事例集 対応番号
001	文化財 (8地域)	山形県	山寺観光資源等多言語化・インバウンド推進協議会	令和3年度	002
002		埼玉県	熊谷市文化遺産保存事業実行委員会	令和3年度	003
003		岐阜県	高山市	令和3年度	005
004		大阪府	宗教法人 住吉大社	令和3年度	009
005		奈良県	法隆寺地域多言語解説整備推進協議会	令和元年度	000
006		奈良県	古都奈良の文化財多言語解説整備推進協議会	令和元年度	017
007		島根県	古代出雲歴史博物館	令和3年度	012
008		大分県	宇佐地区まちづくり協議会	令和3年度	013

地域番号	001	協議会名	山寺観光資源等多言語化・インバウンド推進協議会
------	-----	------	-------------------------

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
001-001	峯の浦遺跡 / 垂水不動尊	460	看板・web
001-002	峯の浦遺跡 / 垂水不動尊	845	web
001-003	宝珠山立石寺 / 性相院	265	看板・web
001-004	宝珠山立石寺 / 金乗院	290	看板・web
001-005	宝珠山立石寺 / 中性院	230	看板・web
001-006	宝珠山立石寺 / 華蔵院	240	看板・web
001-007	宝珠山立石寺 / 如法堂	305	web
001-008	宝珠山立石寺 / 大仏殿	120	web
001-009	宝珠山立石寺 / 獅子踊り (根本中堂)	365	web
001-010	宝珠山立石寺 / 根本中堂	615	web
001-011	宝珠山立石寺 / 夜行念仏 (根本中堂前)	265	web
001-012	宝珠山立石寺 / 芭蕉句碑	465	web
001-013	宝珠山立石寺	1360	web
001-014	宝珠山立石寺 / 姥堂	250	web
001-015	宝珠山立石寺 / せみ塚	355	web
001-016	宝珠山立石寺 / 開山堂	295	web
001-017	宝珠山立石寺 / 五大堂	165	web
001-018	宝珠山立石寺 / 弥陀洞	180	web
001-019	宝珠山立石寺 / 仁王門	225	web

001-020	宝珠山立石寺 / 胎内くぐり	160	web
001-021	宝珠山立石寺 / 東宮行啓記念殿	150	web
001-022	立谷川河川公園 / 二代目鍋太郎	465	看板
001-022	立谷川河川公園 / 二代目鍋太郎	580	web
001-023	宝珠山立石寺 / 山寺の四季（春）	265	web
001-024	宝珠山立石寺 / 山寺の四季（夏）	320	web
001-025	宝珠山立石寺 / 山寺の四季（秋）	260	web
001-026	宝珠山立石寺 / 山寺の四季（冬）	235	web
001-027	宝珠山立石寺 / 日枝神社	380	web

【タイトル】 峯の浦遺跡 / 垂水不動尊

【想定媒体】 看板・web

<簡体字>**峰之浦**

一千多年来，佛教僧侣和山地苦行僧在名为“峰之浦”的地区冥想和修行。该地区的多个自然和历史宗教遗址由一条徒步路线串连起来，路线的一个起点位于干手院观音堂附近，另一个起点则在山寺灵园。

干手院观音堂供奉干手观音。从干手院观音堂出发，漫步穿过森林，即可抵达在 20 世纪初以前用于苦行的垂水遗址。遗址中有一块巨大的岩壁，岩壁中有一处空洞，洞内布满因水侵蚀而形成的蜂窝状凹陷。洞内矗立着古峰神社鸟居，还有一座供奉丰收之神稻荷神的小型神社。鸟居附近，岩壁朝悬崖一面的裂缝处伫立着一尊佛教之神“不动明王”的雕像。

再往前是城岩七岩，据说从远处看，七块巨大的岩石就像一座城堡的外墙。沿着小径继续前行，一片林中空地展现在眼前，周围环绕着多个特征各异的岩层。这里很有可能曾被用于举行特殊的宗教仪式。

山寺灵园一侧的徒步起点附近还有一片空地，原为峰之浦本院所在之处。昔时该寺院供奉阿弥陀佛，即无量光佛。虽然建筑已不复存在，但考古挖掘发现了寺庙的部分地基、可追溯至 14 世纪的手工艺品，以及绳纹时期（公元前 10,000 年—公元前 300 年）遗留下来的陶器。

<繁体字>**峯之浦**

逾千年來，「峯之浦」一直是佛教僧侶和山岳苦行僧冥想和修行的場所，多處自然和歷史宗教遺址由一條步道串連起來。這條步道的其中一個入口位於干手院觀音堂附近，另一個入口則位於山寺靈園。

干手院觀音堂供奉干手觀音。從干手院觀音堂出發，稍微走一小段路穿過森林，就會抵達垂水遺跡，在 20 世紀初以前，人們在此進行苦行修行。垂水遺跡有座巨大岩壁，其中一處空曠洞穴裡頭布滿因水侵蝕而成的蜂窩狀凹洞，還矗立著古峰神社的鳥居，以及一座稻荷神社。在崖側附近裂縫處供奉的則是不動明王。

沿著歩道邁進，將會看到城岩七岩，據說從遠處看，七塊巨大岩石就像一座城堡的外牆。接著再往前走，一片林中空地映入眼簾，周圍有多個形狀獨特的奇岩怪石，被認為昔日很有可能用來舉行特殊的宗教儀式。

山寺靈園側的步道入口附近則有另片空地，原為峯之浦主寺的所在之處，過去供奉阿彌陀佛如來，即無量光佛。雖然建築已不復存在，但經過考古挖掘，找到了寺院的部分地基、可追溯至 14 世紀的文物，以及繩文時代（西元前 10,000 - 西元 300）遺留下來的陶器碎片。

<日本語仮訳>

峯の浦

1 千年以上にわたり、僧侶や苦行者が、峯の浦として知られる山寺の先で瞑想し、修行をしてきました。この自然の歴史的整地は散策路でつながっており、入口は千手院観音堂の境内近くと山寺靈園にあります。

千手院観音堂には、千手観世音菩薩が安置されています。千手院観音堂を出て森を少し歩くと、1900 年代初期まで苦行に使われていた垂水遺跡に着きます。この場所には、水の浸食によって形成された、蜂の巣状の穴がたくさんある巨大な岩壁があります。中には、古峯神社の鳥居と稻荷神社が立っています。崖の側面にある近くの割れ目には、不動明王が祀られています。

散策路をさらに進むと、城岩七岩と呼ばれる 7 つの岩が並んでおり、遠くから眺めると山城の様相をなすと言われています。城岩七岩の先では、特徴的な岩に囲まれた広場に出ます。この場所は、神道の特別な祭りに使われていたと考えられています。

山寺靈園の散策路の入口付近の別の広場には、峯の浦の本院跡があります。本院には阿彌陀如来が祀られていました。本院はすでになくなっていますが、遺跡発掘により本院建造物の基礎、14 世紀にまで遡る遺物、縄文時代（紀元前 10,000～300 年）の陶磁器の破片が見つかっています。

【タイトル】 峯の浦遺跡 / 垂水不動尊

【想定媒体】 web

<簡体字>

峰之浦

一千多年来，佛教僧侣和山地苦行僧在名为“峰之浦”的地区冥想和修行。一条徒步路线串连起该地区的多个自然和历史宗教遗址，路线的两处起点分别位于干手院观音堂和山寺灵园。

干手院观音堂供奉千手观音。干手院观音堂是当地 33 座观音寺庙组成的参拜之路的第二站。游客可以进入正殿参拜观音菩萨，也可以向寺庙捐款行善。寺庙内的墙壁上展示着各种颜色的纸质神符（日文发音：ofuda）。参拜者会在这些纸条上写下心中所愿，然后将其挂在朝圣途中所经每一座寺庙的墙上。神符的颜色代表参拜者完成参拜之旅的次数；代表 10 次的金符十分罕见。

从这座寺庙出发，漫步穿过森林，即可抵达在 20 世纪初以前用于苦行的垂水遗址。遗址中有一块巨大的岩壁，岩壁内有一处空洞，洞内布满因水侵蚀而形成的蜂窝状凹陷。洞内矗立着古峰神社鸟居，还有一座供奉丰收之神稻荷神的小型神社。空洞之外的悬崖上，一棵参天雪杉旁有一处带栅门的裂缝。门后则伫立着佛教之神“不动明王”的雕像。

接下来的徒步路段杂草丛生，变得更难以穿行。沿途有名为“城岩七岩”的七块岩石，从远处看，这些岩石就像一座城堡的外墙，故得此名。从部分岩石旁望去，可将四周的山谷尽收眼底。

城岩七岩的下一站是一片林中空地，周围环绕着多个特征各异的岩层。这里可能曾是苦行僧用来举行仪式的地方。离空地不远处有一个小洞穴，其中有多座五轮塔（墓塔）。多年来，许多五轮塔被盗或遭到毁坏，数量大大减少。在保存至今的五轮塔中，有的可以追溯到镰仓时代（1185–1333）。

山寺灵园一侧的徒步起点附近还有一片空地，曾是峰之浦本院所在之处，昔时该寺院供奉阿弥陀佛，即无量光佛。虽然建筑已不复存在，但对该遗址的考古挖掘发现了寺庙的部分地基、可追溯至 14 世纪的手工艺品，以及绳纹时期（公元前 10,000 年–公元前 300 年）遗留下来的陶器。

徒步路线的最后一段连通寺庙遗址与山寺灵园。这曾是通往峰之浦本院的主要路线，入口处有两座石雕，一座是牛头天王（长着牛头的守护神），另一座是千手观音的部众之一神母女天。山寺距离墓园仅数步之遥。

<繁体字>

峯之浦

逾千年來，「峯之浦」一直是佛教僧侶和山岳苦行僧冥想和修行的場所，多處自然和歷史宗教遺址由一條步道串連起來。這條步道的其中一個入口，位於千手院觀音堂附近，另一個入口則位於山寺靈園。

千手院觀音堂供奉千手觀音。在當地 33 座觀音寺的朝聖路線中，千手院觀音堂是第二站，遊客可以進入正殿參拜菩薩，也能捐獻香油錢。寺院內的牆壁上裝飾著各種顏色的紙製神符（御札），參拜者會在上頭寫著心中所願，然後掛在參拜途中經過的每座寺院牆上。神符的顏色代表參拜者完成朝聖之旅的次數，其中金符代表完成 10 次朝聖之旅，十分罕見。

從這座寺院出發，稍微走一小段路穿過森林，就會抵達垂水遺跡，在 20 世紀初以前，人們在此進行苦行修行。垂水遺跡有座巨大岩壁，其中一處空曠洞穴裡頭布滿因水侵蝕而成的蜂窩狀凹洞，還矗立著古峰神社的鳥居，以及一座供奉豐收之神稻荷神的小型神社。在洞穴之外懸崖上的一道門後，可以看到一棵高聳的雪杉旁有一處岩石裂縫，其中供奉佛教中神明「不動明王」的雕像。

步道接下來的路段草木蔓生，較不方便通行。繼續前進將看到名為「城岩七岩」的七塊岩石，從遠處看就像城堡的外牆，因此得名。另外從部分的岩石間望去，可將四周的山谷景色盡收眼底。

經過城岩七岩之後，下一站是一片林中空地，周圍有多個形狀獨特的奇岩怪石，過去可能是苦行僧用來舉行儀式的地方。離空地不遠處則有座小洞穴，其中有多座「五輪塔」（石造墓碑）。過去五輪塔的數量更多，但是經過多年下來，許多被盜或遭到毀壞，數量大大減少。在保存至今的五輪塔中，有的是從鎌倉時代（西元 1185–1333）所留下。

山寺靈園側的步道入口附近則有另片空地，原為峯之浦主寺的所在之處，過去供奉阿彌陀佛如來，即無量光佛。雖然建築已不復存在，但經過考古挖掘，找到了寺院的部分地基、可追溯至 14 世紀的文物，以及繩文時代（西元前 10,000 - 西元前 300）遺留下來的陶器碎片。

歩道的最後一段連接寺院遺跡與山寺靈園。這裡曾是通往峯之浦主寺的主要路線，入口處有兩座石雕，一座是牛頭天王（牛頭的守護之神），另一座是千手觀音的部眾之一神母女天。另從墓園再走一小段路便可抵達山寺。

<日本語仮訳>

峯の浦

1 千年以上にわたり、僧侶や苦行者が、峯の浦として知られる山寺の先で瞑想し、修行をしてきました。この自然の歴史的整地は散策路でつながっており、入口は千手院観音堂と山寺靈園にあります。

千手院観音堂は千手観世音菩薩を祀っています。千手院観音は、最上三十三観音第二番札所にあたります。ここを訪れた際は、本殿に入って参拝し、お賽銭を入れることができます。中の壁には、色とりどりのお札が飾られています。参拝者は、お札に願い事を書き、これを各寺の壁にかけていきます。お札の色は参拝者の巡礼回数を表しており、10 回以上の巡礼を意味する金色の絵馬は極めて稀です。

千手院を出て森を少し歩くと、1900 年代初期まで苦行に使用されていた垂水遺跡に着きます。この場所には、水の浸食によって形成された、蜂の巣状の穴がたくさんある巨大な岩壁があります。中には、古峯神社の鳥居と稲荷神社が立っています。空洞の先の崖側には、高くそびえる杉の木の隣に門のある割れ目があり、不動明王が中に安置されています。

散策路をさらに進むと、草木が生い茂っていて通るのがさらに難しくなっていきます。途中で、城岩七岩と呼ばれる大きな 7 つの岩が見えてきます。遠くから眺めると城の様相をなすことから、そう呼ばれています。その岩の上に立つと、周辺の溪谷を見渡すことができます。

城岩七岩の先は、数種類の特徴的な岩々のある広場へ続きます。この場所は、苦行者が儀式に使用していたと考えられています。広場を過ぎたところにある洞窟には、五輪塔がたくさんあります。以前は数がありました、多くが長年かけて盗まれたり壊されたりしてしまいました。残っているものの中には、鎌倉時代（1185～1333 年）まで遡るものもあります。

峯の浦の本院跡は、山寺靈園の散策路の入口付近の別の広場にありますが、本院には阿弥陀如来が祀られていました。本院はすでになくなっていますが、遺跡発掘により本院建造物の基礎、14 世紀にまで遡る遺物、縄文時代（紀元前 10,000～300 年）の陶磁器の破片が見つかっています。

散策路の最後の区間は、本院跡から始まり、山寺霊園まで続きます。これがかつての本院までの主な経路で、入り口には2基の石碑が立っています。1つは牛頭天王で、もう1つは千手観音の仏の1人、神母女天です。山寺は、霊園から歩いてすぐのところにあります。

001-003

山寺觀光資源等多言語化・インバウンド推進協議会

【タイトル】宝珠山立石寺 / 性相院

【想定媒体】看板・web

<簡体字>

性相院

江戸時代(1603-1867)以前,僧侶們在建於寶珠山山坡上,由12座寺院組成的山寺中生活和修行。當中只有4座留存至今,性相院便是其一。這座寺廟供奉天佛阿彌陀佛和毘沙門天(佛教四大天王之一)。寺中阿彌陀佛的雕像據說是出自山寺創始人圓仁和尚(794-864)之手。毘沙門天雕像則是當時最著名的佛教雕塑家之一運慶(1150-1223)的作品。

這座寺廟還供奉著伊達政宗(1567-1636)的母親義姬(1548-1623)的牌位。伊達政宗是一位強大的大名(日本封建時代的大領主),統治著日本東北地區的大片地區,並建立了附近的宮城縣仙台市。

<繁体字>

性相院

江戸時代(西元1603-1867)以前,僧侶們在建於寶珠山山坡上,由12座寺院組成的山寺中生活和修行。當中只有4座留存至今,性相院便是其一。這座寺院供奉天佛阿彌陀佛如來、毗沙門天(佛教四大天王之一)。寺中阿彌陀佛的雕像據說出自建立山寺的圓仁和尚(西元794-864)之手,毗沙門天雕像則由運慶(西元1150-1223)製作,他是當時最著名的佛師(佛像雕塑師)之一。

性相院還供奉著伊達政宗(西元1567-1636)母親義姬(西元1548-1623)的牌位。伊達政宗是一位手握大權的大名(日本封建時代的大領主),統治著日本東北大片領地,並建立了鄰近的宮城縣仙台市。

<日本語仮訳>

性相院

江戸時代（1603年～1867年）まで、僧侶たちは宝珠山の斜面に立つ山寺の12の寺院で生活し、修行を積んでいました。現存する寺院は4つがあり、性相院はその1つです。性相院では、天の仏である阿弥陀如来と、毘沙門天（仏教四天王の一尊）が祀られています。阿弥陀如来像は山寺を建立した僧侶、円仁（794年～864年）作とされています。毘沙門天像は、当時最も名高い仏師の1人であった運慶（1150年～1223年）作です。

この寺院にはさらに、強い権力を持ち日本の東北地方の広い地域を支配した大名であり、近隣の宮城県仙台市を築いた伊達政宗（1567年～1636年）の母、義姫（1548年～1623年）の位牌も祀っています。

001-004

山寺観光資源等多言語化・インバウンド推進協議会

【タイトル】宝珠山立石寺 / 金乗院

【想定媒体】看板・web

<簡体字>

金乗院

江戸時代(1603-1867)以前、僧侶們在建於寶珠山山坡上，由12座寺院組成的山寺中生活和修行。當中只有4座留存至今，金乗院便是其一。金乗院現存的建築可追溯至1840年，主要供奉兒童的守護神、也是眾生的救世主——地藏菩薩。寺廟內祭壇上的雕像由地藏菩薩和分立於兩側的兩名童子組成。地藏菩薩左側的童子名為掌惡，他手持金剛杵——一種堅不可摧的神話棍棒，象徵著戰勝世俗欲望。地藏菩薩右側的童子名為掌善，手持代表純潔的白色蓮花。祭壇周圍的牆壁上裝飾著許多小型地藏菩薩雕像。這些雕像被稱為千體地藏（字面意思是“一千”，意為“無數”），負責守護安息在無名或無人照看的墳墓中所被遺忘的逝者。

<繁体字>

金乗院

江戸時代（西元1603 - 1867）以前，僧侶們在建於寶珠山山坡上，由12座寺院組成的山寺中生活和修行。當中只有4座留存至今，金乗院便是其一。金乗院現存的建築建於西元1840年，寺內主要供奉兒童的守護神，也是眾生的救世主「地藏菩薩」。祭壇上有地藏菩薩像，以及侍立兩側的兩名童子，左側童子名為「掌惡」，他手持金剛棒在神話中是堅不可摧的棍棒，象徵戰勝世俗欲望，右側的童子則名為「掌善」，手持代表純潔的白色蓮花。至於祭壇周圍的牆壁上，還放置許多小型地藏菩薩像，被稱為千體地藏（字面意思是「一千」，意為「無數」），守護著無名或無人照料的墳墓中，那些被遺忘的逝者們。

<日本語仮訳>

金乗院

江戸時代（1603年～1867年）まで、僧侶たちは宝珠山の斜面に立つ山寺の12の寺院で生活し、修行を積んでいました。現存する寺院は4つがあり、金乗院はその1つで、現在の建物は1840年に建立されたものです。金乗院は、子どもの守り神であり、生きとし生けるものの救い主である地藏菩薩を祀っています。寺院内の祭壇に祀られた仏像は、2人の子どもを両側に連れた神の姿を描いています。地藏の

左側の男児はじょうあくと呼ばれ、世俗的欲望に打ち勝つことを象徴する金剛杵（決して壊れない神聖な杵）を手にしています。右側の男児はじょうぜんと呼ばれ、純潔を表す蓮の花を手にしています。祭壇の周りの壁際には、数多くの小さな地藏が祀られています。これらは千体地藏（文字通り、「千体の地藏」）と呼ばれ、無名の墓または世話をする人のいない墓に眠る、忘れられた亡き人々を見守っています。

【タイトル】宝珠山立石寺 / 中性院

【想定媒体】看板・web

<簡体字>**中性院**

江戸時代(1603–1867)以前,僧侶們在建於寶珠山山坡上,由12座寺院組成的山寺中生活和修行。當中只有4座留存至今,中性院便是其一。這座寺廟主要供奉天佛阿彌陀佛。阿彌陀佛的使命之一是引領死後的靈魂進入極樂淨土。殿後設有出羽國(今山形縣)前統治者戶澤家的墓碑。寺廟對面矗立著山形藩的一代雄主——最上義光(1546–1614)的紀念碑。殿前有一尊盤腿成蓮花坐式的阿羅漢賓頭盧的雕像。信徒會撫摩雕像上與自己所患疾病對應的部位,希望得到賓頭盧的保佑而獲痊愈。

<繁体字>**中性院**

江戸時代(西元1603-1867)以前,僧侶們在建於寶珠山山坡上,由12座寺院組成的山寺中生活和修行。當中只有4座留存至今,中性院便是其一。這座寺院主要供奉天佛阿彌陀佛如來,阿彌陀佛的使命之一是引領死後靈魂進入極樂淨土。佛堂的後方立有出羽國(現在的山形縣)過去統治者戶澤家的墓碑。寺院對面則矗立著山形藩一代雄主最上義光(西元1546–1614)的紀念碑。佛堂前另有一尊賓頭盧羅漢像,這尊羅漢像盤起腿,呈蓮花坐式。信眾們會觸摸羅漢像與自己所患疾病對應的部位,希望得到賓頭盧的保佑,以求疾病痊愈。

<日本語仮訳>**中性院**

江戸時代(1603年~1867年)まで、僧侶たちは宝珠山の斜面に立つ山寺の12の寺院で生活し、修行を積んでいました。現存する寺院は4つがあり、中性院はその1つです。中性院の御本尊は、阿彌陀如来です。阿彌陀如来の役割の1つは、亡き者の魂を極楽へ導くことです。堂の背後には、出羽国(現在の山形)の領主であった戸沢家の墓碑が立っています。寺院の向かい側には、山形藩の有力な大名であった最上義光(1546年~1614年)の碑が立っています。堂の前には、賓頭盧像があり、蓮

華座で足を組んで座っています。病を負った信者は、病を治す賓頭盧のご利益にあずかれるよう願って、
仏像の体の自分の患部と同じところを撫でます。

001-006

山寺観光資源等多言語化・インバウンド推進協議会

【タイトル】宝珠山立石寺 / 華藏院

【想定媒体】看板・web

<簡体字>

华藏院

江戸時代(1603–1867)以前,僧侶們在建於寶珠山山坡上,由12座寺院組成的山寺中生活和修行。當中只有4座留存至今,華藏院便是其一。這座寺院供奉包括慈悲之佛觀世音菩薩在內的眾神。佛堂內祭壇上的觀音像,據說由建立山寺的圓仁和尚(西元794–864)所製。寺院外有一座高2.5公尺的三重塔,矗立在附近岩壁開鑿的凹室內,寶塔整體呈獨特的朱紅色,塔簷木造部分則飾有細緻的金箔圖案。這座三重塔建於西元1519年,於西元1952年獲指定為日本重要文化財。它是日本最小的三重塔,塔內供奉著一尊大日如來像。

<繁体字>

華藏院

江戸時代(西元1603–1867)以前,僧侶們在建於寶珠山山坡上,由12座寺院組成的山寺中生活和修行。當中只有4座留存至今,華藏院便是其一。這座寺院供奉包括慈悲之佛觀世音菩薩在內的眾神。佛堂內祭壇上的觀音像,據說由建立山寺的圓仁和尚(西元794–864)所製。寺院外有一座高2.5公尺的三重塔,矗立在附近岩壁開鑿的凹室內,寶塔整體呈獨特的朱紅色,塔簷木造部分則飾有細緻的金箔圖案。這座三重塔建於西元1519年,於西元1952年獲指定為日本重要文化財。它是日本最小的三重塔,塔內供奉著一尊大日如來像。

<日本語仮訳>

華藏院

江戸時代(1603年~1867年)まで、僧侶たちは宝珠山の斜面に立つ山寺の12の寺院で生活し、修行を積んでいました。現存する寺院は4つがあり、華藏院はその1つです。華藏院は、慈悲の仏である観音を含む、複数の神々を祀っています。堂内の祭壇に祀られている観音像は、山寺を建立した僧侶、円仁(794年~864年)作と言われています。寺院の外には、近くの岩肌に掘られた岩屋の中に、高さ2.5メートルの三重の塔があります。この塔は特徴的な朱色で塗られており、木製のひさしの軒は金箔

を施した線条細工で飾られています。1519年に建設されたこの建物は、1952年に重要文化財に指定されました。この塔は、日本国内で最も小さい三重塔で、大日如来像が安置されています。

【タイトル】宝珠山立石寺 / 如法堂

【想定媒体】 web

<簡体字>

如法堂 (奥之院)

沿 1015 级阶梯拾级而上，便可抵达山寺寺庙群的顶端——奥之院。奥之院由右侧的如法堂和左侧的大佛殿两座建筑组成。

如法堂是修习佛教教义的殿堂，修行的僧人要在这一依照山寺创始人圆仁和尚 (794-864) 创立的方法抄写经文。这种方法极为费力：僧人使用艾蒿制成的毛笔和石墨逐字抄写《妙法莲华经》，每抄写一个字，他们就俯首跪拜，并背诵经文全文三遍。因此，抄完《妙法莲华经》的全部八卷可能需要长达四年的时间。在闰年的 11 月 28 日，抄写完毕的经文会作为进献给圆仁和尚的祭品而被收入纳经堂。

如法堂供奉着名留青史的释迦牟尼和多宝如来佛的雕像。据说，圆仁和尚于 838 年至 847 年在中国修行的九年间一直带着这两尊佛像。

<繁体字>

如法堂 (奥之院)

沿 1,015 级阶梯拾级而上，便可抵达位于山寺寺庙群顶端的奥之院。奥之院由右侧的如法堂和左侧的大佛殿两座建筑组成。

如法堂是学习佛教教义的佛堂，在此修行的僧侣会依照建立山寺的圆仁和尚（西元 794-864）创始，且非常耗费体力的方式抄写经文。僧侣们使用大魁蒿制成的毛笔及墨汁逐字抄写《妙法莲华经》，每抄写一个字，僧人就需俯首跪拜，并背诵经文全文三遍，因此要抄完全八卷的经文，最长需要四年时间。抄写完毕的经文会在闰年的 11 月 28 日纳于纳经堂，藉此进献给圆仁和尚。

如法堂内供奉著掌管無數寶藏和財富的多寶如來佛，以及名留青史的釋迦牟尼。據說圓仁和尚於西元 838 年至 847 年在中國修行時，九年間一直帶著這兩尊佛像隨行。

<日本語仮訳>

如法堂（奥之院）

山寺の境内の頂上までの1,015段の道のりは、奥之院で終わります。奥之院は、右側の如法堂と左側の大仏殿の、2つの建物で構成されています。

如法堂は、仏の教えの堂です。修行中の僧侶はここで、山寺を建立した僧侶、円仁（794年～864年）が始めた、非常に労力を必要とする写経方法を実践します。修行僧は大ヨモギの筆と石墨を使い、法華経を1文字ずつ写します。1文字写すごとに、ひれ伏して経の全文を3回暗唱します。このため、法華経8巻全てを写すのに4年かかることもあります。写し終えた経は、うるう年の11月28日に円仁への捧げものとして、納経堂に納められます。

如法堂には歴史的な仏である釈迦牟尼と、豊富な宝の仏である多宝如来の像が祀られています。これらの像は、開山・慈覚大師が中国で修行中に持ち歩いたと言われています。

001-008

山寺観光資源等多言語化・インバウンド推進協議会

【タイトル】宝珠山立石寺 / 大仏殿

【想定媒体】 web

<簡体字>

大佛殿（奥之院）

沿 1015 级阶梯拾级而上，便可抵达山寺寺庙群的顶端——奥之院。据说，这段通往奥之院的旅程能征服所有人的世俗欲望。

奥之院由右侧的如法堂和左侧的大佛殿两座建筑组成。大佛殿内有一尊周身以金箔覆盖的 4.8 米高天佛阿弥陀佛坐像。

<繁体字>

大佛殿（奥之院）

沿 1,015 级阶梯拾级而上，便可抵达位于山寺寺院群顶端奥之院。据说，这段通往奥之院的路程能让参访者克服世俗欲望。

奥之院由右侧的如法堂和左侧的大佛殿两座建筑组成，大佛殿内有一尊全身覆盖着一层金箔的 4.8 公尺高天佛阿弥陀佛如来坐像。

<日本語仮訳>

大仏殿（奥之院）

山寺の境内の頂上までの 1,015 段の道のりは、奥之院で終わります。奥之院へたどり着いた者は、世俗的欲望を克服できると言われています。

奥之院は、右側の如法堂と左側の大仏殿の、2 つの建物で構成されています。大仏殿には、金箔に包まれた 4.8 メートルの阿弥陀如来の座像が安置されています。

【タイトル】宝珠山立石寺 / 獅子踊り (根本中堂)

【想定媒体】 web

<簡体字>**獅子踊**

磐司祭于夏季的8月初举行，是山寺每年最盛大的活动之一，以纪念传奇猎人磐司磐三郎（生卒年不详）的丰功伟绩。磐司是宝珠山的守卫者，于山寺的建立扮演着重要角色。据传说，磐司在宝珠山山脚下一块名为“对面岩”（意为“会面石”）的大岩石上与圆仁和尚（794–864）相，圆仁和尚谈到他想要在日本北部建立一个传播佛陀教义的地方。磐司被圆仁和尚的抱负深深打动，便捐出了土地，并放弃在当地狩猎。山上的动物们听到这个消息后，聚集在对面岩前高兴地跳舞。

人们根据这则传说创作了“狮子踊”（狮子舞），这是磐司祭的主要活动之一。磐司祭的参与者聚集在对面岩旁的对面堂神社，神社内供奉着磐司和圆仁和尚的雕像。活动开始后，盛装打扮的当地演出团伴着传统音乐跳起充满活力的舞蹈。他们排成一队前往山寺的上端，途中会在根本中堂主殿和纪念山寺创始人的开山堂停下来表演。

<繁体字>**獅子踊**

磐司祭是山寺每年最盛大的活動之一，這場夏日祭典於8月初舉行，用於紀念傳奇獵人磐司磐三郎（生卒年不詳）的豐功偉績。磐司是管轄寶珠山的獵人，他在建立山寺時扮演著重要角色。據說，磐司在寶珠山山腳下一塊名為「對面岩」（意為「會面石」）的巨石所在處，與圓仁和尚（西元794–864）會面，圓仁和尚在此談到他想要在日本的北部，建立一個傳播佛教教義的地方。於是磐司被圓仁和尚的抱負深深打動，捐出了土地並放棄在當地狩獵。山上的動物們聽到這個消息後，聚集在對面岩前快樂地跳起舞來。

人們根據這則傳說創作了「獅子踊」（獅子舞），這種舞蹈也成為磐司祭的主要活動之一。磐司祭的參與者會聚集在對面岩旁的對面堂，此處供奉著磐司和圓仁和尚的雕像。在活動進行時，當地的舞蹈團會盛裝打扮，隨著傳統音樂跳起充滿活力的舞蹈，並且列隊前往山寺頂端，途中會停在根本中堂主殿，以及紀念山寺建立者的開山堂表演。

<日本語仮訳>

獅子踊り

磐司祭は、山寺の最大の年間イベントの1つです。この夏祭りは8月初頭に、伝説的狩人磐司磐三郎（生没年不詳）の功績を讃えるため開催されます。磐司磐三郎は山の番人で、寺の建立の際に重要な役割を果たした人物です。伝説では、磐司は宝珠山のふもとにある大きな岩、対面岩（対面する岩）の上で円仁（794年～864年）に出会ったと言われています。円仁はここで、北日本に仏の教えを広めるための場所を築くという彼の目標を語りました。円仁の目標に強く心動かされた磐司は、円仁に土地を寄付し、この辺りでの狩りを止めました。これを聞いた山の動物たちは、対面岩の前に集まり、喜びの踊りを踊りました。

この伝説は、磐司祭のメインイベントの1つである獅子踊りの元となっています。参加者たちは、対面岩の隣にあり、円仁と磐司の像が安置されている対面堂の前に集まります。地元の団体の人々が、伝統音楽に合わせて生き生きとした踊りを披露します。行列を成して山寺の上層部へ進み、根本中堂（本堂）と山寺の創設者へささげて建てられた開山堂へと進みます。

【タイトル】宝珠山立石寺 / 根本中堂

【想定媒体】 web

<簡体字>**根本中堂**

几个世纪以来，一盏不灭的法灯始终温和地照亮着山寺本堂根本中堂的内殿。根本中堂位于宝珠山脚下，是游客朝着寺庙群顶部攀登时最先看到的建筑物。山寺是跨越京都府和滋贺县的比睿山天台宗总本山延历寺的分院。根本中堂供奉着大医王药师如来。

根本中堂是山寺最古老的建筑之一，已被指定为日本重要文化财产，最初由圆仁和尚（794–864）在创立山寺后于 860 年修建。1356 年，山形城第一代城主斯波兼赖（1329–1379）重建了主体结构。重建后的根本中堂据说是日本年代最悠久的山毛榉木建筑。这座单层殿堂的屋顶为宽阔的歇山顶（日语称“入母屋造”），这种屋顶样式起源于中国，常见于佛教建筑。

根本中堂神圣的内殿向公众开放，内殿中央的双门神龛（日语称“厨子”）内供奉着一尊木制药师如来像。这尊雕像可能是由圆仁和尚雕刻而成，每 50 年才向公众展示一次。神龛两侧分别是日光菩萨和月光菩萨像，周围环绕着守护药师如来的十二神将像。

神龛前燃烧着的，便是被称为“不灭法灯”的佛教圣灯。为纪念山寺建立，圆仁和尚从延历寺带来了这盏灯。数世纪以来，山寺和延历寺的灯都在不同时间熄灭过。但是，每当其中一盏法灯熄灭时，僧人就会用另一盏法灯将其重新点燃。通过两座寺庙的合力传承，同一团圣火已经燃烧了 1200 多年。

内殿右上角供奉着一尊智慧之佛文殊菩萨像。这尊雕像原本放在名为文殊堂的专用殿堂内，在一场火灾后被转移到根本中堂。四大天王之一的勇猛战神——毘沙门天的雕像则立于左侧角落。

<繁体字>**根本中堂**

幾個世紀以來，不滅的法燈始終溫和地照亮著山寺本堂「根本中堂」內殿。根本中堂位於寶珠山腳下，是遊客前往寺院群頂端時最先看到的建築物。山寺是延曆寺的分院，延曆寺則是

天台宗總本山（本山：為該宗派的大本營或根據地），位於跨越京都府和滋賀縣的比叡山。根本中堂供奉著大醫王佛藥師如來。

根本中堂是山寺中最古老的建築之一，已被指定為日本重要文化財，原先由圓仁和尚（西元 794 - 864）在建立山寺後，於西元 860 年修建。到了西元 1356 年，山形城第一代城主斯波兼賴（西元 1329 - 1379）重建了寺院的主體結構。重建後的根本中堂據傳是日本最早的山毛櫸木建築，這座單層殿堂的屋頂為寬闊的「入母屋造」，即樣式源於中國的歇山頂，常見於佛教建築。

根本中堂的內殿一般對外開放，中央的雙門神龕上供奉著一尊木造藥師如來像。這尊雕像據說由圓仁和尚親手雕刻，每 50 年才對外展示一次。至於神龕兩側則分別是日光菩薩和月光菩薩像，周圍環繞著守護藥師如來的十二藥叉大將像。

神龕前亮著被稱作「不滅法燈」的佛教聖燈。為紀念山寺建立，圓仁和尚從延曆寺將這盞聖燈帶至此處。數世紀以來，山寺和延曆寺的燈火曾在不同時間熄滅，但每當一座寺院的燈火熄滅，僧人就會用另一座寺院的燈火將其重新點燃。在兩座寺院的合力傳承下，聖火已經燃燒了 1,200 多年。

內殿右上角供奉著一尊智慧之佛文殊菩薩像。原本放在名為「文殊堂」的專用殿堂內，在一場火災後被轉移到根本中堂。左側角落則立有四大天王之一的重要的武神，多聞天王（毘沙門天），的雕像。

<日本語仮訳>

根本中堂

不滅の法灯が、何世紀にもわたって、山寺の総本堂である根本中堂の内陣を優しく照らしてきました。総本堂は宝珠山の麓にあり、山寺へ登る際、最初に目にする建物です。山寺は、京都と滋賀にまたがる比叡山の天台宗総本山、延暦寺の分院です。根本中堂には、癒しの仏陀・薬師如来が安置されています。

根本中堂は山寺の中でも最も古い建物の 1 つで、重要文化財に指定されています。山寺の創建後、慈覚大師円仁（794～864 年）により 860 年に創建されました。本堂は、1356 年に、初代山形城・主斯波兼頼（しばかねより）（1329～1379 年）により再建されました。そのため、日本最古のブナの建造物といわれています。平屋の本堂の屋根は、大きな入母屋造りでできています。入母屋造りは中国から伝来した様式で、仏教建築によく見られるものです。

根本中堂の内陣は一般に公開されています。木造薬師如来立像が内陣中央の厨子（ずし）に安置されています。円仁自らが彫ったとされるこの薬師如来立像は、50年に1度しか一般公開されません。日光菩薩と月光菩薩が厨子の脇に立ち、その周りを十二神将が囲んで薬師如来を護っています。

厨子の前では不滅の法灯が燃えています。慈覚大師円仁は、この聖なる炎を延暦寺から運び、山寺の創建を記念しました。数世紀にわたり、山寺と延暦寺の炎はそれぞれ異なる時期に燃え尽きているものの、一方の炎が消える度に、もう一方の炎で再び灯が灯されてきました。以来、1,200年以上にわたって、両寺の炎は絶えず燃えています。

内陣の右隅には、知恵の文殊菩薩立像が安置されています。かつては文殊堂という専用の建物がありましたが、火事の後には根本中堂に移設されました。毘沙門天立像は四天王の一尊に数えられる武神で、左隅に立っています。

001-011

山寺觀光資源等多言語化・インバウンド推進協議会

【タイトル】宝珠山立石寺 / 夜行念仏（根本中堂前）

【想定媒体】 web

<簡体字>

夜行念佛

在石灯笼柔和的灯光下，信徒们一边前往山寺奥之院，一边有节奏地诵经，进行名为“夜行念佛”的夜间参拜活动。这场神圣的佛事从8月6日开始，届时，参与者会在山寺本堂根本中堂前集合祷告。当夕阳西下，参拜队伍开始向山上行进，他们会在途经的每座寺庙前停留并诵读念佛，向天佛阿弥陀佛祈祷。到达山寺奥之院后，信徒们会祈祷并休息一夜。

信徒们在次日清晨5点起床，然后动身前往供奉山寺创始人圆仁和尚（794-864）的开山堂，以及在悬崖边供奉佛教五大明王的五大堂。最後他们会从五大堂返程下山。

夜行念佛已被指定为日本无形民俗文化财产，不对公众开放。

<繁体字>

夜行念佛

在石燈籠柔和的燈光照亮下，信徒們在前往山寺奧之院的途中有節奏地誦經，進行名為「夜行念佛」的夜間參拜活動。這場神聖的佛教儀式從8月6日開始，參與者屆時會一邊念佛，一邊集合至山寺本堂的根本中堂前。到了日落時分，參拜隊伍開始向山上前進，並在途經的每座寺院前停留、念佛，以向天佛阿彌陀佛如來祈願。抵達山寺奧之院後，信徒們會繼續念佛且休息一夜。

次日信徒們會於清晨5點起床，然後動身前往供奉山寺建立者圓仁和尚（西元794-864）的開山堂與五大堂（位於懸崖邊，供奉佛教五大明王）。隨後他們便會下山，結束參拜之行。

夜行念佛已獲指定為日本無形民俗文化財。這項儀式並無對外開放。

<日本語仮訳>

夜行念仏

夜行念仏（夜間の遍路）では、石灯籠の柔らかな灯りに照らされた信者達が、リズムカルに詠唱しながら山寺の内宮へと向かいます。この仏教の神聖な儀式は、8月6日に参加者が祈りを唱えながら、山寺の本堂である根本中堂前に集まると始まります。日没と共に、行列は山へ向かい、途中にある寺の建物の1つ1つで止まり、天の仏阿弥陀如来に捧げる祈りである念仏を唱えます。山寺の内宮である奥の院に到着すると、信者達は祈りを捧げ、一晩休みます。

信者達は、翌朝午前5時に起床します。行列は山寺を建立した円仁（794年～864年）を祀る開山堂と、五大堂（五大明王を祀った、断崖に建つ堂）を目指します。そこから、行列は山を下ります。

夜行念仏は、無形民俗文化財として登録されています。一般公開はされていません。

【タイトル】宝珠山立石寺 / 芭蕉句碑

【想定媒体】 web

<簡体字>

芭蕉俳句碑

1689年，喜爱旅行的俳句诗人松尾芭蕉（1644–1694）从江户（今东京）出发，开始了为期156天的旅程，途经日本东北地区和北陆地区。松尾芭蕉与他的弟子河合曾良（1649–1710）一起步行完成了大部分路程。两人追随芭蕉敬仰的诗人西行（1118–1190）的足迹，游览了许多因古诗而闻名的地方。芭蕉以这段旅程为题材，创作了诗歌和散文游记《奥之细道》（深入北方的小路）。

芭蕉和曾良于7月13日到访山寺，不过这座依山而建的寺庙并非他们计划中的目的地。他们在山寺附近的尾花泽市下榻时，当地居民建议他们去山寺游览。看到美丽宁静的寺庙建筑群，芭蕉灵感迸发，创作出俳句《蝉》：

万籁俱寂，蝉声渗石

这首俳句被雕刻在一块石碑（日语称“句碑”）上，与芭蕉和曾良的雕像同立于山寺入口附近。在通往山寺上端的途中，还有一块名为蝉冢的石碑，纪念芭蕉的俳句《蝉》。

《奥之细道》是芭蕉的最后一部，也是他最受欢迎的作品。俳句《蝉》则是他最著名的诗歌之一，日本各地学校都会教授这首诗。从山寺站步行就可抵达山寺芭蕉纪念馆，人们可以在这里了解芭蕉的生平与作品。

<繁体字>

芭蕉俳句碑

西元1689年，旅遊俳句詩人松尾芭蕉（西元1644-1694）從江戶（現在的東京）出發，在日本東北和北陸地區展開156天的旅程。松尾芭蕉與他的弟子河合曾良（西元1649–1710）一起步行走完了大部分路程。當時芭蕉因為敬仰詩人西行（西元1118-1190），兩人照他足跡遊歷了許多因古詩中描繪而出名的地點。芭蕉之後以這段旅程為題材，創作出包含詩歌和散文的遊記《奧之細道》（深入北方的狹窄道路）。

芭蕉和曾良在山寺附近的尾花澤市下榻，原先並未計畫前往依山而建的山寺，但在當地居民的推薦下，他們才在 7 月 13 日到訪。看到莊嚴美麗、寧靜祥和的寺院建築群後，芭蕉為之觸動，因而創作出俳句《蟬》：

山林幽靜，蟬聲滲入岩石裡

俳句雕刻在一塊石碑（「句碑」）上，這座石碑與芭蕉和曾良的雕像一同立於山寺入口附近。在通往山寺頂端的路上，還有另塊名為「蟬塚」的石碑，用於紀念芭蕉的俳句《蟬》。

《奧之細道》是芭蕉的最後一部，也是他最受歡迎的作品。俳句《蟬》則是他最著名的詩歌之一，日本各地的學校都會教授這首詩。從山寺站步行一小段距離，即可抵達山寺芭蕉紀念館，透過參觀館內的展品，可以了解芭蕉的生平與作品。

<日本語仮訳>

芭蕉句碑

旅する俳人、松尾芭蕉（1644～1694 年）は 1689 年、江戸（現在の東京）から日本の北東北・北陸地方までを 156 日間の旅をしました。芭蕉は、弟子の河合曾良（1649～1710 年）とともに、ほとんどの道のりを歩いて旅しました。2 人は、芭蕉がとても尊敬していた詩人、西行（1118 年～1190 年）の足跡をたどり、古い詩で有名になった数々の場所を訪れました。2 人の旅は、芭蕉の詩と散文による旅行記「おくのほそ道」（北の奥地へのほそい道）の題材となりました。

芭蕉と曾良は、予定には含まれていなかったこの山中の寺を、7 月 13 日に訪れました。これは、滞在していた近くの町、尾花沢の住人の勧めにしたがったものでした。境内の美しさと静けさに触発されて、芭蕉は蟬の句を詠みました。

閑さや	Such stillness—（なんという閑さか）
岩にしみ入る	The cries of the cicadas（蟬の声が）
蟬の声	Sinks into the rocks（岩にしみ入っていく）

（ドナルド・キーン訳）

この俳句が刻まれた句碑が、芭蕉と曾良の像と並んで、山寺の入り口近くに置かれています。山寺の上流部の道には、せみ塚という別の碑があります。

『おくのほそ道』は、芭蕉の最後の作品で、最も知られているものです。蟬の俳句は、芭蕉の最も有名な詩で、全国の学校で教えられています。山寺駅から歩いてすぐの場所にある山寺芭蕉記念館では、芭蕉の人生や作品に関する展示を見ることができます。

【タイトル】宝珠山立石寺

【想定媒体】web

<簡体字>**宝珠山立石寺**

走完一千多级台阶，便可抵达寺庙群立石寺（又称山寺）的最顶端。寺庙群位于山形县境内，建于神圣的宝珠山上，周围草木丛生。登上顶端再返回山脚象征着轮回，即佛教中的重生。通过位于寺院主入口处的山门，便代表逐渐进入“来世”。随着不断向上攀登，游客也得到净化。在顶端冥想和祈祷之后，他们开始下山，并在佛教教义的洗礼中获得重生。

僧侣圆仁（794-864）奉天皇命令前往日本北部边境传播佛教，于860年在途中创立了立石寺。立石寺是天台宗总本山延历寺的分院，延历寺位于跨越京都府和滋贺县的灵山比睿山。而天台宗是从中国传入日本的一种佛教宗派，圆仁是其第三任座主。

宝珠山麓

寺庙群的入口距离山寺站仅数步之遥，沿途有几间商店和餐馆。当游客抵达山寺，首先映入眼帘的是山寺本堂根本中堂。殿内供奉着可能是由圆仁和尚亲手雕刻而成的大医王佛药师如来像。根本中堂内还有一团由圆仁从延历寺带到此处的圣火，被称为“不灭法灯”。数百年间，每当一座寺庙的灯火熄灭，僧人就会用另一座寺庙的灯火将其重新点燃。通过这种延续，两座寺庙共享的同一团圣火已经燃烧了1200多年。

经过根本中堂后，游客会看到著名诗人松尾芭蕉（1644-1694）的雕像，及雕刻着他的著名俳句《蝉》的石碑。在山寺游历时，芭蕉受到寺庙庄严宁静气质的触动，创作出这首俳句，并将其收入著名的诗歌和散文集《奥之细道》（深入北方的小路）。在从江户（今东京）途经本州岛北部的旅程中，芭蕉徒步走完大部分行程，这部闻名遐迩的《奥之细道》便是这段旅程的游记。在山中更高处，还有一块名为蝉冢的石碑，纪念芭蕉的俳句《蝉》。

经过宝物殿、念佛堂和日枝神社后，游客便会来到山门所在地，正式开启轮回和登山之旅。

登山

沿着一条蜿蜒小路，跟随两旁的石灯笼穿过一座座雕像和一棵棵参天大树，便会到达象征天国与地狱交界的姥堂。姥堂内部有一座引人注目的雕像——夺衣婆，在亡灵跨过分隔阴阳两

界的三途川前，这位可怕的老妇人会剥去他们的衣服。根据传统，信徒们会在姥堂清洁自己，然后将自己的衣服献给夺衣婆，并在继续登山之前换上新装。这种做法象征着摆脱世俗的罪孽和欲望。

再往山上走，靠近蝉冢碑处有一堵饱经风霜的岩壁，名叫弥陀洞。随着时间的推移，风雨不断改变这块岩壁的形态，呈现的样貌使人不禁想起天佛阿弥陀佛。据说能发现这种关联的游客会得到阿弥陀佛的庇佑。

仁王门标志着登山的中点。金刚力士像矗立在门后道路的两侧，以驱邪防魔。越过仁王门后，游客可以游览四座寺庙建筑：性相院、金乘院、中性院和华藏院。

转世

经过这四所寺庙，游客随即来到象征天国的立石寺上端。游客可以在此处冥想佛教教义，为转世做准备。道路在此分岔，其中一条岔路通向寺庙群最深处的建筑——组成奥之院的如法堂和大佛殿。如法堂供奉着名留青史的释迦牟尼像和多宝如来佛像。据说这两座雕像是圆仁和尚在中国修习佛教后从中国带回日本的。与如法堂相邻的大佛殿内有一座高 4.8 米的阿弥陀佛金像。

另一条岔路通往纪念寺庙创始人圆仁和尚的开山堂。开山堂里面尊奉着圆仁和尚的木制雕像，僧侣们每天早晚都会向雕像供奉食物。附近的悬崖上有一块突出的岩石，上面坐落着一座红色小楼——纳经堂，用于存放僧侣在修行时抄写的经文。登上一段狭窄的阶梯，便会来到建于开山堂顶部悬崖边的五大堂。从这里望去，可将寺庙群和四周的山谷尽收眼底。

<繁体字>

寶珠山立石寺

在走完一千多級石階後，便會抵達寺院群立石寺（又稱山寺）的頂端。山寺位於山形縣境內，建於神聖且青蔥翠鬱的寶珠山山坡上。登上最頂端再返回山腳代表「輪迴」，也就是佛教中所說的重生。通過位於寺院主入口處的山門後，便代表逐漸進入「來世」。隨著不斷向上攀登，遊客的心靈也得到淨化，於最頂端冥想和祈願之後下山，然後經過佛教教義的洗禮後獲得重生。

圓仁和尚（西元 794–864）奉天皇之令，前往日本北部邊境傳播佛教，西元 860 年時，他在此行途中建立了立石寺。立石寺是延曆寺的分院，延曆寺則是天台宗總本山，位於跨越京都府

和滋賀縣的比叡山。至於天台宗則是從中國傳入日本的一種佛教宗派，圓仁正是其第三代座主。

寶珠山麓

寺院群的入口距離山寺車站僅一小段路程，沿途有幾間商店和餐廳。抵達山寺後，首先映入眼簾的是山寺的本堂「根本中堂」，當中供奉著可能是由圓仁和尚親手雕刻的大醫王佛藥師如來像。根本中堂內的「不滅法燈」則為圓仁和尚從延曆寺帶到此處的聖火。數百年間，每當一座寺院的燈火熄滅，僧人就會用另一座寺廟的燈火將其重新點燃。透過這種延續，兩座寺院共同守護的聖火已經燃燒了 1,200 多年。

經過根本中堂後，會看到知名詩人松尾芭蕉（西元 1644 - 1694）的雕像，以及刻有其著名俳句《蟬》的石碑。芭蕉在山寺遊歷時，看到莊嚴寧靜的寺院之後深受啟發，因而創作出這首俳句，並將其收入著名的詩歌和散文集《奧之細道》（深入北方的狹窄道路）。在從江戶（現在的東京）前往本州島北部的旅程中，芭蕉徒步走完大部分路程，而這部聞名遐邇的《奧之細道》便是記載這段旅程的遊記。在山的更高處，還有一塊名為「蟬塚」的石碑，用於紀念芭蕉的俳句《蟬》。

經過寶物殿、念佛堂和日枝神社後，遊客便來到山門的所在地，可從此處展開輪迴和登山之旅。

登山

沿著一條兩旁裝飾石燈籠的蜿蜒小路前行，穿過一座座雕像和一棵棵高聳的大樹後，便會抵達象徵天界與地獄交界的「姥堂」。姥堂內有一座引人注目的奪衣婆像，她被描述為一位令人心生畏懼的老婦人，會在亡靈跨過三途川以前，也就是在生前與死後世界相隔之處剝去他們的衣服。根據傳統，信徒們會在姥堂淨化身心靈，然後將自己的衣服獻給奪衣婆，並在繼續登山之行前換上新裝，代表擺脫世俗罪孽和欲望。

再往山上走，靠近蟬塚紀念碑處有一座久經風雨侵蝕的岩壁，名叫彌陀洞。由於長期以來在大自然的雕刻下，呈現的樣貌讓人不禁聯想到天佛阿彌陀佛如來。據說若能看出兩者間的相似性，就會得到阿彌陀佛如來的加持。

仁王門代表前往山上路線的中點，在通往門後道路的兩側矗立著仁王像，用以驅邪防魔。通過仁王門後，可以遊覽性相院、金乘院、中性院和華藏院等四座寺院建築。

轉世

經過這四座寺廟，隨即來到象徵天界的立石寺頂端。遊客可以在此處冥想佛教教義，為轉世做準備。道路在此一分为二，其中一條岔路通往寺廟群最深處的建築，即合稱奧之院的如法堂和大佛殿。如法堂供奉著多寶如來佛和名留青史的釋迦牟尼。據說圓仁和尚在中國求法後，將這兩座雕像由中國帶回日本。與如法堂相鄰的大佛殿內有一座高 4.8 公尺的阿彌陀佛如來金佛像。

另一條岔路通往供奉著寺院建造者圓仁和尚的開山堂。寺內有一尊圓仁和尚的木造雕像，僧侶們每天早晚都會向雕像供奉食物。附近有一處露頭（地球表面突出可見的岩床），上方坐落著一小棟紅色的建築物，這裡是「納經堂」，用於存放僧侶在修行時抄寫的經文。登上一段狹窄的階梯，就會抵達建於開山堂之上，坐落於懸崖邊的五大堂。從這裡望去，寺廟群和下方山谷美景一覽無遺。

<日本語仮訳>

宝珠山立石寺

1 千段以上の階段を上ると、山の中にある複数の御堂の集合体で、山寺として知られる立石寺の最上部に到着します。山形県の神聖な宝珠山の森の傾斜部に建立されており、ここまでの往復路はサムサラ（永遠の再生；輪廻）の追体験となります。寺の境内正門に位置する山門で、訪れた人々は徐々に「来世」に入ります。山を登りながら、参拝者は清められていきます。上で瞑想と祈願を終えると、参拝者は下山を始め、仏陀の教えと共に新たに生まれます。

慈覚大師円仁（794～864 年）は、天皇の命により仏教を広めるため、北部日本の辺境を旅しながら、860 年に立石寺を創建しました。立石寺は、京都と滋賀にまたがる比叡山の天台宗総本山、延暦寺の分院です。慈覚大師円仁は、中国から日本へ伝来した天台宗の第 3 代天台座主でした。

宝珠山麓

立石寺への入り口は、山寺駅から店舗や食事処を数軒通り過ぎて少し歩いたところにあります。山寺の総本堂である根本中堂は、訪れた際に最初に到着する建物です。ここには医薬の仏である薬師如来立像が安置されており、慈覚大師円仁が自らこれを彫ったとされています。根本中堂には、慈覚大師円仁が延暦寺から持ってきた法灯もあります。数世紀にわたり、いずれかの寺の炎が消えると、もう一方の寺の炎で再び灯されてきました。このようにして、不滅の法灯は 1,200 年以上にわたって燃え続けています。

根本中堂を過ぎると、俳諧師・松尾芭蕉（1644～1694 年）の像と、芭蕉の有名な蟬の俳句が彫られた俳句碑があります。芭蕉は、立石寺の荘厳な閑さに触発され、山寺を訪れた際に蟬の俳句を詠みました。蟬の俳句は、有名な俳諧『おくのほそ道』に含まれています。この有名な作品は、江戸（現在の東

京) から東北地方までをほとんど徒歩で旅した芭蕉の紀行です。芭蕉の蟬の俳句のもう 1 つの記念碑であるせみ塚は、山のさらに奥にあります。

山を登り、サムサラを通る旅路は、宝物殿、念仏堂、日枝神社を通った後の山門から始まります。

宝珠山を登る

提灯が並ぶ道を進み、各種像やそびえ立つ木々を過ぎた先にある姥堂は、そこから上の極楽とそこから下の地獄の境にある象徴的な門です。姥堂には、生前の世界と死後の世界を隔てる三途の川の河原で死人の服をはぎ取る怖い老婆・奪衣婆の色鮮やかな像が納められています。姥堂ではかつて、参拝者たちが心身を清め、奪衣婆に自らの着物を奉納し、登山を続ける前に新しい着物に着替えていました。これは、参拝者の世俗的欲望や汚れを流すという象徴的な習慣でした。

さらに登ると、せみ塚の石碑の近くに弥陀洞と呼ばれる風雨に削られた岩壁があります。時がたつにつれ、この岩は自然に削られていき、阿弥陀如来を彷彿させる岩と化しました。阿弥陀如来の姿に見える人には、ご利益があるとされています。

仁王門は、山の間地点を示しています。金剛力士像が建物の両脇に建ち、悪いものが入らないようにしています。その先には、性相院、金乗院、中性院、華蔵院という 4 つの寺があります。

転生

立石寺の上流部はこれら 4 つの寺院を過ぎた場所にあり、極楽を表しています。ここでは、教えの実践者が転生に備えて仏教の教えについて瞑想します。この遊歩道は分岐していて、うち 1 つは、最も奥にある奥の院（納経堂と大仏殿）につながっています。納経堂には歴史的な仏である釈迦牟尼と、豊富な宝の仏である多宝如来の像が祀られています。これらの像は、僧侶円仁が中国で仏教を学んだ後に、中国から持ち帰ったと言われています。隣の大仏殿の中には高さ 4.8 メートルの金仏像、阿弥陀如来像が納められています。

もう一方の遊歩道は、慈覚大師円仁を祀る開山堂につながっています。その中には、創建者の木造の像が安置されており、僧侶が、朝晩、食べ物をお供えています。断崖絶壁に露出している赤い小さな建物が、納経堂です。納経堂は、修行中の僧侶が書き写した経典を納めるための場所です。狭い階段は、開山堂の上の絶壁に建てられた五大堂に続いています。五大堂からは、立石寺と眼下の溪谷を、何にも遮られずに眺めることができます。

【タイトル】宝珠山立石寺 / 姥堂

【想定媒体】 web

<簡体字>**夺衣婆与姥堂**

在佛教中，死者必须渡过位于今世与来世交界处的三途川。可怕的守望者夺衣婆守在河边，强迫即将进入来世的人褪去衣物。然后，与夺衣婆作伴的魔鬼悬衣翁会将衣物挂上树枝，以称量死者的罪孽。

在通往山寺顶端的石路上，有一座名为“姥堂”的小型殿堂，里面就供奉着引人注目的夺衣婆像。姥堂象征着天国与地狱的交界。过去，信徒会在此脱去衣物，清洁身体，象征性地从一条山下流下的小溪中取水来净化他们的心灵。他们会将自己的衣物献给夺衣婆，然后换上新装，继续向山上前进。据说，他们每走一步，世俗的罪孽和欲望就会减少一分。

<繁体字>**奪衣婆與姥堂**

在佛教信仰中，人們相信死者必須渡過位於今世與來世交界處的三途川。令人心生畏懼的看管者奪衣婆守在河邊，強行從即將進入來世的人們身上奪走衣物，然後將奪來的衣物交給夥伴懸衣翁，懸衣翁接著會將衣物掛在樹枝上，以衡量死者的罪孽。

通往山寺頂端的石路上，有一座名為「姥堂」的小型殿堂，當中就供奉著引人注目的奪衣婆像。姥堂象徵著天界與地獄的交界。信徒過去會脫去衣物，並自山上往下流的小溪中取水洗淨身體，代表心靈得到淨化。他們會將自己的衣物獻給奪衣婆，然後換上新裝，繼續往山上前進。據說，他們每走一步，世俗的罪孽和欲望就會減少一分。

<日本語仮訳>**奪衣婆と姥堂**

仏教では、亡くなった人は、この世とあの世の境界線である三途の川を渡らなければなりません。川辺では恐ろしい奪衣婆が見張っていて、あの世へと渡る者の衣服を剥ぎ取ります。奪衣婆の仲間の鬼、懸衣翁が衣服を木に掛け、その者の罪の重さを計ります。

山寺へ続く石造りの道沿いにある姥堂には、印象的な奪衣婆像が安置されています。この堂は、上にある極楽と下にある地獄の間の象徴的な入口です。過去には、信者は服を脱ぎ、魂浄化の象徴として、山から滴り落ちてくる小川の水で身体を洗いました。彼らは服を奪衣婆に捧げ、新しい服に着替えて上へ進みました。一步上るごとに、世俗的罪と欲望がそぎ落とされていくと言われています。

【タイトル】宝珠山立石寺 / せみ塚

【想定媒体】 web

<簡体字>**蝉冢**

1689年，著名俳句诗人松尾芭蕉(1644–1694)从江户(今东京)出发，展开了为期156天的旅程，途经日本东北地区和北陆地区。松尾芭蕉与他的弟子河合曾良(1649–1710)一起步行完成了大部分路程。两人追随芭蕉敬仰的诗人西行(1118–1190)的足迹，游历了西行和其他诗人的古诗中描述的许多地方。根据这段旅程，芭蕉创作了融合诗歌与散文的游记《奥之细道》(深入北方的小路)。

当芭蕉和曾良在附近的尾花泽下榻时，当地居民推荐他们游览山寺，于是，二人于阴历七月十三日来到此地。当看到建于丛林间美丽宁静的山寺建筑群，芭蕉灵感迸发，创作出俳句《蝉》：

万籁俱寂，蝉声渗石

为纪念这首俳句，人们在通往山寺上端的途中竖立起一块蝉冢石碑。多年来，许多诗人曾前来凭吊，包括当地著名诗人、散文家斋藤茂吉(1882–1953)。

<繁体字>**蟬塚**

西元1689年，知名的俳句詩人松尾芭蕉(西元1644-1694)從江戶(今東京)出發，在日本東北和北陸地區展開156天的旅程。松尾芭蕉與他的弟子河合曾良(西元1649-1710)一起行走完了大部分路程。兩人跟隨芭蕉敬仰的詩人西行(西元1118-1190)的腳步，遊歷了許多因西行和其他詩人在詩中描繪而名氣響亮的地點。芭蕉以該次旅程為題材，創作出集結詩歌與散文的遊記《奧之細道》(深入北方的狹窄道路)。

芭蕉和曾良在附近的尾花澤市下榻時，當地居民推薦他們遊覽山寺，兩人於是在陰曆7月13日來到此地。當看到建於森林間的山寺建築群莊嚴美麗、寧靜祥和的氛圍後，芭蕉為之觸動，因而創作出俳句《蟬》：

山林幽靜，蟬聲滲入岩石裡

為紀念這首俳句，人們在通往山寺頂端的路上立了一座名為「蟬塚」的石碑。多年來，許多詩人都曾前來致敬，包括既是當地著名詩人，也是散文家的齋藤茂吉（西元 1882–1953）。

<日本語仮訳>

せみ塚

有名な俳人、松尾芭蕉（1644～1694 年）は、1689 年、江戸（現在の東京）から日本の北東北・北陸地方まで、156 日間の旅をしました。芭蕉は、弟子の河合曾良（1649～1710 年）とともに、ほとんどの道のりを歩いて旅しました。2 人は、芭蕉がとても尊敬していた詩人、西行（1118 年～1190 年）の足跡をたどり、西行などが詠んだ数々の場所を訪れました。2 人の旅は、詩と散文を織り交ぜた旅行記であるおくのほそ道の題材となりました。

芭蕉と曾良は滞在していた近隣の町、尾花沢の住民に勧められ、太陰暦 7 月 13 日に山寺を訪れました。芭蕉は盛りに包まれた山中の境内で、その静けさと美しさに感銘を受け、蟬の俳句を詠みました。

閑さや Such stillness—（なんという閑さか）
岩にしみ入る The cries of the cicadas（蟬の声が）
蟬の声 Sinks into the rocks（岩にしみ入っていく）

（ドナルド・キーン訳）

せみ塚の石碑は、山寺の上層部へと続く道沿いに立っています。長年の間に、数多くの詩人が敬意を表して訪れており、有名な地元の詩人であり、随筆家でもある齋藤茂吉（1882 年～1953 年）もその 1 人です。

【タイトル】宝珠山立石寺 / 開山堂

【想定媒体】 web

<簡体字>

纳经堂与开山堂

纳经堂

纳经堂是一座小巧的红色经堂，坐落在山寺建筑群上端的悬崖之上。据说，山寺创始人圆仁和尚 (794-864) 的遗体安息在其下方一具曾镶有黄金的棺槨中。僧侣在山寺修行期间必须抄写佛经，期间可长达四年；僧侣会将抄写完成的经文庄严地放入纳经堂，作为献给圆仁和尚的贡品。纳经堂原建筑于 1987 年修复，被山形县指定为重要文化财产，是山寺最具代表性的景色之一。

开山堂

开山堂位于纳经堂旁，供奉着山寺创始人的木制雕像。每日早晚，僧侣都会向这座雕像进贡食物并上香。开山堂每年仅在圆仁和尚的忌日 (1 月 14 日) 当天开放。在这一天，人们会举行佛教纪念仪式来缅怀他。现存开山堂建筑可追溯至 19 世纪中期。

<繁体字>

納經堂與開山堂

納經堂

納經堂是一座小巧的紅色經堂，坐落在山寺建築群頂端的懸崖之上，據說，山寺建立者圓仁和尚 (西元 794-864) 的遺體安放在下方一具過去外層為黃金的棺材中。僧侶們在山寺修行期間必須抄寫佛經，過程可長達 4 年。經文抄寫完畢後，僧侶們會依照儀式將其納入納經堂，作為獻給圓仁和尚的奉納品 (祭祀品)。納經堂的原建築於西元 1987 年修復，並被列為縣指定重要文化財，是山寺最具代表性的景色之一。

開山堂

納經堂旁為「開山堂」，現存的建築寺可追溯至 19 世紀中期，裡頭供奉著山寺建立者的木造雕像。僧侶每天早晚都會向這尊雕像進貢食物和上香。開山堂每年僅在 1 月 14 日，即圓仁和尚的忌日開放，當天人們將舉行佛教法會緬懷他。

<日本語仮訳>

納経堂と開山堂

納経堂

山寺の断崖絶壁の上に建つ小さな赤い建物、納経堂の下には、山寺の創建者である慈覚大師円仁（794～864年）の遺骸が、かつて黄金に包まれていた棺に納められていると言われています。山寺では、修行の一環として僧侶が経典を書き写します。この写経の工程は長く、最長で4年を要します。この作業が終わると、写経は円仁への奉納品として納経堂に納められます。本来の建物は、1987年に修理されています。県指定重要文化財に指定されており、山寺の最も象徴的な建築物の1つです。

開山堂

開山堂は、納経堂の隣にある建物です。御堂には慈覚大師円仁の木造の尊像が安置されており、朝夕、食べ物と香が絶やさず供えられています。開山堂は、慈覚大師円仁の命日にあたる1月14日だけ、法要のために開かれます。この日には、慈覚大師円仁の慰霊祭が行われます。今日の御堂は、1800年代中期にまで遡ります。

001-017

山寺観光資源等多言語化・インバウンド推進協議会

【タイトル】宝珠山立石寺 / 五大堂

【想定媒体】 web

<簡体字>

五大堂

五大堂位于山寺上端，伫立在悬崖边。殿内供奉“五大明王”，即五位令人生畏的佛教信仰守护神。

在五大堂可俯瞰整个山寺建筑群，且远从山下的山寺站就可以望见。殿堂采用架空结构，从悬崖边露出。游客必须经由一条毫不起眼的狭窄石梯才能登上此处，石梯的下端则是用于纪念山寺创始人的开山堂。从五大堂望去，可将整个寺庙建筑群和下方的山谷尽收眼底。

<繁体字>

五大堂

五大堂位於山寺頂端，佇立在懸崖邊。寺內供奉「五大明王」，即佛教信仰中五位令人生畏的守護神。

在五大堂可俯瞰整座山寺建築群，而且地勢之高，遠從山下的山寺車站就可望見。殿堂建於支柱並矗立在懸崖之上。若要登上此處，必須先從紀念山寺建立者的開山堂出發，攀爬一條不起眼的狹窄石梯。從五大堂望去，可將整座山寺建築群和下方的山谷美景盡收眼底。

<日本語仮訳>

五大堂

五大堂は山寺の上層部の断崖に立っています。この堂には、仏教信仰の恐ろしい守護神・五大明王（5人の賢い王）が祀られています。

五大堂からは境内全体を見渡すことができ、五大堂そのものは遥かふもとの山寺駅からも見えます。五大堂は支柱の上に建っており、断崖に突き出しています。山寺の創設者に捧げて建てられた開山堂から、目

立たない石造りの狭い階段を上ると、この堂にたどり着きます。五大堂からは、立石寺と眼下の溪谷を遮られることなく眺めることができます。

【タイトル】宝珠山立石寺 / 弥陀洞

【想定媒体】 web

<簡体字>

弥陀洞

在通往山寺上端的途中，有一块饱经风霜的巨大岩壁，名为弥陀洞。数百年间，风雨使岩壁的形态不断改变，形成的样貌仿佛一尊高 4.8 米的天佛阿弥陀佛像。据说能看出这种关联的游客会得到阿弥陀佛的庇护。

阿弥陀佛像下方的岩壁上刻有诸多牌位，一些名为“后生车”的木制冥器倚靠在岩壁底部。后生车上刻有死者的法名，并有一个可旋转的祈祷轮。轮上书写着佛经，滚动祈祷轮便象征着诵经。

<繁体字>

彌陀洞

彌陀洞坐落於通往山寺頂端的路上，是一座久經風化的巨大岩壁。數百年間在大自然雕刻下，歷經風雪侵蝕的岩壁讓人聯想到高 4.8 公尺的阿彌陀佛如來像。據說若能看出兩者的相似性，就會得到阿彌陀佛如來的加持。

彷彿阿彌陀佛如來的岩壁表面刻有諸多牌位，名為「後生車」的木製冥器則倚在底部。後生車刻有死者的法號，上端有一處可旋轉並寫有佛經的祈禱輪，轉動輪子便象徵著為死者誦經。

<日本語仮訳>

弥陀洞

弥陀洞は、山寺の上層部へと続く道沿いにある、風化した巨大な岩面です。何世紀もかけて風雪に削られ風化した岩の表面が、高さ 4.8 メートルの阿弥陀如来の姿を思わせます。阿弥陀如来の姿に見える人には、ご利益があると言われています。

阿弥陀如来の姿の岩肌にはいくつもの位牌が刻まれており、後生車と呼ばれる木製の位牌が岩肌の下に立てかけられています。後生車には、亡くなった人の戒名が刻まれており、回転する祈りのための車が付いています。車には経が書かれており、これを回すと経をあげることに相当するとされています。

【タイトル】宝珠山立石寺 / 仁王門

【想定媒体】 web

<簡体字>**仁王門**

穿过仁王門后，游客要忍受两侧仁王护法如炬的目光。右侧的那罗延张着嘴，仿佛在发“啊”的音，左侧的密迹则闭着嘴，好像在发“嗯”的音。这两个音节是梵文字母表中第一个和最后一个字母的日语读法，象征着万物的生与死。大門内有一尊地獄之王閻魔王像和九位判官的雕像，仿佛要审判所有来者。

仁王門是山寺建築群登頂之路的中間點，它於 1848 年使用榿木重新建成，是山寺最新的建築之一。據說，仁王像是當時最著名的佛教雕塑家之一，運慶 (1150–1223) 的弟子之作。

<繁体字>**仁王門**

穿過仁王門後，兩側目光如炬的仁王像也許會讓人不寒而慄。右側的那羅延張著嘴，彷彿在發出「啊」的聲音，左側的密迹閉著嘴則像「嗯」，兩個音節是梵文字母表中第一個和最後一個字母的日語讀法，象徵著萬物的生與死。大門內則有一尊地獄之王閻羅王像，以及九位判官的雕像，彷彿要審判所有前來此處的人們。

仁王門是山寺建築群登頂之路的中間點，於西元 1848 年以榿木木材重建，是山寺最新的建築之一。據說，仁王像是運慶則是當時最著名的佛像雕塑師之一，運慶（西元 1150–1223）的弟子之作。

<日本語仮訳>**仁王門**

仁王門を通る参拝者は、門の両脇を守る恐ろしい仁王の厳めしい睨みに耐えなければなりません。右側的那羅延は、あ、と声を上げるように口を開いており、左側の密迹はうんと言うように口を閉じています。これらの 2 つの音節は、サンスクリット語のアルファベットの最初と最後の文字の日本語読みであり、2 つを合わ

せて全てのものの生と死を象徴しています。門の中には、通る者すべてを裁くかのように、地獄の王である閻魔大王の像と9人の裁判官が立っています。

仁王門は、山寺の境内の一番上までの中間地点です。1848年にケヤキ材を使って再建されており、この寺の最も新しい建築物の1つです。仁王像は、当時最も名高い仏師の1人であった運慶（1150年～1223年）の弟子の作品と考えられています。

001-020

山寺観光資源等多言語化・インバウンド推進協議会

【タイトル】宝珠山立石寺 / 胎内くぐり

【想定媒体】 web

<簡体字>

胎内潜与胎内堂

胎内堂是一座小型单层建筑，建在山寺建筑群上端的一处悬崖边。过去，僧侣们为了到达这座建筑，会穿过悬挂在岩石缝隙中的古老水平木梯，然后爬过一个名为胎内潜的狭窄石洞。胎内的字面意思为“子宫”，人们认为，穿过这个石洞象征着灵魂重生。

胎内堂曾用于冥想和苦行，现供奉着众生救世主地藏菩萨的六尊佛像，不对公众开放。

<繁体字>

胎内潛與胎内堂

胎内堂是一座小型單層建築，建在山寺建築群頂端的一處懸崖邊。僧侶們過去須由架在岩縫上的古老水平木梯通過，然後爬過名為「胎内潛」的狹窄石洞才能抵達。「胎内」在日文指的是「子宮」，如同字面上的意思，人們認為穿過石洞象徵著靈魂重生。

胎内堂過去用於冥想和其他苦行，現在供奉著六尊眾生的救世主地藏菩薩佛像，不過此處並無對外開放。

<日本語仮訳>

胎内くぐりと胎内堂

胎内堂は、山寺の上層部の崖の斜面に建てられた、小さな平屋建ての建物です。僧侶は、岩の割れ目に架けられた古びた水平な木製の梯子を渡り、胎内くぐりと呼ばれる狭い石の洞窟を這って、この堂まで行きます。胎内とは、文字通り「子宮」を意味します。この洞窟を通り抜けることは、魂が再生することの象徴と考えられています。

この堂には、生きとし生けるものの救い主である菩薩地藏の像が6体安置されており、かつては瞑想と苦行に使われていました。一般公開されていません。

001-021

山寺観光資源等多言語化・インバウンド推進協議会

【タイトル】宝珠山立石寺 / 東宮行啓記念殿

【想定媒体】 web

<簡体字>

东宫行启纪念殿 (Web)

1908年9月18日，后来成为大正天皇的嘉仁皇太子（1879–1926）造访山寺。皇室大驾光临使山寺一跃成为日本全国闻名的旅游胜地，亦被认为是山寺在1932年被列入日本国家指定名胜一事上不可或缺的原因。这座建筑位于寺庙群上端，原是供皇太子在游览期间休息，现被称为东宫行启纪念殿。

<繁体字>

東宮行啟紀念殿 (Web)

西元1908年9月18日，後來成為大正天皇的嘉仁皇太子（西元1879 - 1926）造訪山寺。皇室的大駕光臨，使得山寺一躍成為日本全國知名的旅遊勝地，亦被認為是山寺在1932年被列入日本國家指定名勝一事上不可或缺的因素。東宮行啟紀念殿位於寺院群頂端，原是皇太子在遊覽期間休息用的場所。

<日本語仮訳>

東宮行啓記念殿

1908年9月18日に大正天皇（1879年～1926年）、または当時の名で嘉仁皇太子が、山寺を訪問されました。皇太子の訪問により、観光地としての山寺の全国的知名度は一気に高まりました。またこの訪問は、1932年に山寺が日本国指定名勝に指定されるに至った不可欠な要因であると考えられています。皇太子が滞在中に休憩に使用するための建物が寺の境内の上層部に建設され、現在は東宮行啓記念殿として知られています。

【タイトル】立谷川河川公園 / 二代目鍋太郎

【想定媒体】看板

<簡体字>**锅太郎和山形县芋煮会 (Sign)**

在秋风瑟瑟的时节，许多山形县的人会吃碗热气腾腾的芋煮来暖身。顾名思义，这碗汤的主要材料是芋头（“里芋”），以炖煮的方式烹制而成。这道菜起源于江户时代（1603–1867），船夫们会在当时为运输货物的重要水道的最上川河岸边煮芋头和鳕鱼干。

从那时起，这道菜的做法不断变化，还出现了许多种地方版本，但通常都是以酱油为底，配以芋头、蒟蒻（魔芋）、大葱和牛肉。在河边举行的芋煮派对（芋煮会）已成为例行的秋季活动，自1989年以来规模最盛大的芋煮会便是在山形县举行。这场盛会每年9月在马见崎川两岸展开，承办组织会准备足足3万份芋煮。由于一次需要烹煮大量食材，人们会使用数吨重的大锅“锅太郎”。待食材煮熟后，不使用汤勺，而是用挖掘机将汤倒入较小的锅中。2018年，在第30届芋煮会期间，以8小时内一共提供了12,695份芋煮的壮举被纳入吉尼斯世界纪录。

多年来，锅太郎已经传承了好几代。第二代锅太郎高1.6米，直径6米，重达3.2吨，曾在1993年至2018年的芋煮会上使用。它现在被安置在山寺附近的立谷川河岸。

<繁体字>**鍋太郎和山形縣芋煮會 (Sign)**

在秋季天氣較為寒冷的時候，許多山形縣的人會吃一碗熱騰騰的芋煮來暖身。顧名思義，這碗湯是以芋頭（「里芋」）為主要材料，然後再加以燉煮的料理，歷史則可追溯到江戶時代（西元1603 - 1867），當時最上川是用於運輸貨物的重要水道，船夫們則會在河岸烹煮芋頭和鱈魚乾。

從那時起，芋煮的做法不斷變化，還出現許多各地方獨有的版本，不過一般都是以醬油為底，放入芋頭、蒟蒻、蔥和牛肉等材料，在河邊舉行的芋煮會則已成為例行的秋季活動。自西元1989年以來，山形縣便一直舉辦日本規模最盛大的芋煮會，每年9月在馬見崎川的河岸邊舉行，承辦單位會準備足足3萬份芋煮。由於需要一次烹煮大量食材，人們會使用數公噸重的大鍋「鍋太郎」。料理完成後並非使用湯勺，而是用挖土機將湯倒入較小的鍋中。西

元 2018 年舉辦第 30 屆芋煮會時，以 8 小時內共提供 12,695 份芋煮，獲得金氏世界紀錄認證。

多年下來，鍋太郎已歷經多「代」更迭，其中第二代鍋太郎高 1.6 公尺，直徑 6 公尺，重達 3.2 公噸，在西元 1993 年至 2018 年期間用於芋煮會活動，現在則安置於山寺附近的立谷川河岸。

<日本語仮訳>

鍋太郎と山形県芋煮会（看板）

寒い秋の時期、山形の人々は温かい芋煮で身体を温めます。このスープの名前は、サトイモというその主な材料と、煮るという調理法からくる名前です。芋煮は江戸時代（1603～1867 年）にまで遡り、商品を運搬するための重要な水路であった最上川の河原で、船頭たちがサトイモと棒鱈を煮ていたことが発祥といわれています。

以来、芋煮は進化し、さまざまな種類が存在します。しかし、一般的には、サトイモに加え、こんにゃく、長ネギ、牛肉を使用したしょうゆベースのスープです。芋煮会という河原で行われる芋煮パーティーは、定番の秋の行事になっており、山形では、1989 年以降、日本最大の芋煮会が開催されています。9 月になると、馬見ヶ崎川の河川敷で、3 万食の芋煮が用意されます。大規模な調理を行うため、「鍋太郎」と呼ばれる巨大な数トン用鍋が使用されます。調理が終わると、おたまの代わりにバックホーを使って小さめの鍋に注ぎ分けられます。

これまでに、数世代の鍋太郎が活躍しています。二代目鍋太郎は、高さ 1.6 メートル、直径 6 メートル、重さ 3.2 トンで、1993 年から 2018 年の芋煮会で使用されてきました。現在は、ここ山寺付近の立谷川河川敷治いに設置されています。2018 年の「第 30 回 日本一の芋煮会フェスティバル」ではギネス世界記録を達成し、「8 時間で最も多く提供されたスープ」として 12,695 人前が提供されました。

【タイトル】立谷川河川公園 / 二代目鍋太郎

【想定媒体】web

<簡体字>

锅太郎和山形县芋煮会 (Web)

在秋风瑟瑟的时节，山形县的许多人会以一碗热气腾腾的芋煮来暖身。“芋煮”这一名称的第一个字代表主要原料芋头，第二个字代表烹饪方式“炖煮”。这道菜起源于江户时代(1603–1867)，当时人们经由最上川从山形向日本其他地区运输货物，船夫们会在这条重要水道的河岸上煮芋头和鳕鱼干。

数百年来，这道菜的做法不断变化，还出现了许多种地方版本，但通常都是以酱油为底，配以芋头、蒟蒻（即魔芋，一种由山地薯芋类作物制成的胶质食物，口感紧实）、大葱和牛肉。在河边举行的芋煮派对（芋煮会）已成为例行的秋季活动，自1989年以来规模最盛大的芋煮会便是在山形县举行。这场盛会每年9月在马见崎川两岸开展，承办组织会准备足足3万份芋煮。以前的芋煮会使用的食材包括：

- 3 吨芋头
- 1.2 吨牛肉
- 3500 片蒟蒻
- 3500 根大葱
- 200 公斤砂糖
- 5 吨水
- 700 升酱油
- 63 升清酒

由于一次需要烹煮大量食材，人们会使用数吨重的大锅“锅太郎”。待食材炖煮超过三小时后，不使用汤勺，而是用挖掘机将汤倒入较小的锅中。2018年，在第30届芋煮会期间，以8小时内一共提供了12,695份芋煮的壮举被纳入吉尼斯世界纪录。

多年来，锅太郎已经传承了好几代。第二代锅太郎高1.6米、直径6米，重达3.2吨，曾在1993年至2018年的芋煮会上使用。它现在被安置在山寺附近的立谷川河岸。

<繁体字>

鍋太郎和山形縣芋煮會 (Web)

在秋季天氣較為寒冷的時候，許多山形縣的人會吃一碗熱騰騰的芋煮來暖身。顧名思義，「芋煮」名稱第一個字是代表主要原料的「里芋」（芋頭），第二個字則為「燉煮」的烹調方式。這道料理的歷史可追溯到江戶時代（西元 1603 - 1867），當時人們利用最上川將貨物從山形運至日本各地，船夫們會在這條主要水道的河岸邊烹煮芋頭和鱈魚乾。

數百年來，這道料理的做法不斷變化，還出現各地方獨有的版本，不過一般都以醬油為底，然後加入芋頭、蒟蒻、大蔥和牛肉等食材。至於在河邊舉行的芋煮會已成為例行的秋季活動，承辦單位會準備足足 3 萬份芋煮。以前的芋煮使用的食材包括：

- 3 公噸的芋頭
- 1.2 公噸的牛肉
- 3,500 片蒟蒻
- 3,500 根大蔥
- 200 公斤的砂糖
- 5 公噸的水
- 700 公升的醬油
- 63 公升的清酒

由於需要一次烹煮大量食材，人們會使用數公噸重的「鍋太郎」。料理完成後並非使用湯勺，而是用挖土機將湯倒入較小的鍋中。

多年下來，鍋太郎已歷經多「代」更迭，其中第二代鍋太郎高 1.6 公尺，直徑 6 公尺，重達 3.2 公噸，用於西元 1993 年至 2018 年期間的芋煮會，現在則安置於山寺附近的立谷川河岸。西元 2018 年舉辦第 30 屆芋煮會時，以 8 小時內共提供 12,695 份芋煮，獲得金氏世界紀錄認證。

<日本語仮訳>

鍋太郎と山形県芋煮会 (ウェブ)

寒い秋の時期、山形の人々は温かい芋煮で身体を温めます。このスープの名前は、サトイモというその主な材料と、肉を煮るという調理法の組み合わせです。芋煮は江戸時代（1603～1867年）にまで遡

り、山形からほかの地域へ商品を運搬するために使用されていた最上川の河原で、船頭たちがサトイモと棒鱈を煮ていたことが発祥といわれています。

数世紀にわたり、芋煮は進化を遂げ、地域により色々な種類が存在します。基本的には、こんにゃく、長ネギ、牛肉、サトイモが入ったしょうゆベースのスープです。芋煮会という河原で行われる芋煮パーティーは、定番の秋の行事になっており、山形では、1989年以降、日本最大の芋煮会が開催されています。9月になると、馬見ヶ崎川の河川敷で、3万食の芋煮が用意されます。前の芋煮会で使用された具材は次の通りです。

- サトイモ 3トン
- 牛肉 1.2トン
- こんにゃく 3,500枚
- 長ネギ 3,500本
- 砂糖 200キロ
- 水 5トン
- しょうゆ 700リットル
- 酒 63リットル

大規模な調理を行うため、「鍋太郎」と呼ばれる巨大な数トン用鍋が使用されます。3時間以上の調理が終わると、おたまの代わりにバックホーを使って小さめの鍋に注ぎ分けられます。

これまでに、数世代の鍋太郎が活躍しています。二代目鍋太郎は、高さ1.6メートル、直径6メートル、重さ3.2トンで、1993年から2018年の芋煮会で使用されてきました。現在は、山寺付近の立谷川河川敷沿いに設置されています。2018年の「第30回 日本一の芋煮会フェスティバル」ではギネス世界記録を達成し、「8時間で最も多く提供されたスープ」として12,695人前が提供されました。

001-023

山寺観光資源等多言語化・インバウンド推進協議会

【タイトル】宝珠山立石寺 / 山寺の四季（春）

【想定媒体】 web

<簡体字>

山寺の四季 - 春季 (Web)

随着山上深厚的积雪开始融化，山寺四周的丛林中也开始慢慢显现绿意，焕发生机。星星点点的樱花树通常在4月中下旬开花，到了6月，春天接近尾声，五颜六色的绣球花装点着寺庙群。在这个季节，山寺天气温和舒适，徒步游览寺庙惬意无比。

山寺在春季有多场活动，其中两场对公众开放：圆仁祭和山王祭。圆仁祭于每年4月14日举行，庆祝山寺创始人圆仁和尚（794-864）的诞辰。当天，游客可以在山寺本堂根本中堂参加悼念仪式。山王祭于每年5月17日举行。伴随着传统音乐，人们将三顶神舆（可移动的神龕）从日枝神社抬到寺庙群下的街道上。

<繁体字>

山寺的四季 - 春季 (Web)

隨著山上深厚的積雪開始融化，山寺樹木蔥鬱的山坡也開始慢慢展現綠意與生機。遍布各處的櫻花樹通常在4月中下旬開花，到了6月春季接近尾聲時，寺院群境內開滿繡球花，將此處妝點得五顏六色。此時的天氣溫和舒適，漫步走在寺院間非常愜意舒適。

山寺在春季期間會舉辦多場活動，其中圓仁祭和山王祭對外開放。圓仁祭於4月14日舉行，紀念建立山寺的圓仁和尚（西元794 - 864）誕辰。在祭典期間，遊客可以前往山寺本堂，參加在根本中堂中舉行的法會。至於山王祭則在5月17日舉行。人們會伴隨著傳統音樂，抬著三座「神輿」（可移動的神龕）從日枝神社到位於寺院群下方的街道。

<日本語仮訳>

山寺の四季 — 春 (ウェブ)

冬に降った山腹の深い雪が解け始めると、山寺の木々に覆われた斜面は新緑が目を出し、徐々に生き生きとしてきます。点在するサクラの木は、通常4月中旬から下旬にかけて開花し、春の終わりが近い6月になると、アジサイが境内を彩ります。穏やかな気候は、境内をハイキングするのに適しています。

山寺では複数の春の催しが行われ、そのうちの2つ円仁祭と山王祭は一般に公開されています。円仁祭は、山寺を建立した僧侶、円仁（794年～864年）の誕生日を祝って、4月14日に開催されます。祭りの最中は参拝者も、寺の本堂である根本中堂で行われる法要に参加することができます。山王祭は、5月17日に開催されます。3基の神輿が、伝統的な音楽に合わせて、日枝神社から寺下の道路へと運ばれます。

001-024

山寺観光資源等多言語化・インバウンド推進協議会

【タイトル】宝珠山立石寺 / 山寺の四季（夏）

【想定媒体】 web

<簡体字>

山寺の四季 - 夏季 (Web)

夏季，通往山寺奥之院的石道两旁绿树成荫，是避暑纳凉的理想环境。诗人松尾芭蕉（1644–1694）在他生平最后一部游记《奥之细道》（深入北方的小路）中以山寺上的蝉鸣声创作出一首著名诗歌，这种独特的蝉鸣声至今仍在林间回荡。山形县是日本最大的樱桃产地，在去往山寺的路上，游客可能会看到在路边兜售这种时令水果的店家。

磐司祭是山寺每年夏季最盛大的公共活动，旨在纪念传奇猎人磐司磐三郎（生卒年不详）的丰功伟绩。用于修建山寺的土地正是由他捐赠给山寺创始人圆仁和尚（794–864）。据传说，磐司在见过圆仁后，决定放弃在该地区狩猎。山上的动物们因此聚在二人面前高兴地跳舞。人们根据这则传说创作出在磐司祭当天表演的狮子踊（狮子舞）。

<繁体字>

山寺的四季 - 夏季 (Web)

到了夏季，通往山寺奥之院的石道兩旁綠樹成蔭，成為遠離酷熱、避暑納涼的理想環境。俳句詩人松尾芭蕉（西元 1644 - 1694）在他生平最後一部遊記作品《奧之細道》（深入北方的狹窄道路）中，描繪來到此處時蟬聲陣陣，現今仍可聽見獨特的鳴叫在林間迴盪。山形縣是日本最大的櫻桃產地，在前往山寺的途中，路邊店家可能有在販售這種時令水果。

磐司祭是山寺最盛大且對外開放的夏季活動，旨在紀念傳奇獵人磐司磐三郎（生卒年不詳）的豐功偉績，正是他將修建山寺的用地，捐贈給建立山寺的圓仁和尚（西元 794–864）。據傳磐司在見過圓仁和尚後，決定放棄在當地狩獵。山上的動物們因此聚在二人面前，快樂地跳起舞來。人們根據這則傳說創作出在磐司祭表演的「獅子踊」（獅子舞）。

<日本語仮訳>

山寺の四季 — 夏 (ウェブ)

夏になると、山寺の内宮に続く石造りの道沿いに生い茂った木々が、夏の厳しい暑さを遮ってくれます。詩人松尾芭蕉（1644年～1694年）が、彼の最後の作品である旅行記奥の細道で詠った蝉の声が、山腹に響きます。山形県はサクランボの生産量が日本一で、山寺に向かう道端でサクランボを販売している人を見かけることがあります。

山寺の夏の最大の一般公開イベントは磐司祭です。これは、寺を建立した僧侶円仁（794年～864年）に、山寺が立っている土地を寄付した伝説的狩人磐司磐三郎（生没年不詳）の功績を讃える祭りです。伝説では、磐司は円仁に出会った後に、この辺りでの狩りを止めたそうです。山の動物たちは2人の前に集まり、喜びに満ちて踊りました。磐司祭で披露される獅子踊りは、この時の様子を表すものです。

【タイトル】 宝珠山立石寺 / 山寺の四季（秋）

【想定媒体】 web

<簡体字>

山寺の四季 - 秋季 (Web)

山寺建筑群四周の森林中升起晨霧，萦绕于山间，树叶褪去夏季的绿意，开始换上火红色或金黄色的秋装。在前往寺庙的途中，游客们可以在沿途的店里买一碗芋煮（以芋头、大葱、茼蒿和牛肉制成）驱散寒意。凉爽的天气正适合登上五大堂的轻快旅程，将四周山谷间的秋叶美景尽收眼底。

在秋分那一周，位于山寺上端的奥之院会举行对公众开放的传统法事。在山寺修行的僧侣必须抄写《妙法莲华经》，过程极为漫长，可以长达四年才能完成。每逢闰年的11月28日，僧侣们会列队前往纳经堂，将抄写完成的经文献给山寺创始人圆仁（794-864）。

<繁体字>

山寺の四季 - 秋季 (Web)

山寺位於森林密布的山間，周圍升起晨霧，當樹葉褪去夏季的綠意，開始換上火紅色或金黃色的秋裝。在前往寺院途中，許多商店提供以芋頭、大葱、茼蒿和牛肉烹煮的芋煮，遊客們可以買用一碗熱湯來驅逐寒意。此時天氣涼爽，適合踩著輕快的腳步前往五大堂，將四周山谷間的秋葉美景盡收眼底。

在秋分當週，位於山寺頂端的奧之院會舉行傳統佛教法會，並且對外開放。此外，在山寺修行的僧侶必須抄寫《妙法蓮華經》，這段過程相當漫長，最久需要4年才能完成。每逢閏年11月28日，僧侶們會列隊前往納經堂，將抄寫完成的經文獻給建立山寺的圓仁和尚（西元794-864）。

<日本語仮訳>

山寺の四季 — 秋 (ウェブ)

木々に覆われた山寺の山から朝霧が立ち昇り、木の葉の色が夏の緑から、秋の燃えるような赤と黄金色に変わります。訪れる人々は、寺院への道沿いの店の温かい芋煮（里芋、ネギ、こんにゃく、牛肉が入った

醤油ベースのスープ) で身体を温めることができます。涼しい気候は五大堂まで急ぎ足で向かうのに適していて、ここからは溪谷の紅葉を眺めることができます。

秋分の週に山寺の上層部にある奥の院で行われる伝統的な仏教の法要には、一般参拝者も参加することができます。山寺で修行する僧侶たちは法華経を写経しなければなりません。これは時間のかかる作業で、完了までに4年間かかることもあります。うるう年の11月28日には、僧侶の行列が、山寺を建立した円仁(794年~864年)への捧げものとして、写し終えた教を納経堂に納める儀式を行います

001-026

山寺観光資源等多言語化・インバウンド推進協議会

【タイトル】宝珠山立石寺 / 山寺の四季（冬）

【想定媒体】 web

<簡体字>

山寺の四季 - 冬季 (Web)

山形县是日本豪雪地区之一。每到冬天，坐落在山坡上的山寺建筑群就仿佛披上了一张白色的毯子。游客必须穿着适当的衣物和鞋履，才能对抗严寒和厚厚的积雪。从靠近寺庙建筑群顶端的五大堂眺望，远处白雪皑皑的山峰仿佛一幅水墨画展现在天地之间。

日本有在1月初前往神社或寺庙进行新年参拜（初诣）的习俗，每年此时，山寺会迎来大批游客。1月14日是山寺创始人圆仁（794-864）的忌日，在这一天，山寺上端用于供奉圆仁的开山堂会敞开大门，并举行祭拜仪式来纪念圆仁。

<繁体字>

山寺的四季 - 冬季 (Web)

山形縣是日本豪雪地區之一。每到冬季，坐落於山形縣山坡上的山寺建築群好似披上白毯。為了在嚴寒天氣中穿越厚厚的積雪前往山寺，遊客應穿著適當的衣物和鞋子。從靠近寺院建築群頂端的五大堂眺望，遠處白雪覆蓋的山峰彷彿一幅水墨畫般展現在天地之間。

在1月初，日本有前往神社或寺院進行新年參拜（「初詣」）的習俗，每年此時山寺迎來大批遊客。1月14日則是圓仁和尚（西元794-864）的忌日，開山堂（位於山寺頂端，供奉圓仁和尚的寺院）屆時會敞開大門，並舉行法會儀式來紀念建立山寺的他。

<日本語仮訳>

山寺の四季 — 冬 (ウェブ)

山形は日本で最も積雪量の多い県の1つで、冬になると、山腹の寺は雪に覆われます。登山の際は、雪山に適した服装や靴を用意していきましょう。山寺上層部近くの五大堂までたどりつくことができれば、水墨画のような雪に覆われた山並みを遠くに見渡すことができます。

1月初頭には、山寺は初詣の人気スポットとなります。1月14日は、山寺を建立した円仁（794年～864年）の命日です。この日は、開山堂（寺の上層部にある、円仁を祀った堂）の扉が開かれ、円仁を讃えて法要が行われます。

【タイトル】 宝珠山立石寺 / 日枝神社

【想定媒体】 web

<簡体字>**日枝神社 (Web)**

日枝神社坐落在山寺建筑群的山脚下。人们为致敬天台宗总本山所在的灵山比睿山而修建了山寺，日枝神社也在此期间落成。神社供奉山王权现——山寺所在的宝珠山和比睿山的守护神。权现是佛教中的神灵（如佛陀和菩萨）在神道教中的化身（众神）。日枝神社印证了佛教与神道教在明治时代之前（1868–1912）的相互融合。神社前耸立着一棵树龄达千年的巨型银杏树，据说它是由山寺创始人圆仁（794–864）亲手种下。这棵树现在是天然纪念物。

日枝神社最出名的活动大概是每年5月17日举行的山王祭。节日当天，伴随着传统音乐，人们将三顶神舆（可移动的神龛）从日枝神社抬到寺庙群下方的街道上。在返回日枝神社前，抬神舆者会快速穿过街道，让活动达到高潮。与大多数活动不同，雨水对山王祭而言是一个吉兆。传说只要有三滴水落在神舆上，来年定会五谷丰登。山王祭已被指定为无形文化财产。

<繁体字>**日枝神社 (Web)**

日枝神社坐落在山寺建築群的山腳下。人們為致敬比睿山（天台宗總本山）而建立了山寺，日枝神社便是在此時期建立。神社內供奉山王權現，即山寺所在寶珠山和比睿山的守護神，權現是佛教中神靈（如佛陀和菩薩）在神道教中的化身（神祇）。供奉此神的日枝神社正好印證在明治時代（西元 1868 - 1912）以前，佛教與神道教融合的情形。神社前面聳立著一棵樹齡千年的巨大銀杏樹，據說由建立山寺的圓仁和尚（西元 794 - 864）親手種下，如今此樹已被列為天然紀念物。

說到日枝神社，最廣為人知的莫過於每年 5 月 17 日舉行的山王祭，並已獲指定為日本的無形文化財。祭典當天，人們會伴隨著傳統音樂，抬著三座「神輿」（可移動的神龕）從日枝神社到位於寺院群下方的街道。活動的最高潮是神輿轎手快速穿過街道，然後返回日枝神社。

與大多數的活動不同，雨水對山王祭而言是吉兆，傳說只要有三滴水落在神輿上，來年必定會豐收。

<日本語仮訳>

日枝神社（ウェブ）

日枝神社は、山腹の寺の境内のふもとにある神社です。日枝神社は、比叡山の天台宗総本山、比叡山に敬意を表して山寺が建立された際に建てられました。日枝神社は、山寺の比叡山と宝珠山の守護神である山王権現を祀っています。権現とは、神道神の姿で表される仏教神（仏陀や菩薩）の顕現で、これを祀る神社は、明治時代（1868～1912年）以前に存在していた神道と仏教の融合を思い出させるものです。神社の建物の手前には、山寺を建立した円仁（794年～864年）の手で植えられたとされる、樹齢1000年の巨大な銀杏の木がそびえ立っています。この木は、天然記念物です。

日枝神社はおそらく、5月17日に開催される山王祭で最も良く知られており、この祭りは、市の無形文化財に指定されています。山王祭では、3基の神輿が、伝統的な音楽に合わせて、日枝神社から寺下の道路へと運ばれます。神輿の担ぎ手が日枝神社に戻る前に通りを素早く走り抜け、祭りはクライマックスを迎えます。多くの催し物と違い、山王祭では雨が吉兆とされています。伝説によると、たった3滴でも雨が神輿にあたれば、翌年は豊作になるそうです。

地域番号	002	協議会名	熊谷市文化遺産保存事業実行委員会
------	-----	------	------------------

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
002-001	聖天堂	615	QR・パンフ
002-002	国宝・聖天堂	1010	WEB
002-003	貴惣門	700	看板・パンフ
002-004	意匠的な屋根を持つ貴惣門	675	WEB
002-005	四脚門	310	QR・WEB・パンフ
002-006	御正躰錫杖頭 (錫杖)	365	WEB・パンフ
002-007	紵絲斗帳	255	WEB・パンフ
002-008	鰐口	305	WEB・パンフ
002-009	鐘楼	320	QR・WEB・パンフ
002-010	閼伽井堂	235	WEB・パンフ
002-011	三宝荒神社と天満社	190	QR・WEB・パンフ
002-012	五社大明神	290	QR・WEB・パンフ
002-013	仁王門	240	QR・WEB・パンフ
002-014	平和の塔	170	WEB・パンフ
002-015	仁王像	225	WEB
002-016	斎藤別当実盛の像	600	QR・パンフ
002-017	斎藤別当実盛の像	690	WEB
002-018	夫婦の木	170	QR・WEB・パンフ
002-019	軍荼利明王	185	WEB・パンフ
002-020	二天王像	190	WEB
002-021	板石塔婆	410	QR・WEB・パンフ
002-022	坂田医院旧診療所	340	QR
002-023	坂田医院旧診療所	485	WEB
002-024	熊谷うちわ祭	910	QR・WEB
002-025	大師堂	390	WEB・パンフ
002-026	妻沼聖天山歓喜院	765	看板・パンフ
002-027	妻沼聖天山歓喜院	805	QR・WEB
002-028	精緻を極めた彫刻	855	WEB
002-029	聖天堂の彫刻：奥殿南面	510	看板
002-030	聖天堂の彫刻：奥殿西面	285	看板
002-031	聖天堂の彫刻：奥殿北面	430	看板
002-032	本坊本堂	310	WEB
002-033	熊谷うちわ祭の華やかな山車	365	QR・WEB
002-034	第壹本町区の山車	335	QR・WEB
002-035	第貳本町区の山車	305	QR・WEB
002-036	彌生町区の山車	210	QR・WEB

【タイトル】 聖天堂

【想定媒体】 アプリ QR コード・パンフレット

<簡体字>

圣天堂

国宝圣天堂是妻沼圣天山欢喜院的本殿（正殿），也是整座寺庙的精神力量核心所在。它的外壁装饰着用以教化普罗大众的雕刻，这些雕刻色彩斑斓，描绘着佛教教义、寓言故事、中国古典文化中的四艺以及神鸟瑞兽。圣天堂里供奉“圣天”——即大圣欢喜天，这是印度教象头神甘尼沙在佛教密宗里的名字，他是吉祥、夫妻和睦和长寿之神。

本殿由同一屋顶连接的三个殿阁组成：从前至后分别是拜殿、中殿和奥殿，这种建筑结构被称为“权现造”，建筑风格以华丽的雕刻为特色。建于 1635 年的栃木县日光东照宫（祭祀江户幕府初代将军德川家康的神社）就是权现造建筑中最著名的典范之一。圣天堂因其绚烂奢华的雕刻和建筑式样，经常被拿来与日光东照宫作比较，由此获得了“埼玉日光”的美誉。

奥殿位于本殿后方，其外壁上布满了精巧的雕刻，有动植物的曼妙姿态、儿童玩耍的场景、还有寓言故事的再现。层层叠叠的艳丽色彩和金箔贴面，令奥殿及其雕刻更为引人注目。日光东照宫的装饰由于受到殿阁制式限制，技法须分开使用，因此装饰比较分散，而圣天堂的奥殿则集中展现了各类装饰手法。

现在的圣天堂于 1735 至 1760 年间建成，筹建资金完全来自于当地社区的捐赠，这种民间集资对日本国宝级别的建筑来说十分罕见。2003 至 2010 年，人们对本殿及其雕刻进行了修复，使其绚丽重生。

圣天堂的开放时间为平日 10:00~15:30，周末和节假日 9:30~16:00。游客购买门票后就能绕到本殿后方，更近距离地欣赏这些巧夺天工的雕刻。

<繁体字>

聖天堂

國寶聖天堂是妻沼聖天山歡喜院的本殿（正殿），也是寺廟整體的精神支柱。本殿外壁裝飾著用來教化普羅大眾的雕刻，這些雕刻色彩斑斕，描繪著佛教教義、寓言故事、中國古典文化，以及各種神鳥瑞獸。聖天堂裡供奉著「聖天」，即大聖歡喜天，這是印度教象頭神甘尼沙在佛教密宗裡的名字，祂是吉祥、夫妻和睦和長壽之神。

本殿由同一屋頂連接的三個殿閣組成：從前至後分別是拜殿、中殿和奧殿，這種建築結構被稱為「權現造」，建築風格則以華麗的雕刻為特色。建於 1635 年的栃木縣日光東照

宮（祭祀江戸幕府初代將軍徳川家康の神社）就是權現造建築中最著名的典範之一。聖天堂因其絢爛奢華的雕刻和建築風格，經常被拿來與日光東照宮作比較，由此獲得了「埼玉日光」的美譽。

本殿後方的奧殿外壁上佈滿了精巧的雕刻，有動植物的曼妙姿態、兒童玩耍的場景、還有寓言故事的再現。層層疊疊的豔麗色彩和金箔貼面，令奧殿及其雕刻更為引人注目。日光東照宮的裝飾由於受到殿閣制式限制，技法須分開使用，因此裝飾比較分散，而聖天堂的奧殿則集中展現了各類裝飾手法。

聖天堂的現存建築於 1735 至 1760 年間建成，籌建資金完全來自地方上的捐獻，民間集資對日本國寶級建築來說十分罕見。2003 至 2010 年，人們對本殿及其雕刻進行了修復，使其絢麗重生。

聖天堂的開放時間為平日 10:00～15:30，週末和節假日 9:30～16:00。遊客購買門票後就能繞到本殿後方，更近距離地欣賞這些巧奪天工的雕刻。

<日本語仮訳>

聖天堂

国宝に指定されている聖天堂は、歡喜院の本殿であり、妻沼聖天山歡喜院の精神的支柱です。本殿の外壁には一般の方々の啓蒙を目的とした色鮮やかな彫刻が施されており、仏教の教えや寓話、古代中国の文化的「四芸」や縁起の良い動物が描かれています。本殿には、聖天が祀られています。聖天は歡喜天とも呼ばれ、ヒンドゥー教の神ガネーシャの仏教密宗版で、吉兆・夫婦円満・長寿の神です。

本殿は、前方にある拝殿と後方にある奥殿に加え、その間にある中殿の 3 殿が 1 つの屋根で繋がっています。この建築様式は「權現造り」として知られており、絢爛な彫刻が特徴としています。1635 年に建設された栃木県の日光東照宮（江戸幕府初代將軍・徳川家康を祀る神社）が、權現造りでもっとも有名な建築物の 1 つです。聖天堂は、その豪華な彫刻と建築様式から、日光東照宮と比較されることが多いため、「埼玉日光」とも称されています。

本殿後方にある奥殿の外壁には、動植物や子どもが遊ぶ様子、寓話に登場する場面を伝える細かな彫刻が施されています。鮮やかな色彩と金箔の層が、奥殿とその彫刻が放つ異彩をさらに引き立てます。日光では、本殿をはじめとする各建物の格式に応じて装飾技法を使い分けられているため、装飾が分散していますが、聖天堂の奥殿では、様々な装飾技法をまとめて観ることが可能です。

聖天堂は 1735 年から 1760 年の間に完成されており、地元の人々からの寄付金だけで賄われました。国宝級の建築物にあって、庶民の浄財のみで建てられたことは大変稀有なことです。尚、本殿とその彫刻は、2003 年から 2010 年に修復作業が行われています。

聖天堂の拝観時間は、平日 10:00～15:30、土日祝日 9:30～16:00 になります。少額の拝観料で、本殿奥の彫刻をより間近で見学することが可能です。

【タイトル】 国宝・聖天堂

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

国宝圣天堂

国宝圣天堂是妻沼圣天山欢喜院的本殿（正殿），也是其精神力量的核心所在。本殿的外壁装饰着用来教化普罗大众的雕刻，色彩斑斓。这些雕刻描绘着佛教教义、寓言故事、中国古典文化，以及神鸟瑞兽。圣天堂里供奉着“圣天”，即大圣欢喜天，这是印度教象头神甘尼沙在佛教密宗里的名字，他是吉祥、夫妻和睦和长寿之神。

极尽奢华的雕刻

圣天堂由同一屋顶链接的三个殿阁组成：从前至后分别是拜殿、中殿和奥殿，这种建筑结构被称为“权现造”，建筑风格以华丽的雕刻为特色。“权现”是日本佛教用语，指佛陀和菩萨化身的日本神祇，而权现造得名于日本天皇御赐德川家康(1542-1616)的谥号——“东照大权现”。德川家康在长达几个世纪的内战之后重新统一了日本，他建立的德川幕府从1603至1867年间统治着日本。他位于栃木县的华丽陵庙日光东照宫建于1635年，是权现造建筑中最著名的典范之一。圣天堂因其绚烂奢华的雕刻和建筑风格，经常被拿来与日光东照宫作比较，因此获得了“埼玉日光”的美誉。

丰富的色彩和细节

本殿圣天堂的屋顶山墙上镶嵌着彩色的雕刻，屋檐和门楣上装饰着狮子和老虎，还有神话传说中诸如神龙这样的动物。横梁上的雕刻描绘了中国古代文人的四项经典才艺：琴、棋、书、画。在日光东照宫的阳明门上也能找到类似的作品。

圣天堂后方的奥殿外壁上，同样布满了细致入微的木雕。层层叠叠的艳丽色彩和金箔贴面，令奥殿及其雕刻的外观更为引人注目。日光东照宫的装饰由于受到殿阁制式限制，技法须分开使用，因此装饰比较分散，而圣天堂的奥殿则集中展现了各类装饰手法。

工匠精神的宝贵遗存

本殿的建造和装饰始于后方的奥殿。随着工程进展到本殿的前部，也许是缺乏资金的缘故，装饰变得更为简单。来访者可在购买门票后进入本殿后方，更近距离地欣赏这些巧夺天工的雕刻作品。

自12世纪妻沼圣天山欢喜院建成以来，圣天堂已历经多次重建。目前的建筑于1735至1760年间建成，筹建资金完全来自于当地社区的捐赠，而民间集资于日本国宝级建筑十分罕见，按如今的货币价值计算，其成本约为20亿日元。木匠大师林正清(1678-1753)和其

子林正信(1736-1802)一起设计并监督了重建工作，后者在父亲去世后完成了这个项目。林氏家族是木匠世家，在江户时代(1603-1867)参与了许多著名神社、寺庙和陵墓的建设，其中包括日光东照宫的修缮。2003 至 2010 年，人们对圣天堂及其雕刻进行了修复，使其绚丽重生。

<繁体字>

國寶聖天堂

國寶聖天堂是妻沼聖天山歡喜院的本殿（正殿），也是整座寺廟的精神支柱。聖天堂外壁裝飾著用來教化普羅大眾的雕刻，色彩斑斕。這些雕刻描繪著佛教教義和寓言故事，以及中國古典文化、神鳥瑞獸。聖天堂裡供奉著「聖天」，即大聖歡喜天，這是印度教象頭神甘尼沙在佛教密宗裡的名字，他是吉祥、夫妻和睦和長壽之神。

極盡奢華的雕刻

本殿由同一屋頂連接的三個殿閣組成：從前至後分別是拜殿、中殿和奧殿，這種建築結構被稱為「權現造」，建築風格以華麗的雕刻為特色。「權現」是日本佛教用語，意為佛陀、菩薩化身的日本神祇，權現造則得名於「東照大權現」——日本天皇御賜德川家康（1542-1616）的諡號。德川家康結束了幾個世紀的內戰，重新統一了日本，他建立的德川幕府從 1603 至 1867 年間統治著日本。他華麗的陵廟日光東照宮位於栃木縣，建於 1635 年，是權現造建築中最著名的典範之一。聖天堂因其絢爛奢華的雕刻和建築風格，經常被拿來與日光東照宮作比較，也因此獲得了「埼玉日光」的美譽。

豐富的色彩和細節

本殿聖天堂的屋頂山牆上鑲嵌著彩色的雕刻，屋簷和門楣上裝飾著獅子和老虎，還有神話傳說中諸如神龍這樣的動物。橫樑上的雕刻描繪了中國古代文人的四項經典才藝：琴、棋、書、畫。在日光東照宮的陽明門上也能找到類似的作品。

聖天堂後方的奧殿外壁上，同樣佈滿了細緻入微的木雕。層層疊疊的豔麗色彩和金箔貼面，令奧殿及其雕刻的外觀更為引人注目。日光東照宮的裝飾由於受到殿閣制式限制，技法須分開使用，因此裝飾比較分散，而聖天堂的奧殿則集中展現了各類裝飾手法。

工匠精神的寶貴遺存

本殿的建造和裝飾始於後方的奧殿。隨著工程進展到本殿的前部，也許是缺乏資金的緣故，裝飾變得更為簡單。遊客可在購買門票後進入本殿後方，更近距離地欣賞這些巧奪天工的雕刻作品。

自 12 世紀妻沼聖天山歡喜院建成以來，聖天堂已歷經多次重建。目前的本殿於 1735 至 1760 年間建成，籌建資金完全來自地方上的捐獻，民間集資於日本國寶級建築十分罕見。換算成現在的幣值，其成本約為 20 億日圓。木匠大師林正清（1678-1753）和其子林正信（1736-1802）一起設計並監督了重建工作，後者在父親去世後完成了這個項目。林

氏家族は木匠世家、在江戸時代（1603-1867）參與了許多著名神社、寺廟和陵墓的修建工作，包括日光東照宮的修繕。2003 至 2010 年，本殿及其雕刻得到修復，聖天堂絢麗重生。

<日本語仮訳>

国宝・聖天堂

国宝に指定されている聖天堂は、歡喜院の本殿であり、妻沼聖天山歡喜院の精神的支柱です。本殿の外壁には、色鮮やかな彫刻が施されており、一般の方々の啓蒙を目的としたもので、仏教の教えや寓話、古代中国の文化的側面や縁起の良い動物が描かれています。本殿には、聖天が祀られています。聖天は歡喜天とも呼ばれますが、ヒンドゥー教の神ガネーシャの仏教密宗版であり、吉兆・夫婦円満・長寿の神です。

豪華な彫刻

本殿は、前方にある拝殿と後方にある奥殿に加え、その間にある中殿の 3 殿が 1 つの屋根で繋がっています。この建築様式は「権現造り」として知られており、絢爛な彫刻が特徴としています。「権現」は日本の仏教用語であり、仏・菩薩の垂迹として化身して現れた日本の神々を指します。権現造りは、天皇から徳川家康（1542-1616）に贈られた東照大権現という戒名がその名の由来です。徳川家康は、何百年も続いた内乱の後に日本を再度統一し、1603 年から 1867 年まで日本を統治した徳川将軍家の始祖です。1635 年に建設された栃木県の日光東照宮にある徳川家康の霊廟が、権現造りでもっとも有名なものの 1 つです。聖天堂は、その豪華な彫刻と建築様式で日光東照宮と比較されることが多いため、「埼玉日光」とも称されています。

ぜいたくな色彩と細部

本殿聖天堂の切妻屋根には色鮮やかな彫刻がはめ込まれ、軒やまぐさには獅子、虎、龍などの想像上の生き物の装飾が施されています。彫刻が施されたフリーズには、中国古来の文人がこなし「四芸」と呼ばれる絵、書、琴、囲碁が描かれています。日光東照宮の陽明門にも、同様の彫刻を見つけることができます。

聖天堂後方にある奥殿の外壁にも、細かな彫刻が施されています。鮮やかな色彩と金箔の層が、奥殿とその彫刻が放つ異彩をさらに引き立てます。日光では、各建物の格式に応じて装飾技法を使い分けられているため、装飾が分散していますが、聖天堂の奥殿では、様々な装飾技法をまとめて観ることが可能です。

職人技の遺産

本殿の建設と装飾は後方から始められました。作業が進むにつれ、資金が底をついていったためか、装飾は次第に地味になっていきます。少額の拝観料で、本殿奥の彫刻をより間近で見学することが可能です。

聖天堂は、妻沼聖天山歡喜院が 12 世紀に建てられて以来、数回にわたって再建されています。現在の本殿は 1735 年から 1760 年の間に完成されたもので、その資金は地元の人々からの寄付金だけで賄われました。国宝級の建築物にあつて、庶民の浄財のみで建てられたことは大変稀有なことです。その金額は、現在の価値でおよそ 20 億円でした。名工の林正清（1678-1753）が息子の正信（1736-1802）と共にその設計と監督を行い、正清の没後は息子の正信がこれを完成させました。林家は代々名工で、日光東照宮の改修を含め、江戸時代（1603-1867）にあらゆる有名な神社仏閣や霊廟を手がけています。本殿とその彫刻は、2003 年から 2010 年に修復作業が行われています。

【タイトル】 貴惣門

【想定媒体】 看板・パンフレット

<簡体字>

<看板（缩写）>

贵惣門

贵惣門是妻沼圣天山欢喜院的主要入口，外形巨大，装饰繁复，被指定为国家重要文化财产。它建于 1851 年，是寺院三座大门中的第一座。木门的高度超过 13 米，由八根柱子支撑，是埼玉县最大的寺门。它的两重屋檐从侧面看是三个重叠屋檐形成的“众”字形，这样的结构可以保护下面的木雕免受风雨侵扰。同样形式的门楼在全日本仅存数栋，但如此规模的绝无仅有。

屋檐和门楣上的雕刻栩栩如生：神龙乘风破浪，狮子与牡丹嬉戏，凤凰栖息于花丛，此外还有对琴棋书画的刻画。大门由当地社区捐款建成，捐赠者的名字都被刻在木雕之中的小木板上。

大门两侧各有一尊天王雕像，左边是守护东胜神洲的持国天王，右边则是守护北俱芦洲和佛法的多闻天王。

<小册子（原文）>

贵惣門

贵惣門（惣音“总”）是妻沼圣天山欢喜院的主要入口，外形巨大，装饰繁复，被指定为国家重要文化财产。它建于 1851 年，是来访者到达圣天堂之前通过的三座大门中的第一座。这座木门的高度超过 13 米，由八根柱子支撑，是埼玉县最大的寺门。它的两重屋檐很特别，下层有两个单独的并排屋檐，上层则是一个大屋檐，从侧面看，三个重叠的屋檐形成“众”字形，这种结构可以保护下面的木雕免受风雨侵扰。同样形式的门楼在全日本仅存数栋，同等规模则绝无仅有。

屋檐和门楣上的雕刻动感十足，神龙在波浪间穿梭翻腾，狮子在盛开的牡丹中嬉戏。与之形成对比的，是栖息在花丛中的凤凰，以及中国古典艺术中的琴棋书画，细致入微。贵惣門由当地社区捐款建成，捐赠者的名字都被刻在小木板上，置于木雕之中。

大门两侧各有一尊天王雕像，分别是佛教中守护四方部洲的四大天王之一。左边是守护东胜神洲的持国天王，右边则是守护北俱芦洲和佛法的多闻天王，也称毗沙门天。

<繁体字>

<看板（縮寫）>

貴惣門

貴惣門是妻沼聖天山歡喜院的主要入口，外形巨大，裝飾繁複，被指定為國家重要文化財產。它建於 1851 年，是寺院三座大門中的第一座。木門的高度超過 13 公尺，由八根柱子支撐，是埼玉縣最大的寺門。其兩重屋簷從側面看是三個呈「人」字形的重疊屋簷，保護著下面的木雕免受風雨侵擾。同樣形式的門樓在全日本僅存數棟，但如此規模的絕無僅有。

屋簷和門楣上的雕刻栩栩如生：神龍乘風破浪，獅子與牡丹嬉戲，鳳凰棲息於花叢，此外還有對琴棋書畫的刻畫。大門由地方上的捐獻建成，捐獻人的名字都被刻在木雕之中的小木板上。

大門兩側各有一尊天王雕像，左邊是守護東勝神洲的持國天王，右邊則是守護北俱蘆洲和佛法的多聞天王。

<小冊子（原文）>

貴惣門

貴惣門（惣音「總」）是妻沼聖天山歡喜院的主要入口，外形巨大，裝飾繁複，被指定為國家重要文化財產。其建於 1851 年，是參訪者到達聖天堂之前通過的三座大門中的第一座。這座木門的高度超過 13 公尺，由八根柱子支撐，是埼玉縣最大的寺門。它的兩重屋簷很特別，下層有兩個單獨的並排屋簷，上層則是一個大屋簷，從側面看，是三個呈「人」字形的重疊屋簷，這樣可以保護下面的木雕免受風雨侵擾。同樣形式的門樓在全日本僅存數棟，同等規模則絕無僅有。

屋簷和門楣上的雕刻動感十足，神龍在波浪間穿梭翻騰，獅子在盛開的牡丹中嬉戲。與之形成對比的，是棲息在花叢中的鳳凰，以及中國古典藝術中的琴棋書畫，細緻入微。貴惣門由地方上捐獻建成，捐獻人的名字都被刻在小木板上，置於木雕之中。

大門兩側各有一尊天王雕像，分別是佛教中守護四方部洲的四大天王之一。左邊是守護東勝神洲的持國天王，右邊則是守護北俱蘆洲和佛法的多聞天王，也稱毗沙門天。

<日本語仮訳>

貴惣門

<看板バージョン>

複雑な装飾が施され、重要文化財に指定された大きな貴惣門は、妻沼聖天山境内の入口の門です。1851年に建設され、3つある門のうち最初にぐるの門です。高さ13メートルを超えるこの木造の門は8本の柱で支えられており、寺院の門としては埼玉県内最大級の規模を誇ります。二層式の屋根は横から見ると3枚の切妻屋根が折り重なって、「众（中国語の「衆」）」という漢字の形を呈し

ており、その下にある彫刻を風雨から守っています。この様式は日本には数棟現存しますが、この規模では全国に類例がありません。

軒とまぐさには、波の間をくねくねと進む龍や牡丹の花々の中を跳ね回る獅子、花々の中の鳳凰や中国古来の琴棋書画などの彫刻がダイナミックに施されています。貴惣門は、地元の人々からの寄付をもとに建設されました。寄付者の氏名は、彫刻にはめ込まれた小さな絵馬に刻まれています。

門の両側には、天王の像が1体ずつ立っています。左側の像は、東勝神洲を守護する持国天。そして右側が、北俱盧洲と仏法を守護する多聞天です。

<パンフレットバージョン>

複雑な装飾が施され、重要文化財に指定された大きな貴惣門は、妻沼聖天山境内の入口の門です。1851年に建設され、本殿に続く3つある門のうち最初にくぐる門です。高さ13メートルを超えるこの木造の門は、8本の柱で支えられており、寺院の門としては埼玉県内最大級の規模を誇ります。二層式の屋根は特徴的なもので、下の層には独立した2枚の屋根があって、上の層には1枚大きな屋根があります。横から見ると、屋根全体が「众（中国語の「衆」）」という漢字の形を呈しており、その下にある彫刻を風雨から守っています。この様式は日本には数棟現存しますが、この規模では全国に類例がありません。

軒とまぐさには、波の間をくねくねと進む龍や牡丹の花々の中を跳ね回る獅子のダイナミックな彫刻が施されています。その様子は、花々の中の鳳凰や中国古来の琴棋書画の繊細な彫刻と対比されています。貴惣門は、地元の人々からの寄付をもとに建設されました。寄付者の氏名は、彫刻にはめ込まれた小さな絵馬に刻まれています。

門の両側には、四方を護るの四神、天王の像が1体ずつ立っています。左側の像は、東勝神洲を守護する持国天。そして右側が、北俱盧洲と仏法を守護する多聞天で、毘沙門天とも呼ばれます。

【タイトル】 意匠的な屋根を持つ貴惣門

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

屋檐奇特的贵惣門

贵惣門（惣音“总”）是妻沼圣天山欢喜院的主要入口，外形巨大，装饰繁复，被指定为国家重要文化财产。它建于1851年，是来访者到达本殿（正殿）圣天堂之前通过的三座大门中的第一座。这座木门的高度超过13米，由八根柱子支撑，是埼玉县最大的寺门。它的两重屋檐很特别，下层有两个单独的并排屋檐，上层则是一个大屋檐，从侧面看，三个重叠屋檐形成“众”字形，这样的结构可以保护下面的木雕免受风雨侵扰。同样形式的门楼在全日本仅存数栋，同等规模则绝无仅有。

精湛雕刻和古老故事

贵惣門的四面屋檐和门楣上遍布着精细的立体雕刻。东西两面都有狰狞的神龙乘风破浪，每一条都面露独特神情；南北两面则描绘着狮子在牡丹丛中嬉戏打闹的情形。狮子和牡丹的组合是江户时代(1603-1867)艺术表现中的常见主题，源自佛教教义，喻意危险来自内在。人们认为即使强大如狮子也会受细小的寄生虫所制，而牡丹花的晨露能杀死这些寄生虫来保护狮子，就像佛祖释迦牟尼守护众生一样。

守护寺庙的天王

贵惣門的门洞两侧各有一尊天王雕像，分别是佛教中守护四方部洲的四大天王之一。左边是守护东胜神洲的持国天王，右边则是守护北俱芦洲和佛法的多闻天王，也称毗沙门天。两尊雕像形容可怖，各踏一只小鬼。

百姓建造的大门

贵惣門上的木雕并没有上色，这是因为江户时代末期日本经济遭遇困难，德川幕府不得不限使用装饰性物料。木匠大师林正清(1678-1753)大约在此门建造的100年前督造了装饰华丽的本殿（正殿）圣天堂，而他的一位后人则建造了这座朴素的贵惣門。这座大门由当地社区捐款建成，捐赠者的名字都被刻在小木板上，置于雕刻之中。

<繁体字>

屋簷奇特的貴惣門

貴惣門（惣音「總」）は妻沼聖天山歡喜院の主要入口、外形巨大、装飾繁複、被指定為國家重要文化財。它建於 1851 年、是遊客到達本殿（正殿）聖天堂之前通過の三座大門中の第一座。這座木門の高度超過 13 公尺、由八根柱子支撐、是埼玉縣最大の寺門。它的兩重屋簷很特別、下層有兩個單獨的並排屋簷、上層則是一個大屋簷、從側面看、是三個呈「人」字形的重疊屋簷、這樣可以保護下面的木雕免受風雨侵擾。同樣形式の門樓在全日本僅存數棟、同等規模則絕無僅有。

精湛雕刻和古老故事

貴惣門の四面屋簷和門楣上遍佈著精細の立體雕刻。東西兩面都有猙獰の神龍乘風破浪、每一條都面露獨特神情；南北兩面則描繪著獅子牡丹叢中嬉戲打鬧の情形。獅子和牡丹の組合是江戸時代（1603-1867）藝術表現中の常見主題、源自佛教教義、告誡人們危險來自內部。人們認為即使是強大的獅子也會受細小的寄生蟲所制、而牡丹花の晨露能殺死這些寄生蟲來保護獅子、正如佛祖釋伽牟尼守護眾生。

守護寺廟の天王

貴惣門の門洞兩側各有一尊天王雕像、分別是佛教中守護四方部洲の四大天王之一。左邊是守護東勝神洲の持國天王、右邊則是守護北俱蘆洲和佛法の多聞天王、也稱毗沙門天。兩尊雕像模樣恐怖、各踏著一隻小鬼。

百姓建造の大門

貴惣門上の木雕並沒有上色、這是因為江戸時代末期日本經濟遭遇困難、徳川幕府不得不限制使用裝飾性物料。木匠大師林正清（1678-1753）大約在此門建造の 100 年前督造了裝飾華麗の本殿（正殿）聖天堂、而他的一位後人則建造了這座樸素の貴惣門。這座大門由地方上捐獻建成、捐獻人の名字都被刻在小木板上、置於雕刻之中。

<日本語仮訳>

意匠的な屋根を持つ貴惣門

複雑な装飾が施された大きな貴惣門が、妻沼聖天山境内入口の門であり、国の重要文化財に指定されています。1851年に建設され、本殿聖天堂に続く3つある門のうち最初にくぐる門です。高さ13メートルを超えるこの木造の門は、8本の柱で支えられており、寺院の門としては埼玉県内最大級の規模を誇ります。二層式の屋根は大変独創的であり、下の層には独立した2枚の屋根があって、上の層には1枚の大きな屋根があります。横から見ると、3枚重なった屋根全体が「众（中国語の「衆」）」という漢字の形を呈しており、その下にある彫刻を風雨から守っています。この様式は日本には数棟現存しますが、この規模では全国に類例がありません。

卓越した彫刻技術と古代の物語

門の四方の軒とまぐさには、複雑で立体的な彫刻が施されています。東側と西側では波を蹴立てる恐ろしい龍が描かれており、それぞれ異なる表情を見せています。また、北側と南側には牡丹の花々の上を飛び回る獅子が描かれています。牡丹に獅子という組み合わせは、江戸時代（1603-1867）の芸術にみられる一般的なモチーフで、危険は内側からくるものであるという仏教の教えに由来しています。強い獅子でさえも小さな寄生虫の影響を受けることがあり、牡丹の朝露がその寄生虫を殺すことで、まるでお釈迦様が人々を守ってくれるように、獅子を守ってくれると考えられていました。

寺院の守護神 天王

門の両側には、四方を護る四神、四天王の像が1体ずつ立っています。左側の像は、東勝神洲を守護する持国天。そして右側が、北俱盧洲と仏法を守護する多聞天で、毘沙門天とも呼ばれます。これらの恐ろしい形相の像は、それぞれ邪鬼を踏みつける姿で表現されています。

地元の人々により建てられた門

貴惣門の木製彫刻には塗装が施されていません。これは、江戸時代末期の経済的困窮を反映したものです。当時の徳川幕府下では、装飾的な仕上げが制限されていました。貴惣門の建築は名工林正清（1678-1753）の子孫によるもので、林正清はその100年ほど前に本殿の細かな装飾の建築を監督した人物です。貴惣門は地元の人々からの寄付金で建てられており、寄付者の氏名は彫刻にはめ込まれた小さな絵馬に刻まれています。

【タイトル】 四脚門

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB・パンフレット

<簡体字>**四脚門**

四脚門是妻沼聖天山歡喜院现存最古老的建筑，被认为建于江户时代(1603-1867)早期。该门由四根柱子支撑，建造时没有使用任何钉子。它拥有典型的室町时代(1392-1573)的装饰细节，这从山墙屋檐下用于防火的木制雕花挂饰“悬鱼”和梁柱两端的雕刻中都能看到端倪。与规模更大的贵惣門相比，四脚門的外观很简单，装饰也很低调。

門柱中間的白線表明了1910年大洪水時的水位，當時附近的利根川決堤，淹沒了寺廟建築群和周圍的村莊。因為位於貴惣門和仁王門之間，四脚門也被稱為中門。傳說這裡曾是媒人經常指定的相親之地，男女在此門初次相見後，一起到本殿（正殿）參拜，其中很多都結成了夫婦，中門也由此成為了人們口中的結緣聖地。

<繁体字>**四脚門**

四脚門是妻沼聖天山歡喜院现存最古老的建築，被認為建於江戶時代（1603-1867）早期。該門由四根柱子支撐，建造時沒有使用任何釘子。其擁有典型的室町時代（1392-1573）的裝飾細節，這從山牆屋簷下用於防火的木制雕花掛飾「懸魚」和樑柱兩端的雕刻中都能看到端倪。與規模更大的貴惣門相比，四脚門的外觀很簡單，裝飾也很低調。

門柱中間的白線表明了1910年大洪水時的水位，當時附近的利根川決堤，淹沒了寺廟建築群和周圍的村莊。因為位於貴惣門和仁王門之間，四脚門也被稱為中門。傳說這裡曾是媒人經常指定的相親之地，男女在此門初次相見後，一起到本殿（正殿）參拜，其中很多都結成了夫婦，中門也由此成為了人們口中的結緣聖地。

<日本語仮訳>**四脚門**

四脚門は、妻沼聖天山歡喜院で最古の建造物です。江戸時代（1603-1867）初期に建てられたと考えられています。門は4本の柱で支えられており、釘を一切使わずに作られています。火災除けとして切妻の下に付けられる懸魚や柱の端に施される桁隠しなど、室町時代（1392-1573）に

一般的だった装飾が施されています。大きな貴惣門と比べると四脚門の装飾は質素で、控えめな外観が特徴です。

門柱の真ん中あたりにある白線は、歓喜院を含む周囲の村が付近の利根川から流れてきた水に浸かってしまった 1910 年の大洪水の際の水位を示しています。貴惣門と仁王門の間に位置するため、四脚門は、中門とも呼ばれています。ここはかつて仲人たちにより男女の待ち合わせ場所に定め、ここで初顔合わせの後に本殿にお参りして数多くの良縁を結んだと伝えられ、縁結びのパワースポットとして話題にもなりました。

【タイトル】 御正躰錫杖頭（錫杖）

【想定媒体】 WEB・パンフレット

<簡体字>

御正体锡杖头（锡杖）

妻沼圣天山欢喜院里供奉着一个锡杖（梵文 Khakkhara）顶饰，是国家指定重要文化财产。它的主体是一个金属圆环，中央铸着“圣天”的雕像。圣天即大圣欢喜天，是印度教象头神甘尼沙在佛教密宗中的名字，被描绘成一对相拥的象头人像。因为是神圣之物，这个锡杖头被供奉在妻沼圣天山欢喜院本殿（正殿）的奥殿之中，平时并不对外开放，只有在寺庙成立周年纪念日等特殊时期，才会对公众展出。

锡杖头顶端呈尖形，主体上悬挂着几枚用以装饰木制锡杖的圆形铁环。僧侣们有时会摇动锡杖，令圆环发出响声，用以配合诵经。过去，僧侣们在朝圣时都会带着锡杖，用它来驱赶掠食动物，或把它当作武器来保护自己免受攻击。

斋藤别当实盛(1111-1183)是创建寺院的武将，1197年，他的外甥和两个孙子为纪念本殿翻新，将这个“御正体锡杖头”捐赠给了欢喜院。

<繁体字>

御正體錫杖頭（錫杖）

妻沼聖天山歡喜院裡供奉著一個錫杖（梵文 Khakkhara）頂飾，是國家指定重要文化財產。它的主體是一個金屬圓環，中央鑄著「聖天」的雕像。聖天即大聖歡喜天，為印度教象頭神甘尼沙在佛教密宗中的名字，被描繪成一對相擁的象頭人像。因為是神聖之物，這個錫杖頭被供奉在妻沼聖天山歡喜院本殿（正殿）的奧殿之中，平時並不對外開放，只有在寺廟成立周年紀念日等特殊時期，它才會對公眾展出。

錫杖頭頂端呈尖形，主體上懸掛著幾枚用以裝飾木製錫杖圓形鐵環。僧侶們有時會搖動錫杖，令圓環發出響聲，用以配合誦經。過去，僧侶們在朝聖時都會帶著錫杖，用其來驅趕掠食動物，或把錫杖當作武器來保護自己免受攻擊。

齋藤實盛（1111-1183）是創建寺院的武將，1197年，他的外甥和兩個孫子為紀念本殿的翻新，將這個「御正體錫杖頭」捐獻給了歡喜院。

<日本語仮訳>

御正躰錫杖頭（錫杖）

妻沼聖天山歓喜院には、錫杖頭（サンスクリット語でカツカラ）が祀られており、国の重要文化財に指定されています。錫杖頭は金属の輪で、中央に聖天の像が納められています。ヒンドゥー教の神ガネーシャの仏教密宗版である聖天は、歓喜天とも呼ばれ、抱擁している象頭人身の双身像として描かれています。その神聖な姿から、妻沼聖天山歓喜院本殿の奥殿に納められており、一般には公開されていませんが、歓喜院の創建記念日などの特別な機会に一般展示されています。

錫杖頭の先端は尖っており、鑄鉄で造られた頭部の輪形に遊環が通してあり、木製の杖の先に付けて使います。僧侶たちは錫杖を振り、お経に合わせて輪っかがシャンシャンと音を鳴らすこともあります。かつては、僧侶が巡礼の際に携帯し、動物を追い払ったり、害獣や襲撃者から身を守ったりする際に使われることもありました。

この「御正躰錫杖頭」は、歓喜院を創建した武将である斎藤実盛（1111-1183）の甥と 2 人の孫により、1197 年に歓喜院に寄進されました。錫杖の寄進は、本殿の改修を記念するためのものでした。

【タイトル】 紵絲斗帳

【想定媒体】 WEB・パンフレット

<簡体字>

紵絲斗帳

这段在深蓝色背景上用红线织有鸳鸯和祥云图案的苧麻织物被称为紵絲斗帳（紵音“住”），是妻沼圣天山欢喜院的珍宝之一。它织就于中国明朝嘉靖年间(1522-1566)，尺寸为 147x170 厘米，背面的题词表明了织物的出处。面料上的红色经过岁月洗礼已经变成了棕色，但其质地看上去依然很有品位。

据说，这块面料是由成田长泰(1495-1574)捐赠给寺院的。成田家族以熊谷为据点，也是寺院的赞助人，在 1552 年资助了本殿（正殿）的重建工程。

紵絲斗帳是埼玉县指定文化财产，在埼玉县大宫的埼玉县立历史和民俗博物馆展出。

<繁体字>

紵絲斗帳

這段在深藍色背景上，用紅線織就鴛鴦和祥雲圖案的苧麻織物被稱為紵絲斗帳（紵音「住」），是妻沼聖天山歡喜院的珍寶之一。它織就於中國明朝嘉靖年間（1522-1566），尺寸為 147x170 公分，背面的題詞表明了織物的出處。面料上的紅色經過歲月洗禮已經變成了棕色，但看上去依然很有質感。

據說，這塊面料是由成田長泰（1495-1574）捐獻給寺院的。成田家族以熊谷為根據地，也是寺院的資助者，在 1552 年資助了本殿（正殿）的重建工程。

紵絲斗帳是埼玉縣指定文化財產，在埼玉縣大宮的埼玉縣立歷史和民俗博物館展出。

<日本語仮訳>

紵絲斗帳

妻沼聖天山歡喜院の宝物の 1 つが、濃い藍色の布地に紅糸で鴛鴦や雲の模様を織った苧麻の織物です。中国・明王朝の嘉靖年間（1522-1566）に中国で作られました。大きさは 147x170 センチで、裏面の墨書銘には産地が記されています。時代を経て紅色は褐色に変化しましたが、味わい深い風合いとなっています。

紵絲斗帳は、成田長泰（1495-1574）が奉納したと考えられています。成田氏は熊谷を本拠としており、1552 年に本殿再建の際に資金援助を行いました。

紵絲斗帳は、埼玉県指定文化財で、埼玉県立歴史と民俗の博物館（埼玉県さいたま市大宮区）に展示されています。

【タイトル】 鰐口

【想定媒体】 WEB・パンフレット

<簡体字>**鰐口铜锣**

这面被称为“鰐口”的铜锣于 1339 年被敬献给妻沼圣天山欢喜院。铜锣上的铭文表明，14 世纪时妻沼地区被称为“福河庄”。铜锣的直径为 31 厘米，正面和背面都有同心圆图案装饰。

鰐口铜锣由青铜制成，顶部有两个环，可以用绳子将其固定在寺院大门或殿阁屋檐下。沿着铜锣下半部的曲线开有一个较宽的豁口，用以放大锣声。参拜者通过摇动悬挂在鰐口铜锣前一条粗重的绳子来敲打它，人们认为这种声音可以在参拜者祈祷时吸引神灵的注意。这和神社里参拜前摇响高处的“本坪铃”有异曲同工的效果。

鰐口铜锣是埼玉县指定文化财产，在埼玉县大宫的埼玉县立历史和民俗博物馆展出。在离本殿（正殿）圣天堂最近的仁王门的屋檐下，也挂着一个类似的铜锣。

<繁体字>**鰐口銅鑼**

這面被稱為「鰐口」的銅鑼於 1339 年被敬獻給妻沼聖天山歡喜院。銅鑼上的銘文表明，14 世紀時妻沼地區被稱為「福河莊」。銅鑼的直徑為 31 公分，正面和背面都有同心圓圖案裝飾。

鰐口銅鑼由青銅製成，頂部有兩個環，可以用繩子將其固定在寺院大門或殿閣屋簷下。沿著銅鑼下半部的曲線有一個切開寬口，用以放大鑼聲。參拜者通過搖動懸掛在鰐口銅鑼前一條粗重的繩子來敲打它，人們認為這種聲音可以在參拜者祈禱時吸引神明的注意。這和在神社裡參拜前搖響高處的「本坪鈴」有異曲同工的效果。

鰐口銅鑼是埼玉縣指定文化財產，在埼玉縣大宮的埼玉縣立歷史和民俗博物館展出。在離本殿（正殿）聖天堂最近的仁王門的屋簷下，也掛著一個類似的銅鑼。

<日本語仮訳>**鰐口**

この「鰐口」と呼ばれる銅鑼は 1339 年に妻沼聖天山歓喜院に寄進されました。刻印は、妻沼地域が 14 世紀には「福河庄」として知られていたことを示しています。その直径は 31 センチで、同心円模様が表裏に施されています。

この鰐口は青銅製で、上部には 2 つの穴が空けられており、ここにひもを通して寺院の門やお堂の軒先に吊るされます。下部の一文字に広く開いた「口」が、音を増幅させます。神社の社殿の正面に吊られる「本坪鈴」と同じく、参拝者は、祈りをささげる前に銅鑼の手前に下がっている重い縄を振って鰐口を打ち鳴らし、神霊の発動を願います。

この鰐口は埼玉県指定文化財であり、埼玉県立歴史と民俗の博物館（埼玉県さいたま市大宮区）に展示されています。また、本殿に一番近い仁王門の軒先にも同様の鐘が吊るされています。

【タイトル】 鐘楼

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB・パンフレット

<簡体字>**钟楼**

这座钟楼矗立在寺院庭园的入口附近，是国家登录物质文化财产。楼内的青铜大钟由一根悬空的木梁敲击，其钟声可以传遍周围的城镇。大钟每天早晚各敲响一次，标志着一天的开始和结束。在现代警报系统诞生之前，这口大钟在周边社区中发挥着重大作用，人们会敲响它来预警台风和洪水等即将发生的自然灾害。

在被称为“除夜の鐘”(Joya no Kane)的除夕仪式中，参拜者会在临近 12 月 31 日的午夜时分轮流敲响大钟。钟声响 108 次，代表让世人摆脱如傲慢、残忍、贪婪等 108 种世俗欲望或恶习。日本各地寺庙都会在除夕之夜敲响这辞旧迎新的钟声。

钟楼初建于 1761 年，也就是本殿（正殿）建成的第二年。大正时代(1912-1926)为了提升钟楼高度，增加了一个石头和混凝土双层基坛。

<繁体字>**鐘樓**

這座鐘樓矗立在寺院庭園的入口附近，是國家登錄物質文化財產。樓內的青銅大鐘由一根懸空的木梁敲擊，其鐘聲可以傳遍周圍的城鎮。大鐘每天早晚各敲響一次，象徵著一天的開始和結束。在現代警報系統誕生之前，這口大鐘在周邊聚落中發揮著重大作用，人們會敲響它來預警颱風和洪水等即將發生的自然災害。

在被稱為「除夜の鐘」（Joya no Kane）的除夕儀式中，參拜者會在臨近 12 月 31 日的午夜時分輪流敲響大鐘。鐘聲響 108 次，代表讓世人擺脫如傲慢、殘忍、貪婪等 108 種世俗慾望或惡習。日本各地寺廟都會在除夕之夜敲響這辭舊迎新的鐘聲。

鐘樓初建於 1761 年，也就是本殿（正殿）建成的第二年。大正時代（1912-1926）為了提升鐘樓高度，增加了一個石頭和混凝土雙層基壇。

<日本語仮訳>**鐘楼**

国の登録有形文化財である歓喜院鐘楼は、庭園入口付近に建てられています。そこに納められている大きな青銅製の鐘を懸木で突くと、近隣の街にその音が響き渡ります。鐘は朝と夕に2度鳴らし、

1 日の始まりと終わりを告げます。現代的な警報システムが開発される以前は、台風や洪水などの差し迫った災害の警告手段として、地域で重要な役割を果たしていました。

大晦日には「除夜の鐘」と呼ばれる行事を行い、深夜にかけて参拝者たちが順に鐘を突いていくのが慣わしです。傲慢・残虐・欲といった 108 の煩惱を取り払うため、鐘は 108 回鳴らされます。除夜の鐘は日本各地の寺院で行われます。

歓喜院鐘楼は、本殿完成の翌年にあたる 1761 年に建設されました。大正時代（1912-1926）には、鐘楼の位置を高くするため、石造とコンクリート造の基壇が追加されています。

【タイトル】 閼伽井堂

【想定媒体】 WEB・パンフレット

<簡体字>

閼伽井堂

閼伽井堂是本殿（正殿）前的一座木构建筑，里面有一口水井和一座小佛堂，是国家登录物质文化财产。它建于江户时代(1603-1867)晚期，可能与贵惣門在同时期建成。过去寺院的僧侣们在每天清扫寺庙时，会从这口井中打水供奉神灵，不过现已不再使用，但来访者依然可以看到用来汲水的木桶和一个简单的绳索滑轮。

水井后面是一个供奉水神“水天”的小佛堂。水天是佛教密宗中 12 位守护神之一，也是印度教海神伐楼拿在佛教里的名字。閼伽井堂的屋檐下精细地雕刻着龙和海龟游弋于海浪之间的情景。

<繁体字>

閼伽井堂

閼伽井堂是本殿（正殿）前的一座木構建築，裡面有一口水井和一座小佛堂，是國家登錄物質文化財產。它建於江戶時代（1603-1867）晚期，可能與貴惣門同時期建造。過去寺院的僧侶們在每天清掃寺廟時，會從這口井中打水供奉神明，不過現已不再使用，但遊客依然可以看到用來汲水的木桶和一個簡單的繩索滑輪系統。

水井後面是一個供奉水神「水天」的小佛堂。水天是佛教密宗中 12 位守護神之一，也是印度教海神伐樓拿在佛教裡的名字。閼伽井堂的屋簷下精細地雕刻著龍和海龜在海浪間巡邏的情景。

<日本語仮訳>

閼伽井堂

国の登録有形文化財である閼伽井堂は、本殿の前にある木造建築で、中には井戸と小さなお堂があります。江戸時代（1603-1867）末期に建てられており、建築は貴惣門と同じ頃であると考えられています。僧侶たちは寺院の日々の清掃の一環として、この井戸から汲んだ水を神仏に供えていました。井戸はもう使われていませんが、水汲みに使われていた桶やシンプルな縄や滑車輪は今でも見ることができます。

井戸の先には、水の神で仏教における 12 天のうちの 1 人、水天様が祀られています。水天は、ヒンドゥー教の神ヴァルナの仏教密宗版です。関伽井堂の軒には、波の中の龍や亀を描いた細かい彫刻が施されています。

【タイトル】 三宝荒神社と天満社

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB・パンフレット

<簡体字>

三宝荒神社和天満社

本殿（正殿）圣天堂后面有几座小神社，里面供奉着神道教和佛教的神灵。三宝荒神社供奉的是三宝荒神，他是佛教中的守护者之一，也是炉灶之神。天満社供奉的则是学问之神——天神。

这两座神社都是由林正信(1736-1802)在 18 世纪晚期建造的，他是督造了圣天堂的木匠大师林正清(1678-1753)的儿子。这两座神社都有人字屋顶、雕花屋檐和窄小的木制台阶，均为国家登录物质文化财产。

<繁体字>

三寶荒神社和天満社

本殿（正殿）聖天堂後面有幾座小神社，供奉著神道教和佛教的神祇。三寶荒神社供奉的是三寶荒神，祂是佛教中的守護者之一，也是爐灶之神。天満社供奉的則是學問之神——天神。

這兩座神社都是由林正信（1736-1802）在 18 世紀晚期建造的，他是督造了聖天堂的木匠大師林正清（1678-1753）的兒子。這兩座神社都有人字屋頂、雕花屋簷和窄小的木製臺階，均為國家登錄物質文化財產。

<日本語仮訳>

三宝荒神社と天満社

神道と仏教のいずれでも崇拝されている神様に捧げられた複数の神社が、本殿聖天堂の裏にあります。三宝荒神社は、仏教における神の 1 人でかまど神の三宝荒神を祀る神社です。また、天満社は、学問の神様である天神様が祀られている神社です。

三宝荒神社と天満社はいずれも、聖天堂の建設を監督した林正清（1678-1753 年）の息子、林正信（1736-1802）が 18 世紀後半に建てたものです。いずれの神社も、切妻屋根、彫刻が施された軒、そして小さな木造の階段が特徴で、登録有形文化財に指定されています。

【タイトル】 五社大明神

【想定媒体】 アプリ QRコード・WEB・パンフレット

<簡体字>

五社大明神

五社大明神位于本殿（正殿）圣天堂后方，被登录为国家物质文化财产。它是一个宽度较大的木造神社，外面涂成了红黑二色。人们认为这座神社可能与本殿的建造时间相同，由林正信(1736-1802)建造，他是督造圣天堂的林正清(1678-1753)的儿子。神社毁于之后的一场大火，并于1783年重建，而它独特的颜色则在2009年得以修复。

这座神社左右两侧的人字屋檐都配有叫做“悬鱼”的建筑装饰。这些弯曲的垂饰构成花卉图案，以红色为基调，配以黑色细节。悬鱼是神社和寺庙常见的设计元素，早期多为鱼的形状，也许是为了预防火灾。到了江户时代(1603-1867)，悬鱼开始被雕刻成花鸟形状。

<繁体字>

五社大明神

五社大明神位於本殿（正殿）聖天堂後方，被登錄為國家物質文化財產。它是一個寬度較大的木造神社，外面塗成了紅黑二色。人們認為這座神社可能與本殿的建造時間相同，由林正信（1736-1802）建造，他是督造聖天堂的林正清（1678-1753）的兒子。神社毀於之後的一場大火，並於1783年重建，而它獨特的顏色是在2009年才得到修復。

這座神社左右兩側的人字屋簷都配有叫做「懸魚」的建築裝飾。這些彎曲的垂飾組成花卉圖案，以紅色為基調，配以黑色細節。懸魚是神社和寺廟常見的設計元素，早期多為魚的形狀，也許是為了預防火災。到了江戶時代（1603-1867），懸魚開始被雕刻成花鳥形狀。

<日本語仮訳>

五社大明神

国の登録有形文化財である五社大明神は、本殿聖天堂の裏にある赤と黒に塗装された横幅が広い木造の神社です。本殿の建設を監督した林正清（1678-1753）の息子、林正信（1736-1802）が、本殿と同時期に建立されたと考えられています。後に火災で倒壊してしまいましたが、1783年に再建され、塗装については2009年に復元されています。

左右の切妻には、懸魚の彫刻が装飾されています。花のモチーフで、赤色に細部は黒色で仕上げられています。懸魚は神社仏閣で一般的に見られる特徴で、初期のものだと火災から家を守るものとして魚型のものが多く見られます。江戸時代（1603-1867）より、花や鳥などの意匠も見られるようになりました。

【タイトル】 仁王門

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB・パンフレット

<簡体字>**仁王門**

仁王門は本殿（正殿）聖天堂最近の大門、因大門両边有两尊红色的仁王像而得名，是国家登录物质文化财产。仁王是愤怒的神灵，又称为金刚力士，他们也是佛教的护法神，通常站立在寺院門口守卫着寺庙。这两座仁王像是 1658 年雕刻的，大門可能也建于同一时期。大門在 1891 年的台风中被一棵倒下的银杏树压垮，而两尊仁王像得以幸存。

这座宽大的木门拥有歇山顶，占地面积 75 平方米，由 12 根柱子支撑，屋檐上装饰着鸟类和植物的木雕。现存大門重建于 1894 年，仁王像则在 2013 年完成最新一次修复。

<繁体字>**仁王門**

離本殿（正殿）聖天堂最近的大門便是仁王門，因大門兩邊有兩尊紅色的仁王像而得名，為國家登錄物質文化財產。仁王是憤怒的神祇，又稱為金剛力士，祂們也是佛教的護法神，通常站立在寺院門口守護著寺廟。這兩座仁王像是於 1658 年雕刻的，大門可能也建於同一時期。大門在 1891 年的颱風中被一棵倒下的銀杏樹壓垮，兩尊仁王像卻得以倖存。

這座寬大的木門擁有歇山頂，占地面積 75 平方公尺，由 12 根柱子支撐，屋簷上裝飾著鳥類和植物的木雕。現存大門重建於 1894 年，仁王像則在 2013 年完成最新一次修復。

<日本語仮訳>**仁王門**

本殿の聖天堂にもっとも近い門が国の登録有形文化財である仁王門で、門の左右に立つ赤い仁王像がその名の由来です。金剛力士とも呼ばれる仁王は、怒りの神で仏法の守護神。仏教寺院の入口で寺院を護るように立っているのが一般的です。1658 年に彫られたもので、門も同時期に建立されたものと考えられます。仁王門は、1891 年台風の際に倒れたイチョウの木で潰されましたが、2 体の仁王像は損害を免れました。

この広い木造の門の屋根は入母屋造りで、75 平方メートルの建築面積を覆い、12 本の柱が支えています。軒には、鳥や植物の彫刻が施されています。現在の門は 1894 年に再建されたもので、2 体の仁王像は 2013 年に修復されました。

【タイトル】 平和の塔

【想定媒体】 WEB・パンフレット

<簡体字>

和平塔

和平塔位于妻沼圣天山欢喜院庭园中的一座小丘上，是国家登录物质文化财产。它是为了纪念在第二次世界大战中丧生的人们而建造。

塔内供奉着四位神灵，包括大日如来和十一面大慈大悲观世音菩萨。和平塔由木匠大师林正清(1678-1753)的后代所建，而本殿（正殿）圣天堂正是由林正清在18世纪督造的。春天的樱花和秋日的红叶都为和平塔增添了不少魅力。

<繁体字>

和平塔

和平塔位於妻沼聖天山歡喜院庭園中的一座小丘上，為國家登錄物質文化財產。它是為了紀念在第二次世界大戰中喪生的人們而建造。

塔內供奉著四位神祇，包括大日如來和十一面大慈大悲觀世音菩薩。和平塔由木匠大師林正清（1678-1753）的後代所建，而本殿（正殿）聖天堂正是由林正清在18世紀督造的。每年春天的櫻花和秋日的紅葉都為和平塔增添了不少魅力。

<日本語仮訳>

平和の塔

国の登録有形文化財である平和の塔は、妻沼聖天山欢喜院の庭園内にある、小さな丘の上に立っています。第二次世界大戦における戦没者の鎮魂のために建立されました。

大日如来と十一面観音菩薩を含む4体が祀られています。平和の塔は、18世紀に欢喜院聖天堂の建立を監督した名工、林正清（1678-1753）の子孫によるものです。春は桜、秋には紅葉が楽しめる、美しい景観を誇るスポットです。

【タイトル】 仁王像

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**仁王像**

这两尊肌肉发达的红色金刚力士雕像都高于 3 米，他们站在仁王门两侧，守护着妻沼圣天山欢喜院本殿（正殿）圣天堂。金刚力士也被叫做仁王，是愤怒的神灵和佛教的护法神。仁王像通常成对，右边张着嘴的被称为阿形像，“a”是与出生有关的第一个声音；左边闭着嘴的是吽形像，他发出的是“un”，代表死亡前的最后一个声音。他们总是一起出现，象征着生命的循环。

这两尊仁王像出自 1658 年出自神奈川县镰仓地区一位名师之手，于 2013 年完成最新一次修复。它们是熊谷市指定物质文化财产。

<繁体字>**仁王像**

這兩尊肌肉發達的紅色金剛力士雕像都高過 3 公尺，牠們站在仁王門兩側，守護著妻沼聖天山歡喜院本殿（正殿）聖天堂。金剛力士也被叫做仁王，是憤怒的神靈和佛教的護法神。仁王像通常成對，右側張著嘴的被稱為阿形像，「a」是與出生有關的第一個聲音；左邊閉著嘴的是吽形像，牠發出的是「un」，代表死亡前的最後一個聲音。牠們總是一起出現，象徵著生命的輪迴。

這兩尊仁王像出自 1658 年出自神奈川縣鎌倉地區一位元名師（前名師）之手，於 2013 年完成最新一次修復，均為熊谷市指定物質文化財產。

<日本語仮訳>**仁王像**

それぞれ 3 メートルを超える筋肉質な赤い金剛力士が、仁王門の両脇に立ち、妻沼聖天山歡喜院の本殿聖天堂を護っています。金剛力士は仁王とも呼ばれ、怒りの神で仏法の守護神。2 体で描かれることが多く、右側の口が開いた仁王像が、誕生の瞬間に発する「あ」の音から阿形像。左側の口を閉じた仁王像を、死の直前に発する「うん」の音から吽形像といいます。これら 2 体が一對になって、輪廻を表しています。

仁王像は、1658年に神奈川県鎌倉市の名工が作ったもので、現在の仁王像は2013年に修復されたものです。この2体の仁王像は熊谷市指定有形文化財です。

【タイトル】 齋藤別当実盛の像

【想定媒体】 アプリ QR コード・パンフレット

<簡体字>

齋藤別当实盛像

齋藤实盛(1111-1183)全称齋藤別当实盛，是一位传奇的武士和英勇无畏的军事将领，曾统治过今天埼玉县北部。1179年，他创建了妻沼圣天山欢喜院。如今院内有一座“齋藤別当实盛像”，齋藤手持镜子和毛笔，正准备将自己的白发染黑，以掩饰年龄而重战沙场。按下雕像边上播放器的按钮，就可以听到一首名为《齋藤实盛》的歌曲，歌中讲述了他的生平，歌词被刻在旁边的金属板上。这首歌还曾被编入了日本小学音乐教科书中。

齋藤实盛曾是皇室远亲源氏家族的家臣，但后来转而效忠于敌对的平家。12世纪时，源氏和平家围绕朝廷和国家的统治权而争斗不休。在早期的源氏内部斗争中，齋藤实盛奉命寻找并杀死家族继承人木曾义仲(1154-1184)，但他反而保护了这个小男孩。木曾义仲长大后成为了源氏的领袖。

之后，源氏和平家之间的对立日渐激化，最终导致了席卷全国的源平合战(1180-1185)。战争爆发时，齋藤实盛已70多岁。他作为平家军的一员参战，据说上阵之前，他将自己白发染黑，以掩老态。在篠原之战(1183)中，齋藤实盛被木曾义仲的军中将领斩首，他的头颅也被作为战利品带到了木曾义仲面前。清洗头颅时，墨汁从齋藤实盛的头颅上流下，露出了白发，木曾义仲这才意识到部将杀死了自己的救命恩人，因此悲痛万分。

最终，源氏家族打败了平家，建立了日本历史上第一个军事政权——镰仓幕府，从1185至1333年统治了日本近150年。

<繁体字>

齋藤別當實盛像

齋藤實盛(1111-1183)全稱齋藤別當實盛，是一位傳奇武士和英勇將領，曾統治過今天埼玉縣北部。1179年，他創建了妻沼聖天山歡喜院。如今院內有一座「齋藤別當實盛像」，齋藤手持鏡子和毛筆，正準備將他自己的白髮染黑，以掩飾年齡重戰沙場。按下雕像邊上播放器的按鈕，就可以聽到一首名為《齋藤實盛》的歌曲，歌中講述了他的生平，歌詞被刻在旁邊的金屬板上。這首歌還曾被編入了日本小學音樂教科書中。

齋藤實盛曾是皇室遠親源氏家族的家臣，但後來轉而效忠於敵對的平家。12世紀時，源氏和平家圍繞朝廷和國家的統治權而爭鬥不休。在早期的源氏內部鬥爭中，齋藤實盛奉

命尋找並殺死家族繼承人木曾義仲（1154-1184），但他反而保護了這個小男孩。木曾義仲長大後成為了源氏的領袖。

之後，源氏和平家之間的對立日漸激化，最終導致了席捲全國的源平合戰（1180-1185）。戰爭爆發時，齋藤實盛已經 70 多歲了。他作為平家軍的一員參戰。據說上陣之前，他將自己白髮染黑，以掩老態。在篠原之戰（1183）中，齋藤實盛被木曾義仲軍隊中的將領斬首，他的頭顱也被作為戰利品帶到了木曾義仲面前。清洗頭顱時，墨汁從齋藤實盛的頭顱上流下，露出了白髮，木曾義仲這才意識到部將殺死了自己的救命恩人，因此悲痛萬分。

最終，源氏家族打敗了平家，建立了日本歷史上第一個軍事政權——鎌倉幕府，從 1185 至 1333 年統治日本，一共將近 150 年。

<日本語仮訳>

齋藤別当実盛の像

齋藤実盛（1111-1183、「齋藤別当実盛」とも呼ばれる）は、現在の埼玉県の北部を治めていた伝説の武将です。実盛公は、1179 年に妻沼聖天山歓喜院を創建しました。境内の齋藤別当実盛像は、老いを隠し、再び戦場に赴くため、白髪を染める構えで鏡と筆を手に持つ姿で表現されています。像の隣に設置されているプレイヤーのボタンを押すと、『齋藤実盛』という名の、実盛公の人生についての尋常小学校唱歌を聴くことができます。プレイヤーの隣にある金属プレートにその歌詞が刻まれています。

実盛公は、皇族の遠縁にあたる源氏の家臣でしたが、後に宿敵の平家へと忠誠の対象を変えています。両家は、12 世紀に朝廷と国の統治をめぐる戦いを繰り返しました。それより以前、源氏の内部闘争の過程で、実盛公は源氏の跡継ぎである木曾義仲（1154-1184）を見つけて殺すよう命じられました。しかし、実盛公は、まだ幼かった義仲を保護したのです。義仲は後に源氏家を率いる武将となりました。

その後、源氏と平家の両家の対立は激化し、全国各地で激戦が繰り広げられる源平合戦（1180-1185）へと繋がります。源平合戦が勃発した頃、実盛公は 70 代でした。源平合戦では平家軍として戦いましたが、出陣前に、自分を若く見せるために白髪を黒く染めたと言われています。篠原の戦い（1183）で、実盛公は義仲軍の武将に討ち取られ、その首が義仲のもとへ持ち帰られました。頭を洗い実盛公の髪から墨が流れ落ちると、義仲は、かつての命の恩人を殺してしまったことを知り、悲しみに打ちひしがれます。

源氏は最終的に平家を打ち破り、鎌倉幕府という初めての軍事政権を樹立し、1185 年から 1333 年まで 150 年間近くにわたり、日本を統治しました。

【タイトル】 齋藤別当実盛の像

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

齋藤別当实盛像

齋藤实盛(1111-1183)全称齋藤別当实盛，是一位传奇的武将，曾统治过今天埼玉县北部。妻沼圣天山欢喜院是他于 1179 年创建的。如今院内有一座“齋藤別当实盛像”，刻画的是齋藤手持镜子和毛笔，正准备将自己的白发染黑以掩饰年龄，然后重战沙场的情形。按下雕像边上播放器的按钮，就可以听到一首名为《齋藤实盛》的歌曲，歌中讲述了他的生平，歌词被刻在旁边的金属板上。这首歌曾经被编入日本小学音乐教科书中。

齋藤实盛曾是皇室远亲源氏家族的家臣，但后来转而效忠于敌对的平家。在 12 世纪，源氏和平家围绕朝廷和国家的统治权而争斗不休。根据历史记载，齋藤实盛曾经是源义朝麾下将领，之后效忠源义朝之弟源义贤。1155 年，源义朝之子源义平突袭源义贤并将其杀死，齋藤实盛又再次归顺源义朝源义平父子。当时，他奉命寻找并杀死源义贤的遗孤木曾义仲，但因顾念旧情反而保护了这个小男孩。木曾义仲长大后，成为了源氏的领袖。

源氏和平家之间的对立日益激烈，最终导致了席卷全国的源平合战(1180-1185)。战争爆发时，齋藤实盛已经 70 多岁了，他作为平家军的一员参战。据说上阵之前，他将自己白发染黑以掩老态。在篠原之战(1183)中，齋藤实盛被木曾义仲的军中将领斩首，他的头颅也被作为战利品带到了木曾义仲面前。当时，收集战场上被杀敌人的头颅，清洗并验明正身后送给领主是战争中的惯例。当墨汁从齋藤实盛的头颅上流下，露出了白发，木曾义仲这才意识到部将杀死了自己的救命恩人，因此悲痛万分。

最终，源氏家族打败了平家，建立了日本历史上第一个军事政权——镰仓幕府，从 1185 至 1333 年统治了日本近 150 年。

<繁体字>

齋藤別當實盛像

齋藤實盛（1111-1183）全稱齋藤別當實盛，是一位傳奇的武將，曾統治過今天埼玉縣北部。妻沼聖天山歡喜院是他於 1179 年創建的。如今院內有一座「齋藤別當實盛像」，刻畫的是齋藤手持鏡子和毛筆，正準備將自己的白髮染黑以掩飾年齡，然後重戰沙場的情形。按下雕像邊上播放器的按鈕，就可以聽到一首名為《齋藤實盛》的歌曲，歌中講述了他的生平，歌詞被刻在旁邊的金屬板上。這首歌曾經被編入日本小學音樂教科書中。

齋藤實盛曾是皇室遠親源氏家族的家臣，但後來轉而效忠於敵對的平家。在 12 世紀，源氏和平家圍繞朝廷和國家的統治權而爭鬥不休。根據歷史記載，齋藤實盛曾經是源義朝麾下將領，之後效忠源義朝之弟源義賢。1155 年，源義朝之子源義平突襲源義賢並將其殺死，齋藤實盛又再次歸順源義朝源義平父子。當時，他奉命尋找並殺死源義賢的遺孤木曾義仲，但因顧念舊情反而保護了這個小男孩。木曾義仲長大後，成為了源氏的領袖。

源氏和平家之間的對立日益激烈，最終導致了席卷全國的源平合戰（1180-1185）。戰爭爆發時，齋藤實盛已經 70 多歲了，他作為平家軍的一員參戰。據說上陣之前，他將自己白髮染黑，以掩老態。在篠原之戰（1183）中，齋藤實盛被木曾義仲軍隊中的將領斬首，他的頭顱也被作為戰利品帶到了木曾義仲面前。當時，收集戰場上被殺敵人的頭顱，清洗並驗明正身後送給領主是戰爭中的慣例。當墨汁從齋藤實盛的頭顱上流下，露出了白髮，木曾義仲這才意識到部將殺死了自己的救命恩人，因此悲痛萬分。

最後，源氏家族打敗了平家，建立了日本歷史上第一個軍事政權——鎌倉幕府，從 1185 年到 1333 年統治日本，一共將近 150 年。

<日本語仮訳>

齋藤別当実盛の像

齋藤実盛（1111-1183、「齋藤別当実盛」とも呼ばれる）は、現在の埼玉県の北部を治めていた伝説の武将です。実盛公は、1179 年に妻沼聖天山歓喜院を創建しました。境内の齋藤別当実盛像は、老いを隠し、再び戦場に赴くため、白髪を染める構えで鏡と筆を手に持つ姿で表現されています。像の隣に設置されているプレーヤーのボタンを押すと、『齋藤実盛』という名の、実盛公の人生についての尋常小学校唱歌を聴くことができます。プレーヤーの隣にある金属のプレートに、その歌詞が刻まれています。

実盛公は、皇族の遠縁にあたる源氏の家臣でしたが、後に宿敵の平家へと忠誠の対象を変えています。両家は、12 世紀に、朝廷と国の統治をめぐる戦いを繰り返しました。歴史的説明によれば、実盛公は初め源氏の義朝に従っていましたが、やがてその弟の義賢の幕下に伺候するようになりました。1155 年、義朝の子・義平は義賢を急襲し討ち取ってしまい、実盛は再び義朝・義平父子の麾下に戻りました。その際に、実盛公は義賢の跡継ぎである木曾義仲を見つけて殺すよう命じられましたが、義賢に対する旧恩も忘れておらず、まだ幼かった義仲を保護したのです。その義仲は後に源氏家を率いる武将になりました。

その後、源氏と平家の両家の対立は激化し、全国各地で激戦が繰り広げられる源平合戦（1180-1185）へと繋がります。源平合戦が勃発した頃、実盛公は 70 代でした。源平合戦では平家軍として戦いましたが、出陣前に、自分を若く見せるために白髪を黒く染めたとされています。篠原の戦い（1183）で、実盛公は義仲軍の武将に討ち取られ、その首が義仲のもとへ持ち帰られました。当時、戦で討ち取った敵の頭を持ち帰り、それを洗って身元を判定し、大名に見せるのが通例でした。実盛公の髪から墨が流れ落ちると、義仲は、かつての命の恩人を殺してしまったことを知り、悲しみに打ちひしがれます。

源氏は最終的に平家を打ち破り、鎌倉幕府という初めての軍事政権を樹立し、1185年から1333年まで150年間近くにわたり、日本を統治しました。

【タイトル】 夫婦の木

【想定媒体】 アプリ QRコード・WEB・パンフレット

<簡体字>

夫婦之樹

寺庙主建筑群后面的庭园里，有两棵根部缠绕、紧紧依偎的大树。左边的是朴树，右边的是榉树。两棵树彼此支撑，已经长得很高，被视作缔结良缘的象征。

寺庙供奉的主神“圣天”因为牵线做媒、维护婚姻和谐而备受推崇，寺庙和夫妇之树都是人们祈愿增进彼此关系的热门地。树前有一条蜿蜒小路穿过庭园通向和平塔和钟楼，途中可以看见一挂小瀑布和一条小溪。

<繁体字>

夫婦之樹

在寺廟主建築群後面的庭園裡，有兩棵根部纏繞、緊緊依偎的大樹。左邊的是朴樹，右邊的是榉樹。兩棵樹彼此支撐，已經長得很高，並被視作締結良緣的象徵。

寺廟供奉的主神「聖天」因為牽線做媒、維護婚姻和諧而備受推崇。寺廟和夫婦之樹都是人們祈願增進彼此關係的勝地。樹前有一條蜿蜒小路穿過庭園，經過瀑布和一條小溪，就能通向和平塔和鐘樓。

<日本語仮訳>

夫婦の木

境内の建物の裏にある庭園には、その根が絡み合って寄り添うように立つ 2 本の木があります。左側が榎で、右側が榲です。榎と榲の木が互いに支え合いながら大きく育ち、縁結びのシンボルとみなされるようになりました。

歓喜院の本尊である聖天様は、縁結びや夫婦円満で有名です。歓喜院およびこの夫婦の木は、絆を深めたいと願うカップルでにぎわう人気のスポットです。夫婦の木の先の曲がりくねった道を進み、小さな滝と小川を通り過ぎると、平和の塔、そして鐘楼が見えてきます。

【タイトル】 軍荼利明王

【想定媒体】 WEB・パンフレット

<簡体字>

軍荼利明王

寺庙庭园里的一挂瀑布旁有一尊“军荼利明王”石雕。这是一位面色恐怖的八臂战士，被火焰包围着。军荼利明王是佛教密宗五大明王之一，源自印度教神灵军荼利。明王都是智慧尊者，他们守护着佛教信仰，降伏邪恶，帮助信徒克服愤怒和物欲等障碍，最终开悟证道。军荼利在梵文中的原意是“甘露”，因此军荼利明王又被称为甘露军荼利明王。这座庭园里的瀑布就代表了他降下的长生不老的灵药甘露。

<繁体字>

軍荼利明王

寺廟庭園裡一道瀑布旁有一尊「軍荼利明王」石雕。這是一位面色恐怖的八臂戰士，周身被火焰環繞。軍荼利明王為佛教密宗五大明王之一，源自印度教神祇軍荼利。明王都是智慧尊者，他們守護著佛教信仰，降伏邪惡，幫助信徒克服憤怒和物慾等障礙，最終開悟證道。軍荼利在梵文中的原意是「甘露」，因此軍荼利明王又被稱為甘露軍荼利明王。這座庭園裡的瀑布就代表了祂降下的長生不老的靈藥甘露。

<日本語仮訳>

軍荼利明王

寺院の庭園の中には滝があり、その隣には炎に包まれた、8本もの腕を持つ恐ろしい形相の武将、軍荼利明王の石の彫刻があります。軍荼利は、仏教密宗の五大明王の一尊であり、ヒンドゥー教の神クンダリーがその由来です。五大明王は、仏法を守護し、悪をこらしめ、怒りや物欲などの障害を乗り越えて仏の教えに導く役目を持ちます。「軍荼利」はサンスクリット語で甘露を意味するため、甘露軍荼利とも呼ばれます。甘露は不老不死の靈薬のことで、軍荼利の滝がそれを表現しているのです。

【タイトル】 二天王像

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

二天王像

位于贵惣門两侧的二天王像守护着妻沼圣天山欢喜院。这两座身着中国式盔甲的生动神像是佛教四大天王中的两位，他们各自镇守佛教中四方部洲的一方，并保护世界免受恶灵侵害。大门左边是守护东胜神洲和保护国家的持国天王，右边则是守护北俱芦洲和佛法的多闻天王，也称毗沙门天。满面凶相的天王造像将恶鬼踩在脚下，代表他们拥有战胜邪恶的力量。据推测，二天王像雕刻于 1851 年，与贵惣門同时期建造。

<繁体字>

二天王像

位於貴惣門兩側的二天王像守護著妻沼聖天山歡喜院。這兩座身著中國式盔甲的生動神像是佛教四大天王中的兩位，祂們各自鎮守佛教中四方部洲的一方，並保護世界免受惡靈侵害。大門左邊是守護東勝神洲和保護國家的持國天王，右邊則是守護北俱蘆洲和佛法的多聞天王，也稱毗沙門天。滿面凶相的天王造像將惡鬼踩在腳下，代表祂們擁有戰勝邪惡的力量。據推測，二天王像雕刻於 1851 年，與貴惣門同時期建造。

<日本語仮訳>

二天王像

貴惣門の両脇には二天王像が立ち、妻沼聖天山歡喜院を守護しています。中国式の鎧を身に着けたこの躍動感あふれる像は、四方の守護神で世の中を邪鬼から守る四天王のうちの二尊です。門の左側に立つのが、東勝神洲と国家を守護する持国天。右側に立つのが、北俱蘆洲と佛法を守護する多聞天で、毘沙門天とも呼ばれます。二天王は、邪鬼を踏みつける忿怒の姿で立っており、悪を退ける功德を表現しています。二天王像 1851 年、貴惣門の建立と同時期に彫られたものと考えられています。

【タイトル】 板石塔婆

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB・パンフレット

<簡体字>

板石塔婆（板碑）

板石塔婆，即板碑，在 13 世纪至 16 世纪的日本十分常见。板碑上通常刻有佛教图像和祈祷词，用以提醒信徒坚持真正的佛教之路。关东地区的大多数板碑，包括妻沼圣天山欢喜院附近的这些，均由绿泥石片岩制成，开采自附近的埼玉县秩父市和小川町。

妻沼圣天山欢喜院的板碑上雕刻着无量光佛——阿弥陀佛，两边的胁侍菩萨分别是大慈大悲观音菩萨和大喜大舍势至菩萨，这样的组合在中国被称为“西方三圣”。这幅半浮雕是长野县善光寺“一光三尊阿弥陀像”的复制品，原像于公元 6 世纪从印度引入，被认为是日本最古老的佛像之一。“一光三尊”是一种佛教造像形式，表现为一个光背，以及由中心主佛加上两尊菩萨组成的三尊佛。位于中心的阿弥陀佛被 7 个光环包围，每一个都代表了佛陀的一种化形。

板碑的背面刻有释迦牟尼和他的两位侍者——文殊菩萨和普贤菩萨的梵文名字。这块板碑高 178 厘米，宽 59 厘米，被认为出自镰仓时代(1185-1333)。它是埼玉县指定物质文化遗产。

<繁体字>

板石塔婆（板碑）

板石塔婆，即板碑，從 13 世紀至 16 世紀，在日本各地十分常見。板碑上通常刻有佛教圖像和祈禱詞，以提醒信徒堅持真正的佛教之路。關東大部分地區，包括妻沼聖天山歡喜院附近等地的板碑，都是由開採自鄰近埼玉縣秩父市和小川町的綠泥石片岩製成。

妻沼聖天山歡喜院的板碑上雕刻著無量光佛——阿彌陀佛，兩邊的脅侍菩薩分別是大慈大悲觀音菩薩和大喜大舍勢至菩薩，這樣的組合在中國被稱為「西方三聖」。這幅半浮雕是長野縣善光寺「一光三尊阿彌陀像」的複製品，原像於西元 6 世紀從印度引入，被認為是日本最古老的佛像之一。「一光三尊」是一種佛教造像形式，表現為一個光背，以及由中心主佛加上兩尊菩薩組成的三尊佛。位於中心的阿彌陀佛被 7 個光環包圍，每一個都代表了佛陀的一種化形。

板碑的背面刻有釋迦牟尼和祂的兩位侍者，即文殊菩薩和普賢菩薩的梵文名字。這塊板碑高 178 公分，寬 59 公分，被認為出自鎌倉時代（1185-1333）。它是埼玉縣指定物質文化財產。

<日本語仮訳>

板石塔婆

板石塔婆または板碑は、13世紀から16世紀にかけて日本全国で広く造られたものです。一般的に、仏像や供養の内容などが刻まれ、信仰者が仏道から外れないようにするためのものでした。妻沼聖天山歓喜院の近くにあるものを含め、関東地方の板碑は、埼玉県の秩父市や小川町で採掘された緑色の緑泥片岩でできています。

妻沼聖天山歓喜院の板石塔婆には、主尊に無量の光明の仏阿弥陀如来、脇侍に慈悲の仏観音と智慧の仏勢至両菩薩が彫られています。このような組み合わせは中国では「西方三聖」と呼ばれています。この半浮き彫りは、6世紀にインドから持ち込まれた、長野県の善光寺の一光三尊阿弥陀如来像を再現したもので、日本に持ち込まれた仏教画の中でも最古の部類に入るものと考えられています。「一光三尊」とは、中尊と両脇侍の三尊仏が一つの光背を負う仏像形式の一種です。この三尊立像は、中央に立つ阿弥陀如来から発せられる光に7体の化仏が表現されています。

板碑の裏には釈迦牟尼と2人の従者である文殊菩薩と普賢菩薩の名前がサンスクリット語で刻まれています。板石塔婆の大きさは、高さ178センチ、幅59センチで、鎌倉時代（1185-1333）に施されたものと思われ、埼玉県の有形文化財に指定されています。

【タイトル】 坂田医院旧診療所

【想定媒体】 アプリ QR コード

<簡体字>

坂田医院旧诊所

坂田医院旧诊所位于妻沼的商店街上，是一座保存完好的装饰艺术风格(Art Deco)建筑。1931年，坂田康太郎医生创建了诊所，并设置了妇产科和内科。诊所长长的走廊上排列着诊疗室、检查室、产房、手术室、X光室和暗房等10个房间。大多数原有设备和工具都保留了下来，比如玻璃注射器、烧瓶、手术用具、诊疗床、X光设备和医学文献。

在这里还能看到许多当时的灯具，有装饰艺术风格的吊灯，也有乳白玻璃圆球灯。诊所的灯具和家具都非常实用，并且还是当时最流行的设计风格。

诊所的内部装修直到20世纪80年代诊所关闭时也基本没有变化。作为装饰艺术风格建筑和昭和时代(1926-1989)早期医疗技术的典范，诊所被当地保存下来，并成为国家登录物质文化财产。

诊所每年会不定期向公众开放数次。

<繁体字>

坂田醫院舊診所

坂田醫院舊診所位於妻沼的主商店街上，是一座保存完好的裝飾藝術風格 (Art Deco) 建築。1931年，坂田康太郎醫生創立了診所，並設置了婦產科和內科。診所長長的走廊上排列著醫務室、檢查室、產房、手術室、X光室和暗房等10個房間。大多數原有設備和工具都保留了下來，比如玻璃注射筒、燒瓶、手術用具、診療床、X光設備和醫學文獻。

在這裡還能看到當時的多種燈具，有裝飾藝術風格的吊燈，也有乳白玻璃圓球燈。診所的燈具和傢俱非常實用，也緊跟當時最流行的設計風格。

多年以來，診所的內部裝修基本沒有變化，直到1980年代歇業為止。作為裝飾藝術風格建築和昭和時代 (1926-1989) 早期醫療技術的典範，診所被地方上保留了下來，並成為國家登錄物質文化財產。

診所每年向公眾開放數次，時間不定。

<日本語仮訳>

坂田医院旧診療所

坂田医院旧診療所は、妻沼の商店街にある保存状態の良いアール・デコ様式の建物です。診療所は坂田康太郎が 1931 年に開業した産科・内科医院です。長い廊下沿いに診療室、検査室、分娩室、手術室、X 線室、暗室など 10 の部屋が配置されています。ガラス製の注射器やフラスコ、手術道具、診察台、X 線撮影装置、医療テキストなど、当時の設備や道具の多くがそのまま残されています。

装飾豊かなアール・デコ調のペンダント灯からミルクグラスグローブまで、当時の照明設備までもが残されています。照明設備や家具は診療所に適した実用的なものでありながら、当時のデザインの流行が反映されています。

内装は 1980 年代に診療所が閉鎖されるまでの長い間ほとんど変わっておらず、昭和時代（1926-1989）初期の医療技術とアール・デコ建築を象徴するものとして、町が保存してきました。坂田医院旧診療所は国登録有形文化財です。

建物は、年に数回一般公開されています。

【タイトル】坂田医院旧診療所

【想定媒体】WEB

<簡体字>

坂田医院旧诊所

坂田医院旧诊所位于妻沼的主要商业街上，宽大的门面和设计细节都表明这是一座典型的 20 世纪 30 年代西式建筑，属于装饰艺术风格(Art Deco)。1931 年，坂田康太郎医生创建诊所，并设置了妇产科和内科。当时，妻沼圣天山欢喜院周边的妻沼地区大多还是乡野田舍，西式建筑更是十分罕见。

这是一座钢筋混凝土平房，沿着弧形阶梯进入门廊，里面就是一个宽敞的等候区。正面外墙装饰着带有纹理的瓷砖，这令诊所外观看起来更为独特。长长的走廊两边，排列着诊疗室、检查室、产房、手术室、X 光室和暗房等 10 个房间。大多数原有设备和工具都保留了下来，比如玻璃注射器、烧瓶、手术用具、诊疗床、X 光设备和医学文献。

院内灯具种类繁多，既有装饰艺术风格的吊灯，也有乳白玻璃圆球灯。诊所的灯具和家具都非常实用，式样也是当时最为流行的设计风格。

直到 20 世纪 80 年代诊所关闭，它的内部装修都基本没有变化。作为装饰艺术风格建筑和昭和时代(1926-1989)早期尖端医疗技术的典范，诊所被旧妻沼町保存下来。作为昔日社会现代化的一个缩影，这家诊所成为了国家登录物质文化财产。

诊所每年会不定期向公众开放数次。

<繁体字>

坂田醫院舊診所

坂田醫院舊診所位於妻沼的主要商業街上，寬大的門面和設計細節都表明這是一座典型的 1930 年代西式建築，屬於裝飾藝術風格（Art Deco）。1931 年，坂田康太郎醫生創立診所，並設置了婦產科和內科。當時，妻沼聖天山歡喜院周邊的妻沼地區大多還是鄉野田舍，西式建築更是十分罕見。

這是一座鋼筋混凝土平房，沿著弧形階梯進入門廊，裡面就是一個寬敞的等候區。正面外牆裝飾著帶有紋理的瓷磚，這令診所外觀看起來更為獨特。長長的走廊兩邊，排列著醫務室、檢查室、產房、手術室、X 光室和暗房等 10 個房間。大多數原有設備和工具都保留下來，比如玻璃注射筒、燒瓶、手術用具、診療床、X 光設備和醫學文獻。

院內燈具種類繁多，既有裝飾藝術風格的吊燈，也有乳白玻璃圓球燈。診所的燈具和傢俱都非常實用，同時也緊跟當時最為流行的設計風格。

直到 1980 年代診所歇業，它的內部裝修基本沒有變化。作為裝飾藝術風格建築和昭和時代（1926-1989）早期尖端醫療技術的典範，診所被舊妻沼町保留下來。作為昔日社會現代化的縮影，這家診所成為了國家登錄物質文化財產。

診所每年向公眾開放數次，時間不定。

<日本語仮訳>

坂田医院旧診療所

坂田医院旧診療所は、妻沼の中心商店街にあります。その広い間口と設計のディテールは、1930 年代の洋風建築、とりわけアール・デコ様式の建築の特徴を有しています。診療所は坂田康太郎が 1931 年に開業した産科・内科医院です。当時、妻沼聖天山歓喜院を中心とした妻沼地域はかなりの田舎で、洋風建築自体が珍しいものでした。

この鉄筋コンクリート造の平屋の玄関ポーチには階段のアーチ道があり、広い待合室へとつながっています。ファサードはテクスチャード仕上げのセラミックタイルでできており、その特徴的な外観をさらに印象的なものにしてしています。診療所内には、長い廊下沿いに診療室、検査室、分娩室、手術室、X 線室、暗室など 10 の部屋が配置されています。ガラス製の注射器やフラスコ、手術道具、診察台、X 線撮影装置、医療テキストなど、当時の設備や道具の多くがそのまま残されています。

装飾豊かなアール・デコ調のペンダント灯からミルクグラスグローブまで、当時の照明設備までもが残されています。照明設備や家具は診療所に適した実用的なものでありながら、当時のデザインの流行が反映されています。

内装は 1980 年代に診療所が閉鎖されるまでの長い間ほとんど変わっておらず、昭和時代（1926-1989）初期の先端医療技術とアール・デコ建築を象徴するものとして、旧妻沼町が保存してきました。坂田医院旧診療所は、当時の近代化を象徴するものとして、有形文化財として登録されています。

建物は、年に数回一般公開されています。

【タイトル】熊谷うちわ祭

【想定媒体】アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

熊谷团扇节

7月，熊谷迎来一年一度的团扇节。7月20日至22日的三天之中，熊谷市中心将化身为音乐和色彩的海洋。来自当地12个社区的参与者在现场音乐的伴奏下，拉着花团锦簇的花车在街道中穿行。这是埼玉县最受欢迎的节日之一，被称为“关东第一的祇园祭”，每年都会吸引大量游客前来。

高温辟邪，从赤豆饭到团扇

团扇节始于18世纪中期，当时人们会在熊谷的爱宕八坂神社举行一系列神道教仪式，以祈求祛除病苦。到19世纪中期，在熊谷的街道上游行也成为节日仪式的一部分。家庭和商家会制作并分发被认为可以辟邪的吉祥食品——赤饭(Sekihan)，即赤豆饭。20世纪初期，当地商人开始用发放团扇代替赤豆饭。熊谷是关东地区（东京及其周边县）最热的地方之一，因此扇子也变得非常抢手。随着时间推移，节日的焦点已经从预防疾病转移到了祈祷丰收和商业成功，如今，绚丽多彩的花车游行成为了熊谷团扇节的最大特色。

三天三夜的五彩花车狂欢

熊谷12个社区各自拥有一辆布满精巧的雕刻和装饰的花车。拉着花车在市中心的街道上游行，特别能体现社区的自豪感。其中7辆是高大的“山车”，高度可达9米，装饰着古代神灵和历史人物造像；其余5辆则是被称为“屋台”的花车。所有花车都配备了乐师，他们击鼓、敲钹、吹笛，后面还有提着灯笼的队伍陪同他们前行。

7月20日中午时分，来自12个社区的代表们从爱宕八坂神社将一辆神舆（神轿）抬到市中心。大约黄昏时分，身着各自社区代表色衣服的团队，用长绳拉着神舆经由市中心回到熊谷火车站附近的节日广场。等到太阳落山，神舆就会亮起纸灯笼。这个过程被称为“渡御祭”。

伸缩式花车和热情的乐师

第二天中午时分，熊谷周围的17号国道开始禁止车辆通行，12个社区的山车和屋台将在这里巡游，这个仪式被称为“巡行祭”。行人可以在国道上漫步，享受沿途小摊上的美食。伸缩式的高大山车调整高低后就能从沿途的人行天桥下通过。到了晚上，花车会在熊谷车站前排成扇形。

节日的最后一天，花车在熊谷车站前排成一列，迎来节日的最高潮——“撞山车”。为了成为下一年节日的领头花车，各团队的乐师们使出浑身解数，现场音乐演奏达到巅峰。最后，节日活动在“还御祭”中结束，花车也在庄严的气氛中被抬回神社。

熊谷团扇节被熊本市指定为非物质民俗文化财产。

<繁体字>

熊谷團扇節

7月，熊谷迎來一年一度的團扇節。7月20日至22日的三天之中，熊谷市中心將化身為音樂和色彩的海洋。來自當地12個社區的參與者在現場音樂的伴奏下，拉著花團錦簇的花車在街道中穿行。這是埼玉縣最受歡迎的節日之一，被稱為「關東第一的祇園祭」，每年都吸引大量遊客前來。

高溫辟邪，從赤豆飯到團扇

團扇節始於18世紀中期，當時人們會在熊谷的愛宕八坂神社舉行一系列神道教儀式，以祈求祛除病苦。到19世紀中期，在熊谷的街道上遊行也成為節日儀式的一部分。家庭和商店會製作並發送被認為可以辟邪的吉祥食品——赤飯（Sekihan，即赤豆飯）。20世紀初期，當地商販開始用發放團扇代替赤豆飯。熊谷是關東地區（東京及其周邊縣）最熱的地方之一，因此扇子也變得非常搶手。隨著時間推移，節日的焦點已經從預防疾病轉移到了祈禱豐收和生意興隆，如今，絢麗繽紛的花車遊行成為了熊谷團扇節的最大特色。

三天三夜的五彩花車狂歡

熊谷12個社區各自擁有一輛佈滿精巧的雕刻和裝飾的花車。拉著花車在市中心的街道上遊行，最能體現社區的自豪感。其中7輛是高大的「山車」，高度可達9公尺，裝飾著古代神祇歷史人物形象；其餘5輛則是被稱為「屋台」的花車。所有花車都配備了樂師，他們擊鼓、敲鈸、吹笛，後面還有提著燈籠的隊伍陪同他們前行。

7月20日中午時分，來自12個社區的代表們從愛宕八坂神社將一輛神輿（神轎）抬到市中心。大約黃昏時分，身著各自社區代表色的團隊用長繩拉著神輿經由市中心回到熊谷火車站附近的節日廣場。等到太陽落山，神輿亮起紙燈籠。這個過程被稱為「渡御祭」。

伸縮式花車和熱情的樂師

第二天中午時分，熊谷周圍的17號國道開始禁止車輛通行，12個社區的山車和屋台將在這裡巡遊，被稱為「巡行祭」。行人可以在國道上漫步，享受沿途小攤上的美食。伸縮式的高大山車調整高低後就能從沿途的人行天橋下通過。到了晚上，花車會在熊谷車站前排成扇形。

節日的最後一天，花車在熊谷車站前排成一列，迎來節日的最高潮——「撞山車」。為了成為下一年節日的領頭花車，各團隊的樂師們使出全身解數，現場音樂演奏達到巔峰。最後，節日活動在「還御祭」中結束，花車也在莊嚴的氣氛中被抬回神社。

熊谷團扇節被熊本市指定為非物質民俗文化財産。

<日本語仮訳>

熊谷うちわ祭

熊谷うちわ祭が開催される毎年7月20日-22日までの3日間、熊谷の市街地は音と色彩が街を満たします。12の地区から集められた参加者が豪華に飾り付けられた山車を引き、音楽に合わせて街中を練り歩くのです。この埼玉県有数の祭りは、「関東一の祇園祭」と呼ばれており、毎年多くの人で賑わいます。

暑さで厄払い、赤飯からうちわへ

熊谷うちわ祭は、疫病退散を祈願して、熊谷市の愛宕八坂神社で神道の儀式の一環として18世紀中ごろに始まりました。19世紀中ごろには、熊谷市の街路を進む巡行も、この祭りに加わります。一般の家庭や店舗は、悪を追い払うと信じられている縁起の良い食べ物、赤飯を作り配ります。20世紀になると、地元の商人は赤飯の代わりにうちわを配るようになりました。熊谷市は、関東地方（東京およびその近隣県）の中でも最も暑い場所の1つで、このうちわが大いに人気を博しました。時の流れと共に、熊谷うちわ祭の目的は、疫病退散から五穀豊穰や商売繁盛へと変わり、装飾の施された山車の巡行が今ではこの祭りの象徴となっています。

三日三晩の色鮮やかな山車とお祭り騒ぎ

熊谷市の12ヶ町が、精巧な彫刻と装飾が施された山車を誇らしげに引き、熊谷の市街地を巡行します。このうち7つが高さ9メートルにも及ぶ山車で、そこには古代の神々や歴史上の人物などが描かれています。残りの5つは屋台と呼ばれる山車です。いずれの山車にも太鼓や摺鉦、笛を鳴らす奏者が乗っており、提灯を担いだ者たちがこれに続いて行進します。

7月20日の正午になると、12ヶ町の代表団が愛宕八坂神社から神輿をかついで市街地へとやってきます。夕暮れになると、神輿は各町の色衣装を身に着けた一団が長い縄を使って、市街地を巡行して、熊谷駅近くのお祭り広場へに戻ってきます。日が暮れる頃には、神輿は提灯でライトアップされます。この行事は「渡御祭」と呼ばれます。

伸縮可能な山車と情熱的な奏者

2日目、熊谷市周辺の国道17号は通行止めになり、ここを正午の12カ町の山車と屋台が巡行する「巡行祭」が行われます。歩行者が国道を歩き、道沿いの屋台で飲食を楽しみます。山車は、道中の歩道橋の下をくぐるように、伸縮可能な仕組みになっています。夜になると、駅前で山車がうちわ状に並びます。

最終日には、「曳っ合せ叩き合い」で、祭りのクライマックスを迎えます。熊谷駅前で山車が並びます。各町区の一団が声を張り上げ、景気よく楽器を鳴らして、来年の祭りの大総代に選ばれるため競い合います。その後、厳かな空気の中、山車が本宮まで戻っていく「還御祭」が執り行われ、静かに祭りを終えます。

熊谷うちわ祭は、熊谷市指定無形民俗文化財です。

【タイトル】 大師堂

【想定媒体】 WEB・パンフレット

<簡体字>**大师堂**

妻沼圣天山欢喜院的大师堂重建于1995年，供奉着著名的佛学大师空海[※]（774-835；谥号弘法大师）。他积极推动佛教在日本的普及，创立了妻沼圣天山欢喜院所属的真言宗。

在空海出生的四国，有一条名为“四国遍路”的朝圣路线。这条路线连接着空海曾经修行的88座寺庙。人们在关东地区（东京及其周边县）也建立了一条类似的朝圣路线，连接的是88座与空海有关的寺庙。妻沼圣天山欢喜院就是关东朝圣路线上的最后一座寺庙。一些朝圣者会身着传统的白色朝圣服来到大师堂，而朝圣者团体通常会在大师堂前留影纪念，以庆祝朝圣圆满完成。大师堂内展示着许多这样的照片。

※空海出生于四国香川县（旧名赞岐）。他于31岁时作为遣唐使来到长安，在青龙寺跟随密宗第七代祖师惠果学习。两年后，他回到日本开创了真言宗，并开辟了日本佛教圣地高野山。今天，中国西安的青龙寺里矗立着中日共建的空海纪念碑，还种植了大片樱花林。

<繁体字>**大師堂**

妻沼聖天山歡喜院的大師堂重建於1995年，供奉著著名的佛學大師空海[※]（774-835；諡號弘法大師）。他積極推動佛教在日本的普及，創立了妻沼聖天山歡喜院所屬的真言宗。

在空海出生的四國，有一條名為「四國遍路」的朝聖路線。這條路線連接著空海曾經修行的88座寺廟。人們在關東地區（東京及其周邊縣）也建立了一條類似的朝聖路線，連接的是88座與空海有關的寺廟。妻沼聖天山歡喜院就是關東朝聖路線上的最後一座寺廟。一些朝聖者會身著傳統的白色朝聖服來到大師堂，而朝聖者團體通常會在大師堂前留影紀念，以慶祝朝聖圓滿完成。大師堂內展示著許多這樣的照片。

※空海出生於四國香川縣（舊名贊岐）。他31歲時作為遣唐使來到長安，在青龍寺跟隨密宗第七代祖師惠果學習。兩年後他回到日本，開創了真言宗，並開闢了日本佛教聖地高野山。如今，中國西安的青龍寺裡矗立著中日共建的空海紀念碑，還種植了大片櫻花林。

<日本語仮訳>

大師堂

1995年に再建された妻沼聖天山歓喜院の大師堂には、日本に仏教を広めたことで有名な僧侶、空海※（774-835、死後は弘法大師として知られる）が祀られています。空海は、妻沼聖天山歓喜院が属する真言宗の開祖です。

空海が生まれた四国には、「四国遍路」という巡礼路があり、空海が修行を行った88箇所の寺院を繋ぎます。関東地方（東京およびその近隣県）にも、同様の巡礼路があり、空海と縁のある88の寺院が結ばれています。妻沼聖天山は歓喜院、この関東の巡礼路の最後の寺院にあたります。巡礼者の中には、伝統的な白装束に身を包んで大師堂を訪れる人もいます。また、巡礼者の一団が巡礼を無事終えることを祝うため、大師堂の前で記念写真を取ることも珍しくなく、そうした写真の多くが堂内に展示されています。

※空海は四国の香川県（旧讃岐）で生まれました。31歳のときに、遣唐使として長安に渡り、青龍寺で真言密教第七祖・恵果大師に師事しました。2年後に帰国した彼は、真言宗を広め、高野山で日本仏教の聖地を開創しました。現在、中国西安の青龍寺には、日中両国で建てた空海の記念碑があり、周りには多くの桜の木が植えられています。

【タイトル】妻沼聖天山歡喜院

【想定媒体】看板・パンフレット

<簡体字>

<看板（缩写）>

妻沼圣天山欢喜院

妻沼圣天山欢喜院由著名武将斋藤实盛(1111-1183)于1179年创建，装饰极尽奢华的本殿（正殿）和建有佛塔、佛像的回游式庭园是其特点。

主入口贵惣门的屋檐十分特别，从侧面看呈“众”字形，可以保护下面的木雕免受风雨侵扰。本殿圣天堂建于1760年，供奉着吉祥、夫妻和睦和长寿之神“圣天”，被指定为国宝。它的外壁上装饰着五彩斑斓的雕刻，雕刻描绘着寓言故事、佛教教义和中国古典文化，常被拿来与栃木县的日光东照宫作比较。

斋藤别当实盛雕像表现的是已经70多岁的他正拿着镜子和毛笔，准备将自己的头发染黑。据说他为了避免被年轻的武士们轻视，在篠原之战(1183)前染发上阵，最终战死沙场。

寺院本殿后面的庭园里有小溪、瀑布，还有一条蜿蜒小路，沿路而行能看见佛像以及一座双层和平塔。

<小册子（原文）>

妻沼圣天山欢喜院

一座装饰极尽奢华的本殿（正殿），一处漫步其中就能观赏佛塔、佛像的回游式庭园——这就是妻沼圣天山欢喜院的与众不同之处。寺院由著名武将斋藤实盛(1111-1183)于1179年创建，本殿圣天堂则建于1760年，里面供奉着吉祥、夫妻和睦和长寿之神“圣天”，即大圣欢喜天。

贵惣门是寺庙的主入口，从侧面看，三个重叠屋檐形成“众”字形，这种独特的结构可以保护下面的装饰木雕免受风雨侵扰。进贵惣门后沿着主路就可以到达本殿，这里汇聚着寺庙的核心精神力量，被指定为国宝。圣天堂外壁装饰着五彩斑斓、精致繁复的木雕，描绘了寓言故事、佛教教义和中国古典文化中的四艺，因奢华而常被拿来与栃木县的日光东照宫作比较。

寺院创建人斋藤实盛的雕像表现的是已经70多岁的他正拿着镜子和毛笔，准备将自己头发染黑。据说他为了避免被年轻的武士们轻视，在篠原之战(1183)前染发上阵，最终战死沙场。

寺院本殿后面的庭园里有小溪、瀑布，还有一条蜿蜒小路，沿路而行能看见佛像以及一座为纪念在二战中牺牲的人们而建造的双层和平塔。

<繁體字>

<看板 (縮寫) >

妻沼聖天山歡喜院

妻沼聖天山歡喜院由著名武將齋藤實盛（1111-1183）於 1179 年創建，裝飾極盡奢華的本殿（正殿）和建有佛塔、佛像的迴遊式庭園是其特點。

主入口貴惣門從側面看形似三個「人」疊字形屋簷十分特別，可以保護下面的木雕免受風雨侵擾。本殿聖天堂建於 1760 年，供奉著吉祥、夫妻和睦和長壽之神「聖天」，被指定為國寶。它的外壁裝飾有五顏六色的雕刻，描繪著寓言故事、佛教教義和中國古典文化，常被拿來與栃木縣的日光東照宮作比較。

齋藤別當實盛雕像描繪的是已經 70 多歲的他正拿著鏡子和毛筆，準備將自己的頭髮染黑。據說他為避免被年輕的武士們看輕，在篠原之戰（1183）前染髮上陣，最終戰死沙場。

寺院本殿後面的庭園裡有小溪、瀑布，還有一條蜿蜒小路，沿路而行能看見佛像以及一座雙層和平塔。

<小冊子 (原文) >

妻沼聖天山歡喜院

一座裝飾極盡奢華的本殿（正殿），一處漫步其中就能觀賞佛塔、佛像的迴遊式庭園——這就是妻沼聖天山歡喜院與眾不同的地方。寺院由著名武將齋藤實盛（1111-1183）於 1179 年創立。本殿聖天堂則建於 1760 年，裡面供奉著吉祥、夫妻和睦和長壽之神「聖天」，即大聖歡喜天。

貴惣門是寺廟的主入口，從側面看，三個重疊屋簷形成三「人」疊字形，這種獨特的結構可以保護下面的裝飾木雕免受風雨侵擾。進貴惣門後沿著主路就可以到達本殿聖天堂，這裡彙聚著寺廟的核心精神力量，被指定為國寶。聖天堂外部裝飾著五顏六色、精緻繁複的木雕，描繪了寓言故事、佛教教義和中國古典文化中的四藝，因奢華而常被拿來與栃木縣的日光東照宮作比較。

寺院創始人齋藤實盛的雕像描繪的是已經 70 多歲的他正拿著鏡子和毛筆，準備將頭髮染黑。據說他為避免被年輕的武士們看輕，在篠原之戰（1183）前染髮上陣，最終戰死沙場。

寺院本殿後面的庭園裡有小溪、瀑布，還有一條蜿蜒小路，沿路而行能看見佛像以及一座為紀念在二戰中犧牲的人們而建的雙層和平塔。

<日本語仮訳>

妻沼聖天山歡喜院

<看板バージョン>

妻沼聖天山歓喜院は、名高い武将である斎藤実盛（1111-1183）が 1179 年に創建したもので、豪華な装飾が施された本殿と、仏塔や仏彫像がある回遊式庭園が特徴です。

正面入口に立つ貴惣門の最大の特徴は、横から見たときに「众（中国語の「衆」）」という漢字の形を呈する屋根で、門の装飾を風雨から守っています。国宝に指定された本殿の聖天堂は 1760 年に建てられており、吉兆・夫婦円満・長寿の神である聖天様が祀られており、その外壁は、寓話や仏教の教え、伝統的な中国文化を伝える色鮮やかな彫刻で装飾されており、栃木県の日光東照宮とよく比較されます。

斎藤別当実盛像は、白髪を染める構えで鏡と筆を手に持つ 70 代の姿で表現されています。実盛公は、若い武士に見くびられまいと、戦の前に白髪を黒く染めたと言われており、篠原の戦い（1183）で最後を遂げています。

本殿建物の裏にある庭園には小川と滝があり、そこを通る曲がりくねった小道沿いには仏教彫像と 2 階建ての平和の塔が配されています。

<パンフレットバージョン>

豪華な装飾が施された本殿と、仏塔や仏彫像がある回遊式の庭園が妻沼聖天山歓喜院の特徴です。歓喜院は、名高い武将である斎藤実盛（1111-1183）が 1179 年に創建したものです。本殿聖天堂は 1760 年に建てられており、吉兆・夫婦円満・長寿の神である聖天（歓喜天）様が祀られています。

貴惣門は歓喜院の正面入口の門で、横から見ると「众（中国語の「衆」）」という漢字の形を呈する 3 枚の切妻が折り重なった屋根が、その特徴です。この独特な構造は装飾的な彫刻を風雨から守るためのものです。正面入口は、歓喜院の精神的支柱である本殿につながっています。聖天堂は、国宝に指定されており、その外観には、寓話や仏教の教え、伝統的な中国文化の「四芸」を伝える色鮮やかな彫刻で装飾されおり、その特徴から栃木県の日光東照宮とよく比較されます。

歓喜院を創建した斎藤実盛の像は、白髪を染める構えで鏡と筆を手に持つ 70 代の姿で表現されています。実盛公は、若い武士に見くびられまいと、戦の前に白髪を黒く染めたと言われており、篠原の戦い（1183）で最後を遂げています。

本殿建物の裏にある庭園には小川と滝があり、そこを通る曲がりくねった小道沿いには仏教彫像と第二次世界大戦の戦没者の英霊の鎮魂のために建立された、2 階建ての平和の塔が配されています。

【タイトル】 妻沼聖天山歡喜院

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

妻沼圣天山欢喜院

妻沼圣天山欢喜院由著名武将斋藤实盛(1111-1183)于1179年创建，装饰极尽奢华的本殿（正殿）和建有佛塔和佛像的回游式庭园是它的特点。

圣天堂是寺院的本殿，建于1760年，供奉着吉祥、夫妻和睦和长寿之神“圣天”，即大圣欢喜天。它是江户时代(1603-1867)中期装饰型寺庙建筑的典范，因其精致繁复的木雕而常被拿来与栃木县的日光东照宫作比较。不过，日光东照宫的装饰由于受到殿阁制式限制，各种技艺运用比较分散，而圣天堂的奥殿则将各类装饰手法集于一体。

寺庙主入口

贵惣门是寺庙的主入口，也是埼玉县最大的寺门，被指定为国家重要文化财产。它的两重屋檐很具特色，下层有两个单独的并排屋檐，上层则是一个大屋檐，从侧面看，三个重叠屋檐形成“众”字形，这样可以保护下面的木雕免受风雨侵扰。同样形式的门楼在全日本仅存数栋，此处规模最大。立体生动、雕刻精细的二天王雕像分列大门两侧，守护着寺院。

正面入口通往本殿圣天堂，这里汇聚着寺庙的核心精神力量，被指定为国宝。圣天堂外部装饰着五彩缤纷的木雕，这些雕刻描绘着寓言故事、佛教教义和体现中国古典文化的画面。

英勇果敢的战士

寺内有一尊寺庙创始人斋藤实盛的雕像，已经70多岁的他正拿着镜子和毛笔，准备将白发染黑。据说他为了避免被年轻的武士们轻视，在篠原之战(1183)前染发上阵，最终战死沙场。斋藤实盛曾统治过今天的埼玉县北部，也曾先后成为源氏和平家的家臣，这两大家族在12世纪为了夺取对国家的统治权而争斗不休。

和谐宁静的庭园

寺院本殿后面的庭园里有小溪和瀑布，还有一条蜿蜒小路，沿路而行能看见佛像以及一座双层和平塔。和平塔是为了纪念在二战中牺牲的人们而建造。园里还有两棵“夫妇之树”，它们紧紧依偎，根部相互缠绕，被人们视为缔结良缘的象征。

妻沼圣天山欢喜院位于埼玉县熊谷北部妻沼地区中心，寺庙的许多建筑都由当地居民捐赠而建，其中包括国宝级的建筑，这在当时的日本十分罕见。

<繁体字>

妻沼聖天山歡喜院

妻沼聖天山歡喜院由著名武將齋藤實盛（1111-1183）於 1179 年創建，裝飾極盡奢華的本殿（正殿）和建有佛塔和佛像的迴遊式庭園是其特點。

聖天堂是寺院的本殿，建於 1760 年，供奉著吉祥、夫妻和睦和長壽之神「聖天」，即大聖歡喜天。它是江戶時代（1603-1867）中期裝飾型寺廟建築的典範，因其精緻繁複的木雕而常被拿來與栃木縣的日光東照宮做比較。不過，日光東照宮的裝飾由於受到殿閣制式限制，各種技藝的使用比較分散，而聖天堂的奧殿則將各類裝飾手法集於一體。

寺廟主入口

貴惣門是寺廟的主入口，也是埼玉縣最大的寺門，被指定為國家重要文化財產。它的兩重屋簷很具特色，下層有兩個單獨的並排屋簷，上層則是一個大屋簷，從側面看，三個重疊屋簷形成三「人」疊字形，這樣可以保護下面的木雕免受風雨侵擾。同樣形式的門樓在全日本僅存數棟，此處規模最大。立體生動、雕刻精細的二天王雕像分列大門兩側，守護著寺院。

正門入口通往本殿聖天堂，這裡彙聚著寺廟的核心精神力量，被指定為國寶。聖天堂外部裝飾著五彩繽紛的木雕，雕刻描繪著寓言故事、佛教教義和體現中國古典文化的畫面。

英勇果敢的戰士

寺內有一尊寺廟創始人齋藤實盛的雕像，已經 70 多歲的他正拿著鏡子和毛筆，準備將白髮染黑。據說他為免被年輕的武士們輕視，在篠原之戰（1183）前染髮上陣，最終戰死沙場。齋藤實盛曾統治過今天的埼玉縣北部，也曾先後成為源氏和平家的家臣，這兩大家族在 12 世紀為了奪取對國家的統治權而爭鬥不休。

和諧寧靜的庭園

寺院本殿後面的庭園裡有小溪和瀑布，還有一條蜿蜒小路，沿路而行能看見佛像以及一座雙層和平塔。和平塔是為了紀念在二戰中犧牲的人們而建造。園裡還有兩棵「夫婦之樹」，它們緊緊依偎，根部相互纏繞，被人們視為締結良緣的象徵。

妻沼聖天山歡喜院位於埼玉縣熊谷北部妻沼地區中心，寺廟的許多建築都由當地居民捐獻而建，其中包括國寶級的建築，這在當時的日本十分罕見。

<日本語仮訳>

妻沼聖天山歡喜院

妻沼聖天山歡喜院は、伝説の武将、齋藤実盛（1111-1183）が 1179 年に創建したもので、豪華な装飾が施された本殿と、仏塔や仏彫像がある回遊式の庭園がその特徴です。

本殿である聖天堂は、1760年に建てられており、吉兆・夫婦円満・長寿の神である聖天（歓喜天）が祀られています。江戸時代（1603-1867）中期の装飾的な寺院建築を代表するもので、その緻密な彫刻により栃木県の日光東照宮とよく比較されます。しかし日光では、各建物の格式に応じて装飾技法を使い分けられているため、装飾が分散していますが、聖天堂の奥殿では、様々な装飾技法をまとめて観ることが可能です。

歓喜院への玄関口

国の重要文化財に指定されている貴惣門は、歓喜院の正面入口であり、寺院の門としては埼玉県内最大級です。二層式の屋根は、下の層に独立した2枚の屋根があり、上の層に大きな屋根が1枚あります。横から見ると、屋根全体が「众（中国語の「衆」）」という漢字の形を呈しており、軒やまぐさに施されている装飾的な彫刻を風雨から守られます。この様式は日本には数棟現存しますが、この規模では全国に類例がありません。貴惣門の両脇には、緻密で立体的な二天王像があり、寺院を守っています。

正面入口は、歓喜院の精神的支柱である本殿、国宝にも指定された聖天堂につながっています。聖天堂の外観は、寓話や仏教の教え、伝統的な中国文化の側面を伝える色鮮やかな彫刻で装飾されています。

勇猛な武士

歓喜院を創建した斎藤実盛（1111-1183）の像は、白髪を染める構えで鏡と筆を手に持つ70代の姿で表現されています。実盛公は、若い武士に見くびられまいと、戦の前に白髪を黒く染めたとされており、篠原の戦い（1183年）で最後を遂げています。実盛公は今日の埼玉の北部を治めていた人物で、12世紀に天下を取るために戦った有力な一族、源氏から平家へ転じた家臣でした。

平和と調和の庭園

本殿建物の裏にある庭園には小川と滝があり、そこを通る曲がりくねった小道沿いには仏教彫像が配されています。ここにある2階建ての平和の塔は、第二次世界大戦の戦没者の英霊の鎮魂のために建立されました。夫婦の木として有名な2本の木が、その根が絡み合って寄り添うように立っており、強い絆で結ばれた幸せな関係のシンボルとなっています。

妻沼聖天山歓喜院は、埼玉県熊谷北部にある妻沼の中心部に位置しています。歓喜院の多くの建物は、地元の人々からの寄付金で建てられたものです。国宝級の建築物にあって、庶民の浄財のみで建てられたことは大変稀有なことです。

【タイトル】 精緻を極めた彫刻

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

精美绝伦的木雕作品

建造本殿（正殿）圣天堂，包括其木雕工程，大约共花了25年时间。日本的国宝级建筑大多由统治者出资修建，而圣天堂完全由当地社区捐助修建，这种情形十分罕见。本殿的木雕装饰精致奢华，色调艳丽，描绘着广为流传的佛教寓言和故事、中国古典文化元素，以及各种吉祥的象征。木雕图案亮丽明快，其精细程度反映了木雕大师们的高超技艺。

人们经常将这些雕刻与栃木县日光东照宫作比较，后者是祭祀幕府将军德川家康的神社，比圣天堂早100多年完工。日光东照宫的装饰由于受到殿阁制式限制，各种技艺运用比较分散，而圣天堂的奥殿则将各类装饰手法集于一身。一些参与建造圣天堂的能工巧匠也曾参加日光东照宫的修复工作。

寓言和耳熟能详的故事

本殿后面的奥殿背面和侧面的大板壁上描绘了七福神的故事。七福神是来自日本、中国、印度不同宗教的七位神灵，包括大黑天、惠比寿、四大天王之一毗沙门天、女神弁财天、福禄寿和寿老人、弥勒佛的化身布袋和尚，但也有以女神吉祥天、猩猩等替代上述部分神灵的说法。板壁底下有一些童子玩耍嬉戏的场景，为画面增添了轻松幽默的气氛，12只神情各异的猴子在童子们上方的柱头上目睹着这一切。屋檐下高处的木雕则描绘着中国古典故事。

自然美景和神兽瑞鸟

圣天堂木雕上的动植物被描绘得栩栩如生，从中可以看出工匠们对自然万物的敏锐观察。更多异想天开的神兽形象则映射了18世纪流行的民间信仰。雕刻的细节处理得非常精致，令经常前来参观的人每次都会有新发现。

屋檐下的昂（斗拱中翘起的构件）和拱头上的雕刻也万般生动逼真，一头头现实中的动物和神话中的神兽们正在探头向外张望。传说它们能够镇恶辟邪，从中可以找到龙、凤凰、狮子、大象和獬。獬也作獬，是一种“象鼻犀目、牛尾虎足”的日本神兽，与中国的《山海经》颇有渊源，据说它们会吞噬噩梦。

装饰艺术的瑰宝

这些木雕是石原吟八郎及其弟子的作品。圣天堂由同一屋顶下的三个殿阁组成：从前至后分别是拜殿、中殿和奥殿。奥殿建造得最早，木雕也最为精美奢华。装饰雕刻越往前方的拜殿就越显得稀少零落，这或许表明在圣天堂建设后期，资金已经不足乃至耗尽。

<繁体字>

精美絕倫的木雕作品

本殿（正殿）聖天堂的建造及雕刻，大約共花了 25 年時間。日本的國寶級建築大多由統治者出資修建，而聖天堂完全由地方百姓捐獻修建，這種情況十分少見。裝飾著本殿的木雕精緻奢華，色調豔麗，描繪著廣為流傳的佛教寓言和主題、中國古典文化元素，以及吉祥的象徵。木雕圖案亮麗明快，其精細程度反映了木雕大師們的高超技藝。

人們經常將這些雕刻與栃木縣日光東照宮的那些相提並論，後者是祭祀幕府將軍德川家康的神社，比聖天堂早 100 多年完工。日光東照宮的裝飾由於受到殿閣制式限制，各種技藝使用得比較分散，而聖天堂的奧殿則將各類裝飾手法集於一身。一些參與修建聖天堂的能工巧匠也曾參加日光東照宮的修復工作。

寓言和耳熟能詳的故事

奧殿位於本殿的後方，其背面和側面的大板壁上描繪了七福神的故事。七福神是來自日本、中國、印度不同宗教的七位神靈，包括大黑天、惠比壽、四大天王之一毗沙門天、女神弁財天、福祿壽和壽老人、彌勒佛的化身布袋和尚，但也有以女神吉祥天、猩猩等替代上述部分神靈的說法。板壁底下有一些童子玩耍嬉戲的場景，為畫面增添了輕鬆幽默的氣氛，12 隻神情各異的猴子在童子們上方的柱頭上目睹著這一切。屋簷下高處的木雕則描繪著中國古典故事。

自然美景和神獸瑞鳥

聖天堂木雕上的動植物被描繪得栩栩如生，從中可以看出工匠們對自然萬物的敏銳觀察。更多異想天開的神獸形象則映射了 18 世紀流行的民間信仰。雕刻的細節處理得非常精緻，即便是經常前來參觀的人，每次都還會有新發現。

屋簷下的昂（斗拱中翹起的構件）和拱頭上的雕刻也萬般生動逼真，一頭頭現實中的動物和神話中的神獸正在探頭向外張望。傳說牠們能夠鎮惡辟邪，從中可以找到龍、鳳凰、獅子、大象和獬。獬也作獬，是一種「象鼻犀目、牛尾虎足」的日本神獸，與中國的《山海經》頗有淵源，據說牠們會吞噬噩夢。

裝飾藝術的瑰寶

這些木雕是石原吟八郎及其弟子的作品。聖天堂由同一屋頂下的三個殿閣組成：從前至後分別是拜殿、中殿和奧殿。奧殿建造得最早，木雕也最為精美奢華。裝飾雕刻越往前方的拜殿就越顯得稀少零落，這或許表明在聖天堂建造後期，經費已經不足乃至耗盡。

<日本語仮訳>

精緻を極めた彫刻

彫刻を含む本殿、聖天堂の建設には 25 年が費やされました。日本の国宝建築の多くは、その時代の権力者によって建てられたものが多いが、聖天堂の資金は地元の人々からの寄付金で賄われたことは大変稀有なことです。本殿を飾る豪華で鮮やかな色彩の彫刻には、有名な仏教寓話やモチーフが描かれており、その中には古代中国の文化的側面や縁起の良いシンボルも含まれます。その画は明るく喜びにあふれ、彫刻技師の細部にまでわたる技術の高さが表れています。

彫刻は、100 年ほど先駆けて完成していた幕府将軍徳川家康の霊廟、栃木県の日光東照宮とよく比較されます。しかし日光では、各建物の格式に応じて装飾技法を使い分けられているため、装飾が分散していますが、聖天堂の奥殿では、様々な装飾技法をまとめて観ることが可能です。聖天堂の彫刻に携わった技師の一部は、日光東照宮の修復作業にも携わっています。

寓話と有名な物語

本殿の奥殿の背面および両脇の大きな彫刻には、七福神が描かれています。七福神は日本、中国、インドの異なる宗教の 7 尊の神様で、普通大黒天、えびす、四大天王のひとりの毘沙門天、女神の弁財天、福祿寿と寿老人、大きな袋を持った弥勒の化身である布袋のことを指します。代りに女神吉祥天や猩々を入れることもあります。七福神の下には、遊ぶ子供たちの様子が描かれており、ユーモアのある雰囲気加えられています。その様子を、それぞれ異なる表情の 12 匹の猿たちが子供たちの上にある柱のてっぺんから見守ります。高い位置にある軒下の彫刻では、中国の故事が描かれています。

自然の美しさと霊獣

聖天堂で描かれている動植物たちはまるで生きていたかのようで、自然界をよく観察していたことが伺えます。18 世紀に一般的だった民俗信仰が反映された霊獣が、一風変わった奇妙な姿で表現されています。細部が実に精巧で、何度も繰り返し訪れてみると、毎回新たな発見があります。

軒下の尾垂木や木鼻には、邪鬼を追い払うと考えられている実在または想像上の霊獣の躍動感あふれる頭が突き出しています。龍、鳳凰、獅子、象、それに、悪夢を食らうと言われる獺と呼ばれる想像上の日本の霊獣がここには描かれています。獺の形はクマに、鼻は象に、目はサイに、脚はトラに、尾は牛に似て、中国の『山海経』と関わりがあるとされています。

装飾美術の遺産

彫刻作業は、石原吟八郎とその弟子たちによるものです。聖天堂は、前方にある拝殿と後方にある奥殿に加え、その間にある中殿の 3 殿が 1 つの屋根で繋がっています。奥殿が最初に建立され、もっとも華やかな彫刻が施されているのもこの建物になります。前方にある拝殿へ向かって装飾は次第に質素になっており、晩年に資金が底をついてきた状況が伺えます。

【タイトル】 聖天堂の彫刻：奥殿南面

【想定媒体】 看板

<簡体字>

圣天堂木雕赏析：奥殿南壁

圣天堂奥殿南侧木阶梯上方墙面上有两幅板壁，描绘了一个欢喜院最著名的佛教寓言故事。右边那幅是一只老鹰正从急流的河岸上抓起一只惊恐万分的猴子，而左边那幅画，是另一只猴子正困惑地看着这一切。其实老鹰不是在攻击，而是在拯救猴子免于落水。这则故事中，猴子代表着人类，老鹰则代表着神灵“圣天”。

就在这两幅板壁上方的屋檐下，飞舞着一只色彩斑斓的凤凰，它代表着和平与新生。这只凤凰是由雕刻大师石原吟八郎的一位弟子小泽常信所作。奥殿北壁上也有一只凤凰与其对应，出自另一位大师左甚五郎的弟子后藤正纲之手。两位作者风格迥异，南壁凤凰以细密的雕工突出了威严感，北壁凤凰则以大胆的雕刻风格突出了表面的立体感。

就在以上这些板壁雕刻的左边，有两幅描绘着七福神之一的寿老人的田园风光图。寿老人是长寿之神，梅花鹿、仙鹤和乌龟这些象征长寿的动物都围绕在他身边。

在更高的屋檐下，有一幅“三圣吸酸”的小雕刻，这个故事来自中国的《三酸图》。孔子、佛祖和老子围绕在一个巨大的绿色罐子周围，他们每个人都举起一根手指，品尝着罐子里的醋，并对酸味的反应相同。这是在告诉人们，即使儒释道的宗教哲学不同，真理却是一致的，即“三教合一”。

<繁体字>

聖天堂木雕賞析：奧殿南壁

聖天堂奧殿南側木階梯上方牆面上有兩幅板壁，描繪了一個歡喜院最著名的佛教寓言故事。右邊那幅，是一隻老鷹正從急流的河岸上抓起一隻驚恐萬分的猴子，而左邊那幅畫，是另一隻猴子正困惑地看著這一切。其實老鷹不是在攻擊，而是在拯救猴子免於落水。這則故事中，猴子代表著人類，老鷹則代表著神祇「聖天」。

就在這兩幅板壁上方的屋簷下，飛舞著一隻色彩斑斕的鳳凰，牠代表著和平與新生。這隻鳳凰是由雕刻大師石原吟八郎的一位弟子小澤常信所作。在奧殿北壁上也有一隻鳳凰對應，由另一位大師左甚五郎的弟子後藤正綱所雕。兩位作者風格迥異，南壁鳳凰以細密的雕工突出了威嚴感，北壁鳳凰則以大膽的雕刻風格突出了表面的立體感。

就在以上這些板壁雕刻的左邊，有兩幅描繪著七福神之一的壽老人的田園風光圖。壽老人是長壽之神，梅花鹿、仙鶴和烏龜這些象徵長壽的動物都圍繞在他身邊。

在更高的屋簷下，有一幅「三聖吸酸」的小雕刻，這個故事來自中國的《三酸圖》。孔子、佛祖和老子圍繞在一個巨大的綠色罐子周圍。他們每個人都舉起一根手指，品嚐罐子裡的醋，並對酸味的反應相同。這是在告訴人們，即使儒釋道的宗教哲學不同，真理卻是一致的，即「三教合一」。

<日本語仮訳>

聖天堂の彫刻：奥殿南面

聖天堂の奥殿南面の木階の上にある2枚の板戸の彫刻には、歓喜院でもっとも有名な仏教寓話が描かれています。右側の1枚では、急な流れの川の土手から引き上げた猿を鷲が掴んでいます。猿が怖がる一方で、左の彫刻の猿は困惑した様子でそれを眺めています。一見すると鷲が猿を襲っているように見えるものの、実際には猿が川に落ちてしまわないよう鷲が助けているのです。この猿は人類を表し、鷲は聖天様を表しています。

これらの彫刻の真上の軒下には、色鮮やかな鳳凰が飛んでいます。鳳凰は、平和と新たな始まりを表します。熟練彫刻師、石原吟八郎の弟子小沢常信が彫ったものであると考えられています。奥殿の北側にも鳳凰が彫られており、これはもう一人の彫刻師、左甚五郎の弟子後藤正綱の手によるものと思われます。二つの彫刻の作風は異なり、南面の鳳凰は、彫りの緻密さによって鳳凰の表情に厳しさを与え、北面は、大胆な彫りによって表面を立体的に仕立てています。

これら2枚の板戸彫刻の左側には、七福神の1人である寿老人が田舎の風景を背景に描かれています。寿老人は長寿の神で、鹿や鶴や亀といった長寿を象徴する動物たちに囲まれています。

軒下の高い位置にある小さな彫刻には、中国の名画「三酸図」由来の「三聖吸酸」が描かれており、大きな緑色の容器を囲む孔子、仏陀と老子が描かれています。容器の中身である酢をなめ、指を持ち上げた3人の様子が描かれています。酢が酸っぱいということについて同じ反応をしています。つまり、儒仏道の三教の観念論が違っても、真理は1つであるということを表しています。

【タイトル】 聖天堂の彫刻：奥殿西面

【想定媒体】 看板

<簡体字>

聖天堂木雕赏析：奥殿西壁

西壁の三塊大板壁上描刻着这样的场景：七福神中的三位正在下围棋，童子们则在一旁玩着这些神仙的宝贝。中间的板壁上，布袋和尚和惠比寿正在对弈，大黑天则在一旁观战。布袋和尚是保佑家庭和睦的菩萨，以一个袒胸露乳的大肚子和尚形象示人。左边板壁上的孩子们正在拉着他常背着的大布袋玩耍。惠比寿是福神，也是渔民的守护神；大黑天则是商业之神，也是农作物的保护者。右边板壁上的孩子们正拿着惠比寿的大鱼，在大黑天的米袋上嬉闹。

屋檐下描绘的是中国古代著名寓言故事“司马光砸缸”，这个故事提醒大家要在危机中保持冷静，同时也告诉人们，无论物品多么珍贵，人的生命更有价值。

<繁体字>

聖天堂木雕赏析：奥殿西壁

西壁の三塊大板壁上描刻著這樣的場景：七福神中的三位正在下圍棋，童子們則在一旁玩著這些神仙的寶貝。中間的板壁上，布袋和尚和惠比壽正在對弈，大黑天則在一旁觀戰。布袋和尚是保佑家庭和睦的菩薩，以一個袒胸露乳大肚子和尚的形象示人。左邊板壁上的孩子們正在拉著他常背著的大布袋玩耍。惠比壽是福神，也是漁民的守護神；大黑天則是商業之神，也是農作物的保護者。右邊板壁上的孩子們正拿著惠比壽的大魚，在大黑天的米袋上嬉鬧。

屋簷下描繪的是中國古代著名寓言故事「司馬光砸缸」，這個故事提醒大家要在危機中保持冷靜，同時也告訴人們，無論物品多麼珍貴，人的生命更有價值。

<日本語仮訳>

聖天堂の彫刻：奥殿西面

3枚の大きな彫刻には、七福神の3神が囲碁に興じる脇で子どもたちがその3人の道具で遊ぶ様子が描かれています。中央の彫刻では、布袋様と恵比寿様が囲碁に夢中になる中、大黒天がそれを見つめています。布袋様は家族円満の神様で、胸とお乳を出して大きなおながが目立つ和尚として表現されます。左側の彫刻では、子どもたちは布袋様が担いでいる大きな袋を引っ張っています。恵比

寿様は、福の神であり漁業の神でもあります。一方大黒天は商売繁盛や五穀豊穡の神です。右側の彫刻では、子どもたちが恵比寿様の魚を運び、大黒天の米俵の上で遊んでいます。

軒下には、「司馬温公の瓶割り」という中国の有名な古い寓話が描かれています。この物語は、危機においても冷静さをたもたなければならないということを表していますが、どんなに高価なものでも人の命には替えられないことを表現しているという解釈もあります。

【タイトル】 聖天堂の彫刻：奥殿北面

【想定媒体】 看板

<簡体字>

圣天堂木雕赏析：奥殿北壁

两块大板壁的左边那幅描绘了七福神中的三位在玩双陆棋，这是一种源自埃及，后经中国传入日本的古代棋盘游戏。坐在左边的是美丽与财富女神吉祥天，她的对手是音乐女神弁财天，财富之神毗沙门天则在一旁观战。他们专注于棋局，完全没有注意到一个红色恶鬼正向右边板壁上的两位女神露出诡异的微笑，并对她们招手，其中一位女神是西王母。

西王母是中国道教中至高无上的女神，她统领着所有女神，也是财富之神。她和侍女正站在代表财富的柑橘树下，手持一颗吃了可以长生不老的蟠桃。

奥殿的四周雕刻着 65 位“唐子”，即身着中国服饰的童子，他们代表着童年的纯真和无邪，也为整体木雕增添了轻松幽默的气氛。童子们玩相扑、滚雪球，还表演舞狮。其中一位舞狮童子似乎直视着观众，并拉下他的下眼皮做鬼脸。

屋檐下，5 个男人正在喝着从酒坛里溢出来的美酒。这幅雕刻描绘了一名酒商为一位从不喝醉的客人斟酒的情景，原来这个客人是喜欢喝酒的虚构灵兽“猩猩”。猩猩为了回报酒商的慷慨，送给了他一个永远也喝不完的酒壶。

<繁体字>

聖天堂木雕賞析：奧殿北壁

兩塊大板壁的左邊那幅描繪了七福神中三位在玩雙陸棋的情景，這是一種源自埃及，後經中國傳入日本的古代棋盤遊戲。坐在左邊的是美麗與財富女神吉祥天，她的對手是音樂女神弁財天，財富之神毗沙門天則在一旁觀戰。他們專注於棋局，完全沒有注意到一個紅色惡鬼正向右邊板壁上的兩位女神露出詭異的微笑，並對其招手，其中一位女神是西王母。

西王母是中國道教中至高無上的女神，她統領著所有女神，也是財富之神。她和侍女正站在代表財富的柑橘樹下，手持一顆吃了可以長生不老的蟠桃。

奧殿的四周雕刻著 65 位「唐子」，即身著中國服飾的童子，他們代表著童年的純真和無邪，也為整體木雕增添了輕鬆幽默的氣氛。童子們玩相撲、滾雪球，還表演舞獅。其中一位舞獅童子似乎直視著觀眾，並拉下他的下眼皮做了個鬼臉。

屋簷下、5 個男人正在喝著從酒罈裡溢出來的美酒。這幅雕刻描繪了一名酒商給一位從不喝醉的客人斟酒的情景，原來這個客人是喜歡喝酒的虛構靈獸「猩猩」。猩猩為了回報酒商的慷慨，送給了他一個永遠也喝不完的酒壺。

<日本語仮訳>

聖天堂の彫刻：奥殿北面

2 枚の大羽目板彫刻のうち左側には、七福神の 3 神が「すごろく」というエジプトに発して中国を経て日本に伝わったゲームに興じる様子が描かれています。左側の吉祥天は、美と富の神様です。吉祥天の対戦相手は、音楽の神である弁財天です。福德増進の神、毘沙門天がその勝負を見守ります。3 神はすごろくに夢中で、隣の彫刻で 2 人の女性を不敵な笑みを浮かべて手招きしている赤色の邪鬼に気づきません。2 人の女性のうち 1 人は、西王母です。

西王母は道教の偉大な神様で、すべての女仙を支配する最上位の女神で富の神様です。西王母とその従者は富を表すみかんの木の下に立ち、食べた者に不老不死のご利益がある桃を手に持っています。

奥殿の周りの壁は、子どもの無邪気さを表す 65 人の唐子（チャイナ服を着た子供）たちが囲んでおり、場違いな陽気さとユーモアなタッチが加えられています。子どもたちは相撲を取ったり、雪玉を作ったり、獅子踊を踊ったりしています。獅子舞を踊る唐子が観客の方に視線を送っていたり、あっかんべーをしたりしている様子が描かれています。

軒下には、溢れる酒瓶から酒を飲む 5 人の男の楽しそうな様子が伺えます。これは、酒売りが全く酔わない客に酒を出す様子です。この客は酒が大好きな猩々という想像上の霊獣で、酒売りの徳を褒め、尽きることのない酒壺を授けます。

【タイトル】 本坊本堂

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

本坊本堂

本坊本堂是寺院住持的居所，由圣天堂的良应僧都（僧官的一种）于1197年创建，他是寺庙创始人斋藤实盛的次男。

来访者可以在院子里漫步，这里有一个小池塘和一片庭园。本坊本堂前方的人字形前檐及其屋檐下装饰着昭和时代(1926-1989)的精美雕刻：在弯曲的前檐下，一位隐士骑着传说中类似凤凰的神鸟——鸾鸟。他可能是曾担任中国西汉（公元前202年—公元8年）地方长官的梅福，传说中，他喝了长生不老之药。在这幅画面的正下方，是中国古代著名寓言故事“司马光砸缸”，这幅雕刻提醒大家要在危机中保持冷静，以及无论物品有多么珍贵，人的生命总是更有价值。

本坊本堂距离本殿圣天堂约200米处，是寺庙每年春秋两大祭祀活动的游行起点。

<繁体字>

本坊本堂

本坊本堂是寺院住持的居所，由聖天堂的良應僧都（僧官的一種）於1197年創立，他是寺廟創辦人齋藤實盛的次男。

遊客可以在院子裡漫步，這裡有一個小池塘和一片庭園。本坊本堂前方的人字形前簷及其屋簷下裝飾著昭和時代（1926-1989）的精美雕刻：在彎曲的前簷下，一位隱士騎著傳說中類似鳳凰的神鳥——鸞鳥。他可能是曾擔任中國西漢（西元前202年—西元8年）地方長官的梅福。傳說中，他喝了長生不老之藥。在這幅畫面的正下方，是中國古代著名寓言故事「司馬光砸缸」的場景，這幅雕刻提醒大家在緊急情況下要保持冷靜，以及無論物品有多麼珍貴，人命總是更有價值。

本坊本堂距離本殿聖天堂約200公尺處，是寺廟每年春秋兩大祭祀活動的遊行起點。

<日本語仮訳>

本坊本堂

本坊本堂は歓喜院の僧院長の住居として使用されています。1197年に、妻沼聖天山歓喜院の良應僧都であった、開祖齋藤実盛の次男が完成させました。

参拝者は、小さな池と庭園がある境内を歩くことができます。本坊本堂の前方の切妻と軒下には、昭和時代（1926-1989）に彫られた緻密な彫刻があります。湾曲した切妻の下に、鳳凰に似た想像上の鳥、鸞に乗る隠とん者を描いた彫刻が施されています。この人物は、西漢時代（紀元前 202 年-紀元後 8 年）の一地方官吏だった梅福だと考えられます。彼は、不老不死の薬を飲んだと言われています。そのすぐ下にあるのは、「司馬温公の瓶割り」という彫刻で、危機においても冷静さを保つこと、そして、どんなに高価なものでも人の命には替えられないということを伝える中国の有名な古い寓話です。

本坊本堂は、妻沼聖天山で毎年行われる春と秋の祭りの行列の出発点で、本殿聖天堂から約 200 メートルの場所にあります。

【タイトル】 熊谷うちわ祭の華やかな山車

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

熊谷团扇节的绚丽花车

每年的熊谷团扇节上都有 12 辆花团锦簇的花车登场，每一辆都代表一个不同的社区。其中 7 辆是高大的“山车”，高度可达 9 米，装饰着古代神灵和历史人物造像；其余 5 辆则被称为“屋台”。所有花车经过精心雕刻和装饰，如同神龛一般，前面还设置了供乐师奏鼓、敲钹和吹笛的舞台。在节日的三天里，人们拉着山车和屋台在熊谷市内穿街走巷，晚上将花车停在熊谷火车站前的节日广场上排成扇形。

直到 19 世纪晚期，熊谷团扇节都只有两个内容：神道教仪式和神轿巡游。到了明治时代(1868-1912)，随着丝绸业蓬勃发展，熊谷成为了该地区的商业中心。19 世纪晚期，第二本町区的居民首先从东京购买了一辆豪华祭祀山车，用于每年的团扇节祭祀活动。于是，其他社区也都开始为节日制造起自己的山车和屋台，多年来形成了友好的竞争，使熊谷团扇节变得更加精彩纷呈。

<繁体字>

熊谷團扇節的絢麗花車

在每年的熊谷團扇節上，都有 12 輛花團錦簇的花車登場，每一輛都代表一個不同的社區。其中 7 輛是高大的「山車」，高度可達 9 公尺，裝飾著古代神祇和歷史人物形象；其餘 5 輛則被稱為「屋台」。所有花車經過精心雕刻和裝飾，如同神龕一般，前面還設置了供樂師奏鼓、敲鈸和吹笛的帶簷的舞臺。在節日的三天裡，人們拉著山車和屋台在熊谷市內穿街走巷，晚上將花車停在熊谷火車站前的節日廣場上排成扇形。

直到 19 世紀晚期，熊谷團扇節都只有兩個內容：神道教儀式和神轎巡遊。到了明治時代（1868-1912），隨著絲綢業蓬勃發展，熊谷成為了該地區的商業中心。19 世紀晚期，第二本町區的居民首先從東京購買了一輛豪華祭祀山車，用於每年的團扇節祭祀活動。於是，其他社區也都開始為節日製造起自己的山車和屋台，多年來形成了友好的競爭，使熊谷團扇節變得更加精彩紛呈。

<日本語仮訳>

熊谷うちわ祭の華やかな山車

熊谷うちわ祭では、熊谷市の各町区を代表する12の山車と屋台が集結します。このうち7つが高さ9メートルにも及ぶ山車で、そこには太古の神々や歴史上の人物などが描かれています。残りの5つは屋台と呼ばれる山車です。すべての山車に神棚に似せた凝った彫刻と装飾が施されており、前面には、太鼓や摺鉦、笛を演奏するための舞台が設置されています。祭りが行われる3日間、山車は熊谷市街の各地を移動し、夜になると、熊谷駅前のお祭り広場にうちわ状に並べられます。

19世紀末までは、熊谷うちわ祭は神道の儀式と神輿の巡行のみが行われていました。明治時代（1868-1912）になると、絹産業が繁盛したため、熊谷市は地域の商業の中心地となりました。19世紀末、第二本町区は、この年に一度のうちわ祭りで使うための豪華な祭用の山車を東京から購入しました。ほかの町区は祭りへ向けて独自の山車や屋台を作るようになり、その過程で友好的な競争意識が生まれ、祭りはさらに盛り上がりを見せていきました。

【タイトル】 第壹本町区の山車

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

第一本町区の节日花车

熊谷团扇节上第二古老的花车——“山车”，诞生于社区之间的友好竞争之中。1891年，自从熊谷的第二本町区从东京购买了第一辆山车后，第一本町区的居民便着手建造了自己的山车。山车顶部矗立的人像是日本第一代天皇——神武天皇，据说他是太阳女神天照大神的后裔。他手持镀金法杖，上面栖息着一只乌鸦。传说中，神武天皇曾在一只三脚乌鸦的指引下，行走于崇山峻岭之中，从熊野（今和歌山县）到达了大和（今奈良县）。

山车头的门楣和支撑立柱上雕刻着神龙和神鸟，侧面和背面的栏杆上则装饰着狮子。山车后部覆盖着绿色挂毯，上面有一幅“龙虎相争”的金线刺绣，显得格外富丽堂皇。这是日本传统艺术中一个常见的隐喻，象征着宇宙中的力量平衡。这辆山车建于1898年，是熊谷市指定物质民俗文化财产。

<繁体字>

第一本町區的節日花車

熊谷團扇節上第二古老的花車——「山車」，就誕生於社區之間的友好競爭之中。1891年，自從熊谷的第二本町區從東京購買了第一輛山車後，第一本町區的居民便著手建造了自己的山車。山車頂部矗立的人像是日本第一代天皇——神武天皇，據說他是太陽女神天照大神的後裔。他手持鍍金法杖，上面棲息著一隻烏鴉。傳說中，神武天皇曾在一隻三腳烏鴉的指引下，行走於崇山峻嶺之中，從熊野（今和歌山縣）到達了大和（今奈良縣）。

山車頭的門楣和支撐立柱上雕刻著神龍和神鳥，側面和背面的欄杆上則裝飾著獅子。山車後部覆蓋著綠色掛毯，上面有一幅「龍虎相爭」的金線刺繡，顯得富麗堂皇。這是日本傳統藝術中一個常見的隱喻，象徵著宇宙中的力量平衡。這輛山車建於1898年，為熊谷市指定物質民俗文化財產。

<日本語仮訳>

第壹本町区の山車

熊谷うちわ祭で 2 番目に古い山車は、他の町区との友好的な競争意識から生まれました。熊谷市の第二本町区が最初の山車を 1891 年に東京から購入すると、第一本町区の住人たちは独自の山車を作りました。太陽神の天照大神の子孫であると言われている初代神武天皇が、山車の上には立っています。神武天皇の手には金の杖があり、その先にはカラスが止まっています。言い伝えによると、神武天皇は、熊野（現在の和歌山県）から大和（現在の奈良県）までの山道を、3 本脚のカラスに導かれたそうです。

山車の前方のまぐさと支柱には龍と想像上の鳥の彫刻が施されており、山車の側面と後方の欄干には獅子の装飾が施されています。山車の後方は華やかな緑色の幕で覆われており、龍と虎の戦いの様子が金色の糸で刺繍されています。世の中の力の均衡を象徴するものとして、伝統的な日本美術の比喻に一般的です。この山車は 1898 年に建造されており、熊谷市有形民俗文化財に指定されています。

【タイトル】 第貳本町区の山車

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

第二本町区の节日花车

熊本团扇节上最古老的花车是一辆高大的“山车”，它是由熊谷第二本町区的居民于 1891 年从东京购买，并用牛车拉到了熊谷。根据当时的报道，山车的买价为 500 日元，大约相当于今天一辆豪华跑车的价格。据推测，这辆山车建造于江户时代(1603-1867)晚期，在被带到熊谷之前，它曾在东京神田神社的年度大祭上亮相。

山车上装饰着贴金木板，上面雕刻着神龙、神鸟和祥云，最顶端是一尊天之手力男命的人像，他是力量之神和农业的守护神。在日本神话中，当太阳女神天照大神躲到山洞里令天地陷入混沌黑暗时，天之手力男命将山洞前的岩石扔到一边，把天照大神从洞中拉了出来，让世界重现光明。这辆山车是熊谷市指定物质民俗文化财产。

<繁体字>

第二本町區的節日花車

熊本團扇節上最古老的花車是一輛高大的「山車」，由熊谷第二本町區的居民於 1891 年從東京購買，並用牛車拉到了熊谷。根據當時的報導，山車的買價為 500 日圓，大約相當於今天一輛豪華跑車的價格。據推測，這輛山車可能建造於江戶時代（1603-1867）晚期，在被帶到熊谷之前，它曾在東京神田神社的年度大祭上亮相。

山車上裝飾著貼金木板，上面雕刻著神龍、神鳥和祥雲，最頂端是一尊天之手力男命的人像，祂是力量之神和農業的守護神。在日本神話中，當太陽女神天照大神躲到山洞裡令天地陷入混沌黑暗時，天之手力男命將山洞前的岩石扔到一邊，把天照大神從洞中拉了出來，世界這才得以重現光明。這輛山車是熊谷市指定物質民俗文化財產。

<日本語仮訳>

第貳本町区の山車

熊谷うちわ祭でもっとも古く、背の高い山車は、1891 年に第二本町区の一団が東京から購入し、熊谷市まで雄牛で引いてきました。購入価格は 500 円と伝えられています。現在の価値で高級スポーツカーほどの値段に相当します。この山車は江戸時代（1603-1867）末期に建造されたと考えられており、熊谷へ持ち込まれる以前は、東京の神田神社の年中行事で用いられていました。

龍、鳥、雲といったモチーフが金色のパネルに彫刻されており、その上に力の神様で、農業の守護神ある天之手力男命がいます。日本神話のなかで、太陽神の天照大神が岩戸に隠れたため、世界が暗闇に包まれました。天之手力男命が洞窟の入り口の岩を放り投げ、天照大神を引きずり出したことで世界に明るさが戻ったとされています。この山車は、熊谷市の有形民俗文化財に指定されています。

【タイトル】 彌生町区の山車

【想定媒体】 アプリ QR コード・WEB

<簡体字>

彌生町区の节日花車

最古老且保存最为完整的“屋台”花车，由彌生町区的居民于 1924 年建造。它是熊谷团扇节上使用的五辆屋台之一，比“山车”要小一些。

屋台两侧精细地雕刻着乌龟、仙鹤、孔雀等吉祥神鸟和瑞兽，以及日本创世纪神话中的场景。屋台头的弧形屋檐下，雕刻着一条巧妙地扭曲着身体的龙，而另两条龙则攀在前柱上。屋檐上方的雕刻描绘了海洋和风暴之神须佐之男命从八岐大蛇手中拯救公主的情景。这辆屋台被指定为熊谷市物质民俗文化财产。

<繁体字>

彌生町區的節日花車

最古老且保存最為完整「屋台」花車是由彌生町區的居民於 1924 年建造的，它是熊谷團扇節上使用的五輛屋台之一，比「山車」要小一些。

屋台兩側精細地雕刻著烏龜、仙鶴、孔雀等吉祥神鳥和瑞獸，以及日本創世紀神話中的場景。屋台頭的弧形屋簷下，雕刻著一條巧妙地扭曲著身體的龍，而另兩條龍則攀在前柱上。屋簷上方的雕刻描繪了海洋和風暴之神須佐之男命從八岐大蛇手中拯救公主的情景。這輛屋台被指定為熊谷市物質民俗文化財產。

<日本語仮訳>

彌生町区の山車

その姿を完全に残す最も古い屋台は、彌生町区の住民が 1924 年に建造したもので、熊谷うちわ祭で用いられる 5 つの屋台のうちの 1 つです。屋台は通常の山車より小さいです。

屋台の側面の彫刻はきめ細かく、亀、鶴、孔雀といった縁起のいい動物や、日本の創造神話の場面が描かれています。前面には、湾曲した切妻の下に精巧に曲がりくねった龍がおり、前面の支柱を 2 匹の龍が登っています。切妻の上の彫刻には、八岐大蛇から姫を救う海と嵐の神、須佐之男命が描かれています。この屋台は、熊谷市の有形民俗文化財に指定されています。

地域番号	003	協議会名	高山市
------	-----	------	-----

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
003-001	飛騨高山まちの博物館	300	看板
003-002	永田家とその蔵	340	看板
003-003	矢嶋家	335	看板
003-004	高山祭	350	看板
003-005	からくり人形	330	看板
003-006	高山祭の屋台	450	看板
003-007	高山の町並み	335	看板
003-008	町家	275	看板
003-009	高山の町家の特徴	345	看板
003-010	飛騨の匠、高山の名工の遺志を継ぐ	420	看板
003-011	高山の歴史：城下町時代	320	看板
003-012	高山の歴史：徳川幕府の時代	290	看板
003-013	高山の歴史：高山城	295	看板

【タイトル】 飛騨高山まちの博物館

【想定媒体】 看板

<簡体字>

飞騨高山历史美术博物馆

飞騨高山历史美术博物馆（騨音“驼”）为保护和促进高山市及飞騨地区的艺术、历史、文化和手工艺传统而设立。馆内有传统木工艺和高山祭等主题展，并详尽展示高山市在江户时代(1603-1867)的创建和发展脉络，以及 1585 年至 1692 年间高山地区统治者金森家族的历史。藏品有金森家族领主们的盔甲和他们的手书。

大部分展厅都是修复后的老仓库，它们曾属于永田和矢岛两个商人家族。1953 年永田家族将仓库及宅邸捐赠给高山市，博物馆就此成立；2009 年的扩建和翻新又纳入了隔壁原矢岛家族的宅邸。馆内共有 10 座仓库，均建于 19 世纪至 20 世纪。老建筑环绕的庭院内有潺潺流水和玻璃灯小径，悠闲宁静。

<繁体字>

飛騨高山歷史美術博物館

飛騨高山歷史美術博物館（騨音「駝」）為保護和促進高山市及飛騨地區的藝術、歷史、文化和手工藝傳統而設立。館內有傳統木工藝和高山祭等主題展，並詳盡展示高山市在江戶時代（1603-1867）的創立和發展脈絡，以及 1585 年至 1692 年間高山地區統治者金森家的歷史。藏品有金森家領主們的盔甲和他們的手書。

大部分展示室都是修復後的老倉庫，它們曾屬於永田和矢嶋兩個商人家族。1953 年永田家將倉庫及宅邸捐贈給高山市，博物館就此成立；2009 年的擴建和翻新又納入了隔壁原矢嶋家的宅邸。館內共有 10 座倉庫，均建於 19 世紀至 20 世紀。老建築環繞的庭院內有潺潺流水和玻璃燈小徑，悠閒寧靜。

<日本語仮訳>

飛騨高山まちの博物館

飛騨高山まちの博物館は、高山市と飛騨地方の芸術、歴史、文化、工芸の保存と普及を目的として設立されました。高山の伝統的な木工品や高山祭などについてテーマ別に展示しています。また、江戸時代（1603-1867）の町の誕生と発展、1585 年から 1692 年まで高山を統治した金森家の歴史も詳細に展示しています。館内には藩主の金森氏が身に付けていた鎧や書状などが展示され

ています。

展示室の大部分は、商家である永田家と矢嶋家が所有していた土蔵を修復したものです。1953年に永田家の蔵と屋敷が高山市に寄贈されたのが、この博物館の始まりです。2009年には隣接する旧矢嶋家住宅を含めて増改築されました。敷地内にある10棟の土蔵は、いずれも19世紀から20世紀にかけて建てられたものです。また、歴史的建造物に囲まれた庭を流れるせせらぎ、ガラス灯小路など癒される空間に身を置き、ゆっくりした時間を過ごすことができます。

【タイトル】 永田家とその蔵

【想定媒体】 看板

<簡体字>

永田家族和永田仓库

江戸時代(1603-1867), 永田家族在高山行商酿酒, 创建了“大坂屋”。1854 年因捐建东京湾品川炮台(今台场), 获准使用“永田”为姓。

明治初年, 永田家族已是高山最大的地主。永田吉右门正俊(1848-1901)和儿子尚次(1873-1918)都曾出任高山市长和国会众议员, 前者还积极推动家族向银行、丝织、采伐业以及众多当地产业发展。子承父业后, 家族生意涉及领域愈发广泛。据记载, 1932 年永田家族缴税为全城之冠。

1875 年高山大火后, 永田家族为保护家产修建了第一座仓库, 1914 年又围绕家宅增建了 5 座, 并构筑起坚实的防火墙。

6 座仓库中规模最大的一座曾是酒窖, 也是高山最大的仓库之一。1953 年, 永田家族的宅邸和仓库被改建为博物馆, 也就是今天的飞驒高山历史美术博物馆。

<繁体字>

永田家和永田倉庫

江戸時代(1603-1867), 永田家在高山行商釀酒, 創立了「大坂屋」。1854 年因捐建東京灣品川炮臺(今台場), 獲准使用「永田」為姓。

明治初年, 永田家已是高山最大的地主。永田吉右門正俊(1848-1901)和兒子尚次(1873-1918)兩代都曾出任高山市長和國會眾議員。前者還積極推動家族涉足銀行、絲織、伐木業以及許多當地產業。子承父業後, 家族生意越發得以擴展。據記載, 1932 年永田家繳稅為全城之冠。

1875 年高山大火後, 永田家為保護家產修建了第一座倉庫, 1914 年又圍繞家宅再建了 5 座, 並構築起堅實的防火牆。

6 座倉庫中規模最大的一座曾是酒窖, 也是高山最大的倉庫之一。1953 年, 永田家的宅邸和倉庫被改建為博物館, 也就是今天的飛驒高山歷史美術博物館。

<日本語仮訳>

永田家とその蔵

永田家は、江戸時代(1603-1867)の高山の商人であり、酒造業者でした。「大坂屋」という

屋号で呼ばれていました。1854年、東京湾の品川砲台（現在のお台場）建設のために多額の寄付をしたことが認められ、「永田」姓を名乗ることを許されました。

明治初年に、永田家は高山一の田地を持っていました。永田吉右衛門正俊（1848-1901）と息子の尚次（1873-1918）は二代続けて高山町長と衆議院議員に選ばれました。正俊は、銀行業、絹織物業、木材業をはじめとする多くの地場産業への一族の関与を主導しました。正俊の息子はその跡を継いで、一族の事業領域は拡大していき、1932年には高山のどの家よりも多くの税金を納めたという記録が残っているほどです。

1875年には高山で大火が発生し、永田家は家全体を守るために、最初の蔵を建てました。1914年には、家の周りにさらに5つの蔵が建てられました。これらの蔵は防火壁となっていました。

6つの蔵のうち、一番大きなものは酒蔵として使われており、高山で最も大きな蔵の一つでもあります。1953年には、永田家の建物や蔵を再利用して博物館が作られ、後に飛騨高山まちの博物館となりました。

【タイトル】 矢嶋家

【想定媒体】 看板

<簡体字>

矢岛家族

矢岛家族应统治高山地区的金森家的家主金森长近(1524-1608)之邀，从近江国（今滋贺县）迁居而来。

矢岛茂右卫门(?-1673)被任命为高山首任辅佐官“町代”，受命管理金森家族的广袤森林。随着城市飞速发展，高山商圈被分为三块，矢岛家族把持其一“一之町”，监督金森领主所定法令在町内的实行。

1692年金森家族被德川幕府调离高山，矢岛家族并未追随，而是出任幕府新体制下的“町年寄”，留下来继续掌管一之町。他们不仅保住了森林采伐权，还将生意拓展到了盐业。到1840年，盐业已成为家族主业。3号展厅就是他们当时的盐仓。

1868年德川幕府倒台，矢岛家族失去世袭官职和特权，最终离开了高山。几经辗转，矢岛家族的土地被高山市收购，幸存的仓库修复后成为了飞驒高山历史美术博物馆的一部分。

<繁体字>

矢嶋家

矢嶋家應統治高山地區的金森家的家主金森長近（1524-1608）的邀請，從近江國（今滋賀縣）遷居而來。

矢嶋茂右衛門（?-1673）被任命為高山首任輔佐官「町代」，奉命管理金森家的廣袤森林。隨著城市飛速發展，高山商圈被分為三塊，矢嶋家把持其一「一之町」，監督金森領主所定法令在其轄區的實行。

1692年金森家被德川幕府調離高山，矢嶋家並未追隨，而是擔當幕府新體制下的「町年寄」，留下來繼續掌管一之町。他們不僅保住了森林開採權，還將生意拓展到了鹽業。到1840年，鹽業已成為家族主業。3號展示室就是他們當時的鹽倉。

1868年德川幕府倒臺，矢嶋家失去世襲官職和特權，最終離開了高山。幾經輾轉，矢嶋家的土地被高山市收購，倖存的倉庫修復後成為了飛驒高山歷史美術博物館的一部分。

<日本語仮訳>

矢嶋家

矢嶋家は高山を支配した金森家の当主である金森長近（1524-1608）の要請により、近江国（現在の滋賀県）から高山に移ってきました。

矢嶋茂右衛門（?-1673）は高山の初代補佐官「町代」となり、金森家が支配していた広大な森林の管理を特別に許可されました。町の急成長に伴い、高山の商人地区は 3 つに分かれ、矢嶋家はその 1 つの一之町の長になり、金森藩主が定めた法が町の人々に守られるようにする役割を担っていました。

しかし、1692 年に金森家が徳川幕府によって高山を追われると、矢嶋家は金森家には加わらず、幕府が任命した高山の新体制の町年寄として、一之町の運営を続けました。矢嶋家は、この地域の森林の伐採権を持ち続けていましたが、塩の販売にも進出し、1840 年には、木材に代わって塩を主要な商売としました。展示室 3 は、塩を保管していた土蔵の中にあります。

矢嶋家は、1868 年の幕府滅亡により、世襲の家督相続などの特権を失い、結局高山を離れました。一族の土地は紆余曲折を経て、高山市に取得され、現存する蔵を修復して飛騨高山まちの博物館の一部として再利用されています。

【タイトル】高山祭

【想定媒体】看板

<簡体字>

高山祭

高山祭被誉为日本“最美三大祭”之一，是春祭“山王祭”和秋祭“八幡祭”的总称，山王祭于4月14日和15日举办，八幡祭则于10月9日和10日举办。期间，绚丽华美的“屋台”（花车）吸引着成千上万的游客，它们被指定为国家重要物质民俗文化财产。

山王祭，祭祀的是高山老城区南部日枝神社的神明；八幡祭，则是祭祀老城东北的樱山八幡宫的神明。祭典上，身着传统服饰的当地人和跳着传统狮子舞的舞者在城中列队游行，屋台则被推到它们各自对应的神社前。第一晚，屋台上挂满数百个灯笼，在老城区游街展示。当地居民参加哪次祭典由地理位置决定：安川通以北地区参加八幡祭，以南地区参加山王祭。

文献中对高山祭的记载最早可追溯至1692年，里面提到的山王祭大约在此40年前。如今令高山祭名气斐然的屋台，最初出现在1718年的八幡祭上。

<繁体字>

高山祭

高山祭被誉为日本「最美三大祭」之一，是春祭「山王祭」和秋祭「八幡祭」的总称，山王祭于4月14日和15日举办，八幡祭则于10月9日和10日举办。期间，绚丽华美的「屋台」（花车）吸引著成千上万的游客，它们被指定为国家重要物质民俗文化财产。

山王祭是祭祀高山老城区南部日枝神社的神祇；八幡祭则是祭祀老城东北的樱山八幡宫的神祇。祭典上，身著传统服饰的当地人和跳著传统狮子舞的舞者在城中列队游行，屋台则被推到它们各自对应的神社前。第一晚屋台上挂满数百个灯笼，在老城区游街展示。当地居民参加哪次祭典则由地理位置决定：安川通以北地区参加八幡祭，以南地区参加山王祭。

文献中对高山祭的记载最早可追溯至1692年，里面提到的山王祭大约在此40年前。令高山祭名气远播的屋台，最早则出现在1718年的八幡祭上。

<日本語仮訳>

高山祭

日本三大美祭のひとつに挙げられる高山祭とは、春の山王祭と秋の八幡祭の2つの祭の総称で、山王祭は4月14日、15日に、八幡祭は10月9日、10日に開催されます。この祭りは華麗な装飾が施された屋台は数万人もの来場者を魅了し、祭りの屋台は国の重要有形民俗文化財に指定されています。

山王祭は、高山の歴史的な旧市街の南に位置する日枝神社の神々を祀り、八幡祭は北東に位置する桜山八幡宮の神々を祀っています。祭りでは、伝統的な衣装を身にまとった町民と獅子舞の踊り手が町を練り歩き、屋台はそれぞれの神社の前へと移動します。初日の夜には、数百個の提灯で飾られた屋台が旧市街の通りを練り歩きます。祭りの参加者は地域によって分かれており、安川通りの北側は八幡祭、南側は山王祭に参加します。

高山祭の最古の記録は、1692年の文書で、その年よりさらに40年ほど前に行われた山王祭について記したものです。高山祭を今日これほどまで有名にした屋台への言及は、1718年の八幡祭で初めて確認できます。

【タイトル】 からくり人形

【想定媒体】 看板

<簡体字>

卡拉库里人偶

卡拉库里人偶也叫机关人偶，靠机械传动或钟表发条自动运行，盛行于江户时代(1603-1867)晚期。高山祭“屋台”（花车）上的卡拉库里人偶由人偶师团队同步操控。人偶师们坐在花车内，每人控制人偶的一小部分，操作越同步，人偶的动作就越自然流畅。

16 世纪下半叶钟表工艺从西方传入后，卡拉库里人偶才在日本流行起来，它代表着江户时代的工艺巅峰。这种人偶的流行也与幕府发布的“俭约令”密不可分。当时下层百姓被禁止享用奢侈品，只能将最精巧的物品用于祭典，其中就包括做工复杂的卡拉库里人偶。

现有高山祭的 23 辆屋台中，仅 4 辆上仍有卡拉库里人偶，它们是春祭使用的“三番叟”“石桥台”“龙神台”和秋祭使用的“布袋台”。本馆展示的卡拉库里人偶来自三番叟和石桥台两辆屋台。

<繁体字>

卡拉库里人偶

卡拉库里人偶也叫機關人偶，靠機械傳動或鐘錶發條自動運行，盛行於江戶時代(1603-1867) 晚期。高山祭「屋台」（花車）上的卡拉库里人偶由人偶師團隊同步操控。人偶師們坐在花車內，每人控制人偶的一小部分，操作越同步，人偶的動作就越自然流暢。

16 世紀下半葉鐘錶工藝從西方傳入後，卡拉库里人偶才在日本流行起來，它代表著江戶時代的工藝巔峰。這種人偶的流行也與幕府發布的「儉約令」密不可分。當時下層百姓被禁止享用奢侈品，只能將最精巧的物品用於祭典，其中就包括做工複雜的卡拉库里人偶。

現有高山祭的 23 輛屋台中，僅 4 輛上仍有卡拉库里人偶，它們是春祭使用的「三番叟」、「石橋台」、「龍神台」和秋祭使用的「布袋台」。本館展示的卡拉库里人偶來自三番叟和石橋台兩輛屋台。

<日本語仮訳>

からくり人形

からくりとは、江戸時代（1603-1867）末期に流行した娯楽の一つである機械人形や時計仕掛けの自動人形のことです。高山祭のからくり人形の動きを操作するのは人形遣いのチームです。各

チームのメンバーは屋台の中に座って人形の細かい部分を操作しますが、人形の動きをできるだけスムーズにするため、各チームはそれぞれの動きをあわせる必要があります。

からくりは、16 世紀後半に西洋の時計技術が導入されるまで、日本では一般的ではありませんでした。からくりのメカニズムは、江戸時代の技術の粋を集めたものといえます。からくりの発展には、当時、徳川幕府が制定した「儉約令」に大きく影響され、下層階級が贅沢品を持つことが禁じられました。町民は、複雑な細工が施されたからくりなど、祭りで使うさまざまなものを発注したのです。

現在の高山祭で使われる 23 台の屋台のうち、からくりが残っているのは 4 台のみです。春祭りの「三番叟」「石橋台」「龍神台」と、秋祭りの「布袋台」にからくりがついています。本館では、三番叟と石橋台に使用されていたからくりを展示しています。

【タイトル】高山祭の屋台

【想定媒体】看板

<簡体字>

高山祭的屋台花车

高山祭“屋台”（花车）的个性源于竞争。按风俗，高山市的每个社区都需要制作自己的屋台，并力争在设计和装饰上更胜其它社区一筹。

屋台沿用江户（今东京）的花车设计，装饰上又深受京都风潮影响，体现了高山的商业城市气质。平时，为避免天气损害或操作闪失，屋台被小心翼翼地保护起来，停放在一个名叫“屋台藏”的仓库内。祭典期间，哪怕只是可能遇到几丝细雨，屋台都会被留在仓库中待命。甚至直到本世纪10年代，它们还只能由各社区的专门人员移动和操控。原本春祭的屋台有16辆，秋祭有15辆，如今各留下12辆和11辆。1960年，所有23辆屋台花车被共同指定为国家重要物质民俗文化财产。2016年，高山祭作为“日本的山、鉾和屋台行事”*的组成部分，被列入联合国教科文组织人类非物质文化遗产名录。秋祭屋台中间的4辆现展示于在樱山八幡宫神社内。

※日本的山、鉾和屋台行事

山、鉾、屋台皆为神轿和花车，以此为特色的祭典遍布日本各地大小城镇。该项遗产由33个地区的活动共同组成，这些活动既有共通之处又各具代表性，展现了日本文化的多样性。

<繁体字>

高山祭的屋台花車

高山祭「屋台」（花車）的千姿百態是競爭下的結果。按風俗，高山市的每個社區都要獨立製作自己的屋台，並致力於在設計和裝飾上更勝其它社區一籌。

屋台沿用江戶（今東京）的花車設計，裝飾上又深受京都風潮影響，展現了高山的商業城市氣質。平時，為避免天氣損害或操作閃失，屋台被小心翼翼地保護起來，並停放在一個名叫「屋台藏」的倉庫內。祭典期間，哪怕只是可能遇到幾絲細雨，屋台都會被留在倉庫中待命。甚至直到2010年代，它們還只能由各社區的專門人員移動和操控。原本春祭的屋台有16輛，秋祭有15輛，如今各留下12輛和11輛。1960年，所有23輛屋台花車被共同指定為國家重要物質民俗文化財產。2016年，高山祭作為「日本的山、鉾和屋台行事」*的組成部分，被列入聯合國教科文組織人類非物質文化遺產名錄。秋祭屋台中间的4輛現展示於櫻山八幡宮神社內。

※日本の山、鉾和屋台行事

山、鉾、屋台皆為神輿和花車，以此為特色的祭典遍布日本各地大小城鎮。該項遺產由 33 個地區的活動共同組成，這些活動既有共通之處又各具代表性，展現了日本文化的多樣性。

<日本語仮訳>

高山祭の屋台

高山祭の屋台の個性は、競争から生まれたものです。高山の各コミュニティはそれぞれ独自に屋台を製作し、伝統的にコミュニティの間でデザインや装飾を競い合っていました。

屋台のデザインは江戸（現在の東京）の山車を参考にしていると思われますが、装飾は京都の流行の影響を受けており、商人の町としての高山の伝統を象徴していると言えるでしょう。屋台は、天候や取扱の不備で屋台が破損しないように、「屋台蔵」と呼ばれる高さのある倉庫に細心の注意が払い保管されます。たとえ小雨であっても雨が降りそうな場合は屋台蔵で保管され、祭りの間はその場で待機します。2010 年代までは、それぞれの屋台を動かすのも乗るのも屋台組の人に限られていました。当初、春の祭りでは 16 台、秋の祭りでは 15 台の屋台がありましたが、現在はそれぞれ 12 台、11 台となっています。1960 年には 23 基の屋台すべてが重要有形民俗文化財に指定され、2016 年には高山祭が「日本の山・鉾・屋台行事[※]」の一部としてユネスコ無形文化遺産に登録されました。桜山八幡宮には秋祭りの屋台 4 台が展示されています。

※日本の山・鉾・屋台行事

山・鉾・屋台は日本各地の祭礼行事に使われる神輿や山車のこと。ユネスコ無形文化遺産に登録されたこの「山・鉾・屋台行事」に含まれる日本各地の 33 の祭礼行事は、共通項を持ちながらも豊かな個性に彩られており、日本文化の多様な魅力を体現しています。

【タイトル】高山の町並み

【想定媒体】看板

<簡体字>

高山城市景观区

日本历史上，稻米曾是主要的**纳税物品**，但高山**周边**的**飞驒地区**（驛音“駝”）**群山环绕**，不适合种水稻，因此被**特许**“以工代税”。从公元 8 世纪开始，**飞驒木工匠**被征往日本各个早期都城从事木造建筑工作。此后几百年，**这一地区**一直以**手工艺精湛**的木造建筑工匠“大工”和木匠闻名。

当时的**飞驒地区**在**金森长近(1524-1608)**的**统治之下**，以其**城堡为中心**发展起来的高山**颇具规模**，**优越的地理位置**让**商人们**积累起**大量财富**。

1695 年，**飞驒高山地区**改为**幕府直辖**，**金森家族势力**离开后的高山成为一座**商贾和工匠之城**。这里有近乎完整的“町家”建筑群，那是**江户时代(1603-1867)**商**户和工匠**居住兼**经商的房屋**。

密集的**木结构房屋**很容易**起火燃烧**并令**大火蔓延**，高山曾 5 次**经历大火和重建**。为了**保护财产**，**富人们**纷纷建起了**筑有防火土墙的大仓库**。

<繁体字>

高山城市景觀區

日本歷史上，稻米曾是主要的**納稅物**。高山**周邊**的**飛驒地區**（驛音「駝」）**群山環繞**，不適合種水稻，因此被**特許**「以工代稅」。從西元 8 世紀開始，**飛驒木工匠**被征往日本各個早期都城從事木造建築工作。此後幾百年，**這一地區**一直以**手藝精湛**的木造建築工匠「大工」和木匠聞名。

當時**飛驒地區**在**金森長近（1524-1608）**的**統治之下**，以其**城堡為中心**發展起來的高山**頗具規模**，**優越的地理位置**讓**商賈們**積累起**大量財富**。

1695 年，**飛驒高山地區**改為**幕府直轄**，**金森家勢力**離開後的高山成為一座**商賈和工匠之城**。這裡有近乎完整的「町家」**建築群**，那是**江戶時代（1603-1867）**商**販和工匠**居住兼**經商的房屋**。

密集的**木結構房屋**很容易**起火燃燒**並**迅速蔓延**，高山曾 5 次**經歷大火和重建**。為了**保護財產**，**富人們**紛紛建起了**築有防火土牆的大倉庫**。

<日本語仮訳>

高山の町並み

歴史的に、米は主な納税手段として使われていた。しかし、高山周辺の飛騨地方は山地が多く、稲作には適していないため、特別に米の代わりに労働力を税として納めることが認められていました。8世紀から、日本の初期の都では、飛騨の木工職人が木造建築に従事していました。その後何世紀にもわたって、飛騨地方は腕の良い大工や木工職人で知られるようになりました。

当時、飛騨の権力は金森長近（1524-1608）に集約され、その城下町として高山は発展しました。地理的に恵まれたため、商人たちは富を築きました。

1695年、徳川幕府は飛騨高山藩を直轄領とします。金森家の当主やその家臣たちは飛騨の地を離れ、高山は商人や職人の町となりました。その結果、高山の町並みは、ほとんどが江戸時代（1603-1867）に商人や職人が住んでいた町家で構成されています。

高山は木造家屋が密集しているため火事が発生すると瞬く間に広がり、壊滅的な被害をもたらしていました。高山が焼失と再建を5回経験しました。貴重品を守るため、裕福な家は耐火性の土壁を持つ大きな蔵を建てました。

【タイトル】 町家

【想定媒体】 看板

<簡体字>

町家

江戸時代(1603-1867)、商人和工匠居住及经营生意的房屋称为“町家”。在高山市的两片重要传统建筑群保护区（三町地区、下二之町和大新町地区）的街道上，一排排町家延绵不绝，完美展现了江戸时代晚期的商区风貌。

町家有若干显著特征：房型大多狭长，因为门面宽窄决定财产税的多寡；临街第一间房都是开放的，用来作为经营生意的铺面；铺面和生活区通过一条狭窄的土路连接；大多宅子拥有一间库房和一个小庭园。

法律严禁商人阶层使用特定材料建造町家，而且因为高山商铺间竞争激烈，改造或重建房屋需要获得统治者和邻里的许可，因此才诞生了一套统一房屋设计和规模的制度。

<繁体字>

町家

江戸時代（1603-1867），商販和工匠居住及經營生意的房屋稱為「町家」。在高山市的兩片重要傳統建築群保護區（三町地區、下二之町和大新町地區）的街道上，一排排町家綿延不絕，完美展現了江戸時代晚期的商業區風貌。

町家有幾個顯著特徵：房型大多狹長，因為門面寬窄決定財產稅的多寡；臨街第一間房都是開放的，用來作為經營生意的鋪面；鋪面和生活區通過一條狹窄的土路連接；大多宅子擁有一間庫房和一個小庭園。

法律嚴禁商人階層使用某些材料建造町家，而且因為高山商鋪間競爭激烈，改造或重建房屋需要獲得統治者和鄰里的許可，因此才誕生了一套統一房屋設計和規模的制度。

<日本語仮訳>

町家

江戸時代（1603-1867）に商人や職人の住居や工房を「町家」と呼びます。高山の2つの重要な伝統的建造物群保存地区（三町地区、下二之町、大新町）では町家が途切れることなく並んでいます。これらの地区は江戸時代後期の商家の街並みをよく表しています。

町家にはいくつかの特徴があります。税金は間口の幅で決まることが多かったため、ほとんどは細長い形をしています。各家の一番手前の部屋は通りに面しており、店先として日常的な商売をしていました。また、店先と奥の居室をつなぐ土路もしくは土間と呼ばれる廊下が設けられていました。ほとんどの町家の敷地には、土蔵と小さな庭がありました。

町家のデザインは、商人階級が特定の木材などを使用することを禁止した厳しい法律があり、また高山では、家の改築や建て替えをする際には、統治者と近所の両方の許可が必要でした。それは、商家同士の競争が激しかったため、家のデザインや大きさの統一を促すため作られた制度です。

【タイトル】 高山の町家の特徴

【想定媒体】 看板

<簡体字>

高山町家的特色

高山的町家设计同时受到京都和江户（今东京）两方文化的影响。兴建第一批街区时，工匠们的参照对象是京都町家。1695 年被幕府直辖后，则受江户风格的影响更盛。

高山町家同时还对应了本地风土情况。譬如，考虑到本地多雪的气候，为避免二楼窗外积雪，上层屋顶要延伸到下层之外；屋檐前端设排水沟用于排放雪水；屋顶大多以木片瓦“樽葺”覆盖。

江户时代(1603-1867)的城镇经常因火灾而遭受严重破坏，德川幕府便想把飞驒高山地区（驒音“驼”）森林作为修复江户工程所需木材的来源。于是，幕府调走金森家族，直接接管了飞驒高山地区和周边森林，以使用其木料重建都城。德川治下，商户们被禁止使用如桧木、榉木等高级材料建造房屋。

高山町家的屋顶低矮，通常仅高 4 米。为了纳入更多自然光，从而减少蜡烛和其它明火的使用，许多町家后来都增设了天窗，这同时也弥补了侧面无窗的缺点。

<繁体字>

高山町家的特色

高山的町家設計同時受到京都和江戶（今東京）兩方文化的影響。興建第一批街區時，工匠們主要參考的是京都町家。1695 年受幕府直轄後則受江戶風格影響更大。

高山町家同時還反映了當地風土特色。譬如，考慮到當地多雪的氣候，為避免二樓窗外積雪，上層屋頂要延伸到下層之外；屋簷前端設排水溝用於排放雪水；屋頂大多以木片瓦「樽葺」覆蓋。

江戶時代（1603-1867）的城鎮經常因火災遭受嚴重破壞，德川幕府便想把飛驒高山地區（驒音「駝」）森林作為修復工程所需木材的來源。於是幕府調走金森家，直接接管了飛驒高山地區和周邊森林，以使用其木料重建都城。德川治下，商販們被禁止使用如檜木、榉木等高級材料建造房屋。

高山町家的屋頂低矮，通常僅高 4 公尺。為了納入更多自然光，從而減少蠟燭和其它明火的使用，許多町家後來都開了天窗，這同時也彌補了側面無窗的缺點。

<日本語仮訳>

高山の町家の特徴

高山の町家は、京都や江戸（現在の東京）の文化の影響を受けています。高山の大工たちは高山の町並みを作る際に京都の町家建築を参考にしました。1695年に徳川幕府が高山を直轄領としてからは、高山の建築は幕府のある江戸の流行からの影響が顕著になりました。

高山の町家は、また風土への対応が融合したものでもあります。高山の冬は雪が多いため、2階の窓の前に雪が積もらないように、住宅の上部の屋根は下部の屋根よりも長く伸びています。軒先には溝があり、雪解け水を集めて排水しています。また、高山の町家は、ほとんどが樽葺と呼ばれる木製の板で覆われていました。

江戸時代（1603-1867）の町は、火災で大きな被害を受けることが多くありました。徳川幕府は江戸復興のための木材の供給源として、飛騨高山藩の山林に目を付けます。幕府は金森家を別の藩に移し、飛騨高山藩とその山林を直轄領としました。徳川政権下では、飛騨の商人はヒノキやケヤキなどの特定の高級木材の使用を禁止されました。

高山の町家の屋根の高さは平均して約4メートルで、他の町家に比べて低くなっています。多くの町家の建物は側面には窓がなく、自然光を取り入れ、ろうそくなどの火を使わずに済むよう屋根窓が後に設けられています。

【タイトル】 飛驒の匠、高山の名工の遺志を継ぐ

【想定媒体】 看板

<簡体字>

飞驒工匠，高山的名工传承

奈良时代(710-794)日本颁布了《养老律令》，规定高山飞驒地区（驒音“驼”）的工匠和木匠可“以工代税”。他们被称为“飞驒之匠”，正是他们建造了日本一些最古老的庙宇和神社，其中包括奈良的东大寺、春日大社、以及大津的石山寺。

遵循《养老律令》，飞驒每年派送约百位木工及木匠去都城服役。他们被编成 5 人一组，50 天的所得可吃一年，收入颇为可观。

镰仓时代(1185-1333)，飞驒之匠的法令被废除，工匠不再服役，但此时飞驒工匠早已名满全国，他们走向日本各地，继续建造庙宇和华屋。飞驒工匠的身影出现在许多文学作品中，在日本最早的和歌集《万叶集》和 12 世纪的佛教故事集《今昔物语》中都有提及。

除了建筑，飞驒匠人的作品还有高山祭“屋台”（花车）及其木雕。此外，和服袋带配饰紫杉“根付”和其他小饰件也非常有名。明治时代(1868-1912)，由幕府制定的阶级制和节俭令被废除，工匠们开始为高山富商建造使用高级建材的民居。日本现代化后，飞驒工匠也转而开始从事高级家具和木制品的制作。

<繁体字>

飛驒工匠，高山的名工傳承

奈良時代（710-794）日本頒佈了《養老律令》，規定高山飛驒地區（驒音「駝」）的工匠和木匠可「以工代稅」。他們被稱為「飛驒之匠」，也正是他們建造了日本一些最古老的廟宇和神社，其中包括奈良的東大寺、春日大社、以及大津的石山寺。

遵循《養老律令》，飛驒每年派約百位木工及木匠去都城服役。他們被編成 5 人一組，50 天的所得可吃一年，收入頗為可觀。

鎌倉時代（1185-1333），飛驒之匠的法令被廢除，工匠不再服役，但此時飛驒工匠早已名滿全國，他們走向日本各地，繼續建造廟宇和華屋。飛驒工匠的身影出現在許多文學作品中，在日本最早的和歌集《萬葉集》和 12 世紀的佛教故事集《今昔物語》中都有提及。

除了建築，飛驒匠人的作品還有高山祭「屋台」（花車）及其木雕。此外，和服袋帶配飾紫杉「根付」和其他小飾件也非常有名。明治時代（1868-1912），由幕府製定的階

級制和節儉令被廢除，工匠們開始為高山富商建造使用高級建材的民居。日本現代化後，飛騨工匠也轉而開始從事高級家具和木製品的製作。

<日本語仮訳>

飛騨の匠、高山の名工の遺志を継ぐ

奈良時代（710-794）に、日本では「養老律令」という法律を施行しました。この法律には、高山や飛騨の国の職人や大工は、税を労働力で納めることができるという規定があります。彼らは「飛騨の匠」と呼ばれ、奈良の東大寺、春日大社と大津の石山寺など、日本最古の寺社仏閣を建立しました。

「養老律令」により、毎年、飛騨の大工・木工職人約 100 人が都に派遣されていました。彼らは 5 人単位で派遣され、その対価として、50 日分で一人の労働者の一年分の食費が賄えるとされ、当時としては大変な額でした。

鎌倉時代（1185-1333）になると、飛騨の匠は廃止されました。しかしその頃には、飛騨の匠は国中で尊敬を集めるようになり、寺院やその他の精巧な建築物を造り続けました。日本最古の和歌集『万葉集』や 12 世紀の説話集『今昔物語』などたくさんの文学作品にも、飛騨の木工職人が登場しています。

建物以外に、高山祭の屋台やその木彫り、イチイで作った着物を着るときに帯に物を留めるための根付や小物もまた、飛騨の匠の手によるものです。明治時代（1868-19212）には、幕府によって制定された身分制度や儉約令が廃止され、高山の豪商たちは飛騨の匠を雇い高級建材を使った家屋を建てました。日本の近代化に伴って、飛騨の匠は、高級家具や木製品なども手掛けるようになりました。

【タイトル】 高山の歴史：城下町時代

【想定媒体】 看板

<簡体字>

高山历史：城下町时代

高山的前身安川村是飞驒国（驒音“驼”，今岐阜县北部）的一个偏僻村庄，远离政治权利中心。1585年，金森家的家主金森长近(1524-1608)率军击败当时的统治者三木家族，夺得飞驒国控制权。

1588年，金森长近修建高山城，以确立飞驒国领主地位。1600年关原之战时，他效力于德川家康(1543-1616)，作为胜利的回报，被允许继续统治飞驒高山地区。

在这座围绕城堡修建的金森家族的城下町，武士家臣住在城堡附近的江名子川边，商人被赶到远离城堡的宫川沿岸。飞驒商人大多经营采矿、伐木和养蚕生意及其它各种小产业。

1692年，第6任家主金森赖时(1669-1736)被调去他藩。此后3年里，德川幕府将飞驒高山地区置于直接管辖下，高山迈入了它的黄金时代。

<繁体字>

高山歷史：城下町時代

高山的前身安川村是飛驒國（驒音「駝」，今岐阜縣北部）的一個偏僻村莊，遠離政治權利中心。1585年，金森家家主金森長近（1524-1608）率軍擊敗當時的統治者三木家族，奪得飛驒國控制權。

1588年，金森長近修建高山城，以確立飛驒國領主地位。1600年，他站在德川家康（1543-1616）一邊取得了關原之戰的勝利，因此獲得回報，被允許繼續統治飛驒高山地區。

在這座圍繞城堡修建的金森家的城下町，武士家臣住在城堡附近的江名子川邊，商販被趕到遠離城堡的宮川沿岸。飛驒商人階級大多經營採礦、伐木、養蠶生意及其它各種小產業。

1692年，第6任家主金森賴時（1669-1736）被調去他藩。此後3年裡，德川幕府將飛驒高山地區置於直接管轄下，高山進入了其黃金時代。

<日本語仮訳>

高山の歴史：城下町時代

高山の歴史は、飛騨国（現在の岐阜県北部）の人里離れた安川村から始まり、ここは政治権力の中心地からは隔絶された場所でした。1585年、金森家の当主である金森長近（1524-1608）が飛騨を支配していた三木家を破り、この土地の統治権を手に入れました。

金森長近は1588年に高山城を築き、飛騨の大名としての地位を確固たるものにしました。彼は徳川家康（1543-1616）の側に立って、1600年の関ヶ原の戦いで勝ち、その恩賞として飛騨高山藩の存続を許されました。

金森家の城下町では、武士は江名子川沿いの城の近くに住み、商人は城から離れた宮川沿いに住むことを命じられました。飛騨の商人は主に鉱山や伐採、養蚕、小さな産業などで生活を支えていました。

1692年、金森家6代目当主の頼時（1669-1736）は、他藩に転封となります。その後3年の間に、幕府が直接飛騨高山藩を支配することとなり、高山は黄金時代を迎えます。

【タイトル】 高山の歴史：徳川幕府の時代

【想定媒体】 看板

<簡体字>

高山历史：徳川幕府治下

江户时代(1603-1867)，高山是重要的交通枢纽。它位于 5 条主干道的交汇点上，还可以利用宫川将木材从水路送至富山，再转运至全国各地。丰富的矿藏和广袤的森林也令此地举足轻重。

为控制陆路和水路，1692 年幕府将金森家族调离，直辖飞驒高山地区（驒音“驼”）。

江户时代也是飞驒木匠和工匠的鼎盛时期。全日本皆知他们是建造奈良、京都恢宏庙宇和神社的“飞驒之匠”。在长久的和平时期里，他们开始为有权势的武士建造新居，售卖精巧的和服袋带配饰“根付”和各种木制品。

高山地区还有钱庄、大量丝织业者以及 50 多家持证经营的酒坊，作为文化中心也极为繁荣，“小京都”的名号被沿用至今。

<繁体字>

高山歷史：徳川幕府治下

江戸時代（1603-1867），高山是重要的交通樞紐。高山位於 5 條主幹道的交匯點上，還可以利用宮川將木材從水路送至富山，再轉運至全國各地。豐富的礦藏和廣袤的森林也令此地舉足輕重。

為確保對陸路和水路的控制，1692 年幕府將金森家調離，對飛驒高山地區（驒音「駝」）進行直轄管理。

江戸時代也是飛驒工匠和木匠的鼎盛時期。全日本皆知他們是建造奈良、京都恢宏廟宇和神社的「飛驒之匠」。在長久的和平時期裡，他們開始為有權有勢的武士建造新居，出售精巧的和服袋帶配飾「根付」和各種木製品。

高山地區還有錢莊、大量絲織業者以及 50 多家持證經營的酒坊，作為文化中心也極為繁榮，「小京都」的名號被沿用至今。

<日本語仮訳>

高山の歴史：徳川幕府の時代

江戸時代（1603-1867）、高山は交通の要所でした。高山は5つの街道が交差する場所であり、宮川を利用して、木材を富山に運び、そこから日本各地に運ばれていました。高山は豊かな鉱山と緑豊かな森林に恵まれていたため、特に貴重な存在でした。

1692年、幕府は金森家を別の藩に移し、道路や水路の支配権を確保するために、飛騨高山藩を直轄領として管理するようになりました。

飛騨国の大工や木工職人は、江戸時代に空前の繁栄を遂げます。彼らはすでに奈良や京都の壮大な寺社仏閣を建設した「飛騨の匠」として全国的に知られていました。長く平和な時代が続く中、有力な武士の家を建てたり、精巧な着物の帯の飾り「根付」などを販売したりしていました。

また高山には金貸しや多くの絹織物業者、50軒以上の酒造免許を持つ蔵元などがいました。こうして文化の中心地として繁栄した高山は「小京都」として知られるようになり、今なおその名で呼ばれています。

【タイトル】 高山の歴史：高山城

【想定媒体】 看板

<簡体字>

高山历史：高山城

1585 年，金森长近(1524-1608)夺得飞驒国（驒音“驼”）统治权，1588 年建造了高山城。他将城堡建在 687 米高的山上，附近是宫川和江名子川两河汇流之处。

日本城堡的要塞“本丸”位于最内侧，虽然很重要，领主却很少住在里面。高山城本丸内的房间多达几十个，包括浴室和茶室，说明此处可能被用来待客。

金森家族对高山的统治一直延续至 1692 年被幕府调离，高山最终纳入幕府直辖之下。高山城主体以及大部分石墙都已拆除，但仍有部分建筑被迁建保存下来。在高山阵屋（旧藩国行政中心“代官所”）里的仓库“御藏”，很可能就是老城堡的米仓，法华寺的本堂（正殿）据传也是高山城堡的一部分。

<繁体字>

高山歷史：高山城

1585 年，金森長近（1524-1608）奪得飛驒國（驒音「駝」）統治權，1588 年興建了高山城。他將城堡建在 687 公尺高的山上，附近是宮川和江名子川兩河匯流之處。

日本城堡的要塞「本丸」位於最內側，雖然重要，領主卻很少住在裡面。高山城本丸內的房間多達幾十個，包括浴室和茶室，說明此處可能被用來待客。

金森家對高山的統治一直延續至 1692 年被幕府調離，高山最終納入幕府直轄之下，才落下帷幕。高山城主體以及大部分石牆都已拆除，但仍有部分建築被遷建保存下來。在高山陣屋（舊藩國行政中心「代官所」）裡的倉庫「御藏」，很可能就是老城堡的米倉，法華寺的本堂（正殿）據說也是高山城堡的一部分。

<日本語仮訳>

高山の歴史：高山城

1585 年、金森長近（1524-1608）は飛驒国の支配権を奪い、1588 年、宮川と江名子川が交差する場所に程近い、標高 687 メートルの山に高山城を築きました。

一番奥のやぐらに位置する日本の城の本丸に、大名が住むことは稀でした。しかし、高山城の本丸には何十もの部屋があり、風呂や茶室もあったことから、ここで客をもてなしていたのかもしれません。

金森家の子孫は、1692年に幕府が金森家を他藩に転封し、高山を直轄するまで、この地を統治していました。高山城は石垣のほとんどを含めて解体されてしまいましたが、一部の建物は保存され、移築されました。高山陣屋（旧藩の代官所）にある御蔵は、高山城の米蔵だったとされています。また、法華寺の本堂も高山城の一部であったと考えられています。

地域番号	004	協議会名	宗教法人 住吉大社
------	-----	------	-----------

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
004-001	住吉大社の概要と歴史	1320	看板
004-002	第一本宮	215	看板
004-003	第二本宮	200	看板
004-004	第三本宮	225	看板
004-005	第四本宮	230	看板
004-006	住吉造	295	看板
004-007	大海神社	340	看板
004-008	反橋 (太鼓橋)	355	看板
004-009	石舞台・南門・東西楽所	325	看板
004-010	御田 (神聖な田んぼ)	515	看板
004-011	手水舎	255	看板
004-012	正面参道	290	看板
004-013	誕生石	390	看板
004-014	石灯籠群	335	看板
004-015	五所御前・五大力	285	看板
004-016	初辰まいり	310	看板
004-017	楠珞社	295	看板
004-018	種貸社	270	看板
004-019	大歳社	230	看板
004-020	おもかる石	190	看板
004-021	浅澤社	165	看板
004-022	住吉御文庫	335	看板
004-023	侍者社	235	看板
004-024	卯の花苑	210	看板
004-025	住吉大社	480	WEB
004-026	住吉大社の歴史	840	WEB
004-027	4つの本宮	935	WEB
004-028	反橋 (太鼓橋)	705	WEB
004-029	五所御前	330	WEB
004-030	大海神社	410	WEB
004-031	石舞台・南門・東西楽所	460	WEB
004-032	侍者社	325	WEB
004-033	御田 (神聖な田んぼ)	330	WEB
004-034	手水舎	240	WEB
004-035	正面参道	310	WEB
004-036	誕生石	415	WEB

004-037	石灯笼群	840	WEB
004-038	住吉御文庫	435	WEB
004-039	初辰まいり	300	WEB
004-040	楠珙社	240	WEB
004-041	種貸社	200	WEB
004-042	大歳社	365	WEB
004-043	初詣（新年初お参り）	435	WEB
004-044	踏歌神事	425	WEB
004-045	白馬神事	285	WEB
004-046	卯之葉神事	280	WEB
004-047	御田植神事	515	WEB
004-048	住吉祭	370	WEB
004-049	観月祭	375	WEB
004-050	土人形	390	WEB
004-051	初辰まいり	670	パンフ
004-052	種貸社	355	パンフ
004-053	楠珙社	390	パンフ
004-054	浅澤社	220	パンフ
004-055	大歳社	330	パンフ
004-056	住吉祭	260	その他
004-057	初詣（新年初お参り）	190	その他
004-058	観月祭	175	その他
004-059	御田植神事	210	その他

【タイトル】住吉大社の概要と歴史

【想定媒体】看板

<簡体字>

<概要>

古老而神奇的住吉大社

住吉大社是日本最古老的神道教神社之一，与下关、博多两地的住吉神社并称为日本“三大住吉”，也是日本约 2300 多座住吉神社的总本社。公元 211 年，传说中的神功皇后创建了大社，这里如今供奉着“住吉三神”和神功皇后。

大社的四座本宫面向西边的海湾建立。古时它们每 20 年会“迁宫”（拆除和重建）一次。后来这种传统一度中断，但在那段期间，本宫仍然定期得到修建维护。

许多日本的文学作品中都曾出现过住吉大社的身影。1800 多年来，大社拥有来自各行各业的信奉者多达数百万人。每年有 200 多万人来到这里参加新年首次参拜“初诣”，仲夏时节的“住吉祭”也是大阪最盛大的节日之一。此外，大社还有很多其他庆典活动，大都以音乐、舞蹈和日本传统诗歌朗诵等节目吸引了大量游客到来。

<全文>

住吉大社的概要和历史

住吉大社是日本最古老的神道教神社之一，与下关、博多两地的住吉神社并称为日本“三大住吉”，也是日本约 2300 座住吉神社的总本社。根据传统的日本编年史记载，大社由神功皇后于 211 年建立，她是一位传说中的摄政皇后，在丈夫去世后统治了本州西部。神功皇后在大社里供奉了三位海神，他们被统称为“住吉三神”。在日本创世神话中，日本列岛的创造者之一伊邪那岐命从冥界归来后进入海中净化自己，住吉三神便诞生于那时。另一种传说则认为，这三位神灵是猎户座腰带上那三颗明亮的星星，能为航海者指明方向。神功皇后去世后，她也作为神灵与住吉三神一同供奉在这里。

最初的住吉大社离大阪湾仅几米远，但淤泥沉积和填海工程使海岸线向西移动了近 7 公里。在公元 7 世纪到 9 世纪之间，附近的难波津（今大阪港）是中国进行商贸和外交的门户，同时也是连接大阪和日本北部的国内贸易路线的起点和终点。在神功皇后之孙仁德天皇开辟住吉津港口之后，住吉大社供奉的神灵被视作遣隋使和遣唐使的航海守护神而备受尊崇。

住吉大社的四座本宫各自供奉着自己的主神，它们都面向西边的海湾而建。根据奈良时代(710-794)从中国传入的风水法则，大多数神社都面向南方或东方，住吉大社因此显得与众不同。在古代，本宫每 20 年都会“迁宫”（拆除和重建）一次。虽然这个悠久的传统曾被日本 16 世纪的内战打断，但在那期间，本宫仍然定期得到修建维护。

大阪人亲切地把大社称为“住吉さん”(sumiyossan)，从古代民间故事、11世纪的《源氏物语》到近期的文学作品，许多日本故事中都会出现住吉大社的身影。大社内有一座诺贝尔文学奖获得者川端康成(1899-1972)的纪念碑，他的短篇小说《反桥》(1948)就把故事舞台设在了大社内一座同名的桥梁上。

1800 多年来，住吉大社一直守护着通往大阪以及奈良和京都等古都的海上大门。无论是天皇、诗人，还是海员或商人，许多来自各种行业以及各种身份的人都成为了大社的信奉者，数量可达数百万人。每年 1 月的头三天，有 200 多万人来到住吉大社参加日本的新年传统“初诣”，即一年中的第一次参拜。仲夏时节举办的“住吉祭”是大阪最盛大的节日之一，节日上的神轿巡游极具特色。此外，大社还有众多庆典活动，比如 6 月与插秧有关的“御田植神事”和初秋的“观月祭”，大都以音乐、舞蹈和日本传统诗歌朗诵等节目吸引了大量游客到来。

<繁体字>

<概要>

古老而神奇的住吉大社

住吉大社是日本最古老的神道教神社之一。與下關、博多兩地的住吉神社並稱為日本「三大住吉」，也是日本約 2300 座住吉神社的總本社。西元 211 年，傳說中的神功皇后建立大社，這裡如今供奉著「住吉三神」和神功皇后。

四座本宮與普通神社不同，都面向西邊的海灣。本宮每 20 年會「遷宮」（拆除和重建）一次。這個悠久的傳統曾被一時中斷，但對本宮定期修建維護的習慣依舊保存。

住吉大社出現在許多日本故事當中。1800 多年來，大社的信奉者來自各行各業，人數以百萬計。每年有 200 多萬人來到住吉大社參加新年初次參拜「初詣」，仲夏時節的「住吉祭」則是大阪最盛大的節日之一。除此之外，大社還有許多慶典活動，都以音樂、舞蹈和日本傳統詩歌的朗誦吸引了大量遊客到來。

<全文>

住吉大社的概要和歷史

住吉大社是日本最古老的神道教神社之一，與下關、博多兩地的住吉神社並稱為日本「三大住吉」，也是日本約 2300 座住吉神社的總本社。根據傳統的日本編年史記載，大社由神功皇后於西元 211 年建立，她是一位傳說中的攝政皇后，在丈夫去世後統治了本州西部。神功皇后在大社裡供奉了三位海神，祂們被統稱為「住吉三神」。在日本創世神話中，日本列島的創造者之一伊邪那岐命從冥界歸來後進入海中淨化自己，住吉三神便誕生於那時。也有一種傳說認為，這些神祇是獵戶座腰帶上那三顆明亮的星星，能為航海者指明方向。在神功皇后去世後，她也作為神祇與三神一起供奉在住吉大社。

剛建成時住吉大社距離大阪灣僅僅幾公尺遠，但淤泥沉積和填海工程使海岸線向西移動了近 7 公里。在西元 7 世紀到 9 世紀之間，附近的難波津（今大阪港）是與中國商貿和

外交の門戸，同時也是連接大阪和日本北部的國內貿易路線的起點和終點。在神功皇后之孫仁德天皇開闢住吉津之後，住吉大社供奉的神祇被視作遣隋使和遣唐使的航海守護神而備受尊崇。

住吉大社の本社は供奉其守護神の四座本宮，它們都面向西邊的海灣。根據奈良時代（710-794）從中國傳入的風水傳統，大多數神道教神社都面向南方或是東方，住吉大社因此顯得與眾不同。在古代，本宮每 20 年都會「遷宮」（拆除和重建）一次，雖然這種傳統曾被日本 16 世紀的內戰打斷，但那個期間依舊保存了對本宮定期修建維護的習慣。

大阪人親切地把大社稱為「住吉さん」（sumiyossan），它也出現在許多日本故事裡——從古代民間故事、11 世紀的《源氏物語》，直到近期的文學作品。大社內有一座川端康成（1899-1972）紀念碑，這位諾貝爾文學獎獲獎人曾將他的短篇小說《反橋》（1948）的故事舞臺設定在大社內一座同名的橋樑上。

1800 多年來，住吉大社一直守護著通往大阪以及奈良和京都等古都的海上大門。無論天皇、詩人、海員或是商販，來自各行各業、數以百萬計的香客都成為大社的信奉者。每年 1 月的頭三天，有 200 多萬人來到住吉大社參加日本新年傳統「初詣」，即一年中第一次參拜。仲夏時節，大社舉辦的「住吉祭」是大阪最盛大的節日之一，其中神轎巡遊極具特色。除此之外，大社還有許多慶典活動，比如 6 月與插秧有關的「御田植神事」和初秋的「觀月祭」，它們以音樂、舞蹈和日本傳統詩歌朗誦吸引了大量遊客到來。

<日本語仮訳>

<まとめ>

古き良き空間、神秘的な世界——住吉大社

住吉大社は、日本で最も古い神社の一つです。下関と博多の住吉神社をあわせて、日本三大住吉とされ、また全国約 2,300 社余の住吉神社の総本社でもあります。大社は伝説的な女帝、神功皇后によって 211 年に創建されています。いまここでは、「住吉三神」と神功皇后が祀られています。

本宮の 4 つのお堂が西側の湾に向かって建っています。かつては、本宮を 20 年ごとに「遷宮」（解体・再建）していました。この慣行が、一時中断した時代もありましたが、その間も定期的に修復を施していました。

住吉大社は、多くの日本の文学作品に登場します。1800 年以上もの間、住吉大社の崇敬者は、さまざまな職業の数百万の人々に及んでいます。毎年の新年初お参りの「初詣」には 200 万人以上が参拝に訪れます。真夏に催される「住吉祭」は、大阪でも有数の規模を誇る祭礼です。大社のほかの神事では、音楽や踊り、日本古典詩の和歌の朗読などが行われ、多くの人で賑わいます。

<本文>

住吉大社の概要と歴史

住吉大社は、日本で最も古い神社の一つです。下関と博多の住吉神社をあわせて、日本三大住吉とされ、また全国約 2300 社余の住吉神社の総本社でもあります。日本の伝統的な年代記によると、大社は夫の死後に本州西部を治めていた伝説的な女帝、神功皇后によって 211 年に創建され

ています。神功皇后は、「住吉三神」と呼ばれる 3 人の海の神を祀りました。日本神話では、日本列島を創った伊弉那岐命が、冥界への旅の後、海で身を清めた時に三神は誕生したとされています。また一説には、三神は一般的に航海の道しるべとして使われたオリオン座の 3 つの明るい星であるとも言われています。神功皇后は没後、住吉大社に三神と共に祭神として祀られました。

住吉大社はもともと大阪湾岸から数メートルのところ建てられていましたが、自然の沈泥の堆積や埋め立てにより、海岸線は西へ約 7km 移動しました。7 世紀から 9 世紀にかけて、最寄りの難波津（現在の大阪港）は中国との貿易や外交の玄関口であり、大阪と北日本とを結ぶ国内貿易の起点でもあり終点でもあったのです。一方、神功皇后の孫にあたる仁徳天皇の住吉津の開港以来、住吉大社の祭神は、遣隋使・遣唐使に代表される航海の守護神として崇敬を集めてきました。

住吉大社本宮では、それぞれの祭神を祀る 4 つのお堂が西側の湾に向かって建っています。これは、奈良時代（710-794）に中国から導入された地相学の法則に基づいて南や東を向いている多くの神社とは異なるものです。かつては、本宮を 20 年ごとに「遷宮」（解体・再建）していました。長きにわたり繰り返し行われたこの慣行が、16 世紀の戦乱の時代に一時中断されましたが、その間も定期的に修復を施していました。

「すみよっさん」と大阪の人が親しみを込めて呼ぶ住吉大社は、昔話や 11 世紀の『源氏物語』から最近の文学作品まで、多くの日本の物語に登場します。境内には、ノーベル賞受賞作家・川端康成（1899-1972）の記念碑があり、彼の短編小説『反橋』（1948）の舞台となったのもこの神社です。

1800 年以上もの間、住吉大社は大阪とその先に広がる奈良や京都古都につづく海の玄関口を守ってきました。その崇敬者は、天皇や歌人、船乗りや商人など、さまざまな職業や地位の数百万人に及んでいます。毎年 1 月、正月三が日の新年初参り「初詣」には、200 万人以上が参拝に訪れます。真夏に催される「住吉祭」は、神輿が練り歩く大阪でも有数の規模を誇る祭礼です。また、6 月の「御田植神事」や初秋の「観月祭」などの神事では、音楽や踊り、日本古典詩の和歌の朗読などが行われ、多くの人で賑わいます。

【タイトル】 第一本宮

【想定媒体】 看板

<簡体字>

第一本宮

住吉大社供奉着三位海神，第一本宮的主神是其中之一“底筒男命”。这里的币殿（向神灵敬奉币帛和神饌之处）比其他3座本宮的要大一些，不过，这种规模上的差异并不代表神灵的地位高低。人们认为神灵之间皆为平等，除币殿之外，四座本宮在其他方面都是相同的。

新年期间，聚集大社的人们走不到赛钱箱（功德箱）近前，只能远远地抛投硬币，夹在第一本宮屋檐上的硬币由此而来。现存的本殿（正殿）建于1810年，被指定为国宝，币殿则是国家指定重要文化财产。

<繁体字>

第一本宮

住吉大社供奉著三位海神，第一本宮的主神是其中之一「底筒男命」。這裡的幣殿（向神明敬奉幣帛和神饌之處）比其他3座本宮的要大一些，不過，這種規模上的差異並不代表神祇的地位高低。人們認為神祇之間皆為平等，除幣殿之外，四座本宮在其他方面都是相同的。

新年期間，聚集大社的人們走不到賽錢箱（功德箱）近前，只能遠遠地拋投硬幣，夾在第一本宮屋簷上的硬幣由此而來。現存的本殿（正殿）建於1810年，被指定為國寶，幣殿則是國家指定重要文化財產。

<日本語仮訳>

第一本宮

第一本宮は、住吉大社の三大海神の1人である底筒男命を祀っています。幣殿（幣帛と神饌をささげる）は他の3つの本宮と比較すると大きいものの、その大きさの違いは神々の地位の違いを反映したものではありません。神々是对等であると考えられており、幣殿を除けば4つの社は同じです。

本宮の屋根の縁にある屋根板の中に入っている硬貨は、正月に集まった人たちが賽銭箱に近づけないため、遠くから投げたお賽銭です。現在の本殿は1810年に建てられたもので、国宝建造物に指定されており、幣殿は国指定重要文化財です。

【タイトル】 第二本宮

【想定媒体】 看板

<簡体字>

第二本宮

住吉大社供奉着三位海神，第二本宮的主神是其中之一“中筒男命”。这里的本殿（正殿）有两间屋子，里面一间供奉着主神，从不对外开放；外面一间只在重大祭典时打开大门，比如1月的“初詣”（新年首次参拜），或是6月的“御田植神事”和仲夏时节的“住吉祭”。本殿的前面是币殿，这是向神灵敬奉币帛和神饌之处，也是为主神举办特别仪式的场所。现存的本殿建于1810年，被指定为国宝，币殿则是国家指定重要文化财产。

<繁体字>

第二本宮

住吉大社供奉著三位海神，第二本宮的主神是其中之一「中筒男命」。這裡的本殿（正殿）有兩間屋子，裡面一間供奉著主神，從不對外開放；外面一間只在重大祭典時打開大門，比如1月的「初詣」（新年初次參拜），或是6月的「御田植神事」和仲夏時節的「住吉祭」。本殿前面是幣殿，是向神明敬奉幣帛和神饌之處，也是為主神舉辦特別儀式的場所。現存的本殿建於1810年，被指定為國寶，幣殿則是國家指定重要文化財產。

<日本語仮訳>

第二本宮

第二本宮は、住吉大社の三大海神の1人である中筒男命を祀っています。本殿の中には2つの部屋があり、奥の部屋には神様が祀られていて、開かれることはありません。外側の部屋は、お正月の「初詣」（新年初お参り）や6月の「御田植神事」、真夏の「住吉祭」などの重要な神事や祭事の際に限り、その扉が開かれます。本殿の前には幣帛と神饌をささげる幣殿があり、祀られているご祭神のための特別な神事の際に使用されます。現在の本殿は1810年に建てられたもので、国宝建造物に指定されており、幣殿は国指定重要文化財です。

【タイトル】 第三本宮

【想定媒体】 看板

<簡体字>

第三本宮

住吉大社供奉着三位海神，第三本宮的主神是其中之一“表筒男命”。与其他几座本宮相同，本殿（正殿）的屋顶为直线人字形，屋脊两端各有一个交叉的装饰。这种建筑风格被称为“住吉造”，它的确立应该早于公元 6 世纪从亚洲大陆传来的其他建筑风格，是日本建筑史上最古老的风格之一。本殿前面的币殿扩建于镰仓时代(1185-1333)，是向神灵敬奉币帛和神饌之处，由一条带有鸟居的短廊与本殿相连。现存的本殿建于 1810 年，被指定为国宝，币殿则是国家指定重要文化财产。

<繁体字>

第三本宮

住吉大社供奉著三位海神，第三本宮的主神是其中之一「表筒男命」。與其他幾座本宮一樣，本殿（正殿）的屋頂為直線人字形，屋脊兩端各有一個交叉的裝飾。這種建築風格被稱為「住吉造」，此風格的確立應該早於西元 6 世紀從亞洲大陸傳來的其他建築風格，是日本建築史上最古老的風格之一。本殿前方的幣殿擴建於鎌倉時代（1185-1333），是向神明敬奉幣帛和神饌之處，由一條帶有鳥居的短廊連接著本殿。現存的本殿建於 1810 年，被指定為國寶，幣殿則是國家指定重要文化財產。

<日本語仮訳>

第三本宮

第三本宮は、住吉大社の三大海神の 1 人である表筒男命を祀っています。ほかの神社と同じく、第三本宮の本殿は直線的な切妻屋根の両端に交差した装飾材を配したものです。このスタイルは「住吉造」と呼ばれ、6 世紀にアジア大陸から入ってきた他の建築様式に先立つものと考えられ、日本建築史上最古の様式の一つでもあります。一番手前にある幣帛と神饌をささげる幣殿は、鎌倉時代（1185-1333）に増築されました。鳥居のある短い廊下で本殿とつながっています。現在の本殿は 1810 年に建てられたもので、国宝建造物に指定されており、幣殿は国指定重要文化財です。

【タイトル】 第四本宮

【想定媒体】 看板

<簡体字>

第四本宮

住吉大社第四本宮の主神は**伝説**中の神功皇后。据**说**，她在公元 3 世纪早期**创建**了住吉大社来供奉“住吉三神”，并在去世后被**视**作神灵“息**长**足姬命”，与其他三位海神一同供奉于此。从各宮的位置上看，第一、第二、第三本宮**纵**向排列，第四本宮与第三本宮并排，就像一支**舰队**在海上航行，是古代祭祀形式的**宝**贵范例。

这里的本殿（正殿）与其他三座本宮相同，但有一个**细节**上的差异：屋脊两端的交叉装饰为水平切割，而其他本宮上的则是垂直切割。现存的本殿建于 1810 年，被指定为国宝。

<繁体字>

第四本宮

住吉大社第四本宮的主神是**傳説**中的神功皇后。據**說**，她在西元 3 世紀早期**創辦**了住吉大社來供奉「住吉三神」，並在去世後被**視**作神祇「息**長**足姬命」，與其他三位海神一同供奉於此。從各宮的位置上看，第一、第二、第三本宮**縱**向排列，第四本宮與第三本宮並排，就像一支**艦隊**在海上航行，是古代祭祀形式的**寶**貴範例。

這裡的本殿（正殿）與其他三座本宮相同，但有一個**細節**上的差異：屋脊兩端的交叉裝飾為水平切割，而其他本宮上的則是垂直切割。現存的本殿建於 1810 年，被指定為國寶。

<日本語仮訳>

第四本宮

第四本宮の祭神は伝説の神功皇后です。3 世紀初頭に、彼女が「住吉三神」を祀るため住吉大社を創建したとされています。彼女が没後、「息長足姫命」という女神として、三大海神とともに大社で祀られるようになりました。第一、第二、第三本宮が縦直列、第四本宮は第三と横並列になっており、あたかも大海原をゆく船団のようで、古代の祭祀形態をよく伝える貴重な存在です。

第四本宮の本殿は他の 3 つの本宮と同じですが、屋根の棟の両端にある交差した装飾材が垂直方向ではなく水平方向に切られている点が異なります。現在の本殿は 1810 年に建てられたもので、国宝建造物に指定されています。

【タイトル】住吉造

【想定媒体】看板

<簡体字>

住吉造

住吉大社四座本宮の本殿（正殿）都是典型的“住吉造”式样，这种式样是日本建筑史上最古老的风格之一。住吉造早在佛教徒于公元 6 世纪从亚洲大陆带来建筑技术和风格之前就存在，这也是它倍受人们注目的一大原因。

住吉造被认为源于古代宫殿建筑，采用简单的人字形屋顶，屋脊两端有一对交叉的装饰条。殿阁入口在一侧山墙之下，与许多神社和佛寺不同，这里没有被称为“缘侧”的檐下走廊，也没有其他建筑风格的神社用来支撑屋顶的中央“御柱”。本殿内分成 2 个空间，分别是神职人员可进入的外殿和供奉着神灵的圣域内殿。

在古代，四座本殿每隔 20 年就要“迁宫”（拆除和重建）一次。虽然这个悠久的传统曾被日本 16 世纪的内战打断，但在那段期间还是会定期修缮和维护。现存的四座本殿建于 1810 年，被指定为国宝。

<繁体字>

住吉造

住吉大社四座本宮的本殿（正殿）都是典型的「住吉造」式樣，這種式樣是日本建築史上最古老的風格之一，住吉造早在佛教徒於西元 6 世紀從亞洲大陸帶來其他建築技術和風格之前就存在，這也是它備受矚目的一大原因。

住吉造被認為源於古代宮殿建築，採用簡單的人字形屋頂，屋脊兩端有一對交叉的裝飾條。殿閣入口在一側山牆之下，與許多神社和佛寺不同，這裡沒有被稱為「緣側」的簷下走廊，也沒有其他建築風格的神社用來來支撐屋頂的中央「御柱」。本殿內分成 2 個空間，分別是神職人員可進入的外殿和供奉著神明的聖域內殿。

在古代，四座本殿每隔 20 年就要「遷宮」（拆除和重建）一次。雖然這個悠久的傳統曾被日本 16 世紀的內戰打斷，但在那段期間還是會定期修繕和維護。現存的四座本殿建於 1810 年，被指定為國寶。

<日本語仮訳>

住吉造

住吉大社の四本宮の本殿は、「住吉造」と呼ばれる日本建築史上最古の様式の 1 つです。住吉造が注目されるのは、仏教徒が 6 世紀にアジア大陸からや建築技術や様式を取り入れるより前のものだからです。

住吉造は古代の宮廷建築にルーツがあると考えられており、シンプルな構造の切妻屋根で、両端に一对の交差した装飾的な 2 本の柱があります。入口は片側の破風の下にあり、多くの神社仏閣のように縁側はなく、他の様式の神社に見られる屋根を支える「御柱」がありません。内部は、神職が入ることができる外側の部屋と内側の神々のための聖域の 2 つの空間に分かれています。

かつて住吉大社の 4 つの本殿は、20 年ごとに「遷宮」（解体・再建）されていました。長きにわたり繰り返し行われたこの慣行は、16 世紀の戦乱の時代に一時中断されましたが、その間も定期的に修復を施していました。現在の本殿は 1810 年に建てられたもので、国宝建造物に指定されています。

【タイトル】 大海神社

【想定媒体】 看板

<簡体字>

大海神社

大海神社比住吉大社更古老，其本殿（正殿）被指定为国家重要文化财产。本殿建筑为“住吉造”风格，是日本建筑史上最古老的建筑构造之一。大海神社最初供奉的是强大的海神绵津见，他深受水手们敬仰，大多数参拜者都祈求能在航行中得到他的庇护。大海神社一直由津守家嫡系掌管，他们的祖先可以追溯到传说中的人物——田裳见宿禰。

公元 3 世纪，神功皇后委托田裳见宿禰建造住吉大社，用来供奉被统称为“住吉三神”的三位海神。田裳见宿禰则把建造新神社的任务交给了被赐姓为“津守”（港口守护者）的儿子。直到明治时代(1868-1912)宗教改革，住吉大社都由津守家族的分支司掌。

现在，大海神社供奉着丰玉彦命和丰玉姬命这两位父女神明。每年 10 月 13 日举行的“大海神社例祭”因前来参拜的人数众多而闻名。

<繁体字>

大海神社

大海神社比住吉大社更为古老，其本殿（正殿）被指定为国家重要文化财产。本殿建筑为「住吉造」风格，是日本建筑史上最古老的建筑构造之一。大海神社最初供奉的是强大的海神绵津见，祂深受水手们敬仰，大多数参拜者都祈求能在航行中得到祂的庇护。大海神社一直由津守家嫡系掌管，他们的祖先可以追溯到传说中的人物——田裳见宿禰。

西元 3 世纪，神功皇后委托田裳见宿禰建造住吉大社，用来供奉被统称为「住吉三神」的三位海神。田裳见宿禰则把建造新神社的任务交给了被赐姓为「津守」（港口守护者）的儿子。直到明治时代（1868-1912）宗教改革，住吉大社都由津守家族的分支掌控。

现在，大海神社供奉著丰玉彦命和丰玉姬命这两位父女神位。每年 10 月 13 日举行的「大海神社例祭」因前来参拜的人数众多而闻名。

<日本語仮訳>

大海神社

大海神社は住吉大社よりも、さらに古い歴史を誇ります。本殿は国の重要文化財に指定されており、日本建築史上最古の様式のひとつ「住吉造」と称されています。大海神社は、元々船乗りが崇拝

する強力な海の神である綿津見を祀っており、参拝者の多くは航海中の安全を祈願していました。大海神社は津守氏の本家が奉斎していましたが、その祖先をたどると伝説の人物、田裳見宿禰に行きつきます。

3世紀に神功皇后は田裳見宿禰に住吉大社の造営を命じ、「住吉三神」と呼ばれる3人の海の神を祀らせたそうです。田裳見宿禰は、津守（港を守る番人）という名を与えられた息子に新しい神社の造営を任せました。明治時代（1868-1912）の宗教改革までの間、津守家の分家が住吉大社を奉斎していました。

現在、大海神社は豊玉彦命と豊玉姫命の親子二神をお祀りしています。毎年10月13日に行われる「大海神社例祭」では、参拝客が多くにぎわうことで有名です。

【タイトル】反橋（太鼓橋）

【想定媒体】看板

<簡体字>

反桥（太鼓桥）

这座陡峭拱桥的官方名称是“反桥”，但通常也被称为“太鼓桥”。与现存这座样式相同的拱桥，是在1600年左右由战国梟雄丰臣秀吉(1536-1598)的侧室淀殿(1567-1615)捐资建成，旨在为他们的儿子丰臣秀赖(1593-1615)寻求神灵护佑。人们深信，跨过这座桥就能净化心灵。

反桥长约20米，高约3.6米，宽约5.5米，最大坡度为48°。桥梁的弧形结构令人联想起倒置的船体，据说它是由造船工匠建造的。在1955年安装台阶之前，桥上木条之间的缝隙是过桥人唯一的立足点。现在的反桥有了钢架支撑，也铺上了新的柏木板，夜间点灯时的景观，被列入“关西夜景百选”。

诺贝尔文学奖获得者川端康成(1899-1972)的一部短篇小说也叫《反桥》(1948)，小说中母子间的对话就发生在反桥上，文中这样描写道：“反桥，上桥容易下桥难”。

<繁体字>

反橋（太鼓橋）

這座陡峭拱橋的官方名稱是「反橋」，但通常也被稱為「太鼓橋」。與現存這座樣式相同的拱橋，是在1600年左右由戰國梟雄豐臣秀吉（1536-1598）的側室澁殿（1567-1615）捐款建成，旨在為他們的兒子豐臣秀賴（1593-1615）尋求神明護佑。人們深信，跨過這座橋就能淨化心靈。

反橋長約20公尺，高約3.6公尺，寬約5.5公尺，最大坡度為48°。橋樑的弧形結構令人聯想起倒置的船體，據說它是由造船工匠建造的。在1955年安裝臺階之前，橋上木條之間的縫隙是過橋人唯一的立足點。現在的反橋有了鋼架支撐，也鋪上了新的柏木板，夜間點燈時的景觀，被列入「關西夜景百選」。

諾貝爾文學獎得獎人川端康成（1899-1972）的一部短篇小說也叫《反橋》（1948），小說中母子間的對話就發生在反橋上，文中這樣描寫道：「反橋，上橋容易下橋難」。

<日本語仮訳>

反橋（太鼓橋）

この急峻な曲線を描く橋の正式名称は「反橋」ですが、「太鼓橋」と呼ばれることもあります。現在の形式の橋は1600年頃に戦国武将、豊臣秀吉（1536-1598）の側室、淀殿（1567-1615）の寄進によって造られ、嫡男の豊臣秀頼（1593-1615）のために、神々のご加護を求めています。この橋を渡るだけでお祓いでき、心が浄化されるという信じられています。

この橋のサイズは、長さ約20メートル、高さ約3.6メートル、幅約5.5メートル。傾斜は最も急なところで48度にも及びます。円形の構造は逆さにした船体に類似しており、船大工によって作られたと考えられています。1955年に階段が設置されるまでは、橋の木製の板の隙間が唯一の足場でした。現在は鉄骨と新しい檜材の板が使用されています。夜間ライトアップも行われており、「関西夜景百選」にも選定されています。

この橋の名前は、ノーベル賞作家・川端康成（1899-1972）が1948年に発表された短編小説の題名にもなっています。ある母子の会話はまさしくこの「反橋」の上で交わされていました。小説のなかで、「反橋は上るよりもおりる方がこはいものです」という一文があります。

【タイトル】 石舞台・南門・東西樂所

【想定媒体】 看板

<簡体字>

石舞台・南門・東西樂所

传统表演艺术是住吉大社许多活动中的重要角色，比如春季的“卯之叶神事”、夏季的“住吉祭”。舞者、歌者和乐师们会在四座本宫南边的区域为神灵们表演，也欢迎公众前来观赏。

表演区中央是一座石舞台，面向北边的四座本宫。它是于 1607 年奉丰臣秀赖(1593-1615)之命建造的，以取代过去的木舞台。丰臣秀赖是 16 世纪末期统一日本的一代梟雄丰臣秀吉(1536-1598)之子。丰臣家族与住吉大社关系密切，据说，丰臣秀赖的母亲淀殿(1567-1615)捐资建造了大社正门口的反桥。

石舞台就在南门入口处，门两侧是供乐师演奏的“东西乐所”，乐师们在卯之叶神事和其他仪式中为石舞台上的舞者伴奏。石舞台、南门和东西乐所均被指定为国家重要文化财产。

<繁体字>

石舞臺・南門・東西樂所

傳統表演藝術是住吉大社許多活動中的重要角色，比如春季的「卯之葉神事」、夏季的「住吉祭」。舞者、歌者和樂師們會在四座本宮南邊的區域為神明們表演，也歡迎民眾前來觀賞。

表演區中央是一座石舞臺，面向北邊的四座本宮。它是奉豐臣秀賴（1593-1615）之命於 1607 年建造的，以取代過去的木舞臺。豐臣秀賴是 16 世紀末期統一日本的一代梟雄豐臣秀吉（1536-1598）之子。豐臣家族與住吉大社關係密切，據說，豐臣秀賴的母親澁殿（1567-1615）捐款建造了大社正門口的反橋。

石舞臺就在南門入口處，門兩側是供樂師演奏的「東西樂所」，樂師們在卯之葉神事和其他儀式中為石舞臺上的舞者伴奏。石舞臺、南門和東西樂所均被指定為國家重要文化財產。

<日本語仮訳>

石舞台・南門・東西樂所

春の「卯之葉神事」や夏の「住吉祭」など、住吉大社では多くの行事において伝統芸能が重要な役割を果たしています。舞手、歌い手、奏者が四本宮の南側に位置するこのエリアで、ご祭神のために舞いや演奏を行います。一般の方も観覧することができます。

中央にある石の台が舞台で、四本宮に向かって北向きに設置されています。1607年、豊臣秀頼（1593-1615）の命により、それまでの木製の舞台に代わって建てられました。秀頼は16世紀末に日本を統一した武将、豊臣秀吉（1536-1598）の嫡男です。豊臣家と住吉大社のつながりは強く、秀頼の母・淀殿（1567-1615）が、正門の反橋を寄進したと言われています。

石舞台は南門を入ってすぐのところであり、門の両側には「卯之葉神事」などの舞台で活躍する舞手たちと一緒に演奏する奏者たちのための棧敷「東西楽所」があります。石舞台、南門、東西楽所は重要文化財に指定されています。

【タイトル】 御田（神聖な田んぼ）

【想定媒体】 看板

<簡体字>

御田（神圣稻田）

在日本，稻米和宗教密切相关。水稻种植期始于神道教仪式，也终于神道教仪式：插秧时要举行为祈祷丰收的“田植神事”；收割时还要举办为感谢神灵恩赐的“收获祭”。

在四大本宫南边的这片古老稻田里，种着奉献给神灵的圣米。据说这片“御田”在公元211年大社成立之时就已存在，住吉大社的创始人神功皇后从本州西部招来经过特别训练的“植女”负责耕种。

平时的稻田十分安静，在繁华的大都市大阪，这样的农耕地非常罕见。历史上，住吉大社曾管理着许多稻田，但随着城市现代化进程，只剩下了这片御田。研究人员在稻田里发现了多类原生植物，比如一种只在盐碱地上生长的棒头草。由此可知，大阪湾曾一度延伸到神社的门口。

御田植神事

每年6月14日，平日安静的御田里会举行插秧仪式“御田植神事”。牛耕地、手插秧的御田植神事忠实再现了住吉大社创建初期最原始的仪式场景，它也是日本最著名的插秧仪式之一，被指定为国家重要非物质文化遗产。

御田植神事从净化秧苗和参与者的仪式开始，然后被盛装打扮的公牛拉着木犁下地耕作，再用圣水净化稻田。当打扮成“植女”的女人们开始插秧时，身着五彩缤纷服饰的舞者和乐师会在田边表演。据说节日的热闹和能量能让秧苗生机勃勃，活力满满。

<繁体字>

御田（神聖稻田）

在日本，稻米和宗教密切相關。水稻種植期始於神道教儀式，也結束於神道教儀式：插秧時要舉行為祈禱豐收的「田植神事」；收割時還要舉辦為感謝神明恩賜的「收穫祭」。

在四大本宮南邊的這片古老稻田裡，種著奉獻給神明的聖米。據說這片「御田」在西元211年大社成立之時就已存在，住吉大社的創辦人神功皇后從本州西部招來經過特別訓練的「植女」負責耕種。

平時的稻田十分安靜，在繁華的大都市大阪，這樣的農耕地非常罕見。歷史上，住吉大社曾管理著許多稻田，但隨著城市現代化進程，只剩下了這片御田。研究人員在稻田裡

發現了多類原生植物，比如一種只在鹽鹼地上生長的棒頭草。由此可知，大阪灣曾一度延伸到大社的門口。

御田植神事

毎年6月14日，平日安靜的御田裡會舉行插秧儀式「御田植神事」。牛耕地、手插秧的御田植神事，忠實再現了住吉大社創辦初期最原始的儀式場景，它也是日本最著名的插秧儀式之一，被指定為國家重要非物質民俗文化財產。

御田植神事從淨化秧苗和參與者的儀式開始，然後被盛裝打扮的公牛拉著木犁下地耕作，再用聖水淨化稻田。當打扮成「植女」的女人們開始插秧時，身著五彩繽紛服飾的舞者和樂師會在田邊表演。據說節日的熱鬧和能量能讓秧苗生機勃勃，活力滿滿。

<日本語仮訳>

御田（神聖な田んぼ）

日本では、米と宗教が密接に結びついています。稲の生育期は神事に始まり神事に終わります。苗が豊かに育つように「田植神事」を行い、その恵みを神に感謝する「収穫祭」が行われるのです。

住吉大社の四本宮のすぐ南側にある古来の水田では、神様に奉納する神聖なお米が栽培されています。古からの言い伝えによると、この「御田」は211年の住吉大社の創建時に作られたそうです。住吉大社を創建した神功皇后は、本州の西部から特別な訓練を受けた植女を招いて田を耕させたとされています。

日本の農耕地としては珍しく大都会大阪の中にあるものの、この水田は大半の日は非常に静かな場所です。歴史的には、住吉大社は多くの水田を管理していましたが、都市の近代化に伴い、今では御田だけが残っています。御田には、かつては大社の入り口のすぐ近くまで大阪湾が広がっていたことを示す塩分を含んだ土壌にしか生えない草、ハマヒエガエリなどの固有の植物が多彩に生息していることが研究者により確認されています。

御田植神事

毎年6月14日、普段は静かな御田で、田植えの儀式である「御田植神事」が行われる。御田植神事は、田を牛で耕し、苗をすべて手作業で植えるという、住吉大社の創成期の神事を忠実に再現した日本で最も有名な田植えの儀式であり、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

御田植神事は、まず苗と参列者を清める儀式から始まります。その後、装飾された牛が木の鋤を引いて田を耕し、水で清められます。「植女」に扮した女性たちが神聖な苗を植える間、色とりどりの衣装を身にまとった舞手や奏者が水田の端で演奏や舞いを披露します。この祭礼の活気とエネルギーが、苗に強さと活力を与えられているとされています。

【タイトル】 手水舎

【想定媒体】 看板

<簡体字>

手水舎（浄水池）

大多数神社の入口附近都有一个**浄水池**，来访者**进入神社时**在此**净化身心**。古代参拜者会在河海中沐浴**净化**，但如今只需洗手漱口即可。

住吉大社的**浄水池**有一只石兔，**浄水**从它的嘴里流出。据说大社是在**农历卯岁**、卯月、卯日建立的，而在十二生肖中“卯”代表兔子，由此可见住吉大社与兔子的深厚缘分。

净化步骤

首先，用右手拿起柄杓从池中舀一些水冲洗左手，然后**换**左手持杓冲洗右手。接着，倒一些水到左手手心用来漱口，再将水小心地吐到盆外的排水区。最后，双手握住**长柄**将柄杓垂直**竖起**，用剩余的水冲洗柄部后再将柄杓放回**原处**。

<繁体字>

手水舎（淨水池）

大多數神道教神社的入口附近都有一個**淨水池**，讓遊客在進入神社前**淨化身心**。在古代，參拜者會在河海中沐浴**淨化**，但如今只需洗手漱口即可。

在住吉大社，注入**淨水池**的水從一隻石兔嘴裡流出。據說該神社是在農曆卯歲、卯月、卯日建立的，在十二生肖中，「卯」代表兔子，由此可見住吉大社與兔子的深厚緣分。

如何淨化

首先，用右手拿起柄杓，從池中舀一些水，用來沖洗左手，然後換左手持杓，沖洗左手。接著，右手舀水，左手拱成杯狀盛水漱口，將水小心地吐到盆外的排水區即可。最後，雙手握住長柄，將柄杓垂直立起，讓剩餘的水沖洗柄部，再將柄杓放回原處。

<日本語仮訳>

手水舎

大多数の神社は、入り口付近に参拜者が境内に入る前に心身を清めるための泉があります。古くは川や海で水浴びをしましたが、現在では手や口を清めるだけで十分です。

住吉大社では、石造りのウサギの口から水が流れ出ます。旧暦の卯の年・月・日に住吉大社は創建されたと言われていています。十二支のなかで、「卯」はウサギのこと。住吉大社とウサギには深い結びつきがあるのです。

手水の使い方

まず右手で柄杓を持ちます。水盤から水をすくい、それを使って左手を清めます。手を持ち替え、右手を清めます。次に、柄杓から少量の水を左手に注ぎ、口をすすぎ、水盤の外側にある排水に水をそっと吐き出します。最後に、両手で柄杓を垂直に立てて、柄杓に残った水を柄に流しつつすすぎ、柄杓を元の場所に戻します。

【タイトル】 正面参道

【想定媒体】 看板

<簡体字>

正面参道

通往住吉大社本宮的宽阔道路被称为“正面参道”。参道是参拜神社或寺庙的道路。走在参道上去神社的第一项参拜行为，标志着从世俗踏入神圣世界。

住吉大社与日本古代(550-1185)贵族阶层有着很深的关联，它出现在当时的许多文学作品中。在紫式部(970?-1019?)创作于 11 世纪的经典作品《源氏物语》中，主人公光源氏参拜了住吉大社，感谢神灵在他受辱并蛰居须磨海岸（今神戸市）时对他的庇护。紫式部在描述大社时，赞美了正面参道前方沿海而生的松树林，以及透过树枝可以看到的白色海浪。这一幕也告诉人们住吉大社与海洋密不可分的关系，大社最初位于大阪湾岸边，日久月长，淤泥沉积和填海工程导致海岸线西移。

<繁体字>

正面参道

通往住吉大社本宮的寬闊道路被稱為「正面參道」。參道是參拜神社或寺廟的道路。走在參道上去神社的第一項參拜行為，標誌著從世俗踏入神聖世界。

住吉大社與日本古代（550-1185）貴族階層有著很深的關聯，它出現在當時的許多文學作品中。在紫式部（970?-1019?）創作於 11 世紀的經典作品《源氏物語》中，主人公光源氏參拜了住吉大社，感謝神明在他受辱並蛰居須磨海岸（今神戸市）時對他的庇護。紫式部在描述大社時，讚頌了正面參道前方沿海而生的松樹林之美，以及透過樹枝可以看到的白色海浪。這一幕也告訴人們住吉大社與海洋密不可分的關係，大社最初位於大阪灣岸邊，日久月長，淤泥沉積和填海工程導致海岸線往西後退。

<日本語仮訳>

正面参道

住吉大社の本宮へと続く広い道のことを「正面参道」と言います。参道とは、神社や仏閣を参拝するための道。参道を歩くことは最初の参拜行為であり、世俗的な場所から神聖な場所への移動を意味するのです。

住吉大社は日本の古代（550-1185）の貴族社会との関わりが深く、当時の文学作品にも多く登場しています。紫式部（970？-1019？）の11世紀の古典『源氏物語』の中で、主人公の光源氏が住吉大社を訪れて、須磨海岸（現在の神戸市）で蟄居をしていた時期に自分を守ってくれたことを神々に感謝します。紫式部は住吉大社について、正面参道の目前に広がる海岸の松並木の美しさを称え、松の枝の間から白波を望むことができると描写しています。その光景から住吉大社が海との結びつきが深かったことがうかがえます。住吉大社はかつて大阪湾岸に位置していたのですが、やがて泥の堆積や埋め立てによって海岸線は西へと移動したのです。

【タイトル】誕生石

【想定媒体】看板

<簡体字>

诞生石

住吉大社从古至今都以保佑平安分娩著称。据说，大社的创始人——公元 3 世纪传说中的神功皇后在其丈夫仲哀天皇去世后，为了保护腹中的应神天皇，怀胎三年才生下他。

诞生石的传说源于岛津忠久(1179-1227)的出生，他是岛津武士家族的创始人。根据其家族的传说，岛津忠久的母亲是著名武将比企能员(?-1203)的妹妹丹后局(1151?-1216)，父亲则是建立日本第一个幕府——镰仓幕府(1185-1333)的源赖朝(1147-1199)。

传说，身怀六甲的丹后局被源赖朝的正室北条政子(1157-1225)诬陷后，被迫逃离了镰仓。在前往和歌山熊野的途中，她躲入住吉大社，紧紧抱着这块大石头生下了岛津忠久。岛津忠久成年后被源赖朝任命为大隅国和萨摩国（今鹿儿岛县）的军事行政官，他的后代成为日本最杰出的武士家族之一，巅峰时期统治了九州的大部分地区。

从诞生石四周的围栏内捡到的小石头，自古被认为可以保佑孕妇安全分娩。

<繁体字>

誕生石

住吉大社從古至今都以保佑平安分娩著稱。據說，大社的創辦人——西元 3 世紀傳說中的神功皇后在其丈夫仲哀天皇去世後，為了保護腹中的應神天皇，懷胎三年才生下他。

誕生石的傳說始於島津忠久（1179-1227）的出生，他是島津武士家族的創始者。根據其家族的傳說，島津忠久的母親是著名武將比企能員（?-1203）的妹妹丹後局（1151?-1216），父親則是建立日本第一個幕府——鎌倉幕府（1185-1333）的源賴朝（1147-1199）。

傳說，身懷六甲的丹後局被源賴朝的正室北條政子（1157-1225）誣陷後，被迫逃離了鎌倉。在前往和歌山熊野的途中，她躲入住吉大社，緊緊抱著這塊大石頭生下了島津忠久。島津忠久成年後被源賴朝任命為大隅國和薩摩國（今鹿兒島縣）的軍事行政官，他的後代成為日本最傑出的武士家族之一，巔峰時期統治了九州的大部分地区。

從誕生石四周的圍欄內撿到的小石頭，自古被認為可以保佑孕婦安全分娩。

<日本語仮訳>

誕生石

住吉大社は、古くから安産祈願でも有名な神社です。住吉大社の伝説的な創建者で 3 世紀の皇后である神功皇后は、夫の仲哀天皇の死後、息子の応神天皇を守るように 3 年間にわたって身ごもったと言われています。

誕生石の伝説は、島津氏の祖である島津忠久（1179-1227）の誕生に始まります。島津氏の言い伝えによると、忠久の母は、有力な武将であった比企能員（？-1203）の妹である丹後局（1151-1216）で、父は日本の最初の幕府（1185-1333）鎌倉幕府を築いた源頼朝（1147-1199）であったと言われています。

頼朝の妻である北条政子（1157-1225）は、丹後局に無実の罪を着せ、身重の丹後局は鎌倉を逃げ出すこととなります。和歌山の熊野へ向かう途中、彼女は住吉大社に身を寄せ、この大きな石にしがみついて忠久を出産したのです。大人になった忠久は、頼朝から大隅国と薩摩国（現在の鹿児島県）の守護職に任命されました。その後、忠久の子孫は日本有数の大名家を築き上げ、最盛期には九州一円を支配しました。

住吉大社の誕生石の柵の中から小石を拾い、安産のお守りするのが古くから人気の信仰となっています。

【タイトル】石灯笼群

【想定媒体】看板

<簡体字>

石灯笼群

住吉大社の参道两旁共有 600 多座石灯笼，绝大部分是由商人或商业协会捐赠，而这种习俗大致形成于 18 世纪早期。每个石灯笼上都刻有捐赠者的名字，目的是为了获得住吉大社里神灵的庇护，并为捐赠者的生意做宣传。

这些石灯笼的捐赠者来自各行各业，但多数与日本海贸易相关。他们的“北前船”穿过濑户内海沿着日本海航行到北海道，途中停靠沿途港口进行货物交易。在自 19 世纪至 20 世纪早期的巅峰时代，北前船贸易为日本的经济做出了巨大的贡献，同时也在日本文化中留下了不可磨灭的印记。

住吉大社最大的 2 座石灯笼是由一家制造玩具和人偶的商会捐赠的，高度均超过 10 米。自 1928 年以来，这两座灯笼曾四次被吊起以添加更大的石基，用来写上更多捐赠者的名字。最近一次基座更换于 2020 年，以纪念新天皇登基以及令和时代的开始。

<繁体字>

石燈籠群

住吉大社の参道兩旁有 600 多座石燈籠。這些石燈籠幾乎都是由企業家或工商團體捐贈，而這種習俗大致形成於 18 世紀初期。每個刻有捐贈者名字的專門訂製石燈籠不僅在祈求住吉大社裡神祇們的保佑，也成為捐贈者生意的廣告宣傳品。

刻在石燈籠上的名字來自各行各業，但多數屬於參與日本海貿易的商人們。他們的「北前船」穿過瀨戶內海，沿著日本海航行到北海道，沿途進行貿易。在從 19 世紀到 20 世紀早期的巔峰時代，北前船貿易大力促進了日本的經濟，與此同時，也在日本文化中留下了深遠的影響。

住吉大社最大的 2 個燈籠是由一個玩具和人偶製造同業公會捐獻的，高度均超過 10 公尺。自 1928 年以來，兩座燈籠曾 4 次被吊起，並新加上更大的石基，以便寫上更多捐獻人的名字。最近一次基座更換於 2020 年，以紀念新天皇登基以及令和時代的開始。

<日本語仮訳>

石灯笼群

住吉大社の参道の両側には、600 基以上の石灯籠が並んでいます。そのほとんどが、18 世紀初めから一般化した商人や団体からの寄進によるものです。寄進者の名前が刻まれた特注の灯籠は、住吉の神々からのご利益と、寄進者の商売を宣伝するために作られたものです。

灯籠に刻まれた名前は、さまざまな業種のものがあります。また、日本海交易に携わる商人から寄進されたものも多くあります。彼らの「北前船」は、瀬戸内海から日本海沿岸を通過して北海道まで行き、各港で交易を行っていました。19 世紀から 20 世紀初頭の最盛期には、北前船の貿易は日本経済を支え、日本の文化にも大きな影響を与えました。

住吉大社の最も大きな灯籠は、玩具や人形の製造業者の団体が寄進したものです。いまでは地上 10 メートルを超える高さを誇ります。1928 年以降 4 回にわたり、この 2 つの灯籠は吊り上げられ、新しい大きな石の台座を設置することで、より多くの寄進者の名前を刻むスペースが設けられたのです。最近では、2020 年に新天皇の戴冠と令和の時代の始まりを記念して造立されました。

【タイトル】 五所御前・五大力

【想定媒体】 看板

<簡体字>

五所御前・五大力

五所御前は第一本宮南邊の一小塊空地，相傳“住吉三神”正是從這裡的一棵大樹上降臨，出現在神功皇后的面前。這次邂逅讓神功皇后於 1800 多年前下令建造了住吉大社。

寫有“五”“大”“力”字樣的鵝卵石和其他石頭一起散落在五所御前里的地面上。“五大力”指的是神明賜予的五種祝福，它們分別是體力、智力、財力、福力和壽力。如果找全這三個字，就可以把它們帶回家。在授予所或楠珞社中有護身袋出售，據說將三顆小石頭裝入袋中隨身攜帶就能讓人如願以償。如果願望成真，許願者須從自家附近尋三塊鵝卵石，寫上“五”“大”“力”後，和之前帶回家的三塊石頭一起送回五所御前，表示所得福運加倍奉還。

<繁体字>

五所御前・五大力

五所御前は第一本宮南邊の一小塊空地，據傳「住吉三神」正是從這裡的一棵大樹上降臨，出現在神功皇后的面前。這次邂逅讓神功皇后於 1800 多年前下令建造了住吉大社。

寫有「五」、「大」、「力」字樣的鵝卵石和其他石頭一起散落在五所御前裡。「五大力」指的是神明賜予的五種祝福，它們分別是體力、智力、財力、福力和壽力。如果找全這三個字，就可以把它們帶回家。在授予所或楠珞社有販賣護身袋，據說將三顆小石頭裝入袋中隨身攜帶就能讓人如願以償。如果願望成真，許願者須從自家附近尋三塊鵝卵石，寫上「五」、「大」、「力」後，和之前帶回家的三塊石頭一起送回五所御前，表示所得福運加倍奉還。

<日本語仮訳>

五所御前・五大力

第一本宮の南に位置するこの小さな場所は「五所御前」と呼ばれています。伝説によると、住吉三神がここのある大木から降りてきて神功皇后の前に姿を現したと言われています。この出会いをきっかけに、神功皇后は 1,800 年以上も前に住吉大社の創建を命じたのです。

五所御前には「五」「大」「力」の文字が書かれた石が他の小石とともに散らばっていて、3 つとも見つけることができれば持ち帰ることが可能です。五大力とは、体力、智力、財力、福力、寿力の 5 つの神の恵みを意味しています。授与所や楠珞社でお守り袋を購入すれば、その石を持ち歩くことができ、

願い事が叶うと言われています。願い事が叶ったら、五大力の文字が書かれたその石と、自宅の近所で集めた 3 つの石に「五」「大」「力」と書いたものを一緒に五所御前に返すという慣わしがあります。これは、自分が受けたご利益を倍にしてお返しすることを表しています。

【タイトル】 初辰まいり

【想定媒体】 看板

<簡体字>

初辰敬拜

住吉大社の四座小神社中供奉着主管商业繁荣的神灵，人们通过“初辰敬拜”祈求神灵保佑自己生意兴隆、事业发达。

初辰敬拜与中国十二生肖历法有关，“辰”是龙，初辰的意思是“第一条龙”，在日语中与“成长、发达”同音，参拜者需要在每月第一个龙日参拜这四座小神社。

这个仪式的升级版是“收获敬拜”。初辰敬拜完可以拿到一张“稻种引换券”，在下次初辰敬拜时，用它在种贷社交换稻谷，再用稻谷在楠珺社交换稻穗，最终将稻穗在大岁社换成一小袋产自住吉大社御田的“御神米”。收获敬拜取自于“一粒万倍”的谚语，即小投资也会在未来取得大回报。

如果连续 48 个月不间断做初辰敬拜，据说就能一生繁荣。在日语中，“四十八辰”听起来与“始终发达”几乎相同。

<繁体字>

初辰敬拜

住吉大社の四座小神社中供奉著主管商業繁榮的神祇，人們透過「初辰敬拜」祈求神明保佑自己生意興隆、事業發達。

初辰敬拜與中國十二生肖曆法有關，「辰」是龍，初辰的意思是「第一條龍」，在日語中與「成長、發達」同音，參拜者需要在每月第一個龍日參拜這四座小神社。

這個儀式的升級版是「收穫敬拜」。初辰敬拜完可以拿到一張「稻種引換券」，在下次初辰敬拜時，用它在種貸社交換稻穀，再用稻穀在楠珺社交換稻穗，最終用稻穗在大歲社換成一小袋產自住吉大社御田的「御神米」。收穫敬拜取自於「一粒萬倍」的諺語，即小投資也會在未來取得大回報。

如果連續 48 個月不間斷做初辰敬拜，據說就能一生繁榮。在日語中，「四十八辰」聽起來與「始終發達」幾乎相同。

<日本語仮訳>

初辰まいり

住吉の 4 つの小さな神社に祀られているご祭神は商売繁盛の神として信仰されていますが、そのご利益を得るために行うのが「初辰まいり」です。

初辰まいりは、12 日周期を採用する中国の旧暦と深く関わっています。「辰」は「龍」のこと、「初辰」は「最初の龍」を意味します。また、日本語のなかで、「初辰」は「成長、発達」と音が同じであるため、参拝者は月の最初の辰の日に 4 社をお参りしなければなりません。

これをバージョンアップさせたものが「みのりまいり」です。初辰まいりの参拝者が「稲種引換券」を 1 枚もらえます。次回の初辰日に種貸社でその券を粃種と交換し、楠瑯社で稲穂と交換し、大歳社で住吉大社の御田で栽培された「御神米」の小袋と交換します。これは「一粒万倍」という言葉にちなんだもので、今の小さな投資が将来大きな利益を生むという意味です。

この「初辰まいり」を 48 ヶ月間続けて行くと、その繁栄は一生続くと言われていました。日本語で「四十八辰」が「始終発達する」という言葉に聞こえます。

【タイトル】 楠瑠社

【想定媒体】 看板

<簡体字>

楠瑠社

楠瑠社は「初辰敬拜」の第二站，参拜者在这里祈求生意兴隆和居家安穩。建築物旁高聳的千年楠木被认为是楠瑠社の守护神，同时也是稻荷神的众多化身之一——农业之神“宇迦魂命”。它的附近有 2 棵依偎在一起的楠木，形成了一对“夫妇”楠，被认为是象征商业合作和婚姻圆满。

如果在此捐獻香資，就会得到一个“招福猫”泥偶。这些能带来繁荣的吉祥物有举起左前爪或右前爪两种，一般单月提供左爪猫，双月提供右爪猫。如果收集到 48 只同款招福猫，就可以换取一只较大的猫。集齐较大的左爪猫和右爪猫各一只，再加上 48 只小猫，就可以换取一只最大的招福猫。获得一对最大尺寸的招福猫绝非易事，需要连续 24 年每个月都参加初辰敬拜。

<繁体字>

楠瑠社

楠瑠社は「初辰敬拜」の第二站，参拜者在这里祈求生意兴隆和居家安穩。建築物旁高聳的千年楠木被认为是楠瑠社の守护神，同时也是稻荷神的众多化身之一——农业之神「宇迦魂命」。它的附近有 2 棵依偎在一起的楠木，构成了一对「夫妇」楠，被认为是象征商业合作和婚姻圆满。

如果在此捐獻香資，就会得到一个「招福猫」泥偶。这些能带来繁荣的吉祥物有举起左前爪或右前爪两种，一般单月提供左爪猫，双月提供右爪猫。如果收集到 48 只同款招福猫，就可以换取一只较大的猫。集齐较大的左爪猫和右爪猫各一只，再加上 48 只小猫，就可以换取一只最大的招福猫。获得一对最大尺寸的招福猫绝非易事，需要连续 24 年每个月都参加初辰敬拜。

<日本語仮訳>

楠瑠社

「初辰まいり」で 2 番目に参拝する楠瑠社には、商売繁盛や家内安全を祈願する参拝者が数多く訪れます。建物の横に聳え立つ樹齢 1,000 年の楠は、この神社の氏神で農業の神であり、稻荷神

の一つである宇迦魂命の顯現であるとされています。近くに 2 本の楠が寄り添い「夫婦」楠を形成しており、事業の協力関係や夫婦関係を円満にするご利益があると考えられています。

楠珥社では、お賽銭と引き換えに招福猫と呼ばれる招き猫の土人形を授与されます。この商売繁盛のお守りには、左前足を上げたものと右前足を上げたものの 2 種類があり、奇数月は左手、偶数月は右手を求める慣習があります。同じ種類の招福猫を 48 匹集めると、より大きな猫 1 匹と交換することが可能です。また、左前足をあげている大きな猫と、右前足をあげている大きな猫を一匹ずつと、小さな招福猫 48 匹を集めると、一番大きな招福猫と交換できます。一番大きなサイズの左右一对の招福猫を手に入れるためには、24 年間、毎月「初辰まいり」をしなければなりません。

【タイトル】種貸社

【想定媒体】看板

<簡体字>

种贷社

种贷社は「初辰敬拜」の第一站，参拜者在这里祈求资金周转良好、怀孕生育和获得智慧。神社的主神是仓稻魂命，他是农业和商业之神稻荷神的众多化身之一。

种贷社与播种、丰收息息相关。“种”意为“种子”，这使它在农业界以外也很受欢迎。在初辰敬拜中，它代表了事业成功所必需的早期投资和努力。期待怀孕的人们也在这里祈祷，种贷社的“种贷人形”小泥偶便是抱着孩子的母亲形象，它被视作受孕和分娩的护身符。

种贷社至少在平安时代(794-1185)早期就已经存在，当时它已被列入朝廷财政支持的神社名单。它最初位于2公里外，在16世纪的一场火灾后被移至住吉大社。

<繁体字>

種貸社

種貸社は「初辰敬拜」の第一站，参拜者在这里祈求资金周转良好、怀孕生育和得到智慧。神社的主神是仓稻魂命，他是农业和商业之神稻荷神的众多化身之一。

種貸社與播種、豐收息息相關。「種」意為「種子」，這使它在農業界以外也很受歡迎。在初辰敬拜中，它代表了事業成功所必需的早期投資和努力。期待懷孕的人們也在這裡祈禱，種貸社的「種貸人形」小泥偶便是抱著孩子的母親形象，它被視作受孕和分娩的護身符。

種貸社至少在平安時代（794-1185）早期就已經存在，當時它已被列入朝廷財政支持的神社名單。它最初位於2公里外，在16世紀的一場火災後被移至住吉大社。

<日本語仮訳>

種貸社

「初辰まいり」で最初に参拝する種貸社には、資金調達、子宝と知恵を祈願する参拝者が数多く訪れます。ここでは、農業、商売の神である稻荷神の化身の一つとされる、倉稻魂命を祀っています。

種蒔や豊作に深い結びつきがあるこの神社は、農業関係者以外にも幅広い人気を誇る神社です。初辰まいりでは、事業を成功させるために必要な初期段階の投資や努力を祈願します。また、子宝に恵まれることを願う人々も参拝します。種貸社では、子どもを抱く母親の姿を象った小さな土人形「種貸人形」を授与しており、これが子授けと出産のお守りとなっています。

種貸社は、平安時代（794-1185）初期に朝廷から財政支援などの処遇を受けた神社に名を連ねており、少なくともこの頃から存在しています。元々は 2 キロ離れた場所にありましたが、16 世紀の火災の後、住吉大社に移設されました。

【タイトル】 大歳社

【想定媒体】 看板

<簡体字>

大岁社

大岁社は「初辰敬拜」の第四站、也是最后一站、参拜者在这里祈求收款顺利和心想事成。神社の主神は神道教神話中の丰收之神——大岁神、他是掌管农业和商业的稻荷神の兄长、稻荷神の化身被供奉在种贷社和楠珺社之中。

参拜完大岁社便完成了初辰敬拜，象征着从种植（种贷社）到培育（楠珺社）再到收获（大岁社）的整个过程。如果从农业角度延伸到商业来看，它代表着从最初投资到最终成功。江戸时代(1603-1867)的一本旅游指南中说，当大阪商人讨不回债款时，就会到大岁社祈祷。

<繁体字>

大歳社

大歳社は「初辰敬拜」の第四站、也是最後一立，参拜者在这里祈求收款顺利和心想事成。神社の主神は神道教神話中の豊收之神——大歳神、祂是掌管農業和商业的稻荷神の兄长，稻荷神の化身被供奉在種貸社和楠珺社之中。

参拜完大歳社便完成了初辰敬拜，象徵著從種植（種貸社）到培育（楠珺社）再到收穫（大歳社）的整個過程。如果從農業角度延伸到商業來看，它代表著從最初投資到最終成功。江戸時代（1603-1867）的一本旅遊指南中說，當大阪商人在討債要帳遇到困難時，就會到大歳社祈禱。

<日本語仮訳>

大歳社

「初辰まいり」で4番目、最後に参拝する大歳社には、集金満足・心願成就を祈願する参拝者が数多く訪れます。ここでは神話に登場する収獲神・大歳神を祀っています。大歳神は種貸社や楠珺社のご祭神、農業、商売の神である稻荷神の兄神にあたります。

大歳社を訪れることで、「種を植える」（種貸社）から「育てる」（楠珺社）、「刈り取る」（大歳社）へと続く一連の展開が完結します。農業はビジネスの比喩として、初期投資から最終的な成功を得ることまでを象徴しているのです。江戸時代（1603-1867）に書かれた旅の指南書には、大阪の商人が売掛金やツケ払いの回収に苦労しているときに、この神社にお参りすると書かれています。

【タイトル】 おもかる石

【想定媒体】 看板

<簡体字>

重軽石

大歳社里的这些石头名字叫“重軽石”，人们用它们来占卜是否能心想事成。

具体占卜步骤：

- 1.面对神社，鞠躬两次，拍手两次，然后再鞠躬一次。
- 2.选择三块石头中的任何一块。
- 3.举起石头，感受它的重量，然后把它放回原处。
- 4.在心中默默许愿。
- 5.再次举起同一块石头。

第二次举起石头时，感觉它变轻了还是变重了？据说，如果感觉轻了，愿望就会实现。如果感觉变重了，就继续努力，愿望总有一天会实现。

<繁体字>

重輕石

大歳社裡的這些石頭名字叫「重輕石」，人們用它們來占卜是否能心想事成。

具體占卜步驟：

- 1.面對神社，鞠躬兩次，拍手兩次，然後再鞠躬一次。
- 2.選擇三塊石頭中的任何一塊。
- 3.舉起石頭，感受它的重量，然後把它放回原處。
- 4.在心中默默許願。
- 5.再次舉起同一塊石頭。

第二次舉起石頭時，感覺它變輕了還是變重了？據說，如果感覺輕了，願望就會實現。如果感覺變重了，就繼續努力，願望總有一天會實現。

<日本語仮訳>

おもかる石

大歳社には、「おもかる石」と名付けられた石があり、願い事や目標が叶うかどうかを占ってくれるものです。

占うための作法は次の手順に従います：

1. 神社に向かって、二拝二拍一拝でお参りする。
2. 3つの石から一つを選択する。
3. 石を持ち上げ、重さを感じてから下ろす。
4. 願い事をする、または目標を念じる。
5. 同じ石をもう一度持ち上げる。

2 回目に石が軽くなったり重くなったりしたでしょうか?軽く感じた場合は願いが叶い、重いと感じた場合は、継続することで願いがいつかは実現するかもしれないとされています。

【タイトル】 浅澤社

【想定媒体】 看板

<簡体字>

浅澤社

浅澤社は「初辰敬拜」の第三站，参拜者在这里祈求演艺精进和女性守护。这座神社供奉着水神「市杵岛姬命」，她是美丽和表演艺术的守护神。市杵岛姬命与佛教女神弁財天常被视作同一神灵，这也是19世纪晚期之前，日本“神佛习合”（神道教和佛教融合）的例证。现在浅澤社很受女性欢迎，特别是演员、舞者、音乐家等寻求提升艺能和发展事业的表演艺术家。

<繁体字>

浅澤社

浅澤社は「初辰敬拜」の第三站，参拜者在这里祈求演艺精进和女性守护。这座神社供奉著水神「市杵岛姬命」，祂是美与表演艺术的守护神。市杵岛姬命与佛教女神弁財天常被视作同一神祇，这也是19世纪晚期之前，日本「神佛习合」（神道教和佛教融合）的例证。现在浅澤社很受女性欢迎，特别是演员、舞者、音乐家等寻求提升艺能和發展事業的表演藝術家。

<日本語仮訳>

浅澤社

「初辰まいり」で3番目に参拝するのが浅澤社です。芸能上達・女性守護を祈願する参拝者が数多く訪れます。この神社には美容と芸能の守護神である水の神、市杵島姫命を祀っています。市杵島姫命と仏教の女神である弁財天は同じ神であるとされることが多く、1800年代後半以前の日本では何世紀にもわたって「神仏習合」（神道と仏教の融合）の実践を示す例です。現在浅澤社は、役者、ダンサー、音楽家などの芸能を志す人を中心に、技術向上やキャリアアップを願う女性に人気があります。

【タイトル】住吉御文庫

【想定媒体】看板

<簡体字>

住吉御文庫

自江戸時代(1603-1867)以來，大阪一直是日本出版業的中心。1723年，大阪、京都和江戶（今東京）三大主要城市的出版商決定出資在住吉大社內建造一個書庫，並希望這種虔誠的行為能令事業持續成功。住吉大社自古就與詩歌、文學、演藝關聯密切，又有許多神明眷顧，選擇它成立書庫順理成章。從那時起，出版商就一直向大社捐贈他們的初版書籍。

住吉大社的藏書數量曾漸增到 5 萬餘冊，但現在只有一部分仍存放在原來的書庫內。一些在火災中焚毀或在其他災難中散失的珍貴書籍，因書庫保存了它們的初版才得以存留於世。住吉御文庫是日本最古老的圖書館之一，當然也是大阪最古老的圖書館。

每年 5 月，人們從書庫和檔案庫中取出藏書進行檢查並通風乾燥。志願者們翻閱書頁，清除一年以來可能鑽進書裡的昆蟲。

<繁体字>

住吉御文庫

自江戸時代（1603-1867）以來，大阪一直是日本出版業的中心。1723年，大阪、京都和江戶（今東京）三大主要城市的出版商決定出資在住吉大社內建造一個書庫，並希望這種虔誠的行為能令事業持續成功。住吉大社自古就與詩歌、文學、演藝關聯密切，又有許多神明眷顧，選擇它成立書庫順理成章。從那時起，出版商就一直向大社捐獻他們的初版書籍。

住吉大社的藏書數量曾漸增到 5 萬餘冊，但現在只有一部分仍存放在原來的書庫內。一些在火災中焚毀或在其他災難中散失的珍貴書籍，因書庫保存了它們的初版才得以存留於世。住吉御文庫是日本最古老的圖書館之一，當然也是大阪最古老的圖書館。

每年 5 月，人們從書庫和檔案庫中取出藏書進行檢查並通風乾燥。義工們翻閱書頁，清除一年以來鑽進書裡的昆蟲。

<日本語仮訳>

住吉御文庫

大阪は江戸時代（1603-1867）以来、日本の出版界の有力な中心地を担ってきました。1723年、大阪・京都・江戸（現在の東京）の三大都市の出版社が、住吉大社の境内に図書を奉納する場所を建設するための資金を拠出することを決定。この敬虔な行為を通じて事業の継続的な成功を祈願したのです。住吉は古くから詩歌や文学、芸能との結びつきが深く、神のご加護を祈願する場所として合理的な選択でした。書籍商たちは以来、初版本を大社に奉納することを慣わしにしています。

住吉大社の蔵書はおおよそ5万冊あまりにまで成長したが、現在でも倉庫の中に残っているのはその一部だけです。火災や災害などで失われた貴重な書物を、住吉御文庫が救ったケースもあります。住吉御文庫は、事実上日本最古の図書館の一つであり、大阪最古の図書館です。

毎年5月になると、蔵書庫や資料室から蔵書を出して検査・虫干しを行います。ボランティアたちがページをめくって、前年に潜り込んでいた虫などを取り除きます。

【タイトル】 侍者社

【想定媒体】 看板

<簡体字>

侍者社

这座小神社位于为四座本宮内神灵准备供品的殿閣内，供奉的是田裳见宿禰和他的妻子市姬命。田裳见宿禰是住吉大社充满传奇色彩的第一任宮司（神社最高负责人）。“侍者”的“侍”在日语里也指代武士，读作 samurai，在这里应表示田裳见宿禰是众神之仆。

侍者社很受寻求浪漫伴侣和幸福婚姻的人们欢迎。它提供小木牌“绘马”用于书写对爱情的祈愿，也提供可当作浪漫护身符的泥偶。在这些泥偶中，有一对被称为“裸雛”的裸体夫妇，他们代表着理想的婚姻关系，即夫妻之间坦诚相见，没有任何秘密。

<繁体字>

侍者社

這座小神社位於為四座本宮內神明準備供品的殿閣內，供奉的是田裳見宿禰和祂的妻子市姬命。田裳見宿禰是住吉大社充滿傳奇色彩的第一任宮司（神社最高負責人）。「侍者」的「侍」在日語裡也指代武士，讀作 samurai，在這裡應是表示田裳見宿禰是眾神之僕。

侍者社很受尋求浪漫伴侶和幸福婚姻的人們歡迎。它提供小木牌「繪馬」用於書寫對愛情的祈願，也提供可當作浪漫護身符的泥偶。在這些泥偶中，有一對被稱為「裸雛」的裸體夫婦，他們代表著理想的婚姻關係，即夫妻之間坦誠相見，沒有任何秘密。

<日本語仮訳>

侍者社

この小さな神社は、四本宮に祀られているご祭神にお供えする神饌の準備が行われていた建物の中にあり、住吉大社の伝説的な初代社主（神社の最高責任者）田裳見宿禰とその妻である市姫命を祀っています。侍者の「侍」は、後に武士に使われ、「さむらい」と読まれるようになったが、おそらく神の使いとしての田裳見宿禰の職務を意味していると考えられます。

この神社は縁結びや夫婦円満を求める人に人気です。恋愛成就の願い事を書くための小さな木製の板「絵馬」と、ロマンティックなお守りの土人形が授与されます。人形のひとつに「裸雛」と呼ばれる一対の裸の夫婦の人形がありますが、これは何の秘密も持たない理想的な夫婦関係を表したものです。

【タイトル】 卯の花苑

【想定媒体】 看板

<簡体字>

卯之花花苑

这座花园里开满了齿叶溲疏，这是一种绣球花科开花灌木，原产于日本。娇嫩的白花于5月和6月盛开，在山区农村很常见，但很少出现在像大阪这样的都市里。

这种农历卯月（农历四月）开花的植物，在日语中被称为“卯之花”，与住吉大社有着不解之缘，因为大社是在1800多年前的卯年、卯月、卯日建立的。住吉大社的祭典中，通常使用卯之花的枝条来代替其他神社常用的杨桐树枝。

卯之花花苑有13种齿叶溲疏和其他相关品种，花季时会向公众开放。

<繁体字>

卯之花花苑

這座花園裡開滿了齒葉溲疏，這是一種繡球花科開花灌木，原產於日本。嬌嫩的白花於5月和6月盛開，在山區農村很常見，但很少出現在像大阪這樣的都市裡。

這種農曆卯月（農曆四月）開花的植物，在日語中被稱為「卯之花」，與住吉大社有著不解之緣，因為大社是在1800多年前的卯年、卯月、卯日建立的。住吉大社的祭典中，通常使用卯之花的枝條來代替其他神社常用的楊桐樹枝。

卯之花花苑有13種齒葉溲疏和其他相關品種，花季時會向民眾開放。

<日本語仮訳>

卯の花苑

この庭には、日本原産のアジサイの一種、卯の花が植えられています。5月から6月にかけて繊細な白い花を咲かせ、山間部ではよく見かける花ですが、大阪などの都市部では目にすることはありません。

日本語では、旧暦の卯月（旧暦4月）に咲くことから「卯の花」と呼ばれています。1,800年以上前の卯の日、卯の月、卯の年に創建されたと言われている住吉大社にとっては、特別な存在です。住吉大社の祭礼では、神社で一般的に使われている榊の枝の代わりに、卯の花の枝をお供えています。

卯の花苑には、13種類の卯の花とその近縁種が植えられており、開花期には一般公開されます。

【タイトル】住吉大社

【想定媒体】WEB

<簡体字>**住吉大社**

住吉大社矗立在大阪湾边，守护了它大约2000年。住吉大社是日本最古老的神道教神社之一，与下关、博多两地的住吉神社并称为日本“三大住吉”，也是日本约2300座住吉神社的总本社。住吉大社由神功皇后于公元3世纪创立，这里供奉着4位神灵：被称为“住吉三神”的三位海神，以及去世后被视作神灵的神功皇后。

自创建以来，住吉大社一直与海洋有着深厚的关联。从事渔业、航运和其他海洋产业的人们至今仍来这里祈祷航行安全。大社镇守着大阪港，直到19世纪晚期，大阪港一直是通往日本历史上的几座古都和其他地区的主要门户。

住吉大社自古就与诗歌、表演艺术、相扑、爱情圆满、事业成功以及顺利分娩等方面有着密切的关联，大阪人亲切地称它为“住吉さん”(sumiyossan)，这也正反映了它在大阪人心中的地位。

住吉大社的祭典和节日全国闻名。每年1月“初诣”（新年首次参拜）的参拜者有200多万人；仲夏时节的“住吉祭”是大阪最盛大的节日之一，神轿游行总能将节日气氛推向最高潮；还比如6月与插秧有关的“御田植神事”和初秋的“观月祭”，它们通过音乐、舞蹈、和歌（日本传统诗歌）朗诵等活动，吸引着大量游客到来。

<繁体字>**住吉大社**

住吉大社矗立在大阪灣邊，守護了它大約2000年。住吉大社是日本最古老的神道教神社之一，與下關、博多兩地的住吉神社並稱為日本「三大住吉」，也是日本約2300座住吉神社的總本社。住吉大社由神功皇后於西元3世紀創立，這裡供奉著4位神祇：被稱為「住吉三神」的三位海神，以及去世後被視作神祇的神功皇后。

自創辦以來，住吉大社一直與海洋有著深厚的關聯。從事漁業、航運和其他海洋產業的人們至今仍來這裡祈禱航行安全。大社鎮守著大阪港，直到19世紀晚期，大阪港一直是通往日本歷史上的幾座古都和其他地區的主要門戶。

住吉大社自古就與詩歌、表演藝術、相撲、愛情圓滿、事業成功以及順利分娩等方面有著密切的關聯，大阪人親切地稱它為「住吉さん」（sumiyossan），這也正反映了它在大阪人心中的地位。

住吉大社の祭典和節日全國聞名。毎年 1 月「初詣」（新年初次參拜）的參拜者有 200 多萬人；仲夏時節，「住吉祭」是大阪最盛大的節日之一，神轎遊行總能將節日氣氛推向最高潮；還比如 6 月與插秧有關的「御田植神事」和初秋的「觀月祭」，它們通過音樂、舞蹈、和歌（日本傳統詩歌）朗誦等活動，吸引著大量遊客到來。

<日本語仮訳>

住吉大社

日本で最も古い神社の一つである住吉大社は、約 2,000 年前から大阪湾を見守り続けています。下関と博多の住吉神社をあわせて、日本三大住吉とされ、また全国約 2300 社余の住吉神社の総本社でもあります。3 世紀に神功皇后によって創建され、住吉三神と呼ばれる海の神々、そしてその死後に三神と一緒に祀られた神功皇后の合計 4 神を祀っています。

住吉大社は創建以来、海と深い結びつきがあります。漁師や海運など海事関係者が、今でも住吉大社に航海の安全を祈願しに訪れます。また、19 世紀後半までは、かつての日本の首都や他の地域への主要な玄関口であった大阪の港を鎮護してきた神社でもあるのです。

また、住吉大社は、長い歴史の中で詩歌、芸能、相撲、恋愛成就、商売繁盛、安産などと縁が深く、「すみよっさん」と親しみを込めて呼んでいた大阪の人々の心の支えとなってきました。

住吉大社の神事や祭礼も全国的に有名です。毎年 1 月の「初詣」（新年初お参り）には 200 万人あまりの人々が住吉大社を訪れます。中でも真夏に催される「住吉祭」は大阪でも最大級の規模を誇るお祭り。練り歩く神輿とともに祭りの興奮は最高潮に達します。また、6 月の「御田植神事」や初秋の「観月祭」などの神事では、音楽や舞い、和歌（日本の古典詩）の朗読などが行われ、訪れる人々を魅了しています。

【タイトル】住吉大社の歴史

【想定媒体】WEB

<簡体字>

住吉大社的历史

住吉大社镇守着大阪港以及位于内陆的古都奈良和京都。自创建以来的1800年中，大社一直受到许多人的崇拜，拥有包括天皇、诗人、水手、商人等各种身份的信仰者。

据传，住吉大社于公元211年建成，它的创建人是在丈夫去世后统治了日本的神功皇后。大社里供奉着“住吉三神”——底筒男命、中筒男命和表筒男命。这三位海神的名字中分别包含了“底部”“中部”“表面”的意思，说明他们在海里都有自己的位置。此外，也有传说认为这些神灵是猎户座腰带上那三颗明亮的星星，能为航海者指明方向。神功皇后去世后被供奉于住吉大社，成为了神灵“息长足姬命”。

住吉大社建在大阪湾的海岸上，淤泥沉积和填海工程将海岸线慢慢向西推进。在公元7世纪到9世纪之间，大社附近的难波津（今大阪港）是日本与亚洲大陆通商和外交的门户。后来因神功皇后之孙仁德天皇开辟了住吉津，住吉大社供奉的神灵还被视作遣隋使和遣唐使的航海守护神而备受尊崇。进入江户时代(1603-1867)后，大阪港亦成为了连接日本中部和日本海沿岸地区的重要国内贸易基地。

如今，住吉大社的敬拜对象已不仅仅是最初的海洋之神，它与诗歌、表演艺术、相扑、事业成功以及爱情圆满都息息相关，被大阪人亲切地称为“住吉さん”(sumiyossan)。住吉大社也经常出现在从古代民间故事到现代文学的许多日本故事当中，诺贝尔文学奖获得者川端康成(1899-1972)的一部短篇小说就是以大社为故事舞台，大社内有一座他的纪念碑。

住吉大社的主要建筑以风格简洁而闻名。它们的直线人字形屋檐和其他一些特色在受到来自亚洲大陆更复杂的建筑风格影响之前就已经存在了。这种建筑风格被称为“住吉造”，是日本神社建造的典范。

最初，住吉大社的4座本宫每20年会“迁宫”（拆除和重建）一次。虽然这个悠久的传统被日本16世纪的内战一时打断，但在那段期间本宫还是会定期得到修建维护。

目前的4座本宫都建于1810年，被指定为国宝。包括17世纪早期建成的石舞台在内的许多其他建筑则都被指定为国家重要文化财产。

<繁体字>

住吉大社的歷史

住吉大社鎮守著大阪港以及位於內陸的古都奈良和京都。自創立以來的 1800 年中，大社一直受到許多人的崇拜，擁有包括天皇、詩人、水手、商販等各種身份的信眾。

據傳，住吉大社於西元 211 年建成，它的創辦人是在丈夫去世後統治了日本的神功皇后。大社裡供奉著「住吉三神」——底筒男命、中筒男命和表筒男命。這三位海神的名字中分別包含了「底部」、「中部」、「表面」的意思，說明祂們在海裡都有自己的位置。此外，也有傳說認為這些神祇是獵戶座腰帶上那三顆明亮的星星，能為航海者指明方向。神功皇后去世後被供奉在住吉大社，成為了名為「息長足姬命」的神祇。

住吉大社建在大阪灣的海岸上，淤泥沉積和填海工程將海岸線慢慢向西推進。在西元 7 世紀到 9 世紀之間，大社附近的難波津（今大阪港）是日本與亞洲大陸通商和外交的門戶。後來因神功皇后之孫仁德天皇開闢了住吉津，住吉大社供奉的神祇還被視作遣隋使和遣唐使的航海守護神而備受尊崇。進入江戶時代（1603-1867）後，大阪港亦成為了連接日本中部和日本海沿岸地區的重要國內貿易基地。

如今，住吉大社的敬拜對象已不僅僅是最初的海洋之神，它與詩歌、表演藝術、相撲、事業成功以及愛情圓滿都息息相關，被大阪人親切地稱為「住吉さん」（sumiyossan）。住吉大社也經常出現在從古代民間故事到現代文學的許多日本故事當中，諾貝爾文學獎得獎人川端康成（1899-1972）的一部短篇小說就是以大社為故事舞臺，大社內有一座他的紀念碑。

住吉大社的主要建築以風格簡潔而聞名。它們的直線人字形屋簷和其他一些特色在受到來自亞洲大陸更複雜的建築風格影響之前就已經存在了。這種建築風格被稱為「住吉造」，是日本神社建造的典範。

最初，住吉大社的 4 座本宮每 20 年會「遷宮」（拆除和重建）一次。雖然這個悠久的傳統被日本 16 世紀的內戰一時打斷，但那個期間依舊保存了對本宮定期修建維護的習慣。

目前的 4 座本宮都建於 1810 年，被指定為國寶。包括 17 世紀早期建成的石舞臺在內的許多其他建築則都被指定為國家重要文化財產。

<日本語仮訳>

住吉大社の歴史

住吉大社は、大阪港と、そのさらに内陸にある奈良や京都などの古都を鎮護しています。創建以来約 1,800 年もの間、天皇や歌人、船乗りや商人など、多くの人々が信仰してきました。

伝承によると、住吉大社は 211 年に、夫を亡くした後日本を統治していた神功皇后によって創建されました。神功皇后は住吉三神と呼ばれる底筒男命、中筒男命、表筒男命の海の神々を祀ったのです。これらの神々の名前には「底」「中間」「表面」を意味する言葉が含まれており、海の中で、神々がそれぞれ異なる深さを担っていることを窺わせます。一説には航海士が利用したオリオン座の明るい三ツ星を表しているとも言われています。神功皇后は亡くなられた後、住吉大社で「息長足姫命」という祭神として祀られました。

住吉大社は大阪湾の岸辺に建っていましたが、自然の堆積物や埋め立てにより、岸辺は徐々に西へ移動しました。7 世紀から 9 世紀にかけて、大社の近くにあった難波津（現在の大阪港）は、アジ

ア大陸との貿易や外交の玄関口でした。一方、神功皇后の孫にあたる仁徳天皇の住吉津の開港以来、住吉大社の祭神は、遣隋使・遣唐使に代表される航海の守護神として崇敬を集めてきました。江戸時代（1603-1867）になると、大阪港は日本の中央部と日本海側の沿岸地域を結ぶ重要な国内の交易路の拠点となりました。

住吉大社の信仰の対象は、当初の海の神から、長い年月を経てさらに拡大していきました。現在では詩歌、芸能、相撲、商売繁盛、恋愛成就などのご利益があるとされています。大阪人が親しみを込めて呼ぶ「すみよっさん」は、昔話から近現代文学まで、日本の物語多くに登場します。境内には、この大社を舞台にした短編物語を書いたノーベル賞作家、川端康成（1899-1972）の記念碑が立っています。

住吉大社の主要な建物は、シンプルであることが特徴で、直線的な切妻屋根などの意匠は、アジア大陸から凝った建築様式が伝わる以前のもので、この様式は「住吉造」と呼ばれ、日本の神社建築の模範となりました。

元々住吉大社の4つの本宮は、20年ごとに「遷宮」（解体・再建）しました。長きにわたり繰り返行われたこの慣行は、16世紀の戦乱の時代に一時中断されましたが、その間も定期的に修復を施していました。

現存する4つの本宮は1810年に建てられたもので国宝建造物に指定されています。また、17世紀初頭に完成した石舞台をはじめ境内の多くの建造物が国の重要文化財に指定されています。

【タイトル】 4つの本宮

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

四大本宮

四座本宮坐镇在住吉大社的中心区域，里面分别供奉着大社的四位守护神——被称为“住吉三神”的三位海神和据说于公元3世纪创建大社的神功皇后。四座本宮最初每20年“迁宮”（拆除和重建）一次。虽然这种传统被日本16世纪的内战打断，但在那段期间本宮还是会定期得到修建维护。现在的四座本宮都建于1810年，均被指定为国宝。

供奉着住吉三神的三座本宮沿着东西轴线排成一条直线，都面向西边的海湾。日本大多数的神社殿宇，一般会根据从中国传入的风水法则面向南方或是东方，住吉大社因此而显得与众不同。另有说法称：三座本宮的独特布局模仿了猎户座腰带上被航海者作为航海指标的那三颗星星，它们每晚都升于东方，横贯天空，落于西方。

第四本宮供奉着神功皇后，与最西边的第三本宮并排，加上纵向排列的第一、第二、第三本宮，四座本宮就像一支舰队在海上航行。这是古代祭祀形式的宝贵范例。第四本宮的设计与其他本宮的基本一致，除了它屋脊上交叉的装饰木条边缘为水平切割，而其他本宮上的则为垂直切割这一点。这也许是根据本宮主神性别而进行的区分。

每座本宮都由三部分组成：本殿（正殿）、附属的供物堂“币殿”和连接两者的走廊“渡殿”。供奉着神灵的本殿有内外两间屋子，外间在重大祭典和节日时打开，但内间的圣殿常年关闭，只有在每20年一次的迁宮时才会打开。

本殿的建筑样式叫做“住吉造”，在亚洲大陆建筑风格传入日本之前就已经存在。这种设计被认为类似于飞鸟时代(592-710)为日本天皇登基仪式而建立的临时神殿“大尝宫”。建筑物周围设有用以抵御恶灵的木制围栏，以此表明木栏之内为神圣的区域。简单的人字形屋顶覆盖着薄薄的柏木板，梁柱上明亮的朱红色来自含汞颜料，墙壁上的白色涂料则由贝壳研磨制成。

最初，神职人员都在本殿前的硬土上举行祭典。随着宗教仪式的变化和发展，四座本宮在镰仓时代(1185-1333)增加了币殿，而连接本殿和币殿的渡殿两侧分别有一个小鸟居。最东边的第一本宮的币殿比其他三座本宮更大，但布局完全一致。四大本宮的本殿被指定为国宝，币殿和渡殿都是国家指定重要文化财产。

新年期间，第一本宮前人头攒动，很难靠近赛钱箱（功德箱）投币捐资，所以有些人直接往殿内抛投硬币。仔细观察屋顶的下缘，就会发现许多硬币被夹在了屋檐上。

<繁体字>

四大本宮

四座本宮坐鎮在住吉大社的中心區域，裡面分別供奉著大社的四位守護神——被稱為「住吉三神」的三位海神和據說於西元 3 世紀創辦大社的神功皇后。四座本宮最初每 20 年「遷宮」（拆除和重建）一次。雖然這種傳統被日本 16 世紀的內戰打斷，但那個期間依舊保存了對本宮定期修建維護的習慣。現在的四座本宮都建於 1810 年，均被指定為國寶。

供奉著住吉三神的三座本宮沿著東西軸線排成一條直線，都面向西邊的海灣。日本大多數的神社殿宇，一般會根據從中國傳入的風水法則面向南方或是東方，住吉大社因此而顯得與眾不同。有某種說法稱：三座本宮的獨特佈局模仿了獵戶座腰帶上被航海者作為航海指標的那三顆星星，它們每晚都升於東方，橫貫天空，落於西方。

第四本宮供奉著神功皇后，與最西邊的第三本宮並排，加上縱向排列的第一、第二、第三本宮，四座本宮就像一支艦隊在海上航行。這是古代祭祀形式的寶貴範例。第四本宮的設計與其他本宮的基本一致，除了它屋脊上交叉的裝飾木條邊緣為水平切割，而其他本宮上的則為垂直切割這一點。這也許是根據本宮主神性別而進行的區分。

每座本宮都由三部分組成：本殿（正殿）、附屬的供物堂「幣殿」和連接兩者的走廊「渡殿」。供奉著神祇的本殿有內外兩間屋子，外間在重大祭典和節日時打開，但內間的聖殿常年關閉，只有在每 20 年一次的遷宮時才會打開。

本殿的建築樣式叫做「住吉造」，在亞洲大陸建築風格傳入日本之前就已經存在。這種設計被認為類似於飛鳥時代（592-710）為日本天皇登基儀式而建立的臨時神殿「大嘗宮」。建築物周圍設有用以抵禦惡靈的木製圍欄，以此表明木欄之內為神聖的區域。簡單的人字形屋頂覆蓋著薄薄的柏木板，樑柱上明亮的朱紅色來自含汞顏料，牆壁上的白色塗料則由貝殼研磨製成。

最初，神職人員都在本殿前的硬土上舉行祭典。隨著宗教儀式的變化和發展，四座本宮在鎌倉時代（1185-1333）增加了幣殿，而連接本殿和幣殿的渡殿兩側分別有一個小鳥居。最東邊的第一本宮的幣殿比其他三座本宮更大，但佈局完全一致。四大本宮的本殿被指定為國寶，幣殿和渡殿都被是國家指定重要文化財產。

新年期間，第一本宮前人頭攢動，很難靠近賽錢箱（功德箱）投幣捐款，所以有些人直接往殿內拋投硬幣。仔細觀察屋頂的下緣，就會發現許多硬幣夾在了屋簷上。

<日本語仮訳>

4つの本宮

住吉大社の中心ある 4 つの本宮には大社の守護神である住吉三神と呼ばれる海の神々、そして 3 世紀に住吉大社を創建したとされる神功皇后が祀られています。かつて本宮は 20 年ごとに「遷宮」（解体・再建）しましたが、この長きにわたり繰り返し行われ慣行は、16 世紀の戦乱の時代に一時中断されましたが、その間も定期的に修復を施していました。現在の建物は 1810 年に建てられたもので、いずれも国宝建造物に指定されています。

住吉三神を祀る 3 つの本宮は、東西方向に一直線に並んでおり、湾に向かって西向きに建っています。これは、ほとんどの日本の神社が中国から伝わった地相学のルールに従って、南や東を向いているのとは異なるものです。一説によると、この独特の配置は、航海士がよく使っていたオリオン座の三つ星を模していると言われています。オリオン座の中心にある明るい星々は、毎晩東から昇り、空を横切って西へと沈むからです。

神功皇后を祀る第四本宮は最西端の第三本宮と並び、縦直列の第一、第二、第三本宮と併せて、あたかも大海原をゆく船団のようで、古代の祭祀形態をよく伝える貴重な存在です。その意匠は他の本宮と同様ですが、棟の両端にある交差した材木の先端が垂直ではなく水平にカットされているのが特徴的です。これは、祀られている神様の性別により生まれた差異であると考えられています。

各本宮は、本殿、幣殿と呼ばれる付属の供物殿、そしてそれらをつなぐ渡殿と呼ばれる廊下で構成されています。本殿は神の座であり、二部屋に分かれています。外側の扉は主要な神事や祭事の際に開かれますが、最も内側の聖域の扉は 20 年ごとに行われる遷宮の時以外は閉じられています。

本殿は、アジア大陸からの影響を受ける前の「住吉造」の様式で建てられています。これは、飛鳥時代（592-710）に天皇の即位式のために建てられた仮設の神社「大嘗宮」に似た意匠であると考えられています。建物の周囲には魔除けの柵が設けられ、その内側が聖域であることを示しています。屋根はシンプルな切妻屋根で、檜の薄い板で覆われています。梁の鮮やかな朱色は水銀系の顔料、壁の胡粉は貝殻を砕いたものです。

元々は本殿の前の固い土の上で神職が儀式を行っていました。祭典の変化と発展に伴い、鎌倉時代（1192-1333）に幣殿が増築されました。本殿と幣殿をつなげる渡殿には、それぞれ小さな鳥居があります。最東端の「第一本宮」の幣殿は、他の 3 社に比べて大きいものの、配置は同じです。4 つの本宮の本殿は国宝に、幣殿と渡殿はいずれも国の重要文化財に指定されています。

お正月の第一本宮前は参拝客が多く賽銭箱に近づくことが難しいため、お賽銭を投げる人もいます。近づいて屋根の下端をよく見ると、賽銭箱を外れたたくさんの硬貨が屋根板に挟まっているのを見つけることができます。

【タイトル】反橋（太鼓橋）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

反桥（太鼓桥）

这座陡峭拱桥的官方名称是“反桥”，但通常被称为“太鼓桥”，因为它和水中的倒影连成一体时酷似日本太鼓的形状。人们深信，跨过这座桥就能净化心灵。

彩虹连接着天与地，拱桥的形状可能是受其启发。神灵伊邪那岐命和伊邪那美命在漂浮的彩虹桥上用长矛搅动大海，由此开启了日本列岛诞生的神话。伊邪那岐命是住吉大社三位海神的“父亲”，他前往冥界回来后到海中净化自己时，这几位神灵就诞生了。

虽然有关反桥的记录可以追溯到 13 世纪，但和现存这座样式相同的拱桥建于公元 1600 年左右，由战国枭雄丰臣秀吉(1536-1598)的侧室淀殿(1567-1615)捐资建成。丰臣秀吉在统一日本的内战中获胜，于 1582 年至 1598 年统治日本。在他去世后，他的儿子丰臣秀赖(1593-1615)与德川幕府(1603-1868)的创始人德川家康(1543-1616)交战，淀殿为此向神灵寻求护佑以保秀赖平安。

最初的反桥据说是由造船工匠建造的，自那时起，造船工匠在维护桥梁方面发挥了主导作用。反桥被重建和修复多次，在 1955 年安装台阶之前，水面上木板之间的缝隙是过桥人唯一的立足点。现在的反桥使用钢架支撑，也铺上了新的柏木板，但栏杆上的金属饰品则是来自江户时代(1603-1867)。反桥长约 20 米，高约 3.6 米，宽约 5.5 米，最大坡度为 48°，夜晚点灯后的景象，被评选为“关西夜景百选”之一。

诺贝尔文学奖获得者川端康成(1899-1972)的同名短篇小说《反桥》(1948)使这座桥闻名于世。在故事开篇，男主角回忆起童年时，母亲在桥上向他透露了一个痛苦的秘密。他告诉读者，当自己的幻想完全破灭后，竟然觉得下桥面对现实要比上桥时更为恐惧。

<繁体字>

反橋（太鼓橋）

這座陡峭拱橋的官方名稱是「反橋」，但通常被稱為「太鼓橋」，因為它和水中的倒影連成一體時酷似日本太鼓的形狀。人們深信，跨過這座橋就能淨化心靈。

彩虹連接著天與地，拱橋的形狀可能是受其啟發。神祇伊邪那岐命和伊邪那美命在漂浮的彩虹橋上用長矛攪動大海，由此開啟了日本列島誕生的神話。伊邪那岐命是住吉大社三位海神的「父親」，祂前往冥界回來後到海中淨化自己時，這幾位神祇就誕生了。

雖然有關反橋的記錄可以追溯到 13 世紀，但現存這座樣式相同的拱橋是在西元 1600 年左右，由戰國梟雄豐臣秀吉（1536-1598）的側室澁殿（1567-1615）出資建成。豐臣秀吉在統一日本的內戰中獲勝，於 1582 年至 1598 年統治日本。在他去世後，他的兒子豐臣秀賴（1593-1615）與德川幕府（1603-1868）的創始者德川家康（1543-1616）交戰，澁殿為此向神明尋求護佑以保秀賴平安。

最初的反橋據說是由造船工匠建造的，自那時起，造船工匠在維護橋梁方面發揮了主導作用。反橋被重建和修復多次，在 1955 年安裝臺階之前，水面上木板之間的縫隙是過橋人唯一的立足點。現在的反橋使用鋼架支撐，也鋪上了新的柏木板，但欄杆上的金屬飾品則是來自江戶時代（1603-1867）。反橋長約 20 公尺，高約 3.6 公尺，寬約 5.5 公尺，最大坡度為 48°，夜晚點燈後的景象，被評選為「關西夜景百選」之一。

諾貝爾文學獎得獎人川端康成（1899-1972）的同名短篇小說《反橋》（1948）使這座橋聞名於世。在故事開頭，男主人公回憶起童年時，母親在橋上向他透露了一個痛苦的秘密。他告訴讀者，當自己的幻想完全破滅後，竟然覺得下橋面對現實要比上橋時更為恐懼。

<日本語仮訳>

反橋（太鼓橋）

急峻なアーチを描くこの橋の正式名称は「反橋」ですが、水面に映る姿が太鼓に似ていることから、「太鼓橋」と呼ばれることもあります。この橋を渡ることでお祓いができると広く知られています。

反橋の形は、地と天とを結ぶ虹に着想を得ている可能性があります。伊邪那岐命と伊邪那美命が、虹の橋の上に立って矛で海をかき回すことが、国生み（日本列島の誕生）神話のはじまりです。伊邪那岐命は住吉大社三神の「父」であり、冥界への航海の後、海で身を清めたときに誕生したとされています。

この地には 13 世紀から橋が架けられていたという記録がありますが、現在の形式の橋は澁殿（1567-1615）が 1600 年頃に寄進したと言われています。澁殿は内戦を経て日本を統一し、1582 年から 1598 年まで統治した豊臣秀吉（1536-1598）の側室でした。豊臣秀吉の没後、澁殿は徳川幕府（1603-1868）の創始者である徳川家康（1543-1616）と戦っていた唯一の嫡男・豊臣秀頼（1593-1615）のために神のご加護を求めています。

最初の実橋は船大工が造ったとされており、その後も造船技術者たちが中心となって構造が維持されてきました。反橋は幾度となく改築や修理が行われましたが、階段が設置されたのは 1955 年のことで、それまでは水面にある木製の板の隙間が唯一の足場でした。現在の橋は、鉄骨と檜の板でできています。橋の欄干の金属細工は、江戸時代（1603-1867）から保存されています。反橋の長さ約 20 メートル、高さ約 3.6 メートル、幅約 5.5 メートルで、傾斜は最も急なところで 48 度あります。夜間ライトアップも行われており、「関西夜景百選」にも選定されています。

ノーベル賞作家・川端康成（1899-1972）は、『反橋』（1948）と名付けた短編小説でこの橋は一躍有名になりました。橋の上で母親からつらい秘密を打ち明けられた、幼少期の出来事を思い

出す男の物語で始まる『反橋』。自らの幻想を打ち砕かれて、橋の向こう側に降りるときが、上るときよりも怖かったと語られています。

【タイトル】五所御前

【想定媒体】WEB

<簡体字>

五所御前

据传 1800 多年前，神功皇后在九州遇到了住吉大社的三位海神。于是她巡游日本西部，想寻找一个适合为他们建立神社的地方。当她到达这里时，“住吉三神”从一棵大树上降临，神功皇后便下令在这棵树周围建造了一座神社。皇后去世后也被奉为了住吉大社的神灵。

写有“五”“大”“力”字样的鹅卵石和其他普通的石头一起散落在五所御前的地面上，如果找到它们就可以带回家作为护身符，因为“五大力”指的是神灵赐予的五种祝福，它们分别是体力、智力、财力、福力和寿力。在授予所或楠珞社中有护身符外袋出售，将三颗小石头装入袋中随身携带就能如愿以偿。如果愿望成真，许愿者须从自家附近寻三块鹅卵石，写上“五”“大”“力”后，和之前带回家的三块石头一起送回五所御前，表示所得福运加倍奉还。

<繁体字>

五所御前

據傳 1800 多年前，神功皇后在九州遇到了住吉大社的三位海神。於是她巡遊日本西部，想尋找一個適合為他們建立神社的地方。當她到達這裡時，「住吉三神」從一棵大樹上降臨，神功皇后便下令在這棵樹周圍建造了一座神社。皇后去世後也被奉為了住吉大社的神祇。

寫有「五」、「大」、「力」字樣的鵝卵石和其他普通的石頭一起散落在五所御前的地面上，如果找到它們就可以帶回家作為護身符，因為「五大力」指的是神明賜予的五種力量：體力、智力、財力、福力和壽力。授予所或楠珞社有販賣護身符外袋，將三顆小石頭裝入袋中隨身攜帶就能如願以償。如果願望成真，許願者須從自家附近找三塊鵝卵石，寫上「五」、「大」、「力」後，和之前帶回家的三塊石頭一起送回五所御前，表示所得福運加倍奉還。

<日本語仮訳>

五所御前

今から 1,800 年以上前、神功皇后は九州で住吉大社の三神と出会ったと言われています。その出会いの後、三神を祀るのに適した場所を探して西日本を巡りました。そしてこの場所にたどり着くと、三神はこの地に生えていた木に降臨したそうです。神功皇后は、この木の周りに神社の創建を命じました。皇后が亡くなると、彼女もまた住吉大社に神として祀られたのです。

五所御前には、何も刻まれていない小石の中に、「五」「大」「力」の文字が書かれた石が散りばめられています。それぞれの文字が刻まれた石を見つけた人は、それを持ち帰ることができます。五大力とは、体力、智力、財力、福力、寿力の 5 つの神の恵みを意味しています。また授与所や楠珥社でお守り袋を購入して、三つの石を揃えて持ち歩けば、願いが叶うと信じられているのです。願い事が叶った場合は、自宅の近所で集めた 3 つの石に、「五」「大」「力」の文字を刻んで、元々の石と一緒に五所御前に返すという慣わしがあります。自分が受け取ったものを倍にしてお返しするわけです。

【タイトル】 大海神社

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

大海神社

大海神社比住吉大社的**历史更为**悠久，最初供奉的是水手们敬仰的海神**绵津见**，这位强大的神灵**能为**水手们的航行提供庇佑。

公元 3 世纪，神功皇后下令建造住吉大社，她要求大社**宫司**（神社最高**负责人**）田裳见宿禰来主导这项工程。根据日本第二古老的史书《日本书纪》(720)记载，田裳见宿禰是神话中日本天皇的祖先**琼琼杵尊**的后代。

田裳见宿禰让他的两个儿子**负责**建造新神社，他们被**赐姓为**“津守”，字面意思就是港口**守护者**。直到明治时代(1868-1912)宗教改革，住吉大社一直都由津守家族的后代管理。

大海神社的**建筑风格**与住吉大社的四座本**宫**相同——**朱红色**梁柱、白色**外墙**、一个**简单**的**直线**人字形屋檐、屋脊两端都**竖立着**一对交叉的木条。神社入口朝西，面向大海，本殿（正殿）被分为两个空间：**外阵**和神圣的**内阵**。

今天，大海神社供奉着丰玉彦命和丰玉姬命，**这对**父女是与大海和航海安全相关的神灵。神社每年 10 月 13 日的“大海神社例祭”**惯**以参拜人数众多而**闻名**。

<繁体字>

大海神社

大海神社比住吉大社的**历史更为**悠久，最初供奉的是水手们敬仰的海神**绵津见**，这位强大的神明**能为**水手们的航行提供庇佑。

西元 3 世纪，神功皇后下令建造住吉大社，她要求大社**宫司**田裳见宿禰来主导这项工程。根据日本第二古老的史书《日本书纪》（720）记载，田裳见宿禰是神话中日本天皇的祖先**琼琼杵尊**的后代。

田裳见宿禰让他的两个儿子**负责**建造新神社，他们被**赐姓为**「津守」，字面意思就是港口**守护者**。直到明治时代（1868-1912）宗教改革，住吉大社一直都由津守家族的后代管理。

大海神社的**建筑风格**与住吉大社的四座本**宫**相同——**朱红色**梁柱、白色**外墙**、一个**简单**的**直线**人字形屋檐、屋脊两端都**竖立着**一对交叉的木条。神社入口朝西，面向大海，本殿（正殿）被分为两个空间：**外阵**和神圣的**内阵**。

今天，大海神社供奉着丰玉彦命和丰玉姬命，**这对**父女是与大海和航海安全相关的神祇。神社每年 10 月 13 日的「大海神社例祭」**惯**以参拜人数众多而**闻名**。

<日本語仮訳>

大海神社

大海神社は、住吉大社よりも古く、元々は航海中の船乗りを守る強力な海の神、綿津見神を祀っていました。

3世紀に神功皇后が住吉大社の創建を命じた際、大社の社主（神社の最高責任者）である田裳見宿禰に工事の指揮を依頼したそうです。日本の歴史書で二番目に古い『日本書紀』（720）によると、田裳見宿禰は天皇の祖先とされる神、瓊瓊杵尊の子孫であるとされています。

田裳見宿禰は二人の息子に新しい神社の創建を任せました。彼らは「津守」という姓を与えられました。「津守」とは港を守る番人のこと。津守の子孫が明治時代（1868–1912）の宗教改革まで住吉大社を率いたのです。

大海神社は、住吉大社の四本宮と同様の様式で建てられています。大海神社は、すっきりとした直線的な切妻屋根の両端に交差した2本の木材を立てており、柱は朱塗り、外壁は白です。入り口は海に向かって西向きで、本殿は外陣と神聖な内陣の2つの空間に分かれています。

大海神社に祀られている父の豊玉彦命と娘の豊玉姫命は、どちらも海や航海の安全を司る神です。毎年10月13日に行われる「大海神社例祭」では、参拝客が多くにぎわうことで有名です。

【タイトル】石舞台・南門・東西樂所

【想定媒体】WEB

<簡体字>

石舞台・南門・東西樂所

住吉大社の许多节日和仪式都包括神乐和雅乐表演。神乐是一种古老的宗教舞蹈，而雅乐则是与之相伴的音乐。在住吉大社，这些表演在四大本宫和南門之间的区域进行。

表演区中央是一个石舞台，面向北边的四座本宫。它是1607年奉丰臣秀赖(1593-1615)之命建造的，用以取代过去的木舞台。丰臣秀赖是16世纪末期统一日本的一代梟雄丰臣秀吉(1536-1598)的儿子。据说，丰臣秀赖的母亲淀殿(1567-1615)捐资建造了大社西门外的反桥。

在有演出的日子，舞台边缘会设置朱红色围栏。位于南門两侧的“东西乐所”也会开放，让乐师们在这里演奏。东西乐所附近还会摆放两面大型太鼓。演出时，乐师和神乐舞者都面向住吉大社の众神表演，而非面对观众。

住吉大社附近的港口曾经是日本的国际贸易中心，来自亚洲大陆的水手和游客带来了不少音乐传统，神乐和雅乐的发展也受到了影响。这种文化的融合渗透到日本日常生活的方方面面，令住吉大社至今与表演艺术，尤其是诗歌和舞蹈的关系密不可分。

石舞台、南門和东西乐所均被指定为国家重要文化财产。

<繁体字>

石舞臺・南門・東西樂所

住吉大社の許多節日和儀式都包括神樂和雅樂表演。神樂是一種古老的宗教舞蹈，而雅樂則是與之相伴的音樂。在住吉大社，這些表演在四大本宮和南門之間的區域進行。

表演區中央是一個石舞臺，面向北邊的四座本宮。它是1607年奉豐臣秀賴(1593-1615)之命建造的，用以取代以往的木舞臺。豐臣秀賴是16世紀末期統一日本的一代梟雄豐臣秀吉(1536-1598)的兒子。據說，豐臣秀賴的母親澁殿(1567-1615)出資建造了大社西門外的反橋。

有演出的時候，舞臺邊緣會設置朱紅色圍欄，位於南門兩側的「東西樂所」也會開放，讓樂師們在這裡演奏。東西樂所附近還會擺放兩面大型太鼓。演出時，樂師和神樂舞者都面向住吉大社の眾神表演，而非觀眾。

住吉大社附近的港口曾經是日本的國際貿易中心，來自亞洲大陸的水手和遊客帶來了不少音樂傳統，神樂和雅樂的發展也受到了影響。這種文化的融合滲透到日本日常生活的方方面面，令住吉大社至今仍與表演藝術，尤其是詩歌和舞蹈的關係密不可分。

石舞臺、南門和東西樂所均被指定為國家重要文化財產。

<日本語仮訳>

石舞台・南門・東西樂所

住吉大社の祭礼では、神楽や雅楽などの演奏が数多く行われます。神楽は古来の神事の舞楽であり、雅楽はそれに伴う音楽です。住吉大社では、四本宮と南門の間にある場所で行われています。

中央には4社に向かって北向きの石舞台があります。これは、16世紀末に日本を統一した豊臣秀吉（1537-1598）の嫡男である豊臣秀頼（1593-1615）の要請により、それまでの木製の舞台に代わって1607年に建てられたものです。秀頼の母である淀殿（1567-1615）は、大社の西の入り口にある反橋を寄進したと言われています。

公演が行われる日には舞台の縁に朱色の柵が置かれ、南門の左右に位置する2つの「東西樂所」が開かれ、奏者たちはその中で演奏を行います。東西樂所の近くには大きな太鼓が2台設置されます。奏者と舞人は観客ではなく、住吉大社の神々の方を向いて舞楽を捧げるのです。

住吉大社の近くの港はかつて日本の国際貿易の中心地であり、神楽や雅楽の発展にはアジア大陸からの船乗りや来訪者がもたらした音楽の伝統が影響しています。このような文化の融合は、日本の日常生活の多くの部分に影響を与え、住吉が今もなお詩や踊りなどの芸能と結びついている理由のひとつとなっています。

石舞台、南門、東西樂所は国の重要文化財に指定されています。

【タイトル】侍者社

【想定媒体】WEB

<簡体字>**侍者社**

田裳见宿禰是住吉大社的第一任宮司（神社最高负责人）。公元 3 世纪初，神功皇后在遇见被称为“住吉三神”的三位海神后，委托他建造第一座殿阁。

侍者社是一座小神社，位于为四座本宮内的神灵准备供品的建筑内，为纪念田裳见宿禰和他的妻子市姬命对神灵和对彼此的奉献而建。“侍者”代表田裳见宿禰是神灵之仆。

今天，祈愿结缘和婚姻幸福的人们经常造访侍者社。参拜者可以购买小木牌“绘马”写下他们对爱情的祈祷和愿望，然后把木牌挂在神社外面，据说田裳见宿禰和市姬命会帮助他们实现愿望。侍者社里有两种泥偶护身符，一种是一对赤裸的男女，被称为“裸雏”，代表夫妻之间坦诚相见、没有任何秘密的理想婚姻关系。另一种被称为“侍者人形”，是一对身着古典和服的夫妇，被认为能令婚姻圆满。这两种泥偶护身符在大社都有销售。

<繁体字>**侍者社**

田裳見宿禰是住吉大社的第一任宮司（神社最高負責人）。西元 3 世紀初，神功皇后在遇見被稱為「住吉三神」的三位海神後，委託他建造第一座殿閣。

侍者社是一座小神社，位於為四座本宮內神祇準備供品的建築內，為紀念田裳見宿禰和他的妻子市姬命對神明和對彼此的奉獻而建。「侍者」代表田裳見宿禰是神明之僕。

今天，祈願結緣和婚姻幸福的人們經常造訪侍者社。參拜者可以購買小木牌「繪馬」寫下他們對愛情的祈禱和願望，然後把木牌掛在神社外面，據說田裳見宿禰和市姬命會幫助他們實現願望。侍者社裡有兩種泥偶護身符，一種是一對赤裸的男女「裸雛」，代表夫妻之間坦誠相見、沒有任何秘密的理想婚姻關係。另一種「侍者人形」，是一對身著古典和服的夫婦，據說能令婚姻圓滿。這兩種泥偶護身符在大社都有銷售。

<日本語仮訳>**侍者社**

田裳見宿禰は住吉大社の初代社主（神社の最高責任者）です。後に住吉三神と呼ばれるようになった三神の姿を見た神功皇后から、3 世紀初頭に最初の社殿の造営を託されました。

侍者社は、住吉三神と神功皇后にお供えする神饌を準備するための建物の中にあり、田裳見宿禰とその妻である市姫命の神々と互いへの献身を祀った小さな社です。ここの「侍者」は、田裳見宿禰が神に仕える者であったことを意味しています。

現在、侍者社には、縁結びや夫婦円満を求める人が多く訪れます。参拝者は、小さな木製の絵馬を購入し、祈りや恋の願いを書いて社外の外に吊るすことで、田裳見宿禰と市姫命が叶えてくれると言われています。住吉大社では、侍者社にゆかりのある 2 種類の土人形のお守りを販売しています。一つは、裸の男女が抱き合っている「裸雛」。裸雛は何の秘密も持たない理想的な夫婦関係を表していると言われています。もう一つは、「侍者人形」と呼ばれるもので、古典的な衣装を着た夫婦が描かれており、夫婦円満を意味しています。

【タイトル】 御田（神聖な田んぼ）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

御田（神圣稻田）

位于住吉大社内西南边的水田叫做“御田”，被认为是由神功皇后于公元 3 世纪首次插秧的稻田。御田出产的大米作为圣米被敬献给住吉大社的众神。大米还被用于在四座小神社举办的“收获敬拜”仪式，人们通过此仪式祈求生意兴隆，事业成功。

御田作为位于繁华都市大阪中心的耕地，在全日本来说也非常罕见。即使是农村，也很少有由牛耕作或手插秧的稻田，但住吉大社举行的祭典中保留了这一传统。每年的“御田植神事”仪式上，圣牛拖着木犁穿过稻田，妇女们在稻田里插秧。然后，在插秧者和参拜者的守护下，身着艳丽服装的歌者和舞者开始为神灵表演。

研究人员在这片稻田里发现了一些特有植物的组合，比如棒头草，这是一种只在盐碱地上生长的草。它的存在说明了大阪湾曾一度延伸到大社门口。

<繁体字>

御田（神聖稻田）

位於住吉大社内西南邊的水田叫做「御田」，被認為是由神功皇后於西元 3 世紀首次插秧的稻田。御田出產的大米作為聖米被敬獻給住吉大社的眾神。大米還被用於在四座小神社舉辦的「收穫敬拜」儀式，人們透過此儀式祈求生意興隆，事業成功。

御田作為位於繁華都市大阪中心的耕地，在全日本來說也非常罕見。即使是農村，也很少有由牛耕作或手插秧的稻田，但住吉大社舉行的祭典中保留了這一傳統。「御田植神事」儀式中，聖牛拖著木犁穿過稻田，婦女們在稻田裡插秧。然後，在插秧者和參拜者的守護下，身著豔麗服裝的歌者和舞者開始為神明表演。

研究人員在這片稻田裡發現了一些特有植物的組合，比如棒頭草，這是一種只在鹽鹼地上生長的草。它的存在說明了大阪灣曾一度延伸到大社門口。

<日本語仮訳>

御田（神聖な田んぼ）

住吉大社の境内のすぐ南西側にある水田は「御田」と呼ばれ、3 世紀に神功皇后が最初に田植えを行ったとされています。ここで作られた米は神聖なものとされ、住吉大社に祀られている神々に捧げ

られます。また、住吉大社の4つの小さな神社で行われる商売繁盛を祈願する「みのりまいり」にもこの米が使われています。

御田は、大阪の都市部の中心地にある日本でも珍しい農耕地です。田舎であっても、牛で耕して手で植える水田はほとんどありませんが、住吉大社ではその伝統が神事の中で守られてきました。特に毎年行われる「御田植神事」では、神聖な牛が木の鋤を引いて水田の中を進み、女性たちが水田に稲の苗を植えていきます。その後、田植えをした人や参拝者が見守る中、衣装を着た歌い手や舞手が神々に捧げる歌や演奏を披露します。

研究者によってこの水田では、塩分を含んだ土壌に生えるハマヒエガエリなどの固有の植物が発見されており、かつて大社の入り口まで大阪湾が広がっていたことを物語っています。

【タイトル】 手水舎

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**手水舎（浄水池）**

住吉大社建成于农历卯岁、卯月、卯日，在十二生肖中“卯”代表兔子，因此大社里到处都可以看到兔子图案。其中最有名的是走过反桥后，参道左侧净水池上的石兔，净水从它嘴里流出注入池中。

大多数神社的入口附近都有一个净水池，参拜者在进入圣地向神灵祈求前在此净化身心。净化时，先用右手拿起柄杓从池中舀一些水，用来冲洗左手，再换左手持杓，冲洗右手。接着，右手舀水倒一些掬在左手里用来漱口，漱完将水吐到水池外侧的排水区。最后，双手握住长柄将柄杓垂直竖起，让剩余的水冲洗柄部，再将柄杓放回原处。

<繁体字>**手水舎（淨水池）**

住吉大社建成於農曆卯歲、卯月、卯日，在十二生肖中「卯」代表兔子，因此大社裡到處都可以看到兔子圖案。其中最有名的是走過反橋後，參道左側淨水池上的石兔，淨水從它嘴裡流出注入池中。

大多數神社的入口附近都有一個淨水池，參拜者在進入聖地向神明祈求前在此淨化身心。淨化時，先用右手拿起柄杓，從池中舀一些水，用來沖洗左手，再換左手持杓，沖洗右手。接著，右手舀水倒一些掬在左手裡用來漱口，漱完將水吐到水池外側的排水區。最後，雙手握住長柄，將柄杓垂直立起，讓剩餘的水沖洗柄部，再將柄杓放回原處。

<日本語仮訳>**手水舎**

住吉大社は旧暦卯の日、卯の月、卯の年に創建されました。十二支のなかで卯はウサギになるため、境内のいたるところにウサギのデザインを見つけることができます。その中でも特に有名なものが、反橋を渡って住吉に入る参道の左手にある手水舎の上にある石の彫刻のウサギです。ウサギの口からは水が流れ出ています。

多くの神社では、境内に入る前に身を清め、神に祈りを捧げるために、入り口付近にこのような手水舎が設置されています。手水を使うには、右手で柄杓を持ちます。水盤から水をすくい、その水で左手を清めます。柄杓を左手に持ち替えて、右手を清めます。次に、柄杓から少しの水をカップ状に丸めた

左手に注ぎ、口をすすぎます水を水盤の横の排水に吐き出します。最後に、両手で柄杓を垂直に立てて、柄杓に残った水を柄に流しつつすすぎ、柄杓を元の場所に戻します。

【タイトル】 正面参道

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

正面参道

从公路**进入**住吉大社乃至内院的**宽道**被称为“正面参道”。参道即参拜的道路，是通往神道教神社或佛教寺庙的主要道路。走在参道上便是**第一项参拜行为**，标志着从世俗踏入神圣世界。

在 11 世纪的**经典著作**《源氏物语》中，紫式部(970?-1019?)**赞颂**了正面参道前方沿海而生的**松树**之美，描写了**透过树枝**可以看到的白色海浪。这只是住吉大社出现在日本文学作品中的众多**场景**之一。从**这个场景**可以看出，住吉大社在**守护旅行者**——特别是海上旅行者方面的作用。《源氏物语》的主人公光源氏曾参拜大社，**感谢**神灵在他受辱并**蛰居**须磨海岸（今**神戸市**）时对他的**庇护**。光源氏因与未来的太子妃**谈恋爱**而犯下**大错**，但在神灵帮助下，他**最终**回到了京都，重拾朝廷的**青睐**。

<繁体字>

正面参道

從公路**進入**住吉大社乃至內院的**寬道**被稱為「正面參道」。參道即參拜的道路，是通往神道教神社或佛教寺廟的主要道路。走在參道上便是**第一項參拜行為**，標誌著從世俗踏入神聖世界。

在 11 世紀的**經典著作**《源氏物語》中，紫式部（970?-1019?）**讚頌**了正面參道前方沿海而生的**松樹**之美，描寫了**透過樹枝**可以看到的白色海浪。這只是住吉大社出現在日本文學作品中的眾多**場景**之一。從**這個場景**可以看出，住吉大社在**守護旅行者**——特別是海上旅行者方面的作用。《源氏物語》的主人公光源氏曾參拜大社，**感謝**神明在他受辱並**蛰居**須磨海岸（今**神戸市**）時對他的**庇護**。光源氏因與未來的太子妃**談戀愛**而犯下**大錯**，但在神明幫助下，他**最終**回到了京都，重新獲得了朝廷的**青睞**。

<日本語仮訳>

正面参道

公道から住吉大社の奥の院へと続く広い道は「正面参道」と呼ばれています。参道とは、参拝するための道で、寺社仏閣の表参道のことです。参道を歩くことは最初の参拝行為であり、世俗的な場所から神聖な場所への移動を意味するのです。

紫式部（970?-1019?）は11世紀の古典『源氏物語』の中で、正面参道のすぐ前に広がる海岸の松の美しさを称え、枝の間から白波を見ることができたと描写しています。住吉大社は、日本の文学の中で、このような場面が数多く登場します。住吉大社が旅人、特に船乗りを見守る役割を担っていたことがうかがえる場面です。この本の主人公である光源氏は、須磨海岸（現在の神戸市）で蟄居をしていた時期に自分を守ってくれた神々に感謝するために住吉大社を訪れます。光源氏は後に東宮妃となる女性と恋をしてしまうという過ちを犯しますが、神のご加護で最終的には京都に戻り、朝廷の寵愛を受けることができたのです。

【タイトル】 誕生石

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**誕生石**

这块大石头因岛津忠久(1179-1227)的出生而闻名。岛津忠久是岛津武士家族的创始人。根据家族传说，岛津忠久的父亲是镰仓幕府(1185-1333)的第一任将军源赖朝(1147-1199)，他的母亲是高阶武士的女儿丹后局(1151-1216)。源赖朝的正室北条政子(1157-1225)发现丈夫的外遇后便诬告丹后局有罪。丹后局怀着源赖朝的孩子被迫逃离镰仓，躲入住吉大社避难。刚到大社她就突然临产，紧紧抱着这块大石头生下了岛津忠久。

后来，岛津忠久被源赖朝任命为大隅国和萨摩国（今鹿儿岛县）的军事行政官，并被赐姓“岛津”。他的后代建立起一个强大的家族，在 16 世纪 80 年代的权力巅峰时期统治了九州大部分地区。尽管岛津家族于 1602 年被迫宣誓效忠德川家族，但在 265 年后，他们作为倒幕大军的重要力量击败了德川幕府(1603-1867)，为建立现代化日本做出了巨大的贡献。即便是现在，鹿儿岛的人们也还会来到住吉大社，在这块石头前向岛津家族的祖先表示敬意。

<繁体字>**誕生石**

這塊大石頭因島津忠久（1179-1227）的出生而聞名。島津忠久是島津武士家族的創始者。根據家族傳說，島津忠久的父親是鎌倉幕府（1185-1333）的第一任將軍源賴朝（1147-1199），他的母親是高階武士的女兒丹後局（1151-1216）。源賴朝的正室北條政子（1157-1225）發現丈夫的外遇後便誣告丹後局有罪。丹後局懷著源賴朝的孩子被迫逃離鎌倉，躲入住吉大社避難。剛到大社她就突然臨產，緊緊抱著這塊大石頭生下了島津忠久。

後來，島津忠久被源賴朝任命為大隅國和薩摩國（今鹿兒島縣）的軍事行政官，並被賜姓「島津」。他的後代建立起一個強大的家族，在 1580 年代的權力巔峰時期統治了九州大部分地區。儘管島津家於 1602 年被迫宣誓效忠德川家，但在 265 年後，他們作為倒幕大軍的重要力量擊敗了德川幕府（1603-1867），為建立現代日本做出了巨大貢獻。即便是現在，鹿兒島民眾也還會來到住吉大社，在這塊石頭前向島津家的祖先表示敬意。

<日本語仮訳>

誕生石

島津氏の祖である島津忠久（1179-1227）の生誕地として知られる岩。島津家で伝えられるところによると、忠久の父は後に鎌倉幕府（1185-1333）初代将軍となる源頼朝（1147-1199）であるとされています。忠久の母は、上級武士の娘である丹後局（1151-1216）でした。頼朝の妻である北条政子（1157-1225）は、夫の浮気が発覚すると、丹後局にその罪を着せたのです。頼朝の子を身ごもっていた丹後局は鎌倉を逃れて最終的に住吉大社に身を寄せましたが、着いた途端、急に陣痛が始まり、この大きな石にしがみついて忠久を産んだそうです。

その後、頼朝は忠久を大隅国と薩摩国（現在の鹿児島県）の守護職に任命しました。忠久は「島津」という姓を与えられ、その子孫は 1580 年代の最盛期には九州の大半を支配する一族となりました。1602 年、島津は徳川への忠誠と奉仕を強制されましたが、265 年後に、彼らの軍は徳川幕府（1603-1867）を倒し、日本で最初の近代国家を確立するのに貢献したのです。今日でも、住吉大社には島津家の先祖の石を拝むために、鹿児島出身の人々が訪れています。

【タイトル】石灯笼群

【想定媒体】WEB

<简体字>**石灯笼群**

住吉大社的参道上有 600 多座定制的石灯笼，绝大多数都由商人或商业协会捐赠，而捐赠者的名字也会被刻在石灯笼上。“献灯”在 18 世纪早期开始流行，主要有两个目的：一是为获得住吉大社里神灵的保佑，二是为捐赠者的生意做宣传。

这些石灯笼的捐赠者来自各行各业，但很多个人和组织都从事与海洋有关的行业。数世纪以来，大阪湾延伸至住吉大社的西门外，以海为生的人们会经常前来祈求“住吉三神”的庇佑。规模较小但供奉相同神灵的住吉神社遍布日本海岸，住吉大社被认为是日本约 2300 多座住吉神社的总本社。

住吉大社附近的难波津（今大阪港）是连接关西地区和濑户内海及其他地区的枢纽。公元 7 世纪至 9 世纪间，它也曾是日本与中国的商贸和外交门户。进入江户时代(1603-1867)后，难波津又成为了日本海海岸重要的国内贸易基地。1716 年至 1736 年间，住吉大社收到了 96 座与渔业和航运等海上业务有关的石灯笼。

由于住吉大社以保佑航海安全闻名，所以大社内的许多石灯笼都是由商人捐赠的。在 19 世纪中后期，名为“北前船”的商船航行于大阪和北海道之间，它对日本现代经济和文化的形成贡献巨大。北前船商队将从北海道寒冷水域中捕捞的海带运回大阪，而大阪的厨师们利用海带独特的鲜味创造了昆布高汤，这种汤底已成为日本料理的精髓。

眼尖的游客应该可以发现由蓝染、化肥、玻璃制造商，以及红花批发商、二手服饰经销商捐赠的灯笼。大社内最大的两座石灯笼并非来自海运业，而是由制造玩具和娃娃的商会捐赠。它们矗立在反桥两侧，高度均超过 10 米，十分醒目。这两座石灯笼最初于 1762 年被捐赠，经历多次翻新后逐渐变大。自 1928 年以来，为了增加捐赠者的名字，它们曾四次被吊起更换更大的石基。现在的基座更换于 2020 年，用以纪念新天皇登基和令和时代的开始。南侧的石灯笼来自大阪地区的公司，北侧的则来自东京和日本其他地区的公司。当日本动漫手办或其他某些玩具的爱好者来到这里，就会在石灯笼上发现一些对他们来说很熟悉的名字，但也有许多不知名或是已经被遗忘的名字。

<繁体字>**石燈籠群**

住吉大社の参道上有 600 多座定製的石燈籠，絕大多數都由商人或工商團體捐獻，而捐獻人的名字也會被刻在石燈籠上。「獻燈」在 18 世紀早期開始流行，主要有兩個目的：一是為獲得住吉大社裡神祈的保佑，二是幫捐獻人的生意打廣告。

這些石燈籠的捐獻人來自各行各業，但很多個人和機構都從事與海洋有關的行業。數世紀以來，大阪灣延伸至住吉大社の西門外，以海為生的人們會經常前來祈求「住吉三神」的庇佑。規模較小但供奉相同神祇的住吉神社遍佈日本海岸，住吉大社被認為是日本約 2300 多座住吉神社的總本社。

住吉大社附近的難波津（今大阪港）是連接關西地區和瀨戶內海及其他地區的樞紐。西元 7 世紀至 9 世紀間，它也曾是日本與中國的商貿和外交門戶。進入江戶時代（1603-1867）後，難波津又成為了日本海海岸重要的國內貿易基地。1716 年至 1736 年間，住吉大社收到了 96 座與漁業和航運等海上業務有關的石燈籠。

由於住吉大社以保佑航海安全聞名，所以大社內的許多石燈籠都是商界捐獻的。在 19 世紀中後期，名為「北前船」的商船航行於大阪和北海道之間，它對日本現代經濟和文化的形成貢獻巨大。北前船商隊將從北海道寒冷水域中捕撈的海帶運回大阪，而大阪的廚師們利用海帶獨特的鮮味創造了昆布高湯，這種湯底已成為日本料理的精髓。

眼尖的遊客應該可以發現由藍染、化肥、玻璃製造商，以及紅花批發商、二手服飾經銷商捐獻的燈籠。大社內最大的兩座石燈籠並非來自海運業，而是由製造玩具和娃娃的商會捐獻。它們矗立在反橋兩側，高度均超過 10 公尺，十分醒目。這兩座石燈籠最初於 1762 年被捐獻，經歷多次翻新後逐漸變大。自 1928 年以來，為了增加捐獻人的名字，它們曾四次被吊起更換更大的石基。現在的基座更換於 2020 年，用以紀念新天皇登基和令和時代開始。南側的石燈籠來自大阪地區的公司，北側的則來自東京和日本其他地區的公司。當日本動漫手辦或其他某些玩具的粉絲來到這裡，就會在石燈籠上發現一些對他們來說很熟悉的名字，但也有許多不知名或是已經被遺忘的名字。

<日本語仮訳>

石灯籠群

住吉大社の参道には、600 基以上の特注の石灯籠が並んでいます。そのほとんどが、商人や団体から寄進されたもので、寄進者の名前が刻まれています。1700 年代初頭に流行した「献灯」は、住吉大社の神々のご利益を受けることと、寄進者の商売を宣伝することの 2 つの目的がありました。

さまざまな業種の人々が灯籠を寄進しましたが、中でも海に関係する人々や団体のものが多いのが特徴です。何世紀もの間、住吉大社の西門のすぐ先には大阪湾が広がっており、昔から海を生業とする人たちは、住吉大社に祀られている住吉三神のご加護を求めていたのです。同じ神々を祀る小さな住吉神社は、日本の沿岸に点在しており、住吉大社はそうした約 2300 社余の住吉神社の総本山と考えられています。

住吉大社の近くの難波津（現在の大阪港）は関西圏と瀨戶内海、さらにその先のエリアを結ぶ拠点でした。7 世紀から 9 世紀にかけては、中国との交易や外交の玄関口となっていました。その後、

江戸時代（1603-1867）には、日本海側の重要な国内交易ルートの拠点となったのです。住吉大社には、1716年から1736年にかけて、漁業や海運などの海上活動に関連する96基の灯籠が寄進されました。

住吉大社は航海の安全を祈願する場所と言われていたため、境内にある石灯籠の多くは商人から寄贈されたものです。19世紀半ばから後半にかけて、大阪と北海道を結んだ「北前船」は、日本の近世経済・文化の形成に貢献しました。北前船の商人は、北海道の冷たい海で採れた昆布を大阪に持ち帰り、大阪の料理人たちはその独特のうま味を生かし、日本料理の基本である「昆布だし」を作ったのです。

藍染や肥料、ガラスなどの製造業者、紅花問屋、古着屋などから寄進された灯籠も、鋭い人なら見つけることができることでしょう。しかし、最も大きな灯籠は、船の関係者ではなく、玩具や人形の製造業者の団体から寄進されたものです。反橋の両側に10メートル以上の高さのものが並んでいるので見逃すことはないでしょう。この2つの灯籠は1762年に寄進されたものだが、改修を繰り返しながら大型化しています。1928年から4回にわたり、寄進者の名前を追加するために、灯籠を吊り上げて新しい大きな石の台座が与えられました。最近では、2020年に新天皇の即位と、令和時代の始まりを記念して改修が行われました。南側の石灯籠は大阪地域の企業、北側の石灯籠は東京など日本各地の企業のもので、日本のアクションフィギュアやその他のおもちゃのファンにとっては、馴染みのある名前もあれば、無名あるいは忘れ去られた名前もたくさん見つけることができます。

【タイトル】住吉御文庫

【想定媒体】WEB

<簡体字>

住吉御文庫

自 17 世纪以来，大阪的图书出版业一直很兴旺。1723 年，一群来自大阪、京都、江户（今东京）三大主要城市的出版商共同出资在住吉大社建造了一个书库，这就是“住吉御文庫”，也是大阪最古老的图书馆。

住吉大社自古就与诗歌、文学和娱乐有着密切的关联，因此，出版商们通过捐赠初版图书来供奉神灵，以确保出版成功。这项举措还成就了一个实际的好处。由于江户时代（1603-1867）的书籍用木版印刷，木板会随着连续印刷而磨损。如果某一本书畅销，就可以用存放在大社里的崭新的初版制作一个木版副本。

在此后 300 年里，住吉大社的藏书增加到 5 万多册，最初的仓库已经无法容下所有书籍。住吉御文庫中也保存着部分副本，但都是过去、特别是江户时代晚期的热门历史书籍中唯一或者最佳版本。如今，关西的出版商仍在继续向住吉大社捐赠书籍，大部分都存放于现代化设施中。每年 5 月，人们会从书库和档案库中取出藏书进行检查并予以通风干燥。志愿者们翻阅书页，清除可能钻进书里的昆虫，并在阳光下晾晒书页。

<繁体字>

住吉御文庫

自 17 世紀以來，大阪的圖書出版業一直很興旺。1723 年，一群來自大阪、京都、江戶（今東京）三大主要城市的出版商共同出資在住吉大社建造了一個書庫，這就是「住吉御文庫」，也是大阪最古老的圖書館。

住吉大社自古就與詩歌、文學和娛樂有著密切的關聯，因此，出版商們通過捐獻初版圖書來供奉神明，以確保出版成功。這項舉措還帶來了一個實際的好處：由於江戶時代（1603-1867）的書籍用木版印刷，木板會隨著連續印刷而磨損。如果某一本書暢銷，就可以用存放在大社裡的嶄新的初版製作一個木版副本。

在此後 300 年裡，住吉大社的藏書增加到 5 萬多冊，最初的倉庫已經無法容下所有書籍。住吉御文庫中也保存著部分副本，但都是過去、特別是江戶時代晚期的熱門歷史書籍中唯一或者最佳版本。如今，關西的出版商仍在繼續向住吉大社捐獻書籍，大部分都存放於現代化設施中。每年 5 月，人們會從書庫和檔案庫中取出藏書進行檢查並予以通風乾燥。義工們翻閱書頁，清除鑽進書裡的昆蟲，並在陽光下晾曬書頁。

<日本語仮訳>

住吉御文庫

大阪では 17 世紀から出版・書籍販売業が盛んに行われてきました。1723 年に大阪・京都・江戸（現在の東京）の三大都市の出版社が出資して、住吉大社に書庫を建設することになりました。これこそが「住吉御文庫」です。この書庫は大阪で最古の図書館です。

住吉大社は古くから詩歌や文学、芸能の街であったことから、書籍商が初版本を奉納することで、神への敬意を表し出版の成功を祈願したのです。また、実用面での利点もありました。江戸時代（1603-1867）の本は版木を使って印刷されていたため、刷り重ねると版木は摩耗します。ベストセラーになれば、大社に保管されている無垢の初版本から版木の複製を作ることができたのです。

住吉大社の蔵書は、300 年の間に 5 万冊あまりにまで成長したが、元の蔵にすべてを収蔵することはできなくなっています。住吉御文庫には、特に江戸時代後期の人気のある歴史書については、唯一のコピーや最良のコピーが所蔵されていることもあります。現在、関西の出版社からは、引き続き住吉大社に書籍の寄贈が行われており、ほとんどの書籍は近代的な施設に保管されています。毎年 5 月になると、保管庫や資料室から本が取り出され、検査や虫干しを行います。ボランティアがページをめくり、中に潜り込んだ虫を取り除き、紙を天日で乾かしています。

【タイトル】 初辰まいり

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

初辰敬拜

“初辰敬拜”是住吉大社最常举行的仪式之一。人们认为定期举行这种仪式有利于生意兴隆，事业成功。初辰敬拜采用中国十二生肖历法，需要在每个月的初辰（即第一个辰日）参拜住吉大社的4座小神社。这个仪式的名字从谐音游戏而来，初辰在日语中与“成长、发达”同音。

参加初辰敬拜仪式时，参拜者需要按照种贷社、楠珺社、浅泽社、大岁社的顺序依次前往供奉和祈祷。据说如果4年内每个月都做初辰敬拜，连续48个月不间断，就能荣耀一生。这个信念来自“四十八辰”在日语中有着吉祥的发音，听起来就跟“始终发达”一样。

每逢初辰敬拜，住吉大社境内摆满摊位，气氛宛如节日。由于初辰之日每月不同，敬请留意大社官网上公布的时间。

<繁体字>

初辰敬拜

「初辰敬拜」是住吉大社最常舉行的儀式之一。人們認為定期舉行這種儀式有利於生意興隆，事業成功。初辰敬拜採用中國十二生肖曆法，需要在每個月的初辰（即第一個辰日）參拜住吉大社的4座小神社。這個儀式的名字從諧音遊戲而來，初辰在日語中與「成長、發達」同音。

參加初辰敬拜儀式時，參拜者需要按照種貸社、楠珺社、淺澤社、大歲社的順序依次前往供奉和祈禱。據說如果4年內每個月都做初辰敬拜，連續48個月不間斷，就能榮耀一生。這個信念來自「四十八辰」在日語中有著吉祥的發音，聽起來就跟「始終發達」一樣。

每逢初辰敬拜，住吉大社境內擺滿攤位，氣氛宛如節日。由於初辰之日每月不同，敬請留意大社官網上公佈的時間。

<日本語仮訳>

初辰まいり

住吉大社で最も頻繁に行われている神事の一つが「初辰まいり」です。「初辰まつり」を定期的に行うことで商売繁盛のご利益があるとされています。12日周期を採用する中国の旧暦で定められた、月

の最初の辰の日（初辰）に住吉大社の四つの小さな神社を参拝します。この名前は神聖な言葉遊びに由来しています。「初辰」は日本語の「成長、発達」と音が同じです。

初辰まいりは、参拝者が、種貸社、楠珪社、浅澤社、大歳社の順にお供え物をして参ります。この初辰まいりを4年間の毎月、つまり48ヶ月続けて行くと、その繁栄は一生続くと言われています。この信仰は縁起が良い語呂合わせ、「四十八辰」という文字が「始終発達」という意味の文字と音が同じであることに由来しているのです。

初辰まいりの日には、住吉大社の境内には屋台が立ち並び、まるでお祭りのような雰囲気になります。初辰の日は毎月違うため、事前に大社のオフィシャルサイトでスケジュールを公開しています。

【タイトル】 楠珞社

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**楠珞社**

初辰敬拜第二站

初辰敬拜时间：6:00～15:45

祈祷金：1500 日元

楠珞社里供奉着**农业**之神“宇迦魂命”，他也是稻荷神的化身。楠珞社是初辰敬拜的第二站，参拜者在这里祈愿神灵**赐予为事业成功而努力奋斗**的力量。参加“收获敬拜”的参拜者可以在这里用神圣稻谷**换取**一把稻穗，然后用它在最后一站大岁社**换取**一小袋“御神米”。

参加初辰敬拜，**还会**得到一个“招福猫”泥偶。**这些能带来繁荣的吉祥物**有两种：**举起左爪的猫**据说可以为商家吸引顾客，带来人气，**单月**提供；**举起右爪的猫**据说能招财，**双月**提供。

<繁体字>**楠珞社**

初辰敬拜第二站

初辰敬拜時間：6:00～15:45

祈禱金：1500 日圓

楠珞社裡供奉著**農業**之神「宇迦魂命」，祂也是稻荷神的化身。楠珞社是初辰敬拜的第二站，參拜者在這裡祈願神明**賜予為事業成功而努力奮鬥**的力量。參加「收穫敬拜」的參拜者可以在這裡用神聖稻穀**換取**一把稻穗，然後用它在最後一站大歲社**換取**一小袋「御神米」。

參加初辰敬拜，**還會**得到一個「招福貓」泥偶。**這些能帶來繁榮的吉祥物**有兩種：**單月**提供**舉起左爪的貓**，據說可以為商家吸引顧客，帶來人氣；**雙月**提供**舉起右爪的貓**，據說能招财。

<日本語仮訳>**楠珞社**

初辰まいりで 2 番目に参拝する神社

初辰まいりの受付時間：午前 6 時から午後 3 時 45 分まで

祈祷料：1,500 円

楠珥社は稲荷神の化身である農業の神、宇賀魂命を祀っています。「初辰まいり」で 2 番目参りする楠珥社は、商売を続けるための献身と努力を祈願する神社です。「みのりまいり」の慣わしとして参拝者は、楠珥社で神聖な粳種を稲穂と交換し、それを最後の大歳社で「御神米」の小袋と交換することができます。

楠珥社では、初辰まいりの参拝者に「招福猫」と呼ばれる猫の土人形が授与されます。商売繁盛のお守りには 2 種類あります。左前足を上げた猫は、これを飾っている店に客が集まると言われ、奇数月に提供されます。右前足を上げた猫は、経済的な豊かさをもたらすとされ、偶数月に入手可能です。

【タイトル】種貸社

【想定媒体】WEB

<簡体字>**種貸社**

初辰敬拜第一站

初辰敬拜時間：6:00～15:30

祈禱金：1100 日元

種貸社的主神是“倉稻魂命”。据说他是农业和商业之神——稻荷神的众多化身之一，可向他祈求赐予成功创业所需的投资和努力。此外，種貸社还与播种和丰收息息相关，“种”意为“种子”，因此这里也是祈求怀孕得子的圣地。

種貸社是“初辰敬拜”的第一站，“收获敬拜”的参拜者可以在这里花 800 日元买一粒神圣的稻谷，以此在下一站楠珣社换取一把稻穗。

<繁体字>**種貸社**

初辰敬拜第一站

初辰敬拜時間：6:00～15:30

祈禱金：1100 日圓

種貸社的主神是「倉稻魂命」。據說祂是農業和商業之神——稻荷神的眾多化身之一，可向祂祈求賜予成功創業所需的投資和努力。此外，種貸社還與播種和豐收息息相關，「種」意為「種子」，因此這裡也是祈求懷孕得子的熱門地。

種貸社是「初辰敬拜」的第一站，「收穫敬拜」的參拜者可以在這裡花 800 日圓買一粒神聖的稻穀，以此在下一站楠珣社換取一把稻穗。

<日本語仮訳>**種貸社**

初辰まいりで最初に参拝する神社

初辰まいりの受付時間：午前 6 時から午後 3 時 30 分まで

祈禱料：1,100 円

種貸社は倉稲魂命を祀っている。倉稲魂命は、農業、商売に関係する稲荷の数ある姿の一つであると信じられています。ここは起業を成功させるための投資や努力を祈願する神社です。また、この神社は種蒔きと豊穰を祈願しています。種は「種子」のことで、種貸社は子宝を求める人にも人気があります。

「初辰まいり」の最初に参拝する種貸社では、「みのりまいり」の慣わしとして、参拝者は 800 円で神聖な籾種を購入することができ、次の楠珥社で稲穂と交換することができます。

【タイトル】大歳社

【想定媒体】WEB

<簡体字>**大岁社**

初辰敬拜第四站（最后一站）。

初辰敬拜时间：6:00～16:00

祈祷金：1000 日元

大岁社供奉着神道教神话中的丰收之神——大岁神。他的弟弟是稻荷神，掌管农业和商业。稻荷神的化身仓稻魂命和宇迦魂命则分别被供奉在种贷社和楠珺社之中。江户时代(1603-1867)的一本旅游指南中提到：当大阪商人在讨不回债款时，就会到大岁社祈祷。

大岁社是“初辰敬拜”的最后一站，人们在这里向神灵祈求获赐努力创业的回报。“收获敬拜”的参拜者可以用神圣的稻穗换取一小袋“御神米”，据说回家后吃下御神米煮的饭，就能得到神灵的回应。还有不少人会选择在“一粒万倍日”食用御神米。这是源自“一粒万倍”的谚语，意思是一粒稻谷可以成长为一万倍之多。一粒万倍日的具体日期可上住吉大社官网查询。

大岁社边上有一座小神社，参拜者者可以通过三块“重轻石”来占卜愿望是否会实现。

<繁体字>**大歳社**

初辰敬拜第四站（最後一站）。

初辰敬拜時間：6:00～16:00

祈禱金：1000 日圓

大歳社供奉著神道教神話中的豐收之神——大歳神。祂的弟弟是稻荷神，掌管農業和商業。稻荷神的化身倉稻魂命和宇迦魂命分別則被供奉在種貸社和楠珺社之中。江戶時代（1603-1867）的一本旅遊指南中提到：當大阪商人在討債要帳遇到困難時，就會到大歳社祈禱。

大歳社是「初辰敬拜」的最後一站，人們在這裡向神明祈求獲賜努力創業的回報。「收穫敬拜」的參拜者可以用神聖的稻穗換取一小袋「御神米」，據說回家後吃下御神米煮的飯，就能得到神明的回應。還有不少人會選擇在「一粒萬倍日」食用御神米。這是源

自「一粒萬倍」的諺語，意思是一粒稻穀可以成長為一萬倍之多。一粒萬倍日的具體日期可上住吉大社官網查詢。

大歳社邊上有一座小神社，參拜者者可以通過三塊「重輕石」來占卜願望是否會實現。

<日本語仮訳>

大歳社

初辰まいの締めくりに参拝する神社

初辰まいの受付時間：午前 6 時から午後 4 時まで

祈祷料：1,000 円

大歳社には、種貸社と楠瑠社に祀られている農業、商売に係る稲荷神の化身である倉稻魂命と宇賀魂命の兄で、神道の収穫神である大歳神が祀られています。江戸時代（1603-1867）に書かれた旅の指南書には、大阪の商人が売掛金やツケ払いの取り立てに苦勞しているときにこの神社を参拝したと記されています。

大歳社は「初辰まいり」の最後に参拝する神社で、事業を起こしたことへの献身に対するご利益があるとされています。また、「みのりまいり」の慣わしとして、参拝者は神聖な稲穂を「御神米」の小袋と交換できますが、そのお米を持ち帰って食べることで、神のご利益を得ることができます。また、縁起をかついで、「一粒万倍日」を選んで食べる人も多いです。一粒万倍とは、一粒の粳が育って万倍にも実り稲穂になるという意味で、この日はウェブサイトに掲載されています。

大歳社の隣には、「おもかる石」と呼ばれる 3 つの石を使って、願い事が叶うかどうか占うことができる小さな神社があります。

【タイトル】初詣（新年初お参り）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

初詣（新年初次参拜）

大阪有一句古老的谚语：新的一年从住吉开始。在每年 1 月的头三天里，会有 200 多万人到住吉大社参加日本新年传统“初詣”，即一年中第一次参拜。

为了向第一本宫的赛钱箱（功德箱）投掷硬币，并简短地祈祷来年好运，参拜者们在除夕的午夜之前就会来到大社里排起长队。由于人群过于密集，一些参拜者会将他们的硬币越过前排人的头顶抛向赛钱箱，以致有些被大力投掷的硬币卡在了本宫的屋檐上。大社境内有许多出售食品和纪念品的临时摊位，节日气氛点燃全场。人们享受着短暂的新年假期，迎接一个崭新的开始。

住吉大社的神职人员为迎接新年会举行一系列祭典。元旦清晨 5 点，他们从圣井打水，分别献给大社的四位守护神，这象征着净化和新生。然后会在大约 1 小时后的日出时分，祈祷国家安泰、新年丰收。

1 月上旬还有一些其他活动。1 月 4 日的“踏歌神事”是一种古老的宫廷仪式，由两名神职人员主持，并有被称为“神乐女”的巫女（侍奉神灵的未婚女性）表演舞蹈。1 月 7 日的“白马神事”则是将一匹白马带到大社驱除恶灵。

<繁体字>

初詣（新年初次参拜）

大阪有一句古老的諺語：新的一年從住吉開始。在每年 1 月的頭三天裡，會有 200 多萬人到住吉大社參加日本新年傳統「初詣」（新年初次参拜）。

為了向第一本宮的賽錢箱（功德箱）投擲硬幣，並簡短地祈禱來年好運，参拜者們在除夕的午夜之前就會來到大社裡排起長隊。由於人群過於密集，一些参拜者會將他們的硬幣越過前排人的頭頂拋向賽錢箱，以致有些被大力投擲的硬幣卡在了本宮的屋簷上。大社境內有許多販賣食品和紀念品的臨時攤位，節日氣氛點燃全場。人們享受著短暫的新年假期，迎接一個嶄新的開始。

住吉大社的神職人員為迎接新年會舉行一系列祭典。元旦清晨 5 點，他們從聖井打水，分別獻給大社的四位守護神，這象徵著淨化和新生。然後會在大約 1 小時後的日出時分，祈禱國家安泰、新年豐收。

1月上旬還有一些其他活動。1月4日的「踏歌神事」是一種古老的宮廷儀式，由兩名神職人員主持，並有被稱為「神樂女」的巫女（侍奉神明的未婚女性）表演舞蹈。1月7日的「白馬神事」則是將一匹白馬帶到大社驅除惡靈。

<日本語仮訳>

初詣（新年初お参り）

大阪では古くから“一年の始まりは「すみよっさん」から”と言われ、住吉大社では正月三が日に約200万人以上の人々が日本人の新年を迎える際の伝統として、「初詣」のために住吉大社を訪れます。

大晦日の真夜中前には長蛇の列ができ、第一本宮の賽銭箱に小銭を入れ、来たる年の幸運を祈り、短い願いごとをする人であふれかえります。人があまりにも多いので、参拝者の中にはお賽銭を前方の人の頭越しに投げてしまう人もいるほどです。大社の屋根の端を見ると、賽銭箱を外れた小銭が屋根板の間に挟まっているのを見つけることができます。境内では食べ物やお土産が売られる屋台が多く出され、お祭りの賑わいを演出。人々は束の間のお正月を楽しみ、新たな年のスタートを心新たに迎えます。

住吉大社の神職たちは、新年を迎えるために様々な神事を行っています。元日の午前5時には神聖な井戸から水を汲み上げ、それを大社の4柱のご祭神に捧げます。これは浄化と再生を象徴しています。その約1時間後の日の出には、国家の安泰と一年の豊作を祈願するのです。

1月上旬に行われる他の神事には、1月4日に行われる2人の神職による古くは朝廷で行われていた行事や、「神樂女」と呼ばれる巫女（神霊に奉仕する未婚の女性）による舞が行われる「踏歌神事」などがあります。1月7日の「白馬神事」では、白馬を大社に連れてきて邪気を祓います。

【タイトル】踏歌神事

【想定媒体】WEB

<簡体字>

踏歌神事

踏歌神事是一种古老的新年祭典，与中国颇有渊源。它在奈良时代(710-794)和平安时代(794-1185)曾是一项新年宫廷活动，叫做“踏歌节会”，如今以不同形式保留在一部分神社中，比如名古屋的住吉大社和热田神宫。

神事的核心由两名神职人员主持，一位手持梅花枝，代表财富之神和渔民的守护者惠比寿，而另一位手持一袋年糕，代表繁荣之神和农民的守护者大黑天。仪式开始时，神职人员首先于第一本宫前相隔一些距离面对面站定，然后用一系列简短的语句一呼一应、彼此问候，并且每说一次便向前走三步，直到交换位置。这就是“踏歌”，表示踏步前行和歌唱。最后，代表大黑天的神职人员用他手中的年糕来供奉住吉大社的神灵。

中世纪时，人们在世俗庆典中也导入了呼应风格的仪式，称为“千秋万岁”。随着不同地区的多种发展变化，“万岁”演变成“漫才”这种娱乐形式。如今，漫才是指两个喜剧演员在舞台上进行问答式表演，与中国的对口相声类似。漫才也是日本演艺界的重要表演形式，尤其在大阪更是如此。

<繁体字>

踏歌神事

踏歌神事是一種古老的新年祭典，與中國頗有淵源。它在奈良時代（710-794）和平安時代（794-1185）曾是一項新年宮廷活動，叫做「踏歌節會」，如今以不同形式保留在一部分神社中，比如名古屋的住吉大社和熱田神宮。

神事的核心由兩名神職人員主持，一位手持梅花枝，代表財富之神和漁民的守護者惠比壽，而另一位手持一袋年糕，代表繁榮之神和農民的守護者大黑天。儀式開始時，神職人員首先於第一本宮前相隔一些距離面對面站定，然後用一系列簡短的語句一呼一應、彼此問候，並且每說一次便向前走三步，直到交換位置。這就是「踏歌」，表示踏步前行和歌唱。最後，代表大黑天的神職人員用手中的年糕來供奉住吉大社的神祇。

中世紀時，人們在世俗慶典中也導入了呼應風格的儀式，稱為「千秋萬歲」。隨著不同地區的多種發展變化，「萬歲」演變成「漫才」這種娛樂形式。如今，漫才是指兩個喜劇演員在舞臺上進行問答式表演，與中國的對口相聲類似。漫才也是日本演藝界的重要表演形式，尤其在大阪更是如此。

<日本語仮訳>

踏歌神事

踏歌神事とは、中国にルーツを持つ古くからおこなわれていた正月神事です。奈良時代（710–794）および平安時代（794–1185）に宮廷で行われていた正月行事「踏歌節会」で、いまは名古屋の住吉大社や熱田神宮など、いくつかの神社で形を変えて残っています。

この儀式の中心は 2 人の神職によって行われます。1 人は梅の枝を持ち、富の神と漁師の守護神である恵比寿に、もう 1 人は餅の入った袋を持ち、繁栄を象徴し、農民の守護神でもある大黒天に扮します。まず、第一本宮の前に神職たちが少し離れて向かい合って立ちます。一連の短い応答のフレーズを使って挨拶を交わし、場所を替えるまで毎回 3 歩ずつ前進します。「踏む」と「歌う」を合わせたものが「踏歌」です。最後に、大黒天に扮した神職が住吉大社の神々に餅を奉納します。

中世にはこれを模したものが世俗的な祝いの席で取り上げられ、「千秋万歳」と呼ばれるようになりました。地域ごとにバリエーションが発達し、「万歳」が「漫才」として娯楽の一形態となっていきます。現在では、漫才といえば、2 人組の喜劇役者がステージ上で問答する演芸のことを指し、中国の「相声」に似ています。漫才は大阪を中心とした日本のショービジネスの定番になっています。

【タイトル】 白馬神事

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

白馬神事

白馬神事是在每年 1 月 7 日举行的新年净化祭典。过去，许多神社都饲养马匹用于祭祀，如今已极为罕见。住吉大社的神马“白雪”平时住在大社外面的马厩里，每逢白馬神事时就会被带到大社里面。

在这个仪式中，白雪先会按序被牵到供奉着住吉大社守护神的四大本宫，然后在大社内巡游一圈。人们相信白馬可以驱除恶灵，白馬神事也由此而来。据说如果在正月看到白雪，这一年都会无病无灾。

住吉大社饲养白馬的历史可以追溯到公元 3 世纪传说中的神功皇后时代。据说大社创办人神功皇后从朝鲜半岛带回了第一匹神馬。关于住吉大社的白馬，坊间流传着很多传说和民间信仰，例如吃三颗白雪饲料中的大豆就能治愈磨牙。

<繁体字>

白馬神事

白馬神事是在每年 1 月 7 日举行的新年净化祭典。过去，许多神社都饲养马匹用于祭祀，如今已极为罕见。住吉大社的神马「白雪」平时住在大社外面的马厩里，每逢白馬神事时就会被带到大社里面。

在这个仪式中，白雪先会按序被牵到供奉着住吉大社守护神的四大本宫，然后在大社内巡游一圈。人们相信白馬可以驱除恶灵，白馬神事也由此而来。据说如果在正月看到白雪，这一年都会无病无灾。

住吉大社饲养白馬的历史可以追溯到西元 3 世纪传说中的神功皇后时代。据说大社创办人神功皇后从朝鲜半岛带回了第一匹神馬。关于住吉大社的白馬，坊间流传着很多传说和民间信仰，例如吃三颗白雪饲料中的大豆就能治愈磨牙。

<日本語仮訳>

白馬神事

白馬神事は、1 月 7 日に行われる新年のお祓の神事です。かつては、多くの神社が神事のために馬を飼っていましたが、今では極めてまれになっています。住吉大社の神馬である「白雪号」は、普段は別の厩舎にいるのだが、白馬神事の際には大社に連れてこられる。

この神事では、白雪号が住吉大社の守護神が祀られている4つの各本宮を巡回し、その後境内を一周します。この神事は白馬が悪霊を追い払うという信仰に由来しており、お正月に白雪号を見た人は、一年を無病息災で過ごせると伝えられています。

住吉大社では、その創始者で伝説的な3世紀の神功皇后の時代から白馬を飼っていたと言われています。伝えられるところでは、神功皇后は最初の神馬を朝鮮半島から持ち帰ったそうです。白雪号の飼料である大豆を3粒食べると歯ぎしりが治ると伝えられているなど、この大社の馬には数々の伝説や民間信仰が残っています。

【タイトル】卯之葉神事

【想定媒体】WEB

<簡体字>

卯之叶神事

卯之叶神事は**纪念住吉大社成立**の祭礼，在日本旧历“卯月”の第一个“卯日”举行。卯月即是公历 5 月，与中国农历中的“卯月”几乎相同。神职人员们向大社的**创始人神功皇后**敬献供品，其中包括卯之花的枝条。卯之花即**齿叶溲疏**，是一种**绣球花科**开花灌木，原产于日本。

日本古代采用了以中国古代十二生肖为基础的**历法系统**，年、月、日、夜被分为 12 个单位，并以**动物命名**。据说，住吉大社成立于“卯年”（公元 211 年）“卯月”的第一个“卯日”，“卯”即为兔，因此从那时起，兔子与住吉大社便有了不解之缘。

卯之叶神事上，可以欣赏到在建于 16 世纪的石舞台上表演的日本**传统舞蹈“舞乐”**。

<繁体字>

卯之葉神事

卯之葉神事は**紀念住吉大社成立**の祭禮，在日本舊曆「卯月」の第一個「卯日」舉行。卯月即是陽曆 5 月，與中國農曆中的「卯月」幾乎相同。神職人員們向大社的**創辦人神功皇后**敬獻供品，其中包括卯之花的枝条。卯之花即**齒葉溲疏**，是一種**繡球花科**開花灌木，原產於日本。

日本古代採用了以中國古代十二生肖為基礎的**曆法系統**，年、月、日、夜被分為 12 個單位，並以**動物命名**。據說，住吉大社成立於「卯年」（西元 211 年）「卯月」的第一個「卯日」，「卯」即為兔，因此從那時起，兔子與住吉大社便有了不解之緣。

卯之葉神事上，可以欣賞到在建於 16 世紀的石舞臺上表演的日本**傳統舞蹈「舞樂」**。

<日本語仮訳>

卯之葉神事

卯之葉神事は、住吉大社の創建を記念する祭礼です。旧暦の「卯月」にあたる最初の「卯の日」に行われます。日本の旧暦の卯月は西暦の 5 月にあたり、中国の旧暦の卯月とほぼ同じです。神職は、大社を創建したとされる神功皇后にお供えをしますが、お供え物には、日本語で「卯の花」と呼ばれる日本原産のアジサイ科の植物、ウツギの枝が含まれています。

日本は、古くは古代中国の十二支に基づく旧暦の時間を採用していました。年、月、日、時間を十二の単位に分け、それぞれには動物の名前が当てられており、卯はウサギになります。住吉大社は、「卯年」（西暦 211 年）の「卯月」の最初の「卯の日」に創建されました。以来、ウサギとの縁が深い大社となっています。

16 世紀に作られた石の舞台で奉納される伝統的な舞楽は、卯之葉神事の見どころと言えます。

【タイトル】 御田植神事

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

御田植神事

在日本，稻米和宗教密切相关，稻米成长周期的始终，都会举行神道教仪式：“田植神事”是为了祈祷幼苗顺利成长，“收获祭”则是为了感谢神灵的恩赐。住吉大社的“御田植神事”是日本最著名的祭典之一，自古以来一直忠实地保持着最初的形态。

御田植神事据说可以追溯到公元 211 年住吉大社建成那年，当时，大社的创始人神功皇后下令开垦一块新的稻田，用来供奉大社的三位神灵，并从本州西部招来了经过特别训练的“植女”负责耕种。这片古稻田位于大社内西南方，如今依然被用来举行这个仪式。

举行御田植神事时，首先要净化秧苗和参与者。净化仪式结束后，圣牛拉着木犁耕种御田，神职人员则在御田里洒上圣水。然后由打扮成植女的妇女们下地插完秧后，身着五彩服饰的舞者和乐师会在田边表演。御田植神事聚集的能量据说能给秧苗注入健康和活力。

江户时代(1603-1867)，植女的工作由来自附近堺市旅馆里被叫做“游女”的女性担任。大多数游女不仅能歌善舞，还擅长乐器，其中不乏才艺出众的名人。除了插秧之外，游女们还会在祭典上表演舞蹈，在发挥才艺的同时也通过仪式净化自身。现今，植女的角色由来自大阪地区的女艺人担任。

御田植神事在每年的 6 月 14 日举行，被指定为国家重要非物质文化遗产。

<繁体字>

御田植神事

在日本，稻米和宗教密切相关，稻米成长週期的始終，都會舉行神道教儀式：「田植神事」是為了祈禱幼苗順利成長，「收穫祭」則是為了感謝神明的恩賜。住吉大社的「御田植神事」是日本最著名的祭典之一，自古以來一直忠實地保持著最初的形態。

御田植神事據說可以追溯到西元 211 年住吉大社建成那年，當時，大社的創辦人神功皇后下令開墾一塊新的稻田，用來供奉大社的三位神祇，並從本州西部招來了經過特別訓練的「植女」負責耕種。這片古稻田位於大社內西南方，如今依然被用來舉行這個儀式。

舉行御田植神事時，首先要淨化秧苗和參與者。淨化儀式結束後，聖牛拉著木犁耕種御田，神職人員則在御田裡灑上聖水。然後由打扮成植女的婦女們下地插完秧後，身著五彩服飾的舞者和樂師會在田邊表演。御田植神事聚集的能量據說能給秧苗注入健康和活力。

江戶時代（1603-1867），植女的工作由來自附近堺市旅館裡被叫做「遊女」的女性擔任。大多數遊女不僅能歌善舞，還擅長樂器，其中不乏才藝出眾的名人。除了插秧之外，

遊女們還會在祭典上表演舞蹈，在發揮才藝的同時也通過儀式淨化自身。現今，植女的角色由來自大阪地區的女藝人擔任。

御田植神事在每年的 6 月 14 日舉行，被指定為國家重要非物質民俗文化財產。

<日本語仮訳>

御田植神事

日本では、米と宗教は密接に結びついています。稲の生育期は、神事に始まり神事に終わります。田植えの儀式は、苗の成長を願って「田植神事」を行い、その恵みを神に感謝する「収穫祭」が行われるのです。住吉大社の田植神事である「御田植神事」は、日本で最もよく知られている神事の 1 つです。その神事は古来よりきちんと守られてきました。

御田植神事は 211 年に大社が創建されたときに始まったと伝えられています。住吉大社の創建者である神功皇后が、新たな水田を作って大社の神々に捧げることを命じたと言われています。彼女は、特別に訓練された「植女」を本州の西部から呼んで水田を耕させたそうです。大社の敷地の南西部にある当時と同じ水田が、今も神事の斎行に使われています。

御田植神事は稲の苗と参列者を清める儀式から始まります。その後、神聖な水田を牛車で耕し、聖水を撒きます。植女が稲を植えると、色とりどりの衣装を身にまとった舞手や奏者が水田の端で舞いや演奏を披露します。この祭礼のエネルギーが、苗に強さと活力を与えられています。

江戸時代（1603-1867）には、近隣の堺の旅籠屋の女性が植女役を務めた。「遊女」と呼ばれた女性たちの多くは舞いや演奏に長けていることが多く、中でも特に芸に秀でたものは有名でもあったと伝えられています。御田植神事では田植えの他にも遊女による舞いが披露されたため、遊女たちは芸術的才能を発揮するとともに、神事を通じて自身を清めることができました。現在、植女は大阪近郊の女性アーティストが担当しています。

御田植神事は毎年 6 月 14 日に行われ、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

【タイトル】住吉祭

【想定媒体】WEB

<簡体字>

住吉祭

住吉祭是大阪最盛大的夏季祭典之一，与**爱染祭**、**天神祭**并称为**大阪三大夏日祭典**，每年7月30日至8月1日**举行**。它也被称为“**おはらい**”(oharai)，意思是“**驱邪**”，因为通过仪式可以**驱除疾病和其他灾难**。在祭典开始之前，需要使用清晨时分从大阪湾汲取的海水，来**对载着神灵的神轿进行清洗净化**。

7月30日晚上8点首先**举行“宵宫祭”**，将神灵**请上神轿**。第二天，“**夏越祓神事**”（祓音“福”）**隆重登场**。仪式中，身着**五颜六色的室町时代(1336-1573)服装的“夏越女”**，与**孩童、乐师等参与者排成一列**，**三次穿过竖立着的巨大茅草圈**，以示**净化心灵**。这一仪式**入选了大阪府民俗文化财产**。

第三天8月1日**举行“神舆渡御”仪式**，人们抬着神轿**走过陡峭的反桥**，**渡过大和川**，到达堺市的宿院“**顿宫**”，然后再回到住吉大社。主神轿**大约重达两吨**，**长度11米左右**，被抬起来时**景象蔚为壮观**。

<繁体字>

住吉祭

住吉祭是大阪最盛大的夏季祭典之一，與**愛染祭**、**天神祭**並稱為**大阪三大夏日祭典**，每年7月30日至8月1日**舉行**。它也被稱為「**おはらい**」（oharai），意思是「**驅邪**」，因為透過儀式可以**驅除疾病和其他災難**。在祭典開始之前，需要使用清晨時分從大阪灣汲取的海水，來**對載著神明的神轎進行清洗淨化**。

7月30日晚上8點首先**舉行「宵宮祭」**，將神明**請上神轎**。第二天，「**夏越祓神事**」（祓音「福」）**隆重登場**。儀式中，身著**五颜六色的室町時代（1336-1573）服裝的「夏越女」**，與**兒童、樂師等參與者排成一列**，**三次穿過豎立著的巨大茅草圈**，以示**淨化心靈**。這一儀式**入選了大阪府民俗文化財產**。

第三天8月1日**舉行「神輿渡御」儀式**，人們抬著神轎**走過陡峭的反橋**，**渡過大和川**，到達堺市的宿院「**頓宮**」，然後再回到住吉大社。主神轎**大約重達兩噸**，**長度11公尺左右**，被抬起來時**景象蔚為壯觀**。

<日本語仮訳>

住吉祭

毎年7月30日から8月1日にかけて行われる大阪最大級の夏まつりである住吉祭は、愛染祭、天神祭と共に大阪三大夏祭りの一つです。住吉祭は、疫病や災いを防ぐためのお清めの神事が行われることから、「おはらい」とも呼ばれています。祭りが始まる前に、大社の御神霊を運ぶための神輿を清めますが、その水は早朝に大阪湾から汲んできた海水を使用します。

7月30日の午後8時になると、神霊を神輿に移す「宵宮祭」が行われ、翌日には「夏越祓神事」が行われます。夏越祓神事は、室町時代（1336-1573）の色鮮やかな衣装を身にまとった夏越女や稚児、楽人などの行列で構成されており、大きな茅の輪を三度ぐり抜けることで身が清められるというものです。この神事は大阪府指定民俗文化財の記録選択となっています。

「神輿渡御」は、8月1日に行われます。神輿が、急勾配の反橋を渡り、大和川を渡って堺市の宿院頓宮まで運ばれ、再び住吉大社に戻ってきます。大神輿は、重さ約2トン、長さ約11メートルを誇り、これを担ぐ姿は壮観です。

【タイトル】 観月祭

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**观月祭**

观月祭通常于 9 月中下旬的满月之时举行。在皎洁美丽的月光下，祭礼围绕着日本传统诗歌的“献咏”展开，人们以吟咏短歌、俳句等和歌来庆祝这个节日。

短歌是和歌的一种，有固定的行数和音节，遵循“五-七-五-七-七”的格式，俳句则省去最后两行。观月祭上，神职人员站在住吉大社著名的拱桥“反桥”之上，大声朗诵从全国各地稿件（包括业余诗人的投稿）中甄选出来的佳作。吟咏完毕后，还有传统舞蹈“舞乐”的献演。

住吉大社与和歌的关系可以追溯到 1000 多年前。在公元 8 世纪和 9 世纪的诗歌中，包括日本现存最古老的诗歌选集《万叶集》在内，都提到了住吉大社和它的沿海风情。大社的神灵被视为航海的守护神以及和歌之神。据传，和歌大师藤原定家(1162-1241)在住吉大社留宿时，神灵在梦中以一个老人的形象出现在他面前，并对他说：“月光甚明”。于是他将自己的日记取名为《明月记》。

<繁体字>**觀月祭**

觀月祭通常於 9 月中下旬的滿月時舉行。在皎潔美麗的月光下，祭禮圍繞著日本傳統詩歌的「獻詠」展開，人們以吟詠短歌、俳句等和歌來慶祝這個節日。

短歌是和歌的一種，有固定的行數和音節，遵循「五-七-五-七-七」的格式，俳句則省去最後兩行。觀月祭上，神職人員站在住吉大社著名的拱橋「反橋」之上，大聲朗誦從全國各地稿件（包括業餘詩人的投稿）中甄選出來的佳作。吟詠完畢後，還有傳統舞蹈「舞樂」的獻演。

住吉大社與和歌的關係可以追溯到 1000 多年前。在西元 8 世紀和 9 世紀的詩歌中，包括日本現存最古老的詩歌選集《萬葉集》在內，都提到了住吉大社和它的沿海風情。大社的神祇被視為航海的守護神以及和歌之神。據傳，和歌大師藤原定家（1162-1241）在住吉大社留宿時，神在夢中以一個老人的形象出現在他面前，並對他說：「月光甚明」。於是他將自己的日記取名為《明月記》。

<日本語仮訳>

観月祭

観月祭は秋、通常は 9 月中旬から下旬に満月の下で行われます。美しく輝く月はもちろんのこと、祭りの中心的存在は和歌。この祭礼では、短歌や俳句など、日本の伝統的な和歌を詠んで祝います。

短歌は和歌の一体で、五・七・五・七・七のパターンで構成され、行数と音数が決まっているのが特徴です。一方俳句では、最後の 2 行を省きます。観月祭では、住吉大社の人気のアーチ橋である「反橋」の上から神職たちが全国より募った作品（アマチュアも応募可）の中から入選歌を披講します。この披講の会後には、伝統的な舞楽が奉納されます。

住吉大社と和歌との関わりは 1,000 年以上前に遡ります。現存する日本最古の歌集である『万葉集』など、8 世紀から 9 世紀にかけての和歌には、この大社とその沿岸の様子が記されています。大社のご祭神は航海の守護神や和歌の神とされています。一説によれば、和歌の名人・藤原定家（1162-1241）が大社で一夜を過ごしたとき、老翁の姿で神が夢に現れたそうです。そのときの「月は明るい」という神々からの言葉は、彼の日記である『明月記』のタイトルの由来となりました。

【タイトル】土人形

【想定媒体】WEB

<簡体字>**“土人形”泥偶**

包括住吉大社在内的许多神社都提供护身符，它们能带来好运，令梦想成真，或消灾避邪。住吉大社护身符中的“土人形”泥偶很受欢迎。泥偶多以人物或动物为题材，并且表情都很独特。大多数泥偶都是为实现特定目的而制作的，比如祈求生意兴隆或婚姻美满。“土人形”泥偶在大社四座本宫和附属的小神社都可购买，价格在 500～2000 日元。

十二支

十二生肖

除厄猴

一只戴着神职人员帽子、手持法杖的猴子。消灾避邪。

狛犬

站立于大社入口处的日本石狮。驱邪避邪、防亲人离散。

睦犬

一对交配中的狗。顺产安产、缓解腰痛。

千只猴

一座猴子的金字塔。飞黄腾达。

侍者人形

丈夫和妻子。互得佳偶、喜结良缘。

裸雏

一对裸体男女。赤心坦诚、婚姻美满。

种贷人形

母亲和孩子。怀孕生子。

(在种贷社出售)

招福猫

举右爪的猫：招财。

(在楠珺社出售)

举左爪的猫：招客，生意兴隆。

初辰宝船

两只猫在一条龙船上。生意兴隆、开运招福。

(在楠珺社出售)

<繁体字>**「土人形」泥偶**

包括住吉大社在内的许多神社都提供护身符，它们能带来好运，令梦想成真，或消灾避邪。住吉大社护身符中的「土人形」泥偶很受欢迎。泥偶多以人物或动物为题材，并且表情都很独特。大多数泥偶都是为实现特定目的而制作的，比如祈求生意兴隆或婚姻美满。「土人形」泥偶在大社四座本宫和附属的小神社都可买到，价格在 500～2000 日圆。

十二支

十二生肖

除厄猴

一隻戴著神職人員帽子、手持法杖的猴子。消災避邪。

狛犬	站立於大社入口處的日本石獅。驅邪避邪、防親人離散。
睦犬	一對交配中的狗。順產安產、緩解腰痛。
千隻猴	一座猴子的金字塔。飛黃騰達。
侍者人形	丈夫和妻子。互得佳偶、喜結良緣。
裸雛	一對裸體男女。赤心坦誠、婚姻美滿。
種貸人形	母親和孩子。懷孕生子。
(在種貸社販賣)	
招福貓	舉右爪的貓：招財。
(在楠珺社販賣)	舉左爪的貓：招客，生意興隆。
初辰寶船	兩隻貓在一條龍船上。生意興隆、開運招福。
(在楠珺社販賣)	

<日本語仮訳>

土人形

神社の多くでは、お守りが提供されています。お守りは、縁起を担いだり、願いを叶えたり、災いを防いだりするもので、住吉大社も例外ではありません。住吉大社のお守りでは「土人形」が人気です。人や動物をモチーフにしたものが多く、一風変わった表情が特徴です。多くは、商売繁盛や夫婦円満など、特定の目的のために作られており、4つの本宮と大社内の小さな神社で500円から2,000円で購入することができます。

十二支	十二支の動物。
厄除ざる	神職の帽子と杖を持った猿。厄除けのご利益がある。
狛犬	大社の入り口によく立っている狛犬。厄除けや大切な人が離れるのを防ぐ。
睦犬	一対の交尾をする犬。安産や腰痛の解消に。
千疋猿	猿のピラミッド。立身出世。
侍者人形	夫と妻。良縁譲受。
裸雛	裸の男女。誠実で幸せな結婚生活のために。
種貸人形	母と子。子宝に恵まれるように。
(種貸社にて販売)	
招福猫	右手を上げた猫は金運。
(楠珺社にて販売)	左手を上げた猫はお客さん呼び寄せ、商売繁盛に。
初辰宝船	2匹の猫が宝船に乗っている。商売繁盛や幸福祈願に。
(楠珺社にて販売)	

【タイトル】 初辰まいり

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

初辰敬拜

许多大阪人都会去住吉大社祈求事业成功。人们相信只要每月参加被称为“初辰敬拜”的祭礼，就一定会生意兴隆。

初辰敬拜的历史可以追溯到 17 至 19 世纪中期，当时大阪已经是一座繁华的商业城市。住吉大社除了供奉四座本宫的主神之外，还有一些附属的小神社供奉着其他神灵。18 世纪，大阪商人开始在每月第一个“辰日”参拜其中的三座小神社，这是根据 12 天周期的中国旧历制定的。初辰的意思是“第一个辰日”，日语中与“成长、发达”同音。三座小神社供奉的都是农业之神，但农业种收的理念也被隐含在商业之中。

每月祭祀活动

20 世纪早期，浅泽社也被列入初辰敬拜，因此现在需要参拜四座小神社。在住吉大社官网公布的每月初辰之日，参拜者按照顺序依次来到种贷社、楠珺社、浅泽社和大岁社祈祷和供奉。其中，浅泽社和大岁社离住吉大社很近。在初辰敬拜的日子，小贩们摆出食品和纪念品摊位，营造出节日般的氛围。

“初辰敬拜”的升级版是“收获敬拜”。参加初辰敬拜后可以得到一张“稻种引换券”，用它可以在下个初辰日于种贷社换取一粒稻谷，然后用稻谷在楠珺社继续换取一把稻穗，最后用稻穗在大岁社换取一小袋在住吉大社御田里种植的“御神米”。据说回家后吃下御神米煮的饭，就能得到神灵的回应。还有不少人会选择在“一粒万倍日”食用御神米。这是源自“一粒万倍”的谚语，意思是一粒稻谷可以成长为一万倍之多。一粒万倍日的具体日期可见住吉大社官网。

如果你在 4 年内每个月都做初辰敬拜，连续 48 个月不间断，据说就能繁荣一生。这种信念基于另外一个双关语，在日语中“四十八辰”听起来就是“始终发达”的意思。

<繁体字>

初辰敬拜

許多大阪人都會去住吉大社祈求事業成功。人們相信只要每月參加被稱為「初辰敬拜」的祭禮，就一定會生意興隆。

初辰敬拜的歷史可以追溯到 17 至 19 世紀中期，當時大阪已經是一座繁華的商業城市。住吉大社除了供奉四座本宮的主神之外，還有一些附屬的小神社供奉著其他神祇。18 世紀，

大阪商人開始在每月第一個「辰日」參拜其中的三座小神社，這是根據 12 天週期的中國舊曆制定的。初辰的意思是「第一個辰日」，日語中與「成長、發達」同音。三座小神社供奉的都是農業之神，但農業種收的理念也被隱含在商業之中。

毎月祭祀活動

20 世紀早期，淺澤社也被列入初辰敬拜，因此現在需要參拜四座小神社。在住吉大社官網公佈的每月初辰之日，參拜者按照順序依次來到種貸社、楠珞社、淺澤社和大歳社祈禱和供奉。其中，淺澤社和大歳社離住吉大社很近。在初辰敬拜的日子，小販們擺出食品 and 紀念品攤位，營造出節日一樣的氣氛。

「初辰敬拜」的昇級版是「收穫敬拜」。參加初辰敬拜後可以得到一張「稻種引換券」，用它可以下個初辰日於種貸社換取一粒稻穀，然後用稻穀在楠珞社繼續換取一把稻穗，最後用稻穗在大歳社換取一小袋在住吉大社御田裡種植的「御神米」。據說回家後吃下御神米煮的飯，就能得到神明的回應。還有不少人會選擇在「一粒萬倍日」食用御神米。這是源自「一粒萬倍」的諺語，意思是一粒稻穀可以成長為一萬倍之多。一粒萬倍日的具體日期可見住吉大社官網。

如果你在 4 年內每個月都做初辰敬拜，連續 48 個月不間斷，據說就能繁榮一生。這種信念基於另外一個雙關語，在日語中「四十八辰」聽起來就是「始終發達」的意思。

<日本語仮訳>

初辰まいり

大阪では商売繁盛を祈願して住吉大社を訪れる人が多くいます。毎月行われる祭事は「初辰まいり」と呼ばれ、お参りをすると、見事に商売繁盛のご利益があるとされています。

初辰まいりは、大阪が商人の街として賑わった 17 世紀から 19 世紀半ばに遡ります。住吉大社には主神を祀る 4 つの本宮のほか、様々な神を祀る小さな神社があります。18 世紀になると、大阪の商人たちは、12 日周期を採用する中国の旧曆に基づいて定められた、毎月最初の「辰の日」に 3 つの小さな神社を訪れるようになりました。この風習は、「最初の辰」を意味する「初辰」は、日本語の「発達」や「成長」と音が同じであるため、言葉遊びに由来しています。これらの 3 つの小さな神社は農耕の神を祀っていますが、種をまくことと収穫することを比喩的にビジネス一般にもなぞらえたのです。

毎月の祭事

1900 年代初頭に浅澤社が加わり、初辰まいりの参拜は現在では 4 つの小さな神社で行われます。住吉大社のウェブサイトに掲載されている毎月の初辰の日に、参拜者は種貸社、楠珞社、浅澤社、大歳社を順番に回り、祈願とお供えをします。浅澤社と大歳社は住吉大社の境内からすぐの場所にあります。初辰まいりの日には食べ物やお土産を売る屋台が出て、お祭りのような雰囲気になります。

この儀式をさらに発展させたのが「みのりまいり」です。初辰まいりを行う参拜者は、「稲種引換券」を 1 枚もらえます。次回の初辰日、種貸社でその券を一粒の粃種と交換し、楠珞社でその粃種を稲穂

の束と交換し、大歳社でその稲穂を住吉大社の御神田で栽培された「御神米」の小袋と交換することができます。そのお米を持ち帰って食べることで神のご利益を得ることができます。また、縁起をかついで、「一粒万倍日」を選んで食べる人も多いです。一粒万倍とは、一粒の粃が育って万倍にも実り稲穂になるという意味。この日はウェブサイトに掲載されています。

4年間毎月続けて初辰まいりを行った場合、その繁栄は一生続くと言われています。これは「四十八辰」という言葉が「始終発達」という意味を持つ神聖な言葉遊びに由来しています。

【タイトル】種貸社

【想定媒体】パンフレット

<簡体字>**种贷社**

种贷社是“初辰敬拜”的第一站，参拜者在这里祈求资金周转顺利，以及受孕和智慧。它在四座小神社中最为古老，于平安时代(794-1185)早期就已被列入从朝廷获得财政支持的神社名单。它最初位于2公里外，但在16世纪的一场火灾后被移至住吉大社。

这座神社供奉着仓稻魂命，他是农业和商业之神稻荷神的众多化身之一。仓稻魂命与谷物关联很深，因此种贷社与播种和丰收息息相关。“种”意为“种子”，这令它也深受创业和备孕人群的欢迎。在初辰敬拜中，参拜者在这里祈愿神灵赐予成功创业所需的投资和努力。

种贷社的泥偶“种贷人形”是一位抱着孩子的母亲的形象，它可作为受孕和安产的护身符。初辰敬拜的开放时间为每月第一个辰日的6:00~15:30，祈祷金1100日元起。“收获敬拜”的参拜者可以在这里获得一粒稻谷，用它在下一站楠珞社换取一把稻穗。

<繁体字>**種貸社**

種貸社是「初辰敬拜」的第一站，參拜者在這裡祈求資金周轉順利，以及受孕和智慧。它在四座小神社中最为古老，於平安時代（794-1185）早期就已被列入從朝廷獲得財政支持的神社名單。它最初位於2公里外，但在16世紀的一場火災後被移至住吉大社。

這座神社供奉著倉稻魂命，祂是農業和商業之神稻荷神的眾多化身之一。倉稻魂命與穀物關聯很深，因此種貸社與播種和豐收息息相關。「種」意為「種子」，這令神社也深受創業和備孕人群的歡迎。在初辰敬拜中，參拜者在這裡祈願神明賜予成功創業所需的投資和努力。

種貸社的泥偶「種貸人形」是一位抱著孩子的母親的形象，它可作為受孕和安產的護身符。初辰敬拜的開放時間為每月第一個辰日的6:00~15:30，祈禱金1100日圓起。「收穫敬拜」的參拜者可以在這裡獲得一粒稻穀，用它在下一站楠珞社換取一把稻穗。

<日本語仮訳>**種貸社**

「初辰まいり」の最初に参拝する種貸社は、資金調達、子宝と知恵を祈願する参拝者が数多く訪れます。ここは 4 つの中で最も古い神社で、平安時代（794-1185）初期には、朝廷から資金援助などの処遇を受けた神社に名を連ねています。元々は住吉大社から 2 キロ離れた場所にあったが、16 世紀に火災に遭い現在の場所に移されました。

この神社には、農業、商売に係る神道の主要な神である稻荷神の化身の一つであるとされる、倉稻魂命を祀っています。倉稻魂命は穀物に深い関連があるため、種貸社は種まきや豊穰との強い結びつきがあります。「種」の持つ意味もあり、事業を始める人や子宝を願う人に人気の神社です。種貸社への参拝は、「初辰まいり」では、事業を成功させるために必要な初期の資本や努力を祈願します。

種貸社では、受胎や出産のお守りとして、子供を抱く母親の姿を描いた小さな土人形「種貸人形」を提供しています。初辰まいりは、参拝者を対象に、毎月最初の辰の日の午前 6 時から午後 3 時 30 分まで受付します。お布施は 1,100 円からとなります。「みのりまいり」を行う参拝者には一粒の粃種が授与され、次の楠珥社で稲穂の束と交換できます。

【タイトル】 楠珞社

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>**楠珞社**

楠珞社は「初辰敬拜」の第二站，参拜者が**在这里**祈求生意兴隆和居家安穩。神社旁高聳の千年楠木被认为是楠珞社的主神“宇迦魂命”，这位农业之神也是稻荷神的众多化身之一。它附近有 2 棵依偎在一起的楠木，构成了一对“夫妇”楠，人们认为它们可以守护商业伙伴和家人。

楠珞社提供吉祥物“招福猫”泥偶，有举起左前爪或右前爪 2 种式样。据说举起左前爪的猫可以为商家招揽客人，在单月提供；举起右前爪的猫则能招财，在双月提供。

参拜者如果收集到 48 只同款招福猫，就可以换取一只较大的猫。较大的左爪猫和右爪猫各一只，再加上 48 只小猫，就可以换取一只最大的招福猫。获得一对最大尺寸的招福猫绝非易事，需要连续 24 年每个月都参加初辰敬拜。

初辰敬拜的开放时间为每月第一个辰日的 6:00~15:45，祈祷金 1500 日元起。“收获敬拜”的参拜者可以用在种贷社获得的稻谷换取一把稻穗，并在最后一站的大岁社换取一小袋“御神米”。

<繁体字>**楠珞社**

楠珞社は「初辰敬拜」の第二站，参拜者が**在這裡**祈求生意興隆和居家安穩。神社旁高聳の千年楠木被認為是楠珞社的主神「宇迦魂命」，這位農業之神也是稻荷神的眾多化身之一。它附近有 2 棵依偎在一起的楠木，構成了一對「夫婦」楠，人們認為它們可以守護商業夥伴和家人。

楠珞社提供吉祥物「招福貓」泥偶，有舉起左前爪或右前爪 2 種式樣。在單月提供舉起左前爪的貓，據說可以為商家招攬客人；在雙月提供舉起右前爪的貓，據說能招财。

参拜者如果收集到 48 隻同款招福貓，就可以換取一隻較大的貓。較大的左爪貓和右爪貓各一隻，再加上 48 隻小貓，就可以換取一隻最大的招福貓。獲得一對最大尺寸的招福貓絕非易事，需要連續 24 年每個月都參加初辰敬拜。

初辰敬拜的開放時間為每月第一個辰日的 6:00~15:45，祈禱金 1500 日圓起。「收穫敬拜」的参拜者可以用在種貸社獲得的稻穀換取一把稻穗，並在最後一站的大歲社換取一小袋「御神米」。

<日本語仮訳>

楠瑠社

「初辰まいり」で 2 番目に参拝する楠瑠社には、商売繁盛や家内安全を祈願する参拝者が数多く訪れます。神社の横にそびえ立つ樹齢 1,000 年の楠は、この神社の氏神で農業の神であり、稲荷神の一つである宇迦魂命の顕現であるとされています。近くにある 2 本の楠が寄り添い「夫婦」を形成しており、家族やビジネスパートナーの守り神と信じられています。

楠瑠社では「招福猫」と呼ばれる縁起物の猫の置物を授与しています。この土偶には、左前足をあげたものと右前足をあげたものの 2 種類があります。左前足を上げた猫は、商売繁盛をもたらす、奇数月に手に入れます。右前足を上げた猫は金運をもたらすと言われ、偶数月に手に入れることが可能です。

同じ種類の招福猫を 48 匹集めると、大きな猫 1 匹と交換でき、大きな左右一对の招福猫と小さな招福猫 48 匹をさらに集めると、一番大きな猫と交換できます。一番大きなサイズの左右一对の招福猫を手に入れるのは並大抵のことではなく、24 年間、毎月「初辰まいり」をしなければなりません。

楠瑠社では、毎月最初の辰の日の午前 6 時から午後 3 時 45 分まで初辰まいりの参拝者を受け付けており、お布施は 1,500 円からとなっています。「みのりまいり」の参拝者は、種貸社で手に入れた粃種を、ここで稲穂に交換でき、最後の大歳社で「御神米」の小袋と交換することができます。

【タイトル】 浅澤社

【想定媒体】 パンフレット

<簡体字>

浅澤社

浅澤社は“初辰敬拜”の第三站，参拜者在这里祈求演艺精进和女性守护。它所处的位置曾经是一片较大的沼泽湿地，社名“浅澤”，即“浅水沼泽”之意。神社供奉着水神“市杵岛姬命”，这位美丽和表演艺术的守护神非常受女性欢迎，特别是演员、舞者、音乐家等追求更大成功的表演艺术家。

每年 5 月，燕子花在神社周围的池塘里争相开放。这些紫色的花朵自古就吸引着游人，现存最古老的日本诗歌集——编撰于 8 世纪的《万叶集》中也有咏颂它的片段。此外，燕子花还会被用来制成染料。

<繁体字>

淺澤社

淺澤社は「初辰敬拜」の第三站，参拜者在这里祈求演艺精进和女性守护。它所处的位置曾经是一片较大的沼泽湿地，社名「浅澤」，就是「浅水沼泽」的意思。神社供奉着水神「市杵岛姬命」，这位美丽和表演艺术的守护神非常受女性欢迎，特别是演员、舞者、音乐家等追求更大成功的表演艺术家。

每年 5 月，燕子花在神社周围的池塘里争相开放。这些紫色的花朵自古就吸引著遊人，现存最古老的日本诗歌集——编撰於 8 世纪的《萬葉集》中也有咏颂它的片段。除此之外，燕子花還會被用來製成染料。

<日本語仮訳>

浅澤社

「初辰まいり」で 3 番目に参拝するのが浅澤社です。芸能上達・女性守護を祈願する参拝者が数多く訪れます。かつて大きな湿地だった場所にあり、浅澤とは「浅い湿地」を意味します。この神社は、水の女神である市杵島姫命を祀っています。美容と芸能の守護神であり、特に女優、ダンサー、音楽家など、芸能を志し、より大きな成功を求める人に人気があります。

毎年 5 月になると、神社を囲む池にはカキツバタが咲き誇ります。その紫色の花は古くから観光客を魅了し、8 世紀の現存する最古の和歌集である『万葉集』にも詠まれている。この花は染料としてよく使われていました。

【タイトル】大歳社

【想定媒体】パンフレット

<簡体字>

大岁社

大岁社是“初辰敬拜”的**终点**，参拜者在这里祈求收款顺利和心想事成。神社的主神是丰收之神“大岁神”，他与神道教中极其重要的神灵大国主命以及新年有着密切的**关联**。他还是**农业和商业之神**——稻荷神的**兄长**。稻荷神的化身被供奉在种贷社和楠珞社之中。

作为初辰敬拜的最后一站，大岁社司掌明智的**投资**、合理的**商业管理**，以及**最终成功**的结果。江户时代(1603-1867)的一本旅游指南中提及，当大阪商人在**讨不回债款时**，就会到大岁社祈祷。

参拜完大岁社便完成了象征着从种植（种贷社）到培育（楠珞社），再到收获（大岁社）的**整个过程**。“收获敬拜”的参拜者用稻谷在楠珞社**换得**稻穗之后，就可以在这里**换取**一小袋“御神米”。大岁社本堂（正殿）**边**上有三块“重轻石”，可以用它们来占卜是否会事随人愿。

<繁体字>

大歳社

大歳社は「初辰敬拜」の**終點**，参拜者在這裡祈求收款順利和心想事成。神社的主神是豐收之神「大歳神」，祂與神道教中極其重要的神祇**大國主命**以及新年有著密切的**關聯**。祂還是**農業和商業之神**——稻荷神的**兄長**。稻荷神的化身被供奉在種貸社和楠珞社之中。

作為初辰敬拜的最後一站，大歳社司掌明智的**投資**、合理的**商業管理**，以及**最終成功**的結果。江戶時代（1603-1867）的一本旅遊指南中提及，當大阪商人在**討債要帳遇到困難時**，就會到大歳社祈禱。

参拜完大歳社便完成了象徵著從種植（種貸社）到培育（楠珞社），再到收穫（大歳社）的**整個過程**。「收穫敬拜」的参拜者用稻穀在楠珞社**換得**稻穗之後，就可以在這裡**換取**一小袋「御神米」。大歳社本堂（正殿）**邊**上有三塊「重輕石」，可以用它們來占卜是否會事隨人願。

<日本語仮訳>

大歳社

「初辰まいり」で最後に参拝する大歳社には、集金満足・心願成就を祈願する参拝者が数多く訪れます。祭神は収穫の神である大歳神で、神道の中心的な神である大国主命と新年にゆかりの深い神です。大歳神は、種貸社と楠珥社に祀られている農業、商売に係る稲荷神の兄神にあたります。

大歳社は初辰まいりの終点として、賢明な投資を行い、ビジネスをきちんと育てた結果としての成功を司ります。江戸時代（1603-1867）のある旅行指南書に、大阪の商人が売掛金やツケ払いの回収に苦労しているときに大歳社を参拝したとの記述があります。

大歳社への参拝で、種まき（種貸社）から作物が育ち（楠珥社）、収穫する（大歳社）という象徴的な過程が完結します。「みのりまいり」で粃種を楠珥社で稲穂に交換した参拝者は、大歳社で稲穂を「御神米」の小袋に交換できます。大歳社の本堂の隣には 3 つの「おもかる石」があり、この石を使えば、願いが叶うかどうかを占うことが可能です。

【タイトル】 住吉祭

【想定媒体】 その他

<簡体字>

住吉祭

住吉祭是大阪最盛大的夏季祭典之一，与爱染祭、天神祭并称为大阪三大夏日祭典，每年7月30日至8月1日举行。它也被称为“おはらい”(oharai)，意思是驱病除灾。

住吉祭的最大亮点是五彩缤纷的古代服装和神轿游行。在7月31日举行的“夏越祓神事”（祓音“福”）中，身着五颜六色的室町时代(1336-1573)服装的“夏越女”，与孩童、乐师等参与者排成一列，三次穿过竖立着的巨大茅草圈，以示净化心灵。这一仪式入选了大阪府民俗文化财产。次日，人们抬着神轿走过陡峭的反桥，渡过大和川，到达堺市的宿院顿宫，然后再回到住吉大社。

<繁体字>

住吉祭

住吉祭是大阪最盛大的夏季祭典之一，与爱染祭、天神祭并称为大阪三大夏日祭典，每年7月30日至8月1日举行。它也被称为「おはらい」（oharai），意思是驱病除灾。

住吉祭的最大亮点是五彩缤纷的古代服装和神轿游行。在7月31日举行的「夏越祓神事」（祓音「福」）中，身着五颜六色的室町时代（1336-1573）服装的「夏越女」，与儿童、乐师等参与者排成一列，三次穿过竖立着的巨大茅草圈，以示净化心灵。这一仪式入选了大阪府民俗文化财产。次日，人们抬着神轿走过陡峭的反桥，渡过大和川，到达堺市的宿院顿宫，然后再回到住吉大社。

<日本語仮訳>

住吉祭

住吉祭は大阪最大級の夏祭りであり、愛染祭、天神祭と共に大阪三大夏祭りの一つでもあります。毎年7月30日から8月1日かけて行われ、疫病などの災いを祓う神事として「おはらい」の名でも親しまれています。

見どころは色鮮やかな伝統衣装や神輿の巡行です。夏の清めの儀式である「夏越祓神事」は7月31日に行われ、室町時代（1336-1573）の色鮮やかな衣装を身にまとった夏越女や稚児、楽人などが列をなして、大きな茅の輪を三度ぐり抜けることで身を清めます。この神事は大阪府指定民

俗文化財の記録選択となっています。その翌日は、神輿が急勾配の反橋を渡り、大和川を渡って堺市の宿院頓宮までを往復するのが楽しめます。

【タイトル】 初詣（新年初お参り）

【想定媒体】 その他

<簡体字>

初詣（新年首次参拜）

毎年1月の頭三天里，200多万人会到住吉大社参加“初詣”。初詣是日本人的新年传统，即一年中第一次到神社寺庙参拜。为了能在除夕的午夜往第一本宫的赛钱箱（功德箱）中投掷硬币，并简短地祈祷来年好运，人们甘愿冒着严寒排起长队。届时，大社内会摆出很多露天摊位，参拜者们可以在大社的铺子里购买“御神签”来预测新年的运势凶吉，还能在临时摊位上尽情享受美食，挑选喜爱的纪念品。

<繁体字>

初詣（新年初次参拜）

毎年1月の頭三天裡，200多萬人會到住吉大社參加「初詣」。初詣是日本人的新年傳統，即一年中第一次到神社寺廟參拜。為了能在除夕的午夜往第一本宮的賽錢箱（功德箱）中投擲硬幣，並簡短地祈禱來年好運，人們甘願冒著嚴寒排起長隊。屆時，大社內會擺出很多露天攤位，參拜者們可以在大社的鋪子裡購買「御神簽」來預測新年的運勢凶吉，還能在臨時攤位上盡情享受美食，挑選喜愛的紀念品。

<日本語仮訳>

初詣（新年初お参り）

住吉大社では、毎年1月、正月の三が日には200万人以上の人々が初詣に訪れます。初詣は、一年の最初に寺社仏閣を参拝する、日本の新年伝統行事です。寒さにも負けず、大晦日の真夜中前には第一本宮の賽銭箱に小銭を入れ、一年の幸運を祈る短い願いことをする人で、長蛇の列ができます。境内には、参拝客を迎えるための露店がたくさん並びます。1年の運勢を占うおみくじは大社の売店で購入が可能です。参拝者は、境内に建ち並ぶ露店で食事やお土産を楽しむことができます。

【タイトル】 観月祭

【想定媒体】 その他

<簡体字>

观月祭

自古以来，中国和日本都有赏月会。住吉大社の“观月祭”于秋季举行，通常选在 9 月中下旬的满月之夜。观月祭的魅力除了皎洁美丽的月光，还有引人入胜的和歌（日本传统诗歌）朗诵，这是为了纪念和歌与住吉大社之间的历史关联。

观月祭上，神职人员站在住吉大社著名的“反桥”中央，大声吟诵和歌。作品大多是俳句和短歌（比俳句略长），分别遵循着“五-七-五”和“五-七-五-七-七”的音节规则。

<繁体字>

觀月祭

自古以來，中國和日本都有賞月會。住吉大社の「觀月祭」於秋季舉行，通常選在 9 月中下旬的滿月之夜。觀月祭的魅力除了皎潔美麗的月光，還有引人入勝的和歌（日本傳統詩歌）朗誦，這是為了紀念和歌與住吉大社之間的歷史關聯。

觀月祭上，神職人員站在住吉大社著名的「反橋」中央，大聲吟誦和歌。作品大多是俳句和短歌（比俳句略長），分別遵循著「五-七-五」和「五-七-五-七-七」的音節規則。

<日本語仮訳>

観月祭

月見の宴は、中国でも日本でも古くから行われており、住吉大社の「観月祭」は秋、通常は9月中旬から下旬に満月の下で開催されます。美しく輝く月と共に人々を引き付けるのは和歌（日本の古典詩）。和歌と大社との歴史的なつながりを祝うお祭りなのです。

住吉大社の観月祭では、有名な反橋の真ん中から、神職たちが和歌を披露します。作品は、俳句と短歌（俳句より少し長い）が中心であり、それぞれ五・七・五と五・七・五・七・七の音節のパターンに従います。

【タイトル】 御田植神事

【想定媒体】 その他

<簡体字>

御田植神事

“御田植神事”据说可以追溯到公元 211 年住吉大社建成时期。当时，大社的创始人神功皇后下令开垦一块新稻田，用来供奉大社的守护神。这片位于大社内西南方至今不曾改变的古稻田，现在依然用来举行御田植神事。

御田植神事于每年的 6 月 14 日举行，被指定为国家重要非物质文化遗产。祭典最初的净化仪式完成后，牛拉着木犁耕种御田，随后御田被洒上圣水。插秧时，身着五颜六色服装的舞者和乐师会在稻田边表演，为祭典增添喜庆和活力。

<繁体字>

御田植神事

「御田植神事」據說可以追溯到西元 211 年住吉大社建成時期。當時，大社的創辦人神功皇后下令開墾一塊新稻田，用來供奉大社的守護神。這片位於大社内西南方至今不曾改變的古稻田，現在依然用來舉行御田植神事。

御田植神事於每年的 6 月 14 日舉行，被指定為國家重要非物質民俗文化財產。祭典最初的淨化儀式完成後，牛拉著木犁耕種御田，隨後御田被灑上聖水。插秧時，身著五顏六色服裝的舞者和樂師會在稻田邊表演，為祭典增添喜慶和活力。

<日本語仮訳>

御田植神事

「御田植神事」の田植えは、住吉大社が 211 年に創建された時に遡ると言われています。その際に、神功皇后が住吉大社の守護神を祀る水田を作することを命じたのです。大社の敷地の南西部にある当時と同じ水田が、今も祭事に使われています。

毎年 6 月 14 日に行われる御田植神事は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。お祓いの後、牛が木の鋤を引いて田を耕し、聖水が撒かれます。田植えの際には、色とりどりの衣装を身にまとった舞手や奏者が水田の端で舞いや演奏を披露し、祭の活気に華を添えます。

地域番号	005	協議会名	法隆寺地域多言語解説整備推進協議会
------	-----	------	-------------------

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
005-001	中宮寺	285	看板 (デジタルサイ- ジ)

【タイトル】 中宮寺

【想定媒体】 看板（デジタルサイネージ）

<簡体字>**中宮寺**

聖徳太子(574-622)在其生母穴穗部間人皇后去世后，將她的住所改為了中宮寺。在日本中世紀（12～16世紀）時，由於火災等諸多原因，寺院一路衰落。到了室町時代(1336-1573)，因皇族女性入寺修行，中宮寺成為了“尼門迹”，并歸屬法隆寺。寺院因此得到全面整修，擁有了作為“門迹寺院”（皇族以及貴族出家的寺院）華麗宏偉的規模。從那時起，先後有內親王（皇室公主的封號之一）、公主等6位皇族女性在此出家並成為住持，而中宮寺也作為門迹寺院和尼庵，守護和傳承佛法約1400年之久。中宮寺供奉的本尊為如意輪觀世音菩薩“半跏思惟”像，被指定為國寶。坐像展現了菩薩正在深思如何解救深陷煩惱與痛苦的人間芸芸眾生的姿態。

<繁体字>**中宮寺**

聖徳太子（574-622）在其生母穴穗部間人皇后去世後，將她的住所改為了中宮寺。到日本中世紀（12～16世紀）時，寺院由於火災等原因而逐漸衰落。直至室町時代（1336-1573），該寺因皇族女性入寺修行而成為「尼門跡」，並歸屬法隆寺。寺院因此得以整修，擁有了作為「門跡寺院」（皇族以及貴族出家的寺院）華麗宏偉的規模。從那時起，先後有內親王（皇室公主的封號之一）、公主等6位皇族女性在此出家並成為住持，而中宮寺也作為門跡寺院和尼庵，守護和傳承佛法約1400年之久。中宮寺供奉的本尊為如意輪觀世音菩薩「半跏思惟」像，被指定為國寶，展現了菩薩正在深思如何解救深陷煩惱和痛苦的芸芸眾生的姿態。

<日本語仮訳>**中宮寺**

中宮寺は聖徳太子の御生母、穴穂部間人皇后(あなほべのはしひとこうごう)のお住まいを、皇后さま崩御のあと、聖徳太子がお寺とされたもので中世に火災などによって衰退し、室町時代になって皇族より女性の方が尼門跡(あまもんぜき)としてご入寺されるにあたり、法隆寺の塔頭の一つを拝借して、門跡寺院としての輪奐(りんかん)の美を整えました。以後、内親王や皇女様がた六方が、門跡と

して、ご住職の座につかれ、門跡寺院として、尼寺として、およそ千四百年の法灯を守り伝えているお寺でございます。国宝の御本尊は、如意輪観世音菩薩(にょいりんかんぜおんぼさつ)様です。このお姿を「半跏思惟」(はんかしゆい)と申しまして、本尊さまが「世の中の悩み苦しむ人々を如何にして救うたらよいか」と深く考えてらっしゃるお姿です。

地域番号	006	協議会名	古都奈良の文化財多言語解説整備推進協議会
------	-----	------	----------------------

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
006-001	興福寺	570	WEB
006-002	三重塔・国宝	410	WEB
006-003	北円堂・国宝	405	WEB
006-004	五重塔・国宝	480	WEB
006-005	東金堂・国宝	375	WEB
006-006	中金堂	490	WEB
006-007	国宝館・乾漆八部衆立像・国宝	525	WEB
006-008	国宝館・阿修羅像 (八部衆) ・国宝	470	WEB
006-009	国宝館・五部浄像 (八部衆) ・国宝	215	WEB
006-010	国宝館・沙羯羅像 (八部衆) ・国宝	185	WEB
006-011	国宝館・迦楼羅像 (八部衆) ・国宝	200	WEB
006-012	国宝館・鳩槃荼像 (八部衆) ・国宝	195	WEB
006-013	国宝館・乾闥婆像 (八部衆) ・国宝	190	WEB
006-014	国宝館・緊那羅像 (八部衆) ・国宝	135	WEB
006-015	国宝館・畢婆迦羅像 (八部衆) ・国宝	185	WEB
006-016	国宝館・乾漆十大弟子立像・国宝	350	WEB
006-017	国宝館・須菩提像 (十大弟子) ・国宝	205	WEB
006-018	国宝館・富楼那像 (十大弟子) ・国宝	165	WEB
006-019	国宝館・羅睺羅像 (十大弟子) ・国宝	170	WEB
006-020	国宝館・板彫十二神将立像・国宝	305	WEB
006-021	国宝館・銅造仏頭 (旧東金堂本尊) ・国宝	440	WEB
006-022	国宝館・木造釈迦如来坐像・国宝	220	WEB
006-023	国宝館・木造化仏・木造飛天・重要文化財	170	WEB
006-024	国宝館・木造千手観音菩薩立像・国宝	520	WEB
006-025	国宝館・木造金剛力士立像・国宝	410	WEB
006-026	国宝館・木造天燈鬼・龍燈鬼立像・国宝	265	WEB
006-027	国宝館・木造仏頭 (釈迦如来像頭部) ・重要文化財	430	WEB
006-028	中金堂・木造四天王立像・国宝	445	WEB
006-029	中金堂・木造釈迦如来坐像	280	WEB
006-030	東金堂・銅造薬師如来坐像・重要文化財	280	WEB
006-031	国宝館・木造弥勒菩薩半跏像 (厨子入り) ・重要文化財	355	WEB
006-032	国宝館・中金堂鎮壇具・国宝	190	WEB
006-033	国宝館・銅造華原磬・国宝	370	WEB
006-034	国宝館・金銅燈籠・国宝	260	WEB
006-035	国宝館・燈籠火袋羽目・国宝	235	WEB

006-036	国宝館・日本霊異記（上巻）・国宝	210	WEB
006-037	国宝館・木造梵天・帝釈天立像・重要文化財	215	WEB
006-038	東金堂・木造十二神将立像・国宝	305	WEB
006-039	東金堂・木造維摩居士坐像・国宝	480	WEB
006-040	東金堂・木造文殊菩薩坐像・国宝	375	WEB
006-041	南円堂・木造不空羂索観音菩薩坐像・国宝	370	WEB
006-042	北円堂・木造弥勒如来坐像・国宝	305	WEB
006-043	北円堂・木造無著・世親立像・国宝	390	WEB
006-044	中金堂・木造吉祥天倚像（厨子入り）・重要文化財	325	WEB

【タイトル】 興福寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**兴福寺**

兴福寺拥有 1300 多年的历史，是日本最古老、最重要的佛教寺庙之一，名列南都七大寺，而“南都”正是奈良时代(710-794)的首都奈良。

寺庙建于公元 669 年。当时，镜大王（卒于 683 年）在如今的京都府修建佛寺“山阶寺”，为生病的丈夫藤原镰足(614-669)祈福。673 年，寺庙移至奈良县的厩坂，改名“厩坂寺”。710 年，奈良建都，寺庙再次迁址到如今的地点。在出资建寺者藤原不比等(659-720)的支持下，寺庙改名“兴福寺”，取自《维摩诘经》。

在皇室和藤原氏的共同护持下，寺庙实力迅速增长，与附近藤原氏的家族神社春日大社融合。兴福寺成为执掌这一地区实权的政治力量。及至镰仓时代(1185-1333)和室町时代(1336-1573)，幕府授命兴福寺为大和国（今奈良县）守将。

15 世纪，兴福寺逐渐式微。1717 年，一场严重的火灾几乎烧毁了整座寺庙。明治时代(1868-1912)初期，中央政府压制佛教，发布神佛分离令，寺庙再次遭遇打击，被迫与春日大社分离，僧侣尽散。然而，历经挫折的兴福寺终于还是得到许可重建，繁盛至今。

如今，兴福寺是法相宗的大本山之一。这一佛教宗派出自中国，创立并发展于公元 7 世纪，认为一切看似真实经历的外在表象都源自内心。日本僧人玄昉和尚（卒于 746 年）回国后将这一教义带到兴福寺，从此，法相宗在这里落地生根，发扬光大。

<繁体字>**興福寺**

興福寺擁有 1300 多年歷史，是日本最古老、最重要的佛教寺廟之一，名列南都七大寺，而「南都」正是奈良時代（710-794）的首都奈良。

寺廟建於西元 669 年。當時，鏡大王（卒於 683 年）在如今的京都府修建佛寺「山階寺」，為生病的丈夫藤原鎌足（614-669）祈福。673 年，寺廟移至奈良縣的厩阪，改名「厩阪寺」。710 年，奈良建都，寺廟再次遷址到如今的地點。在出資建寺者藤原不比等（659-720）的支持下，寺廟改名「興福寺」，取自《維摩詰經》。

在皇室和藤原氏的共同護持下，寺廟實力迅速增長，與附近藤原氏的家族神社春日大社融合。興福寺成為執掌這一地區實權的政治力量。及至鎌倉時代（1185-1333）和室町時代（1336-1573），幕府授命興福寺為大和國（今奈良縣）守將。

15世紀、興福寺逐漸式微。1717年、一場嚴重的火災幾乎燒毀了整座寺廟。明治時代（1868-1912）初期，中央政府壓製佛教，發布神佛分離令，寺廟再次遭遇打擊，被迫與春日大社分離，僧侶盡散。然而，歷經挫折的興福寺終於還是得到許可重建，繁盛至今。

如今，興福寺是法相宗的大本山之一。這一佛教宗派出自中國，創立並發展於公元7世紀，認為一切看似真實經歷的外在表象都源自內心。日本僧人玄昉和尚（卒於746年）回國後將這一教義帶到興福寺，從此，法相宗在這裏落地生根，發揚光大。

<日本語仮訳>

興福寺

1,300年以上に及ぶ歴史を持つ興福寺は、日本で最も古く由緒ある仏教寺院のひとつです。奈良時代（710-794）に日本の首都であった奈良の七大寺のひとつに数えられていました。

その歴史は、669年に鏡王女（683年没）が病気に苦しむ夫の藤原鎌足（614-669）の回復を祈願して、現在の京都府に山階寺を建立したことに始まります。この寺は673年に奈良の厩坂に移され厩坂寺と改名、さらに710年に奈良が都になると現在の場所に移されました。創建者である藤原不比等（659-720）により、維摩経にちなんで「興福寺」とその名が改められました。

朝廷と藤原氏の支援を受けた興福寺は急速に拡大し、藤原氏の氏神を祀る春日大社を合併し、この地域の有力な政治勢力となります。鎌倉時代（1185-1333）と室町時代（1336-1573）には、興福寺は大和国を統括するよう幕府の命を受けていました。

15世紀になると興福寺は衰退期を迎えます。1717年には大火に見舞われ、伽藍のほぼすべてが焼失してしまいます。明治（1868-1912）初期、興福寺は政府の廃仏政策の対象となり、春日大社とは切り離され、最終的には僧侶も去ってしまいます。その後宗教施設として再興する許可を得た興福寺は、現在は法相宗の大本山のひとつとして隆盛を誇っています。

興福寺は仏教の宗派のひとつである法相宗の大本山として創建されました。法相宗は7世紀の中国の僧によって広められ、法相宗はすべての現象は心が生み出したものであり、経験したように見えるだけである、としています。僧・玄昉（746年没）が、この教えを興福寺にもたらし、それ以降、興福寺では法相宗を布教・実践しています。

【タイトル】 三重塔・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**三重塔****国宝**

兴福寺三重塔是平安时代(794-1185)佛教建筑的典范之作，以**优雅**的造型著称。1180年，寺庙整体**损毁**，三重塔很快重建，与北**圆堂**一起成为了如今兴福寺最古老的**两处**建筑。

这座高 19 米的佛塔初建于 1143 年，由崇德天皇(1119-1164)的皇后藤原圣子（**谥号**皇嘉门院；1122-1182）下令修建。塔内佛堂的立柱、门楣、藻井、内**墙面**及四面门扉内**侧**无不**富丽堂皇**，**绘制**着花卉唐草**图案**、亭台楼阁以及佛陀、**菩萨**画像，也有一些可能是**供养人**的画像。一层有四块木板壁，板上**绘有** 4 组壁画，**每组**包含一位佛的 1000 幅画像，分别为：**药师佛**（面东）、**释迦牟尼佛**（面南）、**阿弥陀佛**（面西）、**弥勒佛**（面北）。

著名的**弁才天**女像供奉于中央立柱**东壁**的**须弥坛**中，下侍 15 尊**胁侍童子**，**相传**为弘法大师空海(774-835)所安置。弁才天的**头冠**是一条**盘曲**在神道教式**鸟居顶端**的人面蛇，**蛇脸**为老人相貌。这尊神像是印度教女神**弁才天**与日本本土神明**宇贺神**的**结合体**。

<繁体字>**三重塔****國寶**

興福寺三重塔是平安時代（794-1185）佛教建築的典範之作，以**優雅**的造型著稱。1180 年，寺廟整體**損毀**，三重塔很快重建，與北**圓堂**一起成為了如今興福寺最古老的**兩處**建築。

這座高 19 米的佛塔初建於 1143 年，由崇德天皇（1119-1164）的**皇後**藤原聖子（**諡號**皇嘉門院；1122-1182）下令修建。塔內佛堂的立柱、門楣、藻井、內**牆面**及四面門扉內**側**無不**富麗堂皇**，**繪製**著花卉唐草**圖案**、亭臺樓閣以及佛陀、**菩薩**畫像，也有一些可能是**供養人**的畫像。一層有四塊木板壁，板上**繪有** 4 組壁畫，**每組**包含一位佛的 1000 幅畫像，分別為：**藥師佛**（面東）、**釋迦牟尼佛**（面南）、**阿彌陀佛**（面西）、**彌勒佛**（面北）。

著名的**弁才天**女像供奉於中央立柱**東壁**的**須彌壇**中，下侍 15 尊**脅侍童子**，**相傳**為弘法大師空海（774-835）所安置。弁才天的**頭冠**是一條**盤曲**在神道教式**鳥居頂端**的人面蛇，**蛇臉**為老人相貌。這尊神像是印度教女神**弁才天**與日本本土神明**宇賀神**的**結合體**。

<日本語仮訳>

三重塔

国宝

三重塔は、1143年に崇徳天皇（1119-1164）の中宮の藤原聖子（皇嘉門院、1122-1182）の発願で建立されました。現在の塔は1180年に興福寺の伽藍全体が破壊された直後に再建されたものであり、今日の興福寺における最も古い建築のひとつとなっています（もうひとつは北円堂）。

高さ19メートルの三重塔は、その優雅な外観で知られており、平安時代（794-1185）の仏教建築の代表例とされています。内部の聖域の柱や楣、また天井、内壁、4つの扉の内側には、宝相華文や楼閣、仏陀や菩薩、また寄進者と思われる人物の絵など、豊かな装飾が施されています。1層目には4枚の板絵があり、東に薬師如来、南に釈迦如来、西に阿弥陀如来、北に弥勒如来の4仏を、それぞれ千体描いています。

さらに、弘法大師（774-835）が興福寺に安置したとされる女神・弁才天の像が、中央の柱の東側に据えられ、そのまわりを15体の諸尊（童子）が囲んでいます。弁才天の冠には老人の顔をした蛇がとぐろを巻き、その上に鳥居があしらわれています。これは、この像がインド仏教の神である弁才天と日本の土着の神である宇賀神とが合体したものであることを示しています。

【タイトル】北円堂・国宝

【想定媒体】WEB

<簡体字>**北圆堂****国宝**

北圆堂初建于公元 721 年，是兴福寺建寺资助者藤原不比等(659-720)的纪念堂。原建筑毁于 1049 年的一场火灾；重建建筑又在 1180 年遭平家大将平重衡(1158-1185)麾下部队摧毁，这场发生在南都奈良的战事史称“南都烧讨”。如今的北圆堂建成于 1210 年。它躲过了 1327 年和 1717 年两场几乎焚毁整个兴福寺的重大火灾，成为了寺庙中现存最古老的建筑之一，堂内藏有许多珍品。

北圆堂内诸佛像拱卫着中心的本尊——未来佛弥勒如来坐像。弥勒像左右排列着法苑林菩萨、大妙相菩萨以及无著、世亲二僧（“木造无著·世亲立像”）的镀金木像，四尊佛像均出自镰仓时代(1185-1333)。稍远处的四大天王像年代更早一些，分别是增长天王、多闻天王、持国天王、广目天王。它们以夸张的面部表情著称，其中持国天王更是近乎诙谐，双眼突起，仿佛要脱眶而出一般。这四尊天王像完成于公元 791 年，以木心干漆造法为特色，被指定为国宝。

<繁体字>**北圆堂****國寶**

北圆堂初建于西元 721 年，是兴福寺建寺资助者藤原不比等（659-720）的纪念堂。原建筑毁于 1049 年的一场火灾；重建建筑又在 1180 年遭平家大将平重衡（1158-1185）麾下部队摧毁，这场发生在南都奈良的战事史称「南都烧讨」。如今的北圆堂建成于 1210 年。它躲过了 1327 年和 1717 年两场几乎焚毁整个兴福寺的重大火灾，成为了寺庙中现存最古老的建筑之一，堂内藏有许多珍品。

北圆堂内诸佛像拱卫著中心的本尊——未来佛弥勒如来坐像。弥勒像左右排列著法苑林菩萨、大妙相菩萨以及无著、世亲二僧（「木造无著·世亲立像」）的镀金木像，四尊佛像均出自镰仓时代（1185-1333）。稍远处的四大天王像年代更早一些，分别是增长天王、多闻天王、持国天王、广目天王。它们以夸张的面部表情著称，其中持国天王更是近乎诙谐，双眼突起，仿佛要脱眶而出一般。这四尊天王像完成于西元 791 年，以木心干漆造法为特色，被指定为国宝。

<日本語仮訳>

北円堂

国宝

北円堂は、721 年に興福寺の創建者である藤原不比等（659-720）を偲んで建てられました。1049 年の火災で焼失し、再建された建物も 1180 年の平家の大將・平重衡（1158-1185）の軍勢による南都焼討で破壊されました。現在の建物は 1210 年に完成したものです。興福寺の伽藍のほぼすべてを焼き尽くした 1327 年と 1717 年の大火の被害を免れた北円堂は、興福寺に現存する最古の建物であり、数多くの寺宝が収められています。

北円堂内の仏像の中心を成すのは、本尊の弥勒如来坐像です。脇侍に法苑林菩薩像と大妙相菩薩像を従え、さらに無著と世親の 2 人の僧の像も安置されています。これらはすべて鎌倉時代（1185-1333）の作です。周辺にある 4 体の像は、増長天、多聞天、持国天、広目天の四天王像で、制作年代はさらに遡ります。四天王像は誇張された表情で知られ、持国天などは、ふくらんだ目が顔から飛び出しそうに見える表現で、ユーモラスでさえあります。四天王像は木心乾漆造で、791 年に造立されました。

【タイトル】五重塔・国宝

【想定媒体】WEB

<簡体字>**五重塔****国宝**

佛塔的源头可以追溯到古印度的浮屠塔，归根究底，是一种与坟墓有关的建筑结构。它们用于供奉现在佛释迦牟尼佛的遗骸圣物，释迦牟尼曾行走人世间，佛塔也在提醒人们，要铭记佛陀留下的教义。

兴福寺的五重塔初建于公元 730 年，建造者是光明皇后(701-760)，她的父亲就是资助创建了兴福寺的藤原不比等(659-720)。在它漫长的历史中，佛塔曾五次遭焚毁，现存建筑建于 1426 年。五重塔高 50.1 米，是日本现存第二高的木构佛塔。在建筑结构上，它以深檐闻名，成功将室町时代（1136-1573；佛塔最后一次重建的时代）充满动态活力的建筑风格与奈良时代(710-794)的经典建筑特征融为一体。

塔内供奉四尊佛像，分别是四方佛陀，每尊佛像均有两尊菩萨胁侍左右。这是对大乘佛教时空概念的阐释。南北轴线代表时间的推移，东西轴则是空间的展现。现在佛释迦牟尼位于南面，未来佛弥勒居北方。阿弥陀佛主西方极乐净土，居于西；药师佛主东方净琉璃世界，位于东侧。两条轴线相交处就是现世，立于石础上的中央立柱则是此时此地的现世支点。目前还不清楚塔基下或某处是否埋藏有释迦牟尼佛的遗物。

<繁体字>**五重塔****國寶**

佛塔的原頭可以追溯到古印度的浮屠塔，歸根究底，是一種與墳墓有關的建築結構。它們用於供奉現在佛釋迦牟尼佛的遺骸聖物，釋迦牟尼曾行走人世間，佛塔也在提醒人們，要銘記佛陀留下的教義。

興福寺的五重塔初建於西元 730 年，建造者是光明皇後（701-760），她的父親就是資助創建了興福寺的藤原不比等（659-720）。在它漫長的歷史中，佛塔曾五次遭焚毀，現存建築建於 1426 年。五重塔高 50.1 米，是日本現存第二高的木構佛塔。在建築結構上，它以深檐聞名，成功將室町時代（1136-1573；佛塔最後一次重建的時代）充滿動態活力的建築風格與奈良時代（710-794）的經典建築特征融為一體。

塔内供奉四尊佛像，分別是四方佛陀，每尊佛像均有兩尊菩薩脅侍左右。這是對大乘佛教時空概念的闡釋。南北軸線代表時間的推移，東西軸則是空間的展現。現在佛釋迦牟尼位於南面，未來佛彌勒居北方。阿彌陀佛主西方極樂淨土，居於西；藥師佛主東方淨琉璃世界，位於東側。兩條軸線相交處就是現世，立於石礎上的中央立柱則是此時此地的現世支點。目前還不清楚塔基下或某處是否埋藏有釋迦牟尼佛的遺物。

<日本語仮訳>

五重塔

国宝

古代インドのストウーパに起源を持つ仏塔は、墳墓に由来する建築物です。仏舎利、つまり釈迦牟尼の遺骨を納め、仏陀の教えがこの世に存在することを思い起こさせる役割を担っています。

興福寺の五重塔は、興福寺の創建者である藤原不比等（659-720）の娘である光明皇后（701-760）の発願により、730年に最初に建立されました。その長い歴史を通じて五重塔は計5回火災に遭い、現在の塔は1426年に建てられたものです。高さは50.1メートルで、日本に現存する木造の塔としては2番目の高さであります。深い軒で有名で、奈良時代（710-794）の建築を参照しつつ、最後に再建された室町時代（1136-1573）のダイナミックな建築様式を巧みに融合させています。

五重塔には四方仏の像が収められており、それぞれに2体の菩薩像が脇侍として配置されています。これは、大乘仏教の時間と空間の概念を表現しています。南北の軸は時間の経過を表し、現世仏である釈迦は南面に、未来の仏陀である彌勒は北面に据えられています。一方、東西の軸は空間を表し、西方極樂淨土の仏陀である阿彌陀は西面に、東方淨瑠璃淨土の仏陀である藥師は東面に据えられています。南北と東西の軸が交わるところが現世で、その支点到心柱があり、心礎の上に立っています。仏舎利がこの礎石の中に納められているのか、あるいは別の場所に埋められているのかは分かっていません。

【タイトル】 東金堂・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**东金堂****国宝**

历史上，兴福寺曾有中、东、西三个金堂（大雄宝殿），都位于寺院核心区域。最初的东金堂由圣武天皇(701-756)下令建造，以此为生病的叔母元正太上天皇(683-748)祈福。金堂于 726 年完工，中央须弥坛上供奉着药师佛和日光、月光两尊胁侍菩萨组成的一组三尊像，其他佛像安放四周。此外，须弥坛镶嵌绿釉砖，代表药师佛主持的东方净琉璃世界。

若干个世纪以来，东金堂五度遭遇火灾，最后一次发生在 1411 年。现存佛殿在 1415 年落成启用。就技术层面而言，这是一座室町时代(1336-1573)的建筑，但其中却有意地纳入了许多古建筑特征，从横贯佛殿正面的檐廊、支撑椽木的三重斗拱、五脊四坡的庑殿顶（与人字屋顶不同），到铺石地面，无不散发着原奈良时代(710-794)建筑的气息。如今，东金堂内所藏珍宝依然在金色佛光的映照下，向世人昭示着佛教的奥义。

<繁体字>**東金堂****國寶**

歷史上，興福寺曾有中、東、西三個金堂（大雄寶殿），都位於寺院核心區域。最初的東金堂由聖武天皇（701-756）下令建造，以此為生病的叔母元正太上天皇（683-748）祈福。金堂於 726 年完工，中央須彌壇上供奉著藥師佛和日光、月光兩尊脅侍菩薩組成的一組三尊像，其他佛像安放四周。此外，須彌壇鑲嵌綠釉磚，代表藥師佛主持的東方淨琉璃世界。

若幹個世紀以來，東金堂五度遭遇火災，最後一次發生在 1411 年。現存佛殿在 1415 年落成啟用。就技術層面而言，這是一座室町時代（1336-1573）的建築，但其中卻有意識地納入了許多古建築特征，從橫貫佛殿正面的檐廊、支撐椽木的三重鬥拱、五脊四坡的廡殿頂（與人字屋頂不同），到鋪石地面，無不散發著原奈良時代（710-794）建築的氣息。如今，東金堂內所藏珍寶依然在金色佛光的映照下，向世人昭示著佛教的奧義。

<日本語仮訳>

東金堂

国宝

かつて興福寺の伽藍の中央には、中金堂と東金堂、西金堂という 3 つの金堂がありました。元々東金堂は聖武天皇（701-756）の発願により、その叔母である元正太上天皇（683-748）の病気回復を祈願して建立されました。726 年に完成すると、薬師如来と、その脇侍である日光菩薩と月光菩薩の三尊像が中央の須弥壇に祀られ、その周囲に他の仏像も配置されました。さらに、須弥壇には緑色の釉薬を施したタイルが敷き詰められ、薬師如来が住む東方瑠璃光浄土の世界が表現されていました。

東金堂は 1411 年を最後に、これまでに 5 回にわたる火災に見舞われてきました。現在の東金堂は 1415 年に再建されたものです。室町時代（1336-1573）の建築でありながら、建物の正面の幅全体にわたって広がる縁側や、垂木を支える 3 段の腕木、(勾配屋根ではなく) 寄棟造の屋根、石畳みの床など、意図的に古典的な建築の特徴が取り入れられ、当初の奈良時代（710-794）の建築を想起させる造りとなっています。東金堂に収められている宝物は、現在もその黄金の光背から放たれる光を反射することで仏教の教えを伝えています。

【タイトル】 中金堂

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**中金堂**

如今的中金堂建成于2018年，是兴福寺最年轻的建筑，也是三个多世纪以来这处金堂的首次全面重建。所谓“金堂”，就是“大雄宝殿”，寺庙内供奉本尊神佛的主殿，因为佛像通常都会镀金，反射光芒后映出金色光辉，正如同佛教教义中启迪世界的智慧之光，因此得名。

历史上，兴福寺曾有三座金堂。最古老、最重要的就是中金堂，它地处寺庙建筑中心点，东、西金堂分列两侧，三座金堂名字也由此而来。最初的中金堂建于公元710年至714年之间，建造者正是出资创建兴福寺的藤原不比等(659-720)，当时，金堂中供奉着一尊释迦牟尼佛像，四大天王作为胁侍菩萨环侍左右，此外还有两组佛画，描绘着未来佛弥勒所在弥勒净土的景象。

若干个世纪以来，中金堂曾七度造焚毁。第七次火灾之后，又历经百年时间，奈良民众才终于在1819年筹足到捐款，可以重建一座规模较小的临时佛殿。然而，这座“临时”佛殿却矗立了150年，终至残旧老朽。于是，又一座新的临时佛殿于1975年在原址北侧的讲经堂建成。如今的中金堂完全依照714年原始建筑的规模和风格重建，在举行过一系列精心规划的仪式后，于2018年10月正式开光奉佛，现已对公众开放。

<繁体字>**中金堂**

如今的中金堂建成於2018年，是興福寺最年輕的建築，也是三個多世紀以來這處金堂的首次全面重建。所謂「金堂」，就是「大雄寶殿」，寺廟內供奉本尊神佛的主殿，因為佛像通常都會鍍金，反射光芒後映出金色光輝，正如同佛教教義中啟迪世界的智慧之光，因此得名。

歷史上，興福寺曾有三座金堂。最古老、最重要的就是中金堂，它地處寺廟建築中心點，東、西金堂分列兩側，三座金堂名字也由此而來。最初的中金堂建於西元710年至714年之間，建造者正是出資創建興福寺的藤原不比等（659-720），當時，金堂中供奉著一尊釋迦牟尼佛像，四大天王作為脅侍菩薩環侍左右，此外還有兩組佛畫，描繪著未來佛彌勒所在彌勒淨土的景象。

若干個世紀以來，中金堂曾七度造焚毀。第七次火災之後，又歷經百年時間，奈良民眾才終於在 1819 年籌足到捐款，可以重建一座規模較小的臨時佛殿。然而，這座「臨時」佛殿卻矗立了 150 年，終至殘舊老朽。於是，又一座新的臨時佛殿於 1975 年在原址北側的講經堂建成。如今的中金堂完全依照 714 年原始建築的規模和風格重建，在舉行過一系列精心規劃的儀式後，於 2018 年 10 月正式開光奉佛，現已對公眾開放。

<日本語仮訳>

中金堂

2018 年に完成した中金堂は、興福寺で最も新しい建物であり、3 世紀以上の歴史の中で初めて全面的に再建された堂宇です。金堂とは、本尊を祀るお寺の中心となる建物です。本尊は通常金箔が貼られているため、光を反射して黄金の輝きを放ちます。この光は、仏教の教えが知恵の光によってこの世を照らすことに例えられます。

かつて興福寺には 3 つの金堂がありました。その中で最も古く、最も重要なのが中金堂で、伽藍の中心にある東金堂と西金堂の間に位置することからその名がつけられました。710 年から 714 年の間に、興福寺の創建者である藤原不比等（659-720）の発願により建立された最初の中金堂には、釈迦如来像と脇侍である 4 体の菩薩像、四天王像などが安置され、また未来の仏陀である弥勒の浄土を描いた 2 組の像も納められていました。

創建以来、中金堂は計 7 回の火災に見舞われました。7 度目の火災から約 100 年後の 1819 年に奈良の人々の寄進によって、本来の規模より一回り小さい仮の金堂が建てられました。しかしその後 150 年以上の間に老朽化が進み、1975 年に元の場所の北側の講堂跡に仮金堂が建てられました。現在の中金堂は、714 年当時と同じ大きさ、同じ建築様式で再建されています。2018 年 10 月に、大掛かりな落成法要を経て奉獻され、現在は一般に公開されています。

【タイトル】 国宝館・乾漆八部衆立像・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****干漆八部众立像****国宝**

这八尊塑像代表了八类神话生物。它们出自印度神话，跻身佛教诸神之列，担负起了护持释迦牟尼佛及其教义的职责。它们名列佛教中镇护国家的重要经典之一《金光明经》，通常被称为“八部众”或“天龙八部”。这类神明出现在佛寺中，也是佛教“普度众生”这一理念的体现。

这组立像完成于公元 734 年，采用的是干漆夹纻工艺。它们最初供奉于兴福寺的西金堂（西侧大雄宝殿），该堂因遭遇火灾，现已不存。在这里，八尊塑像被称为：五部净、沙羯罗、鸠槃荼、乾闥婆、阿修罗、迦楼罗、紧那罗和毕婆迦罗。但从佛像上看，它们似乎同为以下八种存在：阿修罗（半神或巨人）、提婆（神）、那伽（蛇或龙）、迦楼罗（食蛇的巨鸟）、夜叉（鬼，对人类友善）、乾闥婆（乐师之灵）、紧那罗（天界乐师）和摩睺罗伽（蟒神）。

这几尊塑像的特别之处在于，阿修罗、五部净、沙羯罗和乾闥婆像都是少年样貌。研究者猜测，这之中或许蕴含着光明皇后(701-760)的期望。光明皇后是兴福寺创建者藤原不比等(659-720)的女儿，也是下令制作这组造像的资助者。

在过去的 1300 年里，兴福寺多次遭遇火灾，但这八尊塑像都幸存了下来。其中的关键在于：所有塑像的重量都不超过 10 公斤，很容易抢救搬运到安全的地方。

<繁体字>**國寶館****幹漆八部眾立像****國寶**

這八尊塑像代表了八類神話生物。它們出自印度神話，躋身佛教諸神之列，擔負起了護持釋迦牟尼佛及其教義的職責。它們名列佛教中鎮護國家的重要經典之一《金光明經》，通常被稱為「八部眾」或「天龍八部」。這類神明出現在佛寺中，也是佛教「普度眾生」這一理念的體現。

這組立像完成於西元 734 年，采用的是幹漆夾纒工藝。它們最初供奉於興福寺的西金堂（西側大雄寶殿），該堂因遭遇火災，現已不存。在這裏，八尊塑像被稱為：五部淨、沙羯羅、鳩槃荼、乾闥婆、阿修羅、迦樓羅、緊那羅和畢婆迦羅。但從佛像上看，它們似乎同為以下八種存在：阿修羅（半神或巨人）、提婆（神）、那伽（蛇或龍）、迦樓羅（食蛇的巨鳥）、夜叉（鬼，對人類友善）、乾闥婆（樂師之靈）、緊那羅（天界樂師）和摩睺羅伽（蟒神）。

這幾尊塑像的特別之處在於，阿修羅、五部淨、沙羯羅和乾闥婆像都是少年樣貌。研究者猜測，這之中或許蘊含著光明皇後（701-760）的期望。光明皇後是興福寺創建者藤原不比等（659-720）的女兒，也是下令製作這組造像的資助者。

在過去的 1300 年裡，興福寺多次遭遇火災，但這八尊塑像都幸存了下來。其中的關鍵在於：所有塑像的重量都不超過 10 公斤，很容易搶救搬運到安全的地方。

<日本語仮訳>

国宝館

乾漆八部衆立像

国宝

この 8 体の像は 8 つの神を表し、仏法を守る者としてインドの神話から帰依した仏教の諸神の像です。国家守護の主な経典のひとつである金光明経に記載されており、「八部衆」あるいは「天竜八部衆」と呼ばれます。これらの神々が仏教寺院の中に存在しているということは、仏陀の教えがすべての衆生に向けたものであるという信仰を反映しています。

これらの像は乾漆造という技法を使って 734 年に造られました。元々は興福寺の西金堂に安置されていましたが、西金堂は火事で消失してしまいます。この 8 体は阿修羅、五部淨、沙羯羅、乾闥婆、緊那羅、鳩槃荼、畢婆迦羅、迦樓羅を表しています。しかし、これらは仏教の経典に登場するアシラ（半神または巨人）、デーヴァ（神）、ナーガ（蛇または龍）、ガルーダ（蛇を食べる巨大な鳥）、ヤクシャ（死者の霊）、ガンダルヴァ（音楽神）、キンナラ（音楽神）、マホーラガ（蛇の精霊）を表現している可能性もあります。

これらの像のユニークな点は、阿修羅、五部淨、沙羯羅、乾闥婆は若い少年の顔をしているということです。研究者たちは、興福寺の創建者である藤原不比等（659-720）の娘で、この像の建立を命じた光明皇后（701-760）の願いが込められていると考えています。

8 体の像すべてが、1300 年の間に興福寺を襲った複数の火災を免れました。重要なポイントは、これらの像が持ち運びやすいということです。ほとんどが重さ 10kg 以下であるため、安全な場所へ持ち運ぶことができます。

【タイトル】 国宝館・阿修羅像（八部衆）・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****阿修羅像（八部衆）****国宝**

佛教中引入了许多印度教神明，阿修羅正是其中之一。他们是半神，身处佛家三界轮回中的欲界。

这尊阿修羅像的历史可以追溯到公元 734 年。塑像高 153.4 厘米，身形苗条，身上的披纱与裤子线条流畅、逼真。最高的一双手原本应当擎着代表太阳和月亮的法器，中层的双手持弓与箭。正前方双手合十，或许是正在聆听佛陀教诲，表示悔过。

通常，阿修羅都表现为红面獠牙、身披战甲、健壮有力的形象，但这里的三张面孔却温和、年轻、表情生动，有着同时代其他塑像所不具备的吸引力。正面脸上的表情近似于悔悟。侧面两张面孔却隐隐透出几分怨忿，其中，右侧的面孔像是忍不住要开始啮咬下嘴唇了。

这尊像采用干漆夹纆工艺制作，即在一个中空的泥塑胎心上包裹麻布，刷漆塑形，待干燥后脱模成型。CT 扫描显示，如今的神像正脸下还藏着另一张眉头紧锁、张着嘴的面孔。有学者相信，这与出资塑像的光明皇后(701-760)有关。她是兴福寺建寺资助者藤原不比等(659-720)的女儿。也许，要求将塑像原本的面孔改为如今的少年气模样，是为了纪念她的儿子，不满一岁就不幸夭折的皇太子。

<繁体字>**國寶館****阿修羅像（八部眾）****國寶**

佛教中引入了許多印度教神明，阿修羅正是其中之一。他們是半神，身處佛家三界輪回中的欲界。

這尊阿修羅像的歷史可以追溯到西元 734 年。塑像高 153.4 公分，身形苗條，身上的披紗與褲子線條流暢、逼真。最高的一雙手原本應當擎著代表太陽和月亮的法器，中層的雙手持弓與箭。正前方雙手合十，或許是正在聆聽佛陀教誨，表示悔過。

通常、阿修羅都表現為紅面獠牙、身披戰甲、健壯有力的形象，但這裏的三張面孔卻溫和、年輕、表情生動，有著同時代其他塑像所不具備的吸引力。正面臉上的表情近似於悔悟。側面兩張面孔卻隱隱透出幾分怨忿，其中，右側的面孔像是忍不住要開始嚙咬下嘴唇了。

這尊像采用幹漆夾纒工藝製作，即在一個中空的泥塑胎心上包裹麻布，刷漆塑形，待乾燥後脫模成型。CT 掃描顯示，如今的神像正臉下還藏著另一張眉頭緊鎖、張著嘴的面孔。有學者相信，這與出資塑像的光明皇後（701-760）有關。她是興福寺建寺資助者藤原不比等（659-720）的女兒。也許，要求將塑像原本的面孔改為如今的少年氣模樣，是為了紀念她的兒子，不滿一歲就不幸夭折的皇太子。

<日本語仮訳>

国宝館

阿修羅像（八部衆）

国宝

仏教は多くのヒンドゥー教の神を取り入れており、阿修羅はその中の一人です。仏教における阿修羅は、欲界の半神です。

734年に造られた高さ153.4cmのこの阿修羅像は、胴体は細身で、上衣と袴はやさしく流れるような、現実的な表現がなされています。一番上の腕は太陽と月のシンボルを掲げ、2番目の腕は弓と矢を持っていたとされています。一番前の腕は合掌しており、仏陀の教えを聞きながら悔い改めている様子を表現していると言われています。

通常、阿修羅は赤い顔に牙を持ち、筋骨隆々とした、武装した神の姿で表現されます。しかしこの像の3つの顔は穏やかで若々しく、表情が大変豊かで、同時代の他の像とは一線を画す魅力を放っています。正面の顔は深い悔恨の表情を浮かべ、右側の顔は下唇を噛み、恨めしそうな表情を見せています。

この像は麻紐に漆を塗り重ねた乾漆造で、内部は空洞になっています。コンピューター断層撮影（CT）の画像で、正面の顔の下に別の顔があることが判明しました。その顔は眉をひそめたしかめ面で、口を開いています。この像の建立を命じた光明皇后（701-760）（興福寺の創建者の藤原不比等（659-720）の娘）が、1歳を迎える前に亡くなった息子（皇太子）への顕彰として、その顔の上から漆を塗り重ね、少年のような表情の顔を新たにつくさせたのではないかと考えられています。

【タイトル】 国宝館・五部浄像（八部衆）・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****五部浄像（八部衆）****国宝**

在兴福寺里表现八大神话生物的八部众立像中，五部浄像仅存半尊半身像。这尊塑像出自公元 734 年，将五部浄刻画为一个神情骄傲的少年，身穿铠甲，头饰让人联想起象头。这些特征显示出，五部浄可能是一名提婆——佛教和印度教中的一类天神。

和同组的其他塑像一样，这尊五部浄像也采用干漆夹纆法制作。但它是八尊立像中唯一受损严重的，缺失了部分构造。塑像的右手和前臂在明治时代(1868-1912)现世，捐给了东京国立博物馆。

<繁体字>**國寶館****五部淨像（八部眾）****國寶**

在興福寺裏表現八大神話生物的八部眾立像中，五部淨像僅存半尊半身像。這尊塑像出自西元 734 年，將五部淨刻畫為一個神情驕傲的少年，身穿鎧甲，頭飾讓人聯想起象頭。這些特征顯示出，五部淨可能是一名提婆——佛教和印度教中的一類天神。

和同組的其他塑像一樣，這尊五部淨像也採用幹漆夾纆法製作。但它是八尊立像中唯一受損嚴重的，缺失了部分構造。塑像的右手和前臂在明治時代（1868-1912）現世，捐給了東京國立博物館。

<日本語仮訳>**国宝館****五部浄像（八部衆）****国宝**

734 年に作られたこの胸像は、仏教における八部衆の一人である五部浄の像の一部です。誇らしげな表情をした若い少年として表現され、鎧を身につけ、象の頭部を思わせるような冠をつけています。

こういった特徴は、五部浄が仏教およびヒンドゥー教における超自然的な存在であるデーヴァの一人である可能性を示唆しています。

他の八部衆の像と同じく、この像も乾漆造です。五部浄像は八部衆の中で唯一大きな損傷を受けており、大部分は失われています。右の手と上腕は明治時代（1868-1912）に東京国立博物館に寄贈されました。

【タイトル】 国宝館・沙羯羅像（八部衆）・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

国宝館

沙羯羅像（八部衆）

国宝

沙羯羅是一种神话生物，由印度的那伽（蛇或龙）之王派生而来，也是兴福寺八部众立像的成员之一。在这里，沙羯羅被塑造为一名全副武装的年轻武士，头上和胸前都盘绕着长蛇。

蛇神的传说经中国传入日本，只是在中国，它们被称为“龙”，龙王是非常重要的水神。进入日本的神话体系后，龙常常被描绘为与降雨、丰收有关的水灵。

这尊塑像出自公元 734 年，采用干漆夹纈法制成。

<繁体字>

國寶館

沙羯羅像（八部眾）

國寶

沙羯羅是一種神話生物，由印度的那伽（蛇或龍）之王派生而來，也是興福寺八部眾立像的成員之一。在這裏，沙羯羅被塑造為一名全副武裝的年輕武士，頭上和胸前都盤繞著長蛇。

蛇神的傳說經中國傳入日本，只是在中國，它們被稱為「龍」，龍王是非常重要的水神。進入日本的神話體系後，龍常常被描繪為與降雨、豐收有關的水靈。

這尊塑像出自西元 734 年，採用幹漆夾纈法製成。

<日本語仮訳>

国宝館

沙羯羅像（八部衆）

国宝

沙羯羅はインドのナーガ（蛇または龍）の王ナーガラージャに由来する神で、興福寺の八部衆のひとりです。沙羯羅は鎧を身にまとい、頭の上と胸に蛇を巻き付けた若武者の姿で表されています。

蛇神の伝説は中国を經由して日本にもたらされました。中国では蛇は龍として考えられており、これには重要な水の神である竜王も含まれます。日本の神話では、龍はしばしば雨や五穀豊穰を司る水の神として描かれています。

この像は 734 年に乾漆造で作られたものです。

【タイトル】 国宝館・迦楼羅像（八部衆）・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****迦楼羅像（八部衆）****国宝**

迦楼羅は八部衆之一，形象為嗜食蛇的鳥或鳥形生物，在印度的印度教、佛教和耆那教传说里都能找到它們。迦楼羅以印度教里的神鳥金翅大鵬鳥為原型，因此被描绘為武士形象，尖喙、鳥眼、人耳、人發。和金翅大鵬鳥一樣，迦楼羅是那伽（蛇或龍）的天敵，這尊塑像與館內的沙羯羅像同為一組。

這件作品出自公元 734 年，以干漆夾纒法製成。歲月的侵蝕並沒有抹去鎧甲和袈裟上精美的細節，只是遺失了塑像的左手。

<繁体字>**國寶館****迦樓羅像（八部衆）****國寶**

迦樓羅是八部衆之一，形象為嗜食蛇的鳥或鳥形生物，在印度的印度教、佛教和耆那教傳說裏都能找到它們。迦樓羅以印度教裏的神鳥金翅大鵬鳥為原型，因此被描繪為武士形象，尖喙、鳥眼、人耳、人發。和金翅大鵬鳥一樣，迦樓羅是那伽（蛇或龍）的天敵，這尊塑像與館內的沙羯羅像同為一組。

這件作品出自西元 734 年，以幹漆夾纒法製成。歲月的侵蝕並沒有抹去鎧甲和袈裟上精美的細節，只是遺失了塑像的左手。

<日本語仮訳>**国宝館****迦楼羅像（八部衆）****国宝**

迦楼羅は八部衆の一人であり、蛇を食べる巨大な鳥または鳥のような生き物を表しています。迦楼羅はヒンドゥー教や仏教、ジャイナ教の神話に由来し、ヒンドゥー教の神話上の鳥である「ガルダ」

が元となっています。そのため、迦楼羅は突き出したつくちばしと鳥の目を持ちながら、人間のような耳と髪を持つ、鎧をまとった武者として描かれています。また、ガルーダと同じく、迦楼羅はナーガ（蛇または龍）の敵であるため、迦楼羅像は沙羯羅と対をなしています。

この像は 734 年に乾漆造の技法で作られました。鎧や衣服の細かいディテールは長い年月を経ても残っていますが、左手は欠損しています。

【タイトル】 国宝館・鳩槃荼像（八部衆）・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****鳩槃荼像（八部衆）****国宝**

鳩槃荼是八部衆之一，通常被认为是夜叉。在印度教、耆那教和佛教信仰中，夜叉有两种形象：一种是友好和善的妖怪；一种是吞吃行旅之人的恶鬼。这尊鳩槃荼怒瞪双眼、利牙龇出，看来是后者。

在日本佛教中，“夜叉”比“鳩槃荼”更常见，它们是战神毗沙门天的仆从。毗沙门天又称“多闻天王”，是四大天王之一，镇守北方，被视为守护正义的善神。

这尊作品出自公元 734 年，以干漆夹纈法制成。

<繁体字>**國寶館****鳩槃荼像（八部衆）****國寶**

鳩槃荼是八部衆之一，通常被認為是夜叉。在印度教、耆那教和佛教信仰中，夜叉有兩種形象：一種是友好和善的妖怪；一種是吞吃行旅之人的惡鬼。這尊鳩槃荼怒瞪雙眼、利牙龇出，看來是後者。

在日本佛教中，「夜叉」比「鳩槃荼」更常見，它們是戰神毗沙門天的仆從。毗沙門天又稱「多聞天王」，是四大天王之一，鎮守北方，被視為守護正義的善神。

這尊作品出自西元 734 年，以幹漆夾纈法製成。

<日本語仮訳>**国宝館****鳩槃荼像（八部衆）****国宝**

八部衆の一人である鳩槃荼の像。鳩槃荼はヒンドゥー教、ジャイナ教、および仏教における「ヤクシャ」を表していると考えられています。「ヤクシャ」は善良な精霊、または旅行者を襲う悪鬼です。睨みつけるような目とむき出しの歯を持つ鳩槃荼は、後者を表現しているように見えます。

日本の仏教においては、ヤクシャは四天王の一人で戦いの神である毘沙門天（多聞天）の家来です。毘沙門天は北の方位を守る守護神で、正義を守る善なる神と見なされています。

この像は 734 年に乾漆造の技法で作られました。

【タイトル】 国宝館・乾闥婆像（八部衆）・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****乾闥婆像（八部衆）****国宝**

乾闥婆は八部衆之一，是在天界侍奉印度吠陀教主神因陀羅的樂師。進入日本佛教體系後，乾闥婆依然扮演著同樣的角色，只是侍奉的對象變成了帝釋天，後者是佛教世界中的天界主宰者之一。此外，這些天界樂師也被視為持國天王的僕從。持國天王是四大天王之一，也是醫藥之神、兒童與佛法的守護神。

這尊乾闥婆像雙目閉合，頭戴獅皮頭飾。塑像出自公元 734 年，以干漆夾纒法製成。

<繁体字>**國寶館****乾闥婆像（八部眾）****國寶**

乾闥婆是八部眾之一，是在天界侍奉印度吠陀教主神因陀羅的樂師。進入日本佛教體系後，乾闥婆依然扮演著同樣的角色，只是侍奉的對象變成了帝釋天，後者是佛教世界中的天界主宰者之一。此外，這些天界樂師也被視為持國天王的僕從。持國天王是四大天王之一，也是醫藥之神、兒童與佛法的守護神。

這尊乾闥婆像雙目閉合，頭戴獅皮頭飾。塑像出自西元 734 年，以幹漆夾纒法製成。

<日本語仮訳>**国宝館****乾闥婆像（八部衆）****国宝**

八部衆の一人である乾闥婆の像。乾闥婆は元々天上でヒンドゥー教の神インドラに仕えていた音楽神です。日本の仏教に取り入れられた乾闥婆は、帝釈天に使える家来としての役割を与えられるようになりました。帝釈天は、仏教の宇宙論における天上界の支配者です。この音楽神は四天王の一人である持国天の家来でもあり、さらに医薬の神、子供の神、仏法の守護神とされています。

乾闥婆像は、目を閉じ、獅子の皮を頭飾りにしている姿で表現されています。この像は、734年に乾漆造の技法で作られました。

【タイトル】 国宝館・緊那羅像（八部衆）・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

国宝館

緊那羅像（八部衆）

国宝

緊那羅は興福寺所供奉の八部衆之一、它們は印度神話中の天界樂師。在日本佛教信仰中、緊那羅は毗沙門天和帝釋天の侍從。前者被視為戰神、又稱“多聞天王”、是四大天王之一；後者是佛教世界中的天界主宰者之一。

这件作品出自公元 734 年，以干漆夾纈法製成。

<繁体字>

國寶館

緊那羅像（八部眾）

國寶

緊那羅是興福寺所供奉的八部眾之一、它們是印度神話中的天界樂師。在日本佛教信仰中、緊那羅是毗沙門天和帝釋天的侍從。前者被視為戰神、又稱「多聞天王」、是四大天王之一；後者是佛教世界中的天界主宰者之一。

这件作品出自西元 734 年，以幹漆夾纈法製成。

<日本語仮訳>

国宝館

緊那羅像（八部衆）

国宝

八部衆の一人、緊那羅の像。緊那羅は、インドの神話ではキンナラ（kimnara）という名で知られる天上の樂人です。日本の仏教においては、緊那羅は戦いの神であり、四天王の一人である毘沙門天（多聞天）や、仏教の宇宙論における天界のうちのひとつの支配者である帝釈天の眷属の役割を担っています。

この像は 734 年に乾漆造の技法で作られました。

【タイトル】 国宝館・畢婆迦羅像（八部衆）・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****畢婆迦羅像（八部衆）****国宝**

和这组八部众立像中的大多数塑像一样，这尊畢婆迦羅像也身披铠甲。但与众不同的是，它不但不是少年面容，还有一把络腮大胡子。

身为八部众之一，畢婆迦羅出自印度教神话中的摩睺罗伽，它们有时被描绘为大蟒，有时是身具蟒蛇特性的乐师。在日本佛教中，它们通常被称为“摩睺罗伽”，只有兴福寺这一尊塑像称“畢婆迦羅”。

这件作品出自公元 734 年，以干漆夹纈法制成。

<繁体字>**國寶館****畢婆迦羅像（八部衆）****國寶**

和這組八部衆立像中的大多數塑像一樣，這尊畢婆迦羅像也身披鎧甲。但與衆不同的是，它不但不是少年面容，還有一把絡腮大胡子。

身為八部衆之一，畢婆迦羅出自印度教神話中的摩睺羅伽，它們有時被描繪為大蟒，有時是身具蟒蛇特性的樂師。在日本佛教中，它們通常被稱為「摩睺羅伽」，只有興福寺這一尊塑像稱「畢婆迦羅」。

這件作品出自西元 734 年，以幹漆夾纈法製成。

<日本語仮訳>**国宝館****畢婆迦羅像（八部衆）****国宝**

この畢婆迦羅像は、他のほとんどの八部衆の像と同様に鎧をまとった姿をしています。他の像が若い少年の顔をしているのに対して、この像は鬚ひげをたくわえています。

畢婆迦羅はヒンドゥー教の神話に登場するマホーラガに相当し、蛇や、蛇のような属性を持つ楽神として表現されることもあります。日本の仏教では通常「摩睺羅伽」と呼ばれますが、興福寺のこの像のみ「畢婆迦羅」とされています。

この像は 734 年に乾漆造の技法で作られました。

【タイトル】 国宝館・乾漆十大弟子立像・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****干漆十大弟子立像****国宝**

这一组奈良时代(710-794)的塑像是释迦牟尼十大弟子像中的一部分，以干漆夹纆法制作，塑像表情各异，年龄不同，年长者袈裟上的褶皱纹路更多。十大弟子人人都是佛教徒的典范，有的精于冥想打坐，有的善于辩经或传道。

这组塑像共 10 尊，曾供奉于兴国寺的西金堂（西侧大雄宝殿），都逃过了 1717 年那场焚毁寺庙的大火，但如今寺中仅存 6 尊。据辨认，现存六尊塑像分别为目犍连、舍利弗、须菩提、迦旃延、富楼那和罗睺罗，但不能确定是否完全符合最初的人物设定。比如，罗睺罗双眼紧闭，塑造的也可能是盲眼尊者阿那律；而须菩提面相年轻，与经文中对阿难陀的描述也颇有相似之处。

其他四尊塑像中，一尊仅存木架，藏于东京艺术大学；一尊曾收藏在东京的大仓集古馆，在 1923 年关东大地震的火灾中损毁；另两尊下落不明。

<繁体字>**國寶館****幹漆十大弟子立像****國寶**

這一組奈良時代（710-794）的塑像是釋迦牟尼十大弟子像中的一部分，以幹漆夾纆法製作，塑像表情各異，年齡不同，年長者袈裟上的褶皺紋路更多。十大弟子人人都是佛教徒的典範，有的精於冥想打坐，有的善於辯經或傳道。

這組塑像共 10 尊，曾供奉於興國寺的西金堂（西側大雄寶殿），都逃過了 1717 年那場焚毀寺廟的大火，但如今寺中僅存 6 尊。據辨認，現存六尊塑像分別為目犍連、舍利弗、須菩提、迦旃延、富樓那和羅睺羅，但不能確定是否完全符合最初的人物設定。比如，羅睺羅雙眼緊閉，塑造的也可能是盲眼尊者阿那律；而須菩提面相年輕，與經文中對阿難陀的描述也頗有相似之處。

其他四尊塑像中，一尊僅存木架，藏於東京藝術大學；一尊曾收藏在東京的大倉集古館，在 1923 年關東大地震的火災中損毀；另兩尊下落不明。

<日本語仮訳>

国宝館

乾漆十大弟子立像

国宝

奈良時代（710-794）に乾漆造の技法で制作された、多種多様な表情を特徴とする釈迦十大弟子の像。年配者ほど衣服にシワや折れ目が多くなっており、様々な年齢の弟子が表現されています。優れた瞑想や議論、説法など、それぞれ仏教が理想とする姿を具現化しています。

興福寺の西金堂に安置されていた像はもともと 10 体で、すべて 1717 年の大火での焼失は免れましたが、現在興福寺に残っているのは 6 体のみです。現在残った 6 体は目犍連、舍利弗、須菩提、迦旃延、富楼那、羅睺羅とされていますが、当初の姿を反映しているかどうかは不明です。羅睺羅は目を閉じていることから、本来は盲目の阿那律を描いたものであった可能性があります。また、須菩提の若々しい姿は、経典に書かれている阿難陀によく似ています。

他の 4 体の像のうち、1 体の木枠は現在、東京藝術大学の収蔵品となっており、もう 1 点は大倉集古館が 1923 年の関東大震災で焼失したときに一緒に失われてしまいました。残りの 2 体の行方はわかりません。

【タイトル】 国宝館・須菩提像（十大弟子）・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****須菩提像（十大弟子）****国宝**

須菩提是佛陀释迦牟尼的十大弟子之一。这尊塑像出自奈良时代(710-794)，以干漆夹纈法制成。

在这里，须菩提被塑造为一位愉快的年轻僧人，与佛经中对阿难陀的描述很相似。阿难陀以其惊人的记忆力而著称，相传他能背诵佛陀的所有教诲，对佛经的成文颇有帮助。此外，他对佛家“诸行无常”的哲学观点也有着非常深刻的理解。据传，阿难陀在佛陀圆寂后即开悟证道，此后不久才是公元前 400 年左右的佛教第一次结集。

<繁体字>**國寶館****須菩提像（十大弟子）****國寶**

須菩提是佛陀釋迦牟尼的十大弟子之一。這尊塑像出自奈良時代（710-794），以乾漆夾纈法製成。

在這裏，須菩提被塑造為一位愉快的年輕僧人，與佛經中對阿難陀的描述很相似。阿難陀以其驚人的記憶力而著稱，相傳他能背誦佛陀的所有教誨，對佛經的成文頗有幫助。此外，他對佛家「諸行無常」的哲學觀點也有著非常深刻的理解。據傳，阿難陀在佛陀圓寂後即開悟證道，此後不久才是西元前 400 年左右的佛教第一次結集。

<日本語仮訳>**国宝館****須菩提像（十大弟子）****国宝**

奈良時代（710-794）に乾漆造の技法で作られた、釈迦十大弟子の一人である須菩提の像です。

須菩提の像は、仏陀の弟子である阿難陀（アーナンダ）の経典上の描写に近い、朗らかな若い僧の姿で表現されています。記憶力に優れていた阿難陀は、仏陀の教えを暗記し、初期の仏教の経典の作成に貢献したとされています。阿難陀はまた仏教の哲学である諸行無常に対しても非常に深い洞察を備えていました。仏陀の死後、阿難陀は、紀元前 400 年ごろに開かれた第 1 回の仏典結集の直前に悟りを得たとされています。

【タイトル】 国宝館・富楼那像（十大弟子）・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

国宝館

富楼那像（十大弟子）

国宝

富楼那是佛陀释迦牟尼的十大弟子之一，巴利名“Punna”，梵名“Purna”，在佛陀诸弟子中以“说法第一”著称，善于讲解佛经佛法，是最了不起的传道者。从多褶皱的袈裟看来，这尊富楼那像年龄较长。塑像的表情、衣饰和他望向右侧的模样都十分逼真。

这尊塑像出自奈良时代(710-794)，以干漆夹纆法制成。

<繁体字>

國寶館

富樓那像（十大弟子）

國寶

富樓那是佛陀釋迦牟尼的十大弟子之一，巴利名「Punna」，梵名「Purna」，在佛陀諸弟子中以「說法第一」著稱，善於講解佛經佛法，是最了不起的傳道者。從多褶皺的袈裟看來，這尊富樓那像年齡較長。塑像的表情、衣飾和他望向右側的模樣都十分逼真。

這尊塑像出自奈良時代（710-794），以幹漆夾纆法製成。

<日本語仮訳>

国宝館

富楼那像（十大弟子）

国宝

釈迦十大弟子の一人、富楼那の像。インドではプナまたはプーナと呼ばれていた富楼那は、弟子たちの中でも説法に優れ、説法第一と称されていました。この富楼那像は、年老いた姿で表現され、その年齢が衣のひだの多さに反映されています。その表情や衣服、そして右側に視線を送っている様子に、高い写実性を見とることができます。

この像は奈良時代（710-794）に、乾漆造の技法で制作されました。

【タイトル】 国宝館・羅睺羅像（十大弟子）・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****羅睺羅像（十大弟子）****国宝**

羅睺羅是釋迦牟尼佛的十大弟子之一，梵文名“Rahula”。他是釋迦牟尼和他的妻子耶輸陀羅的獨生子，也是第一位沙彌，跟從父親修習佛法後開悟證道。身為釋迦牟尼的兒子，羅睺羅不得不付出加倍的努力來證明自己。在佛陀眾弟子中，羅睺羅以忍耐、熱忱和求知著稱。

這尊塑像出自奈良時代(710-794)，以干漆夾纒法製成。

<繁体字>**國寶館****羅睺羅像（十大弟子）****國寶**

羅睺羅是釋迦牟尼佛的十大弟子之一，梵文名「Rahula」。他是釋迦牟尼和他的妻子耶輸陀羅的獨生子，也是第一位沙彌，跟從父親修習佛法後開悟證道。身為釋迦牟尼的兒子，羅睺羅不得不付出加倍的努力來證明自己。在佛陀眾弟子中，羅睺羅以忍耐、熱忱和求知著稱。

這尊塑像出自奈良時代（710-794），以幹漆夾纒法製成。

<日本語仮訳>**国宝館****羅睺羅像（十大弟子）****国宝**

釈迦十大弟子の一人、羅睺羅の像。インドではラーフラの名で知られる羅睺羅は、釈迦牟尼とその妻、ヤショーダラー（妃耶輸陀羅）の間の一人息子です。羅睺羅は仏教における最初の修行僧の一人となり、父仏陀のもとで学び、やがて悟りを得ました。釈迦牟尼の息子だったために、他の弟子たちの倍の努力をして自らの力量を示さなければなりません。羅睺羅は仏陀の弟子たちの中で、忍耐、熱意、そして学びに秀でた存在として知られるようになりました。

この像は奈良時代（710-794）に、乾漆造の技法で制作されたものです。

【タイトル】 国宝館・板彫十二神将立像・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****版雕十二神将立像****国宝**

这套十二神将立像最初藏于东金堂（东侧大雄宝殿）。研究者认为，它们原本应该是金堂本尊药师佛像基座的组成部分。这组版雕出自 11 世纪，被认为是木板浮雕的杰作。

十二神将是药师佛的护法神，常以凶恶面目出现。这组版雕却以幽默诙谐的表情著称，同样出名的是，雕刻者在仅 3 厘米厚的柏木板上便完成了这一杰作。十二神将姿态各异——有的动作夸张，令人联想起歌舞伎表演；有的却沉静安宁，是传统的宗教形象。

没有原始记录显示十二尊雕像分别对应哪位神明，现有标注都是后人补充的，因此，并不能确定是否完全符合创作者的本意。基于对各神像姿态、手势和面部表情的研究，馆内陈列力图重现这组版雕当年在药师佛像基座上的原貌。

<繁体字>**國寶館****版雕十二神將立像****國寶**

這套十二神將立像最初藏於東金堂（東側大雄寶殿）。研究者認為，它們原本應該是金堂本尊藥師佛像基座的組成部分。這組版雕出自 11 世紀，被認為是木板浮雕的傑作。

十二神將是藥師佛的護法神，常以兇惡面目出現。這組版雕卻以幽默詼諧的表情著稱，同樣出名的是，雕刻者在僅 3 公分厚的柏木板上便完成了這一傑作。十二神將姿態各異——有的動作誇張，令人聯想起歌舞伎表演；有的卻沈靜安寧，是傳統的宗教形象。

沒有原始記錄顯示十二尊雕像分別對應哪位神明，現有標註都是後人補充的，因此，並不能確定是否完全符合創作者的本意。基於對各神像姿態、手勢和面部表情的研究，館內陳列力圖重現這組版雕當年在藥師佛像基座上的原貌。

<日本語仮訳>**国宝館**

板彫十二神将立像

国宝

この十二神将像は元々東金堂に安置され、本尊である薬師如来像の台座に取り付けられていたと考えられています。11世紀の作で、板彫と呼ばれる浮き彫りの傑作とされています。

十二神将は薬師如来の守護神としての役割を担っており、一般的には猛々しい表情で描かれます。しかしこの彫刻はユーモラスな表情で知られており、また、たった3cmの厚みの檜板を使って、奥行きを生み出している作品としても有名です。十二神将はそれぞれ異なるしぐさをしており、歌舞伎役者を思わせるような大袈裟な動きをしているものがある一方で、宗教的な偶像のように静的な姿で表現されているものもあります。

十二神将の図像は確定されたものではなく、像の名前は後世になってつけられたものであるため、それぞれがどんな人物であったのかは定かではありません。この展示では、薬師如来像の台座に取り付けてあった本来の姿を再現することを試みています。配置は姿勢や手振り、顔の表情などの研究に基づいて決められました。

【タイトル】 国宝館・銅造仏頭（旧東金堂本尊）・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

国宝館

銅造佛頭（旧東金堂本尊）

国宝

这件珍贵的铜合金铸像是药师佛的佛头，历史可追溯到公元 685 年。佛像最初供奉于飞鸟的山田寺，大约在当时首都奈良以南 20 公里处。

1180 年，平重衡(1158-1185)所率平氏军团捣毁兴福寺。之后，兴福寺僧人从山田寺请来药师佛像，供于重建的东金堂（东侧大雄宝殿）内。在接下来的两个多世纪里，这尊佛像一直被奉为该殿本尊佛。

1411 年，东金堂失火被毁。佛像在大火中融化，佛头跌落，左侧受损。1415 年，佛头经修复后安放在新佛像的基座内（药师佛像），新佛像至今仍是东金堂的本尊佛，原佛头则渐渐被遗忘。直到 1937 年佛殿修葺，这尊佛头才重新被发现。一同面世的木板上有铭文记叙了 1411 年的那场大火，研究者这才得以确定佛头的来源。

现存白凤文化(645-710)的佛像大多为微型塑像，仅可根据风格推断年代，因此，一尊带有铸造时间文字记录的全尺寸佛像的面世——哪怕只是残片——也意义重大。基于其历史意义和艺术价值，这尊佛头成为了极少数被指定为“国宝”的佛像残片之一。

<繁体字>

國寶館

銅造佛頭（舊東金堂本尊）

國寶

這件珍貴的銅合金鑄像是藥師佛的佛頭，歷史可追溯到西元 685 年。佛像最初供奉於飛鳥的山田寺，大約在當時首都奈良以南 20 公里處。

1180 年，平重衡（1158-1185）所率平氏軍團搗毀興福寺。之後，興福寺僧人從山田寺請來藥師佛像，供於重建的東金堂（東側大雄寶殿）內。在接下來的兩個多世紀裡，這尊佛像一直被奉為該殿本尊佛。

1411 年，東金堂失火被毀。佛像在大火中融化，佛頭跌落，左側受損。1415 年，佛頭經修復後安放在新佛像的基座內（藥師佛像），新佛像至今仍是東金堂的本尊佛，原佛頭

則漸漸被遺忘。直到 1937 年佛殿修葺，這尊佛頭才重新被發現。一同面世的木板上有銘文記敘了 1411 年的那場大火，研究者這才得以確定佛頭的來源。

現存白鳳文化（645-710）的佛像大多為微型塑像，僅可根據風格推斷年代，因此，一尊帶有鑄造時間文字記錄的全尺寸佛像的面世——哪怕只是殘片——也意義重大。基於其歷史意義和藝術價值，這尊佛頭成為了極少數被指定為「國寶」的佛像殘片之一。

<日本語仮訳>

国宝館

銅造仏頭（旧東金堂本尊）

国宝

685 年に制作された珍しい銅の合金を使ったこの像は、薬師如来の頭部です。元々当時の都であった奈良から南に約 20km の飛鳥にある山田寺に安置されていました。

1180 年に平重衡（1158-1185）が率いる平氏の軍勢によって興福寺が破壊された後、興福寺の僧たちがこの仏像を山田寺から移し、再建された東金堂に安置しました。その後 2 世紀以上にわたって、東金堂の本尊として崇められていました。

1411 年に東金堂は焼失してしまいます。炎で銅像が溶けて頭部が落下し、左側が破損しました。頭部は回収され、1415 年に代わりに設置された現在の東金堂の本尊（薬師如来像）の台座の中に収められました。その存在は忘れられていましたが、1937 年に建物が補修された際に再発見されました。頭部と一緒に収められていた木の板に、1411 年の火災の経緯が記されていたため、この頭部の出所が判明しました。

現存している白鳳時代（645-710）の仏像のほとんどが小さなサイズのもので、様式を元にその年代を特定しているにすぎないため、一部であるとはいえ制作年代がはっきりとしている大型の仏像の再発見は非常に意義深いものでした。歴史的な重要性和芸術的な価値の高さから、この仏頭は、仏像の断片として国宝に指定された数少ない例のひとつです。

【タイトル】 国宝館・木造釈迦如来坐像・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

国宝館

木造釈迦如来坐像

重要文化财产

释迦如来就是释迦牟尼佛，他在公元前 5 世纪创立佛教，悟道后发愿普度众生。

这尊佛像取桂木以多块木料拼接的寄木造工艺雕刻而成，髹漆，外贴金箔。佛像右手朝向来访者竖起，施无畏印，意在驱散恐惧。左手平置于膝上，结与愿印。虽然造像时间不明，但这尊佛像面容温和安详，袈裟优雅下垂，符合平安时代(794-1185)佛像的典型特征，风格类似创新的佛像造像师定朝（卒于 1057 年）。

佛像背光现已不存，基座也是后来添加的。

<繁体字>

國寶館

木造釋迦如來坐像

重要文化財產

釋迦如來就是釋迦牟尼佛，他在公元前 5 世紀創立佛教，悟道後發願普度眾生。

這尊佛像取桂木以多塊木料拼接的寄木造工藝雕刻而成，髹漆，外貼金箔。佛像右手朝向來訪者豎起，施無畏印，意在驅散恐懼。左手平置於膝上，結與願印。雖然造像時間不明，但這尊佛像面容溫和安詳，袈裟優雅下垂，符合平安時代（794-1185）佛像的典型特征，風格類似創新的佛像造像師定朝（卒於 1057 年）。

佛像背光現已不存，基座也是後來添加的。

<日本語仮訳>

国宝館

木造釈迦如来坐像

国宝

仏教の開祖である釈迦如来は、紀元前 5 世紀に悟りを得て、衆生を救済することを誓った釈迦牟尼の別称です。

この釈迦如来坐像は桂材と漆、金箔を使って、「寄木造」という技法で作られています。仏陀の右手は持ち上げられ、手のひらはこちらに向けられています。これは施無畏印と呼ばれる仕草で、恐れを払いのけることを象徴しています。一方、左手は膝の上に置かれ、願いを叶える与願印を結んでいます。来歴は明らかではありませんが、その表情は穏やかで、優雅なひだの衣を身にまとっています。これは平安時代（794-1185）の仏像の特徴であり、革新的な仏師であった定朝（1057年没）の作風を彷彿とさせます。

像の後ろにあった光背は失われており、台座は後年付け加えられたものです。

【タイトル】 国宝館・木造化仏・木造飛天・重要文化財

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****木造化佛・木造飛天****重要文化財産**

这几尊雕像出自镰仓时代(1185-1333)，包括一尊坐佛和三尊飞天。雕像出处不明，但研究者认为，它们可能是在著名佛像造像师运庆(1150-1223)的指导下完成的，原本用于装饰兴福寺西金堂内释迦牟尼像身后的背光。1717年，西金堂焚毁，只有易于拆卸搬动的珍宝得以幸存。这几尊坐佛和飞天或许就是其中的幸存者。

<繁体字>**國寶館****木造化佛・木造飛天****重要文化財産**

這幾尊雕像出自鎌倉時代（1185-1333），包括一尊坐佛和三尊飛天。雕像出處不明，但研究者認為，它們可能是在著名佛像造像師運慶（1150-1223）的指導下完成的，原本用於裝飾興福寺西金堂內釋迦牟尼像身後的背光。1717年，西金堂焚毀，只有易於拆卸搬動的珍寶得以幸存。這幾尊坐佛和飛天或許就是其中的幸存者。

<日本語仮訳>**国宝館****木造化仏・木造飛天****重要文化財**

鎌倉時代（1185-1333）に制作されたこれらの彫刻は、化仏3体と飛天8体を表現したものです。これらの彫刻の起源は不明ですが、有名な仏師である運慶（1150-1223）が、興福寺の西金堂の本尊の後ろに設置されていた光背の飾りとして、製作の指揮にあったと考えられています。1717年に西金堂が焼失した際、手で運び出せるものや、大きな像から取り外すことができた宝物だけが被害を免れました。この化仏と飛天はそうにして救出されたもののひとつだったのかもしれませんが。

【タイトル】 国宝館・木造千手観音菩薩立像・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****木造千手观音菩萨立像****国宝**

这尊木雕立像表现的是大慈大悲观世音菩萨，高 5.2 米，由于工艺技法的缘故，在一定距离外远观会显得比实际尺寸更大，走近后即可恢复正常比例。这尊观音立像出自 13 世纪，最初受命制作的是造像师成朝，但看来他可能在完工前便已去世，最终完成雕像的另有其人。

这尊观音共有 42 只手，其中一对合十于胸前。余下 40 只分别握着各种各样的法器、武器和象征性的物品，每一只都代表 25 只手。此外，40 也是传统上用以表现“无限”的数字，寓意观世音菩萨有普度无限众生之能。

雕像内还存有许多物品，其中包括一卷 1217 年的《心经》。这些物品显示，为了完成这尊菩萨像，当年曾有过一场异常漫长而艰难的募捐，有许多捐献者和资助者参与其中。

在 13 世纪到 19 世纪间，这尊观音立像一直都是兴福寺斋堂的本尊神。斋堂本身建于公元 744 年，两度毁于火灾，其中，1180 年的火灾是因为平重衡(1158-1185)所率平氏军团在南都奈良发起的“南都烧讨”。此后重建的斋堂建筑保留了好几个世纪，直到 1870 年，因明治时代(1868-1912)早期的废佛毁释运动而被拆毁。这尊千手观音像幸免遇难。1959 年，兴国寺国宝馆在原斋堂旧址上建成，观音像终于回归原地接受供奉。

<繁体字>**國寶館****木造千手觀音菩薩立像****國寶**

這尊木雕立像表現的是大慈大悲觀世音菩薩，高 5.2 公尺，由於工藝技法的緣故，在一定距離外遠觀會顯得比實際尺寸更大，走近後即可恢復正常比例。這尊觀音立像出自 13 世紀，最初受命製作的是造像師成朝，但看來他可能在完工前便已去世，最終完成雕像的另有其人。

這尊觀音共有 42 只手，其中一對合十於胸前。余下 40 只分別握著各種各樣的法器、武器和象征性的物品，每一只都代表 25 只手。此外，40 也是傳統上用以表現「無限」的數字，寓意觀世音菩薩有普度無限眾生之能。

雕像內還存有許多物品，其中包括一卷 1217 年的《心經》。這些物品顯示，為了完成這尊菩薩像，當年曾有過一場異常漫長而艱難的募捐，有許多捐獻者和資助者參與其中。

在 13 世紀到 19 世紀間，這尊觀音立像一直都是興福寺齋堂的本尊神。齋堂本身建於公元 744 年，兩度毀於火災，其中，1180 年的火災是因為平重衡（1158-1185）所率平氏軍團在南都奈良發起的「南都燒討」。此後重建的齋堂建築保留了好幾個世紀，直到 1870 年，因明治時代（1868-1912）早期的廢佛毀釋運動而被拆毀。這尊千手觀音像幸免遇難。1959 年，興國寺國寶館在原齋堂舊址上建成，觀音像終於回歸原地接受供奉。

<日本語仮訳>

国宝館

木造千手観音菩薩立像

国宝

高さ 5.2 メートルのこの像は、慈悲の仏である観音菩薩を表しています。少し離れたところから見ると大きく見えるように作られていますが、近くから見ると通常の大きさに見えます。13 世紀に仏師の成朝がこの像の制作を任されましたが、完成前に亡くなり、別の仏師が後を引き継いだと考えられています。

観音像には全部で 42 本の手があり、そのうちの 2 本は合掌しています。残り 40 本はそれぞれが 25 の手を表しています。また、40 という数は伝統的に無限を表す数字でもあり、衆生を救う菩薩の能力を象徴しています。手には様々な道具や武器、象徴的な品々を握っています。

像の内部には、1217 年に書かれた般若心経の写しなど、数多くの品々が収められています。これらの品々は、この像をつくる際の資金調達は通常よりも長く困難で、多くの信者や支援者が携わっていたことを示唆しています。

この像は 13 世紀から 19 世紀まで、興福寺の食堂の本尊として崇められてきました。744 年に建てられた食堂は、1180 年に平家の大將・平重衡（1158-1185）によって引き起こされた南都焼討を含め、2 度にわたって焼失してしまいました。その後再建された食堂は、明治（1868-1912）初期の廃仏毀釈によって、1874 年に取り壊されました。千手観音は破壊を免れ、1959 年に食堂の基壇の上に興福寺の国宝館が建てられると、そこに収められ、元の場所に戻されました。

【タイトル】 国宝館・木造金剛力士立像・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****木造金剛力士立像****国宝**

金剛力士是佛教传说中的护法侍卫，以象征雷电霹雳与无坚不摧的古印度金剛杵为武器。这对立像出自镰仓时代(1185-1333)早期庆派造像师之手，极富 12 至 13 世纪日本佛像造像标志性的逼真感、动态感与力量感，堪称杰作。水晶制作的双眼、随风摆动的衣袍、紧张的肌肉、虬结的青筋，无不令力士像的面貌更加栩栩如生。

左侧力士的嘴大张着，表示发出“阿”(a)的声音，这是梵文字表第一个字母的发音，就哲学层面而言，代表绝对之境。右侧力士则双唇紧闭，表示“吽”(hūm)，梵文字表最后一个字母的发音，寓意表象之境。两者并立，代表了万事万物的始与终，或者说，囊括了整个宇宙的真谛。

金剛力士多见于佛寺山门处，被视为护法神。但在奈良时期(710-794)，它们也会被供奉在佛殿的须弥坛上。原像出自奈良时代，供奉于兴福寺西金堂内，但在 1180 年金堂（大雄宝殿）失火时被焚毁。现存立像为复制品，以多块木料拼合雕刻而成。

<繁体字>**國寶館****木造金剛力士立像****國寶**

金剛力士是佛教傳說中的護法侍衛，以象征雷電霹靂與無堅不摧的古印度金剛杵為武器。這對立像出自鎌倉時代（1185-1333）早期慶派造像師之手，極富 12 至 13 世紀日本佛像造像標誌性的逼真感、動態感與力量感，堪稱傑作。水晶製作的雙眼、隨風擺動的衣袍、緊張的肌肉、虬結的青筋，無不令力士像的面貌更加栩栩如生。

左側力士的嘴大張著，表示發出「阿」（a）的聲音，這是梵文字表第一個字母的發音，就哲學層面而言，代表絕對之境。右側力士則雙唇緊閉，表示「吽」（hūm），梵文字表最後一個字母的發音，寓意表象之境。兩者並立，代表了萬事萬物的始與終，或者說，囊括了整個宇宙的真諦。

金剛力士多見於佛寺山門處，被視為護法神。但在奈良時期（710-794），它們也會被供奉在佛殿的須彌壇上。原像出自奈良時代，供奉於興福寺西金堂內，但在1180年金堂（大雄寶殿）失火時被焚毀。現存立像為複製品，以多塊木料拼合雕刻而成。

<日本語仮訳>

国宝館

木造金剛力士立像

国宝

金剛力士は、稲妻とダイヤモンドを象徴するインドの武器、ヴァジュラ（金剛杵）を操る仏教の戦士です。この像は、鎌倉時代（1185-1333）の初期に慶派と呼ばれる仏師集団によって制作されたもので、12世紀と13世紀の日本の仏像に特徴的な写実性とドラマチックな動き、そして力強さを感じられる傑作です。はめこまれた水晶の目、風にたなびく衣、隆々たる筋肉、そして浮き出た血管が、生き生きとした外観をさらに強調しています。

左側の像は口を大きく開き、「阿」の音を象徴しています。「阿」はサンスクリット語の文字の最初の音であり、哲学的には絶対の領域を表します。右側の像は口をしっかりと結び、「吽」の音を象徴しています。これはサンスクリット語の最後の文字で、現象の領域を表します。これが合わさって、「阿吽」で万物の始まりと終わり、つまり宇宙全体を表しています。

金剛力士は仏教寺院で最もよく見られる守護神ですが、奈良時代（710-794）には堂内の須彌壇に安置されることもありました。この2体の像は、もともと興福寺の西金堂に祀られていたもので、1180年に西金堂が焼け落ちた際に焼失した奈良時代の像の代わりに、木材をはぎ合せて仕上げられたものです。

【タイトル】 国宝館・木造天燈鬼・龍燈鬼立像・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****木造天燈鬼・龍燈鬼立像****国宝**

这对 13 世纪的立像刻画的是**一对顽皮的小鬼**，模样滑稽，很是不同寻常。这类小鬼通常都是被四大天王等佛教护法神**踩在脚下的**，可在这里，它们皈依了佛门，为佛陀**举灯照明**。

龙灯鬼像出自 1215 年，是著名佛教雕刻大师**运庆(1150-1223)之子法桥康弁**的作品。天灯鬼像作者不明，但出自同一时期。龙灯鬼像的独特之处在于木材以外其他材料的运用：**竖立的眉毛为裁切铜片而成**，獠牙使用水晶制作，**盘绕在它身上的龙**则有着兽皮制成的背翼。两尊雕像都以水晶为眼，面目更加生动。这对立像原本供奉于兴福寺的西金堂（西侧大雄宝殿）内。

<繁体字>**國寶館****木造天燈鬼・龍燈鬼立像****國寶**

這對 13 世紀的立像刻畫的是一對頑皮的小鬼，模樣滑稽，很是不同尋常。這類小鬼通常都是被四大天王等佛教護法神**踩在腳下的**，可在這裏，它們皈依了佛門，為佛陀**舉燈照明**。

龍燈鬼像出自 1215 年，是著名佛教雕刻大師**運慶（1150-1223）之子法橋康弁**的作品。天燈鬼像作者不明，但出自同一時期。龍燈鬼像的獨特之處在於木材以外其他材料的運用：**豎立的眉毛為裁切銅片而成**，獠牙使用水晶製作，**盤繞在它身上的龍**則有著獸皮製成的背翼。兩尊雕像都以水晶為眼，面目更加生動。這對立像原本供奉於興福寺的西金堂（西侧大雄寶殿）内。

<日本語仮訳>**国宝館**

木造天燈鬼・龍燈鬼立像

国宝

ユーモラスで非常に珍しいこの彫像は、13世紀に作られた邪鬼の像です。通常こうした邪鬼は、四天王として知られる仏教の守護神の足に踏みつけられていることが多いのですが、ここでは仏教に帰依した者として表現され、仏陀のためにあたりを照らす燈明を持っています。

龍燈鬼（「龍と燈明を持つ邪鬼」）は、有名な仏師である運慶（1150-1223）の息子、康弁によって1215年に制作されました。天燈鬼（「燈明を頭の上に載せている邪鬼」）の作者は不明ですが、同じ時期に作られたものです。龍燈鬼の像の変わった特徴のひとつは、木ではない素材を使用していることです。逆立った眉毛は銅板をカットしたもので、牙は水晶、龍の背中を取り巻くようにつけられ、動物の革で作られています。どちらの像も、目には水晶がはめ込まれており、生き生きとした存在感を醸し出しています。この2体の像は、元々興福寺の西金堂に安置されていたものです。

【タイトル】 国宝館・木造仏頭（釈迦如来像頭部）・重要文化財

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****木造佛頭（釋迦如来像頭部）****重要文化財產**

这尊木漆大佛头刻画的是释迦牟尼，他是佛教的创始人，在公元前 5 世纪悟道，发愿普度众生。这尊佛头是原兴福寺西金堂（西侧大雄宝殿）本尊佛的一部分，佛像制作于 1189 年，出自著名佛像造像师运庆(1150–1223)之手，原本是为了替代毁于火灾的一尊 8 世纪佛像。1717 年，西金堂被焚毁，仅有部分可自大件藏品上拆下的物品得以幸存。现藏于国宝馆中的梵天像和帝释天像最初就安放在这尊佛头所属的释迦牟尼像旁。

这尊佛头上原本覆有金箔，面颊饱满，双唇丰厚，眉弓优雅，头顶艺术化的螺发肉髻。螺发指向剃度，传达了释迦牟尼剃发出家、脱离俗世的决心。头像的另一独特之处，是没有画出“白毫相”。“白毫”是佛像前额中心吉祥的螺旋纹或圆点，代表佛陀开始传道之前自前额释放的光明。按照兴福寺的说法，8 世纪那尊佛像的造像师原本打算以水晶作白毫，不料佛头前额突然裂开，有光明倾泻而出。于是，他放弃了人工添加白毫的计划。创作如今这尊佛像的运庆沿袭了他的做法。

<繁体字>**國寶館****木造佛頭（釋迦如來像頭部）****重要文化財產**

這尊木漆大佛頭刻畫的是釋迦牟尼，他是佛教的創始人，在公元前 5 世紀悟道，發願普度眾生。這尊佛頭是原興福寺西金堂（西側大雄寶殿）本尊佛的一部分，佛像製作於 1189 年，出自著名佛像造像師運慶（1150-1223）之手，原本是為了替代毀於火災的一尊 8 世紀佛像。1717 年，西金堂被焚毀，僅有部分可自大件藏品上拆下的物品得以幸存。現藏於國寶館中的梵天像和帝釋天像最初就安放在這尊佛頭所屬的釋迦牟尼像旁。

這尊佛頭上原本覆有金箔，面頰飽滿，雙唇豐厚，眉弓優雅，頭頂藝術化的螺發肉髻。螺發指向剃度，傳達了釋迦牟尼剃發出家、脫離俗世的決心。頭像的另一獨特之處，是沒有畫出「白毫相」。「白毫」是佛像前額中心吉祥的螺旋紋或圓點，代表佛陀開始傳道之前自前額釋放的光明。按照興福寺的說法，8 世紀那尊佛像的造像師原本打算以水晶作白

毫，不料佛頭前額突然裂開，有光明傾瀉而出。於是，他放棄了人工添加白毫的計劃。創作如今這尊佛像的運慶沿襲了他的做法。

<日本語仮訳>

国宝館

木造仏頭（釈迦如来像頭部）

重要文化財

この大きな木製漆塗りの像は、紀元前 5 世紀に悟りを得て衆生を救うことを誓った、仏教の開祖である釈迦牟尼の頭部です。元々金箔が貼られていたこの像は、有名な仏師である運慶（1150-1223）によって 1189 年頃に制作されました。この頭部は、興福寺の西金堂の本尊であった仏像の一部で、焼失した 8 世紀の仏像の代わりに作られたものです。1717 年に西金堂が火災で焼失した際、大きな像から取り外すことができたものだけが救い出されました。同じく興福寺の国宝館に収められている梵天像および帝釈天像は、当初はこの頭部がついていた仏像とともに祀られていました。

この釈迦牟尼はふくよかな頬と唇をしており、優雅な曲線を描く眉毛と様式的な円錐形の頭髪が施されています。これは螺髪と呼ばれ、剃髪の剃り残しを表し、釈迦牟尼が俗世との関わりを立つために頭髪を剃ったことを表すものです。この頭部のもうひとつの特徴は、ウルナ（白毫）がないという点です。白毫は額にある縁起の良い螺旋または点であり、仏陀が説法を始めるまえにその額から放たれた光線を象徴しています。興福寺に伝わる伝承によると、8 世紀に仏師が頭部に水晶の白毫を入れようとしたところ、突然額が開いて光があふれ出したといいます。そこで人工的な白毫を入れることをやめ、この頭部を作った運慶もそれに従ったとされています。

【タイトル】 中金堂・木造四天王立像・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**中金堂****木造四天王立像****国宝**

四大天王是**护卫**须弥山四方的**护法神**，在佛教看来，**须弥山**位于我们这个“世界”的正中心。持国天王**镇守**东方，**增长**天王**守护**南方，广目天王在西，**多闻**天王在北。这组令人印象深刻的雕像皆以拼合多块木材雕刻的寄木造法制作，十分逼真，就连盔甲上的**兽面**等许多细节也无不**精细入微**，代表着 12 世纪日本佛教造像**艺术**的最高成就。

这组雕像中，持国天王左手持**宝剑**，右手托一**宝珠**；**增长**天王同样左手持**剑**，但右手持**三叉戟**；广目天王左手**执**三叉戟，右手握**索**；**多闻**天王左右持**三叉戟**，右手托一个**小宝塔**。四者均脚踏**恶鬼**，站在**火焰背光**前。它们威武**庄严**的外表**传递**出这一时期并不常见的力量感，整体形态与粗壮的身形则**体现**出 12 世纪下半叶佛像造像对奈良时期(710-794)经典雕刻风格的**呼应**。而**铠甲**与塑像姿态的**变化**，则令它们富于平衡感和**视觉冲击力**。

四尊雕像都出自**镰仓时代**(1185-1333)早期**康庆**（活跃于 1175-1200 年）的造像工坊。有记录显示，它们出自 1189 年到 1193 年之间，由**康庆**的弟弟**实眼**指导完成。

<繁体字>**中金堂****木造四天王立像****國寶**

四大天王是**護衛**須彌山四方的**護法神**，在佛教看來，**須彌山**位於我們這個「世界」的正中心。持國天王**鎮守**東方，**增長**天王**守護**南方，廣目天王在西，**多聞**天王在北。這組令人印象深刻的雕像皆以拼合多塊木材雕刻的寄木造法製作，十分逼真，就連盔甲上的**獸面**等許多細節也無不**精細入微**，代表著 12 世紀日本佛教造像**藝術**的最高成就。

這組雕像中，持國天王左手持**寶劍**，右手托一**寶珠**；**增長**天王同樣左手持**劍**，但右手持**三叉戟**；廣目天王左手**執**三叉戟，右手握**索**；**多聞**天王左右持**三叉戟**，右手托一個**小寶塔**。四者均腳踏**惡鬼**，站在**火焰背光**前。它們威武**莊嚴**的外表**傳遞**出這一時期並不常見的力量感，整體形態與粗壮的身形則**體現**出 12 世紀下半葉佛像造像對奈良時期（710-794）經典雕刻風格的**呼應**。而**鎧甲**與塑像姿態的**變化**，則令它們富於平衡感和**視覺沖擊力**。

四尊雕像都出自鎌倉時代（1185-1333）早期康慶（活躍於 1175-1200 年）的造像工場。有記錄顯示，它們出自 1189 年到 1193 年之間，由康慶的弟弟實眼指導完成。

<日本語仮訳>

木造四天王立像（南円堂所在）

国宝

四天王は、仏教の宇宙観において私たちの世界の中心にあるとされる山、須弥山の四方を守っている守護神です。持国天は東を、増長天は南を、広目天は西を、多聞天は北を守っています。これらの見事な像は寄木造りで作られており、鎧には顔が刻まれるなど細部に至るまで非常に写実的な、12 世紀の日本の仏教彫刻の最高傑作です。

持国天は左手に剣、右手に宝珠を持っており、増長天は左手に剣、右手に三鈷杵を持っています。広目天は左手に三鈷杵、右手に索を持っており、多聞天は左手に三鈷杵、右手に宝塔を持っています。4 体の像すべてが足で邪鬼を踏みつけており、燃え盛る光輪の前に立っています。その堂々とした荘厳な姿は、この時代には目新しかった力強さが現れています。一方、全体的に隆々とした重厚な胴体部分は、12 世紀後半の奈良地域の彫刻様式を反映しています。鎧やポーズの多彩さから、視覚的にインパクトがありバランスの取れた印象を与えます。

4 つの像はすべて、鎌倉時代（1185-1333）の初期の仏師、康慶（1175-1200 年に活躍）の工房で作られました。制作は 1189 年から 1193 年にかけて行われ、康慶の弟である実眼が指揮したという記録が残っています。

【タイトル】 中金堂・木造釈迦如来坐像

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**中金堂****木造釈迦如来坐像**

这尊光彩灿然的金佛是佛教创始人释迦牟尼，他在公元前 5 世纪悟道，发愿普度众生，又称“释迦如来”。这尊佛像出自 1811 年，是原始佛像的第五任继任者，第一代佛像制作于公元 645 年。佛像右手竖起，掌心朝向来者，施无畏印；左手置于膝上，结与愿印。双手所结印表现了释迦牟尼佛的大慈悲——为众生驱除恐惧，施以内心的安宁。

这尊佛像采用多块木材组合制作的寄木造法，外表髹漆镀金，如今不但是中金堂（中央大雄宝殿）的本尊佛，还是兴福寺的寺庙本尊佛。尽管年代较近，还为了中金堂的重建而翻新过，这尊坐佛却重现了传统的经典造像风格，与堂内诸佛像都十分协调。

<繁体字>**中金堂****木造釋迦如來坐像**

這尊光彩燦然的金佛是佛教創始人釋迦牟尼，他在西元前 5 世紀悟道，發願普度眾生，又稱「釋迦如來」。這尊佛像出自 1811 年，是原始佛像的第五任繼任者，第一代佛像製作於公元 645 年。佛像右手豎起，掌心朝向來者，施無畏印；左手置於膝上，結與願印。雙手所結印表現了釋迦牟尼佛的大慈悲——為眾生驅除恐懼，施以內心的安寧。

這尊佛像採用多塊木材組合製作的寄木造法，外表髹漆鍍金，如今不但是中金堂（中央大雄寶殿）的本尊佛，還是興福寺的寺廟本尊佛。盡管年代較近，還為了中金堂的重建而翻新過，這尊坐佛卻重現了傳統的經典造像風格，與堂內諸佛像都十分協調。

<日本語仮訳>**中金堂****木造釈迦如来坐像**

この見事な黄金の坐像は、紀元前 5 世紀に悟りを得て、衆生を救うことを誓った仏教の開祖である釈迦牟尼の像です。1811 年に制作された現在の像は、645 年に奉納された初代から数えて 5 代目にあたります。右手は手のひらをこちら側に向けて持ち上げられており、これは恐れを取り除くことを表

す施無畏印の印相です。左手は膝に置かれて与願印を結んでおり、これは願いを叶えることを象徴しています。この両手のかたちで、大慈悲の釈迦牟尼、つまり恐れを取り払いすべての衆生の心に平静をもたらす釈迦如来を表しています。

漆と金箔を施して仕上げられた寄木造のこの像は、中金堂の本尊です。また、興福寺伽藍全体の本尊でもあります。中金堂の再建に伴って修復された比較的新しいものではありませんが、かつての像の古式とスケール感を再現し、周囲の像との調和を図っています。

【タイトル】 東金堂・銅造薬師如来坐像・重要文化財

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**东金堂****铜造药师如来坐像****重要文化财产**

药师如来又称药师佛，与疗愈疾病、延年益寿有关。他引领误入歧途的众生回归正途，并护佑他们践行佛法。

药师佛是东金堂（东侧大雄宝殿）的本尊佛。佛像结珈趺坐，袈裟低垂，盖住了长方形的高座。左手置于膝上，托一药瓶；右手前臂竖起，掌心朝外，五指舒展。

这尊佛像为泥胎铜合金铸像，因前一尊佛像在1411年火灾中被焚毁而铸。前佛像出自公元685年，最初供奉于飞鸟的山田寺，后来才移入兴福寺。1937年金堂修葺，人们在如今这尊佛像的基座内发现了此前佛像的佛头。作为珍贵的白凤时代佛教遗物，这尊重见天日的佛头被指定为国宝，如今陈列于兴福寺国宝馆内。

<繁体字>**東金堂****銅造藥師如來坐像****重要文化財產**

藥師如來又稱藥師佛，與療愈疾病、延年益壽有關。他引領誤入歧途的眾生回歸正途，並護佑他們踐行佛法。

藥師佛是東金堂（東側大雄寶殿）的本尊佛。佛像結珈趺坐，袈裟低垂，蓋住了長方形的高座。左手置於膝上，托一藥瓶；右手前臂豎起，掌心朝外，五指舒展。

這尊佛像為泥胎銅合金鑄像，因前一尊佛像在1411年火災中被焚毀而鑄。前佛像出自西元685年，最初供奉於飛鳥的山田寺，後來才移入興福寺。1937年金堂修葺，人們在如今這尊佛像的基座內發現了此前佛像的佛頭。作為珍貴的白鳳時代佛教遺物，這尊重見天日的佛頭被指定為國寶，如今陳列於興福寺國寶館內。

<日本語仮訳>**東金堂**

銅造薬師如来坐像

重要文化財

薬師如来は、迷える人を正しい道へと導き、修行者を守護する、病氣平癒や延命長寿の仏です。

東金堂の本尊である薬師如来は、蓮華座に座り、衣の裾は高い長方形の台座の端から流れるように垂れ下がっています。左手は膝に置かれ、薬瓶を持っています。右手は肘のところで曲げられ、手のひらは外側を向き、指は伸ばしています。

土型鑄造法による銅の合金製のこの坐像は、かつての像が 1411 年の火災で焼失した後に制作されたものです。1937 年の堂の補修の際、この像の台座の中から、685 年に鑄造され奈良市の約 20km 南にある飛鳥の山田寺から興福寺に移されたかつての像の頭部が見つかりました。再発見された仏頭は、白鳳時代の仏像の貴重な例として国宝に指定され、現在は興福寺の国宝館に展示されています。

【タイトル】 国宝館・木造弥勒菩薩半跏像（厨子入り）・重要文化財

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

国宝館

木造弥勒菩薩半跏像（佛櫛内）

重要文化财产

这尊精美的佛像刻画的是未来世的佛陀弥勒。佛像为木雕作品，出自镰仓时代(1185–1333)，保存异常完好。佛像身后有辐射状的金色背光，本身衣饰繁复精细，其中一个轮状坠饰象征著佛家的智慧法轮，代表佛陀的教诲。

依照佛教的说法，弥勒佛是现世佛释迦牟尼的继任者，将在我们这个世界的56亿7千万年时降临，投胎人世，成为下一任佛陀。这尊弥勒佛像表情沉静，状若入定，单脚盘起呈半跏坐状，代表了一位尚未完全开悟的佛陀正徘徊现世人间，想要普度众生。佛像右手竖起，结与愿印。

过去若干个世纪以来，佛櫛保护着这尊佛像免受光照、虫害和其他损伤。这个佛櫛内饰精美，上部靠近櫛顶处饰有飞天。柜门上绘制着法相宗尊奉的佛教神明，包括文殊菩萨、维摩诘居士、四大天王等，其中四大天王是佛教的护法神。

<繁体字>

國寶館

木造彌勒菩薩半跏像（佛櫛内）

重要文化財產

這尊精美的佛像刻畫的是未來世的佛陀彌勒。佛像為木雕作品，出自鎌倉時代（1185-1333），保存異常完好。佛像身後有輻射狀的金色背光，本身衣飾繁復精細，其中一個輪狀墜飾象征著佛家的智慧法輪，代表佛陀的教誨。

依照佛教的說法，彌勒佛是現世佛釋迦牟尼的繼任者，將在我們這個世界的56億7千萬年時降臨，投胎人世，成為下一任佛陀。這尊彌勒佛像表情沈靜，狀若入定，單腳盤起呈半跏坐狀，代表了一位尚未完全開悟的佛陀正徘徊現世人間，想要普度眾生。佛像右手豎起，結與願印。

過去若幹個世紀以來，佛櫛保護著這尊佛像免受光照、蟲害和其他損傷。這個佛櫛内飾精美，上部靠近櫛頂處飾有飛天。櫃門上繪製著法相宗尊奉的佛教神明，包括文殊菩薩、維摩詰居士、四大天王等，其中四大天王是佛教的護法神。

<日本語仮訳>

国宝館

木造弥勒菩薩半跏像（厨子入り）

重要文化財

精緻な造りのこの半跏像は、未来の仏陀である弥勒菩薩の像です。鎌倉時代（1185-1333）の木彫の像で、保存状態は極めて良好です。光り輝く黄金の光背を背にし、精巧な衣や装身具によって飾られています。そのうちのひとつが、仏陀の教えを表す法輪の象徴である車輪形の首飾りです。

仏教では、弥勒は釈迦牟尼の直接の後継者であり、56億7千万年後にこの世に生まれ、次なる仏陀となるとされています。この弥勒像は静かな瞑想の表情を浮かべ、片方の足を地面に下ろした半跏の姿勢を取っています。これはまだ仏陀として悟りを得ておらず、衆生を救うために現世にとどまっていることを示しています。右手は、祝福と願いを叶える与願印を結んで、上方に掲げられています。

この像が納められている厨子は、この像を光や虫、その他のダメージから何世紀にもわたって守り続けてきました。厨子の内部には精緻な装飾が施され、上部近くには天上の楽人である飛天が描かれています。扉には法相宗の高僧や文殊菩薩、賢人の維摩居士、仏教の守護神である四天王などが描かれています。

【タイトル】 国宝館・中金堂鎮壇具・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****中金堂鎮壇具****国宝**

这些都是供品，是送给本地土地神的礼物，在寺庙动工前的仪式上埋入地下，祈求新修的建筑牢固、安全。

迄今为止，因为兴福寺中金堂前后曾 7 度被焚毁，在这座金堂的地基里已发掘出多达 1800 件这类供品，包括供养器具、金器、银器、钱币、刀剑、水晶玉石珠、镜子等，统称“镇坛具”。1874 年出土的镇坛具现藏于东京国立博物馆，1884 年和 2001 年两次出土的则藏于兴国寺本寺。

<繁体字>**國寶館****中金堂鎮壇具****國寶**

這些都是供品，是送給本地土地神的禮物，在寺廟動工前的儀式上埋入地下，祈求新修的建築牢固、安全。

迄今為止，因為興福寺中金堂前後曾 7 度被焚毀，在這座金堂的地基裏已發掘出多達 1800 件這類供品，包括供養器具、金器、銀器、錢幣、刀劍、水晶玉石珠、鏡子等，統稱「鎮壇具」。1874 年出土的鎮壇具現藏於東京國立博物館，1884 年和 2001 年兩次出土的則藏於興國寺本寺。

<日本語仮訳>**国宝館****中金堂鎮壇具****国宝**

鎮壇具は堂宇の建設を記念する儀式の際に埋められる供物で、新しい建物が末永く安泰であることを祈願して、その地の神に対して捧げられるものです。

過去 7 回に及ぶ焼失を繰り返している興福寺の中金堂の基礎部分から、1,800 点にのぼる鎮壇具が発見されています。その中には、祭具、金銀、硬貨、剣、水晶などの玉、鏡などが含まれています。1874 年に出土した鎮壇具は東京国立博物館に、1884 年と 2001 年に出土した鎮壇具は興福寺に保管されています。

【タイトル】 国宝館・銅造華原磬・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****銅造華原磬****国宝**

公元 734 年，兴福寺西金堂落成，这套珍贵的乐器便与干漆八部众立像一同安放堂中，重现了《金光明经》里的场景。

这件乐器最初被称为“金鼓”，原本可能是镀金的，到镰仓时代(1336-1573)才改称为“华原磬”或“华原钲”。华原是中国地名，位于今山西省铜川市耀州区一带，曾经是制磬石材的产地。现存华原磬为镰仓时代(1185-1333)的复制品，采用铸铜合金而非石材制成。

整套乐器的支架部分竖立在一头蹲踞的狮子背上，是平安时代(794-1185)才增加的。两对雌雄双龙盘绕在支架立柱上，身体弯曲中空，中悬磬体，至顶端重新相交，龙头相背，瞪视着左右两侧。支架的龙身和毛发无不精细入微，展现了高水平的铸造工艺，因此可以推断，支架本身可能也出自中国唐朝(618-907)，在奈良时代(710-794)来到日本。

<繁体字>**國寶館****銅造華原磬****國寶**

西元 734 年，興福寺西金堂落成，這套珍貴的樂器便與幹漆八部眾立像一同安放堂中，重現了《金光明經》裏的場景。

這件樂器最初被稱為「金鼓」，原本可能是鍍金的，到鎌倉時代（1336-1573）才改稱為「華原磬」或「華原鉦」。華原是中國地名，位於今山西省銅川市耀州區一帶，曾經是製磬石材的產地。現存華原磬為鎌倉時代（1185-1333）的複製品，採用鑄銅合金而非石材製成。

整套樂器的支架部分豎立在一頭蹲踞的獅子背上，是平安時代（794-1185）才增加的。兩對雌雄雙龍盤繞在支架立柱上，身體彎曲中空，中懸磬體，至頂端重新相交，龍頭相背，瞪視著左右兩側。支架的龍身和毛發無不精細入微，展現了高水平的鑄造工藝，因此可以推斷，支架本身可能也出自中國唐朝（618-907），在奈良時代（710-794）來到日本。

<日本語仮訳>

国宝館

華原磬

国宝

この貴重な楽器は、興福寺の西金堂が 734 年に建立された際に奉納されたもので、八部衆像とともに、金光明経の一場面を思わせる情景を形成していました。

元々この楽器は「金鼓（こんく）」と呼ばれていましたが、室町時代（1336-1573）までには中国の華原地方にちなんで華原磬と呼ばれるようになります。現在の陝西省耀州にあたる華原は、鉦に使われる石の産地でした。現在のこの鉦の打ち金部分は石ではなく金属でできており、鎌倉時代（1185-1333）に取り替えられたものです。

銅の合金製で、伏せた獅子の背中に取り付けられている台は、平安時代（794-1185）に後から付け加えられたものです。雄と雌の龍が棒の上端に絡みつき、周囲を睨んでいます。当初金箔が貼られていたと思われる鉦は、2 匹の龍のカーブした胴体の間に吊り下げられています。龍のうろこひとつひとつ、毛の一本一本まで細かく表現されており、高い鑄造技術が伺えることから、おそらく唐の時代（618-907）の中国で制作され、奈良時代（710-794）に日本にもたされたものと考えられます。

【タイトル】 国宝館・金銅燈籠・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****金銅燈籠****国宝**

这盞合金銅燈（日文通稱“燈籠”）鑄於公元 816 年，是日本第二古老的燈籠，最古老的是東大寺一尊類似的燈具。興福寺這盞銅燈原是供奉佛陀的長明燈，安放在 813 年落成的南圓堂內。如今燈具頂部已遺失不存，其他部件在過去若干世紀裏也有過更換修補。儘管如此，它依然是南圓堂早期留存至今的唯一文物。

在日本佛寺中常常能見到以這盞銅燈為原型的燈具，十分風行，至於這類燈具一概被統稱為「南圓堂型燈籠」。

興國寺金銅燈籠最初的面板上刻有高僧空海（諡號“弘法大師”；774-835）寫作的銘文。空海是日本佛教中真言密宗的創始人。

<繁体字>**國寶館****金銅燈籠****國寶**

這盞合金銅燈（日文通稱「燈籠」）鑄於西元 816 年，是日本第二古老的燈籠，最古老的是東大寺一尊類似的燈具。興福寺這盞銅燈原是供奉佛陀的長明燈，安放在 813 年落成的南圓堂內。如今燈具頂部已遺失不存，其他部件在過去若干世紀裏也有過更換修補。儘管如此，它依然是南圓堂早期留存至今的唯一文物。

在日本佛寺中常常能見到以這盞銅燈為原型的燈具，十分風行，至於這類燈具一概被統稱為「南圓堂型燈籠」。

興國寺金銅燈籠最初的面板上刻有高僧空海（諡號「弘法大師」；774-835）寫作的銘文。空海是日本佛教中真言密宗的創始人。

<日本語仮訳>**国宝館**

金銅燈籠

国宝

この銅合金製の燈籠は、816年に鑄造されたもので、東大寺にあるものに次いで、日本で2番目に古い燈籠です。813年に建てられた興福寺の南円堂に設置され、昼夜を問わず仏に捧げる火を灯し続けていたと考えられます。何世紀か経て上部の宝珠は失われ、燈籠の一部は取り換えられてきましたが、南円堂の初期の遺物として唯一残っているものです。

この燈籠は日本中の仏教寺院の燈籠の原型となり、数多くの模倣品が作られたことから、「南円堂形」という呼び名まで生まれました。鑄造当時の羽目板に、真言密教の開祖である学僧の空海（弘法大師、774-835）が残した銘文が刻まれています。

【タイトル】 国宝館・燈籠火袋羽目・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****燈籠火袋板****国宝**

这几块铜合金面板来自原南圆堂的金铜灯笼，灯笼制作于公元 816 年，面板上的铭文为高僧空海（谥号“弘法大师”；774-835）所作，他是日本佛教真言密宗的创始人。这盏灯笼的火袋原本由 6 块面板拼合而成，如今仅存 4 块。

铭文表达了为芸芸众生传递光明的主旨。每块面板七行，每行九个字，由橘逸势(782-844)手书。他是平安时代(794-1185)最伟大的书法家之一。平安时代有三大书法家，另一位就是空海本人。能集平安时代三大书法家之二合作的作品，存世仅此一例。

<繁体字>**國寶館****燈籠火袋板****國寶**

這幾塊銅合金面板來自原南圓堂的金銅燈籠，燈籠製作於西元 816 年，面板上的銘文為高僧空海（諡號「弘法大師」；774-835）所作，他是日本佛教真言密宗的創始人。這盞燈籠的火袋原本由 6 塊面板拼合而成，如今僅存 4 塊。

銘文表達了為芸芸眾生傳遞光明的主旨。每塊面板七行，每行九個字，由橘逸勢（782-844）手書。他是平安時代（794-1185）最偉大的書法家之一。平安時代有三大書法家，另一位就是空海本人。能集平安時代三大書法家之二合作的作品，存世僅此一例。

<日本語仮訳>**国宝館****燈籠火袋羽目****国宝**

816年に鑄造された南円堂の燈籠に付属していた銅合金製の羽目板で、真言密教の開祖として知られる学僧の空海（弘法大師、774-835）の筆による銘文が刻まれています。元々6枚の羽目板が燈籠の火袋を囲っていましたが、現存するのは4枚のみです。

銘文は、衆生に光を与えるという概念に主眼をおいた内容になっています。1行9文字、計7行の書は、平安時代（794-1185）の偉大な書家「三筆」の一人である、橘逸勢（782-844）の筆によるものです。空海も三筆の一人であり、これは三筆のうちの2人が合作した、唯一の現存する銘文です。

【タイトル】 国宝館・日本靈異記（上巻）・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****《日本灵异记》上卷****国宝**

这是一卷《日本灵异记》的手抄本，出自公元 904 年，书中所录灵异故事均来自日本的佛教传说，编著者是一位名叫景戒的僧人，成书时间介于公元 787 年到 824 年之间。书中共辑录了 116 个佛教传说，是日本最古老的说话文学文集，也是这类文学的典范之作。说话文学是日本的一个文学类别，涵盖民间故事、神话故事以及宗教或世俗传说等。《日本灵异记》现存仅五份手抄本，均为残卷，其中两份（包括本卷）被指定为国宝。

<繁体字>**國寶館****《日本靈異記》上卷****國寶**

這是一卷《日本靈異記》的手抄本，出自西元 904 年，書中所錄靈異故事均來自日本的佛教傳說，編著者是一位名叫景戒的僧人，成書時間介於西元 787 年到 824 年之間。書中共輯錄了 116 個佛教傳說，是日本最古老的說話文學文集，也是這類文學的典範之作。說話文學是日本的一個文學類別，涵蓋民間故事、神話故事以及宗教或世俗傳說等。《日本靈異記》現存僅五份手抄本，均為殘卷，其中兩份（包括本卷）被指定為國寶。

<日本語仮訳>**国宝館****日本靈異記（上巻）****国宝**

787 年から 824 年の間に僧の景戒によって書かれた、「日本靈異記」の 904 年の写本。日本靈異記は、宗教的なものからそうでないものまでさまざまなジャンルの民話、神話、伝説をまとめた日本最古の説話集で、116 の仏教説話が収められています。日本靈異記の写本は断片的な 5 点が現存し、そのうち 2 点が国宝に指定されています。

【タイトル】 国宝館・木造梵天・帝釈天立像・重要文化財

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**国宝館****木造梵天・帝釋天立像****重要文化財**

这两尊木像出自镰仓时代(1185-1333)，分别为梵天像和帝释天像。两者原本都是印度教里的大神，进入佛教后成为了执掌轮回的主神。梵天手持莲花，对应印度教的创世神。帝释天身披铠甲，手拿卷轴，对应印度教的雷神和战神。

两尊佛像均为 13 世纪早期日本匠人所作，模仿了 12 世纪中国宋朝的造像风格，这一点从翘起的鞋尖和波纹状的衣褶便可见一斑。这对佛像原本供奉于兴福寺西金堂内，安放在本尊佛释迦牟尼像旁。

<繁体字>**國寶館****木造梵天・帝釋天立像****重要文化財產**

這兩尊木像出自鎌倉時代（1185-1333），分別為梵天像和帝釋天像。兩者原本都是印度教裏的大神，進入佛教後成為了執掌輪回的主神。梵天手持蓮花，對應印度教的創世神。帝釋天身披鎧甲，手拿卷軸，對應印度教的雷神和戰神。

兩尊佛像均為 13 世紀早期日本匠人所作，模仿了 12 世紀中國宋朝的造像風格，這一點從翹起的鞋尖和波紋狀的衣褶便可見一斑。這對佛像原本供奉於興福寺西金堂內，安放在本尊佛釋迦牟尼像旁。

<日本語仮訳>**国宝館****木造梵天・帝釈天立像****重要文化財**

鎌倉時代（1185-1333）に制作された木造の梵天・帝釈天の立像。梵天と帝釈天は元々ヒンドゥー教の神でしたが、復活（転生）を司る神として仏教に取り入れられました。蓮の花を手にした梵

天はブラフマー神を、鎧を身にまとい巻物を持つ帝釈天は天界と稲妻と戦いの神であるインドラを元に見ています。

13 世紀初頭に日本で作られたこの像は、12 世紀（宋王朝）の中国の様式を模倣しており、上向きに反り上がった靴のつま先や、衣の波形のひだなどにそれを見て取ることができます。当初は興福寺西金堂の本尊の釈迦如来像とともに祀られていました。

【タイトル】 東金堂・木造十二神将立像・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**东金堂****木造十二神将立像****国宝**

这些栩栩如生、充满力量感的雕像出自1207年前后，取材日本桧木，采用寄木造法制作。它们刻画的是药师佛的护法十二神将。作为佛教护法神，十二神将负责守护信徒远离疾疫伤害。铠甲、武器和凶恶的面容都是为了威慑佛教徒的敌人，同时鼓励众生摒弃一切有害的行为。作为一个整体，十二神将象征着药师佛的十二大誓愿，是佛自身怒相的显示。每位神将的头冠上都有一种动物，刚好对应中国的十二生肖。

这组神像作者不明，但看起来有可能是定庆工坊的作品。每尊神像的风格和技巧都有所不同，因此，很可能每一尊都是出自不同的造像师之手。这组雕像展现出充满张力与活力的动态感，是镰仓时代(1185-1333)佛像造像的典范之作。

<繁体字>**東金堂****木造十二神將立像****國寶**

這些栩栩如生、充滿力量感的雕像出自1207年前後，取材日本檜木，採用寄木造法製作。它們刻畫的是藥師佛的護法十二神將。作為佛教護法神，十二神將負責守護信徒遠離疾疫傷害。鎧甲、武器和兇惡的面容都是為了威懾佛教徒的敵人，同時鼓勵眾生摒棄一切有害的行為。作為一個整體，十二神將象征著藥師佛的十二大誓願，是佛自身怒相的顯示。每位神將的頭冠上都有一種動物，剛好對應中國的十二生肖。

這組神像作者不明，但看起來有可能是定慶工坊的作品。每尊神像的風格和技巧都有所不同，因此，很可能每一尊都是出自不同的造像師之手。這組雕像展現出充滿張力與活力的動態感，是鎌倉時代（1185-1333）佛像造像的典範之作。

<日本語仮訳>**東金堂**

木造十二神将立像

国宝

1207年頃に制作された、薬師如来の家来である十二神将の像。檜の寄木造による、極めて写実的で迫力のある像です。十二神将は仏教の守護神で、信者を病気や害悪から守る役割を担っています。その鎧や武器、険しい表情は仏敵を威嚇し、衆生が不健全な行いをしないよう導くことを目的としています。十二神全体で薬師如来の十二の大願を象徴しており、これは彼らが仏陀自身の怒りの発露であるということを意味しています。各神将の頭部には、それぞれ十二支の動物が飾られています。

作者は不明ですが、定慶の工房の人間が制作したものと考えられます。12の像はそれぞれ少しずつ作風や技法の面で異なっているため、別々の仏師が製作した可能性もあります。生き生きとしたドラマチックな動きが表現されたこの一連の像は、鎌倉時代（1185-1333）の仏教彫刻の代表作です。

【タイトル】 東金堂・木造維摩居士坐像・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**东金堂****木造維摩居士坐像****国宝**

维摩居士又名维摩诘，是《维摩诘经》里的核心人物。《维摩诘经》是大乘佛教的重要典籍，也是兴福寺的根基之所在，寺名中的“兴福”二字即出自这部佛经。这部经书讲述了维摩诘如何以在家居士的身份领悟了最高的智慧法门，并在论经中胜过了佛陀身边所有最了不起的弟子，包括文殊菩萨——他也出现在了这件雕刻作品中。基于以上种种原因，长久以来，维摩诘居士都被视为典范，激励着全亚洲的佛教徒。

这尊坐像出自1196年，是佛像造像师定庆的作品，佛像取材日本桧木，采用拼合多块木材的寄木造工艺雕刻而成。装饰由画师幸圆完成。维摩诘在这里以受到疾病和年纪困扰的老人形象出现。他结珈趺坐在一个长方形基座上，基座饰有狮子和牡丹花的浮雕，身后竖着一个木架状的屏风，上面覆盖着织物。维摩诘本身头戴软帽，简单的素袍上只系着一条衣带，左手齐胸握拳，右手置于膝上，掌心朝上，食指和中指展开。这尊雕像意在表现一个真实的人，而非佛或仙人，因此，成为了镰仓时代(1185-1333)早期高度写实造像风格的杰出代表。这一造像风格自中国传入，为当时承袭奈良式造像的日本造像师所吸纳，并付诸实践。

<繁体字>**東金堂****木造維摩居士坐像****國寶**

維摩居士又名維摩詰，是《維摩詰經》裏的核心人物。《維摩詰經》是大乘佛教的重要典籍，也是興福寺的根基之所在，寺名中的「興福」二字即出自這部佛經。這部經書講述了維摩詰如何以在家居士的身份領悟了最高的智慧法門，並在論經中勝過了佛陀身邊所有最了不起的弟子，包括文殊菩薩——他也出现在了這件雕刻作品中。基於以上種種原因，長久以來，維摩詰居士都被視為典範，激勵著全亞洲的佛教徒。

這尊坐像出自1196年，是佛像造像師定慶的作品，佛像取材日本檜木，采用拼合多塊木材的寄木造工藝雕刻而成。裝飾由畫師幸圓完成。維摩詰在這裏以受到疾病和年紀困擾

的の老人形象出現。他結珈趺坐在一個長方形基座上，基座飾有獅子和牡丹花的浮彫，身後豎著一個木架狀の屏風，上面覆蓋著織物。維摩詰本身頭戴軟帽，簡單的素袍上只系著一條衣帶，左手齊胸握拳，右手置於膝上，掌心朝上，食指和中指展開。這尊雕像意在表現一個真實の人，而非佛或仙人，因此，成為了鎌倉時代（1185-1333）早期高度寫實造像風格の傑出代表。這一造像風格自中國傳入，為當時承襲奈良式造像の日本造像師所吸納，並付諸實踐。

<日本語仮訳>

東金堂

木造維摩居士坐像

国宝

インドではヴィマラ・キールティの名で知られる維摩居士は、大乘仏教に強い影響を与えた經典である維摩經における中心的な人物です。維摩經は興福寺の根本經典でもあり、興福寺の名前もこの中の言葉に由来しています。經典には、維摩が出家することなく最も高い悟りを得たことや、仏陀を取り巻くあらゆる高弟たちを議論で打ち負かしたことが記述されています。その中には、本像と並んで置かれている文殊菩薩も含まれます。これらの理由から、維摩居士はアジア全体において仏教徒の模範、インスピレーションを与える存在とされてきました。

1196年に仏師の定慶が檜の寄木造りでこの像を制作し、彩色を絵師の幸円が手がけました。維摩は病氣と老齡で衰えた人物として表現されており、獅子や牡丹の浮き彫りを施した長方形の台座の上に、蓮華座の姿勢で座っています。背後には、木製の柵に布をかけたような衝立が立っています。維摩はやわらかな布の帽子をかぶり、無地の衣の上に帯を締めています。左手は胸の高さで拳を握りしめ、右手は膝に置き、手のひらを上に向け人差し指と中指を伸ばしています。仏陀や天人ではない実在の人間を表現したこの像は、鎌倉時代（1185-1333）の初期に中国から取り入れられ、奈良の彫刻家によって具現化された新しい写實的な仏教彫刻として、非常に優れた作品です。

【タイトル】 東金堂・木造文殊菩薩坐像・国宝

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**东金堂****木造文殊菩薩坐像****国宝**

文殊菩薩是大乘佛教中的大菩薩之一。作為智慧的化身，他是佛教教義的代表，也是傳達、解說教義的佛經守護者。由於文殊菩薩與學問、學習關聯緊密，東金堂的這尊佛像一直受到歷代學僧的尊崇。學生們也會前來參拜，祈禱文殊菩薩保佑他們順利通過高中和大學的入學考試。

研究者認為，這尊佛像出自 12 世紀的最後十年間，創作者可能是定慶或某位慶派造像師。佛像使用日本桧木製成，採用了寄木造工藝，以水晶眼球、彩繪鍍金為特色。

文殊菩薩半趺坐於坐騎獅子馱著的蓮花寶座上，身穿胸甲，外披垂墜的袈裟，背後有雙輪狀背光。儘管袈裟和鎧甲的多彩富麗顯示出平安時代(794-1185)晚期的風格，但佛像整體風格依然基於 12 世紀自中國宋朝傳入的造像樣式。菩薩面容展現出智慧、少年氣的特徵，頭冠上裝飾著一本印度裝訂式樣的书，喻示著文殊菩薩的身份正是佛法的守護和傳播者。

<繁体字>**東金堂****木造文殊菩薩坐像****國寶**

文殊菩薩是大乘佛教中的大菩薩之一。作為智慧的化身，他是佛教教義的代表，也是傳達、解說教義的佛經守護者。由於文殊菩薩與學問、學習關聯緊密，東金堂的這尊佛像一直受到歷代學僧的尊崇。學生們也會前來參拜，祈禱文殊菩薩保佑他們順利通過高中和大學的入學考試。

研究者認為，這尊佛像出自 12 世紀的最後十年間，創作者可能是定慶或某位慶派造像師。佛像使用日本檜木製成，採用了寄木造工藝，以水晶眼球、彩繪鍍金為特色。

文殊菩薩半趺坐於坐騎獅子馱著的蓮花寶座上，身穿胸甲，外披垂墜的袈裟，背後有雙輪狀背光。儘管袈裟和鎧甲的多彩富麗顯示出平安時代（794-1185）晚期的風格，但佛像整體風格依然基於 12 世紀自中國宋朝傳入的造像樣式。菩薩面容展現出智慧、少年氣的

特征，頭冠上裝飾著一本印度裝訂式樣的書，喻示著文殊菩薩的身份正是佛法的守護和傳播者。

<日本語仮訳>

東金堂

木造文殊菩薩坐像

国宝

文殊は大乗仏教における偉大な菩薩のうちの一人です。知恵の象徴として仏教の教えを体現し、その教えを伝え知らしめるための経典の守護者としての役割を果たします。学問や知識との関係性から、東金堂の文殊菩薩は長年にわたって興福寺の学僧の守護仏として崇拝されてきました。高校や大学の受験生も、文殊菩薩に合格を祈願します。

この像は、12世紀の最後の10年間に、定慶またはその他の慶派の仏師の手によって制作されたものとされています。「寄木造」で、水晶の目がはめこまれており、顔料と金箔による装飾が施されています。

文殊菩薩は2つのメダルを組み合わせたような形の光背を背にし、獅子の背の上に置かれた蓮華の台座に半跏の姿勢で座っています。鎧の胸当てを身につけており、衣がその上にかかっています。衣や鎧の色彩豊かな装飾は平安時代（794-1185）後期の様式を思わせますが、全体としては12世紀の宋王朝の中国から輸入された仏像を基にしています。賢そうな少年のような顔をしており、頭部には髪飾りをつけ、その上にインド式の書物を載せています。これは、仏教の教えを守り伝えるという文殊の役割を表したものです。

【タイトル】南円堂・木造不空羂索観音菩薩坐像・国宝

【想定媒体】WEB

<簡体字>

南圓堂

木造不空羂索观音菩萨坐像

国宝

不空羂索观音是大慈大悲观音菩萨的化身之一，名字取自菩萨一只手中所握的羂索。羂索本指网或绳套，在这里表示：观音菩萨用羂索解救身陷苦海的芸芸众生，保佑他们免受伤害，心愿得偿。

这尊雕像出自 1189 年，以多块木料拼合的寄木造法制成，是南圆堂的本尊神。不空羂索观音菩萨有八只手。第一对双手合十于胸前。第二对的左手持一朵莲花，右手执锡杖。第三对向两侧展开，掌心朝上，放置于臀侧。第四对，左手握羂索，右手持拂尘。

观音的头发结成一个高耸的顶发髻，束于头冠内，头冠正面为一尊小阿弥陀佛立像。观音像前额绘有纵向的第三只眼，上半身自左肩斜披鹿皮。

佛像造像师康庆带着弟子花了 15 个月的时间雕琢这尊观音像。从健壮的躯干和庄严的表情可以推测，雕刻者是在有意识地模仿奈良时代(710-794)和平安时代(794-1185)早期的造像风格。

<繁体字>

南圓堂

木造不空羂索觀音菩薩坐像

國寶

不空羂索觀音是大慈大悲觀音菩薩的化身之一，名字取自菩薩一只手中所握的羂索。羂索本指網或繩套，在這裏表示：觀音菩薩用羂索解救身陷苦海的芸芸眾生，保佑他們免受傷害，心願得償。

這尊雕像出自 1189 年，以多塊木料拼合的寄木造法製成，是南圓堂的本尊神。不空羂索觀音菩薩有八只手。第一對雙手合十於胸前。第二對的左手持一朵蓮花，右手執錫杖。第三對向兩側展開，掌心朝上，放置於臀側。第四對，左手握羂索，右手持拂塵。

觀音的頭髮結成一個高聳的頂髮髻，束於頭冠內，頭冠正面為一尊小阿彌陀佛立像。觀音像前額繪有縱向的第三只眼，上半身自左肩斜披鹿皮。

佛像造像師康慶帶著弟子花了 15 個月的時間雕琢這尊觀音像。從健壯的軀幹和莊嚴的表情可以推測，雕刻者是在有意識地模仿奈良時代（710-794）和平安時代（794-1185）早期的造像風格。

<日本語仮訳>

南円堂

木造不空羂索観音菩薩坐像

国宝

不空羂索観音は、仏教における慈悲の神とされる観音菩薩の「変化観音」のひとつです。その名前は手に持っている綱、すなわち「羂索」に由来しており、羂索は衆生を救済し、害悪から守り、そしてその願いや願望を叶えるために使われます。

この像は寄木造による 1189 年の作で、南円堂の本尊です。不空羂索観音は 4 対の腕を持った姿で表されます。1 対は胸の前で合掌し、2 対目の左腕は蓮を持ち、右手は錫杖を持っています。3 対目は掌を上に向けて脇の外側に広げられ、4 対目の左手は羂索を持ち、右手には払子を持っています。

高く結った髪には、小さな阿弥陀仏の立像をあしらった冠が被せられています。額には縦長の第 3 の目があり、上半身は左肩から鹿の毛皮が斜めにかけてられています。

仏師の康慶とその弟子たちが 15 カ月の期間をかけて制作しました。重厚感のある体躯と威厳に満ちた表情に、仏師たちが奈良時代（710-794）や平安時代（794-1185）初期の様式を意識的に模倣したことが伺えます。

【タイトル】北円堂・木造弥勒如来坐像・国宝

【想定媒体】WEB

<簡体字>**北圓堂****木尊弥勒如来坐像****国宝**

这是一尊未来佛弥勒的塑像，也是北圆堂的本尊佛。在佛教信仰中，弥勒佛是现在佛释迦牟尼的继任者，将在这个世界的56亿7万年时降生，成为下一任佛陀。在这里，弥勒佛被刻画为已经完全开悟的佛，预示着他将来降生后的模样。佛像完成于1212年前后，以桧木为材料，采用多块木料拼接的寄木造工艺雕刻而成。

佛像体内藏有文书，其中有的注明了1212年的日期。基座内侧有源庆、静庆、运贺、运助、运觉、湛庆、康弁、庆运、康胜等佛像造像师的手书签名。综合以上证据，可知这尊佛像是源庆佛师率领众人完成的团队作品。运庆佛师(1150-1223)是造像的指导者，有可能也是设计者，因此，这尊弥勒佛像通常被视为运庆的作品。

<繁体字>**北圓堂****木尊彌勒如來坐像****國寶**

這是一尊未來佛彌勒的塑像，也是北圓堂的本尊佛。在佛教信仰中，彌勒佛是現在佛釋迦牟尼的繼任者，將在這個世界的56億7萬年時降生，成為下一任佛陀。在這裏，彌勒佛被刻畫為已經完全開悟的佛，預示著他將來降生後的模樣。佛像完成於1212年前後，以檜木為材料，採用多塊木料拼接的寄木造工藝雕刻而成。

佛像體內藏有文書，其中有的註明了1212年的日期。基座內側有源慶、靜慶、運賀、運助、運覺、湛慶、康弁、慶運、康勝等佛像造像師的手書簽名。綜合以上證據，可知這尊佛像是源慶佛師率領眾人完成的團隊作品。運慶佛師（1150-1223）是造像的指導者，有可能也是設計者，因此，這尊彌勒佛像通常被視為運慶的作品。

<日本語仮訳>**北円堂**

木造弥勒如来坐像

国宝

この弥勒如来坐像は北円堂の本尊です。弥勒菩薩は釈迦牟尼の直接の後継者であり、56億7千万年後にこの世界に生まれ、次なる仏陀となる存在とされます。ここでは、弥勒如来は悟りを開いた仏陀の姿で表され、この世界における未来の姿を予示しています。檜の寄木造によるこの像は、1212年頃の作とされています。

像の完成時に内部に数多くの文書が納められ、そのうちのいくつかには1212年という年号が記されています。さらに、源慶、静慶、運賀、運助、運覚、湛慶、康弁、康運、康勝といった数多くの慶派の仏師たちの名前が、台座の内側に墨で書きつけられています。これらの事実を総合して、この像は源慶率いる仏師の集団によって制作され、その全体を統括したのが本像を構想したとされる有名な仏師運慶（1150-1223）であると考えられるため、この像は、運慶の作とされています。

【タイトル】北円堂・木造無著・世親立像・国宝

【想定媒体】WEB

<簡体字>**北圓堂****木造无著·世亲立像****国宝**

无著和世亲是公元 4 至 5 世纪时生活在印度西北部的著名高僧，通常认为他们是兄弟俩。这组雕像被认为是著名佛像造像师运庆(1150-1223)的作品，完成于 1212 年前后。它们分侍弥勒佛像左右。弥勒是未来佛，相传曾在无著的梦中显圣。无著记录下弥勒佛的教诲，传给了世亲。法相宗的信徒尊奉这对兄弟为创派祖师，而兴福寺正是法相宗的大本山之一。

这对雕像采用多块木料拼合的寄木造工艺制成，形象栩栩如生。在创作过程中，运庆试图超越种族与历史背景的限制，塑造佛教徒的完美典型形象。两尊雕像虽为一对，表情却大异其趣。较为年长、憔悴的无著手托包袱至胸前，双眼低垂，凝望着众生。弟弟世亲则是中年人形象，目光坚定地望向远方。两尊雕像皆体阔身宽，传递出尊严与自信，水晶镶嵌的眼睛令雕像面容更加鲜活生动。因此，它们不但被视为运庆毕生创作的代表作，也是日本雕刻史上最伟大的杰作之二。

<繁体字>**北圓堂****木造無著·世親立像****國寶**

無著和世親是西元 4 至 5 世紀時生活在印度西北部的著名高僧，通常認為他們是兄弟倆。這組雕像被認為是著名佛像造像師運慶（1150-1223）的作品，完成於 1212 年前後。它們分侍彌勒佛像左右。彌勒是未來佛，相傳曾在無著的夢中顯聖。無著記錄下彌勒佛的教誨，傳給了世親。法相宗的信徒尊奉這對兄弟為創派祖師，而興福寺正是法相宗的大本山之一。

這對雕像採用多塊木料拼合的寄木造工藝製成，形象栩栩如生。在創作過程中，運慶試圖超越種族與歷史背景的限制，塑造佛教徒的完美典型形象。兩尊雕像雖為一對，表情卻大異其趣。較為年長、憔悴的無著手托包袱至胸前，雙眼低垂，凝望著眾生。弟弟世親則是中年人形象，目光堅定地望向遠方。兩尊雕像皆體闊身寬，傳遞出尊嚴與自信，水晶

鑲嵌的眼睛令雕像面容更加鮮活生動。因此，它們不但被視為運慶畢生創作的代表作，也是日本雕刻史上最偉大的傑作之二。

<日本語仮訳>

北円堂

木造無著・世親立像

国宝

仏師・運慶（1150-1223）による 1212 年頃の作とされるこの 2 体の立像は、無著と世親という有名な学僧の像です。無著と世親は 4 世紀から 5 世紀にかけてインド北西部に住んでいた兄弟で、その像は無著の夢に現れたと言われる未来仏である弥勒如来坐像の両脇に安置されています。無著は弥勒の教えを書き留め、それを世親に渡したとされており、興福寺を総本山とする法相宗の信者たちは、この 2 人を開祖として崇めています。

この非常に生き生きとした寄木造りの像を制作するにあたって、運慶は、民族や時代背景を超えた、仏教徒の理想の姿を表現しようとしました。この 2 つの像は対をなすものですが、その表情は大きく異なります。老齢でやせ衰えた無著は、胸の高さに布にくるまれた包みを抱えて、穏やかに衆生を見下ろしています。弟の世親は中年の男性として描かれており、決意に満ちた眼差しで遠くを見つめています。どちらの像も、大きな体が堂々とした威厳や自信に満ちた印象を与えており、水晶の目が表情を生き生きとさせています。こうした理由から、両像は運慶の代表作であるばかりでなく、日本彫刻の最高傑作とも言われています。

【タイトル】 中金堂・木造吉祥天倚像（厨子入り）・重要文化財

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**中金堂****木造吉祥天倚像（佛橱内）****重要文化财产**

作为美、繁荣与财富之神，吉祥天是佛教诸神佛之一，对应印度教中司掌美与幸运的吉祥天女拉克什米。根据佛像基座上的铭文记载，这尊雕像是造像师康庆于1340年所做。天女像供奉于兴福寺中金堂中央须弥坛的背面，面朝北方，背靠该堂本尊佛像。在1717年中金堂被毁以前，这尊神像一直都是吉祥会的本尊神，人们在每年新年到来之际举办吉祥会，祈祷和平与繁荣。

这尊吉祥天坐在一个高台座上，身着彩色敞袖佛衣，头戴宝冠，左手托如意宝珠，右手伸出若招手状。神像内藏有墨绘的曼荼罗纸卷以及五谷、五宝。佛橱的柜门内侧绘有梵天与帝释天像，两者最初也都是印度教神明。橱内背板上绘白象，象鼻所托容器中散落着如意宝珠。佛橱只在每年的前7天打开。

<繁体字>**中金堂****木造吉祥天倚像（佛橱内）****重要文化财产**

作为美、繁荣与财富之神，吉祥天是佛教诸神佛之一，对应印度教中司掌美与幸运的吉祥天女拉克什米。根据佛像基座上的铭文记载，这尊雕像是造像师康庆于1340年所做。天女像供奉于兴福寺中金堂中央须弥坛的背面，面朝北方，背靠该堂本尊佛像。在1717年中金堂被毁以前，这尊神像一直都是吉祥会的本尊神，人们在每年新年到来之际举办吉祥会，祈祷和平与繁荣。

这尊吉祥天坐在一个高台座上，身著彩色敞袖佛衣，头戴宝冠，左手托如意宝珠，右手伸出若招手状。神像内藏有墨绘的曼荼罗纸卷以及五谷、五宝。佛橱的柜门内侧绘有梵天与帝释天像，两者最初也都是印度教神明。橱内背板上绘白象，象鼻所托容器中散落着如意宝珠。佛橱只在每年的前7天打开。

<日本語仮訳>

中金堂

木造吉祥天倚像（厨子入り）

重要文化財

美と繁栄、富の神である吉祥天は、ヒンドゥー教の美と幸運の女神であるラクシュミーが仏教に取り込まれたものです。台座に記された銘文によると、この像は 1340 年に仏師の寛慶によって作られたもので、興福寺の中金堂の須弥壇の後ろに、本尊と背中合わせで北向きに安置されました。1717 年に中金堂が破壊されてしまうまでは、この像は新年に平和と繁栄を祈る吉祥会の本尊として使用されていました。

吉祥天は袖の広い色とりどりの衣を身に着け、精緻な宝冠をかぶって台座に座っています。左の掌に如意宝珠（願いを叶える宝玉）を持ち、右手は手招きをするように伸ばしています。像の内部には紙に墨で描かれた種子曼荼羅や五穀、五宝などが納められています。厨子の扉の内側には、元々インドの神であった梵天と帝釈天が描かれており、背面には白象が鼻でつかんだ器から如意宝珠を撒き散らしている様子が描かれています。厨子の扉は、新年の 7 日間のみ開けられます

地域番号	007	協議会名	古代出雲歴史博物館
------	-----	------	-----------

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
007-001	古代出雲へようこそ	405	看板
007-002	古代出雲へようこそ	765	WEB
007-003	宇豆柱	570	WEB
007-004	出雲大社：創建	820	WEB
007-005	出雲大社：本殿の変化	1010	WEB
007-006	神在月：神々のいる月	570	WEB
007-007	『出雲国風土記』の世界	425	WEB
007-008	古代出雲の暮らし	395	WEB
007-009	青銅器と金色の大刀	530	WEB
007-010	神話シアターと出雲神話回廊	485	WEB
007-011	「中世のヲロチ神話」： 『古事記』のヤマタノヲロチ神話の再話	640	WEB
007-012	オオクニヌシ（大国主）神話	720	WEB
007-013	スサノヲ（須佐之男命）神話	830	WEB
007-014	風土記神話	635	WEB

【タイトル】 古代出雲へようこそ

【想定媒体】 看板

<簡体字>

欢迎来到古代出云国

岛根县立古代出云历史博物馆藏品丰富，仅国宝就有 419 件。馆内保存并展示了大量与本地历史有关的文物，尤以被称为“众神之国”的出云国为最。作为组成如今岛根县的古代三“国”之一，出云国在日本最古老的编年史籍中都被提及，同时，在日本神话和早期政治史中拥有重要意义。

三个主题展室聚焦在古代出云的文化与精神传统。其中之一就以坐落于博物馆西侧的神社——出云大社为主题，另两个则着重于展示古代日常生活及本地区史前遗址出土的大量铜剑、铜铎。博物馆的神话剧场会播放 4 部介绍出云神话的短片，综合展室则介绍岛根地区史前至近现代的文化 and 历史。

博物馆建于 2007 年，由国际著名建筑师槇文彦操刀设计。他在建筑中融入了本地历史元素，比如使用钢制的墙壁来体现岛根县曾是“踏鞴”(Tatara)制铁工业城镇。

正门前的桂花树大道长约 109 米，与昔日通往出云大社本殿的古台阶的长度相等。

来吧，欢迎探访岛根与古代出云国的世界！

<繁体字>

歡迎來到古代出雲國

島根縣立古代出雲歷史博物館館藏豐富，僅國寶就有 419 件。館內保存並展示了大量與當地歷史有關的文物，尤以被譽為「眾神之國」的出雲地區所出土的文物最多。出雲國為組成今日島根縣的古代三「國」之一，並在日本神話和早期政治史中扮演著重要角色，在日本早期的編年史中也佔有一席之地。

三個主題的展覽室聚焦在古代出雲國的文化與傳統精神。其中一間展覽室以位於博物館西側的神社——出雲大社為主題，另外兩間則展示古代日常生活及當地史前遺址出土的大量銅劍、銅鐸。博物館的神話劇場每天連播 4 部介紹出雲神話的短片，綜合展覽室則介紹島根地區史前至近現代的文化與歷史。

博物館建於 2007 年，由國際著名建築師槇文彥操刀，在設計中融入了當地歷史元素，例如博物館的鋼製牆壁反映了島根縣曾是「踏鞴」(Tatara)製鐵工業城鎮。

連接正門的桂花樹大道長約 109 公尺，與舊時通往出雲大社本殿的古臺階的長度相等。

歡迎探索島根與古代出雲國的世界！

<日本語仮訳>

古代出雲へようこそ

島根県立古代出雲歴史博物館は、国宝 419 点をはじめ、島根県の歴史、特に「神々の国」と呼ばれる出雲として知られる地方の歴史に関する豊富な資料を保存・展示しています。出雲は現在の島根県を構成する 3 つの旧国のうちの 1 つです。出雲は、日本の最初期に書かれた年代記のいくつかにも登場しており、日本の神話や初期の政治史において重要な意味を持っています。

3 つのテーマ別展示室では、古代出雲の精神的な伝統や文化を紹介しています。これらのうちの 1 つは、博物館のすぐ西に位置する神道の神社である出雲大社をテーマにしたものです。そのほかにも、古代の日常生活の様子や、この地域の先史時代の遺跡から出土した膨大な量の銅剣や銅鐸を展示しています。また、博物館の神話シアターでは、出雲を舞台にした神話を紹介する 4 本の短編映画を上映しています。総合展示室では、島根県の歴史と文化を先史時代から現代まで紹介しています。

2007 年に設立されたこの博物館は、国際的に著名な建築家である槇文彦氏が、地元の歴史的要素を取り入れて設計したものです。例えば、博物館の鉄の壁は、島根県がたたら製鉄の町であったことを表しています。

メインエントランスに続く桂の並木道の長さは約 109 メートルで、かつて出雲大社の本殿に続いていた階段の長さを反映したものです。

島根県と古代出雲の世界に足を踏み入れてみましょう！

【タイトル】 古代出雲へようこそ

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

欢迎来到古代出云国

岛根县立古代出云历史博物馆内保存并展出大量与岛根县历史有关的文物，尤以“出云国”为最，藏品中包括 419 件国宝。今天的岛根县在古代曾被划分为三块行政区域，称为“国”。出云国就是其一，向来有“众神之国”之称。出云国在日本最古老的一些编年史籍中都被提及，同时，在日本神话和早期政治史中拥有重要意义。

馆内三个主题展室重点展现了古代出云国的文化与精神传统。第一个展室聚焦出云大社，这座神社就位于博物馆西侧，与三重县的伊势神宫并列为日本最重要的两大神社。相传，出云大社的本殿（正殿）当初曾高达 48 米。展室内陈列着多个模型，均为后世建筑师尝试重建这一结构外观的作品。博物馆的第二个主题展室，主要通过一卷名为《出云国风土记》的 8 世纪古籍展示古代出云国的日常风土人情。第三个展室展出大量铜剑、铜铎，其历史可追溯至弥生时代（公元前 800 年—公元 300 年）。这些展品多出土于古出云地区的两处遗址，其中许多已被指定为国宝。

博物馆综合展室着重介绍岛根地区的历史与文化。展品年代跨越史前至现代，种类多样，主题广泛，例如：本地区独特的墓葬样式；“踏鞴”(Tatara)制铁工业（日本古代以砂铁和木炭为原料的制铁方法）发展历程；古代出云国在有关相扑起源的神话中所扮演的角色。

来访者可以在博物馆的“出云神话回廊（神话剧场）”了解出云神话，其中，神话剧场全天轮播 4 部短片。剧场配备电子设备，可为来访者提供短片的英文解说。

博物馆免费提供中文语音导览服务，同时，除神话剧场以外的大部分展示的视频解说均带中文字幕。

博物馆一楼设有信息中心、讲座厅、博物馆商店、投币式储物柜和无障碍洗手间（轮椅可入）。二楼的咖啡厅提供简餐和饮品，来访者可以一边欣赏庭园和北山山系美景，一边享用使用本地食材和古代品种稻米烹制的美食。三楼观景台同样可以观赏北山山系景观。

<繁体字>

歡迎來到古代出雲國

島根縣立古代出雲歷史博物館內，保存並展出大量與島根縣歷史有關的文物，其中以出雲地區出土的文物最多，館藏現有 419 件國寶。出雲向來有「眾神之國」的稱號，是組

成今日島根縣的古三「國」（古代日本行政區劃，並非「國家」）之一。出雲國在最早期日本編年史中都被提及，同時，在日本神話和早期政治史中也擁有重要意義。

館內三個主題的展覽室主要展現了古代出雲地區的文化與精神傳統。第一個展覽室聚焦出雲大社。這座位於博物館西側的神社，與三重縣的伊勢神宮並列為日本最重要的兩大神社。相傳，早期的出雲大社的本殿（正殿）曾高達 48 公尺。展覽室內陳列著多個模型，均為後世建築師重新勾勒詮釋大殿外觀結構的嘗試。博物館的第二個主題展覽室，透過 8 世紀名為《出雲國風土記》古卷的敘述，還原古代出雲國的日常風俗民情。第三個展覽室展出大量銅劍、銅鐸，其歷史可追溯至彌生時代（西元前 800 年—西元 300 年）。這些展品多出土於古出雲地區的兩處遺址，其中許多已被指定為國寶。

博物館綜合展覽室著重介紹島根地區的歷史與文化。展品包括了史前至現代，主題廣泛，像是該地區獨特的墓葬型式，「踏鞴」（Tatara）製鐵工業的（日本古代以砂鐵和木炭為原料的製鐵方法）發展歷程，以及古代出雲國在相撲起源的神話中所扮演的角色等。

遊客可以在館內的「出雲神話迴廊（神話劇場）」瞭解出雲的神話，其中，神話劇場整天輪播 4 部短片。劇場備有電子設備，可為遊客提供短片的英文解說。

博物館免費提供中文語音導覽服務，並且除了神話劇場以外的大部分其他影片均帶中文字幕。

博物館一樓設有遊客服務中心、演講廳、禮品店、投幣式儲物櫃和無障礙洗手間（輪椅適用）。二樓的咖啡廳提供簡餐和飲品，遊客可以一邊欣賞庭園和北山山系的美景，一邊享用使用當地食材和古代品種稻米烹調的美食。三樓設有可眺望北山山脈景觀的觀景台。

<日本語仮訳>

古代出雲へようこそ

島根県立古代出雲歴史博物館は、島根県の特に出雲として知られる地方に関する広範囲な歴史的資料を保存・展示しています。そのうちの 419 点は国宝と指定されています。しばしば「神々の国」と呼ばれる出雲は、現在の島根県を構成する 3 つの旧国のうちの 1 つです。出雲は、日本の最初期に書かれたいくつかの年代記にも登場しており、日本の神話や初期の政治史において重要な意味を持っています。

3 つのテーマ別展示室では、古代出雲の精神的な伝統や文化を紹介しています。最初の展示では、博物館のすぐ西にある出雲大社に焦点を当てています。三重県の伊勢神宮と並ぶ出雲大社は、日本で最も有名な 2 つの神道の神社の 1 つです。初期の本殿の高さは 48 メートルにもなったと言われており、展示されているさまざまな模型は、建築家がこの構造の外観を再構築しようとしたことを表しています。2 つ目のテーマ別展示では、8 世紀に書かれた『出雲国風土記』をもとに、古代出雲の日常生活を再現しています。3 つ目の展示は、弥生時代（紀元前 800 年-西暦 300 年）にさかのぼる銅剣や銅鐸の膨大な資料です。出雲地方の二つの遺跡から出土したもので、その多くは国宝に指定されています。

総合展示室では、島根県の歴史と文化に焦点を当てています。先史時代から現代まで、島根県独特の古墳、たたら製鉄（砂鉄と木炭を原料とする日本古来の製鉄方法）の発展、相撲起源の

神話における古代出雲の役割など、幅広いテーマの展示を行っています。

「出雲神話回廊（神話シアター）」では出雲の神話について学ぶことができ、神話シアターでは一日中 4 本の短編映画が順番に上映されています。映画の内容を英語で解説する電子機器も用意されています。

館内では、無料で中国語の音声ガイドが利用できます。また、神話シアター以外の館内の多くの映像展示は中国語字幕でご覧いただけます。

館内 1 階には、インフォメーションセンター、講義室、ミュージアムショップ、コインロッカー、車椅子用トイレがあります。また、2 階の軽食やドリンクを提供するカフェでは、庭園、北山山系を眺めながら、飲物、古代米・地元食材を使った軽食などを楽しむことができます。3 階には北山山系を一望できる展望テラスがあります。

【タイトル】 宇豆柱

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**宇豆柱**

博物館中央大廳內陳列著兩根巨大的木柱殘骸，它們曾支撐著13世紀的出雲大社本殿（正殿）。這些立柱原本被掩埋在出雲大社的八足門（本殿正門）附近，出土於2000年開始的一次為期一年的考古發掘中。當年的出雲大社本殿與現在一樣，也有9根木柱以3×3的形式排列支撐著社殿。發掘中出土了9根立柱中的3根：中央的“心御柱”、正面的“宇豆柱”和東南側的“側柱”。其他6根立柱的遺骸有可能依然掩埋在如今大社本殿外的圍欄下。

一本公元10世紀的貴族子弟教科書中對出雲大社本殿的描繪稱，它是全國最高的建築，超過了名列第三的京都御所大極殿和第二的東大寺大佛殿。傳說中，出雲大社本殿巍然挺立，足有48米高。但在這些巨大的立柱遺跡出土之前，始終沒有切實的證據支持這個說法。現存木柱殘骸單體直徑3米，由三根杉樹的原木組合而成，外面箍有金屬環。無論尺寸還是出土位置，木柱的情況都與著於13世紀至16世紀之間的《金輪御造營差圖》所載很接近。通過碳同位素的進一步測定結果推斷，這些柱子很可能是1248年大社重建時安裝的。

木柱的良好保存狀態令人驚訝。發掘調查結果顯示，在過去的某個時期，曾有兩條河流在大社本殿附近匯聚，木柱浸泡於水中，因此延緩了木材腐壞的進程。

此處展出宇豆柱的殘骸原件及心御柱的等身復制品，後者原件陳列於出雲大社的宝物殿中。側柱則重新埋入了原來的位置。

<繁体字>**宇豆柱**

博物館大廳內陳列著兩根巨大的木柱殘骸，它們曾是支撐著13世紀出雲大社本殿（正殿）的立柱。這些立柱原本被掩埋在出雲大社的八足門（本殿正門）附近，於始於2000年、為期一年的考古發掘中出土。當年的出雲大社本殿與現在一樣，也有9根木柱，以3×3的形式排列支撐著社殿。發掘出土的是9根立柱中的3根，為中央的「心御柱」、正面的「宇豆柱」和東南側的「側柱」。據推測，其餘6根立柱的遺骸依然掩埋在如今大社本殿外的圍欄下。

根據10世紀貴族子弟教科書的描繪，出雲大社的本殿是全國最高的建築，超過了名列第三的京都御所大極殿和第二的東大寺大佛殿。傳說中，出雲大社本殿巍然挺立，足足有

48 公尺高。但在這些巨大的立柱遺跡出土之前，始終沒有切實的證據來支持這個說法。現存木柱殘骸單根直徑 3 公尺，由三根杉樹的原木組合而成，外面箍有金屬環。無論尺寸還是出土位置，木柱的情況都與著於 13 至 16 世紀之間的《金輪御造營差圖》所載很接近。通過碳同位素的進一步測定結果推斷，這些木柱很可能是 1248 年大社重建時所安裝的。

木柱良好的保存狀態令人驚訝。發掘調查結果顯示，過去的某段時期曾有兩條河流在大社本殿附近交匯，木柱浸泡在水中，因而延緩了木材腐壞的速度。

此處展出宇豆柱的殘骸原件及心御柱的原尺寸複製品，後者原件陳列於出雲大社の寶物殿中。側柱則重新埋入了原來的位置。

<日本語仮訳>

宇豆柱

博物館の中央ロビーには、かつて 13 世紀の出雲大社の本殿を支えていた 2 本の巨大な木柱の遺跡が展示されています。この柱は、2000 年から 1 年間にわたって行われた発掘調査で、大社の八足門（本殿の入り口）の近くで発見されました。現代の本殿と同じように、かつての本殿も 9 本の柱を 3×3 に組まれた構造になっていました。発掘調査では、9 本の柱のうち、中央の「心御柱」、正面の「宇豆柱」、南東側の「側柱」の 3 本の遺構が見つかりました。他の 6 本の柱の遺構は、現在の本殿を囲む柵の下に埋まっている可能性があります。

10 世紀の貴族の子弟向けの教科書には、出雲大社の本殿は 3 位の京都御所の大極殿と 2 位の東大寺大仏殿を抑え、かつて日本一の高い建物と言われています。伝承によれば、本殿は 48 メートルの高さを誇ったとされています。しかし、これらの巨大な柱が発見されるまで、その主張を裏付ける物的証拠は限られていました。それぞれの柱は、3 本の杉の丸太を金属製のバンドで束ねたもので、直径 3 メートルの一本の柱になっています。柱の大きさや発見された場所は、13 世紀から 16 世紀の間に作成された『金輪御造營差図』に記されているものと類似しています。放射性炭素年代測定法による更なる分析の結果、1248 年の神殿の改築時に設置された可能性が高いことが明らかになりました。

この柱の保存状態には目を見張るものがあります。発掘調査の結果、過去のある時点で、本殿の近くで 2 つの小川が合流していたことが分かりました。木材が水に浸かったことで、腐敗の進行を遅らせたのです。

展示品には、宇豆柱の実物と、心御柱の実物大の複製品実物が含まれています。心御柱の実物は出雲大社の宝物殿に展示されています。側柱は元の場所に埋め戻されました。

【タイトル】 出雲大社：創建

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

出云大社：創建

主题展室“出云大社与众神之国的祭祀”介绍出云大社的历史、建筑及宗教祭典等内容。出云大社就坐落于博物馆隔壁，是神道教最重要的神社之一。大社的主祭神是大国主神，主管农业发展、国家建设、牵线结缘。在这里，“结缘”的概念并不仅限于夫妻、邻里、同事之间，还包括期盼与农业丰收等日常生活的美好愿景结下“缘分”。

出云大社创建的确切时间不详，但它早在《古事记》和《日本书纪》的“让国神话”（大国主神将国土让给天照大神子孙的故事）中便已登场亮相。另一个提及大社创建的神话则被记录在《出云国风土记》中。这三本古籍的时间都可以追溯到公元 8 世纪，足以证明出云大社长久以来的重要性。

出云大社曾多次重建。大社本殿（正殿）大体延续了“大社造”样式，这是一种以古代民居为基础的神社建筑样式。大社造的结构特点在于“切妻”屋顶（悬山顶）和“妻入”式入口，建有楼梯的入口开在建筑较窄的山墙一侧，且不在正中。此外，大社造建筑的地板浮于地面，底下用立柱支撑。展室中一件珍贵的早期文物上就描绘了这种“高床式”建筑。这是一个公元前 1 世纪的陶罐，出土于邻县鸟取县，罐身上雕刻着一座立柱支撑的建筑，门前有长长的台阶。

展室内的另外几件文物也显示，出云地区早在弥生时代（公元前 800 年—公元 300 年）便已拥有了特殊地位。例如，展品中的巴形玉（勾玉）和青铜戈均出土于大社附近，其历史都可以追溯至弥生时代。其中，勾玉出自如今日本西北部的新潟县，铜戈则出自西部大岛九州的北部地区。当年它们千里迢迢被带到这里，足以证明古代出云是一处重要的地区。而更有力的证据则是一批出自附近遗址的青铜铎与青铜剑，它们都是弥生时代的丧葬礼器。

相传，曾经的出云大社本殿极其宏伟，高达 48 米。根据公元 10 世纪一本名叫《口游》的贵族子弟教科书记载，出云大社本殿的高度超过了排名第三的京都御所大极殿和第二的东大寺大佛殿，是当时全国最高的建筑。展室中央陈列着一座 1:10 比例的大型模型，可供来访者一窥 10 世纪时出云大社的风采。

<繁体字>

出雲大社：創建

主題展覽室「出雲大社與眾神之國的祭祀」介紹出雲大社的歷史、建築及宗教祭典相關的內容。出雲大社坐落於博物館旁，是神道教最重要的神社之一。大社的主祭神是大國主神，掌管農業發展、國家建設及牽線結緣。在這裡，「結緣」的概念並不僅限於夫妻、鄰居、同事之間，還包括比如為農民帶來豐收等等，讓人們的日常生活和美好成果結下「緣份」。

出雲大社創建的確切時間不詳，但早在《古事記》和《日本書紀》的「讓國神話」（大國主神把國土讓給天照大御神子孫的故事）中，它便已登場亮相。另一個提及大社創建的神話被記錄在《出雲國風土記》中。這三本古籍的時間都可以追溯到西元 8 世紀，足以證明出雲大社自古以來的重要性。

出雲大社曾多次重建。大社本殿（正殿）大致延續了「大社造」樣式，是一種以古代民居為基礎的神社建築樣式。大社造的結構特點在於切妻屋頂（懸山頂）和「妻入」式入口，建有樓梯的入口開在建築較窄的山牆側，且不在正中。此外，大社造建築的地板被抬高，用立柱支撐。展覽室中一件珍貴的早期文物上描繪了這種「高床式」建築，它是一個西元前 1 世紀的陶罐，出土於相鄰的鳥取縣，罐身上雕刻著一座立柱支撐的建築，門前有長長的臺階。

展覽室內的另外幾件文物也顯示出，早在彌生時代（西元前 800 年-西元 300 年），出雲地區便已擁有了特殊地位。例如，展品中的巴形玉（勾玉）和青銅戈均出土於大社附近，其歷史都可以追溯至彌生時代。其中，勾玉出自如今日本西北部的新潟縣，銅戈則來自西部大島九州的北部地方。當年它們都千里迢迢被帶到這裡，足以證明古代出雲是一處重要的地區。而更有力的證據則是一批出自附近遺址的青銅鐸與青銅劍，過去都是彌生時代的喪葬禮器。

相傳，曾經的出雲大社本殿極其宏偉，高達 48 公尺。根據西元 10 世紀名為《口遊》的貴族子弟教科書記載，出雲大社本殿的高度超過了名列第三的京都御所大極殿和排名第二的東大寺大佛殿，是當時全國最高的建築。展覽室中央陳列著一座 1:10 比例的大型模型，可供遊客一窺 10 世紀時出雲大社的風采。

<日本語仮訳>

出雲大社：創建

「出雲大社と神々の国のまつり」の展示は、博物館に隣接する重要な神道の神社である出雲大社の歴史、建築、祭祀などをテーマにした展示です。出雲大社の主祭神であるオオクニヌシノカミ（大國主神）は、農業、国造り、縁結びの神でもあります。縁結びの概念は、夫婦や隣人、同僚との関係だけでなく、農家の収穫の成功など、人々の日常生活における良い結果も含んでいます。

出雲大社の正確な創建は定かではありませんが、『古事記』や『日本書紀』に登場する国譲り神話（大國主神が国土を天照大神の子孫に譲る物語）にその起源を見ることができます。また、『出雲国風土記』には、大社の創建についての別の神話が記されています。いずれも 8 世紀頃のもので、出雲大社が古くから重要であったことを物語っています。

出雲大社はその歴史を通じて幾度となく再建されてきましたが、大抵、本殿は古代の住居を基にした神社の建築様式の一つである「大社造」の様式です。大社造りは切妻屋根で、妻側（建物の短辺の一つ）に階段でつながる中心から外れた入口があり、これを「妻入」と呼びます。また、大社造は柱を立てて床を高くしています。博物館の展示室には、このような「高床式」の建築様式を示す貴重な遺物として、紀元前 1 世紀頃の土器があります。この土器は、隣接する鳥取県で出土したもので、長い階段で上る、柱の上に建てた建物が刻まれています。

このほかにも、出雲が弥生時代（紀元前 800 年-西暦 300 年）から特別な意味を持っていたことを示す資料がいくつか展示されています。例えば、弥生時代の巴形の玉（勾玉）と青銅製の戈（銅戈）が大社の近くで出土しています。勾玉は日本の北西部にある現在の新潟県で、銅戈は西の主な島である九州の北部で作られたものです。いずれも大変な距離を移動したもので、古代における出雲の重要性を物語っています。さらに、近隣の遺跡から発見された弥生時代の銅鐸や銅剣の儀式的埋葬が、より強力な証拠となっています。

古代の本殿は、48メートル壮大な建築物だったと言われています。10世紀の貴族の子弟のための教科書『口遊』には、出雲大社が3位の京都御所の大極殿と2位の奈良の東大寺の大仏殿を抑えて、当時の日本で最も高い建物であったと記されています。展示室の中央にある10分の1スケールの大型模型は、10世紀当時の出雲大社の姿を表現しています。

【タイトル】 出雲大社：本殿の変化

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

出云大社：本殿的变迁

自创建以来，出云大社曾经历多次重建。神社殿阁的重建或修建叫作“迁宫”，这个传统是影响大社域内布局及建筑面貌变迁的要因，尤以本殿（正殿）的变化最为明显。“出云大社与众神之国的祭祀”展室内陈列着众多版本的大社本殿模型，它们被认为是这座社殿在各个历史时期的形态。

相传，早期的出云大社本殿规模宏大，但在2000年的考古发现面世之前，几乎没有相关的切实证据。唯一的例外，就是一份有关神殿建造过程中“金轮”（金属箍）的安装图纸，即《金轮御造营差图》，如今馆内展出的是复制品。这份图纸出自13世纪至16世纪之间，图中的本殿是一座由9根立柱支撑的建筑，立柱呈3×3形式排列。每根立柱直径3米，由3根原木组合而成，外面箍有金属环。虽然图中并未注明建筑的整体高度，却标出了正门前台阶的长度，约合109米，由此可知社殿规模可观。2000年，如今的大社本殿附近出土了数根木柱残骸，它们为这样一座庞大建筑在历史上的存在提供了进一步的证明。出土木柱的尺寸与分布都与《金轮御造营差图》中的描述相似，碳同位素测定的结果显示，这些原木很可能安装于1248年。

尽管有了新的证据，但13世纪本殿的真容依然难以确定。这一点从厅中展示的五個1:50比例尺的模型中就能看出来，它们各不相同，体现了不同建筑师对于这座本殿的解读与诠释。

所有本殿模型都漆成了红色，这是为了表现佛教建筑带来的影响。13世纪至17世纪期间，出云大社与附近一座天台宗佛寺关系密切。博物馆展室内陈列着一座1609年的大社全貌立体模型，其域内除了红色的本殿和其他神社建筑外，还矗立着一座三重佛塔。

在1667年大社的一次大规模重建中，人们有意识地减少了神社建筑中的佛教元素。新的本殿与周围建筑均不再上漆，大社钟楼作为佛寺中常见的元素而遭到拆除。原钟楼上的梵钟和大社域内的巨大三重塔被赠送给其他宗教设施。在另一座1667年的大社立体模型上，来访者可以清楚地看到这些重大变化。出云大社如今的本殿建于1744年，与1667年版十分相似。

在过去的数个世纪里，出云大社本殿曾几度重建，但自从1744年之后，便再也没有发起新的重建工程。1952年，现存本殿建筑被指定为国宝，从此不再重建，但大约每60年会迎来一次大修。最近一次大修在2013年，更换了本殿的桧皮葺屋顶。来访者可以在展室

后墙上看到一个巨大的叉状屋脊顶饰及钢条，它们自 1881 年到 1953 年间一直装饰在当时大社本殿的屋顶上。

<繁体字>

出雲大社：本殿的變遷

自創建以來，出雲大社曾經歷多次重建。神社殿閣的重建或修建叫作「遷宮」，這個傳統是影響大社域內佈局及建築面貌變遷的重要因素，尤其以本殿（正殿）的變化最明顯。「出雲大社與眾神之國的祭祀」展覽室陳列著許多版本的大社本殿，展示了這座社殿在各個歷史時期的樣貌。

相傳，早期的出雲大社本殿規模宏大，但在 2000 年的考古發現問世之前，幾乎沒有相關的佐證。唯一的例外是描繪神殿建造過程中「金輪」（金屬箍）的安裝圖紙，即《金輪御造營差圖》，如今館內展出了這份文件的複製品。這份圖紙約繪於 13 至 16 世紀，圖中的本殿是一座由 9 根立柱支撐的建築，立柱呈 3×3 形式排列。每根立柱直徑 3 公尺，由 3 根原木組合而成，外面箍有金屬環以固定。雖然圖中並未註明建築的高度，卻標出了正門前臺階的長度，約 109 公尺，由此可知社殿規模可觀。在西元 2000 年，大社本殿附近出土的數根木柱殘骸，為這座龐大建築在歷史上的存在提供了進一步的證明。出土木柱的尺寸與排列都與《金輪御造營差圖》中的描述相似，碳同位素測定的結果顯示，這些原木很可能立於 1248 年。

儘管有了新的考古證據，這座 13 世紀本殿的外觀依然不明。展覽室中展示了五個 1:50 比例尺的模型，造型各異，不甚相同，都是建築師們對於這座本殿面貌的解讀與詮釋。

所有本殿模型都漆成了紅色，體現出佛教建築帶來的影響。13 至 17 世紀時，出雲大社與附近一座天臺宗佛寺關係密切。博物館展覽室內陳列著一座 1609 年的大社立體模型，其域中，除了紅色的本殿和其他神社建築，還矗立著一座三重佛塔。

在 1667 年的大規模重建中，人們有意識地減少了大社建築中的佛教元素。新的本殿與周圍建築均不再上漆，大社鐘樓被視為佛寺中常見的元素而遭到拆除。原鐘樓上的梵鐘和大社域內的巨大三重塔則被贈送給其他宗教團體。在另一座 1667 年的大社立體模型上，遊客可以清楚地看到這些重大變化。出雲大社如今的本殿建於 1744 年，與 1667 年版十分相似。

在過去數個世紀裡，出雲大社本殿曾幾度重建，但自 1744 年之後，便再也沒有新的重建工程。1952 年，現存本殿建築被指定為國寶，從此不再重建，但約每 60 年會進行大修。最近一次大修在 2013 年，更換了本殿的檜皮葺屋頂。遊客可以在展覽室後牆上看到一個巨大的叉狀屋脊頂飾及鋼條，它們從 1881 年到 1953 年間一直裝飾在當時大社本殿的屋頂上。

<日本語仮訳>

出雲大社：本殿の變化

出雲大社は創建以来、幾度も建て替えられてきました。社殿の再建・修理などを行うことは「遷宮」と呼ばれ、この伝統は、大社の境内や構造、特に本殿の姿の変化に影響を与えてきました。「出雲大社と神々の国の祭り」の展示では、各時代にあったと思われる本殿の姿を多数展示しています。

初期の本殿は大規模なものだったと言われていますが、2000年の考古学的発見まで、物的証拠となるものはほとんどありませんでした。レプリカが展示されている『金輪御造営差図』が唯一の例外でした。この図は13世紀から16世紀の間に作成されたもので、本殿は3×3の構造に組まれた9本の柱によって支えられた建物として描かれています。それぞれの柱の直径は3メートルで、3本の丸太を金属製のバンドで束ねています。建物の高さは明記されていませんが、入り口の階段の長さは約109メートルと記されており、かなりの規模の建物であることがわかります。2000年には、現在の本殿の近くで数本の柱の遺構が発見され、かつてこのような巨大な建造物が存在したという説に信憑性が出てきました。柱の大きさや配置が『金輪御造営差図』の記述と類似していることや、放射性炭素年代測定の結果、1248年に設置された可能性が高いことがわかりました。

このような新しい証拠があるにもかかわらず、13世紀の本殿の正確な姿を決めるのは難しいものです。展示されている5種類の1/50スケールの模型は、それぞれ別の建築家が本殿の姿を表現したものです。

これらの模型は、仏教建築の影響を受けて赤く塗られた本殿を表しています。13世紀から17世紀にかけて、出雲大社は近隣の天台宗寺院と密接な関係にありました。博物館の展示室には、1609年の大社の境内のジオラマがあり、赤く塗られた本殿や社殿、境内に建つ三重塔などが描かれています。

1667年に大社が大規模に再建されたときには、建物から仏教的な影響を減らすことが意識されるようになりました。新たな本殿とその周囲の建造物は無塗装とされ、仏教寺院によく見られる鐘楼は取り壊されました。塔の鐘と大社の壮大な三重塔は、他の宗教施設に寄贈されました。このように大社の姿が大きく変わったことは、1667年当時のジオラマを見れば一目瞭然です。現在の本殿は1744年に建立されたものですが、1667年当時の本殿と非常によく似ています。

過去数世紀の間、本殿は何度も再建されましたが、1744年以降、とりわけ1952年に現在の建物が国宝に指定されてからは、再建は行われていません。その代わりに、およそ60年ごとに大規模なメンテナンスが行われています。最近では、2013年に本殿の檜皮葺きの屋根の葺き替えが行われました。展示室の奥の壁には、1881年から1953年まで屋根を飾っていた巨大なまたしの頂華と銅片が展示されています。

【タイトル】 神在月：神々のいる月

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

神在月：众神到来的月份

传说每到旧历 10 月，来自日本各地的神明就会齐集出云。在接下来的一周里，众神要与出云大社的主祭神大国主神商议，决定诸如来年丰收与否、人际关系如何等事项。因此，在日本的绝大多数地方，这段时间被称为“神无月”，即神明不在的月份；可是在出云，它被称为“神在月”，即众神到来的月份。

众神每年一度相聚出云的传说源于日本早期神话，这些故事都记录在 8 世纪初日本最早的文献中，而文献记录一般总是来源于更久远的口述历史。神话“国让”讲述了大国主神如何同意放弃这片土地，将统治权让给太阳女神（天照大神）子孙的故事。作为交换，他得到了一座煌煌大社和“看不见的世界”的统治权。所谓“看不见的世界”，不但指神明的领域，也包括人类精神世界。就这样，大国主神成为了“结缘”之神，出云大社则作为他的主祭地而创建。

神在月期间，来访的神明都住在本殿（正殿）东西两侧的“十九社”里。出云大社往西约 1 公里处的稻佐滨附近有一座小神社，诸神每天聚集于此，商讨并决定未来一年里各项人际关系的命运。在博物馆中央大厅左侧的“出云大社与众神之国的祭祀”展室中，陈列着一副出自 19 世纪的版雕浮世绘，描绘了艺术家对于这热闹聚会的想象：在一个拥挤的房间，大国主神坐在正中，各路神明正在小木板上逐一写下人名，再用细绳将它们牵系在一起。配对结果最终送呈大国主神审批，由他决定每一对组合的命运。

<繁体字>

神在月：眾神到來的月份

傳說每到農曆 10 月，來自日本各地的神明都會齊聚在出雲。在之後的一周，眾神要與出雲大社的主祭神大國主神商議，決定諸如來年豐收與否、人際關係等事項。因此，在日本的絕大多數地方，這段時間被稱為「神無月」，即神明不在的月份；但在出雲，則稱為「神在月」，即眾神到來的月份。

眾神一年一度相聚出雲的傳說源於 8 世紀初的文獻，文獻記錄一般來源於更久遠的口述歷史。神話「國讓」講述大國主神如何同意放棄這片土地，將統治權轉讓給太陽女神（天照大御神）子孫的故事。作為交換，大國主神得到了一座宏偉的神社和「看不見的世

界」的統治權。所謂「看不見的世界」，不但指神明的領域，也包括人類精神世界。就這樣，大國主神成為了「結緣」之神，出雲大社則作為祂的主祭地而得以創建。

神在月期間，來訪的神明都住在本殿（正殿）東西兩側的「十九社」裡。出雲大社往西約 1 公里處的稻佐之濱附近有一座小神社，諸神每天聚集在此，商討並決定未來一年裡各式人際關係的命運。在博物館中央大廳左側的「出雲大社與眾神之國的祭祀」展覽室內，陳列著一幅 19 世紀的版雕浮世繪，描繪了藝術家對於這熱鬧聚會的想像：在一個擁擠的房間，大國主神坐在中間，各路神明正在小木板上逐一寫下人名，再用細繩將它們繫在一起。配對結果最終送呈大國主神審批決定每一對組合的命運。

<日本語仮訳>

神在月：神々のいる月

旧暦の 10 月には、日本全国から無数の神々が出雲に集まると言われています。神々は、一週間かけて、出雲大社の主祭神であるオオクニヌシノカミ（大国主神）と一緒に、来年の収穫の成否や人々の関係などを決めていきます。このため、この時期は国のほとんどで「神のいない月」（神無月）と呼ばれていますが、出雲では「神のいる月」（神在月）と呼ばれています。

出雲での年に一度の集まりの起源は、8 世紀初頭に書かれた日本最古の文書に記された物語に関係していますが、これらの文書にはさらに古い口伝が記録されていると考えられています。国譲り神話は、オオクニヌシが太陽の女神、アマテラスオオミカミ（天照大神）の子孫に土地を譲る代わりに、立派な社殿と「見えない世界」を支配する権限を手に入れたことが記されています。この「見えない世界」とは、神々の領域だけでなく、人間の精神も含まれています。こうしてオオクニヌシは「縁結び」の神となり、出雲大社はオオクニヌシの主祭地として創建されたのです。

神在月の間、訪問した神々は本殿の東西にある「十九社」に納められます。神々は、出雲大社の西約 1 キロにある稲佐の浜の近くにある小さな社で毎日集まり、翌年の人間関係の運命を決定します。中央ロビー左手にある「出雲大社と神々の国のまつり」展示室には、この賑やかな集まりの様子を描いた木版の浮世絵が展示されています。19 世紀に制作されたもので、混雑した部屋の中央にオオクニヌシが座っています。様々な神々が木の札に人の名前を書き、それを紐で結んでいる様子が描かれています。その後、ペアリングしたものをオオクニヌシに見せて承認を求め、オオクニヌシは各カップルの運命を確認します。

【タイトル】『出雲国風土記』の世界

【想定媒体】WEB

<簡体字>

《出云国风土记》的世界

该主题展根据《出云国风土记》展开，这是一部为递交朝廷而编写的记录，于公元 8 世纪早期完成。书内记述了出云地区的地理环境、自然资源及本地传说。据史料中提及，整套风物志以地域分类，囊括当时的全国各“国”（日本古代行政区划，有别于“国家”）。但现存文本只剩 5 国，分别为：出云国、播磨国、常陆国、丰后国和肥前国。其中，仅《出云国风土记》基本保存完整。

依照惯例，各地风物志的编撰辑录均由朝廷指派特使监督完成，唯独出云地区是个例外，它完全由本地领主主导。书中反应了很多关于当地的专业知识，不但出现多达约 800 处的地名，而且阐明了其中多处的起源。此外，文本中还详细记录了在出云地区发现的多种动植物，以及对本地风光、建筑、经济、风俗的观察所得。如今，这些信息为我们洞察古代社会日常生活提供了珍贵的参考资料。

《出云国风土记》全篇贯穿各种本地神话传说，其中数则故事都出现在了短片《风土记神话》中。这部短片在“出云神话回廊”相邻的神话剧场中播放。

<繁体字>

《出雲國風土記》的世界

該主題展根據《出雲國風土記》展開，這是一部為遞交朝廷而編寫的紀錄，於西元 8 世紀早期完成。書內記述了出雲地區的地理環境、自然資源及當地傳說。據史料中提及，整套風物誌以地域分類，囊括當時的全國各「國」（日本古代行政區劃，有別於「國家」）。但現存文本僅剩 5 國，分別為：出雲國、播磨國、常陸國、豐後國和肥前國。其中，僅《出雲國風土記》保存完整。

各地風物誌的編撰紀錄通常由朝廷指派特使監督完成。唯獨出雲地區的內容完全由當地領主主導，反應了很多關於當地的專業知識，不但出現多達約 800 處地名，更闡明了其中多處的起源。此外，文本中還詳細記錄了在出雲地區發現的多種動植物，以及對當地景觀、建築、經濟、風俗的觀察心得。如今，這些資訊為我們了解古代日常生活提供了珍貴的見解。

《出雲國風土記》全篇貫穿各種當地神話傳說，其中數則故事被編入短片《風土記神話》中。遊客可以在「出雲神話迴廊」隔壁的神話劇場中欣賞這部短片。

<日本語仮訳>

『出雲国風土記』の世界

このテーマ展示では、8世紀初頭に朝廷への報告書として編纂された『出雲国風土記』に基づいています。出雲地方の地理や天然資源、地元の伝説などが記されています。史料によると、風土記は国（昔の日本の地域の名称で、現在の「国」とは異なる）ごとに編纂されていたようですが、現存するのは出雲、播磨、常陸、豊後、肥前の5つの国の文章だけです。このうち、ほぼ完全な形で残っているのは『出雲国風土記』だけです。

風土記の編纂は、通常、朝廷から派遣された代表者が監督していました。しかし、『出雲国風土記』は例外的に地方の領主が編纂を担当しました。この地域の専門知識を反映して、約800カ所の地名が記され、その多くの起源も含まれています。また、出雲で見られる様々な植物や動物、風景、建物、経済、地域の習慣なども紹介されており、今日、この情報は古代の日常生活を知る上で、価値ある洞察となっています。

『出雲国風土記』には、地域の神話が散りばめられており、「出雲神話回廊」に隣接する神話シアターで上映されている短編映画「風土記神話」で、そのうちいくつかの物語が紹介されています。

【タイトル】 古代出雲の暮らし

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

古代出云的日常生活

编撰于公元 8 世纪的《出云国风土记》提供了极其珍贵的资料，令后人得以一窥古代出云的日常生活。书中涉及了诸多详实的细节，比如本地丰富的农产品和海产品的清单。“出云国风土记的世界”展室内有一个等身大小的立体模型，它根据风土记和其他史料中的信息，还原了热闹的河岸市场。

当时的交易货币是稻米或布匹。在展出的模型中，本地居民聚在一起物色市场里的货品，一名摊主手拎一条七星鲈鱼——这是古代出云国的名产，至今依然是本地特产。这种鱼在“让国神话”（大国主神将国土让给天照大神子孙的故事）中也曾登场亮相，是大国主神设宴招待宾客的佳肴。

此外，一个“歌垣”集会的微缩模型展示了年轻男女如何在河岸边聚会，相互歌咏求爱的情形。展室内播放的动画短片描绘了一对男女在这样一场集会中发生的虚构故事。古代的歌垣多少有些类似于现代的联谊会，或有组织的集体相亲活动，单身男女聚会一堂，通过吃饭喝酒结识朋友、相互了解。

<繁体字>

古代出雲的日常生活

編撰於西元 8 世紀的《出雲國風土記》提供了極其珍貴的資料，令後人得以一窺古代出雲國的日常生活。書中涉及了諸多詳實的細節，例如當地豐富的農漁產品的清單。「出雲國風土記的世界」展覽室內有一個等身大小的立體模型，根據風土記和其他史料的資訊，還原了熱鬧的河岸市場。

當時的交易貨幣是稻米或布匹。在展出的模型中，當地居民聚在一起物色市場裡的貨品，一名攤主手提一條七星鱸魚——這是古代出雲國的名產，至今依然是當地特產。這種魚在「讓國神話」（大國主神把國土讓給天照大御神子孫的故事）中也曾登場亮相，是大國主神設宴招待賓客的佳餚。

此外，一個「歌垣」集會的微縮模型展示了年輕男女如何在河岸邊聚會，相互歌詠求愛的情形。展覽室內播放的動畫短片描繪了一對男女在集會中發生的虛構故事。古代的歌垣多少有些類似於現代的聯誼，或有組織的集體相親活動，單身男女齊聚一堂，通過吃飯喝酒結交朋友、相互瞭解。

<日本語仮訳>

古代出雲の暮らし

8世紀の『出雲国風土記』からは、古代出雲の日常生活を垣間見ることができます。その中には、地元の農作物や海産物のリストも掲載されています。「出雲国風土記の世界」のギャラリーでは、川岸の市場の賑わいを実物大のジオラマで表現しています。これは、風土記やその他の史料にある情報に基づいて作成されたものです。

貿易は、米や布を通貨として使い行われていました。展示では、地元の人たちが集まって、市場で売られている商品を品定めしています。売り子の一人が手にしているのは、古代出雲の名産品であり、現在でも地元の特産品であるスズキです。この魚は、「国譲り神話」（大国主神が国土を天照大神の子孫に譲る物語）にも登場し、オオクニヌシノカミ（大国主神）の宴で出されたとされています。

「歌垣」のミニチュア・ジオラマでは、若い男女が川岸の近くに集まり、歌を詠んで、お互いに求愛する様子が描かれています。また、展示室では、このような集まりで出会った男女の架空の物語をアニメーションで語っています。ある意味では、古代の歌垣は、現代の「合コン」すなわち独身者が食事やお酒を楽しみながら親睦を深めることにも似ています。

【タイトル】 青銅器と金色の大刀

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

青铜器与金色大刀

“青铜器与金色大刀”展室主要展出古代青铜器，这是本馆最具代表性的展品种类之一。这些铜剑、铜矛和铜铎的历史均可追溯至弥生时代（公元前 800 年—公元 300 年），都出土于岛根县境内，其中有许多埋在一起，被整齐地排放或嵌套在一起，很可能是祭典礼器，而非日常用品。学界对这些器具被埋在这里的理由有许多推测，其中一种观点认为，它们有可能是献给神明的供品。这些文物的规模在单独埋葬的古代青铜器类别中属于日本最大级别，现已被指定为国宝。

在 1984 年和 1985 年出云地区荒神谷遗址的考古发掘中，共出土了 358 把铜剑、16 支铜矛和 6 具铜铎。所有刀具式样相同，虽然没有切实的证据，但鉴于其形态与出云周边区域出土的其他刀剑近似，人们认为这一批铜剑均为本地出产。展室内不但有文物原件，还有一整面墙的复制品，展现了这些刀剑当年被埋葬入土时是如何的光彩夺目。

1996 年，在相邻的云南省加茂岩仓遗址考古发掘中，出土了 39 具纹饰精美繁复的铜铎。这些铜铎成对埋葬，小号的嵌套在大号内，唯有一个大铎缺少配套小铎，其中原因至今依然是个谜。

博物馆的这个展室内还陈列着几柄公元 6 世纪至 7 世纪的装饰精美的大刀。这些华丽的武器出自当时本地权势强大的家族，是其财富和显赫地位的象征。

<繁体字>

青銅器與金色大刀

「青銅器與金色大刀」展覽室主要展出古代青銅器，這是本館最具代表性的展品種類之一。展出的銅劍、銅矛和銅鐸的歷史均可追溯至彌生時代（西元前 800 年-西元 300 年），它們都出土於島根縣境內，其中有許多被埋在一起，整齊地排放或嵌套著，很可能是祭典禮器，而非日常用品。學界對這些器具為何被掩埋的理由有許多推測，其中一種觀點認為，它們有可能是獻給神明的供品。這些文物的規模在單獨埋葬的古代青銅器類別中屬於日本最大級別，現已被指定為國寶。

在 1984 年和 1985 年出雲地區荒神谷遺址的考古發掘中，共出土了 358 柄銅劍、16 支銅矛和 6 具銅鐸。所有刀具均為相同設計，雖然沒有切實的證據，但鑒於其造型與出雲周

邊區域出土的其他刀劍相似，據推測這一批銅劍均為當地出產。展覽室內不但有文物原件，還有整面牆的複製品，用來展現這些刀劍當年被埋葬入土前的輝煌。

1996 年，在相鄰的雲南市加茂岩倉遺址考古發掘中，出土了 39 具紋飾精美繁複的銅鐸。這些銅鐸成對埋葬，小件的嵌套在大件內，唯有一個大鐸缺少配套小鐸，其中原因至今依然不明。

該展覽室內還陳列著數柄西元 6 世紀至 7 世紀的裝飾精美的大刀。這些華麗的武器出自當時當地權貴家族，展現出其財富和顯要的地位。

<日本語仮訳>

青銅器と金色の大刀

「青銅器と金色の大刀」のギャラリーには、博物館の主要なコレクションのひとつを表す、古代の青銅器が展示されています。弥生時代（紀元前 800 年-西暦 300 年）にさかのぼるこれらの銅劍、銅矛、銅鐸は島根県で出土しました。これらの多くはまとめて埋まっていたり、列に並べられたり、入れ子状に積み重ねられたりした状態で見つかっており、日常的に使用するのではなく、儀式用の道具として作成された可能性があります。道具が埋まっていた理由については、神への供物ではないかという説など、様々な説があります。これらの遺物は、古代の青銅器が単独で埋蔵されているものとしては日本最大級であり、国宝に指定されています。

1984 年と 1985 年の発掘調査により、出雲の荒神谷遺跡から 358 本の銅劍、16 本の銅矛、6 個の銅鐸が出土しました。これらの劍はすべて同じデザインで、正式な証拠はないものの、出雲地方を中心とした地域で発見された他の刀劍と形状が似ていることから、地元で生産されたと考えられています。展示室には、オリジナルの劍と、埋葬された当時の劍の輝きを再現した、壁一面に光り輝くレプリカがあります。

1996 年、近隣の雲南市の加茂岩倉遺跡で発掘調査が行われ、複雑な装飾が施された 39 個の銅鐸が発見されました。これらの銅鐸は、小さな銅鐸が大きな銅鐸の中に入るようにして、二つ一組で重ねて埋められていました。その中に、対のない大きな銅鐸がひとつありますが、その理由は謎のままです。

また、このコーナーでは、6 世紀から 7 世紀にかけての装飾付大刀もいくつか展示されています。これらの華やかな武器は、当時の地域の権門勢家の富と地位を物語っています。

【タイトル】 神話シアターと出雲神話回廊

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

神话剧场和出云神话回廊

位于如今岛根县的出云地区常常被称为“众神之国”或“神话的故乡”，因为这里是日本许多最古老的神话故事的舞台。在博物馆的这个展区，来访者可以了解以古代出云国为背景的神话传说，认识出云大社里供奉的神明。剧场全天轮播 4 部短片，每部时长约 20 分钟。来访者可在剧场入口处索取免费提供的手持电子设备，收听英文解说。

4 部短片分别为《大国主神话》《须佐之男命神话》《风土记神话》《中世纪的八歧大蛇神话》。前 3 部短片中讲述的故事都出自以下几本公元 8 世纪的古籍：《古事记》《日本书纪》《出云国风土记》。《中世纪的八歧大蛇神话》年代较晚，改编自一个写于 1523 年的故事。

“出云神话回廊”展现了这些神话故事的古今传承流变，包括神话文本解读，以及描绘神话人物形象和场景的艺术品。回廊墙壁和天花板上装饰着模样可怖的面具和一条类似龙形的巨蛇。在神圣的宗教舞蹈“神乐”的表演中，也会使用这种风格的服饰和道具来重现神话故事。盘旋在天花板上的巨龙状生物是八歧大蛇，也就是须佐之男命初到出云时斩杀的怪物。短片《须佐之男命神话》详细演绎了这个故事及日本创世神话。

<繁体字>

神話劇場和出雲神話迴廊

位於今日島根縣的出雲地區被稱為「眾神之國」或「神話的故鄉」，因為這裡正是日本許多古老神話故事發生的地點。在這個展區，遊客可以瞭解到以古代出雲國為背景的神話傳說，認識出雲大社裡供奉的神祇。劇場整天輪播 4 部短片，每部片長約 20 分鐘。遊客可在劇場入口處，索取免費的手持電子設備，聆聽館內提供的英文解說。

4 部短片分別為《大國主神話》、《須佐之男命神話》、《風土記神話》和《中世紀的八歧大蛇神話》。前 3 部短片中講述的故事都出自三本西元 8 世紀的古籍：《古事記》、《日本書紀》和《出雲國風土記》。《中世紀的八歧大蛇神話》是改編自一則寫於 1523 年的故事。

「出雲神話迴廊」展覽講述這些神話故事的古今傳承與流變，包括神話文本的解讀、描繪神話人物形象和場景的藝術品。迴廊牆壁和天花板上裝飾著模樣可怖的面具和一條類似龍形的巨蛇。在神聖的宗教舞蹈「神樂」的表演中，同樣風格的服飾和道具，也被用於

詮釋神話故事。盤旋在天花板上的龍形巨蛇是八岐大蛇，也就是須佐之男命初到出雲時斬殺的怪物。短片《須佐之男命神話》詳細地演繹了這個故事及日本創世神話。

<日本語仮訳>

神話シアターと出雲神話回廊

島根県の出雲地方は、多くの日本最古の神話の舞台であることから、「神々の国」「神話のふるさと」と呼ばれています。博物館のこのコーナーでは、古代出雲にまつわる神話や、出雲大社に祀られている神々について学ぶことができます。神話シアターでは、4本の短編映画を順番に上映しており、1本約20分。シアター入口で無料配布している携帯型電子機器で、映画の内容を英語で解説しています。

上映作品は、「オオクニヌシ（大国主）神話」「スサノヲ（須佐之男命）神話」「風土記神話」「中世のヲロチ（八岐大蛇）神話」の4つの物語です。前3作は、8世紀の『古事記』、『日本書紀』、『出雲国風土記』の3冊に基づいています。「中世のヲロチ神話」は、1523年に書かれた物語に基づいています。

出雲神話回廊では、これらの神話がどのように伝えられてきたのかを調査し、注釈書や、登場人物や場面を描いた作品などを展示しています。回廊の壁や天井には、恐ろしい仮面や巨大なドラゴンのような大蛇が飾られています。神聖な歌舞「神楽」では、これらと似た衣装や小道具を使って神話が再現されています。天井に吊るされている龍のような生きものは、スサノヲノミコト（須佐之男命）が最初に出雲に着いたときに退治した怪物、ヤマタノヲロチ（八岐大蛇）です。この物語の詳細と日本の創世記は、短編映画「スサノヲ（須佐之男命）神話」に描かれています。

【タイトル】「中世のヲロチ神話」：『古事記』のヤマタノヲロチ神話の再話

【想定媒体】WEB

<簡体字>

《中世纪的八歧大蛇神话》：《古事记》与八歧大蛇神话的再演绎

八歧大蛇神话讲述的是须佐之男命斩杀八头蛇怪的故事。它最广为人知的版本出自日本最古老的书面文献《古事记》，这部著作于公元 712 年成书，书中将这个故事表述为对须佐之男命战胜可怕怪物的赞颂。然而，这部影片却向来访者展示了另一个流传于日本中世纪时期出云地区的版本。

故事的记录者是 16 世纪早期一位名叫李庵的佛教僧侣，当时日本深陷战乱，社会动荡不安。李庵离开居住地京都，前往传说中的众神之国出云，希望找到拯救人类于乱世的启示。在出云，他从本地人口中听到了一个不同寻常的八歧大蛇神话，并于 1523 年将它记录成文。我们今天看到的这部影片就是描写李庵写下的这个故事。

李庵来到出云后，遇到了一位熟知本地神话和传说的老人，于是邀请他当自己的向导。老人告诉李庵，八歧大蛇从前就居住在斐伊川一处名叫“天渊”的深潭中。李庵还得知蛇怪在附近的一座高山上垂死挣扎时，被它触碰到的石头都变成了铁块。

李庵想去寻找这些铁石，却被老人警告：传说，当年也曾有一位地方领主试图寻找铁石所在的地点，命令下属清除山上的草木植被。孰料众人刚刚行动，一场巨大的风暴便凭空而起。狂风吹倒了一株大树，树木转眼化为八歧大蛇的幻象，吓得众人心神俱裂！

听完这个故事，李庵开始相信，八歧大蛇不是怪物，而是这座山的守护神灵。他意识到了珍爱生命的重要性，一切生灵都值得尊重，哪怕只是山坡上的野草。于是，他回到京都后便与人们分享了自己从这个神话中得到的启示。

<繁体字>

《中世紀的八歧大蛇神話》：《古事記》與八歧大蛇神話的再演繹

八歧大蛇神話所講述的，是須佐之男命斬殺八頭蛇怪的故事，最廣為人知的版本出自於日本最古老的書面文獻《古事記》。這部著作成書於西元 712 年，故事表達對須佐之男命戰勝可怕怪物的讚頌。然而，這部短片卻向遊客展示了另一個流傳於日本中世紀時期出雲地區的版本。

故事的作者是 16 世紀早期一位名叫李庵的佛教僧侶。當時日本深陷戰亂，社會動盪不安。李庵離開居所京都，前往傳說中的眾神之國出雲，希望找到拯救人類於亂世的啟示。

在出雲，他從當地口耳相傳的傳說中，聽到了一個不同以往的八岐大蛇神話，並在 1523 年記錄成文。我們今天看到的這部短片就是根據李庵寫下的故事而來。

據記載，李庵在出雲遇到了一位熟知本地神話和傳說的老人，於是邀請他擔任自己的導遊。老人告訴李庵，八岐大蛇從前就居住在斐伊川一處名叫「天淵」的深潭中。李庵還得知蛇怪在附近的一座高山上垂死掙扎時，被它觸碰到的石頭都變成了鐵塊。

李庵想去尋找這些鐵石，卻被老人警告：傳說，當年也有一位地方領主試圖尋找鐵石的所在地，於是命令部下清除山上的草木植被。孰料眾人剛剛行動，一場巨大的風暴便憑空捲起。狂風吹倒了一株大樹，樹木轉眼化為八岐大蛇的幻象，嚇得眾人心神俱裂！

聽完這個故事，李庵開始相信，八岐大蛇不是怪物，而是這座山的守護神靈。他意識到了珍愛生命的重要性，一切生靈都值得尊重，哪怕只是山坡上的野草。於是，他回到京都後便與人們分享了自己從這個神話中得到的啟示。

<日本語仮訳>

「中世のヲロチ神話」：『古事記』のヤマタノヲロチ（八岐大蛇）神話の再話

ヤマタノヲロチ神話は、スサノノミコト（須佐之男命）がヤマタノヲロチ（八岐大蛇）を退治する話です。そのよく知られたバージョンは日本最古の書物である『古事記』（712 年）に登場し、スサノヲが恐ろしい怪物を退治したことが讃えられています。しかし、この映画では、中世の出雲地方で語られた別の説が紹介されています。

この物語は、国が内戦と社会不安の渦中にあった 16 世紀初頭の京都に住む、僧侶・李庵によって語られています。李庵はこの混乱から人類を救う方法を求めて、神々の住む伝説の地である出雲へと旅立ちました。そこで彼は、出雲に伝わるヤマタノヲロチ神話の異説を知ることになります。1523 年、李庵は本作に描かれる物語を記録しました。この短編映画の内容は李庵が記録した物語です。

出雲に到着した李庵は、この地の神話に詳しい老人と出会います。李庵は彼にガイドを依頼します。老人は李庵に、ヤマタノヲロチはかつて斐伊川の天が淵に住んでいたことを教えてくれます。李庵はまた、近くの山の岩はヲロチが死ぬ間際に触れて鉄になったことも知りました。

李庵はその岩を見たいと思いますが、老人から警告を受けます。その昔、その場所を探そうとした地方領主が、仲間に命じて山の草木を伐採させました。それが始まるとすぐに恐ろしい嵐が起きました。その風で大木が倒れ、それがヤマタノヲロチの姿に変貌し、男たちは恐れおののいたといいます。

この話を聞いた李庵は、ヤマタノヲロチは怪物ではなく、むしろ山の守護神であると信じるようになります。この話は、たとえ山腹の雑草であっても、すべての命を大切にすることの重要性をリアンに思い出させ、京都に戻った彼は、この神話についての啓示を語っています。

【タイトル】 オオクニヌシ（大国主）神話

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

大国主神话

这部短片介绍了大国主神的几个生平片段。大国主神是出云大社的主祭神，也是建国与结缘（缔结人际关系）之神。所谓“结缘”，并不仅限于夫妻、邻里、同事间的人际关系，还包括期盼与农业丰收等日常生活美好愿景结下“缘分”。

编撰于公元712年的《古事记》中收录了有关大国主的早期传说，他年轻时被称为“大己贵”。短片从他和众多兄弟一同前往因幡国（今鸟取县东部），争相求娶一位名叫“八上比卖”的少女开始。途中，他们遇到一只遭受剥皮之苦的兔子，众兄弟中只有大己贵停下来，告诉兔子该如何治疗伤口。少女始终拒绝兄弟们的求婚，但大己贵的这份善意的举动赢得了八上比卖的心。然而，遭到拒绝的兄弟们恼羞成怒，合谋要杀死大己贵。他们用一块烧红的巨大圆石将他压伤并烧死。就在这时，两位医药女神从天而降，用一种神奇的香膏令大己贵起死回生。他逃到纪国（今和歌山县），又从那里转道前往根之国（神话中的异界），寻求祖先须佐之男命的帮助。

行至半途，大己贵遇到了须佐之男命的女儿须势理比卖，俩人很快坠入爱河。可须佐之男命不愿帮助大己贵，提出了四项艰难的试炼考验他。在须势理比卖的帮助下，大己贵完成了全部任务。然后，趁须佐之男命睡着时，大己贵与须势理比卖私奔了。须佐之男命醒来后已经追之不及，只得将祝福赐予这对爱侣。他朝着俩人远去的背影大声呼喊，为大己贵赐名“大国主”，告诉他要好好统治这片土地。

回到出云后，大国主强势收服了自己的兄弟，随后建立起一个繁荣的国家。太阳女神（天照大神）一直关注着地上的情形，见此便派出一系列信使，劝说大国主将地上的统治权让给她的子孙。大国主在与自己的儿子们商议过后，同意了天照大神的提议，但要求建造一座辉煌宏大的神社来供奉他。传说，这就是出云大社的起源。

<繁体字>

大國主神話

這部短片介紹了大國主神的幾個生平片段。大國主神是出雲大社的主祭神，也是建國與結緣（締結人際關係）之神。所謂「結緣」，並不僅限於夫妻、鄰居、同事等人際關係，還包括比如為農民帶來豐收等等，讓人們的日常生活和美好成果結下「緣份」。

編撰於西元 712 年的《古事記》中收錄了有關大國主的早期傳說，據說他年輕時被稱為「大己貴」。短片從他和眾多兄弟一同前往因幡國（今鳥取縣東部），爭相求娶一位名叫「八上比賣」的少女開始。途中，他們遇到一隻遭受剝皮之苦的兔子，眾兄弟中只有大己貴停下來，告訴兔子該如何治療傷口。少女始終拒絕兄弟們的求婚，但大己貴的這份善意的舉動贏得了八上比賣的心。然而，遭到拒絕的兄弟們惱羞成怒，合謀要殺死大己貴。他們用一塊燒紅的巨大圓石壓傷並燒死了大己貴。就在這時，兩位醫藥女神從天而降，用一種神奇的香膏令大己貴起死回生。他逃到紀國（今和歌山縣），又從那裡轉道前往根之國（神話中的異界），尋求祖先須佐之男命的幫助。

行至半途，大己貴遇到了須佐之男命的女兒須勢理比賣，兩人很快墜入愛河。可須佐之男命不願幫助大己貴，提出了四項艱難的試煉考驗他。在須勢理比賣的幫助下，大己貴完成了全部任務。然後，趁須佐之男命睡著時，大己貴與須勢理比賣私奔了。須佐之男命醒來後已經追趕不及，只得將祝福賜予這對愛侶。他朝著兩人遠去的背影大聲呼喊，為大己貴賜名「大國主」，告訴他要好好統治這片土地。

回到出雲後，大國主強勢收服了自己的兄弟，隨後建立起一個繁榮的國家。太陽女神（天照大御神）一直關注著地上的情形，見此便派遣使者們，勸說大國主將地上的統治權讓給她的子孫。大國主在與自己的兒子們商議過後，同意了天照大御神的提議，但要求建造一座輝煌宏大的神社供奉他。傳說，這就是出雲大社的起源。

<日本語仮訳>

オオクニヌシ（大國主）神話

この映画では、国造りと縁結び（人と人の絆を結ぶこと）の神であり、出雲大社の主祭神であるオオクニヌシノカミ（大國主神）の生涯から、いくつかのエピソードを紹介しています。縁結びの概念は、夫婦や隣人、同僚との関係だけでなく、農家の収穫の成功など、人々の日常生活における良い結果も含んでいます。

『古事記』（712年）には、若いころにオオナムチ（大己貴）と呼ばれていたオオクニヌシが登場する、最初の物語が記されています。映画は、ヤカミヒメ（八上比売）という名の乙女と結婚しようと、オオナムチが大勢の兄とともに因幡（現在の鳥取県東部）に旅するところから始まります。その道中で、皮を剥がされて苦しんでいるウサギを見かけました。オオナムチは兄弟の中でただ一人立ち止まり、ウサギに正しい傷の治し方を教えました。この優しさは、兄たちの出求婚を拒否するヤカミヒメの心をつかみました。ヤカミヒメの拒絶に腹を立てたオオナムチの兄たちは、オオナムチを殺そうと企み、真っ赤に熱した巨石でオオナムチを押し潰し、焼いて灰にすることに成功しましたが、2人の癒しの女神が天から降りてきて、魔法の薬を塗ってオオナムチを生き返らせました。その後、オオナムチは紀国（現在の和歌山県）に逃げ込み、そこから根の国（神話のなかの異界）に向かい、彼の祖先であるスサノヲノミコト（須佐之男命）に助けを求めました。

その途中、オオナムチはスサノヲの娘スセリヒメ（須勢理毘売）と出会い、二人はすぐに恋に落ちました。しかし、スサノヲはオオナムチを助けようとはせず、4つの苦しい試練を課します。スセリヒメの助けを

借りて、オオナムチはそれら全てを成し遂げました。そして、スサノヲが眠りについたとき、オオナムチはスセリヒメと駆け落ちしました。スサノヲは目を覚めますが、二人に追いつくことができず、二人を祝福します。去っていく二人の背中に向かって大声で叫び、オオナムチにオオクニヌシの名を与えて、しっかりと治めるようにと言いました。

出雲に戻ったオオクニヌシノカミは、兄たちを服従させて豊かな国づくりに努めました。太陽の女神、アマテラスオオミカミ（天照大御神）は地上界の様子を見て、オオクニヌシに自身の子孫への支配権を譲るように説得する使者を次々と送ります。オオクニヌシは息子たちと相談したうえで、自分の名誉のために立派な社殿を建てることを条件に承諾しました。これが出雲大社の起源だと言われています。

【タイトル】スサノヲ（須佐之男命）神話

【想定媒体】WEB

<簡体字>

須佐之男命神话

这部短片展示了须佐之男命生平中的一些片段。这位供奉在京都八坂神社、能去除厄运的神明，十分擅长惩办恶魔，而他斩杀八歧大蛇的故事，更是《古事记》中最广为人知的神话传说之一。

故事的开始，要从伊耶那岐命和伊耶那美命的创世神话说起。他们共同生下了许多新的神明，可伊耶那美命却在生育火神时不幸殒命。伊耶那岐命试图将她从黄泉国救出却未能如愿，因为伊耶那美命已经吃下了黄泉国的食物，再也无法离开。恶魔和污秽的邪灵一路追逐伊耶那岐命，为了脱身，他不得不用巨大的圆石堵住了阴曹地府的入口。回到地上的伊耶那岐命跳入一条河中洗濯身体，在这个过程中诞生了三位神明：太阳女神（天照大神）、月神（月读命）和须佐之男命。

最初，伊耶那岐命将海洋交给须佐之男命统治，但他玩忽职守，以至被驱逐出天界。离开天界之前，须佐之男命前往高天原拜访姐姐天照大神。女神对他心存疑虑，做好了战斗准备。为了辨明须佐之男命的真正意图，两位神明一起举行了占卜仪式。占卜结果含混不明，可须佐之男命声称这个结果足以证明他动机纯洁，遂径自闯入了姐姐的领地。但接下来，他大肆破坏，甚至导致天照大神的一名侍从死亡。天照大神退入洞穴不肯出来，世界陷入了黑暗。后来，天照大神被引出洞穴，须佐之男命则遭到永久放逐。

须佐之男命来到出云地区后，遇见了一对与女儿抱头哭泣的老夫妇。询问之下，他得知这位美丽的女孩名叫“栴名田比卖”，是老夫妇唯一幸存的女儿，他们其他的女儿都被本地一条八歧大蛇吃掉了，那是一个有八头八尾的大蛇怪。可就是这个女儿眼看也在劫难逃，蛇怪很快就要回来带走她。须佐之男命答应老夫妇杀掉蛇怪，但要求迎娶栴名田比卖。他设下陷阱，打败了蛇怪，并将它斩杀。随后，须佐之男命在蛇怪的一条尾巴里发现了一柄利剑，于是将剑送给了天照大神。这就是后来日本皇室三神器之一的“草薙剑”，也称“天丛云剑”。另两大神器分别是八咫镜和八尺琼勾玉，它们共同象征着日本皇室血脉作为天照大神子嗣的权威。

<繁体字>

須佐之男命神話

這部短片展示了須佐之男命生平中的一些片段。這位供奉在京都八坂神社、能祛除厄運的神明，十分擅長懲辦惡魔，而他斬殺八岐大蛇的故事，更是《古事記》中最廣為人知的神話傳說之一。

故事的開始，要從伊耶那岐命和伊耶那美命的創世神話說起。他們共同生下了許多新的神明，可伊耶那美命卻在生育火神時不幸殞命。伊耶那岐命試圖將她從黃泉國救出，卻失敗了，因為伊耶那美命已經吃下了黃泉國的食物，再也無法離開。惡魔和污穢的邪靈一路追逐伊耶那岐命，為了脫身，他不得不用巨大的圓石堵住了陰曹地府的入口。回到地上的伊耶那岐命跳入一條河中洗濯身體，在這個過程中誕生了三位神明：太陽女神（天照大御神）、月神（月讀命）和須佐之男命。

最初，伊耶那岐命將海洋交給須佐之男命統治，但他玩忽職守，以至被驅逐出天界。離開天界之前，須佐之男命前往高天原拜訪姐姐天照大御神。女神對他心存疑慮，做好了戰鬥準備。為了辨明須佐之男命的真正意圖，兩位神明一起舉行了占卜儀式。占卜結果含糊不清，須佐之男命卻聲稱這個結果足以證明他動機純潔，遂逕自闖入了姐姐的領地。可接下來，他大肆破壞，甚至導致天照大御神的一名侍從死亡。天照大御神退入洞穴不肯出來，使世界陷入了黑暗。後來，天照大御神被引出洞穴，須佐之男命則遭到永久放逐。

須佐之男命來到出雲地區後，遇見了一對與女兒抱頭哭泣的老夫婦。詢問之下，他得知這位美麗的女孩名叫「櫛名田比賣」，是老夫婦唯一倖存的女兒，因為其他女兒都被當地一條有著八頭八尾名為八岐大蛇的大蛇怪吃掉了。可就是這個女兒眼看也在劫難逃，因為蛇怪很快就要回來帶走她。須佐之男命答應老夫婦殺掉蛇怪，但要求迎娶櫛名田比賣。他設下陷阱，打敗了蛇怪，將其斬殺。之後，他在蛇怪的一條尾巴裡發現了一柄利劍，於是將劍送給了天照大御神。這就是後來日本皇室三神器之一的「草薙劍」，也稱「天叢雲劍」。另兩大神器分別是八咫鏡和八尺瓊勾玉，它們共同象徵著日本皇室血脈作為天照大御神子嗣的權威。

<日本語仮訳>

スサノヲ（須佐之男命）神話

この映画は、『古事記』の最もよく知られた物語のひとつである、ヤマタノヲロチ（八岐大蛇）退治で有名であり、また京都の八坂神社のように厄払いの神としても信仰されているスサノヲミコト（須佐之男命）の生涯のエピソードを紹介します。

この物語は、イザナキ（伊耶那岐）とイザナミ（伊耶那美）の神々が世界を創造するところから始まります。イザナキとイザナミは一緒に多くの新しい神々を生み出しますが、イザナミは火の神を産んだ後に亡くなります。イザナキは彼女を黄泉の国から救い出そうとしますが、イザナミはすでに黄泉の国の食べ物を食べてしまったため、帰ることができませんでした。イザナキは悪魔や穢れた霊に追われますが、巨大な岩で黄泉の国の入り口を封鎖し、脱出します。その後、イザナキは川で身を洗い、その過程で太陽神のアマテラスオオミカミ（天照大御神）、月神のツクヨミ（月読命）、そしてスサノヲの3人の神が生まれました。

当初、イザナキはスサノヲに海の支配権を与えましたが、任務を怠ったため、後に天界から追放されました。スサノヲは旅立つ前に、アマテラスを訪ねて高天原に行きます。アマテラスはスサノヲを疑い、戦いの準備をします。スサノヲの真意を確かめるため、二人の神は占いの儀式を行います。曖昧な結果にもかかわらず、スサノヲは「自分の動機が純粹であることを証明している」と主張し、姉の領域に入っていきます。その後、スサノヲは破壊的な大暴れを続け、その結果、アマテラスの従者の一人を死なせてしまいます。この時、アマテラスは洞窟に引きこもり、世界は闇に包まれました。やがてアマテラスは洞窟から誘い出され、スサノヲは永久に追放されてしまいます。

出雲に着いたスサノヲは、老夫婦が美しい娘のクシナダヒメ（櫛名田比売）と泣いているのを目にします。どうしたのかと尋ねると、ヤマタノヲロチと呼ばれる八頭八尾の蛇が彼らの他の娘をすべて食べてしまい、間もなくクシナダヒメを迎えに来るといいます。彼は、娘と結婚する許可と引き換えに、この獣を退治することに同意します。スサノヲはヤマタノヲロチを罠に誘い込み、倒します。その怪物を殺した後、彼は草薙と名付けられた立派な剣をその尾の一つの中から発見します。彼は、その剣をアマテラスに捧げ、やがてアマテラスの子孫である日本の皇統の権威を象徴する三種の神器のひとつ草薙剣となり、ほかの2つは八咫鏡、八坂瓊曲玉です。

【タイトル】 風土記神話

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

风土记神话

这部短片中讲述的几个神话故事都出自《出云国风土记》。这部文献成书于公元 8 世纪，内容包括本地地理环境、风俗人情和口述传说等记录，是提交给朝廷的地方风物志。

短片以“国引神话”开头。传说有一天，一位名叫八束水臣津野命的神明突然觉得出云国太小了。他放眼四周，发现茫茫大海对岸还有些闲置的土地，于是拿出一把巨大的锄头劈下几块，用粗绳索将土块拉到出云的海岸边拴牢，并将绳索系在两根柱子上。这两根柱子化为了如今出云地区西南部的三瓶山和隔壁鸟取县的“大山”，而这些被拉回来的土地，就是如今的岛根半岛。

片中的另一个神话则与佐太大神的诞生有关。当年，佐太大神的母亲支佐加比卖命在阵痛出现时退入海岸边的一个洞窟里待产，不料却弄丢了自己的金弓。支佐加比卖命只得祈祷寻回金弓，很快就看到它随波而来。拿到金弓后，她对着洞窟石壁射出一箭，开出了一条连接大海的通道。本地相传，行船者穿过这个洞口时必须大声喊叫，否则就会有大风将船吹翻。

短片还讲述了“玉日女命与鳄蛟”的传说。故事里，一条鳄蛟（鲨鱼）见到出现在海岸边的女神玉日女命，被她的美貌深深吸引，于是顺着一条河流游入内陆，向女神表白爱意。可玉日女命却被鳄蛟的模样吓到，用巨石堵住了河道。传说，出云地区东南部一条巨石遍布的河谷正是故事发生的地方，河谷因此得名“为爱煎熬的鳄蛟”（ワニのしたふ， Wani no Shitau）。久而久之，或许是因为发音相似，这条河谷的名字最终变成了今天的“鬼之舌震”（おにのしたふるい， Oni no ShitaBurui）。

<繁体字>

風土記神話

這部短片中講述的幾個神話故事都出自《出雲國風土記》。這部文獻成書於西元 8 世紀，內容包括當地地理環境、風俗民情和口述傳說等記錄，是提交給朝廷的地方風土誌。

短片以「國引神話」開頭。傳說有一天，一位名叫八束水臣津野命的神明突然覺得出雲國太小了。他放眼四周，發現茫茫大海對岸還有些閒置的土地，於是拿出一把巨大的鋤頭劈下幾塊，用粗繩索將土塊拉到出雲的海岸邊拴緊，並將繩索繫在兩根柱子上。這兩根

柱子化為了今日出雲地區西南部的三瓶山和隔壁鳥取縣的「大山」，而這些被拉回來的土地，就是如今的島根半島。

片中的另一個神話則與佐太大神的誕生有關。當年，佐太大神的母親支佐加比賣命在陣痛出現時，退入海岸邊的一個岩洞裡待產，不料卻弄丟了自己的金弓。支佐加比賣命只得祈禱尋回金弓，很快地就看到它隨波漂回。拿到金弓後，她對著岩洞石壁射出一箭，劈開了一條連接大海的通道。當地相傳，行船者穿過這個洞口時必須大聲喊叫，否則就會有大風將船吹翻。

短片還講述了「玉日女命與鱷蛟」的傳說。故事裡，一條鱷蛟（鯊魚）見到出現在海岸邊的女神玉日女命，被她的美貌深深吸引，於是順著一條河流遊入內陸，向女神表白愛意。可玉日女命卻被鱷蛟的模樣嚇到，用巨石堵住了河道。傳說，出雲地區東南部一條巨石遍佈的河谷正是故事發生的地方，河谷因此得名「為愛煎熬的鱷蛟」（ワニのしたふ，Wani no Shitau）。久而久之，或許是因為發音相似，這條河谷的名字最終變成了今天的「鬼之舌震」（おにのしたぶるい，Oni no ShitaBurui）。

<日本語仮訳>

風土記神話

この映画では、8世紀に朝廷のために編纂された、地域の地理・風習・説話を記録した『出雲国風土記』の中から、いくつかの神話を紹介しています。

物語は、「国引き神話」で始まります。ある日、ヤツカミズオミズヌノミコト（八束水巨津野命）という神は、出雲の地が狭すぎると考えます。海に向こう側を見渡して、土地に余裕のある場所を見つけ、巨大な鋤でいくつもの塊を切り分けます。その塊を太いロープで出雲の海岸に引き寄せ、二本の杭に結びます。これらの杭はやがて、出雲の南西にある三瓶山と近隣の鳥取県の大山となり、引っ張られた土地が今の島根半島です。

もう一つの神話は、サダノオオカミ（佐太大神）の誕生を描いたものです。サダの母であるキサカヒメノミコト（支佐加比売命）は、陣痛が始まると海岸の洞窟に引きこもりましたが、その際に金の弓を失ってしまいます。弓が戻ってくることを祈った後、キサカヒメは波に沿って弓が彼女に向かって流れて来るのを見ます。彼女はそれを取り戻し、洞窟の壁に矢を放ち、海に通じる通路を作りました。この通路を通るとき、旅人は大きな声で叫ばなければ、突風で船が転覆すると言われていました。

また、この映像には「タマヒメノミコト（玉日女命）とサメ」の物語があります。海岸にタマヒメを見つけたサメは、その美しさに心を奪われます。サメは愛を告げるために、川を泳いで内陸へと向かいます。サメの姿に恐れをなしたタマヒメは、岩で川をせき止めてしまいます。この事件の舞台となった出雲の東南にある岩があちこちにある溪谷は、「恋に焦がれたサメ」（ワニのしたふ）にちなんで名付けられました。時を経て発音が変化し、「鬼の舌震」（おにのしたぶるい）という現在の名前になりました。

地域番号	008	協議会名	宇佐地区まちづくり協議会
------	-----	------	--------------

解説文一覧

NO.	スポット名 (タイトル)	中国語文字数	想定媒体
008-001	鎮疫祭	905	WEB
008-002	例祭	470	WEB
008-003	六郷満山峯入りと神事	945	WEB
008-004	法華八講・法華三昧	775	WEB
008-005	御神幸祭 (夏越大祭)	845	WEB
008-006	菅貫神事	690	WEB
008-007	仲秋祭	1130	WEB
008-008	本殿遷座祭	595	WEB
008-009	臨時奉幣祭	645	WEB
008-010	勅使街道	500	WEB
008-011	大相撲力士 双葉山	675	WEB
008-012	宇佐八幡駅	515	WEB
008-013	『蓑虫山人絵日記』	780	WEB
008-014	凶首塚古墳	410	WEB
008-015	化粧井戸	595	WEB
008-016	百体神社	720	WEB
008-017	浮殿 (和間神社)	540	WEB
008-018	仲見世商店街	860	WEB
008-019	大善寺	690	WEB
008-020	極楽寺	710	WEB
008-021	大楽寺	955	WEB
008-022	円通寺	715	WEB
008-023	宇佐神宮	1525	WEB
008-024	呉橋	620	WEB
008-025	西参道	555	WEB
008-026	宇佐鳥居	640	WEB
008-027	上宮	820	WEB
008-028	百段	415	WEB
008-029	若宮神社	330	WEB
008-030	下宮	365	WEB
008-031	春宮神社	480	WEB
008-032	菱形池	505	WEB
008-033	頓宮	425	WEB
008-034	大尾神社	625	WEB
008-035	護皇神社	690	WEB
008-036	神橋	335	WEB

008-037	御許山と大元神社	605	WEB
008-038	大神比義命	615	WEB
008-039	弥勒寺跡	915	WEB

【タイトル】 鎮疫祭

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**鎮疫祭**

祭典日：2月13日

鎮疫祭是为驱病除灾而举办的净化祭典，内容包括火祭、神道教祈福、佛教诵经和舞乐。鎮疫祭的亮点莫过于热闹的“币越神事”，仪式上，随行人员将巨大的五色御币（竹竿上装饰着“之”字形纸条以象征御币，是一种神道教供品）抛过神社入口处代表着神域与凡世的分界点——鸟居，以此祈求祛除疾疫。这项祭典在宇佐神宫的末社*八坂神社举办，旨在预防瘟疫、自然灾害和其他不幸。鎮疫祭是由神道教和佛教共同参与的祭典，反映了宇佐神宫践行“神佛习合”（神道教与佛教融合）的漫长历史。

相传鎮疫祭源于千年前，当时每年举办的这个仪式曾因宇佐神宫的僧侣通宵念诵《心经》，而被叫做“御心经会”。时至今日人们还偶尔会用这个名字称呼此项祭典。1868年明治政府颁布了分离神道教和佛教的“神佛判然令”后，御心经会变成纯粹的神道教仪式，更名为“鎮疫祭”。如今，为了表达对古老传统的敬意，祭典恢复了佛教僧侣诵经的环节。这种神佛两教共事的祭典在现代日本已经非常罕见。

每年2月13日，宇佐神宫的神官与主要来自大乐寺的真言宗僧侣首先来到祓所（举行净化仪式的场所；祓音“福”，净化之意）举办祓礼，然后前往上官进行神道教祈祷。随后，与身穿白衣、手擎巨大御币的上官随行人员一同前往下官完成祈祷仪式，最终抵达八坂神社。神社最外侧的鸟居前摆有火盆和一个特别的舞台。

待宇佐神宫的宫司（神宫最高负责人）唱诵过祝词后，币越神事正式开始。随行人员要竭尽全力，将长约3.5米的巨大御币抛入八坂神社内。人们相信越过鸟居的御币是最吉利的，御币上的彩色纸带能够在接下来的一年内保佑阖家安康，远离疾病灾害。因此，许多人会冲上前去抢夺纸带，希望得到一条作为护身符。最后，一根最大的御币由数名随行人员齐心协力、一鼓作气地抬进八坂神社。

币越神事之后是舞乐表演，神社前的舞台上会上演两部宫廷舞蹈，分别是《振铎》和《兰陵王》。《振铎》是净化舞台的神圣舞蹈，舞者持铎（即矛）起舞。《兰陵王》讲述6世纪时，英勇的中国王子骁勇善战，却因为容貌过于秀美，而不得不戴着狰狞的面具上战场的故事。

鎮疫祭的最后一项仪式，便是佛教僧侣吟诵《心经》。所有仪式结束后，神职人员会将年糕撒向前来观礼的民众。

※末社：小型神社，供奉与本社有关的神明。

<繁体字>

鎮疫祭

祭典日：2月13日

鎮疫祭是為消除疾疫災禍而舉辦的淨化祭典，內容包括火祭、神道教祈福、佛教誦經和舞樂，其中亮點莫過於熱鬧的「幣越神事」。在儀式中，隨行人員將巨大的五色御幣（裝飾著之字形紙條的竹竿，是一種神道教供品）拋過神社鳥居，表示祛除疾疫。這項祭典在八坂神社舉辦，目的在預防瘟疫、自然災害和其他災難。八坂神社是宇佐神宮的末社^{*}之一，而鎮疫祭是由神道教和佛教共同參與的祭典，展現了宇佐神宮神佛習合（神道教與佛教融合）的漫長歷史。

相傳鎮疫祭起源於千年前，當時這個一年一度的儀式因宇佐神宮裡的僧侶通宵念誦《心經》，而曾被叫做「御心經會」。時至今日，人們偶爾還是會用這個名字稱呼此項祭典。1868年明治政府頒佈了分離神道教和佛教的「神佛判然令」，御心經會從此變成純粹的神道教儀式，更名為「鎮疫祭」。如今，為致敬古老傳統，祭典恢復了佛教僧侶誦經的環節。而這種神佛兩教共事的祭典在現代日本已相當少見。

每年2月13日，宇佐神宮的神職人員與主要來自大樂寺的真言宗僧侶首先來到祓所（舉行淨化儀式的場所；祓音「福」，淨化）舉辦祓禮，再前往上宮進行神道教祈禱。然後與身穿白衣的上宮隨行人員，拿著數根高約3.5公尺長的巨大御幣，一同前往下宮完成祈禱儀式，最終抵達八坂神社。神社最外側的鳥居前設有火盆和一個特別的舞台。

待宇佐神宮的宮司（神宮最高負責人）唱誦過祝詞後，幣越神事正式開始。隨行人員要竭盡全力，將巨大的御幣拋進八坂神社域內。人們相信越過鳥居的御幣是最吉利的，御幣上的彩色紙帶能夠在接下來的一年內保佑闔家安康，遠離疾病災害，因此，許多人會衝上去搶奪紙帶，希望能拿到一條作為護身符。神事的最後，最大的一根御幣由數名隨行人員齊力合作，一鼓作氣地抬進八坂神社內。

幣越神事之後是舞樂表演，神社前的舞台上將演出兩部宮廷舞蹈。《振鉞》是淨化舞台的神聖舞蹈，舞者持鉞（鉞即為矛）起舞。《蘭陵王》講述6世紀時英勇的北齊皇子高長恭的故事，傳說中他驍勇善戰，卻因為容貌太過秀美不似武將，而不得不戴著猙獰的面具上戰場。

鎮疫祭的最後一項儀式，便是佛教僧侶吟誦《心經》。待所有儀式結束後，神職人員會將年糕撒向前來觀禮的民眾。

※末社：小型神社，供奉與本社有關的神明。

<日本語仮訳>

鎮疫祭

祭典日：2月13日

鎮疫祭は疫病災禍を祓い鎮めるため、火の儀式や神事、読経、舞が行われるお祓いの祭祀です。その見所は、疫病退散の象徴として随行者が巨大な五色の御幣（之の形をしている紙飾りが竹に挟まれたお供物）を神社の入り口、聖域と俗域の境目に建つ鳥居越しに投げる、賑やかな幣越神事です。この行事は宇佐神宮の末社[※]のひとつである八坂神社で行われ、疫病、自然災害、その他の不幸を防ぐことを目的としています。鎮疫祭は宇佐神宮の神仏習合（神道と仏教の融合）の長い歴史を反映しています。

鎮疫祭は、約千年前、宇佐神宮の僧侶が般若心経を夜通し唱える毎年の儀式として始まったと言われています。このため、今でも御心経会と呼ばれることがあります。1868年に神道と仏教を分離させる「神仏判然令」が発令されたことによって、鎮疫祭は純粋な神道の祭事となり、それに伴って名前が変更されました。現在は古くからの伝統に敬意を表して、僧侶による般若心経の読経が再び行われています。この神職と僧侶による合同の祭事は、現代では大変貴重な祭礼になっています。

2月13日に、宇佐神宮の神職と主に大楽寺からの真言宗の僧侶が祓所でお祓を行い、上宮に進んで神事を行います。また、上宮から、白装束の随行者が巨大で聖なる棒である御幣を数本持っています。行列はそのあと下宮に向かい、そこで更なる祈禱を行った後八坂神社に到着します。八坂神社では、外の鳥居の前にかがり火と臨時の舞台が設置されています。

宇佐神宮の宮司（神宮の最高責任者）が正式な祝詞を唱えると幣越神事が始まり、随行者が鳥居を越えて八坂神社の境内に懸命に長さ約3.5メートルの御幣を投げようとします。鳥居を超えた御幣は特に縁起が良いとされています。御幣に付いている紙の飾りは、一年間病気や災害から家庭を守ると信じられており、多くの人々がそれを手に入れてお守りにしようとしのぎを削ります。最後の最も大きな御幣は、数人の随行者によって八坂神社に一気に運ばれます。

幣越神事に続いて、神社の正面の舞台で舞楽という宮廷舞踏の二つの舞が行われます。「振鉾」は舞台の清めの儀式として行われる鉾（矛）を持った神聖な舞で、「蘭陵王」は6世紀の中国の勇敢な王子の物語を語る舞です。舞者が被るお面は、蘭陵王があまりの美男子であったために、怪異な面をつけて戦いに出陣したことに由来すると言われています。

鎮疫祭の最後の儀式として、僧侶が般若心経を唱えます。すべての儀式が終わった後、神職が鎮疫祭を見ようと集まってきた人々に向かって餅を撒きます。

※末社：本社ゆかりの神様を祀る小社。

【タイトル】 例祭

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**例祭**

祭典日：3月18日

每座神社都有一个祭祀本社祭神（神社内供奉的神明）的年度祭典，称“例祭”。各神社的例祭日期都有特别的意义。就宇佐神宮而言，相传八幡大神第一次显圣于此是在公元571年旧历二月的第一个卯日，即公历3月18日，宇佐神宮例祭的祭典日便定在了这一天。

宇佐神宮是敕使定期参拜的17座高级神社之一，敕使是天皇钦派的使臣，他代表天皇前往神社参拜祈祷、举行仪式。每年例祭期间，皇室都会赐“币帛”供奉三位主祭神——八幡大神、比卖大神和神功皇后，从此便可窥知宇佐神宮的级别和地位。祭典队列里，神职人员身着白袍，抬着三个装有币帛的箱子，而高阶神职人员身穿过去朝臣的礼服，跟随在后。在举行净化仪式的祓所（祓音“福”，净化之意）完成祓礼后，队伍前往上宮，在上宮的三个本殿（正殿）依次举办参拜仪式。仪式庄严肃穆，在神宮最高负责人宮司的主持下，币帛被敬奉给三位神明，并由神宮巫女（侍奉神灵的未婚女性）表演“神乐”舞蹈，祈祷和平。祭典队列对公众开放，但来访者只能在本殿的檐廊外观礼。

下宮、若宮神社、春宮神社的例祭比宇佐神宮例祭早一天，于3月17日举办。

<繁体字>**例祭**

祭典日：3月18日

各個神社都有一個祭祀本社祭神（神社內供奉的神明）的年度祭典，稱「例祭」。各神社的例祭日期都有特別的意義。就宇佐神宮而言，相傳八幡大神第一次顯聖於此，是在西元571年舊曆二月的第一個卯日，即新曆3月18日，宇佐神宮例祭的祭典日便定在了這一天。

宇佐神宮是天皇欽派的使臣——敕使定期參拜的17家高位階神社之一，他代表天皇前往神社參拜祈禱、舉行儀式。每年例祭期間，皇室都會賜「幣帛」供奉三位主祭神——八幡大神、比賣大神和神功皇后，這彰顯了宇佐神宮的級別和地位。祭典隊列裡，神職人員身著白袍，抬著三個裝有幣帛的箱子，高階神職人員則身穿過去朝臣的禮服，跟隨在後。在舉行淨化儀式的祓所（祓音「福」，淨化）完成祓禮後，隊伍前往上宮，在上宮的三間

本殿（正殿）依次舉辦參拜儀式。儀式莊嚴肅穆，在神宮最高負責人宮司的主持下，幣帛被敬奉給三位神明，並由神宮巫女（侍奉神明的未婚女性）表演「神樂」舞蹈，祈禱和平。祭典隊列對一般民眾開放，但遊客只能在本殿的簷廊外觀禮。

下宮、若宮神社、春宮神社的例祭於前一天 3 月 17 日舉辦。

<日本語仮訳>

例祭

祭典日：3 月 18 日

各神社には、その神社にとって重要な日に御祭神（神社内で祀る神）への敬意を払う、年に一度のお祭りがあります。このお祭りは通常、例祭と呼ばれます。宇佐神宮の場合、571 年 2 月初卯の日に八幡大神が初めて顕現されたと言われています。この日が新暦の 3 月 18 日に相当することから、宇佐神宮の例祭の祭典日に選ばれました。

宇佐神宮は、天皇の使者であり、天皇の代わりに祈祷や神事を行う勅使が定期的に訪れる 17 の高位の神社のひとつです。その宇佐神宮の高い格式を反映して、その例祭の期間には、八幡大神、比売大神、神功皇后の 3 柱のご祭神へ皇室からのお供え物、幣帛が奉られます。祭りの行列では、白装束の神職が幣帛を入れた 3 つの櫃を運び、次に歴史的に宮中の人 が身に着けていた正装に身を包んだ高位の神職が続きます。お祓いを行う祓所でのお祓いの神事後、行列は上宮に向かいます。そこでは、3 つの本殿のすべてが祈りを奉げるために開いています。神宮の最高責任者である宮司が厳粛な儀式を行い、ご祭神に幣帛を奉納したり、巫女（神霊に奉仕する未婚の女性）が平和を祈願して神樂という舞を踊ったりします。参拝者は行列を自由に見物できますが、儀式は本殿の屋根付きの廊下の外側からしか見ることはできません。

下宮、若宮神社、春宮神社の例祭は、前日の 3 月 17 日に開催されます。

【タイトル】 六郷満山峯入りと神事

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

六郷満山入山神事

日期：大约 10 年一次，春季举行

宇佐市以东的国东半岛是六郷満山の所在地，山间分布着许多天台宗佛寺。传说，一位名叫“仁闻”的山岳苦修者在公元 718 年首次将“神佛习合”（神道教与佛教融合）从宇佐带到了六郷満山。他在这里度过了几十年光阴，建造了 28 座佛寺，雕刻了 69,000 座佛像。人们相信，仁闻就是八幡大神的化身，相传他在公元 855 年再度现身，并为希望与他进行同样苦修的修行者规划了两条巡行群山的路线。这两条路线被称为“六郷満山入山”（六郷満山巡礼），名声逐渐传开。

准备仪式

入山巡礼之前，为祈求神明保佑旅途平安，首先要参加一系列的准备仪式。巡礼者身穿象征身心纯净的白衣在御许山集合，这里向来被视为八幡大神降临人世的圣地。天台宗的僧侣和来自宇佐神宫的神职人员会带领巡礼者进行集体祈祷、诵经、护摩*。

仪式完成后，巡礼者下山前往宇佐神宫的上宫。神道教神职人员与佛教巡礼者在朱红色的神宫建筑前相互行礼致意，这样的经典场景令人不由得回想起宇佐神宫还是神佛习合神社的时代。巡礼者在此参拜神明，并在神宫域内再次举行护摩仪式。

随后，巡礼者离开宇佐神宫，前往国东半岛。第二天清晨，还有一场特殊的“开白护摩”火祭要在被称为“熊野磨崖佛”的两尊巨大佛像前举行，这些佛像都是在悬崖上雕刻出来的。火祭结束后，六郷満山入山巡礼便正式开始。

入山

巡礼路线全长逾 160 公里，途经 180 处灵场，包括佛寺、磨崖佛像、有特定意义的岩石和山洞等场所。巡礼者沿途要不断洁净身体，念诵经文，并接受各种体能挑战：从高山顶上抛掷常绿木枝；攀上大岩石后跳下；穿过横跨深谷的狭窄石桥；参加消灾祛病的加持祈祷仪式等等。

江户时代(1603-1867)晚期，结队进行六郷満山入山巡礼成为惯例，并持续至今。在其鼎盛时期，根据参拜目的的不同，将巡礼路线沿途的 65 座佛寺划分为修学寺院、修行寺院、弘法寺院三种类型。进入明治时代(1868-1912)后，政府颁发分离神道教和佛教的“神佛判然令”，入山人数锐减，巡礼活动中断了数十年。直到 1959 年，这一传统才开始复兴。

如今六鄉滿山入山神事大約每 10 年舉辦一次。最近的一次是在 2018 年，旨在慶祝入山巡禮誕生 1300 周年。

※護摩：本意焚燒，原是印度密宗修行法，通過焚燒供品供養神佛，並傳達祈願。

<繁體字>

六鄉滿山入山神事

日期：約 10 年一次，春季舉行

宇佐市以東的國東半島是六鄉滿山的所在地，山間分佈著許多天台宗佛寺。傳說，一位名叫仁聞的山嶽苦修者，在西元 718 年首次將「神佛習合」（神道教與佛教融合）從宇佐帶到六鄉滿山。他在這裡度過了幾十年光陰，建造了 28 座佛寺，雕刻了 69,000 座佛像。人們相信，仁聞就是八幡大神的化身，相傳他在西元 855 年再度現身，並為希望與他進行同樣苦修的修行者規劃了兩條巡行群山的路線。這兩條路線被稱為「六鄉滿山入山」（六鄉滿山巡禮），名聲逐漸傳開。

準備儀式

入山巡禮之前，為祈求神明保佑旅途平安，首先要參加一系列的準備儀式。巡禮者身穿象徵身心純淨的白衣，相聚於向來被視為八幡大神降臨人世的聖地御許山。天台宗的僧侶和來自宇佐神宮的神職人員會帶領巡禮者集體祈禱、誦經、護摩*。

儀式完成後，巡禮者下山前往宇佐神宮的上宮。神道教神職人員與佛教巡禮者在朱紅色的神宮建築前相互行禮致意，這樣的經典場景令人不由得回想起宇佐神宮還是神佛習合神社的時代。巡禮者在此參拜神明，並在神宮域內再次舉行護摩儀式。

隨後，巡禮者離開宇佐神宮，前往國東半島。第二天清晨，還有一場特殊的「開白護摩」火祭要在被稱為「熊野磨崖佛」的兩尊巨大佛像前舉行，所謂的磨崖佛是指在懸崖上雕刻出來的佛像。待火祭結束後，六鄉滿山入山巡禮便正式開始。

入山

巡禮路線全長逾 160 公里，途經 180 處靈場，包括佛寺、磨崖佛像、有特定意義的岩石和洞窟等。巡禮者沿途要不斷潔淨身體，念誦經文，並接受各種體能挑戰：從高山頂上拋擲常綠木枝；攀上巨岩後跳下；穿過橫跨深谷的狹窄石橋；參加消災祛病的加持祈禱儀式等等。

江戶時代（1603-1867）晚期，結伴參加六鄉滿山入山巡禮成為慣例，並持續至今。在鼎盛時期，根據參拜目的的不同，將巡禮路線沿途的 65 座佛寺劃分為修學寺院、修行寺院、弘法寺院三種類型。明治時代（1868-1912）後，由於政府頒發分離神道教和佛教的「神佛判然令」，造成入山人數銳減，巡禮活動因此中斷了數十年。直到 1959 年，這一傳

統才開始復興。如今六郷満山入山神事大約每 10 年舉辦一次。最近一次是在 2018 年，以慶祝入山巡禮誕生 1300 周年。

※護摩：本意為焚燒，原是印度密宗修行法門，通過焚燒供品供養神佛，並傳達供奉者之祝禱與祈願。

<日本語仮訳>

六郷満山峯入りと神事

日程：約 10 年に 1 回、春

宇佐市の東に位置する国東半島の山中には、六郷満山という天台宗の寺院が点在しています。伝説によると、仁聞という名の山岳修行者が 718 年に宇佐から国東へ神仏習合（神道と仏教の融合）をもたらし、そこで過ごした数十年の間に 28 の寺院を開山し、69,000 体の像を彫り上げたと言われています。八幡大神の化身と信じられていた仁聞は、855 年に再び現れ、仁聞と同じ山岳修行を希望する者のために山を巡る 2 つのルートを教えたと言われています。やがて、これらのルートは六郷満山峯入りとして知られるようになりました。

準備のための神事

峯入り（山に入る）と呼ばれる霊場巡りに先立って、神々に旅の道中の加護を求め一連の神事が行われます。清められた心身を象徴する白装束に身を包んだ参加者は、八幡大神が地に降り立った聖地とされる御許山に集結します。天台宗の僧侶や宇佐神宮の神職と一緒に、参加者が祈禱や読経、護摩※焚きを行います。

一行は下山した後、宇佐神宮の上宮へ向かいます。朱色の社殿の前での神職と仏教巡礼者が交わす儀式的な挨拶は、宇佐神宮が神仏習合の神社であった時代を思い起こさせる象徴的な姿です。巡礼者は参拝し、そして神宮の境内で再び護摩行を行います。

参加者は宇佐神宮から国東半島に向かいます。翌朝、熊野磨崖仏と呼ばれている崖の正面に刻まれた 2 つの大きな仏像の前で、特別な開始の火の儀式である開白護摩が行われます。儀式が完了すると、六郷満山の峯入りが正式に始まります。

峯入りへ出発

その行程は 160 キロメートル以上に及び、寺院、崖に彫られた彫像、独特の岩、洞窟など 180 の霊場が含まれます。参加者は道中何度も体を清めたり、経を唱えたり、身体を使ったさまざまな挑戦を行います。その修行には、高い山頂から常緑樹の枝を投げる、大きな岩から飛び降りる、深い峡谷に架かる狭い石橋を渡る、病気・災難などをはらうための加持祈禱への参加などが含まれます。

江戸時代（1603-1867）後期には、六郷満山の峯入りを集団で行うことが慣習となり、現在に至ります。最盛期には、宗教学のための寺、修行のための寺、仏教を広めるための寺、という目的別に分類された約 65 の寺院が存在しました。しかし、明治時代（1868-1912）に政府が発令した神

道と仏教を分離させる「神仏判然令」によって巡礼者の数は大きく減り、霊場巡りは何十年も行われていませんでした。その伝統は 1959 年に復活し、現在、六郷満山峯入りは約 10 年に一回行われています。最近では 2018 年に開催され、1300 年の歴史を祝いました。

※護摩：焚焼の意味。ももとはインドの密教の修法の一つで、供物を燃やすことで、神仏様を供養し、心願をお伝えする。

【タイトル】法華八講・法華三昧

【想定媒体】WEB

<簡体字>

法華八講・法華三昧

法會日：法華八講，天台宗宗主禪讓時舉辦；法華三昧，前者開壇之外的每年秋天舉辦

法華八講和法華三昧是围绕《法华经》及讲经释经展开的佛教仪式，定期在宇佐神宫的上宫举行。这种在神社举办的佛事，源自宇佐神宫曾作为“神社—佛寺综合设施”践行“神佛习合”（神道教与佛教的融合）的历史背景，也是宇佐神宫与佛教天台宗深厚渊源的体现。

纵观历史，许多高僧都曾前往宇佐参拜八幡大神，其中包括日本天台宗的创派祖师最澄（767–822；传教大师）。公元803年，最澄前往中国修习密宗，不料船只损毁，他不得不在九州滞留一年，等待再次启航的时机。期间，最澄前往神宫参拜八幡大神，祈祷航行顺利，终于在804年平安抵达中国。最澄在浙江天台山先后修习完天台佛法和禅宗之后，又接受了密教传法，于805年回国。回到日本后，他再次造访宇佐，感谢八幡大神的庇护，并在神前进行了一场《法华经》的说法。传说为回报这场说法，八幡大神将只有高阶僧侣才能穿着的紫色僧衣赐给了最澄。

为纪念最澄与八幡大神的这段因缘，天台宗宗主及诸高僧每10年前往宇佐神宫进行一次夏季巡礼。届时，会在上宫本殿（正殿）举办一场特别仪式，称“法华八讲”。仪式先由神道教神职人员祈祷，然后进行“三问一答”的传教仪式：三位僧侣就佛教教义向大师提出三个问题，大师说法予以解答。尽管法华八讲全程大多不对外开放，但参拜者还是可以观看穿行于神宫域内的巡礼队伍，并在外听讲。

不举办法华八讲的其他年度里，宇佐神宫会举办一个规模较小、形式类似的仪式，称“法华三昧”，由来自附近的国东半岛六乡满山各寺的僧侣主持。

在宇佐神宫还是神社—佛寺综合设施的年代里，类似的说法活动远比现在频繁。但自从1868年明治政府颁发分离神道教和佛教的“神佛判然令”后，佛教活动被迫中止。1978年，这一传统恢复，从此神职人员就一直欢迎佛教僧侣重返宇佐神宫。

<繁体字>

法華八講・法華三昧

法會日：法華八講，天台宗宗主禪讓時舉辦；法華三昧，除法華八講開壇之外的每年秋天舉辦

法華八講和法華三昧定期在宇佐神宮的上宮舉行，是圍繞《法華經》及釋經講道展開的佛教儀式。這種在神社舉辦佛事的傳統，源自宇佐神宮曾作為「神社—佛寺綜合設施」踐行「神佛習合」（神道教與佛教的融合）的歷史背景，體現了宇佐神宮與佛教天台宗深厚的淵源。

歷史上許多高僧都曾前往宇佐參拜八幡大神，其中包括日本天台宗的開宗祖師最澄（767–822；傳教大師）。西元 803 年，最澄前往中國修習密宗，不料船隻損毀，不得不在九州滯留一年，以等待再次啟航的時機。期間，最澄前往神宮參拜八幡大神，祈禱航行順利，終於在西元 804 年平安抵達中國。他在浙江天台山先後修習完天台佛法和禪宗之後，又接受了密教傳法，於西元 805 年回國。回到日本後，他再次造訪宇佐，感謝八幡大神的庇護，並在神前進行了一場《法華經》的講經說法活動。傳說為回報這場說法，八幡大神將只有高階僧侶才能穿的紫色僧衣賜給了最澄。

為紀念最澄與八幡大神的這段因緣，天台宗宗主及諸高僧每 10 年前往宇佐神宮進行夏季巡禮。屆時，會在上宮本殿（正殿）舉辦一場特別儀式，稱「法華八講」。儀式先由神道教神職人員祈禱，然後進行「三問一答」的傳教儀式：三位僧侶就佛教教義向大師提出三個問題，大師則予以解答。儘管法華八講全程大多不對外開放，遊客還是可以觀看穿行神宮域內的巡禮隊伍，並在外聽講。

在不舉辦法華八講的其他幾年，宇佐神宮會舉行規模較小的類似儀式，稱「法華三昧」，由來自附近的國東半島六鄉滿山各寺的僧侶主持。

在宇佐神宮還是神社—佛寺綜合設施的年代裡，類似的講經說法活動遠比現在頻繁。但自 1868 年明治政府頒發分離神道教和佛教的「神佛判然令」後，佛教活動被迫中止。直到 1978 年，這一項傳統恢復，從此神職人員就一直歡迎佛教僧侶重返宇佐神宮。

<日本語仮訳>

法華八講・法華三昧

法要日：法華八講は天台座主の御讓任の際に開催、法華三昧はその間の秋に開催

法華八講と法華三昧は、宇佐神宮の上宮で『法華經』とその解釈を中心に行われる仏事です。仏事が神社で行われるのは、かつて神道と仏教を融合して崇拝していた宇佐神宮の神仏習合のルーツを反映しています。また、宇佐神宮と天台宗との歴史的な強いつながりを物語るものでもあります。

天台宗の開祖である最澄（767–822、伝教大師）をはじめ、多くの著名な僧侶が八幡大神に祈りを捧げるために宇佐に巡礼しました。803 年に、最澄は密教を学ぶために中国に旅立ちましたが、船が破損し、次の出航の機会を待つために九州で一年を過ごしました。最澄は安全な航海を宇佐の八幡大神に祈願し、804 年に中国に到着し、浙江省の天台山に赴き、天台教学を学んだのち、禪の教え、帰国前には密教の伝法を受けました。805 年に帰国した最澄は、八幡大神の加護に感謝し宇佐を再び訪ね、神前で『法華經』の説法を営みました。伝説では、八幡大神はその返礼にと最澄に高位の僧侶に贈られる紫の衣を授けたとされています。

最澄と八幡大神の絆をたたえ、天台座主と高僧が 10 年に 1 回宇佐神宮に夏の巡礼を行い、上宮の本殿では法華八講と呼ばれる特別な法要が営まれます。神職による祈祷に続いて、3 人の僧侶が師に仏教の教義について 3 つの質問をし、師が答えとして説法をする三問一答という儀式的な対話が行われます。法華八講はそのほとんどが目につれない場所で行われますが、参拝者は境内の巡礼の行列を見物し、外から説教を聞くことができます。

法華八講のない年は、法華三昧と呼ばれるより小規模な儀式が近くにある国東半島の六郷満山の寺院から宇佐神宮を訪れる僧侶によって営まれています。

宇佐神宮が神社と寺院の複合施設であった時代には、こういった法要は頻繁に行われていました。しかし、明治政府が 1868 年に神道と仏教を分離させる「神仏判然令」が発令されたため中断されました。この習慣は 1978 年に復活し、それ以来神職は宇佐神宮を来訪する僧侶を歓迎しています。

【タイトル】御神幸祭（夏越大祭）

【想定媒体】WEB

<簡体字>

御神幸祭（夏越大祭）

祭典日：7月31日-8月2日

御神幸祭是重要的夏季祭典，也是宇佐神宫最受欢迎且规模最大的宗教盛事。祭典起源于平安时代(794-1185)的净化仪典“御祓会”（祓音“福”，净化之意），如今在夏越祓祭的传统之外，还增加了三尊主祭神巡游周边地区的仪式。除了宗教活动和热闹的神轿游行，庆典上还有传统音乐与舞蹈演出，并设有各类食物、饮品、游艺的小摊贩。

7月31日：巡游开始

祭典第一天，宇佐神宫的三大主祭神（八幡大神、比卖大神、神功皇后）自上宫本殿（正殿）被请入三座神轿内，出发前往临时安置处“顿宫”。随行队伍约有250人，一名扮演“接引神”猿田彦的氏子*在前领路，后面跟着乐师、身着彩色服饰的儿童、穿传统正装的本地代表和宇佐神宫的神职人员。

轿夫抬着神轿沿石阶依次下山，来到祓所（举行净化仪式的场所）旁边的广场上抬着神轿转三圈，然后将神轿向上高高举起。随后，每座神轿都有一名专门修建神社佛阁的工匠“宫大工”站到神轿的架子上。这个传统源自过去决定神轿在巡游队伍内排列顺序的“争”之习俗，以备途中有需要时可以修理神轿。巡游队伍过河再穿过仲见世商店街前往顿宫。神轿到达顿宫后，随即开始名叫“菅贯神事”的古老祓礼，三位神明被请入顿宫，并将在这里停留三天两夜。

8月1日：流镝马神事

第二天下午，流镝马神事在顿宫旁通往大尾神社的参道上举行，这项神事于2019年被引入祭典。所谓“流镝马”，即马上弓箭术，由“小笠原流”的骑手表演，该流派已有大约850年历史。祭典中，训练有素的骑手们身着镰仓时代(1185-1333)的武士服饰，沿着270米长的小道奔跑，途中熟练地张弓搭箭，射中三个标靶，作为对三位神明的供奉。

同一天，若宫神社也有一场规模较小的祭神巡游，仪仗将穿过宇佐神宫抵达仲见世商店街。

8月2日：巡游返回

最后一天的傍晚，原班巡游队伍随三座神轿原路返回上宫。神像回归上宫本殿后，还要举行一场祈祷仪式。最后，以祈愿驱病除灾的烟花表演结束御神幸祭。

※氏子：在神社所在地區內供奉同一氏族神明的本地信徒。

<繁体字>

御神幸祭（夏越大祭）

祭典日：7月31日-8月2日

御神幸祭是重要的夏季祭典，也是宇佐神宮最受歡迎且規模最大的宗教盛事。祭典起源於平安時代（794-1185）的淨化儀典「御祓會」（祓音「福」，淨化），如今在夏越祓祭的傳統之外，還增加了三尊主祭神出巡周邊地區的儀式。除了宗教活動和熱鬧的神轎遊行，慶典上還有傳統音樂與舞蹈演出，並設有各類食物、飲料、休閒娛樂的攤販。

7月31日：出巡開始

祭典第一天，宇佐神宮的三大主祭神（八幡大神、比賣大神、神功皇后）自上宮本殿（正殿）被請入三座神轎內，出發前往臨時安置處「頓宮」。隨行隊伍約有 250 人，一名扮演「接引神」猿田彥的氏子^{*}在前領路，後面跟著樂師、身著彩色服飾的兒童、穿傳統正裝的當地代表和宇佐神宮的神職人員。

轎夫抬著神轎沿石階依次下山，來到祓所（舉行淨化儀式的場所）旁邊的廣場上抬著神轎轉三圈，然後將神轎高高舉起。隨後，每座神轎都有一名專門修建神社佛閣的木匠「宮大工」站到神轎的架子上。這個傳統源自過去確定神轎在出巡隊伍內排列順序的「爭」之習俗，以確保出巡途中可以隨時修理神轎。出巡隊伍過河再穿過仲見世商店街前往頓宮。神轎抵達頓宮後，隨即開始名為「菅貫神事」的古老祓禮，三位神明被請入頓宮，並將在這裡停留三天兩夜。

8月1日：流鏝馬神事

第二天下午，流鏝馬神事在頓宮旁通往大尾神社的參道上舉行，這項活動於 2019 年被加入祭典活動。所謂「流鏝馬」，即馬上弓箭術，由「小笠原流」的騎手表演，該流派約有 850 年的歷史。祭典中，訓練有素的騎手們身著鎌倉時代（1185-1333）武士服飾，沿著 270 公尺長的小徑奔跑，途中熟練地張弓搭箭，射中三個標靶，作為對三位神明的供奉。

同一天，若宮神社也有一場規模較小的祭神出巡，儀仗隊伍將穿過宇佐神宮域內抵達仲見世商店街。

8月2日：出巡返回

最後一天的傍晚，出巡隊伍隨三座神轎原路返回上宮。神像回鑾上宮本殿後，還要舉行一場祈禱儀式。最後，以祈願驅病除災的煙花表演結束御神幸祭。

※氏子：在神社所在地區內供奉同一氏族神明的當地信徒。

<日本語仮訳>

御神幸祭（夏越大祭）

祭典日：7月31日～8月2日

御神幸祭は夏の大祭であり、宇佐神宮で最も人気の高い、最も規模の大きいお祭りです。元々は平安時代（794-1185）にお祓いの神事である御祓会として始まり、今では夏越のお祓いの伝統に、三柱のご祭神の近隣地域への儀式的な訪問が組み合わされています。様々な神事や賑やかな神輿の行列に加えて、伝統的な音楽や踊りのパフォーマンスが行われ、食べ物、飲み物、ゲームの屋台も並びます。

7月31日：行列の出発

初日には、宇佐神宮のご祭神（八幡大神、比売大神、神功皇后）は、上宮本殿から3基の神輿に移され、約250名の行列を引き連れて、一時的にご祭神を安置する場所である頓宮に向けて出発します。道案内の神である猿田彦の姿をした氏子[※]が先導し、楽師、色とりどりの衣装を着た子供たち、伝統的な正装をした地域の代表者、宇佐神宮の神職が続きます。

神輿の担ぎ手たちは祓所（お祓いの儀を行う場所）の近くの広場に向かって階段を降り、そこで神輿を3回転させて高く持ち上げます。ここからは、神社仏閣の建築や補修に携わる宮大工が各神輿の支柱に乗ります。これは、祭りの途中で神輿の修理が必要になることもあった、神輿の順序を決めるための争いの習慣から続いている伝統です。行列は川を渡って仲見世商店街を訪れ、頓宮に向かいます。神輿が到着すると、古くからある菅貫神事というお祓いの儀式が行われ、ご祭神は頓宮に移されて2泊3日の間留まります。

8月1日：流鏝馬神事

御神幸祭の2日目の午後、頓宮の近くにある大尾神社への参道は、2019年にお祭りの一環として導入された流鏝馬神事に使用されます。流鏝馬とは、疾走する馬の上から矢を的に射る武術のこと。この神事は、約850年の歴史を持つ流鏝馬の小笠原流礼法によって行われます。神々への奉納として、鎌倉時代（1185-1333）の武士の格好をした訓練された騎手が全長270メートルの道を駆け抜け、3つの標的に矢を放ちます。

同じ日に、若宮神社のご祭神が宇佐神宮の境内を通過して仲見世商店街へと向かう小規模な儀式的訪問も行われます。

8月2日：帰りの行列

最終日の夕方、3基の神輿は同じ行列を伴って初日の道をたどり、上宮に戻ります。ご祭神はそれぞれの聖域に戻され、祈祷が行われます。災いや疫病を防ぐための儀式として特別な花火が打ち上げられ、御神幸祭の幕が閉じます。

※氏子：神社が所在する地域で同じ氏族の神を信仰する人たち。

【タイトル】 菅貫神事

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

菅貫神事

祭典日：7月31日

御神幸祭的第一天，宇佐神宮的三尊主祭神从上宮本殿（正殿）被請上神轿，前往名为“頓宮”的臨時神殿，并将在这里停留三天兩夜。在頓宮的典禮开始前，神職人員們要先舉行儀式净化自身，这就是“菅貫神事”。早在平安时代(794-1185)就已经有了类似的夏季祓礼（祓音“福”，净化之意），但宇佐神宮的祓礼形式独特，所用的礼器也别具一格。

菅貫神事的“川御币”（神道教净化道具）共有三根，夹着波状纸条的木竿被插在頓宮旁的一丛柊树中，据说纸条的形状是模拟了河流的形状。川御币前方安置着一个小巧的供桌“神饌案”和一个放在地上的草垫。念诵三遍祓词后，神職人員们依次使用“解绳串”洁净自身，这是一种特殊的木棒，顶部夹着紫色纸带和一束扁平的稻草。木棒身上缠着两股绳索，一股按顺时针、另一股按逆时针缠绕。神職人員需要在祓礼过程中解开绳索，并将草绳秸秆撒向四周。

仪式的下一步使用一个同样独特的净化法器：两个相连的草编大圆环。一个草环平放在神饌案前的草垫上，另一个由助手扶着垂直而立。神職人員依次上前，虔诚地跪在第一个草环中深深拜伏，此时助手放下第二个草环，套过拜祭者的身体与平放的草环重合。这个动作就是“菅貫”（穿过草环），也是这一仪式名称的由来。拜祭者随后起立，将他的解绳串抛向三根御币，象征以水净化。

官司（神宮最高负责人）的仪式更复杂一些。不仅他用的草环不一样，“菅貫”动作也需要重复三次：为国、为民、为己。每完成一次菅貫，官司都要站起身来，循8字形路线变换方向交替绕回起始位置。待到官司完成自身的净化、将解绳串抛向川御币后，还需念诵三遍祓词，菅貫神事才算告终，也才能继续进行后面的御神幸祭。

<繁体字>

菅貫神事

祭典日：7月31日

御神幸祭的第一天，宇佐神宮的三尊主祭神從上宮本殿（正殿）起轎後，隨即前往名為「頓宮」的臨時神殿停留三天兩夜。在頓宮的典禮開始前，神職人員們要先舉行儀式潔

淨自身，這就是「菅貫神事」。早在平安時代（794-1185）就有類似的夏季祓禮（祓音「福」，淨化），但宇佐神宮的祓禮形式獨特，所用的禮器也別具一格。

菅貫神事的「川御幣」（神道教淨化道具）共有三根，夾著波狀紙條的木竿被插在頓宮旁的一叢柵樹中，據說紙條的形狀是模擬了河流的形狀。川御幣前方安置著一個小巧的供桌「神饌案」和一個放在地上的草墊。念誦過三遍祓詞後，神職人員們依次使用「解繩串」潔淨自身，這是一種特殊的木棒，頂部夾著紫色紙帶和一束扁平的稻草。木棒身上纏著兩股繩索，一股按順時針、另一股按逆時針纏繞。神職人員需要在祓禮過程中解開繩索，並將草繩秸稈撒向四周。

接下來的儀式使用另一個獨特的淨化法器：兩個相連的草編大圓環。一個草環平放在神饌案前的草墊上，另一個由助手扶著，垂直立起。神職人員依次上前，虔誠地跪在第一個草環中深深拜伏，助手放下第二個草環，套過拜祭者的身體與平放的草環重合。這個動作就是「菅貫」（穿過草環），也是這一儀式名稱的由來。拜祭者隨後起立，將他的解繩串拋向三根御幣，象徵以水淨化。

宮司（神宮最高負責人）的祓禮使用不同的草環，且「菅貫」動作需要重複三次，象徵為國、為民、為己淨化。每完成一次菅貫，宮司便起身循 8 字形路線變換方向交替繞回起始位置。三次菅貫結束，宮司將解繩串拋向川御幣後，念誦三遍祓詞，菅貫神事才算告終，也才能繼續進行後面的御神幸祭。

<日本語仮訳>

菅貫神事

祭典日：7月31日

御神幸祭の初日、宇佐神宮の三柱の御祭神が上宮本殿から神輿に移され、頓宮と呼ばれる一時的に御祭神を安置する場所に運ばれ、2泊3日の間滞在します。頓宮の神事が始まる前に、神職は自らを清める菅貫という祓の行事を行い、これが菅貫神事といえます。似たような夏の祓いの儀式は平安時代（794-1185）から行われていましたが、この形式は宇佐神宮特有のものであり、独特なお祓いの道具を使用します。

頓宮の側にある柵の茂みに、川を模したジグザグの形の紙飾りが付いた三本の川御幣（神道の祓い具）という聖なる棒が設置され、その前に供物用の小さな台、神饌の案と薦の敷物が置かれます。祓詞を3回唱えた後、各神職は、解繩串を使用して自らを清めます。解繩串は、上部の切れ目に紫色の紙飾りと平らな藁が挟まれた特別な木製の棒です。棒の柄には、1本は時計回りに、もう1本は反時計回りに巻き付けられた2本の縄が結び付けられており、お祓い中に各神職は縄をほどき、儀式的に縄の藁をまき散らします。

儀式の次の段階では、別のユニークな祓具である編んだ茅を繋げた二つの大きな輪を使用します。一つの輪はお供え物の前にある敷物の上に置かれ、もう一つの輪は補助役が垂直に持っています。各神職は順番の一つ目の輪の中でひざまずき、深くお辞儀をします。その間、補助役はひざまずく神職の上から二つめの輪を地面に降ろします。この所作は菅貫（草の輪を通り抜けること）と呼ばれ、この儀

式の名前の由来となっています。神職は立ち上がった後、水による祓を象徴する 3 本の御幣に向かって解縄串を投げます。

宮司（神宮の最高責任者）の場合、儀式はもっと複雑です。別の編まれた茅輪が使用され、国のため、人々のため、そして宮司自身のために、3 回輪をくぐります。くぐった後、毎回宮司は立ち上がって 8 の字を描いて方向を交互に変えながら元の位置に戻ります。宮司は祓いが終わるとすぐに川御幣に向かって解縄串を投げます。祓詞をさらに 3 回唱えることですべての儀式が完了し、御神幸祭が進行されることになります。

【タイトル】 仲秋祭

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

仲秋祭

祭典日：10 月上半月，包含体育日（10 月第二个星期一）在内的三連休

仲秋祭是一场为期三天的大型祭典，由宇佐神宫主办，旨在追悼公元 8 世纪早期被大和朝廷讨伐并镇压的九州南部的贵族——隼人。祭典在一场盛大的游行中拉开帷幕，八幡大神乘坐神轿前往地处偏僻河岸的浮殿，有佛教僧侣在这里迎接。最重要的仪式是第二天的“放生会”，把贝类生物放入河中，以此赎罪。最后一天，安抚隼人亡灵的祈祷仪式结束后，神轿队伍返回宇佐神宫，再将八幡大神请回上宫本殿（正殿）里。

“隼人之乱”与祭典的由来

根据古代史记录，隼人在公元 8 世纪早期发动叛乱，对抗大和朝廷。朝廷于 720 年抽调九州北部驻军前往镇压。为祈求神明护佑，当时的朝廷军队中有一座八幡大神的神轿随行，这被认为是祭典中神轿游行的起源。叛乱很快被平定，隼人战败，残军俯首投降。

然而战后不久，饥荒和瘟疫横扫这一地区，人们认为这是隼人的怨念在作祟。后来八幡大神颁下神谕：为安抚在“隼人之乱”中遭到杀戮的亡魂，应当每年举办一次放生会。于是，最初的仪式准备工作完成后，游行队伍行至和间滨，将贝类放归于水中。这或许是日本历史上第一次由“神社—佛寺综合设施”主持的放生仪式。

在宇佐神宫践行“神佛习合”（神道教与佛教融合）的千年时光里，这项仪式一直就被称为“放生会”。直到 19 世纪晚期，政府颁布分离神道教和佛教的“神佛判然令”，它才改名为“仲秋祭”，成为季节性的神道教祭典。

第 1 日：迎讲

祭典第一天，八幡大神从上宫的本殿被请上神轿。神轿队伍游行 8 公里前往浮殿，这是一座位于寄藻川河岸上的小神社。在八幡大神入驻这座临时神社之前，来自邻近的国东半岛六乡满山诸寺的佛教僧侣要在神轿前诵经，举行“迎讲”仪式，即以念诵经文的形式迎接神明到来。这是宇佐神宫神佛习合历史的又一个印记。

第 2 日：蜷放生

仲秋祭的主要活动是放生仪式（放生贝类的仪式）。这种佛教仪式大多数都会放生鸟类、鱼类等动物，但在宇佐神宫，被放生的是马蹄螺和蛤蜊。相传，当年人们认为 8 世纪那场瘟疫的罪魁祸首是贝类动物，而它们就是隼人亡灵的化身。

放生仪式前要先收集贝类，再用芦苇苞把它们包起来，这个环节一直由蜷木家族负责。准备好的芦苇苞需要在指定的神社净化，再送到浮殿，由神职人员唱诵祝词。随后，神职人员乘船至河心，在完成另一场仪式后，将马蹄螺和蛤蜊放入水中。如果水位较低，整个仪式则都在河岸上完成。

第 3 日：御灵镇魂

最后一天，八幡大神乘坐神轿返回宇佐神宫。途中，神轿队伍要在百体神社停留，神职人员们为安抚供奉于此的隼人亡灵在此行拜礼，称“御灵镇魂”。祷告完成后，神轿队伍在手持纸灯笼的氏子*陪伴下返回上宫，将八幡大神送归他的御殿，仲秋祭至此结束。

※氏子：在神社所在地区内供奉同一氏族神明的本地信徒。

<繁体字>

仲秋祭

祭典日：10 月上半月，包含體育日（10 月第二個星期一）在內連休三日

仲秋祭是一場為期三天的大型祭典，由宇佐神宮主辦，旨在追悼西元 8 世紀早期被大和朝廷討伐並鎮壓的九州南部的貴族——隼人。祭典在一場盛大的遊行中拉開帷幕，八幡大神乘坐神轎前往地處偏僻河岸的浮殿，有佛教僧侶在此迎接大神鑾轎。其中最重要的儀式是第二天的「放生會」，藉由將貝類生物放回河中，以此贖罪。最後一天，在安撫隼人亡靈的祈禱儀式結束後，神轎隊伍返回宇佐神宮，再將八幡大神請回上宮本殿（正殿）。

「隼人之亂」與祭典的由來

根據古代史記錄，隼人在西元 8 世紀早期發動叛亂，對抗大和朝廷。朝廷於 720 年抽調九州北部軍營駐軍鎮壓。為祈求神明護佑，當時的朝廷軍隊中有一座八幡大神的神轎隨行，這被認為是祭典中神轎遊行的起源。叛亂很快被平定，隼人戰敗，殘軍俯首投降。

然而戰後不久，瘟疫和饑荒橫掃這一地區，人們認為這是隼人的怨靈在作祟。後來八幡大神頒下神諭：為安撫在「隼人之亂」中遭到殺戮的亡魂，應當每年舉辦一次放生會。於是，最初的儀式準備工作完成後，遊行隊伍行至和間濱，將貝類放歸於水中。這或許是日本歷史上第一次由神社—佛寺綜合設施主持的放生儀式。

在宇佐神宮踐行「神佛習合」（神道教與佛教融合）的千年時光裡，這項儀式一直被稱為「放生會」。直到 19 世紀晚期，政府頒佈分離神道教和佛教的「神佛判然令」後，改名為「仲秋祭」，成為了季節性的神道教祭典。

第 1 日：迎講

祭典第一天，八幡大神從上宮的本殿被請上神轎。神轎隊伍遊行 8 公里前往浮殿，這是一座位於寄藻川河岸上的小神社。在八幡大神入駐這座臨時神社之前，來自鄰近的國東

半島六郷満山諸寺の佛教僧侶要在神轎前誦經，舉行「迎講」儀式，即以念誦經文的形式迎接神明到來，這樣的儀式也再次體現了宇佐神宮神佛習合の歴史。

第2日：蜷放生

仲秋祭の主要活動は放生儀式（放生貝類の儀式）。這種佛教儀式大多數都會放生鳥類、魚類等動物，但在宇佐神宮，被放生的是川蜷螺和蛤蜊。相傳，當年人們認為8世紀那場瘟疫的罪魁禍首是貝類動物，而它們就是隼人亡靈的化身。

放生儀式前要先收集馬蹄螺和蛤蜊，再把它們放入蘆葦苞裡，這個準備過程歷代由蜷木家族負責。準備好的蘆葦苞需要在指定的神社淨化，再送到浮殿，由神職人員唱誦祝詞。隨後，神職人員乘船至河心，在進行完另一場儀式後，將馬蹄螺和蛤蜊放入水中。如果水位較低，整個儀式則在河岸上完成。

第3日：御靈鎮魂

最後一天，八幡大神乘坐神轎返回宇佐神宮。途中，神轎隊伍要在百體神社停留，神職人員們為安撫供奉於此的隼人亡靈，在此行拜禮，稱「御靈鎮魂」。禱告完成後，神轎隊伍在手提紙燈籠的氏子^{*}陪伴下返回上宮，將八幡大神請回御殿，仲秋祭至此結束。

※氏子：在神社所在地區內供奉同一氏族神明的當地信徒。

<日本語仮訳>

仲秋祭

時期：10月前半、スポーツの日（10月第二の月曜日）を含む3連休

仲秋祭は、8世紀初頭に大和朝廷に討伐された南九州の豪族である隼人への追悼の意を表して宇佐神宮が開催する、大規模な3日間の祭りです。神輿に移された八幡大神が行列によって川岸にある浮殿という宇佐神宮から離れた社に運ばれ、僧侶に迎えられて祭りが始まります。最も重要な神事は2日目に行われ、放生会と呼ばれる贖罪の神事で貝類が川に放流されます。最終日、隼人の御霊を鎮めるための祈祷の後、神輿の行列は宇佐神宮に帰り、八幡大神は上宮の本殿に戻されます。

隼人の乱と祭りの由来

古代史に、8世紀初頭に隼人が大和朝廷への反乱を起こしたと記されています。720年に九州北部にあった拠点から大和朝廷の軍勢が派遣されたとき、八幡大神は守護として神輿に乗って同行しました。これがお祭りで神輿が使われる起源となったと考えられています。この戦いは、残りの隼人の敗北と服従によってまもなく終わりを迎えました。

しかし、その直後に疫病と飢饉が同地域を襲い、人々は隼人の怨念がその原因だと考えました。その後、八幡大神から、隼人の乱の際に行われた殺生を贖うために、放生会を毎年営むべきであるという神託が下りました。最初の神事の準備ができるとすぐ行列は和間浜へ向かい、貝類が水中へ放たれました。これが、日本で初めて神仏習合の施設によって行われた放生の儀であると言われています。

宇佐神宮が神仏習合（神道と仏教の融合）を実践していた千年ほどの間、この神事は単に放生会と呼ばれていました。19世紀後半に政府が神道と仏教を分離させる「神仏判然令」を発令したのち、季節ごとに行われる神道の祭となり、仲秋祭と改名されました。

1 日目：迎講

祭りの初日、八幡大神は上宮の本殿から神輿に移されます。神輿の行列は、寄藻川のほとりにある浮殿と呼ばれる小さな社までの8キロの道のりを進みます。八幡大神が浮殿で一時的に祀られる前に、近くの国東半島の六郷満山の僧侶が神輿の前で読経する、迎講と呼ばれる儀式が行われ、ここにも宇佐神宮の神仏習合の歴史が見てとれます。

2 日目：蛭放生

仲秋祭の中心となる儀式が、蛭放生の儀（貝類を放つ儀式）です。ほとんどの放生会では魚や鳥が使われますが、宇佐神宮で放つ生き物は蛭貝や蛤です。伝説によると、人々は8世紀に疫病が蔓延したのは貝に原因があるとし、隼人の鎮まらない霊が貝に生まれ変わったと信じていたと言われています。

この神事の準備として、貝類が代々その務めを果たしてきた蛭木家の人々によって集められ、葦の苞に包まれます。この苞は、この目的のために指定された神社で清められ、浮殿に運ばれ、神職が祝詞を唱えます。そして神職は船で川の中ほどまで進み、もう一つの儀式の後、蛭貝と蛤が水の中へ放たれます。水位が低い場合、神職はその川岸に立って儀式を行います。

3 日目：御霊鎮魂

最終日、八幡大神を運ぶ神輿は宇佐神宮へ戻されます。その途中、行列は一旦、百体神社で止まり、神職がここに祀られている隼人の霊を鎮めるために拝礼をします。これが御霊鎮魂といえます。その後、提灯を持った氏子[※]を伴った神輿の行列は上宮へ戻ります。八幡大神は御殿に移され、仲秋祭が幕を閉じます。

※氏子：神社が所在する地域で同じ氏族の神を信仰する人たち。

【タイトル】本殿遷座祭

【想定媒体】WEB

<簡体字>

本殿遷座祭

举办年份：上宮本殿大规模修葺后

神社本殿（正殿）修葺或重建后都要举办特别仪式。这些神圣的建筑是安放“御神体”（神像等神明载体）的地方，被视为神明的居所或显圣之处，因此受到至高的尊崇。为了不让神明受到施工噪音的干扰，更为了避免屋顶施工时站在神明头上，神殿修葺期间，御神体会被安放在提前准备好的临时供奉地。

宇佐神宮最为盛大的迁座仪式，是上宮三座神殿修葺完后举办的“本殿迁座祭”，即三位神明回归本殿的祭典。届时，天皇也要钦派敕使参加。迁座仪式开始前，御神体先要在夜深人静之时迁出临时供奉地，坐上神轿，由火炬引导回到上宮。第二天，敕使将供品敬奉给神明，大声诵念祝词，并宣读天皇的致辞。

本殿迁座祭如今难得一见，只有在本殿修葺规模大到需要同时搬迁三位神明时才会举办。在宇佐神宮每隔一段时间就要进行社殿重建仪式的年代，祭典活动更为频繁。过去，尽管花费巨大，但为了保持符合神社神圣属性的“纯净”与历久常新的建筑外观，大型神社都会定期重建社内建筑。定期重建也能为专职修建神社建筑的工匠们提供机会磨练技艺，代代相传。

现在，只有三重县的伊势神宮还保持着这一传统，每20年就全面重建一次神宮内的所有主要殿宇。宇佐神宮自公元9世纪到14世纪，每33年进行一次这样的重建，但此后随着神宮影响力减弱，国家也进入战乱时期，耗资不菲的惯例不得不中断，神宮只有在必要时才会修葺。

最近一次的本殿迁座祭举办于2015年。

<繁体字>

本殿遷座祭

舉辦年份：上宮本殿大規模修葺後

神社本殿（正殿）修葺或重建後都要舉辦特別儀式。這些神聖的建築是安放「御神體」（神像等神明載體）的地方，被視為神明的居所或顯聖之處，因此受到世人至高的崇敬。

為了不讓神明受到施工噪音的干擾，更為了避免屋頂施工時站在神明頭上，神殿修葺期間，御神體會被安放在提前準備好的臨時供奉地。

宇佐神宮最為盛大的遷座儀式，是上宮三座神殿修葺完後舉辦的「本殿遷座祭」，即三位神明回歸本殿的祭典。屆時，天皇也要欽派敕使參加。遷座儀式開始之前，御神體先要在夜深人靜之時遷出臨時供奉地，坐上神轎，由火炬引導回到上宮。第二天，敕使將供品敬奉給神明，大聲誦念祝詞，並宣讀天皇的致辭。

本殿遷座祭如今難得一見，只有在本殿修葺規模大到需要同時搬遷三位神明時才會舉辦。在宇佐神宮每隔一段時間就進行社殿重建儀式的時代，祭典活動更為頻繁。過去，儘管花費巨大，但為了保持符合神社神聖屬性的「純淨」與歷久彌新的建築外觀，大型神社定期重建域內建築，也為專職修建神社建築的工匠們提供機會磨練並將技藝傳於後代。

現在，只有三重縣的伊勢神宮還保持著這一項傳統，每 20 年就全面重建神宮域內所有主要的建築。宇佐神宮自西元 9 世紀到 14 世紀，每 33 年進行大規模重建，但此後隨著神宮影響力減弱，國家也進入戰亂時期，耗資不菲的傳統不得不中斷，只有在必要時才會修葺。

最近一次的本殿遷座祭於 2015 年舉辦。

<日本語仮訳>

本殿遷座祭

実施年：上宮本殿の大規模な修理後にのみ実施

神社の本殿を修理または改築する際には特別な神事が行われます。この神聖な建物には、神が宿るまたは顕現するとされる貴重な御神体が安置されていることから、最大限の敬意を払って扱われます。本殿が修理される場合、御神体は特別に準備された一時的に安置する場所に移されます。これは、大きな音を立てて神々を困惑させたり、その上の屋根に立ったりすることは不適切だと考えられているためです。

宇佐神宮での最も大きな遷座の神事は、上宮の三つの御殿の修繕を終えて三柱のご祭神がお戻りになる際に行われる本殿遷座祭です。勅使（天皇の使者）もこの神事に参加します。御神体を運ぶ神輿は、真夜中に御旅所を出て、遷座の神事のために松明の光を頼りに上宮に戻ります。翌日、勅使は神々に供物を奉納し、祝詞と天皇陛下からのお言葉を声に出して読み上げます。

本殿遷座祭は今では珍しい光景であり、本殿の修理がすべてのご祭神をお移しすることが必要な規模の場合にのみ行われます。しかし、宇佐神宮が一定期間ごとに社殿を建て替える神事を実施していた頃は、もっと頻繁に行われていました。かつて大きな神社では、莫大な費用がかかるにも関わらず、神社の神聖性を示す汚れなき外観、常に新しい外観を維持するために、境内の建物を定期的に建て直していました。その定期的な建て替えのおかげで、神社建築の専門職人が技術を磨き、次世代に引き継ぐことができたのです。

現在、三重県の伊勢神宮のみが主要な社殿すべての全面的な建て替えの神事を 20 年ごとに実施しています。宇佐神宮では、9 世紀から 14 世紀にかけて、33 年に 1 度の周期で建て替えの神事が行われていました。宇佐神宮の影響力が衰え、国も戦乱の時代に突入したため、費用のかかるこの慣行は中止を余儀なくされ、それ以来、必要な場合にのみ修理が行われるようになりました。

前回の本殿遷座祭は 2015 年に行われました。

【タイトル】 臨時奉幣祭

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**临时奉币祭**

举办年份：2025 年（每 10 年一次）

在宇佐神宮，临时奉币祭不是常见的宗教活动，只有天皇特派敕使参拜神社时才会举办。届时，敕使将向神宮祭神宣读天皇陛下的祝词，并呈上供品。宇佐神宮是全日本 17 座可以接待敕使的“敕祭社”之一。

敕使第一次来到宇佐神宮参拜是在公元 720 年，距今已有 1300 多年的历史。此后的数世纪里，受各时期在位天皇指派的敕使曾多次来到神宮参拜。14 世纪中期到 18 世纪中期，皇权衰退，这项活动也一度中断，直至 1744 年才恢复。此后每 60 年举办一次。自 1925 年起，天皇每 10 年指派敕使前往宇佐神宮参拜一次。

每到举行临时奉币祭时，人们都会云集宇佐，希望能在敕使进入宇佐神宮前一睹其风采。旅行画家蓑虫山人(1836-1900)曾在手绘日记中画下 1864 年赴神宮参拜的敕使队列，其中一幅作品展示了浩荡队伍沿着敕使街道前往神宮的场景，另一幅则描绘了百姓聚集在神宮入口敕使刚使用过的手水舍旁，争相净化自身的情景。

敕使参拜期间，宇佐神宮会举办许多仪式和活动。敕使抵达宇佐后，穿过敕使街道，再通过形似檐廊的“吴桥”进入宇佐神宮。吴桥专为这项祭典而设，每 10 年才打开桥门一次。当晚，一队氏子*手提灯笼穿过吴桥，进入宇佐神宮向敕使行拜礼。临时奉币祭在敕使到达后的第二天举行，届时，敕使在上宮代天皇将供品敬奉给神明，并大声宣读天皇祭文。

最近一次临时奉币祭于 2015 年举办，根据史料记载，这是敕使第 257 次参拜宇佐神宮。下一次应当在 2025 年。

※氏子：在神社所在地区内供奉同一氏族神明的本地信徒。

<繁体字>**臨時奉幣祭**

舉辦年份：2025 年（每 10 年一次）

在宇佐神宮，臨時奉幣祭不是常見的宗教活動，只有天皇特派敕使參拜神社時才會舉辦。屆時，敕使將向神宮祭神宣讀天皇陛下的祝詞，並呈上供品。宇佐神宮是全日本 17 座可以接待敕使的「敕祭社」之一。

敕使第一次來到宇佐神宮參拜是在西元 720 年，距今已有 1300 多年的歷史。此後的數世紀裡，受各時期在位天皇指派的敕使曾多次來到神宮參拜。14 世紀中期到 18 世紀中期，皇權衰退，這項活動也一度中斷，直至 1744 年才恢復。此後每 60 年舉辦一次。自 1925 年起，天皇每 10 年指派敕使前往宇佐神宮參拜一次。

每到舉行臨時奉幣祭時，人們都會雲集宇佐，希望能在敕使進入宇佐神宮前一睹其風采。旅行畫家蓑蟲山人（1836-1900）曾在手繪日記中畫下 1864 年赴神宮參拜的敕使佇列，其中一幅作品展示了浩蕩隊伍沿著敕使街道前往神宮的場景，另一幅則描繪了百姓聚集在神宮入口處、敕使剛使用過的手水舍旁，爭相清潔自身的情景。

敕使參拜期間，宇佐神宮會舉辦許多儀式和活動。敕使抵達宇佐後，穿過敕使街道，再通過形似簷廊的「吳橋」進入宇佐神宮域內。吳橋專為這項祭典而設，每 10 年才打開橋門一次。當晚，一隊氏子^{*}手提燈籠穿過吳橋，進入宇佐神宮向敕使行拜禮。臨時奉幣祭在敕使到達後第二天舉行，屆時，敕使在上宮代天皇將供品敬奉給神明，並大聲宣讀天皇祭文。

最近一次臨時奉幣祭於 2015 年舉辦，根據史料記載，這是敕使第 257 次參拜宇佐神宮。下次應當在 2025 年。

※氏子：在神社所在地區內供奉同一氏族神明的當地信徒。

<日本語仮訳>

臨時奉幣祭

実施年：2025 年（10 年に 1 回）

臨時奉幣祭は、天皇から特別に派遣された使者である勅使が宇佐神宮に参向する際に宇佐神宮で開催される珍しい宗教行事です。行事では、勅使は祀られた神々への天皇陛下の祝詞を読み上げ、天皇陛下からの供物をご祭神に奉納します。宇佐神宮は、勅使を迎える資格を有する日本でわずか 17 の勅祭社のうちの 1 つです。

最初の宇佐神宮への勅使の参向は、1300 年以上前の 720 年に行われ、その後何世紀にもわたって、勅使は時の天皇の裁量で何度も宇佐神宮を訪れました。天皇の権力が衰退していた 14 世紀半ばから 18 世紀半ばにかけてこの慣習は中断されましたが、1744 年に再開されてからは 60 年ごとに行われ、1925 年からは、宇佐神宮には 10 年に 1 回勅使を派遣することになりました。

宇佐神宮に向かう途中の勅使の姿を一目見ようと、この時期はいつも多数の人々が宇佐に集まります。旅する芸術家、蓑虫山人（1836-1900）の絵日記には、1864 年の勅使の行列が描かれています。一つには、勅使街道に沿って神宮に向かって伸びる壮大な行列が描かれ、他にも勅使が使用した後、神宮の入口近くの手水舎で自らを清めようと競い合う庶民の姿が描かれています。

宇佐神宮では、勅使の参向中に多くの神事や行事が行われます。勅使は宇佐に着くと、勅使街道を通り、10年に1度この祭りの時に開通扉する屋根付きの呉橋を通過して神宮の境内に入ります。その日の夜に氏子[※]の集団は提灯を手に呉橋を通過して宇佐神宮へ入り、勅使に拝礼します。臨時奉幣祭は翌日行われ、その時に勅使は上宮で天皇陛下からの神々への供物を奉納し、託された祭文を声に出して読み上げます。

直近の臨時奉幣祭は2015年に行われ、宇佐神宮への勅使の参向は257回目となりました。次の勅使参向は2025年に予定されています。

※氏子：神社が所在する地域で同じ氏族の神を信仰する人たち。

【タイトル】 勅使街道

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**勅使街道**

勅使街道是一条通往宇佐神宮的古道，长年以来，代表天皇前来参拜、供奉供品并宣读祭文的敕使走的都是这条路。虽然九州东北部一条更长的重要商道也曾被称为“敕使街道”，但现在这个名字专指从化妆井户到吴桥（宇佐神宮西参道上的入口）之间的这段道路。笔直的敕使街道约 1 公里长，只要看准日落时间和角度，就能在这里领略到一道别样的夕阳美景。

旅行画家蓑虫山人(1836-1900)的手绘日记里记录了 1864 年敕使队伍行进的场景，为当时的敕使参拜和敕使街道留下了宝贵的图像记录。如今，天皇每 10 年派遣一名敕使前来参加“临时奉币祭”。随着现代交通的发展，敕使的行程路线已经改变，但为表示对传统的尊重，依然要走一段敕使街道。

勅使街道如今不再是进入宇佐神宮的主参道，但沿途还是有好几个值得造访的地点，比如：化妆井户、凶首塚古坟、百体神社，以及专营宇佐传统工艺品——葫芦制品的店铺。2020 年的改建工程顾及到这一地区的传统氛围，精心保留了这条曾经引导着敕使和无数朝圣者走向宇佐神宮的小道。如今的街道上，朴素简约的街灯取代了电线杆和电线，路面重新铺上了石板。昔日古敕使街道上的石块在挖掘中重见天日，化身为百体神社前的装饰路面。

<繁体字>**勅使街道**

勅使街道是一條通往宇佐神宮的古道，是歷代代表天皇前來參拜、供奉供品並宣讀祭文的敕使所走的道路。雖然九州東北部另一條更長的重要商道也曾被稱為「勅使街道」，但現在這個名字專指從化妝井戶到吳橋（宇佐神宮西參道上的入口）之間的這條道路。筆直的敕使街道約 1 公里長，只要看准日落時間和角度，就能在這裡領略到一道別樣的夕陽美景。

旅行畫家蓑蟲山人（1836-1900）的手繪日記裡，記錄了 1864 年敕使佇列行進的場景，為當時的敕使參拜和敕使街道留下了寶貴的圖像記錄。如今，天皇每 10 年派遣一名敕使前來參加「臨時奉幣祭」。隨著現代交通的發展，敕使的行程路線已經改變，但為表示對傳統的尊重，依然要走一段敕使街道。

勅使街道如今不再是進入宇佐神宮的主參道，但沿途仍有幾處值得造訪的景點，包括化粧井戸、凶首塚古墳、百體神社，以及專營宇佐傳統工藝品——葫蘆製品的店鋪。2020 年的改建工程顧及到這一地區的傳統風氣，精心保留了這條曾經引導著勅使和無數朝聖者走向宇佐神宮的小道。如今的街道上，樸素簡約的街燈取代了電線杆和電線，路面重新鋪上了石板。昔日古勅使街道上的石塊在挖掘中重見天日，化身為百體神社前的裝飾路面。

<日本語仮訳>

勅使街道

勅使街道は宇佐神宮に通じる歴史的な道で、勅使という天皇に代わって宇佐神宮の神々へ供物を捧げたり祭文を読み上げたりする使者が、長年通ってきました。勅使街道という名前は、かつては九州北東部の重要な交易路のより広範囲を指していましたが、現在は化粧井戸と呉橋（宇佐神宮西参道にある入り口）の間の道を指しています。勅使街道は一直線に約 1 キロ伸びており、太陽が丁度良い角度に沈む時は、特に美しい景色を眺めることができます。

旅の芸術家であった蓑虫山人（1836-1900）の絵日記には、1864 年の勅使行列の絵も含まれており、当時の勅使街道や勅使参向を視覚的に記録した、貴重な資料となっています。現在、勅使は 10 年に 1 回宇佐神宮へ派遣され、臨時奉幣祭に参列します。勅使が通る道は交通機関の近代化によって変わりましたが、伝統を尊重し、勅使は今でも勅使街道の一部を通ります。

勅使街道は現在宇佐神宮への主な参道ではなくなりましたが、勅使街道には化粧井戸、凶首塚古墳、百体神社、そして宇佐の伝統工芸の一つであるひょうたんを使った商品を作る専門店など、見どころが複数あります。2020 年には、宇佐神宮に向かう勅使や数え切れない程の巡礼者がかつて旅した道を保存し、地域の雰囲気を持続するために細心の注意を払って改修が行われました。電柱や送電線がシンプルな街灯に置き換えられ、道路は石畳のモチーフで再舗装されました。百体神社の前の道には、発掘調査で出土した当時の勅使街道の石が、装飾的な舗装に使用されています。

【タイトル】大相撲力士 双葉山

【想定媒体】WEB

<簡体字>

大相撲力士双叶山

宇佐是大相撲力士双叶山（1912–1968；本名穰吉定次）的家鄉，他曾取得相撲的最高段位“横綱”稱號，最了不起的成就是大相撲比賽 69 連勝，這一紀錄至今無人超越。双叶山輝煌的運動生涯持續了將近 20 年，期間總計 12 次榮登賽季冠軍寶座。

1927 年，15 岁的双叶山进入立浪部屋，在接下来的 10 年间逐步取得了大相撲的各级稱號，甚至在还只是低阶力士时就打败过一名横綱。他战绩赫赫的連勝紀錄开启于 1936 年，持續了近三年時間。1936 年，他贏得了大相撲力士次高級稱號“大關”，1937 年成为第 35 任横綱。次年，一场特殊的“横綱”晉升儀式在宇佐神宮举办。在上宮祭祀的主神面前，双叶山举行了象征相撲力士入场的“土俵入”儀式。

1945 年双叶山引退之后，公众才得知他幼时曾经受过两次对职业相撲力士而言非常不利的伤。他不但右眼失明，还在帮助家人照料渔产生意时不慎右手小指部分骨折。然而，双叶山克服种种困难，靠着坚忍不拔的精神最终成就了自己的事业。他的经历越发博得众人的赞扬和敬佩。

引退后的双叶山亲自在自己的相撲部屋执教，同时，从 1957 年直到 1968 年去世之前，一直担任日本相撲协会的理事长职务。1999 年，一座名为“双叶之里”的小型博物馆落成开馆，馆址就在现已修复的双叶山童年故居附近。馆内展品包括：双叶山详细的生平年表、相撲比賽录像、身着横綱正装的立像、华丽的刺绣围裙“化粧廻”（相撲手在赛前仪式上穿着的丝质围裙，正面有大片刺绣），以及许多照片、资料和私人物品。展品说明大多为日文，但丰富的影像资料足以让来访者深度了解这位出身于宇佐的著名横綱。

<繁体字>

大相撲力士雙葉山

宇佐是大相撲力士雙葉山（1912–1968；本名穰吉定次）的家鄉，他曾取得相撲的最高段位「横綱」稱號，職業生涯最了不起的成就是大相撲比賽的 69 連勝，這一項紀錄至今無人超越。雙葉山輝煌的運動生涯持續了將近 20 年，期間總計 12 次榮登賽季冠軍寶座。

1927 年，15 歲的雙葉山進入立浪部屋，在接下来的 10 年間逐步取得了大相撲的各级稱號，甚至在還只是低階力士時就打败過一名横綱。他戰績赫赫的連勝紀錄開啟於 1936 年，持續了近三年時間。1936 年，他贏得了大相撲力士次高級稱號「大關」，1937 年成為第

35 任横綱。次年，一場特殊的「横綱」晉升儀式在宇佐神宮舉辦。在上宮祭祀的主神面前，雙葉山表演了象徵相撲力士入場的「土俵入」儀式。

1945 年雙葉山引退之後，民眾才得知他幼時曾經受過兩次對職業相撲力士而言非常不利的傷。他不但右眼失明，還在幫助家人照料漁產生意時不慎右手小指部分骨折。然而，雙葉山克服種種困難，靠著堅忍不拔的精神最終成就了自己的事業。他的經歷，越發博得眾人的讚揚和敬佩。

引退後的雙葉山親自在自己的相撲部屋執教，同時，從 1957 年開始，直到 1968 年去世之前，一直擔任日本相撲協會的理事長職務。1999 年，一座名為「雙葉之里」的小型博物館落成，館址就在現已修復的雙葉山童年故居附近。館內展品包括雙葉山詳細的生平年表、相撲比賽錄影、身著横綱正裝的立像、華麗的刺繡圍裙「化粧廻」（相撲手在賽前儀式上穿著的絲質圍裙，正面有大片刺繡），以及許多照片、資料和私人物品。展品說明大多為日文，但豐富的影像資料足夠能讓觀眾深入認識這位出身宇佐的著名横綱。

<日本語仮訳>

大相撲力士 双葉山

宇佐は、横綱という最高位に到達した大相撲の力士であった双葉山（1912–1968、本名穰吉定次）の故郷です。彼は大相撲で 69 連勝するという偉業を成し遂げ、この記録は未だ破られていません。双葉山は約 20 年間にわたって輝かしい戦歴を重ね、引退するまでに幕内で 12 回の優勝を果たしました。

双葉山は 1927 年に 15 歳で立浪部屋に入門、その後 10 年間で大相撲の番付を上げていき、下位の力士の頃には横綱に勝ったこともありました。1936 年に始まり、3 年近く続いた連勝は有名です。双葉山は 1936 年に 2 番目に高い番付である大関に昇進、1937 年には第 35 代横綱になりました。翌年に宇佐神宮で横綱への昇進を記念する特別な行事が開催され、双葉山は上宮の御祭神の前で象徴的な力士が土俵に上がる際の儀式——土俵入りを披露しました。

1945 年に双葉山が引退した後、幼少期に力士として土俵で不利になるような二つの怪我を負っていたことが、公に知られるようになりました。彼は右目が見えず、また家業であった漁業を手伝っていた際に右小指の一部が押しつぶされていたのです。双葉山がこのような困難を乗り越えてきたという事実によって、彼の経歴は支持者たちからますます賞賛されるようになりました。

双葉山は、自身の相撲部屋の親方として力士を指導し、1957 年から 1968 年に亡くなるまで日本相撲協会の理事長を務めました。1999 年には、修復された彼の生家の近くに「双葉の里」という小規模な博物館が開館しました。この博物館では、双葉山の生涯と経歴の詳細な年表や、彼の取組のビデオ映像、横綱の正装をした双葉山の大きな像、華やかな化粧まわし（試合前の儀式で着用される、刺繡された大きな前掛けが付いた絹のふんどし）、多数の写真、資料、私物などが展示されています。説明文のほとんどは日本語ですが、豊富な視覚資料のおかげで、宇佐出身のこの名横綱についてより詳しく知ることができます。

【タイトル】宇佐八幡駅

【想定媒体】WEB

<簡体字>

宇佐八幡站

宇佐八幡站于1916年开始运营，是附近丰后高田市至宇佐神宫的铁路终点站。这段全程 8.8 公里的铁路和宇佐八幡站在宇佐公共交通网络中发挥着重要作用，周围的居民、宇佐神宫的氏子[※]以及前往神宫观光的游客都曾利用到它们。在神宫全域重建的“昭和大营造”(1932-1941)期间，车站也进行了翻新，风格近似于宇佐神宫的传统神社建筑。看当时的照片，车站建筑酷似入口两侧排放着大型石灯笼的神社殿宇。1965 年，这段铁路停运，宇佐八幡站也被拆除。后来，车站原址上建造了一个停车场，供造访宇佐神宫的自驾游客使用。

蒸汽机车克劳斯 26 号(Krauss No.26)作为这段铁路的历史见证被保存下来，安置在距离仲见世商店街不远的宇佐神宫表参道（参拜主路）旁。这台机车于1894年从一家德国公司引进，1948 年调度到宇佐这条路线上运营。到 1965 年时，它已经是该路线上最老的在役列车，也是唯一的蒸汽机车。当年，九州铁道公司同时进口了20台同级别的蒸汽机车，如今全国仅存4列，九州只有这台克劳斯 26 号。它被捐赠给宇佐市政府后，在 2000 年和 2019 年经历两度维修，现已被指定为大分县物质文化遗产。

※氏子：在神社所在地区内供奉同一氏族神明的本地信徒。

<繁体字>

宇佐八幡站

宇佐八幡站於1916年開始營運，是附近豐後高田市至宇佐神宮的鐵路終點站。這段鐵路線全程 8.8 公里，連同宇佐八幡站在宇佐公共交通網絡中發揮著重要的作用，周圍的居民、宇佐神宮的氏子[※]以及前往神宮觀光的遊客都曾利用到它們。在神宮全域重建的「昭和大營造」(1932-1941) 期間，車站也進行了翻新，風格近似於宇佐神宮的傳統神社建築。從當時的照片可看出，車站建築酷似入口兩側排放著大型石燈籠的神社殿宇。1965 年，該段鐵路停駛，宇佐八幡站也被拆除。後來，車站原址上建造了一個停車場，供造訪宇佐神宮的自駕遊客使用。

蒸汽火車克勞斯 26 號 (Krauss No.26) 則作為這段鐵路的歷史見證被保存下來，安置在距離仲見世商店街不遠的宇佐神宮表參道（參拜主要道路）旁。這台火車於1894年自一家德國公司進口，1948 年調到宇佐鐵路線上營運。到 1965 年時，它已經是該路線上最老

的在役列車，也是唯一的蒸汽火車。當年，九州鐵道公司同時進口了 20 台同級別的蒸汽火車，如今全日本僅存 4 台，而九州只保留了這台克勞斯 26 號。它被捐贈給宇佐市政府後，在 2000 年和 2019 年經歷兩次維修，現已被指定為大分縣物質文化財產。

※氏子：在神社所在地區內供奉同一氏族神明的當地信徒。

<日本語仮訳>

宇佐八幡駅

宇佐八幡駅は、宇佐神宮と近隣の豊後高田市を結ぶ 8.8 km の路線の終点として 1916 年に開業しました。この路線と宇佐八幡駅は宇佐の交通網として重要な役割を果たし、周辺住民や宇佐神宮の氏子※、宇佐神宮に参拝する観光客に利用されていました。宇佐神宮の昭和大造営（1932-1941）の際、宇佐八幡駅は宇佐神宮の伝統的な神社建築を彷彿とさせるような様式で再建されました。当時の写真を見ると、駅舎は傍らに大きな石灯籠のある社殿を思い起こさせます。1965 年に路線が閉鎖された後、宇佐八幡駅は取り壊され、その後、宇佐神宮に車で来る参拝客のための駐車場になりました。

蒸気機関車クラウス 26 号（Krauss No.26）は鉄道の歴史を思い出させるものとして保存されており、仲見世商店街近くの宇佐神宮の表参道（正面に位置する参道）のそばで見ることができます。この車両は 1894 年にドイツの会社から購入され、1948 年に宇佐八幡駅に向かう路線に移されました。1965 年には同路線で最も古い運行中の列車であり、現存する唯一の蒸気機関車となっていました。当時、九州鉄道が輸入したこのクラスの機関車 20 両のうち、今も残っているのは全国で 4 両しかなく、九州に残っているのはクラウス 26 号のみです。この蒸気機関車は宇佐市に寄贈され、2000 年と 2019 年に修理・修復が行われ、現在は大分県の有形文化財に指定されています。

※氏子：神社が所在する地域で同じ氏族の神を信仰する人たち。

【タイトル】『蓑虫山人繪日記』

【想定媒体】WEB

<簡体字>

《蓑虫山人繪日記》

蓑虫山人(1836-1900)是一名旅行画师，14岁离开家乡美浓国（今岐阜县），48年间走遍了日本。他本名土岐源吾，却以“蓑虫山人”的名号为人所知，这是因为他在放浪行游时总是身披一件与众不同的蓑衣——就像蓑衣虫背在身上的保护壳一样。蓑虫山人兴趣广泛，研习过考古学、民俗学、园林设计，甚至还一度入伍服兵役。此外，他还曾学习源自中国山水画南宗的南画技法。但让蓑虫山人名扬天下的是他在旅途中创作的绘画，尤其是他笔下宇佐地区的自然风景、建筑、日常生活画面和宗教活动场景，这些对于历史学家来说格外具有价值。

蓑虫山人于1864年来到宇佐，花了3个月时间探访这一地区。相传在此期间，他为战争中丧生的同胞立了一座纪念碑。他在手绘日记中留下了宏大风景、著名地标，还有宇佐及周边地区居民的生活及工作场景，其中许多写生画都对了解当时这一地区景观风物、空间布局提供了重要的参考。比如，在一幅从吴桥北侧眺望宇佐神宫的画作里，留下了弥勒寺及寺院仁王门的模样，而这两处如今均已不存。

这本手绘日记里保留了19世纪晚期的一组珍贵画面，记录了敕使（天皇钦使）赶赴宇佐神宫的场景。在其中一幅画中，敕使队伍正浩浩荡荡地沿着街道前往神宫。另一幅则描绘了百姓争相在敕使用过的手水舍前洁净自身的场景。这两幅画作描绘了一项由敕使代天皇前来宇佐神宫参拜祈祷并向神明供奉供品的活动，名为“临时奉币祭”，现在每10年举办一次，但在蓑虫山人所处的时代却是60年才能得见一次的盛大场面。因此，这样一份绘画记录更显得弥足珍贵。

离开宇佐前，蓑虫山人将两册画集赠送给了本地一户人家。这些画集里共有约80幅画作，都是他在宇佐以及耶马溪、院内町、安心院町、中津市等其他大分县周边地区完成的。宇佐教育委员会将画集整理出版，取名为《蓑虫山人繪日記》。吴桥边的看板上展示着蓑虫山人的一幅作品，再现了150多年前宇佐神宫和周边的景致。

<繁体字>

《蓑蟲山人繪日記》

蓑蟲山人（1836-1900）是一名旅行畫師，14歲離開家鄉美濃國（今岐阜縣），往後48年間走遍了日本。他本名土岐源吾，卻以「蓑蟲山人」為人所知，這是因為他在放浪行

遊時、總是身披一件與眾不同的蓑衣——就像蓑衣蟲背在身上的保護殼一樣。蓑蟲山人興趣廣泛，研究過考古學、民俗學、園林設計，甚至還一度入伍服兵役。此外，他還曾學習源自中國山水畫南宗的南畫技法。但讓蓑蟲山人名揚天下的是他在旅途中創作的繪畫，尤其是他筆下的宇佐地區的自然風景、建築、日常生活畫面和宗教活動場景，這些對於歷史學家來說格外具有價值。

蓑蟲山人於 1864 年來到宇佐，花了 3 個月時間探訪這一地區。相傳在此期間，他為戰爭中喪生的同胞立了一座紀念碑。他在手繪日記中留下了壯闊的風景、著名地標、宇佐及周邊地區居民的的生活和工作場景，其中許多寫生畫都對了解當時這一地區的景觀、空間佈局提供了重要參考。例如一幅從吳橋北側眺望宇佐神宮的畫作裡，留下了今已不存的彌勒寺及寺院仁王門的模樣。

這本手繪日記裡保留了 19 世紀晚期的一組珍貴畫面，記錄了敕使（天皇欽使）趕赴宇佐神宮的場景。在其中一幅畫中，敕使隊伍正浩浩蕩蕩地沿著街道前往神宮，另一幅則描繪了百姓爭相在敕使用過的手水舍前洗淨自身的場景。上述兩幅作品描繪的一項由敕使代天皇前來宇佐神宮參拜祈禱並向神明供奉供品的活動，名為「臨時奉幣祭」，儘管現在每 10 年舉辦一次，但在蓑蟲山人所處的時代卻是 60 年才能得見一次的盛大場面。因此，這樣一份繪畫記錄更顯得彌足珍貴。

離開宇佐前，蓑蟲山人將兩冊畫集贈送給了當地一戶人家。這些畫集裡共有約 80 幅畫作，都是他在宇佐以及耶馬溪、院內町、安心院町、中津市等其他大分縣周邊地區完成的。宇佐教育委員會將畫集整理出版，取名為《蓑蟲山人繪日記》。吳橋邊的看板上展示的正是蓑蟲山人的一幅作品，藉以展現 150 多年前宇佐神宮和周邊的景致。

<日本語仮訳>

『蓑虫山人繪日記』

蓑虫山人（1836-1900）は、14 歳で美濃の国（現在の岐阜県）の家を出て、48 年間日本中を渡り歩いた旅絵師でした。本名を土岐源吾という彼は、ミノムシの背中のミノのような独特の蓑の蓑をまっとう放浪する姿から、蓑虫山人として知られるようになりました。山人は考古学、民俗学、造園学の研究に没頭するなど多様な興味を持っていた人物で、一時は兵士として務めたことさえありました。彼はまた、中国由来の水墨画のひとつである南画技法の習得に努めたともいわれています。しかし彼は、旅の途中で描いた絵によって最もよく知られています。特に宇佐地域の自然の風景、建築、日常生活、宗教行事を描いた彼の絵は、歴史家にとって大きな価値があることが証明されています。

山人は 1864 年に宇佐を訪れ、地域を探索しながら 3 ヶ月を過ごしました。彼はこの地域にいる間、戦いで亡くなったかつての同志のための記念碑を建てたとされています。彼は絵日記を書き続け、広大な風景、名所、宇佐周辺に暮らし活躍した人々を描きました。その絵の多くは、当時の地域の風景や配置を知る上で重要な役割を果たしています。たとえば、吳橋の北側から宇佐神宮を臨んだ絵には、現存しない彌勒寺とその仁王門が描かれています。

絵日記には、19 世紀後半に勅使（天皇の使者）が宇佐神宮に向かう行列の貴重な描写も含まれています。ある絵には宇佐神宮に続く道に沿って続く大行列が描かれ、別の絵には勅使が使用した神宮の手水舎で自らを清めようと競い合う庶民が描かれています。このような、天皇に代わって勅使が祭文や供物を捧げるために宇佐神宮への参向は、臨時奉幣祭と呼ばれ、現在は 10 年ごとに行われていますが、山人の時代には 60 年に 1 回しか開催されていなかったため、絵による記録は非常に価値のあるものです。

山人は宇佐を離れる前に、現地のとある家族へ 2 冊の画集を贈りました。この冊子には、耶馬溪や院内町、安心院町、中津市など、宇佐をはじめ大分県周辺で制作された絵が約 80 ページにわたって掲載されています。これをまとめた画集が、宇佐教育委員会から『蓑虫山人絵日記』として出版されました。呉橋の近くの看板には山人のスケッチの 1 つが再現されており、150 年以上前の宇佐神宮とその周辺の様子をうかがい知ることができます。

【タイトル】 凶首塚古墳

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

凶首塚古墳

凶首塚是一座古墳，大約建於公元 6 世紀晚期或 7 世紀早期。當時，這樣的建築多為貴族、宗族領袖或其他實權人物的墳塋。據說，凶首塚古墳是宇佐地區某位宗族領袖的墳墓，但墓主身份不詳。

研究發現，凶首塚古墳原本應該是一座直徑接近 15 公尺的圓形墳墓，坐落在一處高地上，底下的山谷有可能就是墓主的領地。可惜古墳的土構部分早已受損不存，如今只留下了石砌的墓室。這處長方形的墓室由四塊大石構成，每塊高約 2 公尺、長 1.8 公尺、厚度為 0.4 公尺。

「凶首塚古墳」也可理解為「叛亂者頭顱之墳」。傳說在公元 8 世紀 20 年代，大和朝廷鎮壓了九州南部爆發的「隼人之亂」。戰後，100 顆陣亡隼人的頭顱被朝廷軍隊作為戰利品帶回，最終埋葬在了這一地區。事實上，這座古墳早在叛亂爆發前便已存在了，所以人們推測這個名字應該與不遠處的百體神社有關，因為百名隼人的亡靈就供奉在這座神社裡。

凶首塚古墳位於通往宇佐神宮的敕使街道旁，對公眾開放。古墳如今已被指定為大分縣歷史遺迹。

<繁体字>

凶首塚古墳

凶首塚是一座古墳，大約建於西元 6 世紀晚期或 7 世紀早期。當時，這樣的建築多為貴族、宗族領袖或其他握有實權的人物的墳塋。據說，凶首塚古墳是宇佐地區某位宗族領袖的墳墓，但墓主身份不詳。

研究發現，凶首塚古墳原本應該是一座直徑接近 15 公尺的圓形墳墓，坐落在一處高地上，底下的山谷有可能就是墓主的領地。可惜古墳的土構部分早已受損不存，如今只留下了石砌的墓室。這處長方形的墓室由四塊大石構成，每塊高約 2 公尺、長 1.8 公尺、厚度為 0.4 公尺。

「凶首塚古墳」也可理解為「叛亂者頭顱之墳」。傳說在西元 720 年代，大和朝廷鎮壓了九州南部爆發的「隼人之亂」。戰後，100 顆陣亡隼人的頭顱被朝廷軍隊作為戰利品帶回，最終埋葬在了這一地區。事實上，這座古墳早在叛亂爆發前便已存在，所以人們推測「凶首塚古墳」這個名字應該與不遠處的百體神社有關，因為百名隼人的亡靈就供奉在這座神社裡。

凶首塚古墳位於通往宇佐神宮的敕使街道旁，對一般民眾開放。古墳如今已被指定為大分縣歷史遺跡。

<日本語仮訳>

凶首塚古墳

凶首塚古墳は、6 世紀後半または 7 世紀初頭に造られた古墳です。当時このような建造物が貴族や豪族の長、その他の有力者の墓として使われていました。凶首塚古墳は、宇佐地域の豪族の長の墓であったという説がありますが、実際に誰が埋葬されていたのかは不明です。

研究によると、凶首塚古墳は当初、直径約 15 メートルの丸い古墳であり、埋葬された豪族の長の領地であったと思われる盆地を臨む台地の上に造られました。残念ながら、古墳の土は随分前から侵食されており、石室しか残っていません。長方形の石室は、高さ約 2 メートル、幅 1.8 メートル、厚さ 0.4 メートルの 4 つの大きな石でできています。

凶首塚古墳という名前は、「反乱者の頭の古墳」というような意味です。伝説によると、720 年代に大和朝廷が九州南部の隼人の反乱を鎮圧した後、100 人分の頭部が勝利の証として持ち帰られ、その後、宇佐地域に埋葬されました。しかし、この古墳はこの反乱の前からすでに存在していました。現在の名前は、隼人の魂が祀られている近くの百体神社とこの古墳が関連付けられたと考えられます。

凶首塚古墳は宇佐神宮へと続く勅使街道沿いにあり、一般に公開されています。古墳は大分県の史跡に指定されています。

【タイトル】化粧井戸

【想定媒体】WEB

<簡体字>**化妆井戸**

化妆井戸是一组石井，据说，当年木偶戏艺人在宗教仪式前，就是在这里为名叫“傀儡子”的木偶梳妆打扮，然后再沿着敕使街道把木偶送到附近的百体神社。这些木偶会在神社举办的宗教演出中登场，以安抚隼人亡灵——他们是来自九州南部的贵族，曾起兵反抗大和朝廷。

宇佐神宫的记录显示，公元 720 年，朝廷出兵镇压隼人的叛乱，八幡大神作为庇护神随军同行。隼人原本抵挡住了朝廷军队的进攻，不料朝廷军队借助木偶戏表演分散他们的注意力，隼人松懈了防卫，最终败北。

隼人的叛乱遭到镇压，宇佐地区却开始受到饥荒和瘟疫的困扰。人们相信，这是隼人的怨灵在作祟。遵照八幡大神的神谕，本地开始举办一年一度的放生会，以期救赎杀戮的罪过，安抚亡者残魂。与此同时，百体神社的木偶戏表演也成为一种宗教例行仪式。进入 20 世纪后，这一传统已在宇佐地区失传，但九州的八幡古表神社和古要神社却将其保存了下来。

如今的化妆井戸共有三处井口，但 19 世纪的本地绘图资料上却只画了两口。其中一口老井在 20 世纪 60 年代被填，不过人们很快就在旁边新挖了两口井替代它。这两口新井由八幡古表神社和古要神社的氏子*捐建。三口井中最右侧的是最初保留下来的古井，井口的石头围栏上留存着各式各样的古老雕刻，其中包括 17 世纪晚期的日期落款、捐建古井的神职人员及村民的姓名。化妆井戸现已被指定为宇佐市历史遗迹。

※氏子：在神社所在地区内供奉同一氏族神明的本地信徒。

<繁体字>**化妝井戸**

化妝井戸是一組石井，據說，當年木偶戲藝人在宗教儀式前，就是在此為名叫「傀儡子」的木偶梳妝打扮，再沿著敕使街道把木偶送到附近的百體神社。這些木偶會在神社舉辦的宗教演出中登場，以安撫隼人亡靈——他們是來自九州南部的貴族，曾起兵反抗大和朝廷。

宇佐神宮の記録顯示，西元 720 年，朝廷出兵鎮壓隼人の叛亂，八幡大神作為庇護神隨軍同行。隼人原本抵擋住了朝廷軍隊的進攻，不料朝廷軍隊借助木偶戲表演分散他們的注意力，隼人因此鬆懈了防衛，最終敗北。

隼人の叛亂遭到鎮壓，宇佐地區卻開始受到饑荒和瘟疫的侵擾。人們相信，這是隼人の怨靈在作祟。於是遵照八幡大神的神諭，開始在當地舉辦一年一度的放生會，以期救贖殺戮之罪過，安撫亡者殘魂。與此同時，百體神社の木偶戲表演也成為一種宗教例行儀式。進入 20 世紀後，這一項傳統已在宇佐地區失傳，但九州の八幡古表神社和古要神社卻將其保存了下來。

如今的化粧井戸共有三處井口，但 19 世紀的當地繪圖資料上卻只畫了兩口。其中一口古井在 1960 年代被填平，人們便很快就在旁邊新挖了兩口井替代。這兩口新井由八幡古表神社和古要神社の氏子[※]捐建。三口井中最右側的是最初保留下來的古井，井口の石頭圍欄上留存著各式各樣的古老雕刻，包括 17 世紀晚期的日期落款、捐建古井の神職人員及村民の姓名。化粧井戸現已被指定為宇佐市歴史遺跡。

※氏子：在神社所在地區內供奉同一氏族神明の當地信徒。

<日本語仮訳>

化粧井戸

化粧井戸と呼ばれる石造りのこの井戸は、かつて宗教的な儀式の準備のため、人形使いが木製の傀儡子という人形を洗ったり、服を着せたりするために使用されたと考えられています。傀儡子はその後、勅使街道を下って近くの百体神社へ運ばれました。そこで傀儡子は、大和朝廷に反抗した九州南部の豪族である隼人の霊を鎮めるための演目で使用されていました。

宇佐神宮の記録によると、720 年に朝廷の軍勢が隼人の反乱の鎮圧に出発し、八幡大神は守護として同行しました。隼人はしばらくの間は朝廷軍に抵抗していましたが、朝廷は傀儡子を利用して気をそらすという作戦を取ります。これにより隼人は警戒を緩め、ついには敗北してしまいました。

反乱が鎮圧された後、宇佐地域は飢饉と疫病に苦しみ、人々はこれを隼人の怨霊が原因だと考えました。八幡大神からの神託に従い、殺生を贖い、荒ぶる魂を鎮めるために、放生会が毎年行われました。また、百体神社で傀儡子を使った神事を行うことも慣例となりました。この伝統は宇佐では 20 世紀に途絶えてしまいましたが、九州にある八幡古表神社と古要神社という 2 つの神社で続いています。

現在、化粧井戸は 3 つありますが、19 世紀のこの地域の絵図には、2 つの井戸しか描かれていません。この元の井戸の内の 1 つは、1960 年代に埋められましたが、その後で新たに 2 つの井戸が掘られました。新しい 2 つの井戸は、八幡古表神社と古要神社の氏子[※]から寄進されたものでした。右側の元の井戸には、17 世紀後半の日付や、井戸の建設に貢献した神職や村人の名前など、さまざまな古い彫刻が石の囲いの部分に刻まれています。化粧井戸は宇佐市の史跡に指定されています。

※氏子：神社が所在する地域で同じ氏族の神を信仰する人たち。

【タイトル】百体神社

【想定媒体】WEB

<簡体字>**百体神社**

百体神社是一座建于 8 世纪的小型神社，目的在于安**抚**九州南部地区的**贵族**、遭大和朝廷**镇压**而身亡的**隼人**亡**灵**。它位于敕使街道途中、化**妆**井户和凶**手**塚古坟的**东**面，是宇佐神宫的末社[※]。

据古籍**记载**，隼人在公元 8 世纪早期的反叛是**为了**反抗大和朝廷的**统治**，抵御其**扩张**到九州南部的**势力**。公元 720 年，朝廷**军队**奔赴隼人的**领地**，作为**保护**神，八幡大神坐上神轿随**军**同行。虽然**战事**激烈，隼人**还是**死守住了自己的**阵地**。

于是，朝廷**军队**施计用一种名叫“傀儡子”的木偶**戏**来分散隼人的注意力。隼人果然被演出吸引，松懈了**防卫**，从而**导致**彻底**战败**，余部皆遭**镇压**。相传，朝廷**军队**将 100 颗隼人**头颅**当作**战利品**带回了宇佐，最终被埋葬于此。

叛乱**结束**后的数年内，**饥荒**和**瘟疫**横扫这一地区，人们相信这是隼人的怨**灵**在作祟。就在此时，八幡大神下达了一道**神谕**，在**对镇压**时的**杀戮**行为深表**遗憾**的同时，宣布**应当**每年**举办**一次放生**仪式**，以此**赎罪**。此外，为了供奉死去的隼人，安**抚**他们的亡魂，人们建造了一座神社——百体神社。

1000 多年**过去**了，放生和**祈祷**仪式延续至今，成为了宇佐神宫“仲秋祭”中不可缺少的**组成**部分。在仲秋祭的最后一天，**承载**着八幡大神御灵的神轿被**请**到百体神社，神职人员为供奉在这里的隼人亡**灵**祈祷安息，**仪式**完成后再把八幡大神**请**回宇佐神宫。以往整个**仪式**中**还**包括傀儡子木偶**戏**表演和“神相扑”，前者被认为是再现当年叛乱之**战**中的木偶**戏**，后者是两个代表神明的木偶表演相扑。**进入** 20 世纪后，**这项**传统已然在宇佐地区**失传**，但九州的 2 座神社（吉富的八幡古表神社和中津的古要神社）却将其延承至今。**传说**这两座神社里供奉的**承载**神明之**灵**的御神体，正是当年被用来分散隼人**军**心的傀儡子人偶。

※末社：小型神社，供奉与本社祭祀之神相关的神明。

<繁体字>**百體神社**

百體神社是一座建於 8 世紀的小型神社，目的在於安**撫**九州南部地區的**貴族**、遭大和朝廷**鎮壓**而身亡的**隼人**亡**靈**。神社位於敕使街道途中、化**妝**井戶和兇**首**塚古墳的**東**面，是宇佐神宮的末社[※]。

據古籍記載，隼人在西元 8 世紀早期的反叛是為了反抗大和朝廷的統治，抵禦其擴張到九州南部的勢力。西元 720 年，朝廷軍隊奔赴隼人的領地，作為保護神，八幡大神也坐上神轎隨軍同行。雖然戰事激烈，隼人還是死守住了自己的陣地。

於是，朝廷軍隊施計用一種名叫「傀儡子」的木偶戲來分散隼人的注意力。隼人果然被演出吸引，鬆懈了防衛，從而導致徹底戰敗，餘部皆遭鎮壓。相傳，朝廷軍隊將 100 顆隼人頭顱當作戰利品帶回了宇佐，最終被埋葬在此。

叛亂結束後的數年內，饑荒、瘟疫橫掃這一地區，人們相信，這是隼人的怨靈在作祟。就在此時，八幡大神下達了一道神諭，在對鎮壓時的殺戮行為深表遺憾的同時，宣佈應當每年舉辦一次放生儀式，以此贖罪。此外，為了供奉死去的隼人，安撫他們的亡魂，人們建造了百體神社。

1000 多年過去了，放生和祈禱儀式延續至今，成為了宇佐神宮「仲秋祭」中不可或缺的一環。在仲秋祭的最後一天，承載著八幡大神御靈的神轎被請到百體神社，神職人員為供奉在這裡的隼人亡靈祈禱安息。儀式完成後再把八幡大神請回宇佐神宮。以往整個儀式中還包括傀儡子木偶戲表演和「神相撲」表演，前者被認為是再現當年鎮壓叛亂時的木偶戲，後者是兩個代表神明的木偶表演相撲。進入 20 世紀後，這項傳統已然在宇佐地區失傳，而九州另外 2 座神社（吉富的八幡古表神社和中津的古要神社）卻將其延續至今。傳說這兩座神社裡供奉的承載神明之靈的御神體，正是當年被用來分散隼人軍心的傀儡子人偶。

※末社：小型神社，供奉與本社祭祀之神相關的神明。

<日本語仮訳>

百体神社

百体神社は、大和朝廷に征服された九州南部の豪族である隼人の魂を鎮めるため、8 世紀に創建された小さな神社です。ここは宇佐神宮の末社[※]で、勅使街道の途中、化粧井戸や凶首塚古墳の東にあります。

古代の記録によれば、隼人は大和朝廷による支配と南九州への勢力拡大に抵抗し、8 世紀初頭に反乱を起こしました。720 年に朝廷の軍勢が隼人の領域に向けて出発したとき、八幡大神は守護として神輿に乗って同行しました。戦いは激しいものでしたが、隼人はしばらくの間、防御に成功しました。

最終的に朝廷軍は、傀儡子という人形による演舞で隼人の気をそらす作戦を実行しました。これに魅了された隼人軍は警戒を緩め、ついに敗北し、その後、残りの隼人は征服されました。朝廷軍は勝利の証として 100 人分の頭部を宇佐に持ち帰り、後にこの地に埋葬したと言われています。

反乱の数年後、疫病と飢饉がこの地域を襲い、人々は隼人の怨霊が原因だと考えました。その時、八幡大神からの神託が下り、反乱の際に犯された殺生に遺憾の意を表し、毎年、放生の儀を行うべしとお告げになりました。これと併せて、失われた隼人を祀り、その魂を鎮めるために百体神社が創建されました。

千年以上が経過しましたが、放生の儀と隼人のための祈りは、宇佐神宮の仲秋祭に欠かせない儀式として今でも行われています。祭りの最終日には、八幡大神の御霊を運ぶ神輿が百体神社へ運ばれ、神職が百体神社に祀られている隼人の魂を鎮める儀式が行われてから、八幡大神は宇佐神宮へ戻されます。かつては、この儀式の一環として、隼人の乱の際に演じられたとされる傀儡子の舞や、神様同士の相撲を表現した神相撲という人形による相撲が百体神社で行われていました。その伝統は宇佐では 20 世紀に絶えてしまいましたが、九州にある他の 2 つの神社（吉富の八幡古表神社と中津の古要神社）で続いています。これらの神社で祀られている神々の霊を宿す御神体は、隼人の気をそらすために使われた傀儡子であると言われています。

※末社：本社ゆかりの神様を祀る小社。

【タイトル】 浮殿（和間神社）

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

浮殿（和間神社）

浮殿是宇佐神宮的一处小型摄社[※]，最初坐落在名叫“和間濱”的海灘上，涨潮时，神社仿佛漂浮在波浪之间。随着 19 世纪排水开垦土地工程的推进，海岸线后退，当年的海灘如今已经变成了寄藻川の河岸，但立柱支撑的朱红色本殿（正殿）依然如同漂浮在水面上。浮殿的正式名称叫做“和間神社”，取自其初建时的地名。

浮殿建于 8 世纪中期，创建初衷是为了举办宇佐神宮每年一度的“放生会”。这项仪式旨在安抚隼人亡灵，他们原本是居住于九州南部的贵族，在公元 8 世纪 20 年代的“隼人之乱”中遭镇压身亡。如今，放生仪式已经成为每年秋天“仲秋祭”的一部分。仲秋祭为期三天，第一天，八幡大神坐上神轿自上宮出发，在浩荡的游行队伍的簇拥下来到浮殿；第二天，神宮神职人员和外来僧侣在本殿主持完净化仪式后，将被视为重生隼人之灵的马蹄螺和蛤蜊放入河中；第三天，八幡大神乘坐神轿经停百体神社后返回宇佐神宮。

过去的浮殿规模较大，有好几个社殿，后来渐渐缩小，现在只剩一座本殿和一间拜殿。尽管如此，浮殿的地位依然重要，九州地区实力强大的领主们也曾几度出资修葺神社。如今的浮殿重建于 1938 年，1964 年经历过一次整修。

※摄社：和“末社”一样，是本社的附属神社，供奉与本社主祭神有渊源的神明，比起末社来，摄社与本社的关系更为密切。

<繁体字>

浮殿（和間神社）

浮殿是宇佐神宮的一處小型攝社[※]，原坐落在一片名叫「和間濱」的海灘上。漲潮時，神社仿佛漂浮在波浪之間。隨著 19 世紀排水開墾土地工程的發展，海岸線逐漸後退，當年的海灘如今已經變成了寄藻川の河岸，但立柱支撐的朱紅色本殿（正殿）依然如同漂浮在河面上。浮殿的正式名稱為「和間神社」，取自于當年的地名。

浮殿建於 8 世紀中期，創建初衷是為了舉辦宇佐神宮每年一度的「放生會」。這項儀式旨在安撫隼人亡靈，他們原本是居住於九州南部的貴族，在西元 720 年代的「隼人之亂」中遭鎮壓身亡。如今，放生儀式已經成為每年秋天「仲秋祭」的一部分。仲秋祭為期三天，第一天，八幡大神坐上神轎自上宮出發，在浩蕩的遊行隊伍的簇擁下來到浮殿；第二天，

神宮神職人員和外來僧侶在本殿主持了淨化儀式後，將被視為重生隼人之靈的馬蹄螺和蛤蜊放入河中；第三天，八幡大神乘坐神轎經停百體神社後返回宇佐神宮。

過去の浮殿規模較大，有數個社殿，後來漸漸縮小，現在只剩一座本殿和一間拜殿。儘管如此，浮殿的地位依然重要，九州地區實力強大的領主們也曾幾度出資修葺神社。如今的浮殿重建於 1938 年，1964 年經歷過一次整修。

※攝社：和「末社」一樣，是本社の附屬神社，供奉與本社主祭神有淵源的神明，與末社相比，攝社與本社的關係更為密切。

<日本語仮訳>

浮殿（和間神社）

浮殿は宇佐神宮の小さな摂社[※]で、最初は和間浜に建てられ、潮が満ちると波間に浮かんでいるように見えていました。19 世紀に宇佐で干拓が行われたため、海岸線が移動し、現在の神社は寄藻川のほとりにあります。しかし、今でも、支柱の上にある朱色の本殿は水の上に浮かんでいるかのようです。元々は和間浜にあったことから、浮殿の正式な名前は和間神社です。

浮殿は、宇佐神宮が毎年行う放生会のための神社として、8 世紀半ばに建てられました。この儀式は、720 年代の隼人の乱の際に征伐された九州南部の豪族である隼人への殺生の罪を贖うための祭事です。現在、放生会は、秋に行われる 3 日間の仲秋祭の一環として続いています。初日には、八幡大神は神輿に乗り大行列を伴って、上宮から浮殿まで移されます。次の日、本殿で神職や他所から来た僧侶が清めの儀式を行った後、生まれ変わった隼人の魂を象徴する蜷貝や蛤を川に放ちます。最終日、八幡大神を運ぶ神輿は一旦百体神社で止まり、宇佐神宮へ戻されます。

かつて浮殿は複数の社殿が並ぶも大きな神社でしたが、その境内は徐々に縮小し、今は本殿と拝殿だけが残っています。しかし、九州を治めていた大名たちからの資金提供によって何度か修復が行われるほど、浮殿は重要視されていました。現在の浮殿は、1938 年に再建され、1964 年に修理されました。

※摂社：「末社」と同じく、本社に付属し、本社ゆかりの神様を祀る小社だが、末社と比べて、本社との関わりが深い。

【タイトル】 仲見世商店街

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

仲見世商店街

仲見世商店街位于通往宇佐神宫的表参道（参拜主路）上，供应本地风味美食的餐馆和出售各式地方特产、纪念品的商店比比皆是。这条商店街成形于 1932 年至 1941 年的宇佐神宫“昭和大营造”期间，它的出现取代了原神宫西入口附近的神明町商店街。如今的仲见世商店街人气鼎盛，本地居民、朝圣者和观光游客都会光临这里。

风味美食

仲見世商店街的许多餐馆都供应宇佐和大分县的本地风味美食。宇佐风味的唐扬炸鸡、用本地香葱制作的风味日式煎饼香葱烧、油炸或煮火锅吃的宇佐泥鳅、用本地活河蟹熬制的蟹糊蔬菜汤等，都是很受欢迎的菜品。

在仲見世商店街还能找到各种各样使用本地特产臭橙(kabosu)和香橙制成的礼物及糕点。海鲜爱好者可以选择红虾等海产品，红虾捕捞自附近海域，晒干后包装，方便游客带回家使用。宇佐是大分县内拥有最多清酒酿造厂的地方，也是日本最大的烧酒产地，因此，商店街上传统或现代的酒饮种类也非常丰富。

宇佐葫芦

葫芦在日本寓意着吉祥。在宇佐，它们因一则与宇佐神宫有关的传说，成为了本地著名的特产，常被用来制成护身符和纪念品。传说在公元 3 世纪时，神功皇后曾将母乳装入葫芦中喂养她的儿子——未来的应神天皇，也就是如今供奉在宇佐神宫里的八幡大神。许多商店都出售葫芦饰件。参拜者在宇佐神宫向神明祈愿时，可以悬挂葫芦来替代寻常的绘马（日本神社或寺院中祈愿用的木制小牌子）。距仲見世商店街不远的敕使街道上有一家著名的老店，专门出售掏空的干葫芦制品，例如调味料罐、花瓶、幸运符等。

宇佐饴糖

另一个与神话传说有关的本地名产是宇佐饴糖，它是一种用麦芽和大米制成的糖果。关于它的传说与宇佐葫芦相似，讲述神功皇后将糖果融化，以糖浆代替母乳喂养了未来的应神天皇。宇佐饴糖多为白色，甜味纯朴醇和，不过近年来也开始逐渐引入其他风味。有的糖果被做成片状出售，可以掰碎食用；有的则直接切成一口大小的分量。千万记得，品尝宇佐饴糖时不要咀嚼，应该让它在嘴里慢慢融化。除了拥有甘甜的风味和独特的传说外，纯天然的原料和足够长的保质期也让宇佐饴糖成为了广受欢迎的礼物。

<繁体字>

仲見世商店街

仲見世商店街位於通往宇佐神宮的表參道（參拜主要道路）上，街上比比皆是提供當地特色美食的餐廳和出售各式地方特產、紀念品的商店。這條商店街成形於 1932 年至 1941 年宇佐神宮「昭和大營造」期間，它的出現取代了原神宮西入口附近的神明町商店街。如今的仲見世商店街人氣鼎盛，吸引了當地居民、朝聖者和觀光客來訪。

特色美食

仲見世商店街的許多餐廳都提供宇佐和大分縣的當地特色美食。宇佐風味的炸雞、用當地香蔥製作的日式煎餅香蔥燒、油炸或煮火鍋皆宜的宇佐泥鰵、用當地活河蟹熬製的蟹糊蔬菜湯等，都是很受歡迎的菜色。

在仲見世商店街還能找到各式各樣使用當地特產臭橙（kabosu）和香橙製成的伴手禮及小吃。海鮮愛好者可以選擇如紅蝦等海產品，紅蝦捕撈自附近海域，曬乾後包裝好，方便客人帶回家使用。宇佐是大分縣內擁有最多清酒釀造廠的地方，也是日本最大的燒酒產地，因此，商店街上的傳統或現代酒飲種類也非常豐富。

宇佐葫蘆

葫蘆在日本寓意著吉祥。在宇佐，因為一則與宇佐神宮有關的傳說，它們更是成為了當地著名特產，常常被製作成護身符和紀念品。傳說在西元 3 世紀時，神功皇后曾將母乳裝入葫蘆中餵養她的兒子，即未來的應神天皇，也是如今在宇佐神宮裡受到供奉的八幡大神。許多商店裡都販售葫蘆飾件。遊客在宇佐神宮向神明祈願時，可以懸掛葫蘆來替代尋常的繪馬（日本神社或寺院中祈願用的木製小吊牌）。距仲見世商店街不遠的敕使街道上有一家著名的老店，專賣掏空的乾葫蘆製品，例如調味料罐、花瓶、幸運符等。

宇佐飴糖

另一樣與神話傳說有關的當地特產就是宇佐飴糖，這是一種用麥芽和大米製成的糖果。它的傳說與宇佐葫蘆類似，講述神功皇后將糖果融化，以糖漿代替母乳喂養了未來的應神天皇。宇佐飴糖多為白色，甜味純樸醇和，但近年來也開始逐漸有其他口味問世。有的糖果做成片狀販售，可以掰碎後食用；有的則直接切成一口大小的份量。不過請記得，吃宇佐飴糖千萬不要咀嚼，應該讓它在嘴裡慢慢融化。除了擁有甘甜的滋味和獨特的傳說外，純天然的原料和長時間的保鮮期都讓宇佐飴糖成為了廣受歡迎的送禮首選。

<日本語仮訳>

仲見世商店街

仲見世商店街は宇佐神宮の表参道（正面に位置する参道）にあります。郷土料理を提供する飲食店や、さまざまな地元の名物やお土産を販売するお店が並んでいます。この商店街は、1932年から1941年に宇佐神宮で行われた昭和の大造営の頃に、宇佐神宮西口の近くにあった神明町という商店街に代わって作られました。現在は、近隣住民や神社の参拝者、観光客などを対象とした活気あるエリアとなっています。

郷土料理

仲見世商店街の多くの飲食店では、宇佐市や大分県の名物料理を提供しています。宇佐風のから揚げ、地元のネギを使った香ばしいパンケーキのようなねぎ焼き、揚げ物や鍋料理として提供される宇佐どじょう、川蟹を使ったがん汁というスープなどが人気です。

仲見世では、地元で栽培されている名物のカボスや柚子を使った様々なお土産やお菓子が売られています。シーフードが好きな人には、近海で水揚げされ、乾燥させてさまざまな家庭料理に使えるようパッケージ化された、赤エビの商品がおすすめです。宇佐市は大分県で最も酒蔵が多く、日本最大の麦焼酎の生産地であるため、伝統的なものから現代的な酒類まで幅広く取り揃えています。

宇佐ひょうたん

ひょうたんは、日本では縁起の良い物とされています。宇佐神宮にまつわる伝説に登場することから、特に宇佐市ではお守りやお土産として有名です。言い伝えによると、3世紀に神功皇后がひょうたんに母乳を入れて、息子（後の応神天皇、宇佐神宮で八幡大神として崇拝されている）に与えたとされています。ひょうたんの飾りは多くのお店で売られており、宇佐神宮を訪れる人は絵馬（日本の社寺に祈願の目的で奉納する木製の板）の代わりに願掛けのひょうたんを吊るして、神に願い事を伝えることができます。仲見世からほど近い勅使街道沿いには、調味料入れや花瓶、縁起物など、くり抜いて乾燥させたひょうたんを使った商品を専門に扱う有名な老舗があります。

宇佐飴

伝説的な由来があるとされているもう一つの品が、麦芽と米を使った宇佐飴です。宇佐ひょうたんに似た物語では、神功皇后が後の応神天皇に、母乳の代わりに液状の宇佐飴を飲ませたとされています。宇佐飴は通常白く、素朴でまろやかな甘さがありますが、近年は他の味も登場しています。食べるときに細かく割る小さな板状で販売されているものもあれば、一口サイズに事前にカットされているものもあります。宇佐飴は噛まずに、ゆっくりと口の中で溶かして食べましょう。飴の甘味と独特の物語に加えて、天然の材料を使っていることや賞味期限が長いことから、宇佐飴は贈り物として人気です。

【タイトル】 大善寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**大善寺**

大善寺是一家佛教曹洞宗寺院，**创建于 1645 年**。它最初是小山田家族安葬、祭祀先祖的菩提寺，而小山田家族曾担任宇佐神宫的高阶神职。寺院禅堂内供奉着数尊珍贵的佛像，在过去上千年的“神佛习合”（神道教与佛教融合）时代里，这些佛像一直被安放在宇佐神宫当时的主要佛寺——弥勒寺中。1868 年明治政府颁发分离神道教和佛教的“神佛判然令”，1871 年弥勒寺被拆毁，但寺中部分佛像幸存下来，其中的 5 尊后来被移至大善寺。

禅堂中央供奉着一尊药师如来坐像，过去曾是弥勒寺金堂（大雄宝殿）的本尊。它左手托一药钵，右手竖起施驱散恐惧的施无畏印。佛像整体高 2.8 米，出自镰仓时代(1185-1333)后半叶，取日本桧木（日本扁柏），采用多块木材拼合的“寄木造”工艺雕刻而成。坐像最初完成时髹漆并贴有金箔。保存得如此完好的镰仓时代的药师如来巨像十分难得，已被指定为国家重要文化财产。

自弥勒寺移来的另外 4 尊佛像均出自室町时代(1336-1573)，其中两尊分立药师如来坐像左右，为日光、月光两位胁侍菩萨。最左和最右侧的两尊分别为爱染明王和不动明王的怒相雕像，这两位明王都是佛教的守护神，伏魔除恶，劝导无信仰者皈依。这些佛像保存状态不一，但都是重要的文物，十分有助于人们了解弥勒寺及寺中贵重的作品。

大善寺的本尊是一尊释迦如来像，供奉在本堂（正殿）内。释迦牟尼曾行走世间，是佛教中的现在佛。佛寺进门右侧是一间规模较小的观音堂，供奉着一尊贴有金箔的大慈大悲观世音菩萨像。

大善寺位于寄藻川右岸，距离宇佐神宫约有 10 分钟的步行路程。寺院向公众开放，但请注意，如要进入佛殿参观需提前向寺院预约（仅接受日语预约），或现场咨询寺内人员。

<繁体字>

大善寺

大善寺是一座佛教曹洞宗寺院，創建於 1645 年，最初是小山田家安葬、祭祀祖先的菩提寺，而小山田家曾擔任佐神宮的高階神職。寺院禪堂內供奉著數尊珍貴的佛像，在過去上千年的「神佛習合」（神道教與佛教融合）時代裡，這些佛像一直被安放在宇佐神宮當時的主寺彌勒寺中。1868 年明治政府頒發分離神道教和佛教的「神佛判然令」，1871 年彌勒寺被拆毀，但寺中部分佛像倖存下來，其中的 5 尊後來被移至大善寺。

禪堂中央供奉著一尊藥師如來坐像，過去曾是彌勒寺金堂（大雄寶殿）的主尊。它左手托一藥鉢，右手施驅散恐懼的施無畏印。佛像整體高 2.8 公尺，造於鎌倉時代（1185-1333）後半葉，取日本檜木（日本扁柏），採用多塊木材拼合的「寄木造」工藝雕刻而成。坐像最初完成時髹漆並貼有金箔。因保存完好的鎌倉時代的藥師如來巨像十分難得，現已被指定為國家重要文化財產。

自彌勒寺移來的另外 4 尊佛像均出自室町時代（1336-1573），其中兩尊分立藥師如來坐像的左右，為日光、月光兩位脅侍菩薩。最左和最右側的兩尊分別為愛染明王和不動明王的怒相雕像，這兩位明王都是佛教的守護神，伏魔除惡，勸導無信仰者皈依。這些佛像保存狀態不一，但都是重要的文物，有助於觀眾瞭解彌勒寺及寺中貴重的作品。

大善寺的主尊是一尊釋迦如來像，供奉在本堂（正殿）內。釋迦牟尼曾行走世間，是佛教中的現在佛。佛寺進門右側是一間規模較小的觀音堂，供奉著一尊貼有金箔的大慈大悲觀世音菩薩像。

大善寺位於寄藻川右岸，距離宇佐神宮約有 10 分鐘步行路程。寺院向一般民眾開放，但請注意，如要進入佛殿參觀需提前向寺院預約（僅接受日語諮詢），或現場諮詢寺內人員。

<日本語仮訳>

大善寺

大善寺は曹洞宗の寺院であり、宇佐神宮の上級の神職であった小山田家の先祖代々の墓があり、法要を行う寺院、菩提寺として 1645 年に創建されました。禪堂には、千年にわたる神仏習合（神道と仏教の融合）の時代に宇佐神宮の神宮寺だった彌勒寺に祀られていた数体の貴重な仏像が安置されています。明治政府が 1868 年に神道と仏教を分離させる「神仏判然令」を発したため、彌勒寺は 1871 年に廃寺となりましたが、その仏像の一部は保管され、うち 5 体は後に大善寺に移されました。

禪堂の中央に安置されているのは、かつて彌勒寺の金堂（本堂）のご本尊であった薬師如来坐像です。この像は、左手に薬壺を持ち、右手は恐怖を払拭する仕草（施無畏印）をしています。高さ 2.8m のこの仏像は、鎌倉時代（1185-1333）後半に作像され、いくつかの木材をはぎ合わせて仕上げる寄木造りという技術によって檜から作られており、元々は漆と金箔で仕上げられていました。こ

の巨像は鎌倉時代に作られたものとしては、状態良く保存された薬師如来像の貴重例で、国指定の重要文化財となっています。

その他の弥勒寺から移された仏像4体は、室町時代（1336-1573）に彫られたものです。薬師如来坐像の両脇にあるのは、脇侍である日光菩薩・月光菩薩の像です。左端と右端は、憤慨した愛染明王と不動明王で、仏教の保護者であり、悪を鎮圧し、無信仰者を回心させます。保存状態はさまざまですが、これらの仏像はすべて弥勒寺と、かつてそこで祀られていた神聖な品について知ることができる、貴重な作品です。

大善寺のご本尊は、本堂で祀られている釈迦如来像です。仏教のなかで、釈迦如来は現世仏です。お寺の門の右側にある小さい観音堂というお堂には、慈悲の菩薩である観音菩薩の金箔を施した像が安置されています。

大善寺は宇佐神宮境内から徒歩約10分の寄藻川右岸にあります。大善寺境内は一般公開されていますが、堂内の見学をご希望の場合は、事前にお寺までご連絡いただくか（日本語でのみ受け付けております）、スタッフにお尋ねください。

【タイトル】 極樂寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**极乐寺**

极乐寺里保留着许多珍贵的佛像和其他宗教物品，它们全都出自持续千年的“神佛习合”（神道教与佛教融合）时代，当时的宇佐神宫还是一个“神社—佛寺综合设施”。极乐寺的起源和最初所在地已无据可考，只知道它曾经位于宇佐神宫区域内，直到“昭和大营造”（1932-1941）才移至如今仲见世商店街旁的位置。

极乐寺属佛教净土真宗，寺院本堂（正殿）所供奉的本尊是净土真宗向来最崇敬的阿弥陀如来。这尊佛像高 1.2 米，站立在莲花宝座上，背后有光芒四射的独特背光（佛像背后象征佛光的饰物）。佛像出自镰仓时代（1185-1333），最初供奉于宇佐神宫的大貳堂内。1868 年明治政府下令拆分神道教与佛教，大貳堂随之被拆除，宇佐神宫也在这一时期变成了纯神道教设施。但这尊阿弥陀如来佛像被保存了下来，并被移至极乐寺供奉。

在相同背景下被移至极乐寺的还有另一尊重要的佛像。这是一尊 2.8 米高的弥勒佛坐像，如今被供奉在弥勒堂中。在佛教经义中，弥勒佛将在遥远的未来降临凡世，成为下一任佛陀，这尊佛像塑造的正是成佛后的弥勒佛。佛像雕刻于室町时代（1336-1573），保留了过往修复时留下的涂料和金饰，比如明亮的蓝色头发。佛像曾被供奉于弥勒寺的讲堂中。弥勒寺是当年宇佐神宫的主要佛寺，同样因政府分离神道教和佛教的“神佛判然令”而遭拆毁。

极乐寺的本堂与寺门之间有一块来自大貳堂的圆形匾额复制品，匾额上题有阿弥陀如来、大慈大悲观音菩萨和大势至菩萨的名号。此外，本堂内小小的宝物殿里还陈列着一些珍品，包括：大貳堂匾额原品、人发绣成的珍贵的曼荼罗、来自弥勒寺的小舍利塔、数卷佛经以及其他资料。

寺院及弥勒堂对外开放，参加导览游及参观宝物殿需要预约（仅接受日语预约）。

<繁体字>**極樂寺**

極樂寺裡保留著許多珍貴的佛像和其他宗教物品，全都製作於持續千年的「神佛習合」（神道教與佛教融合）時代，當時的宇佐神宮仍是一處「神社—佛寺綜合設施」。極樂寺的起源和最初所在地已無法考據，只知它曾位於宇佐神宮域內，直到「昭和大營造」（1932-1941）才移至如今仲見世商店街旁的位置。

極樂寺屬佛教淨土真宗，寺院本堂（正殿）所供奉的主尊是淨土真宗最崇敬的阿彌陀如來。這尊佛像高 1.2 公尺，站立在蓮花寶座上，佛像背後有光芒四射的獨特背光（佛像背後象徵佛光的飾物）。佛像造於鎌倉時代（1185-1333），最初供奉於宇佐神宮的大貳堂內。1868 年明治政府下令分離神道教與佛教，大貳堂隨之被拆除，宇佐神宮也在這一時期變成了純神道教場所。但這尊阿彌陀如來佛像被保存了下來，並被移至極樂寺供奉。

與阿彌陀佛像同時被移至極樂寺的，還有另一尊重要的佛像。這是一尊 2.8 公尺高的彌勒佛坐像，如今被供奉在彌勒堂中。在佛教經義中，彌勒佛將在遙遠的未來降臨凡世，成為下一任佛陀，這尊像塑造的正是成佛後的彌勒佛。佛像雕刻於室町時代（1336-1573），保留了過往修復時留下的塗料和金飾，比如明亮的藍色頭髮。佛像曾被供奉於彌勒寺的講堂中。彌勒寺是當年宇佐神宮的主要佛寺，同樣因政府分離神道教和佛教的「神佛判然令」而遭拆毀。

極樂寺的本堂與寺門之間有一塊來自大貳堂的圓形匾額複製品，匾額上題有阿彌陀如來、大慈大悲觀音菩薩和大勢至菩薩的名號。此外，本堂內小小的寶物殿裡還陳列著一些珍品，包括：大貳堂匾額原品、人髮繡成的珍貴的曼荼羅、來自彌勒寺的小舍利塔、數卷佛經以及其他資料。

寺院及彌勒堂對外開放，參加導覽及參觀寶物殿需要預約（僅接受日語諮詢）。

<日本語仮訳>

極樂寺

極樂寺は、宇佐神宮における千年に及ぶ神仏習合（神道と仏教の融合）時代の貴重な仏像や、その他の宗教的な品々を所蔵する寺です。極樂寺の創立の経緯や元々あった場所についての記録は残っていませんが、昭和の大造営（1932-1941）の折に現在の仲見世商店街の近くの場所に移されるまでは、宇佐神宮の境内にありました。

極樂寺は浄土真宗の仏教寺院であり、本堂に祀られているご本尊は、浄土真宗で最も崇拝されている仏である阿彌陀如来像です。この像の高さは 1.2m で、独特の輝く光背（仏像の背後にさす光明を表したもの）を備え蓮の花の上に立つ阿彌陀如来の姿を描いています。鎌倉時代（1185-1333）に作られたもので、元々は宇佐神宮の大貳堂というお堂に安置されていました。大貳堂は明治政府が 1868 年に神仏分離を命じ、宇佐神宮が完全に神道の神社になった後に取り壊されましたが、この阿彌陀如来の像は保存され、後に極樂寺へ移されました。

同様の経緯で極樂寺に移されたもう一つの重要な像が、彌勒堂に安置されている 2.8m の彌勒仏坐像です。彌勒は遠い将来にこの世に現れて次の仏になる菩薩であると信じられており、この像は成仏した後の彌勒を表しています。この像は室町時代（1336-1573）に彫られたもので、過去の修復の折に施された塗装や金の仕上げが残っています。たとえば鮮やかな青い髪色。かつて宇佐神宮の主要な寺院であった彌勒寺の講堂に安置されていたが、彌勒寺も政府による神道と仏教を分離させる「神仏判然令」の後に取り壊されました。

極楽寺の門と本堂の間には、もともと大弐堂にあった阿弥陀如来、慈悲の菩薩である観音菩薩、力の菩薩である勢至菩薩の名号が書かれた丸い額の複製があります。本堂の小さな宝物殿には、大弐堂の額の現物や人の髪の毛で刺繍された珍しい曼荼羅、弥勒寺の小さな仏舎利塔、複数のお経の巻物やその他の資料などの寺宝が展示されています。

境内や弥勒堂は一般公開されていますが、解説付きの案内や宝物殿の見学には事前連絡が必要です（お問い合わせは日本語でのみ受け付けております）。

【タイトル】 大楽寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**大乐寺**

大乐寺建于1333年，创建者是来自奈良大寺之一西大寺的僧人道密。寺院由当时宇佐神宫的宫司（神宫最高负责人）到津公连出资修建。大乐寺最初是到津家族安葬并祭祀先祖的菩提寺，寺内的持佛堂中至今仍供奉着他们家族的牌位。1334年，后醍醐天皇(1288-1339)下旨将大乐寺定为镇护国家安宁和平的“救愿寺”。此外，在神道教与佛教融合的“神佛习合”时代，它还为宇佐神宫内及周边寺院的僧侣提供严格的修行指导。如今，大乐寺属于高野山真言宗。

大乐寺本堂（正殿）专为安放寺内7尊最重要的佛像而建。本尊是一座高1.4米的弥勒佛像，大妙相菩萨与法苑林菩萨胁侍左右，对称而立。在佛法中，弥勒佛是现在佛释迦牟尼的继任者，将在遥远的未来降临人世，成为下一任佛陀。大乐寺的这尊弥勒佛像安坐于莲花宝座上，右手竖起，施驱散恐惧的施无畏印，左手掌心向下，平置于膝上，为成佛后形象。在这一组三尊佛像的周围，有护卫弥勒佛的四大天王立于四方，分别为：东方持国天王，南方增长天王，西方广目天王和北方多闻天王。所有雕像都出自平安时代(794-1185)下半叶，取日本桧木（日本扁柏）为材料，以多块木料拼合的“寄木造”工艺制成。它们均为国家指定重要文化财产。

大乐寺还保存有许多珍宝。本堂内陈列有：一柄名为“五钴杵”的法器，据推测，可能曾经为寺院的创建者道密所用；一卷手书《心经》，其中部分被传是佛教真言宗开宗祖师空海（774-835；弘法大师）的手迹。持佛堂内供奉着一尊如意轮观音像，这是一尊六臂观音，为大慈大悲观世音菩萨的化身之一。据寺院所传，这尊观音像原本为平家武将平重盛(1138-1179)所有。平家是历史上势力强大的武将家族，13世纪叙事诗《平家物语》讲述的就是他们的故事。

大师堂·护摩堂从前用于举行护摩仪式。“护摩”本意焚烧，原是印度密宗修行法，仪式中要念诵佛经，并将护摩木投入圣火中焚烧，以此供养神佛，传达祈愿。佛堂内供奉着一尊不动明王像、一尊空海像，以及88尊小佛像，每一尊小佛像对应着“四国遍路”的一处灵场，这条行遍四国八十八处寺院的徒步巡礼线路与空海有关。寺院区域内还有若干菩萨及明王石像、石塔和一座钟楼，钟楼上悬挂的大钟铸于1382年，是大分县最古老的日本国产梵钟。

大乐寺紧邻宇佐神宫北侧，离神桥不远。寺院对来访者开放，参拜本堂需付入场费。

<繁体字>

大樂寺

大樂寺建於 1333 年，創建者是來自奈良大寺之一西大寺的僧人道密。寺院由當時宇佐神宮的宮司（神宮最高負責人）到津公連出資修建。大樂寺最初是到津家安葬並祭祀先祖的菩提寺，寺內的持佛堂中至今仍供奉著他們的家族牌位。1334 年，後醍醐天皇（1288-1339）下旨將大樂寺定為鎮護國家安寧和平的「敕願寺」。此外，在神道教與佛教融合的「神佛習合」時代，它還為宇佐神宮及周邊寺院的僧侶提供嚴格的修行指導。如今，大樂寺屬於高野山真言宗。

大樂寺本堂（正殿）專為安放寺內 7 尊最重要的佛像而建。本尊是一座高 1.4 公尺的彌勒佛像，大妙相菩薩與法苑林菩薩脅侍左右，對稱而立。在佛教教義中，彌勒佛是現在佛釋迦牟尼的繼任者，將在遙遠的未來降臨人世，成為下一任佛陀。大樂寺的這尊彌勒佛像安坐於蓮花寶座上，右手施驅散恐懼的施無畏印，左手掌心向下，平置於膝上，為成佛後形象。在這一組三尊佛像的周圍，有護衛彌勒佛的四大天王立于四方，分別為：東方持國天王，南方增長天王，西方廣目天王和北方多聞天王。所有雕像都出自平安時代（794-1185）下半葉，取日本檜木（日本扁柏）為材料，以多塊木料拼合的「寄木造」工藝製成。它們均為國家指定重要文化財產。

大樂寺還保存有許多珍寶。本堂內陳列包括一柄名為「五鈷杵」的法器，據推測，可能曾為寺院的創建者道密所用；一卷手書《心經》，其中部分被傳是佛教真言宗開宗祖師空海（774-835；弘法大師）的筆跡。持佛堂內供奉著一尊如意輪觀音像，這是一尊六臂觀音，為大慈大悲觀世音菩薩的化身之一。據寺院所傳，這尊觀音像原本為平家武將平重盛（1138-1179）所有。平家是歷史上權勢薰天的武將家族，13 世紀敘事詩《平家物語》講述的正是這個家族的故事。

大師堂·護摩堂從前用於舉行護摩儀式。「護摩」本意焚燒，原是印度密宗修行法門，儀式中要念誦佛經，並將護摩木投入聖火中焚燒，以此供養神佛，傳達祈願。佛堂內供奉著一尊不動明王像、一尊空海像，以及 88 尊小佛像，每一尊小佛像對應著「四國遍路」的一處靈場，這條行遍四國八十八處寺院的徒步巡禮路線與空海有關。寺院域內還有若干菩薩及明王石像、石塔和一座鐘樓，鐘樓上懸掛的大鐘鑄於 1382 年，是大分縣最古老的日本國產梵鐘。

大樂寺緊鄰宇佐神宮北側，離神橋不遠。寺院對外開放，參觀本堂需購買門票。

<日本語仮訳>

大樂寺

大樂寺は、奈良の大寺院の 1 つである西大寺の僧侶であった道密によって 1333 年に創建されました。資金は当時宇佐神宮の宮司（神宮の最高責任者）であった到津公連から提供されました。

当初の大楽寺は、到津家の先祖代々の墓があり、法要を行う寺院である菩提寺であり、位牌は現在も持仏堂に安置されています。1334年、後醍醐天皇（1288-1339）の発願により、大楽寺は国家鎮護を祈願する勅願寺となりました。また、神道と仏教が融合した神仏習合の時代には、宇佐神宮とその周辺の寺院の僧侶に対し、厳格な修行を積ませました。大楽寺は現在、高野山真言宗に属しています。

大楽寺の本堂は、7体の重要な仏像を安置するために建立されました。本尊は1.4メートルの弥勒仏像で、その両脇には大妙相菩薩と法苑林菩薩というほぼ対称的な2体の脇侍が置かれています。弥勒は菩薩であり、遠い将来に歴史上に実在した仏陀である釈迦の後継者として次の仏となるためにこの世に現れます。大楽寺にある像は、弥勒を蓮の台座に座った如来として表しており、右手は恐れを払拭する仕草（施無畏印）で持ち上げられ、左手は手の平を下にして膝に置かれています。この三尊は、弥勒を四つの方角から守護する天王である、持国天（東）、増長天（南）、広目天（西）、多聞天（北）に取り囲まれています。すべての像は、平安時代（794-1185）後半にいくつかの木材をはぎ合せて仕上げる寄木造という技術を用いて檜で作られており、国の重要文化財に指定されています。

大楽寺には他にもたくさんの貴重な寺宝があります。本堂には、開祖である道密上人が使用していたと伝えられる五鈷杵という法具や、その一部が真言宗の開祖である空海（774-835、弘法大師）によって書かれたと伝えられている般若心経の手書きの巻物が展示されています。持仏堂には、6本の腕を持つ姿で表現された慈悲の菩薩の如意輪観音像が安置されています。寺伝によるとこの仏像は、13世紀の叙事詩である『平家物語』にも登場する平家の武将のひとり、平重盛（1138-1179）のものでした。

大師堂・護摩堂は、護摩行に利用されていました。護摩は、焚焼の意味。もともとはインドの密教の修法の一つで、お経を唱え、護摩木を焚いて、神仏様を供養し、心願をお伝えます。堂の中には不動明王の像や、空海の像、88体の小さな仏像があります。この小さな仏像は、1体ずつが四国遍路で巡礼される空海ゆかりの88カ所の霊場1箇所に対応します。境内には、菩薩や明王などの石像や石塔が数多くあり、鐘楼にある1382年に造られた大きな梵鐘は大分県最古の国産の梵鐘です。

大楽寺は宇佐神宮のすぐ北、神橋からほど近いところにあります。参拝は自由にできますが、本堂への入場は有料です。

【タイトル】 円通寺

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**圆通寺**

1243年，在当时宇佐神宫的宫司（神宫最高负责人）宇佐公仲资助下，佛教僧侣神子荣尊(1195-1273)建造了圆通寺。传说荣尊和宇佐神宫所尊奉的八幡大神有着很深的渊源，圆通寺的所在地也体现着这两座宗教设施之间的关系——圆通寺门前的参道、寺门和本堂（正殿）刚好与宇佐神宫北门的表参道（参拜主路）落在同一直线上。

荣尊出身于九州北部，是一名禅宗僧人，曾于1235年前往中国修习佛法。相传他回到日本后，于1243年来到宇佐神宫答谢八幡大神护佑他旅途平安，并借此机会宣讲了他在在中国学到的佛法，因此得到八幡大神回应，神谕赐予他“神师”称号，称赞他是“神明之师”。但荣尊为表恭谦，将称号改动一字，自称“神子”，表示自己是“神明之子”。

除建立圆通寺外，荣尊对弥勒寺的重建也做出了极大的贡献。弥勒寺位于宇佐神宫内，历史上曾数度遭火灾焚毁。在“神佛习合”（神道教与佛教融合）的时代，它担负着宗教和管理双重职责，是当年这座“神宫—佛寺综合设施”内最重要的“神宫寺”。虽然圆通寺远在宇佐神宫的区域之外，但为了回馈荣尊作出的贡献，神宫给予了它等同于神宫寺的待遇。

圆通寺本堂的佛坛前供着两尊木雕头像，右边一尊是荣尊，左边一尊是无本觉心(1207-1298)，后者也是一名禅宗僧人，曾协助复兴圆通寺。两尊僧人像原本都是全身立像，但因雕像腐坏，唯有头像存留至今。寺内另一件引人注目的珍宝是一尊13世纪的阿弥陀如来像，人们认为它曾经是圆通寺某个末社*的本尊佛。

圆通寺位于宇佐神宫以北约1公里处，中间隔着神桥和大乐寺。它属于禅宗临济宗的大德寺派，是大分县内最古老的临济宗寺院。寺院提供导览游、坐禅（打坐冥想）及抄写经文等体验项目，但需事先电话预约（仅接受日语预约）。

※末社：小型神社，供奉与本社有关的神明。

<繁体字>**圓通寺**

1243年，在當時宇佐神宮的宮司（神宮最高負責人）宇佐公仲資助下，佛教僧侶神子榮尊（1195-1273）建造了圓通寺。傳說榮尊和宇佐神宮所尊奉的八幡大神有著很深的淵

源，圓通寺の所在地也體現著這兩座宗教場所之間的關係——圓通寺門前的參道、寺門和本堂（正殿）剛好與宇佐神宮北門的表參道（參拜主要道路）落在同一直線上。

榮尊出身於九州北部，是一名禪宗僧人，曾於 1235 年前往中國修習佛法。相傳他回到日本後，於 1243 年來到了宇佐神宮答謝八幡大神護佑他旅途平安，並借此機會宣講了他在中國學到的佛法，因此得到八幡大神回應，神諭賜予他「神師」稱號，稱讚他是「神明之師」。但神子榮尊為表恭敬，將稱號改動一字，自稱「神子」，表示自己是「神明之子」。

除建立圓通寺外，榮尊對彌勒寺的重建也做出了極大的貢獻。彌勒寺位於宇佐神宮域內，歷史上曾數度遭火災焚毀。在「神佛習合」（神道教與佛教融合）的時代，它擔負著宗教和管理雙重職責，是當年這座「神宮-佛寺綜合設施」內最重要的「神宮寺」。雖然圓通寺遠在宇佐神宮域外，但為了回饋榮尊作出的貢獻，神宮給予了它等同於神宮寺的待遇。

圓通寺本堂的佛壇前供奉著兩尊木雕頭像，右邊一尊是榮尊，左邊一尊是無本覺心（1207-1298），後者也是一名禪宗僧人，曾協助了圓通寺的復興。兩尊僧人像原本都是全身立像，但因雕像腐壞，唯有頭像存留至今。寺內另一件引人注目的珍藏是一尊 13 世紀的阿彌陀如來像，推測曾經是圓通寺某個末社*的主尊佛。

圓通寺位於宇佐神宮以北約 1 公里處，中間隔著神橋和大樂寺。它屬於禪宗臨濟宗的大德寺派，是大分縣內最古老的臨濟宗寺院。寺院提供導覽、坐禪（打坐冥想）及抄寫經文等體驗方案，但需事先電話預約（僅接受日語諮詢）。

※末社：小型神社，供奉與本社祭祀之神相關的神明。

<日本語仮訳>

円通寺

1243 年、僧侶の神子榮尊（1195-1273）が、当時宇佐神宮の宮司（神宮の最高責任者）であった宇佐公仲の財政的な支援を得て、円通寺を設立しました。伝説によれば、榮尊は宇佐神宮に祀られている八幡大神との強い繋がりがあったとされています。寺院への参道と門、そして本堂が宇佐神宮の北の表参道（正面に位置する参道）と同じ直線上にあり、この位置関係は、円通寺が宇佐神宮と深い関わりがあることを物語っています

榮尊は九州の北部出身の禅僧で、1235 年に仏教を学ぶために中国へ赴きました。伝説によると、彼は日本に帰国した後、安全に旅ができたことを八幡大神に感謝するため、1243 年に宇佐神宮を参拝しました。その機会に榮尊は学んだ仏教の教えを説き、八幡大神から「神師」の称号を受けるといご託宣を受けました。しかし榮尊は、その意味が「神の子」になるように、漢字の 1 つを置き換え、より謙虚な名としました。

円通寺の設立に加え、榮尊は過去何度も焼失した彌勒寺の再建に大きく貢献しました。彌勒寺は宇佐神宮の境内にあり、何世紀にもわたる神仏習合（神道と仏教の融合）の時代においては、宗教および事務的な役割の両方を果たす、神社と寺院の複合施設としての宇佐神宮の最も重要な

寺院である神宮寺でした。宇佐神宮は栄尊の貢献を認め、境内から遠く離れているにも関わらず、円通寺も神宮寺と同様の扱いをしました。

円通寺の本堂内の仏壇の前には、2つの木彫りの頭部が保管されています。右は栄尊、左はその時代の臨済宗のもう一人の僧侶であり、円通寺の復興にひと役買った無本覚心（1207-1298）を表しています。元々あった二人の僧侶の全身立像は腐朽してしまい、頭部しか残っていません。もう一つの注目すべき寺宝は、13世紀の阿弥陀如来像で、かつてはある末社[※]のご本尊であったと考えられています。

円通寺は宇佐神宮から北に約1km、神橋と大楽寺の先にあります。臨済宗大徳寺派で、大分県最古の臨済宗の寺院です。電話で事前予約をすれば、寺の案内を受けることや、座禅（足を組み座りながら瞑想する）、写経をすることができます（お問い合わせは日本語でのみ受け付けております）。

※末社：本社ゆかりの神様を祀る小社。

【タイトル】宇佐神宮

【想定媒体】WEB

<簡体字>

宇佐神宮

宇佐神宮是日本最重要的神社之一，有着近 1300 年的历史。神宮主祭神是国家与皇室的守护神——八幡大神。在日本，供奉八幡大神的神社最多，数量可达数万，而宇佐神宮就是它们的总本宮。宇佐神宮还是 17 座有资格接受天皇敕使参拜的“敕祭社”之一，由此可见它与皇室之间的历史渊源。

宇佐神宮也是最早践行“神佛习合”（神道教与佛教融合）的“神社—佛寺综合设施”之一，因此影响力极为强大。19 世纪晚期神道教与佛教分离后，宇佐神宮成为纯粹的神道教神社，但现在依然保留的一些习俗惯例中，仍可看出过去神佛习合的痕迹。研究者认为，有好几项宗教传统都起源于宇佐神宮，比如移动神明时使用的“神轿”、通过放生被捕获的动物来救赎罪过的“放生会”，以及双重屋顶的“八幡造”独特建筑样式等。

神宮区域内

规模宏大的宇佐神宮占据了小椋山及其周边地区。神宮建筑群的中心是位于山顶的上宮和山脚的下宮。数量众多的摄末社^{*}分散在神宮区域内及邻近山丘上，最深处的神社奥宮坐落在往南约 6 公里的御许山中。

宇佐神宮区域内覆盖着大片的森林，这令朱红色的神殿、鸟居和小桥显得格外优雅美丽。几处池塘及其周边四季繁花似锦，是众多野生动物的栖居之所。其中一处池塘边的宝物馆里陈列着神轿、《御托宣集》（有关宇佐神宮诞生的故事）、雕像、刀剑、法器以及各类历史文档。此外，宇佐神宮还拥有许多国宝和重要文化财产。

神宮历史与祭神

宇佐神宮供奉三尊主祭神，最重要的是八幡大神，他是日本传说中第 15 代天皇应神天皇的神格化身，另外两尊分别是他的母亲神功皇后，和自古以来就在宇佐备受尊崇的比卖大神。比卖大神是三位海洋女神的合称。根据神宮记载，八幡大神于公元 571 年首次在小椋山附近显圣，并宣告自己是日本的守护者。供奉八幡大神的地点曾多次变更，最终才选定小椋山山顶的开阔地，并于 725 年建起了第一座社殿。

历史上，历代天皇、贵族、战国武将以及其他有权势的人物都信仰八幡大神。公元 8 世纪，当时的首都奈良正在建造东大寺大佛，天皇诏请了八幡大神前来巡幸。数十年后，皇室又为皇位继承问题向远在宇佐神宮的八幡大神求取神谕。公元 10 世纪，皇室又祈求八

幡大神帮助镇压试图颠覆中央政府的叛乱。13 世纪蒙古人来袭，人们向八幡大神寻求庇佑，相传正是八幡大神掀起风暴，挫败了蒙古人的进攻。

八幡大神被视为国家守护神，对统治阶级极其重要，这也让八幡信仰传播到了日本全国。作为八幡社的总本宫，宇佐神宫拥有相当大的权力和影响力，一度曾发展为九州地区最大的领主。但随着武士阶层崛起，政治格局改变，宇佐神宫的地位逐步削弱，渐渐失去了大部分的土地。1868 年国家政权回归皇室，政府下达政令，在宗教设施中指定了一批高阶神社，宇佐神宫也在其中。这道政令促成了宇佐神宫的复兴，在“昭和大营造”(1932-1941)中，神宫全域重建，成就了宇佐神宫如今的格局与面貌。

神佛习合

宇佐神宫被视为“神佛习合”的发祥地之一。佛教传入日本后，与神道教的融合在公元 8 世纪就已初步成型。宇佐神宫随即发展成为一个大型的“神社—佛寺综合设施”，相关宗教仪式都由神职人员和佛教僧侣共同主持完成。神宫内的主佛寺是弥勒寺，它担负着宗教和管理双重职责。随着神佛习合及八幡信仰在全国的传播，宇佐神宫成为了其他神佛融合的宗教设施效仿的榜样。神佛习合持续了数个世纪之久，直到 1868 年明治政府颁发分离神道教和佛教的“神佛判然令”才告终结。此后，宇佐神宫区域内的所有佛教建筑都被移除，神宫变成了一处纯神道教设施。尽管如此，在宇佐神宫的某些祭典和仪式上，依然能够看到当年宗教融合的影子。

※摄末社：“摄社”与“末社”的合称，两者都是接受本社管理的附属神社。摄社所供奉的神灵通常与本社祭神关系较为密切，末社则相对疏远。

<繁体字>

宇佐神宮

宇佐神宮是日本最重要的神社之一，有著近 1300 年的歷史。神社主祭神是八幡大神，為國家與皇室的守護神。在日本，供奉八幡大神的神社最多，數量可達數萬，而宇佐神宮就是八幡神社的總本宮。除此之外，宇佐神宮還是 17 座有資格接受天皇欽使參拜的「敕祭社」之一，由此可見其與皇室之間的歷史淵源。

宇佐神宮也是最早實踐「神佛習合」的「神社—佛寺綜合設施」之一，因此影響力非常強大。19 世紀晚期神道教與佛教分離後，宇佐神宮成為純粹的神道教神社，但從現在存留的一些習俗慣例中，仍可以看出過去神佛習合的痕跡。學者指出，尚有數項宗教儀式傳統可能起源於宇佐神宮，比如移動神祇時使用的神轎、通過放生被捕獲的動物來洗清罪孽的放生會，以及雙重屋頂的「八幡造」獨特建築樣式等。

神宮域內

規模宏大的宇佐神宮佔據了小椋山及其周圍。神宮建築群的中心是位於山頂的上宮和山腳的下宮。數量眾多的攝末社[※]分散在神宮域內及鄰近山丘上，最深處的神社奧宮甚至坐落在往南約 6 公里的御許山中。

宇佐神宮域內覆蓋著大片的森林，襯托著鮮豔的朱紅色神殿、鳥居和小橋，景色優美。幾處池塘及其周邊四季繁花似錦，是許多野生動物的棲息之地。其中一處池塘邊的寶物館裡陳列著神輿、《御託宣集》（敘述有關宇佐神宮誕生的故事）、雕像、刀劍、法器以及各類歷史文獻。此外，宇佐神宮擁有為數不少的國寶和重要文化財產。

神宮歷史與祭神

宇佐神宮供奉三尊主祭神。最重要的是八幡大神，為日本傳說中第 15 代天皇應神天皇的神格化身。與祂一同受供於此的，還有其母親神功皇后，以及自古就在宇佐備受尊崇的比賣大神。比賣大神是三位海洋女神的合稱。根據神宮記載，八幡大神於西元 571 年首次在小椋山附近顯聖，宣告自己是日本的守護者。供奉八幡大神的地點曾數度異動，最終才選定小椋山山頂的開闊地，並於 725 年建立了第一座社殿。

歷史上，歷代天皇、貴族、武士家族首領以及其他權傾一時的人物都信仰八幡大神。西元 8 世紀，當時的首都奈良正在建造東大寺大佛，天皇曾詔請八幡大神前來巡幸。數十年後，皇室又為皇位繼承問題向遠在宇佐神宮的八幡大神求取神諭。西元 10 世紀，皇室祈求八幡大神幫助鎮壓反抗中央政府的叛亂。13 世紀蒙古人來襲，人們向八幡大神尋求庇佑，相傳正是八幡大神掀起風暴，挫敗了蒙古人的進攻。

八幡大神被視為國家守護神，對統治階級極其重要，這也讓八幡信仰傳遍全日本。作為八幡社的總本宮，宇佐神宮擁有極大的權力和影響力，一度發展為九州地區最大的地主。然而，隨著武士階層崛起，政治格局改變，宇佐神宮的地位逐步削弱，漸漸失去了大部分的土地。直到 1868 年大政奉還，政府下達政令授予一批宗教機構高階神社地位，其中包含宇佐神宮在內。這道政令促成了宇佐神宮的復興。在「昭和大營造」（1932-1941）中，神宮全域重建，成就了宇佐神宮如今的格局與面貌。

神佛習合

宇佐神宮被視為神佛習合的發祥地之一。佛教傳入日本後，與神道教的融合在西元 8 世紀就已初步成型。宇佐神宮隨即發展成為一個大型的「神社—佛寺綜合設施」，相關宗教儀式都由神職人員和佛教僧侶共同主持完成。神宮域內的主佛寺是彌勒寺，肩負著宗教和管理雙重職責。隨著神佛習合及八幡信仰在全國的傳播，宇佐神宮成為了其他神佛融合的宗教場所仿效的榜樣。神佛習合持續了數個世紀之久，直到 1868 年明治政府頒發分離神道教的「神佛判然令」後才告終結。此後，宇佐神宮域內的所有佛教建築都被移除，神宮變成了一處單純的神道教設施。儘管如此，在宇佐神宮的某些祭典和儀式上，依然能夠看到當年宗教融合的影子。

※攝末社：「攝社」與「末社」的合稱，兩者都是接受本社管理的附屬神社。攝社所供奉的神靈通常與本社祭神關係較為密切，末社則相對疏遠。

<日本語仮訳>

宇佐神宮

宇佐神宮は日本を代表する神社の一つで、1300 年近くの歴史があります。その主祭神は、国と皇室の守護神として崇拝されている八幡大神です。八幡大神を祀る神社は日本で最も数が多く、その数は数万社にのぼり、宇佐神宮はその総本宮です。さらに、宇佐神宮は天皇の勅使を迎える資格を有するわずか 17 の神社の 1 つであり、皇室との歴史的な関係性を反映しています。

宇佐神宮は、神道と仏教を習合した信仰の形である神仏習合の先駆けとして、大きな影響力を持っていました。19 世紀後半に神道と仏教が分離された後、宇佐神宮は完全な神道の神社になりましたが、現在の慣習のいくつかはまだ、その神仏習合の時代を反映しています。研究者たちは、神様を運ぶ移動可能な社である神輿、捕らえた動物を放って罪を許す放生会、二つの屋根がある独特の八幡造りという建築様式など、いくつかの伝統は宇佐神宮が発祥であるとしています。

境内

広大な宇佐神宮は小椋山とその周辺にあります。その中心は、山の頂上にある上宮と山の麓にある下宮です。境内と隣接する丘には、多くの摂末社^{*}も点在しており、最も奥にある奥宮は、南に約 6 km離れた御許山にあります。

宇佐神宮境内の大部分は森に覆われており、朱色の社殿、鳥居、橋が美しく映える背景となっています。いくつかの池やその周辺には四季折々の花が咲き乱れ、さまざまな野生の生き物の生息地になっています。ある池の隣に立つ宝物館では、神輿、御託宣集（神宮の縁起書）、彫像、刀、儀式用の道具、さまざまな歴史的な文書が展示されています。宇佐神宮は、国宝や重要文化財を数多く所有しています。

歴史と祀られている神々

宇佐神宮は 3 つの主要な祭神を祀っています。その中で最も有名なのは、日本の伝説的な第 15 代天皇、応神天皇の神格化された姿である八幡大神です。八幡大神は、母親である神功皇后と、古くから宇佐で比売大神という総称で崇拝されていた海の三女神と共に祀られています。宇佐神宮の記録によると、八幡大神は 571 年に小椋山の近くに初めて現れ、自分が日本の守護者である、と宣言しました。八幡大神を祀った場所は何度か変更されましたが、ようやく小椋山の頂上に十分な広さの土地が選ばれ、725 年に最初の社殿が建てられました。

歴史を通して、多くの天皇、貴族、戦国武将、その他の権力者が八幡大神に祈りを捧げました。8 世紀、当時の都であった奈良の東大寺大仏の造営中に、八幡大神は天皇に招かれて行幸しました。数十年後の皇位継承問題に際しては、宇佐神宮での八幡大神の御託宣が参考にされました。10 世紀には、皇室が八幡大神に中央政権に対する乱を鎮圧するよう助けを求めました。13 世紀の蒙古襲来時には、人々は八幡大神に守護を求め、八幡大神が嵐を引き起こして蒙古の襲来を阻止したといわれています。

八幡大神は守護神と見なされ、支配階級にとって重要であったことから、八幡信仰は全国に広まりました。宇佐神宮は八幡社の総本宮として相当な権力と影響力を持っていたため、九州最大の領主だった時代もありました。しかし、政治情勢の変化や武士階級の台頭により、宇佐神宮の立場は弱まり、徐々に所有地の大半を失います。1868年の大政奉還後、政府の法令により宇佐神宮を含む複数の神社に高い格式が与えられ、宇佐神宮の再興も進みました。昭和の大造営（1932-1941）では境内全体が改修され、宇佐神宮は現在の配置と外観になりました。

神仏習合

宇佐神宮は、神道と仏教を習合して崇拝する神仏習合の発祥地の一つであると考えられており、その神仏習合は仏教が日本に導入された後、8世紀ごろに形になり始めました。宇佐神宮は間もなく、神職と僧侶の両方によって宗教儀式が行われる、大規模な神社と寺院の複合施設に発展しました。境内の主要な仏教寺院は、宗教的および事務的な役割を果たした弥勒寺でした。神仏習合が八幡信仰とともに全国に広まるにつれ、宇佐神宮は、その他の神社と寺院の複合施設の模範となりました。神仏習合は、明治政府が1868年に神道と仏教を分離させる「神仏判然令」を発令するまで、何世紀にもわたって実践されました。その後、すべての仏教建造物が宇佐神宮の境内から取り除かれ、宇佐神宮は完全に神道の施設になりました。しかし、宇佐神宮の年中行事のうち特定の神事や祭事には、今なお神仏習合時代の面影が残っています。

※摂末社：「摂社」と「末社」を指す。両者とも本社に付属する神社だが、摂社に祀られている神は、通常神社の本尊と深い関係があり、一方末社に祀られている神は比較的遠い存在であるため、前者の方が後者よりも本社との関わりが深い。

【タイトル】 吳橋

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**吴桥**

寄藻川上横跨着一座上有屋顶、两头有门的廊桥，这就是“吴桥”，它是由西面进入宇佐神宮区域的入口。吴桥名列日本百大名桥，依据传统，每10年才使用一次，只在天皇指派的敕使前来祭拜神宮神明时开放通行。平时经由敕使街道的来访者，都只能经由不远处另一座步行桥进入神宮。

吴桥总长约24.7米，宽3.5米。带有唐破风（横置弓形屋檐装饰）的屋顶铺设着日本扁柏的树皮，桥身被漆成鲜艳的朱红色，这种颜色通常使用在神社建筑和鸟居上。带屋顶的廊桥样式在亚洲大陆地区更为常见，但在日本却很稀有，而吴桥便是其中一座。据本地传说，最初建造这座桥梁的是来自中国东部吴国的工匠。不过吴国早在宇佐神宮创建前几个世纪就已经灭亡，所以这个传说很可能是因附会“吴桥”这个名字而诞生的。过去，这座桥名的正确写法是“搏桥”，“搏”表示建造桥梁的木料，因它在日语中与“吴”同音，也经常被写成“吴”。之后“吴”的写法逐渐通行起来，于是“吴桥”成了这座桥梁现在的正式名称。

吴桥最初的建造时间不详，史料显示它在镰仓时代(1185-1333)便已存在。现存桥梁是当时附近小仓藩领主细川忠利(1586-1641)在1622年重建的，在一些桥栏杆头的拟宝珠上还能找到他的名字。吴桥分别于1876年和1937年两度经历修葺，后一次是宇佐神宮“昭和大营造”(1932-1941)工程的一部分。1951年，寄藻川河堤加固，桥西端相应进行了扩建。

吴桥现已被指定为大分县物质文化财产。

<繁体字>**吳橋**

寄藻川上橫跨著一座上有屋頂、兩端有門的廊橋，這就是「吳橋」，它是由西面進入宇佐神宮域內的入口。吳橋名列日本百大名橋，依據傳統，每10年才使用一次，只為天皇指派的敕使前來祭拜神宮神明時開放通行。平時經由敕使街道的遊客，都只能由不遠處的另一座步行橋進入神宮。

吳橋總長約24.7公尺，寬3.5公尺。帶有唐破風（橫置弓形屋簷裝飾）的屋頂鋪設著日本扁柏的樹皮，橋身被漆成鮮豔的朱紅色，這種顏色通常使用在神社建築和鳥居上。帶有屋頂的廊橋樣式在亞洲大陸地區更為常見，但在日本卻很稀有，而吳橋便是其中一座。據當地傳說，最初建造這座橋的是來自中國東部吳國的工匠。不過吳國早在宇佐神宮創建

前幾個世紀就已經滅亡，所以這個傳說很可能是因為附會「吳橋」這個名字而誕生的。過去，這座橋名的正確寫法是「樽橋」，「樽」表示建造橋樑的木料，因它在日語中與「吳」同音，也經常被寫成「吳」。之後「吳」的寫法逐漸流行，於是「吳橋」成了這座橋樑現在的正式名稱。

吳橋最初的建造時間不詳，史料記載，它在鎌倉時代（1185-1333）便已存在。現存橋樑是當時附近小倉藩領主細川忠利（1586-1641）在 1622 年重建的，在一些橋欄柱頭的擬寶珠上還能找到細川忠利的名字。吳橋分別於 1876 年和 1937 年兩度經歷修葺，後一次是宇佐神宮「昭和大營造」（1932-1941）工程的一部分。1951 年，寄藻川河堤加固，橋西端相應進行了擴建。

吳橋現已被指定為大分縣物質文化財產。

<日本語仮訳>

吳橋

寄藻川に掛かる宇佐神宮境内への西からの入口となっている、両端に門がある屋根付きの桁橋は吳橋と呼ばれています。日本百名橋のひとつとして、この橋は伝統的に 10 年に 1 度、天皇から派遣された使者である勅使が、神前に祭文を捧げるため参向する時にのみ使われます。この特別な儀式の期間以外は、勅使街道を通して宇佐神宮へ向かう参詣者は、近くの歩行者用の橋を利用します。

橋の長さは約 24.7 メートル、幅は 3.5 メートルで、唐破風（弓を横にしたような形状）の屋根はヒノキの樹皮で葺かれ、その橋体は社殿や鳥居によく使われる独特の朱色で塗られています。このような屋根付きの橋はアジア大陸では一般的ですが、日本においては非常に数が少なく、そのうちの 1 つが吳橋です。当地には、宇佐神宮の創建より数世紀前に崩壊した、中国東部の呉王国出身の大工によって建設されたという伝説があります。この伝説は、「吳橋」という名前の解釈によって生じた可能性があります。かつて「クレ」は、橋を架けるために使われていた木材を表す「樽」という漢字で書かれていました。しかし、「クレ」は、「吳」の文字を使って書くこともできます。いつからか後者の文字が一般的になり、現在では「吳」と「橋」の文字を使った「吳橋」の表記が正式な名前として使用されています。

吳橋がいつ架けられたかは不明ですが、史料によると、鎌倉時代（1185-1333）にはすでに存在していました。現在の橋は、1622 年に当時近隣の小倉藩主であった細川忠利（1586-1641）によって架けられました。欄干にある擬宝珠という飾りのいくつかに彼の名前が刻まれています。1876 年に修復が行われ、その後、1937 年に宇佐神宮で行われた昭和大造営（1932-1941）の一環として再び修復が行われました。1951 年に川の堤防が補強された際、橋の西側が増築されました。

吳橋は大分県の有形文化財に指定されています。

【タイトル】西参道

【想定媒体】WEB

<簡体字>**西参道**

西参道是一条从吴桥通往宇佐神宫的道路，它曾经是神宫的表参道（参拜主路），两旁都是为参拜者和本地居民开设的店铺、餐馆、旅店。在整个神宫经历过“昭和大营造”（1932-1941）的改造翻修之后，北参道成为了宇佐神宫的表参道，西参道则渐渐变成了一条安静的林荫道，沿途分布着几处小神社、纪念碑和重要的历史遗迹。

西参道的起点是吴桥，但这座廊桥两头的门常年关闭，只有在例如举办“临时奉币祭”的特殊时期才会打开让人通行。临时奉币祭每 10 年举办一次，是为前来参拜神宫的敕使（天皇钦使）而举行的祭典仪式。平时游客要从西侧进入神宫参拜，通常需要走旁边的人行桥前往西参道。

西参道南侧是弥勒寺旧址。在公元 8 世纪至 19 世纪期间，宇佐神宫一直都是践行“神佛习合”（神道教与佛教融合）的“神社—佛寺综合设施”，而弥勒寺正是其中的主佛寺，担负着宗教与行政管理双重职能。然而它逐步式微，寺院在 1868 年明治政府颁发分离神道教和佛教的“神佛判然令”后被拆毁，如今只留下了一片林间的础石残基。

西参道沿途另一个值得关注的地点是八坂神社。它是宇佐神宫的末社^{*}，供奉海洋与风暴之神须佐之男命。朱红色的社殿装饰着色彩鲜艳的木雕，其内容是一条游龙正隐现于波浪之间。八坂神社每年 2 月举办“镇疫祭”，祈求驱病除灾。

※末社：小型神社，供奉与本社有关的神明。

<繁体字>**西參道**

西參道是一條從吳橋通往宇佐神宮內的道路，它曾經是神宮的表參道（參拜主要道路），兩旁都是為遊客和當地居民開設的店鋪、餐廳、旅舍。在「昭和大營造」（1932-1941）的翻修之後，北參道成為了今日宇佐神宮的表參道，西參道則漸漸變成了一條安靜的林蔭道，沿途分佈著幾座小神社、紀念碑和重要的歷史遺跡。

西參道的起點是吳橋，但這座廊橋兩端的門常年關閉，只有在例如舉辦「臨時奉幣祭」的特殊時期才會打開讓人通行。臨時奉幣祭每 10 年舉辦一次，是為前來參拜神宮的敕使

(天皇欽使)而舉行的祭典儀式。平時遊客要從西側進入神宮參拜，通常需要走旁邊的人行橋前往西參道。

西參道南側是彌勒寺舊址。在西元 8 世紀至 19 世紀期間，宇佐神宮一直都是踐行「神佛習合」(神道教與佛教融合)的「神社—佛寺綜合設施」，而彌勒寺正是其中的主佛寺，擔負著宗教與行政管理雙重職能。然而它逐步式微，寺院在 1868 年明治政府頒發分離神道教和佛教的「神佛判然令」後被拆毀，如今只留下了一片林間的殘座。

西參道沿途另一個值得參觀的景點是八坂神社。它是宇佐神宮的末社[※]，供奉海洋與風暴之神須佐之男命。朱紅色的社殿裝飾著色彩鮮豔的木雕，其內容是一條游龍正隱現於波浪之間。八坂神社每年 2 月舉辦「鎮疫祭」，祈求驅病除災。

※末社：小型神社，供奉與本社有關的神明。

<日本語仮訳>

西參道

西參道は、呉橋から宇佐神宮境内に至る道です。かつては神宮の表參道（正面に位置する參道）として、參拝客や近隣住民のための商店や食事処、旅館が立ち並んでいました。しかし、宇佐神宮境内での昭和大造営（1932-1941）により、宇佐神宮へ向かう北參道が表參道となり、西參道は小さな神社、記念碑、重要な史跡のある静かな並木道に変わりました。

西參道の起点は呉橋ですが、この屋根付きの橋の門は通常閉まっています。この橋は、臨時奉幣祭などの特別な機会にのみ開かれ、渡ることができます。臨時奉幣祭は宇佐神宮に勅使（天皇の使者）が訪れる 10 年に 1 度の儀式です。西側から神宮へ參拝する場合は、隣接する歩行者用の橋を渡って西參道に向かいます。

西參道の南側には、弥勒寺というお寺の跡があります。8 世紀から 19 世紀にかけて、宇佐神宮は神仏習合（神道と仏教の融合）を実践した神社とお寺の複合施設であり、その中で弥勒寺は主要な仏教寺院として宗教的役割と事務的役割の両方を担っていました。その権力は次第に衰え、1868 年に政府が神道と仏教を分離させる「神仏判然令」を発令したのち、弥勒寺は取り壊され、木々の中に礎石だけが残っています。

西參道沿いのもう一つの注目すべき場所は、海と嵐にまつわる神である須佐之男命を祀る、宇佐神宮の末社[※]、八坂神社です。朱色の社殿には、色鮮やかに塗られた波間に浮かぶ龍の木彫りの飾りがあります。八坂神社では毎年 2 月に、疫病や災害などの不幸を防ぐことを祈願する鎮疫祭が行われています。

※末社：本社ゆかりの神様を祀る小社。

【タイトル】宇佐鳥居

【想定媒体】WEB

<簡体字>

宇佐鸟居

鸟居常见于神社，代表着从世俗世界进入神域的入口。日本的鸟居形式多样，宇佐神宫也有自己独特的风格，被称为“宇佐鸟居”。宇佐鸟居的弧形笠木（顶部横梁）弯度较大，其下方立柱顶端有两个黑色“台轮”。两根水平横梁中间没有短柱连接，也没有匾额。鸟居为明亮的朱红色，意在除厄驱邪。宇佐神宫区域内的所有鸟居都是这种式样。

上宫的鸟居

据传，上宫门前石阶最高处的鸟居是宇佐鸟居风格的起源，它有时被称为“一之鸟居”（第一个鸟居），又或取宇佐神宫主祭神的名字，称为“八幡鸟居”。

虽然不知道上宫外的第一座鸟居建于何时，但在1030年的文献里已经提到了它。现存鸟居的建造年份同样不明，相关记录显示，它曾在1863年经历过一次修复，由此可知这座鸟居的历史至少在150年以上。上宫鸟居现已被指定为大分县物质文化财产。

大鸟居

通过神桥进入神域后，立刻可以看见一座矗立在宇佐神宫表参道（参拜主路）上的巨大鸟居，人们直白地称之为“大鸟居”。它高11.1米，是神宫内最为高大的鸟居。

最初的大鸟居建于1111年。17世纪政权交替之际，新的大名（日本封建时代的领主）向宇佐神宫提供资助，大鸟居这才有机会得以修复。1798年，旧鸟居被替换，新鸟居使用附近御许山上的日本柳杉建造。御许山正是传说中八幡大神第一次显圣的地方。这些曾经的大鸟居都悬挂牌匾，立柱顶端也没有标志性的黑色台轮，因此并不属于宇佐鸟居。在一场台风将之前的大鸟居损毁后，人们于1937年以这种与众不同的宇佐鸟居样式，用钢筋水泥重建了这座大鸟居。

<繁体字>

宇佐鳥居

鳥居常見於神社，代表著從世俗世界進入神域的入口。日本的鳥居形式多樣，宇佐神宮也有自己獨特的風格，被稱為「宇佐鳥居」。宇佐鳥居的弧形笠木（頂部橫樑）彎度較大，其下方立柱頂端有兩個黑色「台輪」。兩根橫樑中間沒有短柱連接，也沒有匾額。鳥居為明亮的朱紅色，意在除厄驅邪。宇佐神宮域內的所有鳥居都是相同的式樣。

上宮の鳥居

據傳，上宮門前石階最高處的鳥居是宇佐鳥居風格的起源，有時被稱為「一之鳥居」（第一座鳥居），又或取宇佐神宮主祭神的名字，稱為「八幡鳥居」。

雖然不知道上宮外的第一座鳥居建於何時，但在 1030 年的文獻裡已提到鳥居的存在。現存鳥居的建造年份同樣不明，相關記錄顯示，它曾在 1863 年經歷過一次修復，由此可知這座鳥居的歷史至少在 150 年以上。上宮鳥居現已被指定為大分縣物質文化財產。

大鳥居

穿過神橋進入神域後，眼前立刻出現一座矗立在宇佐神宮表參道（參拜主要道路）上的巨大鳥居，被稱為「大鳥居」。高度為 11.1 公尺，是神宮內最高大的鳥居。

大鳥居原建於 1111 年。17 世紀政權交替之際，新的大名（日本封建時代的領主）向宇佐神宮提供資助，大鳥居才得以修復。1798 年，舊鳥居被替換，新鳥居使用附近御許山上的日本柳杉建造。御許山正是傳說中八幡大神第一次顯聖的地方。這些曾經的大鳥居都懸掛牌匾，立柱頂端也沒有標誌性的黑色台輪，因此並不屬於宇佐鳥居。一場颱風將大鳥居損毀之後，人們於 1937 年以這種與眾不同的宇佐鳥居樣式，用鋼筋水泥重建了這座大鳥居。

<日本語仮訳>

宇佐鳥居

神社でよく見られる鳥居は、世俗的な世界から神聖な空間への入り口です。日本全国にはさまざまな形式の鳥居があり、宇佐神宮には宇佐鳥居という独自の規格があります。その特徴は、笠木（一番上部の横材）がドラマチックに反り上がっていること、その下にある柱の上部を囲む 2 つの黒い台輪があることです。宇佐鳥居の 2 つの水平の梁は中央の支柱でつながっておらず、額束もありません。鳥居の明るい朱色は、魔除けや厄除けを意味しています。宇佐神宮の境内にある鳥居はすべてこの様式で建てられています。

上宮の鳥居

上宮へ続く石段の頂上にある鳥居は、宇佐鳥居の原型とされています。一の鳥居（一つ目の鳥居）と呼ばれることもあり、宇佐神宮の主祭神にちなんで、八幡鳥居と呼ばれることもあります。

上宮前に最初にいつ鳥居が建てられたのかは分かっていませんが、1030 年の文獻にはこの鳥居が登場します。現在の鳥居の建立年もまた不明ですが、記録によれば 1863 年に修理されているため、少なくとも 150 年前は経っていることとなります。この上宮の鳥居は大分県の有形文化財に指定されています。

大鳥居

神橋を渡って神域に入ると見える宇佐神宮への表参道（正面に位置する参道）に建つ大きな鳥居は、大鳥居と呼ばれています。11.1メートルの高さを誇る、この神宮で最も大きな鳥居です。

最初の大鳥居は 1111 年に建てられました。政権交代のあった 17 世紀、新しい大名（日本封建時代の領主）が宇佐神宮に資金を提供し、大鳥居の修復が可能となりました。1798 年には、古くなった大鳥居が、八幡大神が最初に顕現したとされる、近隣の神聖な御許山の杉で新しく作られた大鳥居と取り替えられました。これらの過去の鳥居には額束があり、柱の上部に特徴的な黒い台輪が無かったため、宇佐鳥居には分類されません。台風で以前の大鳥居が倒壊したため、1937 年に現在の大鳥居が独特の宇佐鳥居の形式でコンクリートを使って建造されました。

【タイトル】 上宮

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**上宮**

宇佐神宮の祭典儀式和祈禱活動大多都在上宮舉行。這裡供奉着神宮的三尊主祭神：八幡大神——**传说**中的日本第 15 代天皇**应神天皇**的神格化身，**被视为**国家和皇室的**守护神**；神功皇后——**应神天皇的母亲**，**保佑安产**；**比卖大神**——三位海洋女神的合称，是**保护航海安全**的神祇。

通常，参拜神社的方式是：鞠躬两次，拍手两次，双手合十默祷，最后再鞠一躬。但在宇佐神宮稍有不同，需要拍手四次。此外，**无论在上宮还是下宮**，都**建议**参拜者不要只参拜**中间的本殿（正殿）**，**应对供奉三位主祭神的三座御殿一视同仁**，逐一参拜。

上宮的三座御殿都是起源于宇佐神宮的八幡造式样，其主要特点在于前后排列的双重屋顶中间，有共用的雨樋（排水槽）相连。因此，虽然**侧面**看来像是隔着走廊的**两栋独立切妻造（悬山顶）建筑**，但**其实是同一座社殿**。殿内分为**外厅和内厅**：外厅设神座，称“御椅子”；内厅设有**带幔帐的寝台**，称“御帐台”。人们相信，神祇白天在外厅听取祈禱，夜晚回到内厅休息。三座御殿内部都绘有**凤凰**，装饰富丽堂皇。据说日本共有大约 4 万座八幡神社，但保留**传统木结构八幡造社殿**的不足 10 家。

上宮区域内还有三个**较小的神社**，分别是三座本殿的**守护神社**。春日神社是**守护八幡大神的御殿**，社内供奉着自古就**胁侍天照大神、八幡大神**的神明。北辰神社是**守护比卖大神**的御殿，供奉宇佐神宮所在地的土地神。**值得注意的是**，北辰神宮也是宇佐神宮内又一座八幡造建筑范例。住吉神社是**守护神功皇后**的御殿，社内供奉三位**为神功皇后祈福**的神明。除了以上神社之外，上宮的**围墙边**还有一株大楠木（樟树），是祭祀八幡大神子女的地方。

八幡大神的第一座御殿于公元 725 年在小椋山建成，**现在的上宮**重建于 1859 年至 1861 年之间。**经过了 2012 年至 2015 年的大规模修葺**，如今这座有着**朱红柱子、雪白墙壁和桧皮葺屋顶**的殿宇，在**蓝天与周边树木的映衬下**显得格外美丽。上宮的三座御殿都被指定为**国宝**，北辰神社、南中楼门、西大门则被指定为**大分县物质文化财产**。

<繁体字>**上宮**

宇佐神宮の祭典儀式和祈禱活動大多都在上宮舉行。這裡供奉著神宮的三尊主祭神：八幡大神——傳說中的日本第 15 代天皇應神天皇的神格化身，被視為國家和皇室的守護神；神功皇后——應神天皇的母親，保佑安產；比賣大神——三位海洋女神的合稱，是保護航海安全的神祇。

通常，參拜神社的方式是：鞠躬兩次，拍手兩次，雙手合十默禱，最後再鞠躬一次。但在宇佐神宮稍有不同，需要拍手四次。此外，無論在上宮還是下宮，都建議遊客不要只參拜中間的本殿（正殿），應對供奉三位主祭神的三座御殿一視同仁，逐一參拜。

上宮的三座御殿都是起源於宇佐神宮的八幡造式建築，這種樣式的主要特點在於前後排列的雙重屋頂中間，有共用的雨樋（排水槽）相連。因此，雖說側面看來像是隔著走廊的兩棟獨立切妻造（懸山頂）建築，但其實是同一座社殿。殿內分為外廳和內廳：外廳設神座，稱「御椅子」；內廳設帶幔簾的寢台，稱「御帳台」。人們相信，神祇白天在外廳聽取祈禱，夜晚回到內廳休息。三座御殿內部都繪有鳳凰，裝飾華麗。據說日本共有大約 4 萬座八幡神社，但保留傳統木結構八幡造社殿的不足 10 家。

上宮域內還有三個較小的神社，分別是三座本殿的守護神社。春日神社是守護八幡大神的御殿，社內供奉著自古就侍天照大神、八幡大神的神明。北辰神社是守護比賣大神的御殿，供奉宇佐神宮所在地的土地神，值得一提的是，北辰神宮也是宇佐神宮域內一座八幡造建築範例。住吉神社是守護神功皇后的御殿，社內供奉三位為神功皇后祈福的神明。除了以上神社之外，上宮的圍牆邊還有一棵大楠木（樟樹），是祭祀八幡大神子女的地方。

八幡大神的第一座御殿於西元 725 年在小椋山建成，現在的上宮重建於 1859 年至 1861 年間。經過了 2012 年至 2015 年的大規模修葺，如今這座有著朱紅柱子、雪白牆壁和檜皮葺屋頂的殿宇，在藍天與周遭樹木的映襯下顯得格外美麗。上宮的三座御殿都被指定為國寶，北辰神社、南中樓門、西大門被指定為大分縣物質文化財產。

<日本語仮訳>

上宮

上宮は、宇佐神宮での神事や祈禱の大半が行われる場所です。ここでは、日本の伝説的な第 15 代天皇、應神天皇の神格化された姿である八幡大神と、應神天皇の母である神功皇后、そして比賣大神と呼ばれる三女神の三柱を祀っています。八幡大神は国と皇室の守護神として崇拝され、神功皇后は安産のご神徳があり、比賣大神は航海安全のご利益があるとされています。

一般的な神社での参拝は、二礼、二拍手し、手を合わせながら静かに祈り、最後の一礼をします。しかし、宇佐神宮での参拝の作法は少し異なり、拍手を 2 回ではなく 4 回行います。また、上宮と下宮では、参拝客は中央の御殿だけでなく、三柱を祀る 3 つの御殿それぞれに参拝することが推奨されています。

上宮の 3 つの御殿は、宇佐神宮発祥の八幡造の建築様式で建てられています。二つ前後に並べる社殿の軒の接するところには、共用の雨樋（排水パイプ）を設けるのが八幡造の主な特徴です。各御殿は、通路で繋がった 2 つの別々の建物のように見えますが、2 つの切妻屋根（懸山式屋根）

を持つ 1 つの建物です。内部は、幕を張った寝台「御帳台」を備えた内側の広間と、神が座る「御椅子」がある外側の広間に分かれています。神々は、日中は外側の広間で祈りに耳を傾け、夜になると内側の広間に下がって休息されると考えられています。3 つの御殿の中は、鳳凰の絵によって豪華に飾られています。全国には約 40,000 の八幡神社があると言われていたますが、伝統的な木造の八幡造りの神社は、10 社に満たない数しか残っていません。

上宮の中に立つ 3 つの小さい神社は、3 柱の各御殿を守護する神社です。春日神社は、八幡大神の御殿を守護しており、古来より天照大神を八幡大神とともに補佐するとされる神様を祀っています。北辰神社は比売大神の御殿の守護社で、宇佐神宮が建つこの土地の地主神を祀っています。北辰神社が宇佐神宮ならではの八幡造であることも特筆すべき点です。住吉神社は神功皇后の御殿の守護社で、神功皇后に加護を与えた 3 柱の神々を祀っています。これらの神社に加えて、上宮の壁沿いに植えられた大きな一本の楠（クスノキ）は、八幡大神の子女である神を祀る場所としての役割を果たしています。

八幡大神を祀る最初の御殿は 725 年に小椋山に建てられ、現在見られる上宮の御殿は 1859 年から 1861 年に再建されました。2012 年から 2015 年にかけて大規模な修繕が行われ、朱色の柱、白い壁、檜皮葺きの屋根が、空や周囲の木々を背景に殊の外美しく映えています。上宮の 3 つの御殿は国宝に指定されており、北辰神社、南中楼門、西大門は大分県指定有形文化財です。

【タイトル】 百段

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**百段**

宇佐神宮区域内南侧通往上宮的大石阶被称为“百段”，虽然名字意为“有 100 级台阶的石阶”，但其实只有 99 级。

传说，曾经有一个魔鬼来到宇佐神宮，祈求主祭神八幡大神准许它吃人。八幡大神与魔鬼约定，只要它能在一夜之间建好一个 100 级的石阶，就可以随意满足它的食欲。这几乎是一项不可能完成的任务，可魔鬼在临近日出时居然造好了 99 级台阶，这令八幡大神大为吃惊。为了阻止魔鬼完成最后一级台阶，大神让一只公鸡提前报晓。就这样，石阶只完成了 99 级，魔鬼和大神的约定没能实现。在另一个传说里，来求八幡大神的是一条生活在水中的大蛇，它想把菱形池据为己有，最终被类似的方式挫败。

“昭和大营造”(1932-1941)期间，人们用花岗石重建了百段石阶，并配合传说依然只建造了 99 级台阶。石阶脚下的南大门也建于同一时期。现在，出于安全考虑，百段石阶已经封闭，来访者可以走小椋山西侧的常规路线上山。行动不便或带婴儿车的来访者可以在石阶脚下搭乘单轨电车前往上宮。

<繁体字>**百段**

宇佐神宮域內南侧通往上宮的大石階被稱為「百段」，雖然百段意為「有 100 級台階的石階」，但其實只有 99 級。

傳說，曾經有一個魔鬼來到宇佐神宮，祈求主祭神八幡大神准許它吃人。八幡大神與魔鬼約定，只要它能在一夜之間建好一座有 100 級的石階，就可以隨意滿足其食欲。這幾乎是一項不可能完成的任務。可魔鬼在臨近日出時居然造好了 99 級台階，這令八幡大神大為吃驚。為了阻止魔鬼完成最後一級台階，大神讓一隻公雞提前報曉。就這樣，石階只完成了 99 級，而魔鬼和大神的約定也沒能實現。在另一個傳說裡，來求八幡大神的是一條生活在水中的大蛇，它想把菱形池據為己有，最終以類似的失敗告終。

「昭和大營造」（1932-1941）期間，人們用花岗石重建了最初的百段石階，為配合傳說，依然只建造了 99 級台階。石階腳下的南大門也建於同一時期。現在，出於安全考慮，百段石階已經封閉，遊客可以循小椋山西側的常規路線上山。行動不便或帶嬰兒車的遊客也可以在石階腳下搭乘單軌電車前往上宮。

<日本語仮訳>

百段

宇佐神宮境内の南側から上宮へと続く大きな石の階段は、百段と呼ばれています。名前は「百の段がある階段」を意味しますが、実際には 99 段しかありません。

伝説によれば、かつてある鬼が、宇佐神宮の主祭神である八幡大神に人を食べる許可を求めたと言われています。八幡大神と鬼は、もしも鬼が一晩で 100 段の石の階段を作ることができれば、鬼はその食欲を満たして良いという取り決めをしました。成し遂げるのは不可能と思っていたため、日の出間近になって鬼がすでに 99 番目の段を造ったことに気づいた八幡大神は驚きました。鬼に最後の段を作らせようと、八幡大神は雄鶏を鳴かせて夜明けを告げました。結局 99 段しか完成させられなかったということで、取引は成立しませんでした。敵は水中に棲む大蛇で、自分の住処を菱形池まで掘りたいと八幡大神に持ち掛けるが、似たような方法で打ち負かされた、という別の話もあります。

当初の百段は宇佐神宮の昭和大造営（1932-1941）の際に花崗岩を使って再建されましたが、伝説に合わせて 99 段のままとなっています。同時期に、急な階段のふもとに南大門という門が建立されました。現在百段は安全上の理由から閉鎖されており、参拝者は小椋山西側の通常のルートに登ります。お体が不自由な方やベビーカーをお持ちのご家族は、階段の下から上宮へ向かうモノレールをご利用ください。

【タイトル】 若宮神社

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**若宮神社**

若宮神社是宇佐神宮的攝社[※]，位於標誌著上宮入口的鳥居外側。若宮神社供奉著五位神明，分別是大鷦鷯命、大葉枝皇子、小葉枝皇子、隼別皇子和雌鳥皇女。這些神明的父親是傳說中的日本第15代天皇——應神天皇，他的神格化身就是宇佐神宮的主祭神八幡大神。大鷦鷯命尤其值得關注，因為他是繼承了父親皇位的仁德天皇。人們相信，若宮神社的諸位神明能夠除厄消災，護佑平安。

根據宇佐神宮的記載，八幡大神在公元824年降下一道神諭，要求建造一座神社供奉繼承了他神聖血脈的子女。遵照神明的囑託，若宮神社在852年落成完工。現存神社建築重建於1843年，並於2009年進行了修繕。

※攝社：和“末社”一樣，是本社的附屬神社，供奉與本社主祭神有淵源的神明，比起末社來，攝社與本社的關係更為密切。

<繁体字>**若宮神社**

若宮神社是宇佐神宮的攝社[※]，位於標誌著上宮入口的鳥居外側。若宮神社供奉著五位神明，分別是大鷦鷯命、大葉枝皇子、小葉枝皇子、隼別皇子和雌鳥皇女。這些神明的父親是傳說中的日本第15代天皇——應神天皇，他的神格化身就是宇佐神宮的主祭神八幡大神。大鷦鷯命尤其值得關注，因為他是繼承了父親皇位的仁德天皇。人們相信，若宮神社的諸位神明能夠除厄消災，護佑平安。

根據宇佐神宮的記載，八幡大神在西元824年降下一道神諭，要求建造一座神社供奉繼承他神聖血脈的子女。遵照神明的囑託，若宮神社在852年落成完工。現存神社建築重建於1843年，並在2009年進行了修繕。

※攝社：和「末社」一樣，是本社的附屬神社，供奉與本社主祭神有淵源的神明，與末社相比，攝社與本社的關係更為密切。

<日本語仮訳>

若宮神社

若宮神社は、宇佐神宮の上宮への入り口を示す鳥居の外側にある摂社[※]です。若宮神社で祀られている五柱の神々は、大鷦鷯命、大葉枝皇子、小葉枝皇子、隼別皇子、雌鳥皇女です。これらの神々はすべて、宇佐神宮の主祭神である八幡大神として崇められている日本の伝説的な第15代天皇、応神天皇の子女です。特に注目に値するのは、父の後に天皇の位を継いで仁徳天皇となった大鷦鷯命です。若宮神社の神々は、除災難・厄難の神様として崇拝されています。

宇佐神宮の記録によると、824年に八幡大神からの神託で、八幡大神の子女を祀るために神社を建てるべきであると告げられました。その願いを叶えるため、852年に若宮神社が創建されました。現在の社殿は1843年に再建、2009年に修繕されました。

※摂社：「末社」と同じく、本社に付属し、本社ゆかりの神様を祀る小社だが、末社と比べて、本社との関わりが深い。

【タイトル】 下宮

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**下宮**

宇佐神宮內有兩座殿宇供奉著同樣的神明，這在大型神社中十分罕見。除了坐落於小椋山山頂的主殿宇「上宮」外，山腳下還有一座「下宮」，兩者供奉的祭神同為八幡大神、比賣大神和神功皇后。從這句「下宮參らにゃ片参り（不到下宮，參拜只算一半）」的當地諺語中可以知道，去宇佐神宮就必須一次參拜兩宮。

下宮初建於公元 9 世紀早期，比上宮晚 100 年。雖說供奉的神明沒有區別，但神格卻稍有不同。例如，上宮的八幡大神負責鎮守國家，到了下宮，他的身份就變成了農民、漁民等老百姓的保護神。有觀點認為，之所以出現這樣的差異，是因為上宮最初只接待社會上層人士，後來建造的下宮則供普通民眾參拜。

從前，下宮還是為神明準備膳食的地方。如今，它多用於神職人員舉行日常祭祀和祈禱儀式。如果遇到上宮本殿（正殿）大修，殿內神明也會暫時移入下宮供奉。現存下宮建築翻新於 1939 年。

<繁体字>**下宮**

宇佐神宮內有兩座殿宇供奉著同樣的神明，這在大型神社中十分罕見。除了坐落於小椋山山頂的主殿宇「上宮」外，山腳下還有一座「下宮」，兩者供奉的祭神同為八幡大神、比賣大神和神功皇后。從這句「下宮參らにゃ片参り（不到下宮，參拜只算一半）」的當地諺語中可以知道，去宇佐神宮就必須一次參拜兩宮。

下宮初建於西元 9 世紀早期，比上宮晚 100 年。雖說供奉的神明沒有區別，但神格卻稍有不同。例如，上宮的八幡大神負責鎮守國家，到了下宮，他的身份就變成了農民、漁民等老百姓的保護神。有觀點認為，之所以出現這樣的差異，是因為上宮最初只接待社會上層人士，後來建造的下宮則供普通民眾參拜。

從前，下宮還是為神明準備膳食的地方。如今，它多用作神職人員舉行日常祭祀和祈禱儀式的場所。如果遇到上宮本殿（正殿）大修，殿內神明也會暫時移入下宮供奉。現存下宮建築翻新於 1939 年。

<日本語仮訳>

下宮

宇佐神宮は、同じ神様を祀る社が2つある珍しい大社です。小椋山の頂上にある本宮である上宮に加えて、小椋山の麓にある下宮があり、どちらにも八幡大神・比売大神・神功皇后が祀られています。古くから地元では「下宮参らにゃ片参り（下宮へ行かなければ、お参りは半分しか意味がない）」と言われ、宇佐神宮の参詣には両宮へのお参りが欠かせないとされていました。

下宮は、上宮が建立されてから約100年後の9世紀初頭に創建されました。祀られている神々は同じですが、その神性は異なります。たとえば、上宮では八幡大神は国家の守護者として崇められ、下宮では農業や漁業などを生業とする民衆の守護者として崇拝されています。一説では、かつて上宮は身分の高い者しか参拝できなかったため、下宮が庶民の参拝する場所となり、このような違いが生まれたと言われています。

下宮は古くは神前にお供えする食事を準備するために使用されていました。現在は、主に神職により日常の祭祀が行われる場所となっています。また、上宮の本殿の大規模な修理の際に、下宮は上宮の神々を一時的に祀る場所として使われることもあります。現在の下宮は1939年に改築されたものです。

【タイトル】春宮神社

【想定媒体】WEB

<簡体字>**春宮神社**

宇佐神宮の表参道（参拜主路）沿途有几座较小的神社，春宮神社就是其一。它是神宮的攝社^{*}，供奉應神天皇（传说中的日本第 15 代天皇）的儿子菟道稚郎子命。應神天皇的神格化身就是八幡大神。菟道稚郎子命的 5 位兄弟姊妹受供于上宮附近的若宮神社，其中包括他的长兄——后来的仁德天皇神格化后的大鷦鷯命。

据传，應神天皇曾将勤勉的菟道稚郎子命立为皇太子，有意让他继位成为下一代天皇。可菟道稚郎子命却认为，既然有长兄大鷦鷯命在，自己就不应该继承皇位。在應神天皇去世后，菟道稚郎子命劝说哥哥继位登基，可大鷦鷯命却希望尊重父亲的选择，于是兄弟俩陷入了僵局。皇位空悬几年后，菟道稚郎子命越来越为国家的命运感到担忧，他为了让兄长摒弃顾虑继承天皇之位，最终选择在宇治川投河自尽。

菟道稚郎子命求学时聪明上进，因此，现在被尊为学问之神。早在 15 世纪之前，春宮神社就在如今的社址上供奉这位神明。神社一度被搬迁到更靠近下宮的地方，现在的朱红色社殿是 1936 年在原址上重建的。

※攝社：和“末社”一样，是本社的附属神社，供奉与本社主祭神有渊源的神明，比起末社来，攝社与本社的关系更为密切。

<繁体字>**春宮神社**

宇佐神宮的表参道（参拜主要道路）沿途有几座规模较小的神社，春宮神社就是其一。它是神宮的攝社^{*}，供奉應神天皇（传说中日本第 15 代天皇）的儿子菟道稚郎子命。應神天皇的神格化身就是八幡大神。菟道稚郎子命的 5 位兄弟姊妹受供于上宮附近的若宮神社，其中包括他的长兄——后来的仁德天皇神格化后的大鷦鷯命。

據傳，應神天皇曾將勤勉的菟道稚郎子命立為皇太子，有意讓他繼位成為下一代天皇。可菟道稚郎子命卻認為，既然有長兄大鷦鷯命在，自己就不應該繼承皇位。在應神天皇去世後，菟道稚郎子命勸說哥哥繼位登基，可大鷦鷯命卻希望尊重父親的選擇，兄弟倆陷入了僵局，皇位因此空懸數年。菟道稚郎子命為國家的命運感到擔憂，為了讓兄長摒棄顧慮繼承天皇之位，最終選擇投入宇治川自盡。

菟道稚郎子命求學時聰明上進，因此，現在被尊為學問之神。早在 15 世紀之前，春宮神社就在如今的社址上供奉這位神明。神社一度被搬遷到更靠近下宮的地方，現在的朱紅色社殿是 1936 年在原址上重建的。

※攝社：和「末社」一樣，是本社的附屬神社，供奉與本社主祭神有淵源的神明，與末社相比，攝社與本社的關係更為密切。

<日本語仮訳>

春宮神社

宇佐神宮の表参道（正面に位置する参道）を通ると、途中でいくつかの小さな神社を通り過ぎます。その一つが春宮神社で、八幡大神として祀られている応神天皇（日本の伝説的な 15 代天皇）の息子、菟道稚郎子命を祀る摂社[※]です。後の仁徳天皇である兄の大鷦鷯命をはじめ、菟道稚郎子命の他の 5 人の兄弟姉妹は、上宮に近い若宮神社に祀られています。

ある伝説によると、応神天皇は、勤勉な菟道稚郎子命を跡継ぎにと考え、彼を皇太子にしたと言われています。しかし、大鷦鷯命が長男であったことから、菟道稚郎子命は自分が皇位を継承するのは正しくないと考えました。応神天皇の死後、菟道稚郎子命は兄に天皇の位に就くことを勧めましたが、大鷦鷯命は彼らの父親の意思を尊重したいと考えたため、2 人の間で膠着状態に陥ってしまいます。天皇不在のまま数年が経った後、菟道稚郎子命は国の行く末をますます案じるようになりました。最終的に、菟道稚郎子命は彼の兄が天皇になる道を切り開くため宇治川に身を投げ、自ら命を断ちました。

菟道稚郎子命は聡明で知的な学生だったため、現在は学問の神として崇拝されています。春宮神社は 15 世紀より前に、菟道稚郎子命を祀るため現在の場所に建てられました。後にこの神社は、下宮近くへ移されましたが、現在の朱色に塗られた社殿は 1936 年に元の場所に再建されました。

※摂社：「末社」と同じく、本社に付属し、本社ゆかりの神様を祀る小社だが、末社と比べて、本社との関わりが深い。

【タイトル】 菱形池

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**菱形池**

美丽的菱形池位于宇佐神宮区域内正中央。池中漂浮着几座小島，島上坐落着几家神社和一个能乐殿（能劇舞台），島与島之间由若干小桥连接。虽然通往島上的桥梁常年封锁着，但来访者可以绕着池边散步，欣赏紫藤、莲花、鸢尾花和红叶营造出的四时风光。这座大池塘里栖息着许多水禽、龟和五彩锦鲤。现场有小袋鱼食出售，可供来访者投喂锦鲤。

菱形池的东南岸上有一股圣泉“御灵水”。据传，公元 571 年八幡大神在此显圣于一位名叫大神比义的男子面前，宣告自己是国家的守护者，这通常被视为宇佐神宮历史的起源。御灵水周边设有朱红色围栏，并以一座鸟居作为标志。传说此处泉水澄澈纯净，终年涌流不息。这里的三处石井也有清泉涌出，井口皆有竹盖遮挡保护。虽然会有本地信徒取井水回家供神，但请注意，这些井水并不适合饮用。

中心島上的能乐殿，主要用来举办每年 10 月的能劇表演等各类演出。舞台附近是木匠祖神社，供奉木匠和其他手工艺匠人的守护神。另一座島上的水分神社里则供奉着一位水神。池塘西侧的绘马殿里陈列的绘马（日本神社或寺院中许愿用的木制小牌子）上，描绘着有关宇佐神宮的传说和历史故事。

在改造宇佐神宮全域的“昭和大营造”(1932-1941)期间，菱形池被扩建为如今的模样。

<繁体字>**菱形池**

美丽的菱形池位于宇佐神宮域内的正中央。池中漂浮著幾座小島，島上坐落著幾間神社和一個能樂殿（能劇舞台），島與島之間由若干小橋連接。雖然通往島上的橋樑常年封閉，但遊客可以繞著池邊散步，欣賞紫藤、蓮花、鸞尾花和紅葉營造出的四時風光。這座大池塘裡棲息著許多水禽、龜和五彩錦鯉。現場販售小包魚飼料，可供遊客餵食錦鯉。

菱形池的東南岸上有一股聖泉「御靈水」。根據傳說，宇佐神宮歷史起源於西元 571 年，八幡大神在此顯聖於一位名為大神比義的男子面前，宣告自己是國家的守護者。御靈水周邊設有朱紅色圍欄。傳說這處泉水澄澈純淨，終年湧流不息。這裡的三處石井也有清泉湧出，井口皆有竹蓋遮擋保護。雖然會有當地信徒取井水回家供神，但請注意，這些井水並不適合飲用。

中心島上の能樂殿，主要用來舉辦每年 10 月的能劇表演等各類演出。舞台附近是木匠祖神社，供奉木匠和其他手工藝匠師的守護神。另一座島上的水分神社則供奉著一位水神。池塘西側的繪馬殿裡陳列的繪馬（日本神社或寺院中許願用的木製小吊牌）上，描繪著有關宇佐神宮的傳說和歷史故事。

在改造宇佐神宮全域的「昭和大營造」（1932-1941）期間，菱形池被擴建為如今的模樣。

<日本語仮訳>

菱形池

宇佐神宮境内の中央には趣のある菱形池があります。池に浮かぶ小さな島には神社や能樂殿（能舞台）があり、島々は橋で結ばれています。橋は通常は閉鎖されていますが、池の周囲を散策すると、藤や蓮の花、アヤメ、紅葉など四季折々の美しい景色が楽しめます。この大きな池にはさまざまな水鳥、亀、色とりどりの鯉が生息しています。鯉の餌やりをしたい人のために、小さな袋入りの魚の餌が販売されています。

菱形池の南東の岸には、御霊水という泉があります。571 年に八幡大神がここで大神比義という男の前に現れ、国の守護者であると告げたという伝説が残っています。多くの場合、これが宇佐神宮の歴史の始まりであるとされています。御霊水のある辺りは朱色の柵に囲まれ、鳥居が目印になっています。その泉の水は澄んでいて常に湧き出ていると言われており、竹の覆いで保護された 3 つの石の井戸に湧き出しています。この水をお供えに使うために持ち帰る地元の信者もいらっしゃいますが、飲用には適しませんのでご注意ください。

中央の島にある能樂殿は、毎年 10 月に行われる能の公演や、その他の公演に使われています。この舞台の近くには、大工などの職人を守護する神様を祀る木匠祖神社があります。別の島には、水神が祀られている水分神社があります。池の西岸にある絵馬殿には、宇佐神宮の伝説や歴史を描いた絵馬（日本の社寺に祈願の目的で奉納する木製の板）が展示されています。

宇佐神宮境内での昭和大造営（1932-1941）の際に、菱形池は形を変えられ、大きく広げられ、現在の形になりました。

【タイトル】 頓宮

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**頓宮**

頓宮是一处临时供奉神明的场所，用于在特定祭典期间安置宇佐神宮的祭神。这处建筑由两个社殿组成：一个用于供奉神明；另一个则用于存放祭典期间接送神明的神轿。頓宮在每年夏天的“御神幸祭”中扮演着重要的角色，届时，上宮的神明要在这里停留三天两夜，并接受供奉。整个御神幸祭期间，有数场仪式在頓宮举办，其中包括宇佐神宮独有的净化仪式“菅貫神事”。

历来，大神社的殿閣多会定期翻新一次，而“頓宮”就是在此期间用来临时供奉祭神的场所。以宇佐神宮为例，从 9 世纪至 14 世纪，神宮建筑每 33 年重建一次。每到这时都需要在上宮、下宮和若宮神社分别建造 3 座頓宮安置祭神，重建工程结束后再将其拆除。

如今的頓宮不再是临时建筑，也不再只是在修葺社殿时使用。现在它主要用于有神轿出场的年度常规祭典“御神幸祭”。以前在御神幸祭时供奉神灵的頓宮，位于神橋附近的大鳥居外侧，其历史可追溯到 1680 年。现在的頓宮则建于宇佐神宮全域改造的“昭和大营造”(1932-1941)期间。

<繁体字>**頓宮**

頓宮是一處臨時供奉神明的場所，用於在特定祭典期間安放宇佐神宮的祭神。這座建築由兩個社殿組成：一處用於供奉神明，另一處則用於存放祭典期間接送神明的神轎。頓宮在每年夏天的「御神幸祭」中扮演著重要的角色，屆時，上宮的神明要在此停留三天兩夜，接受供奉。御神幸祭期間，有數場儀式在頓宮舉辦，其中包括宇佐神宮獨有的淨化儀式「菅貫神事」。

歷來，大神社的殿閣會定期翻新一次，而「頓宮」就是在此期間用來臨時供奉祭神的場所。以宇佐神宮為例，從 9 世紀至 14 世紀，神社建築每 33 年重建一次。每到這時都需要在上宮、下宮和若宮神社分別建造 3 座頓宮安放祭神，重建工程結束後再予以拆除。

如今的頓宮不再是臨時建築，也不再只是在修葺社殿時使用，現在它主要用於有神轎出場的年度常規祭典「御神幸祭」。以前那座在御神幸祭時供奉神靈的頓宮，位於神橋附近的大鳥居外侧，其歷史可追溯到 1680 年。現在的頓宮則建於宇佐神宮全域改造的「昭和大營造」（1932-1941）期間。

<日本語仮訳>

頓宮

頓宮は、特定の祭祀の際に宇佐神宮の祭神を一時的に祀るために利用される場所です。2つの社殿から成り、一つは神々のための御殿、もう一つは神様を儀式的に運ぶ神輿のための専用の倉庫です。頓宮は夏の御神幸祭において、上宮の神々を二泊三日の間お祀りするという重要な役割を担います。御神幸祭の間、頓宮では宇佐神宮独特の祓の行事である菅貫神事など、いくつかの儀式が行われます。

歴史的に頓宮は、有力な神社がその社殿を一定の間隔で造り替える期間中、一時的に神様を祀るために使用する場所です。宇佐神宮の場合、9世紀から14世紀にかけては33年ごとに社殿が造替されていました。この時代には、造替の度に上宮、下宮、若宮神社それぞれの祭神を祀るため3つの頓宮が都度建てられ、造替完了後に解体されていました。

現在の頓宮は、社殿の修繕時よりも神輿が出る毎年恒例の祭礼「御神幸祭」の際に主に使用されており、社殿は常設となっています。御神幸祭の期間中に神様をお祀りする以前の頓宮は、1680年に神橋近くの大鳥居の外に建てられ、今の社殿は宇佐神宮境内での昭和大造営（1932-1941）の際に建設されました。

【タイトル】大尾神社

【想定媒体】WEB

<簡体字>

大尾神社

大尾神社位于宇佐神宮东侧的大尾山上，它是神宮的攝社[※]，相传曾在 8 世纪时收到一道有关当时皇位继承权纠纷的重要神諭。

公元 749 年，八幡大神由宇佐出发，行幸当时的日本首都奈良，造访正在修造大佛的东大寺。在他返回宇佐神宮途中，一道神諭降下，指示八幡大神在小椋山上的本殿（正殿）举行祓礼（祓音“福”，净化之意）期间，必须驻足大尾山。于是，765 年大尾神社落成。历史学者认为，当时八幡大神迟迟不能回到他的大本营，是出于奈良政界重要人物的阴谋，因为他们对宇佐神宮不断扩大的声望十分忌惮。

八幡大神在大尾神社停留了 15 年。在此期间，实力强大的佛僧道镜(700?-772)试图争夺皇位继承权。据说，道镜的一名支持者声称得到八幡大神的神諭，预言只有道镜继位才能天下太平。为了验证这个说法，当时在位的称德天皇(718-770)于 769 年派出一位名叫和气清麻吕(733-799)的朝臣前往宇佐。他在大尾神社得到神諭，表示天皇之位只能由拥有皇室血脉者继承。在这道神諭的帮助下，道镜最终没能登上皇位，传统的世袭秩序得到了维护。

虽然八幡大神最终回到了宇佐神宮的本殿，大尾山上的神社依旧被奉为神明曾经显圣并宣示神諭的圣地。大尾神社现存的社殿建于 1937 年，在 2020 年经历过修葺。同样位于大尾山上的护皇神社建在不远处，那里供奉着对皇室忠心耿耿、尽忠职守的和气清麻吕。

※攝社：和“末社”一样，是本社的附属神社，供奉与本社主祭神有渊源的神明，比起末社来，攝社与本社的关系更为密切。

<繁体字>

大尾神社

大尾神社位於宇佐神宮域內東側的大尾山上，為神宮的攝社[※]，相傳曾在 8 世紀時收到一道有關當時皇位繼承權糾紛的重要神諭。

西元 749 年，八幡大神由宇佐出發，行幸當時的日本首都奈良，造訪正在修造大佛的東大寺。在返回宇佐神宮途中，神諭指示八幡大神在小椋山上的本殿（正殿）舉行祓禮（祓音「福」，淨化）期間，必須駐足大尾山。於是，765 年大尾神社落成。歷史學者認

為、當時八幡大神遲遲不能返回宇佐，是出於奈良政界重要人物的陰謀，因為他們對宇佐神宮不斷擴大的聲望十分顧忌。

八幡大神在大尾神社停留了 15 年。在此期間，實力強大的佛僧道鏡（700?-772）試圖爭奪皇位繼承權。據說，道鏡的一名支持者聲稱得到八幡大神的神諭，預言只有道鏡繼位才能天下太平。為了驗證這個說法，當時在位的稱徳天皇（718-770）於 769 年派出一位名叫和氣清麻呂（733-799）的朝臣前往宇佐。他在大尾神社得到神諭，表示天皇之位只能由擁有皇室血脈者繼承。在這道神諭的幫助下，道鏡最終沒能登上皇位，傳統的世襲秩序得到了維護。

雖然八幡大神最終回到了宇佐神宮的本殿，大尾山上的神社依舊被奉為神明曾經顯聖並宣示神諭的聖地。大尾神社現存的社殿建於 1937 年，並在 2020 年重新修葺。同樣位於大尾山上的護皇神社建在不遠處，那裡供奉著對皇室忠心耿耿、盡忠職守的和氣清麻呂。

※攝社：和「末社」一樣，是本社的附屬神社，供奉與本社主祭神有淵源的神明，與末社相比，攝社與本社的關係更為密切。

<日本語仮訳>

大尾神社

宇佐神宮境内の東側にある大尾山に鎮座するのが大尾神社です。この神社は、8 世紀に起こった皇位継承争いの際に、重要な神託を受けた摂社^{*}です。

749 年、東大寺の大仏造営中に、八幡大神は宇佐から当時の都、奈良に行幸します。宇佐神宮への帰路、小椋山の本殿のお祓い（浄化）の間は八幡大神を一時的に大尾山に祀るべきという神託がありました。これを受けて 765 年に大尾神社が造営されました。歴史学者たちは、八幡大神の還幸が遅くなったのは、宇佐神宮の影響力の増大を警戒した奈良の政界の有力者たちの策略によるものだったのではないかと考えています。

八幡大神は 15 年間、大尾神社に留まりました。その間に、有力な僧侶の道鏡（700？-772）が皇位を奪おうという企てを起こしました。一説では、道鏡の支持者が、道鏡が天皇の座に就けば天下は泰平となるという八幡大神の神託があったと主張した、とも言われています。この託宣の真偽を確かめるために、称徳天皇（718-770）は 769 年に延臣の和氣清麻呂（733-799）を宇佐に派遣しました。大尾神社で和氣清麻呂は、皇位は皇室の血を引く人にもみ継がれるべきという神託を受け、これにより道鏡が天皇の座に就くことは阻止され、伝統的な皇位継承が維持されることになりました。

八幡大神は後に宇佐神宮の本殿にお戻りになりましたが、今でも大尾山にあるこの神社は、かつて八幡大神が現れてその意向を語った神聖な場所とされています。現在の大尾神社の社殿は 1937 年に建設され、2020 年に修復されました。同じく大尾山にある近くの護皇神社は、皇室へ忠誠を尽くした、和氣清麻呂が祀られています。

※撰社：「末社」と同じく、本社に付属し、本社ゆかりの神様を祀る小社だが、末社と比べて、本社との関わりが深い。

【タイトル】護皇神社

【想定媒体】WEB

<簡体字>**护皇神社**

护皇神社是神宫的一处末社^{*}，位于宇佐神宫东面的大尾山上，主祭神是和气清麻吕(733-799)，他是一位朝臣，因在解决皇室继承权的争端中发挥了重要作用而闻名。当时，他作为敕使（天皇钦使）前往宇佐，在那里获得了来自八幡大神的重要神谕。

和气清麻吕出生于冈山地区一户颇有名望的官宦人家。他继承家业后也成为了一名高阶官员，先后服务过几代天皇。称德天皇(718-770)在位期间，一位名叫道镜(700?-772)的僧侣因深得女天皇宠爱而势力日增，进而企图成为下一代天皇。为了让这份野心得逞，道镜的支持者宣称，宇佐神宫的八幡大神降下神谕，预言只要道镜即位就能国泰民安。女天皇原本打算指派心腹女官和气广虫(730-799)从当时的日本首都奈良前往宇佐神宫求证神谕，但因女官身体虚弱不堪重任，最终决定由她的弟弟和气清麻吕来执行这项任务。

传说，和气清麻吕来到宇佐调查时，得到了暂居于大尾神社的八幡大神的神谕。神谕称，只有皇室血脉才能继承天皇之位。道镜因此受阻，无法登上皇位，于是决定报复和气清麻吕。和气清麻吕被切断双腿肌腱，并流放到鹿儿岛。据说他在南行期间还曾遭遇了暗杀未遂。尽管如此，和气清麻吕还是坚强地活了下来。他在道镜失势后回到朝廷，辅佐桓武天皇(737-806)，并深受信赖。

护皇神社初建于19世纪中期前的某个时期，原本位于菱形池中的一座小岛上，后来在宇佐神宫全域改造的“昭和大营造”(1932-1941)中移到了现在的位置。2020年，护皇神社与附近的大尾神社一同完成修葺。和气清麻吕被人们奉为消灾除厄、疗愈腿疾的保护神，受供于护皇神社中。

※末社：小型神社，供奉与本社有关的神明。

<繁体字>**護皇神社**

護皇神社是神宮的一處末社^{*}，位於宇佐神宮東面的大尾山上，主祭神是和氣清麻呂(733-799)。和氣清麻呂是一位朝臣，因在解決皇室繼承權的爭端中發揮了重要作用而聞名。當時，他作為敕使（天皇欽使）前往宇佐，獲得了來自八幡大神的重要神諭。

和氣清麻呂出生於岡山地區一戶頗有名望的朝廷官宦人家。他繼承家業後也成為一名高階官員，先後服務過幾代天皇。稱徳天皇（718-770）在位期間，一位名叫道鏡（700?-772）的僧侶因深得女天皇寵愛而勢力日增，進而企圖成為下一代天皇。為了讓這份野心得逞，道鏡的支持者宣稱，宇佐神宮的八幡大神降下神諭，預言只要道鏡即位就能國泰民安。女天皇原本打算指派心腹女官和氣廣蟲（730-799）從當時的日本首都奈良前往宇佐神宮求證神諭，但因女官身體虛弱不堪重任，最終決定由女官的弟弟和氣清麻呂來執行這項任務。

傳說，和氣清麻呂來到宇佐調查時，得到了暫居於大尾神社的八幡大神的神諭。神諭稱，只有皇室血脈才能繼承天皇之位。道鏡因此受阻，無法登上皇位，於是決定報復和氣清麻呂。和氣清麻呂被切斷雙腿肌腱，流放到鹿兒島。據說他在南行期間還曾遭遇暗殺。雖經歷如此磨難，和氣清麻呂還是堅強地活了下來。他在道鏡失勢後回到了朝廷，輔佐桓武天皇（737-806），並深受信賴。

護皇神社初建於19世紀中期前的某個時期，原本位於菱形池中的一座小島上，後在宇佐神宮全域改造的「昭和の大營造」（1932-1941）中移到了現在的位置。2020年，護皇神社與附近的大尾神社一同完成修葺。和氣清麻呂被人們奉為消災除厄、療癒腿疾的保護神，受供於護皇神社中。

※末社：小型神社，供奉與本社有關的神明。

<日本語仮訳>

護皇神社

護皇神社は、宇佐神宮の東、大尾山にある末社[※]です。この神社では、和氣清麻呂（733-799）をご祭神として祀っています。和氣清麻呂は、朝廷の勅使（天皇の使者）として宇佐に派遣され、八幡大神より神託を受けて皇位継承問題を解決したことで知られる延臣です。

清麻呂は岡山地方の名高い官人の家に生まれました。跡を継いで高官となった清麻呂は、歴代の天皇に仕えました。称徳天皇（718-770）の治世中、天皇の寵愛を受け影響力を持っていた僧侶である道鏡（700?-772）が、皇位を奪おうという企てをします。道鏡の野心を叶えようと、道鏡の支持者たちは、もし道鏡が天皇の位に就けば天下は泰平になるという宇佐神宮の八幡大神の神託があったと宣言しました。その神託の真偽を確かめるため、和氣広虫（730-799）という天皇の厚い信頼を得ていた女官が当時の日本の都、奈良から宇佐神宮に遣わされることになっていました。しかし彼女は体が弱かったため、弟である清麻呂が代わりに長い旅に出ることになりました。

伝説によると、宇佐での調査の途中、清麻呂は大尾神社で八幡大神から神託を受けたとされています。その神託は、皇室の血を引く人だけが天皇の位に就くべきであるというものでした。これにより道鏡が天皇になることは阻止できましたが、道鏡は清麻呂に復讐します。清麻呂は足の腱を切断され、鹿兒島に追放されました。南へ向かう道中で暗殺未遂にさえ遭ったと伝えられています。それでもなお清麻呂は生き残り、道鏡の没落後に宮廷に戻って桓武天皇（737-806）の側近として仕え、信頼を得ました。

護皇神社は、19 世紀半ば以前ある時に菱形池の島に創建されましたが、宇佐神宮境内の昭和
大造営（1932-1941）の際に、現在の場所へ移されました。護皇神社は、近くの大尾神社ととも
に、2020 年に修復されました。和氣清麻呂は、不幸から守り、災害を避け、足の怪我を癒す神様と
して護皇神社で崇められています。

※末社：本社ゆかりの神様を祀る小社。

【タイトル】 神橋

【想定媒体】 WEB

<簡体字>**神桥**

寄藻川上所有通往宇佐神宮的桥梁，都是“神桥”，但最有名的莫过于神宮北侧的这座拱型神桥，因为它位于神宮的表参道（参拜主路）上。为了驱魔除厄，这座神桥的侧面和栏杆都被漆成明亮的朱红色。桥身侧面饰有“三头左巴”，这是一种由三个类似逗号图形组成的涡卷状纹饰，不仅常常出现在供奉八幡大神的神社里，还是日本最早的家徽图形，经常被用在贵族公家和武将的家纹上。

以往，每逢天皇派遣敕使前来宇佐神宮时都会临时搭建木板桥，建于1910年的这座永久性的神桥“白桥”，完全取代了临时木桥。而位于神宮表参道上的神桥则在“昭和大营造”（1932-1941）期間的1941年建造。两座桥梁的反差更加凸显了神桥的宗教属性：神桥直接通向大鸟居，过桥就意味着即将踏入“神域”。

<繁体字>**神橋**

寄藻川上所有通往宇佐神宮的橋都可說是「神橋」。而最出名的莫過於神宮北側的這座拱型神橋，因其正好位於神宮的表參道（參拜主要道路）上。為了驅魔除厄，這座神橋的側面和欄杆都被漆作明亮的朱紅色。橋身側面飾有「三頭左巴」，這是一種由三個類似逗號圖形組成的漩渦狀紋飾，不僅常常出現於供奉八幡大神的神社，還是日本最早的家徽圖形，常見於貴族公家和武將的家紋上。

在過去，每逢天皇派遣敕使前來宇佐神宮時都會臨時搭建木板橋。這座永久性神橋「白橋」建造於1910年，從此取代了臨時木橋。而位於神宮表參道上的神橋則在「昭和大營造」（1932-1941）期間的1941年建造。兩座橋樑在外觀上的反差更加凸顯了神橋的宗教屬性，因神橋直通大鳥居，過橋意味著即將踏入「神域」。

<日本語仮訳>**神橋**

寄藻川に掛かる宇佐神宮へ通じる橋はすべて神宮の境内へと通じていることから、どれも神橋であると言えます。しかし、北側にあるアーチ型の「神橋」は、神宮の表参道にあるため、この名前で最もよく

知られている橋です。この神橋の側面と手すりは、魔除けや厄除けとして明るい朱色に塗られています。側面には左三つ巴という3つのコンマのような形の渦巻き模様の社紋をはじめとする装飾も施されています。このような社紋は、八幡大神を祀る神社だけでなく、最初に登場する家紋でもあり、歴史上公家、武家の家紋でよく見られます。

かつて宇佐神宮に勅使（天皇陛下の使い）が派遣されるたびに新設されていた一時的な木板橋に代わり、1910年に初めて恒久的な神橋「白橋」が架けられました。神宮の表参道にある「神橋」は昭和の大造営によって、1941年に架けられました。そのまま大鳥居へと続き、神宮の神域に入ることを意味する神橋がより宗教的な役割を果たしていることが、この2つの橋の対比によって強調されています。

【タイトル】 御許山と大元神社

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

御许山与大元神社

御许山是传说中八幡大神与合称为“比卖大神”的三位女神初降人世的地方。相传，比卖大神早在原始的众神时代就来到了这里，根据宇佐神宫的历史文献记载，八幡大神则稍晚一步，大约在公元 6 世纪时显身。

这座神山上的大元神社内供奉着比卖大神（多岐津姬命、市杵嶋姬命、多纪理姬命），她们自古以来就被认为与海洋有关。大多数神社都有一座供奉主祭神的本殿（正殿），另在本殿前方设有拜殿，但大元神社却只有一座拜殿，因为这座山自身就是“本殿”。拜殿后方森林里的三块大石被视为承载着女神之灵的御神体。这些石头的位置比较隐密，神社立有提示牌：神明界域，擅闯者必受惩罚。

大元神社被视为宇佐神宫的奥宫（最深处的殿宇），位于神宫西北约 6 公里处。宇佐神宫的参拜者也可以在上宫内透过围墙格栅上一扇特别的窗户遥拜御许山。

在过去宇佐神宫践行“神佛习合”（神道教和佛教融合）的时期，御许山也是“大元六坊”的所在地。大元六坊，或称“御许山六寺”，与近邻国东半岛上被称为“六乡满山”的诸佛寺渊源深厚。直到今天，“六乡满山入山”巡礼者前往国东半岛之前，仍然会在大元神社和宇佐神宫举行准备仪式。大元六坊诸寺均毁于 1868 年一场与明治维新有关的武力冲突中，但古老的石墙、小佛坛、残损的佛像和一处灵泉依然留存山间。

御许山海拔 647 米，由推荐的登山起点出发沿林间小道登顶，单程约需 40 分钟。不过沿途道路多石，有的地方颇为陡峭，最好避免在天气不佳时登山。

<繁体字>

御許山與大元神社

御許山是傳說中八幡大神與合稱為「比賣大神」的三位女神初降人世的地方。據傳，比賣大神早在原始的眾神時代就來到了這裡，根據宇佐神宮的歷史文獻記載，八幡大神則稍晚一步，大約在西元 6 世紀顯聖。

這座神山上的大元神社內供奉著比賣大神（多岐津姬命、市杵嶋姬命、多紀理姬命），她們自古以來就被認為與海洋有關。大多數神社都有一座供奉主祭神的本殿（正殿），另在本殿前方設有拜殿。但大元神社卻只有一座拜殿，因為這座山自身就是「本殿」。拜殿

後方森林裡的三塊大石被視為承載著女神之靈的御神體。這些石頭的位置隱密，神社立有告示牌：神明界域，擅闖者必受懲罰。

大元神社被視為宇佐神宮的奧宮（最深處的殿宇），位於神宮西北約 6 公里處。宇佐神宮的遊客也可以在上宮內透過圍牆格柵上一扇特別的窗戶遙拜御許山。

過去宇佐神宮在踐行「神佛習合」（神道教和佛教融合）的時期，御許山也是「大元六坊」的所在地。大元六坊，或稱「御許山六寺」，與近鄰國東半島上被稱為「六郷満山」的諸佛寺淵源深厚。直到今天，在「六郷満山入山」巡禮者前往國東半島之前，仍然會在大元神社和宇佐神宮舉行準備儀式。大元六坊諸寺均毀於 1868 年一場與明治維新有關的武力衝突中，但古老的石牆、小佛壇、殘損的佛像和一處靈泉依然留存山間。

御許山海拔 647 公尺，由推薦的登山起點出發，沿著林間小道登頂，單程約需 40 分鐘。不過沿途道路多石，有的地方頗為陡峭，最好避免在天氣不佳時登山。

<日本語仮訳>

御許山と大元神社

御許山は、比売大神として総称される三女神と八幡大神が最初に降臨した場所とされています。比売大神は、神代の時代にこの山に顕現したとされていますが、宇佐神宮の縁起には、八幡大神はもっと後の 6 世紀に姿を現したと記録されています。

この神聖な山に鎮座する大元神社は、古くから海とゆかりのある比売大神（多岐津姫命、市杵嶋姫命、多紀理姫命）を祀っています。多くの神社は御祭神を祀る本殿があり、その手前に拝殿がありますが、大元神社は拝殿のみで構成されており、山自体が「本殿」となっています。拝殿の後ろの森の中にある 3 つの巨石が、三女神が宿る御神体として祀られています。その石は人目につかない場所にあり、境内には、立ち入った者は神罰を受けるという注意書きがあります。

大元神社は宇佐神宮の奥宮（最も奥に位置する社殿）とされており、宇佐神宮の北西約 6 km の場所に位置しています。宇佐神宮の参拝者は、上宮を囲む外壁の格子に組み込まれた特別な窓から、遠く離れた御許山に向かって拝礼することができます。

かつて宇佐神宮が神仏習合（神道と仏教の融合）を行っていた頃、御許山には大元六坊もありました。「御許山の六つのお寺」を意味する大元六坊は、総称して六郷満山と呼ばれる近くの国東半島にある寺院と深いつながりがありました。今日でも、六郷満山峯入りという巡礼への参加者が国東へ出発する前の準備の儀式が、大元神社と宇佐神宮で行われています。大元六坊は、1868 年の明治維新の際の武力衝突によって焼失してしまいましたが、古い石垣や小さな祭壇、崩れた石像、霊泉は今なお山中に残っています。

御許山は標高 647m で、森の中のハイキングコースはおすすめの出発地点から山頂まで、片道で約 40 分かかります。道中には岩場や急斜面もあるので、悪天候の場合ハイキングは避けた方が良いでしょう。

【タイトル】 大神比義命

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

大神比義命

根据宇佐神宮的文献记载，大神比義是一位 6 世纪的半传奇人物，也是第一位亲眼目睹了八幡大神显圣的人物。相传大神比義出身于神职人员家庭，家族供职于当时日本首都奈良近郊的大神神社。公元 568 年，他奉钦明天皇(509-571)敕命，前往宇佐调查当地发生的神秘事件。

大神比義坚信这些无法解释的事件一定与神明有关，因此他花了 3 年时间幽居祷告，戒断特定的食物，净化身心。神宮记录显示，他的祷告在 571 年获得回应，一位神明在御灵水附近现身。神明化身一名三岁孩童，栖于一片竹叶上，自称“八幡大神”，宣告自己将要成为这个国家的守护神。就这样，大神比義成为了八幡大神的第一位信徒。

相传在公元 708 年，八幡大神化身为鹰，飞到驿馆川旁的一棵松树上。不料这里往来人群熙攘喧哗，最终惹怒了神明。为安抚发怒的八幡大神，大神比義和一名巫女（侍奉神灵的未婚女性）连续祷告千日，同时在鹰居山上为大神修建了一座神社“鹰居社”。

迁入鹰居社后不久，一道神谕降下称八幡大神还是觉得这里过于吵闹。于是人们在 716 年将大神请入小山田森林中一处较为静谧的神社，可神谕又说这个地方太小。最终，八幡大神的供奉场所被移到了小椋山山顶。山上第一座社殿建于 725 年，随着时间的推移，当初的小神社发展成了如今宇佐神宮的庞大建筑群。

为纪念大神比義创立八幡信仰所做出的贡献，人们尊其为“大神比義命”，作为末社[※]之神供奉于宇佐神宮的下宫内。

※末社：小型神社，供奉与本社有关的神明。

<繁体字>

大神比義命

根據宇佐神宮的文献記載，大神比義是一位 6 世紀的半傳奇人物，也是第一位親眼目睹了八幡大神顯聖的人物。相傳大神比義出身於神職人員家庭，家族供職於當時日本首都奈良近郊的大神神社。西元 568 年，他奉欽明天皇（509-571）敕命，前往宇佐調查當地發生的神秘事件。

大神比義堅信這些無法解釋的事件一定跟神明有關，因此他花了 3 年時間幽居禱告，戒斷特定的食物，淨化身心。神宮記錄顯示，他的祈願在 571 年獲得回應，一位神明在御

靈水附近現身。神明化身為一名三歲孩童，棲於一片竹葉上，自稱「八幡大神」，宣告自己將要成為這個國家的守護神。就這樣，大神比義成為了八幡大神的第一位信徒。

相傳在西元 708 年，八幡大神化身為鷹，飛到驛館川旁的一棵松樹上。不料這裡往來人群熙攘喧嘩，最終惹怒了神明。為安撫發怒的八幡大神，大神比義和一名巫女（侍奉神明的未婚女性）連續禱告千日，同時在鷹居山上為大神修建了一座神社「鷹居社」。

遷入鷹居社後不久，一道神諭降下稱八幡大神還是覺得此處過於喧囂。於是人們在 716 年將大神請入小山田森林中一處較為靜謐的神社，可神諭又說這個地方太小。最終，八幡大神的供奉場所被移到了小椋山山頂。山上第一座社殿建於 725 年，隨著時間的推移，當初的小神社發展成了如今宇佐神宮的龐大建築群。

為紀念大神比義創立八幡信仰所做出的貢獻，人們尊其為「大神比義命」，作為末社※之神供奉於宇佐神宮的下宮內。

※末社：小型神社，供奉與本社有關的神明。

<日本語仮訳>

大神比義命

宇佐神宮の記録に登場する大神比義は、八幡大神を最初に見たとされる 6 世紀の半伝説的な人物です。大神比義は、当時の日本の都だった奈良近郊の大神神社の神職の家に生まれたと言われています。568 年、欽明天皇（509–571）の勅命により、宇佐地域での不思議な出来事について調査報告をするため、宇佐を訪れました。

説明のつかない出来事は神聖なものであると確信した大神比義は、3 年にわたって籠居して祈りを捧げ、特定の食べ物を断ち、身を清めました。神宮の記録によると、その祈りが通じて、571 年に御霊水の近くに神が現れたとされています。その神は 3 歳の子どもの姿で笹の葉の上に乗って現れ、自らが八幡大神であるとし、国の守護者になると告げました。こうして、大神比義は八幡大神を崇拜する最初の人となりました。

伝説によれば八幡大神はその後鷹に姿を変え、708 年に驛館川のほとりの松の木に飛来したと言われています。しかし、その辺りを通る人々の騒がしさが、やがて神の怒りを引き起こします。怒れる八幡大神を静めるために、大神比義とひとりの巫女（神霊に奉仕する未婚の女性）が千日間祈りを捧げ、鷹居山に八幡大神のために鷹居社という神社が建てられました。

鷹居社へ移ってから間もなく、八幡大神よりこの場所もまた騒々しすぎるといふ託宣が下り、716 年に八幡大神はより静かな小山田の森の中の神社へ移されました。そこは小さすぎると八幡大神が告げたため、最終的に八幡大神を祀る場所を小椋山の頂上へ移しました。725 年にそこに一之御殿が建てられ、やがてこの小さな神社は宇佐神宮と呼ばれる大きな神宮へと発展を遂げました。

八幡信仰の草創に対する貢献を称えて、大神比義は大神比義命として、末社※の神様のような扱いで宇佐神宮の下宮に祀られています。

※末社：本社ゆかりの神様を祀る小社。

【タイトル】 弥勒寺跡

【想定媒体】 WEB

<簡体字>

弥勒寺遗址

在过去长达数世纪的时间里，宇佐神宫区域内曾经坐落了一座名为“弥勒寺”的大佛寺。如今，来访者依然能在吴桥和八坂神社之间窥见寺院遗迹。在这座佛寺的大部分历史时期中，它都是宇佐神宫的重要组成部分，得到来自皇室、贵族和武士家族的支持，因此在政治和经济上的权势十分强大。

弥勒寺曾经占有大片土地，影响力辐射九州乃至全国。史料及地图显示，这座寺院拥有数十处建筑，佛堂、佛塔、僧侣的生活空间等设施曾分布在如今的西参道两旁。寺院金堂（大雄宝殿）供奉着药师如来，讲堂供奉弥勒佛，在佛教经义里，弥勒佛是下一任佛陀，将在遥远的未来降生人世。

宇佐神宫的主佛寺

弥勒寺的前身是一座名叫“弥勒禅院”的古寺。公元 725 年，小椋山上建起了宇佐神宫的第一座社殿。738 年弥勒禅寺随之搬到了小椋山和寄藻川之间的平原。不久，弥勒寺就成为了最初成立的神宫寺之一。所谓“神宫寺”，就是与神道教神社关系密切的佛教寺院，多坐落于神社内或相距不远处。宇佐神宫也因此成为了一处“神社—佛寺综合设施”。这种被称为“神佛习合”的神社，是神道教与佛教融合的产物。这种宗教形态于 8 世纪左右在九州地区成形，并逐渐传播至全日本。在此类神社里，佛寺僧侣会参与神道教的祭典、仪式，掌管财务，有的还会全权掌控整个机构。至 9 世纪晚期，弥勒寺已经成为宇佐神宫日常运营的核心，担负起宗教和管理的双重职能。

弥勒寺的式微与终结

在 12 世纪平家与源氏的权力斗争中，由于宇佐神宫的宫司（神宫最高负责人）决定支持平家，使得宇佐神宫和弥勒寺被卷入冲突之中，并在 1184 年惨遭焚毁。时隔一年后的 1185 年，平家战败。尽管此处神社—佛寺综合设施随后被重新建造，但弥勒寺的力量已不复从前。寺院渐渐失去了它拥有的土地，建筑也被缩减，到 19 世纪中期时，已经没有人试图重振这座佛寺了。1868 年，明治政府颁布分离神道教和佛教的“神佛判然令”，至 1871 年，宇佐神宫内的所有佛教建筑及相关物品均被移除。弥勒寺旧址上建起了如今的社务所、宝物馆和美丽的庭园，曾经辉煌的寺庙只剩下础石残基。不过，弥勒寺里最珍贵的佛像都被保存了下来——弥勒佛坐像如今供奉在相距不远的极乐寺中，药师如来坐像则珍藏于与极乐寺隔河相望的大善寺内。

<繁体字>

彌勒寺遺址

在過去長達數世紀的時間裡，宇佐神宮域內曾經坐落了一座名為「彌勒寺」的大佛寺。如今，遊客依然能在吳橋和八坂神社之間一窺寺院遺跡。在其大部分歷史中，這座佛寺都是宇佐神宮的重要組成部分，得到來自皇室、貴族和武士家族的支持，因此在政治和經濟上的權勢十分強大。

彌勒寺曾經佔有大片土地，影響力蔓延九州乃至全國。史料及地圖顯示，這座寺院擁有數十處建築，佛堂、佛塔、僧侶的生活空間等場所曾分佈在如今的西參道兩旁。寺院金堂（大雄寶殿）供奉著藥師如來，講堂供奉彌勒佛，在佛教經義裡，彌勒佛是下一任佛陀，將在遙遠的未來降生人世。

宇佐神宮的主佛寺

彌勒寺的前身是一座名叫「彌勒禪院」的古寺。西元 725 年，小椋山上建起了宇佐神宮的第一座社殿。738 年彌勒禪寺就隨之搬到了小椋山和寄藻川之間的平原。不久，彌勒寺就成為了最初成立的神宮寺之一。所謂「神宮寺」，就是與神道教神社關係密切的佛教寺院，多坐落於神社域內或相距不遠處。宇佐神宮也因此成為了一處「神社—佛寺綜合設施」。這類被稱為「神佛習合」的神社，是神道教與佛教融合的產物。這種宗教形態於 8 世紀左右在九州地區成形，並逐漸傳播至全日本。在此類神社裡，佛寺僧侶會參與神道教的祭典、儀式，掌管財務，有的還會全權掌控整個機構。至 9 世紀晚期，彌勒寺已經成為宇佐神宮日常運作的核心，擔負起宗教和管理的雙重職能。

彌勒寺的式微與終結

在 12 世紀平家與源氏的權力鬥爭中，宇佐神宮的宮司（神宮最高負責人）選擇支持平家，因而被捲入衝突之中的宇佐神宮和彌勒寺在 1184 年慘遭焚毀。時隔一年後的 1185 年，平家戰敗。儘管這處神社—佛寺綜合設施隨後被重建，但彌勒寺的影響力已不復從前。寺院漸漸失去了它擁有的土地，建築也逐漸縮減，到 19 世紀中期時，已經沒有人試圖重振這座佛寺往日的輝煌了。1868 年，明治政府頒佈分離神道教和佛教的「神佛判然令」，至 1871 年，宇佐神宮內的所有佛教建築及相關物品均被移除。彌勒寺舊址上建起了如今的社務所、寶物館和美麗的庭園，曾經輝煌的寺廟只剩下殘座。不過，彌勒寺裡最珍貴的佛像都被保存了下來——彌勒佛坐像如今供奉在相距不遠的極樂寺中，藥師佛坐像則珍藏於與極樂寺隔河相望的大善寺內。

<日本語仮訳>

弥勒寺跡

かつて宇佐神宮境内には、何世紀にもわたって弥勒寺という大寺院が存在していました。現在も呉橋と八坂神社の間にその跡が残されています。その歴史の大部分において弥勒寺は宇佐神宮の中でも重要なお寺として、皇室や貴族、そして武士の一族の支援を享受し、傑出した政治的・経済的な権力を誇っていました。

弥勒寺は広大な荘園を有し、九州だけでなく全国に影響を及ぼしていました。歴史的な記録や地図によると、弥勒寺の境内は、現在の西参道の両側に広がり、お堂、塔、宿坊などの数十の建物で構成されていました。金堂（本堂）には薬師如来が祀られており、講堂には次の仏として遠い未来にこの世に現れるとされている弥勒菩薩を祀っていました。

宇佐神宮内の最も主要な寺院

弥勒寺の前身は弥勒禅院という古いお寺で、宇佐神宮の最初の御殿が 725 年に小椋山に建てられたすぐ後の 738 年に、小椋山と寄藻川の間の平野に移されました。ほどなくして弥勒寺は、もっとも初期に成立した神宮寺のひとつとして発展しました。神宮寺とは、神社と密接につながり、通常はその神社の境内または神社の近くにある寺院のこと。これにより宇佐神宮は、8 世紀頃に九州で形成され、徐々に全国へと広がりを見せていた神道と仏教の融合を反映した、神仏習合の神社となりました。そのような神社内の寺院は、僧侶を神社での祭礼や神事などに派遣したり、財務の管理を行ったり、時には神社全体の運営すべてを管理したりすることもありました。9 世紀後半までに、弥勒寺は宇佐神宮のすべての事柄において重要な役割を担うようになり、宗教的および事務的な機能の両方を果たしていました。

弥勒寺の権力の喪失と終焉

12 世紀の平氏と源氏による権力闘争の時代、宇佐神宮の宮司（神宮の最高責任者）は平氏側につくことを選びました。この闘争中、弥勒寺は宇佐神宮とともに 1184 年に焼き払われ、そして一年後、1185 年に平氏が敗北しました。その後、この神宮寺の建物は再建されましたが、弥勒寺の権力は衰退していきます。弥勒寺は所有する土地を徐々に失い、境内の建物の数は減少し、19 世紀半ば頃になると、もはや修復もされなくなりました。1868 年に明治政府は神道と仏教を分離させる「神仏判然令」を発令し、1871 年までに宇佐神宮からすべての仏教の建造物や本尊が取り除かれました。かつての弥勒寺の境内には現在社務所や宝物館、美しい庭園があり、栄華を誇ったかつての弥勒寺を想起させるものとして礎石だけが残っています。しかし、弥勒寺の最も貴重な仏像は保存されており、現在、弥勒仏坐像は近くの極楽寺に、薬師如来坐像は川向こうの大善寺に安置されています。